目　　次

学長のことば

平成29年度授業科目および担当者

日本文化学科

科目・担当者一覧 …… 3

講義内容 …… 10

国際コミュニケーション学科

科目・担当者一覧 …… 179

講義内容 …… 189

英語コミュニケーション学科

科目・担当者一覧 …… 401

講義内容 …… 407

共通科目（外国語を除く）

科目・担当者一覧 …… 493

講義内容 …… 498

共通科目（外国語）

科目・担当者一覧 …… 667

講義内容 …… 672

司書課程

科目・担当者一覧 …… 847

講義内容 …… 848

学芸員課程

科目・担当者一覧 …… 871

講義内容 …… 872

日本語教員養成講座

科目・担当者一覧 …… 885

講義内容 …… 886

学長　神田　典城

学生にとって、その大学生活において最も大切なことは、「何を学ぶか」ということに尽きます。もちろん学生生活には様々な体験の場があり、それぞれに皆さんの人生にとっていろいろな意味があるでしょう。けれども根幹をなすものは「学問と向き合う」という一点にほかなりません。大学とはあくまでも「学問の府」であることを大前提とした存在なのです。

ところで、大学という制度には四年という年限が設けられています。この四年という歳月は、今その中にいる現役の皆さんには結構長いもののように思われるかもしれません。けれども、実際には、何事かをなすための期間としては意外に短いものです。

その限られた時間の中でいかに学問に触れ、身に付けるかが問われる、それが大学生というものです。

シラバスを概観すればすぐにわかると思いますが、この大学では、きわめて多彩な科目をそろえています。では、これら大学で用意した多くの科目を、どう組み合わせて四年間を過ごすのか。高等学校までとは違って、大学ではその裁量の多くが学生自身の手に委ねられています。これは、小学校以来十六年にわたる長い教育課程の最後をいかに締めくくって社会人となるか、それが学生一人一人の責任に帰せられているということにほかなりません。

学生一人一人が科目を取捨選択する、この「科目の選択」とは、言い換えればどのような学問分野、教員と出会うのかということでもあります。そして、最上の出会いのためには、すべての教員と直に接し、どのような授業を展開するのかを知ったうえで各自のコンセプトに従って科目を選択する、というのが理想には違いありません。しかしながら、小さな私塾ならばともかく、小規模とはいえ1,500名を超える学生を擁する大学という場において、とてものこと現実的な方法でないことはあきらかです。

そこで学生と授業科目（教員）との間をつなぐ手段として工夫されたのが、このシラバス提示という方法です。この中に本学の授業内容の全てがあります。そして、その一つ一つが、学生のより良い選択を実現するための、教員からのメッセージなのです。

どうかこのシラバスを熟読玩味し、大いに活用して、充実した学生生活を作り上げるための一助としてください。

日本文化学科

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習ⅠA	アートマネジメント入門	ART-101-JX	1	春		2	内野　儀	10
	日本文化基礎演習ⅠB	絵画史研究の基礎	ART-102-JX	1	春		2	今橋　理子	11
	日本文化基礎演習ⅠC	『古事記』を読む	LIT-103-JX	1	春		2	寺田　惠子	12
	日本文化基礎演習ⅠD	近代を生きた女性たち	HIS-104-JX	1	春		2	木村　直恵	13
	日本文化基礎演習ⅠE	枕草子を読む	LIT-105-JX	1	春		2	伊藤　守幸	14
	日本文化基礎演習ⅠF	現代日本語の談話分析	JPL-106-JX	1	春		2	福島　直恭	15
	日本文化基礎演習ⅠG	現代社会を社会学的に考える	SOC-107-JX	1	春		2	木村絵里子	16
	日本文化基礎演習ⅠH	都市伝説と学校の怪談	ANT-108-JX	1	春		2	伊藤　慎吾	17
	日本文化基礎演習ⅠI	日本の染織と服飾文化（1）	ART-109-JX	1	春		2	福島　雅子	18
	日本文化基礎演習ⅠJ	日本近世史研究の基礎	HIS-110-JX	1	春		2	井奥　成彦	19
	日本文化基礎演習ⅠK	食品研究の基礎（1）	LIF-111-JX	1	春		2	阿部　誠	20
	日本文化基礎演習ⅠL	スポーツ文化の系譜	SPO-112-JX	1	春		2	荒井　啓子	21
	日本文化基礎演習ⅠM	情報社会における問題の分析	INF-113-JX	1	春		2	清水　將吾	22
	日本文化基礎演習ⅠN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-114-JX	1	春		2	品川　明	23
	日本文化基礎演習ⅠO	日常の日本語の意味世界１	JPL-115-JX	1	春		2	佐藤　琢三	24
	日本文化基礎演習ⅠP	20世紀後半の日本美術	ART-116-JX	1	春		2	清水　敏男	25
	日本文化基礎演習ⅡA	アートマネジメント入門	ART-117-JX	1		秋	2	内野　儀	26
	日本文化基礎演習ⅡB	絵画の「読解」と「記述」法	ART-118-JX	1		秋	2	今橋　理子	27
	日本文化基礎演習ⅡC	『万葉集』を読む	LIT-119-JX	1		秋	2	寺田　惠子	28
	日本文化基礎演習ⅡD	モダン東京研究	HIS-120-JX	1		秋	2	木村　直恵	29
	日本文化基礎演習ⅡE	枕草子を読む	LIT-121-JX	1		秋	2	伊藤　守幸	30
	日本文化基礎演習ⅡF	過去の日本語の研究	JPL-122-JX	1		秋	2	福島　直恭	31
	日本文化基礎演習ⅡG	現代社会を社会学的に考える	SOC-123-JX	1		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習ⅡH	日本の昔話と伝説	ANT-124-JX	1		秋	2	徳田　和夫	33
	日本文化基礎演習ⅡI	日本の染織と服飾文化（2）	ART-125-JX	1		秋	2	福島　雅子	34
	日本文化基礎演習ⅡJ	日本近世史研究の基礎	HIS-126-JX	1		秋	2	井奥　成彦	35
	日本文化基礎演習ⅡK	食品研究の基礎（2）	LIF-127-JX	1		秋	2	阿部　誠	36
	日本文化基礎演習ⅡL	スポーツ文化の系譜	SPO-128-JX	1		秋	2	荒井　啓子	37
	日本文化基礎演習ⅡM	情報社会における問題の分析	INF-129-JX	1		秋	2	清水　將吾	38
	日本文化基礎演習ⅡN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-130-JX	1		秋	2	品川　明	39
	日本文化基礎演習ⅡO	日常の日本語の意味世界２	JPL-131-JX	1		秋	2	佐藤　琢三	40
	日本文化基礎演習ⅡP	20世紀後半の日本美術	ART-132-JX	1		秋	2	清水　敏男	41
	日本文化基礎演習ⅢA	アートマネジメント入門	ART-233-JX	2	春		2	内野　儀	10
	日本文化基礎演習ⅢB	絵画史研究の基礎	ART-234-JX	2	春		2	今橋　理子	11
	日本文化基礎演習ⅢC	『古事記』を読む	LIT-235-JX	2	春		2	寺田　惠子	12
	日本文化基礎演習ⅢD	近代を生きた女性たち	HIS-236-JX	2	春		2	木村　直恵	13
	日本文化基礎演習ⅢE	枕草子を読む	LIT-237-JX	2	春		2	伊藤　守幸	14

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科　目　名	副　　題	ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習ⅢF	現代日本語の談話分析	JPL-238-JX	2	春		2	福島　直恭	15
	日本文化基礎演習ⅢG	現代社会を社会学的に考える	SOC-239-JX	2	春		2	木村絵里子	16
	日本文化基礎演習ⅢH	都市伝説と学校の怪談	ANT-240-JX	2	春		2	伊藤　慎吾	17
	日本文化基礎演習ⅢI	日本の染織と服飾文化（1）	ART-241-JX	2	春		2	福島　雅子	18
	日本文化基礎演習ⅢJ	日本近世史研究の基礎	HIS-242-JX	2	春		2	井奥　成彦	19
	日本文化基礎演習ⅢK	食品研究の基礎（１）	LIF-243-JX	2	春		2	阿部　　誠	20
	日本文化基礎演習ⅢL	スポーツ文化の系譜	SPO-244-JX	2	春		2	荒井　啓子	21
	日本文化基礎演習ⅢM	情報社会における問題の分析	INF-245-JX	2	春		2	清水　將吾	22
	日本文化基礎演習ⅢN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-246-JX	2	春		2	品川　　明	23
	日本文化基礎演習ⅢO	日常の日本語の意味世界１	JPL-247-JX	2	春		2	佐藤　琢三	24
	日本文化基礎演習ⅢP	20世紀後半の日本美術	ART-248-JX	2	春		2	清水　敏男	25
	日本文化基礎演習ⅣA	アートマネジメント入門	ART-249-JX	2		秋	2	内野　　儀	26
	日本文化基礎演習ⅣB	絵画の「読解」と「記述」法	ART-250-JX	2		秋	2	今橋　理子	27
	日本文化基礎演習ⅣC	『万葉集』を読む	LIT-251-JX	2		秋	2	寺田　惠子	28
	日本文化基礎演習ⅣD	モダン東京研究	HIS-252-JX	2		秋	2	木村　直恵	29
	日本文化基礎演習ⅣE	枕草子を読む	LIT-253-JX	2		秋	2	伊藤　守幸	30
	日本文化基礎演習ⅣF	過去の日本語の研究	JPL-254-JX	2		秋	2	福島　直恭	31
	日本文化基礎演習ⅣG	現代社会を社会学的に考える	SOC-255-JX	2		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習ⅣH	日本の昔話と伝説	ANT-256-JX	2		秋	2	徳田　和夫	33
	日本文化基礎演習ⅣI	日本の染織と服飾文化（２）	ART-257-JX	2		秋	2	福島　雅子	34
	日本文化基礎演習ⅣJ	日本近世史研究の基礎	HIS-258-JX	2		秋	2	井奥　成彦	35
	日本文化基礎演習ⅣK	食品研究の基礎（２）	LIF-259-JX	2		秋	2	阿部　　誠	36
	日本文化基礎演習ⅣL	スポーツ文化の系譜	SPO-260-JX	2		秋	2	荒井　啓子	37
	日本文化基礎演習ⅣM	情報社会における問題の分析	INF-261-JX	2		秋	2	清水　將吾	38
	日本文化基礎演習ⅣN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-262-JX	2		秋	2	品川　　明	39
	日本文化基礎演習ⅣO	日常の日本語の意味世界２	JPL-263-JX	2		秋	2	佐藤　琢三	40
	日本文化基礎演習ⅣP	20世紀後半の日本美術	ART-264-JX	2		秋	2	清水　敏男	41
日本文化基礎科目群	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43
	日本人論Ⅰ	古代・中世の日本人の神観	JPN-103-JA	1～	春		2	小平　美香	44
	日本人論Ⅱ	近代日本の家・家族・家庭	JPN-104-JA	1～		秋	2	木村　直恵	45
	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	JPL-105-JA	1～	春		2	福島　直恭	46
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	JPL-106-JA	1～		秋	2	福島　直恭	47
	日本思想史Ⅰ	神社と神道のなりたち	PHL-107-JA	1～	春		2	小平　美香	48
	日本思想史Ⅱ	明治維新と女性	PHL-108-JA	1～		秋	2	小平　美香	49
	日本思想史Ⅲ	日本上代の異類婚姻譚	PHL-109-JA	1～	春		2	寺田　惠子	50
	日本思想史Ⅳ	神話と伝説の人間関係	PHL-110-JA	1～		秋	2	寺田　惠子	51

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本文化基礎科目群	日本文学史Ⅰ	和歌文学史概説	LIT-111-JA	1～	春		2	伊藤　守幸	52
	日本文学史Ⅱ	仮名散文の歴史	LIT-112-JA	1～		秋	2	伊藤　守幸	53
	民俗学Ⅰ	衣食住の民俗	ANT-113-JA	1～	春		2	山崎　祐子	54
	民俗学Ⅱ	女性と子どもの民俗	ANT-114-JA	1～		秋	2	山崎　祐子	55
	日本政治経済史	江戸の都市・村を舞台に	HIS-115-JA	1～	春		2	工藤　航平	56
	日本社会制度史	法と家族と社会	HIS-116-JA	1～	春		2	菅原　正子	57
	☆伝統文化論Ⅰ（花）	桜をめぐる現代日本と伝統文化	TRD-117-JA	1～	春		2	今橋　理子	58
	伝統文化論Ⅱ（茶）	茶の湯文化	TRD-118-JA	1～	春		2	谷村　玲子	59
	伝統文化論Ⅲ（香）			1～	—	—	2	—	—
	伝統文化論Ⅳ（書）		TRD-120-JA	1～		秋	2	齊藤　登	60
	伝統文化論Ⅴ（舞踊）	日本の伝統芸能を知る・学ぶ	TRD-121-JA	1～		秋	2	森田　ゆい	61
	伝統文化論Ⅵ（演劇）	『風姿花伝』を読む	TRD-122-JA	1～		秋	2	岩崎　雅彦	62
	伝統文化論Ⅶ（邦楽）	雅楽と平安時代の宮廷文化	TRD-123-JA	1～	春		2	遠藤　徹	63
	伝統文化論Ⅷ（染織）	日本の伝統染織	TRD-124-JA	1～		秋	2	福島　雅子	64
	日本生活文化史Ⅰ（衣文化）	日本の服飾史	ART-125-JA	1～	春		2	福島　雅子	65
	日本生活文化史Ⅱ（衣文化）	江戸の「きもの」と衣文化	ART-126-JA	1～		秋	2	福島　雅子	66
	日本生活文化史Ⅲ（食文化）	日本の食生活の変遷	LIF-127-JA	1～	春		2	宇都宮由佳	67
	日本生活文化史Ⅳ（食文化）	食物の起源と伝播，思想とマナー	LIF-128-JA	1～		秋	2	宇都宮由佳	68
	日本生活文化史Ⅴ（住文化）	構成要素からみた住宅デザイン	LIF-129-JA	1～	春		2	乾　尚彦	69
	日本生活文化史Ⅵ（住文化）		LIF-130-JA	1～		秋	2	栢木まどか	70
	日本文化論	日本の神話を知る	JPN-131-JA	1～	春		2	平藤喜久子	71
	近代文化論Ⅰ	近代文化のなかの経済思想――〈働くこと〉と〈つくること〉をめぐる思想と文化	HIS-132-JA	1～	春		2	木村　直恵	72
	近代文化論Ⅱ	「社会」とは何か――歴史から考える	HIS-133-JA	1～		秋	2	木村　直恵	73
民俗・歴史系科目群	民俗文化論Ⅰ（民俗信仰）	異界をのぞく	ANT-201-JB	2～	春		2	山崎　祐子	74
	民俗文化論Ⅱ（民俗行事・祭礼）	年中行事と祭礼	ANT-202-JB	2～		秋	2	山崎　祐子	75
	民俗文化論Ⅲ（都市民俗学）	人工物の霊魂観―つくも神と刀剣の信仰―	ANT-203-JB	2～	春		2	伊藤　慎吾	76
	民俗文化論Ⅳ（都市民俗学）	現代の擬人化を考える	ANT-204-JB	2～		秋	2	伊藤　慎吾	77
	比較民俗文化論Ⅰ（民間伝承）	日本の昔話と伝説	ANT-205-JB	2～	春		2	徳田　和夫	78
	比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）	外国の昔話と伝説	ANT-206-JB	2～		秋	2	徳田　和夫	79
	比較生活文化論Ⅰ（地域食文化論）	食文化へのアプローチ	LIF-207-JB	2～	春		2	磯部　泰子	80
	※☆比較生活文化論Ⅱ（染織文化論）			2～	—	—	2	—	—
	日本生活文化論Ⅰ（ものの文化史）	装身具にみる日本の服飾文化	LIF-209-JB	2～		秋	2	梅谷　知世	81
	日本生活文化論Ⅱ（通過儀礼）	慶弔の装い	LIF-210-JB	2～	春		2	福島　雅子	82
	日本生活文化論Ⅲ（住文化論）	祭祀空間の構造	LIF-211-JB	2～		秋	2	乾　尚彦	83
	日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）		LIF-212-JB	2～	春		2	木村絵里子	84
	日本史論Ⅰ（古代）	奈良・平安時代の都と地方	HIS-213-JB	2～	春		2	中込　律子	85
	日本史論Ⅱ（中世）	恋する武士、闘う貴族	HIS-214-JB	2～	春		2	関　幸彦	86

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
民俗・歴史系科目群	日本史論Ⅲ（近世）	江戸時代の社会と医療	HIS-215-JB	2～	春		2	長田　直子	87
	日本史論Ⅳ（近現代）		HIS-216-JB	2～	春		2	加藤　厚子	88
	☆日本文化交流史Ⅰ	中世・近世の日朝関係	HIS-217-JB	2～	春		2	米谷　　均	89
	☆日本文化交流史Ⅱ			2～	―	―	2	―	―
	☆歴史資料論Ⅰ（考古）	先史時代の考古学	HIS-219-JB	2～		秋	2	工藤雄一郎	90
	☆歴史資料論Ⅱ（考古）			2～	―	―	2	―	―
	歴史資料論Ⅲ（古文書）	江戸時代の古文書を読み解く	HIS-221-JB	2～		秋	2	工藤　航平	91
	歴史資料論Ⅳ（古文書）		HIS-322-JB	2～	春		2	吉成　香澄	92
芸術・思想系科目群	形象文化論Ⅰ（絵画）	日本絵画史の諸様相	ART-201-JC	2～	春		2	石田　佳也	93
	形象文化論Ⅱ（絵画）	「花鳥」をめぐる形象と美意識	ART-202-JC	2～		秋	2	今橋　理子	94
	形象文化論Ⅲ（生活芸術）	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術	ART-203-JC	2～	春		2	岡部　昌幸	95
	形象文化論Ⅳ（空間造形）	江戸の大名庭園と絵画芸術	ART-204-JC	2～	春		2	今橋　理子	96
	形象文化論Ⅴ（近現代美術）	現代美術はどのように形成されてきたか	ART-205-JC	2～		秋	2	清水　敏男	97
	形象文化論Ⅵ（芸術交流論）	近代日本の音楽文化の諸相	ART-206-JC	2～	春		2	高久　　暁	98
	身体文化論Ⅰ（近現代舞踊）		ART-207-JC	2～	春		2	内野　　儀	99
	身体文化論Ⅱ（現代演劇）		ART-208-JC	2～		秋	2	内野　　儀	100
	日本思想研究Ⅰ（神話）	神話から日本の思想を探る	JPN-209-JC	2～		秋	2	平藤喜久子	101
	日本思想研究Ⅱ（仏教）	日本的仏教の特色	PHL-210-JC	2～		秋	2	加藤みち子	102
	日本思想研究Ⅲ（神道）	神道思想の特色	PHL-211-JC	2～	春		2	加藤みち子	103
	☆日本思想研究Ⅳ（劇場の思想）		PHL-212-JC	2～	春		2	内野　　儀	104
	☆日本思想研究Ⅴ（芸道）			2～	―	―	2	―	―
	日本思想研究Ⅵ（近世思想）		PHL-214-JC	2～		秋	2	吉田　麻子	105
	日本文学論Ⅰ（上代）	万葉集の恋１―相聞歌の世界１―	LIT-215-JC	2～	春		2	倉住　　薫	106
	日本文学論Ⅱ（上代）	万葉集の恋２―相聞歌の世界２―	LIT-216-JC	2～		秋	2	倉住　　薫	107
	日本文学論Ⅲ（中古）	越境する物語	LIT-217-JC	2～	春		2	伊藤　守幸	108
	※日本文学論Ⅳ（中古）	英語圏の日本古典文学研究について	LIT-218-JC	2～		秋	2	伊藤　守幸	109
	日本文学論Ⅴ（中世）	絵巻と文学、説話絵巻、お伽草子絵巻、妖怪絵巻の世界	LIT-219-JC	2～	春		2	徳田　和夫	110
	日本文学論Ⅵ（中世）	奈良絵本・絵巻にみる異郷・異界	LIT-220-JC	2～		秋	2	恋田　知子	111
	日本文学論Ⅶ（近世）	仮名草子の世界	LIT-221-JC	2～	春		2	恋田　知子	112
	☆日本文学論Ⅷ（近現代）	日本近代小説史	LIT-222-JC	2～	春		2	木村　直恵	113
	☆中国文学論Ⅰ		LIT-223-JC	2～		秋	2	和田　浩平	114
	☆中国文学論Ⅱ			2～	―	―	2	―	―
現代社会系科目群	☆現代文化論Ⅰ（都市論）		SOC-301-JD	2～		秋	2	岩館　　豊	115
	☆現代文化論Ⅱ（郊外論）			2～	―	―	2	―	―
	現代文化論Ⅲ（児童文化）	現代日本の児童文学が描いてきたもの	CHL-203-JD	2～		秋	2	藤田のぼる	116
	☆現代文化論Ⅳ（ファッション）		LIF-204-JD	2～		秋	2	徳井　淑子	117
	現代文化論Ⅴ（イメージとメディア）	現実と虚構	ART-305-JD	2～	春		2	堀江　秀史	118

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
現代社会系科目群	※現代文化論Ⅵ(カルチュラル・スタディーズ)	＜文化＞の力学を考える	SOC-306-JD	2～	春集中		2	本橋　哲也	119
	現代文化論Ⅶ(スポーツ文化論)	スポーツという文化	SPO-207-JD	2～	春		2	荒井　啓子	120
	メディア論	情報通信技術	INF-208-JD	2～	春		2	岩城　宏明	121
	現代生活論Ⅰ(現代食品情報)	現代食品情報	LIF-209-JD	2～		秋	2	阿部　　誠	122
	現代生活論Ⅱ(現代の食生活)	ライフステージ別の食生活および問題点	LIF-210-JD	2～	春		2	濱谷　亮子	123
	現代生活論Ⅲ（自己と他者）	親密性をめぐって	SOC-311-JD	2～	春		2	時安　邦治	124
	現代生活論Ⅳ（個人と集団）	貧困と社会的排除	SOC-312-JD	2～		秋	2	時安　邦治	125
	☆日本政治論			2～	―	―	2	―	―
	☆日本経済論		ECO-214-JD	2～		秋	2	山口　綾子	126
	日本社会論	現代日本社会の構造変動と自己の変容	SOC-215-JD	2～		秋	2	奥山　敏雄	127
比較文化研究科目群	☆比較文化論Ⅰ(比較日本文化)			3～	―	―	2	―	―
	☆比較文化論Ⅱ（文学）			3～	―	―	2	―	―
	※比較文化論Ⅲ（芸術）	展覧会カタログ研究	ART-303-JE	3～		秋	2	今橋　理子	128
	※比較文化論Ⅳ（民俗）	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー	ANT-304-JE	3～		秋	2	徳田　和夫	129
	比較文化論Ⅴ（社会）	写真の中の江戸	HIS-305-JE	3～		秋	2	金行　信輔	130
	比較文化論Ⅵ（嗜好）		LIF-306-JE	3～	春		2	中野　美季	131
	比較文化論Ⅶ（生活）	装飾文化の交流	ART-307-JE	3～		秋	2	福島　雅子	132
	比較文化論Ⅷ(Japanese Culture Ⅰ)	Melodrama	JPN-308-JE	3～	春		2	J．P．チャン	133
	比較文化論Ⅸ(Japanese Culture Ⅱ)	Reading Movies	JPN-309-JE	3～		秋	2	J．P．チャン	134
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ＩＡ	日本芸術の諸相	ART-301-JY	3	春		2	内野　　儀	136
	日本文化演習ＩＢ	比較日本文化論（I）	ART-302-JY	3	春		2	今橋　理子	137
	日本文化演習ＩＣ	日本の神話	LIT-303-JY	3	春		2	神田　典城	138
	日本文化演習ＩＤ	戦後日本の思想と問題	HIS-304-JY	3	春		2	木村　直恵	139
	日本文化演習ＩＥ	平安時代の文学（１）	LIT-305-JY	3	春		2	伊藤　守幸	140
	日本文化演習ＩＦ	日本語研究の方法	JPL-306-JY	3	春		2	福島　直恭	141
	日本文化演習ＩＧ	現代社会研究（１）	SOC-307-JY	3	春		2	時安　邦治	142
	日本文化演習ＩＨ	中世文化・民俗文化〔1〕―民間説話・古典説話・芸能など―	ANT-308-JY	3	春		2	徳田　和夫	143
	日本文化演習ＩＩ	日本の染織と服飾文化の諸相(１)	ART-309-JY	3	春		2	福島　雅子	144
	日本文化演習ＩＪ	日本近世の政治・社会・文化(１)	HIS-310-JY	3	春		2	工藤　航平	145
	日本文化演習ＩＫ	食品研究１	LIF-311-JY	3	春		2	阿部　　誠	146
	日本文化演習ＩＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-312-JY	3	春		2	荒井　啓子	147
	日本文化演習ＩＭ	インターネットコミュニケーション	INF-313-JY	3	春		2	清水　將吾	148
	日本文化演習ＩＮ	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-314-JY	3	春		2	品川　　明	149
	日本文化演習ＩＯ	言語学・日本語教育Ⅰ	JPL-315-JY	3	春		2	佐藤　琢三	150
	日本文化演習ＩＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-316-JY	3	春		2	清水　敏男	151
	日本文化演習ＩＱ	電子メディア	INF-317-JY	3	春		2	岩城　宏明	152

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ＩＲ			3	―	―	2	―	―
	日本文化演習ＩＳ	日常生活におけるメディア利用	INF-319-JY	3	春		2	越塚　美加	153
	日本文化演習ⅡＡ	日本芸術の諸相	ART-320-JY	3		秋	2	内野　　儀	154
	日本文化演習ⅡＢ	比較日本文化論（II）	ART-321-JY	3		秋	2	今橋　理子	155
	日本文化演習ⅡＣ	日本の神話	LIT-322-JY	3		秋	2	神田　典城	156
	日本文化演習ⅡＤ	戦後日本の思想と問題	HIS-323-JY	3		秋	2	木村　直恵	157
	日本文化演習ⅡＥ	平安時代の文学（2）	LIT-324-JY	3		秋	2	伊藤　守幸	158
	日本文化演習ⅡＦ	言語研究の可能性	JPL-325-JY	3		秋	2	福島　直恭	159
	日本文化演習ⅡＧ	現代社会研究（2）	SOC-326-JY	3		秋	2	時安　邦治	160
	日本文化演習ⅡＨ	中世文化・民俗文化〔2〕―お伽草子・民間説話・芸能など―	ANT-327-JY	3		秋	2	徳田　和夫	161
	日本文化演習ⅡＩ	日本の染織と服飾文化の諸相（２）	ART-328-JY	3		秋	2	福島　雅子	162
	日本文化演習ⅡＪ	日本近世の政治・社会・文化（２）	HIS-329-JY	3		秋	2	工藤　航平	163
	日本文化演習ⅡＫ	食品研究２	LIF-330-JY	3		秋	2	阿部　　誠	164
	日本文化演習ⅡＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-331-JY	3		秋	2	荒井　啓子	165
	日本文化演習ⅡＭ	インターネットコミュニケーション	INF-332-JY	3		秋	2	清水　將吾	166
	日本文化演習ⅡＮ	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-333-JY	3		秋	2	品川　　明	167
	日本文化演習ⅡＯ	言語学・日本語教育 II	JPL-334-JY	3		秋	2	佐藤　琢三	168
	日本文化演習ⅡＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-335-JY	3		秋	2	清水　敏男	169
	日本文化演習ⅡＱ	コンピュータによる作品制作	INF-336-JY	3		秋	2	岩城　宏明	170
	日本文化演習ⅡＲ			3	―	―	2	―	―
	日本文化演習ⅡＳ	接触した情報が日常生活に与える影響	INF-338-JY	3		秋	2	越塚　美加	171
	日本文化演習ⅢＡ	日本芸術の諸相	ART-439-JY	4	春		2	内野　　儀	136
	日本文化演習ⅢＢ	比較日本文化論（I）	ART-440-JY	4	春		2	今橋　理子	137
	日本文化演習ⅢＣ	日本の神話	LIT-441-JY	4	春		2	神田　典城	138
	日本文化演習ⅢＤ	戦後日本の思想と問題	HIS-442-JY	4	春		2	木村　直恵	139
	日本文化演習ⅢＥ	平安時代の文学（１）	LIT-443-JY	4	春		2	伊藤　守幸	140
	日本文化演習ⅢＦ	日本語研究の方法	JPL-444-JY	4	春		2	福島　直恭	141
	日本文化演習ⅢＧ	現代社会研究（１）	SOC-445-JY	4	春		2	時安　邦治	142
	日本文化演習ⅢＨ	中世文化・民俗文化〔1〕―民間説話・古典説話・芸能など―	ANT-446-JY	4	春		2	徳田　和夫	143
	日本文化演習ⅢＩ	日本の染織と服飾文化の諸相（１）	ART-447-JY	4	春		2	福島　雅子	144
	日本文化演習ⅢＪ	日本近世の政治・社会・文化（１）	HIS-448-JY	4	春		2	工藤　航平	145
	日本文化演習ⅢＫ	食品研究１	LIF-449-JY	4	春		2	阿部　　誠	146
	日本文化演習ⅢＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-450-JY	4	春		2	荒井　啓子	147
	日本文化演習ⅢＭ	インターネットコミュニケーション	INF-451-JY	4	春		2	清水　將吾	148
	日本文化演習ⅢＮ	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-452-JY	4	春		2	品川　　明	149
	日本文化演習ⅢＯ	言語学・日本語教育Ｉ	JPL-453-JY	4	春		2	佐藤　琢三	150
	日本文化演習ⅢＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-454-JY	4	春		2	清水　敏男	151

日 本 文 化 学 科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ⅢQ	電子メディア	INF-455-JY	4	春		2	岩城　宏明	152
	日本文化演習ⅢR			4	―	―	2	―	―
	日本文化演習ⅢS	日常生活におけるメディア利用	INF-457-JY	4	春		2	越塚　美加	153
	日本文化演習ⅣA	日本芸術の諸相	ART-458-JY	4		秋	2	内野　儀	154
	日本文化演習ⅣB	比較日本文化論（II）	ART-459-JY	4		秋	2	今橋　理子	155
	日本文化演習ⅣC	日本の神話	LIT-460-JY	4		秋	2	神田　典城	156
	日本文化演習ⅣD	戦後日本の思想と問題	HIS-461-JY	4		秋	2	木村　直恵	157
	日本文化演習ⅣE	平安時代の文学（2）	LIT-462-JY	4		秋	2	伊藤　守幸	158
	日本文化演習ⅣF	言語研究の可能性	JPL-463-JY	4		秋	2	福島　直恭	159
	日本文化演習ⅣG	現代社会研究（2）	SOC-464-JY	4		秋	2	時安　邦治	160
	日本文化演習ⅣH	中世文化・民俗文化〔2〕―お伽草子・民間説話・芸能など―	ANT-465-JY	4		秋	2	徳田　和夫	161
	日本文化演習ⅣI	日本の染織と服飾文化の諸相（2）	ART-466-JY	4		秋	2	福島　雅子	162
	日本文化演習ⅣJ	日本近世の政治・社会・文化（2）	HIS-467-JY	4		秋	2	工藤　航平	163
	日本文化演習ⅣK	食品研究 2	LIF-468-JY	4		秋	2	阿部　誠	164
	日本文化演習ⅣL	スポーツ文化の諸相	SPO-469-JY	4		秋	2	荒井　啓子	165
	日本文化演習ⅣM	インターネットコミュニケーション	INF-470-JY	4		秋	2	清水　將吾	166
	日本文化演習ⅣN	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-471-JY	4		秋	2	品川　明	167
	日本文化演習ⅣO	言語学・日本語教育 II	JPL-472-JY	4		秋	2	佐藤　琢三	168
	日本文化演習ⅣP	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-473-JY	4		秋	2	清水　敏男	169
	日本文化演習ⅣQ	コンピュータによる作品制作	INF-474-JY	4		秋	2	岩城　宏明	170
	日本文化演習ⅣR			4	―	―	2	―	―
	日本文化演習ⅣS	接触した情報が日常生活に与える影響	INF-476-JY	4		秋	2	越塚　美加	171
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）		JPN-401-JZ	4	春集中		8	岩城　宏明	172
	卒業研究（秋）		JPN-402-JZ	4		秋集中	8	岩城　宏明	173
	卒業論文（春）		JPN-403-JZ	4	春集中		8	岩城　宏明	174
	卒業論文（秋）		JPN-404-JZ	4		秋集中	8	岩城　宏明	175
他学科専門科目指定された	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　琢三	236
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　琢三	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241

日本文化基礎演習ⅠA・ⅢA

3610010100100

副　題	アートマネジメント入門							担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ART-101-JX ART-233-JX

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案のための初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

近年，美術や舞台芸術において，キュレイターや制作者の役割に注目が集まっている。アーティストとコミュニティ・社会の間に立って作品の制作を支援しつつ，より多くの観客に届けるためのシステムを考え企画運営する，アートマネジメントという仕事である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を紹介し，その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演，美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い，その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし，授業への参加態度（30%）を加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第２週　アートマネジメント概説
第３週　〃
第４週　学生による発表
第５週　同上
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IB・IIIB

3610010100200

副　題	絵画史研究の基礎							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-102-JX ART-234-JX

〔授業の到達目標〕

本演習では，<絵画史>研究を専門に行うための基礎知識の吸収を目指し，とくに絵画史研究上必要とされる，古美術の鑑賞方法や用語知識，また文献探索について講義するほか，美術館の利用法，展覧会での情報収集を実践する。

〔授業の内容〕

授業では江戸および明治時代の絵画を例として取り扱うが，最終的には受講者各自の興味ある時代の絵画研究に対応できるように指導する。また，美術研究上ではフィールド・ワークと呼ばれる「作品調査」が不可欠である。この作業では，直に作品に触れることになるが，その際には伝統的に守られるべきマナーがあり，調査の上ではその手順が重要な意味をもつ。

さらに本演習では，絵画芸術に描かれた内容をできるだけ正確に「読み解き」，さらにそれを受講者自身の「ことば」をもっていかに「記述」するかということをめざす。将来的に絵画研究で卒業論文を書く学生を想定し，絵画史研究のレポートの書き方も指導する予定である。

〔教材〕

授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

1．途中一回のレポートと学期末に筆記試験を課す。
2．上記のレポートとは別に,週一回の割合で基礎研究に関する簡単なレポート提出を課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕

1．年に数回授業時間外に見学会を実施する。その参加度を重視する。
2．専門的に美術史に意欲のある学生の受講を望む。西洋美術に関心のある学生も歓迎する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論１――絵画史研究の歩み
第２週　概論２――絵画史研究の現在
第３週　絵画史研究の方法（１）
第４週　絵画史研究の方法（２）
第５週　絵画史研究の方法（３）
第６週　図書館での情報収集
第７週　美術館での情報収集
第８週　美術館・博物館での実地研修１
第９週　美術館・博物館での実地研修２
第10週　「実物」を見ることの意味について――フィールド・ワークの理論
第11週　＜フィールド・ワーク＞の現場１――調査先の選定
第12週　＜フィールド・ワーク＞の現場２――マナーと心得
第13週　＜フィールド・ワーク＞の現場３――調査の方法と手順
第14週　調査から研究へ――資料活用と言語化
第15週　絵画＜記述＞の方法

日本文化基礎演習IC・IIIC

3610010100300

副　題	『古事記』を読む							担　当　者	寺田　惠子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIT-103-JX LIT-235-JX

〔授業の到達目標〕

（1）日本最古の書物『古事記』の伝説について知識を深める。
（2）辞典，索引類の使い方，注釈書，参考文献等を使った調査方法を学ぶ。
（3）自分が調べて考察した成果をまとめ，発表することができる。

〔授業の内容〕

『古事記』中巻ヤマトタケル伝説を教材として演習します。『古事記』は1300年あまり前に書かれた，現存する日本最古の書物で，これを知ることは日本文学や文化のルーツを知ることにもつながります。この授業では，『古事記』のヤマトタケル伝説を学び，また，その本文に取り組むことによって，古典文学を読む上での基本的なスキルを身に付けていきます。

〔教材〕

教科書：倉野憲司　校注『古事記』（ワイド版岩波文庫48）岩波書店

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：レポーター以外の学生も次回の個所に目を通し，内容を理解しておく。
事後学習：読んだ個所について資料を整理し，自分の考察をまとめる。

〔成績評価の方法〕

発表レジュメ・発表内容40%，授業参加度10%，毎回のリアクション・ペーパー20%，学期末レポート30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，原則として授業後の受け付け，または学科事務室を通しての連絡によるものとする。

〔備考〕

意欲的な取り組みを期待します。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション。古事記について。
第2週　演習の進め方について。　発表分担個所の決定。
第3週　レジュメ作成，プレゼンテーションの方法。文献検索の方法。
第4週　発表と討議（1）
第5週　発表と討議（2）
第6週　発表と討議（3）
第7週　発表と討議（4）
第8週　発表と討議（5）
第9週　発表と討議（6）
第10週　発表と討議（7）
第11週　発表と討議（8）
第12週　発表と討議（9）
第13週　発表と討議（10）
第14週　発表と討議（11）
第15週　まとめ
演習発表の都合によって，授業計画に変更が加えられることがあります。

日本文化基礎演習ID・IIID

3610010100400

副　題	近代を生きた女性たち							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	HIS-104-JX HIS-236-JX

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び，基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。近代日本の歴史について，女性・ジェンダーの観点から理解する。自分自身もまた歴史的な存在であることをふまえた，歴史的思考のセンスを身につける。

〔授業の内容〕

近代という時代を，女性たちはどのように生きてきたのだろうか。今なお，ほとんどの近代史は男性たちがおもな登場人物であるような物語として書き継がれている。しかし，表舞台への登場こそ少なかったかもしれないが，女性たちもまた近代という時代のなかで重要な役割を演じ，ときには翻弄される存在であった。わたしたちの曾祖母・祖母・母，そして私たち自身へと至る歴史的な道のりとはどのようなものであったか。この基礎演習では,女性たちの生活・人生・仕事・価値観・思想・運動を通して，明治から現在に至る近代史の流れを改めて検証することとしたい。具体的な作業としては，鹿野政直・堀場清子著『祖母・母・娘の時代』をテキストとし，みなさんにはそこで挙げられている資料を用いて，さらに発展的な調査発表を担当してもらう。また，皆さん自身にも，曾祖母・祖母・母といった身近な女性たちに聞き取り調査をしてもらい，彼女たちが生きてきた人生と歴史的時間との交錯について学んでもらう。また授業内で適宜，近代の女性を扱った映像作品を鑑賞することもある。

〔教材〕

参考書：鹿野政直・堀場清子『祖母・母・娘の時代』（岩波ジュニア新書）岩波書店，1985年
教科書はすでに絶版のため，複写して配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，事前にテキスト資料の該当回の箇所を読んで予習する(60分以上)とともに，自分の報告担当の回のために50時間以上かけて準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加（報告や質問など）・期末レポートにより，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜・４時間目。授業時間に直接，もしくは学科事務室をつうじてアポイントメントを取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション・作業内容と方法の説明
第２週　作業内容と方法の説明
第３週　資料収集方法の説明
第４週　報告者による報告
第５週　（以下同じ）
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IE・IIIE

3610010100500

副　題	枕草子を読む									担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIT-105-JX LIT-237-JX

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって，当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また，注釈作業を通じて，辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し，活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は，大変ポピュラーな作品である。しかし，その成立と流布の過程について，謎の多い作品でもある。この授業では，そうした書誌的問題にも目配りしながら，受講生による発表を中心に，幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて，図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子　日本の古典を読む』小学館，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。３時間。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度および発表，レポート等によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。
moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入部　―仮名の成立と仮名遣い―
第２週　枕草子の特質について
第３週　枕草子と日記文学
　　発表担当者と担当箇所の確定
第４週　担当者による発表と質疑応答　―枕草子の精読―
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IF・IIIF

3610010100600

副　題	現代日本語の談話分析							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-106-JX JPL-238-JX

〔授業の到達目標〕

学術的な研究発表の基礎（文献検索，コーパス作成，調査，分析およびプレゼンテーションなどが含まれる）を習得する。

〔授業の内容〕

談話分析という立場から「現代日本語」に関する研究の実践を体験する。発表担当の学生は，テレビのトーク番組などの日常的な口頭言語による談話資料を対象として，一文を言語の最大の単位とする研究方法（いわゆる「文－文法」）ではアプローチできないようなテーマを設定して，調査・分析・発表を行う。その発表に対して参加者全員による討論を通して考察を進めていく。発表者については，発表の内容のほかに，発表（プレゼンテーション）のやり方についても，重要な評価の対象となる。高校までの学校教育で習った「文法」に関する知識は必要ないが，毎時間積極的に討論に参加するという意識が受講学生にはなによりも要求される。

〔教材〕

購入を義務づける書籍はない。授業内容に関連の深い参考図書は，授業内でそのつど紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のために必要な作業はA．談話資料作成，B．テーマを設定した研究発表で，Aは５時間～10時間程度（ただし日本語を母語話者でない学生はそれ以上必要），Bは20時間程度。

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容やプレゼンテーションの方法の良し悪しを同程度に重視して評価する。

また，討論への参加の積極性，出席状況も評価対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限

メール（アドレスは日本文化学科事務室へ行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　「文－文法」と「談話文法」についての概説
第２週　談話分析についての概説（研究方法としての長所と短所）
第３週　担当学生による研究発表および討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IG・IIIG

3610010100700

副　題	現代社会を社会学的に考える							担　当　者	木村　絵里子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SOC-107-JX SOC-239-JX

〔授業の到達目標〕

（1）社会学の基礎的文献を読み，社会学の概念や考え方を理解する。
（2）文献の内容を的確にまとめ，レポートする方法を学ぶ。
（3）現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは，どのようなことなのだろうか。「社会」とは，私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく，諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は，社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上らせることが可能となるのである。この基礎演習では，指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらう。それをもとにディスカッションを行いながら，現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do！ソシオロジー――現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には，「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。初回の授業時に持参すること。なお追加文献については，授業内で決定します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。ただし，文献購読の各レポート担当者は，それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），授業への参加態度（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション―現代日本と社会学―
第2週　『Do！ソシオロジー』購読（1）：序章
第3週　『Do！ソシオロジー』購読（2）：第1章
第4週　『Do！ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
第5週　『Do！ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
第6週　『Do！ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
第7週　『Do！ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
第8週　『Do！ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
第9週　追加文献購読（1）
第10週　追加文献購読（2）
第11週　追加文献購読（3）
第12週　追加文献購読（4）
第13週　追加文献購読（5）
第14週　追加文献購読（6）
第15週　まとめ（理解度の確認）

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本文化基礎演習IH・IIIH

3610010100800

副　題	都市伝説と学校の怪談							担　当　者	伊藤　慎吾　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ANT-108-JX ANT-240-JX

〔授業の到達目標〕

1.民間で伝承されてきた物語（口承文芸：昔話・伝説・うわさ話）の精神文化としての意義を理解する。
2.現代社会のとくに若者や児童たちが，新たに伝承物語を形成していることを認知する。
3.「都市伝説」「現代民話」のフィールドワークと解析を行い，民俗学に親しむ。

〔授業の内容〕

民俗学の対象としてきた村落社会が高度成長期を経て大きく変容していき，それに伴い，従来の対象が調査困難になっていった。従来の立場から団地というコミュニティを新たなフィールドとする研究などが現れてきたが,80年代以降,根本的な民俗学の意義が問われるようになった（参考：大月隆寛『民俗学という不幸』1992)。そうした中で従来の民俗学とは違う多様な立場が派生していき,〈都市伝説〉という新しいタームも海外から取り入れられることとなった。

今日，我々が現実社会で接する口承文芸は，昔話や伝説よりも都市伝説であろうし，子供たちならば学校内で噂される怪談であろう。

本演習では，そうした都市伝説や学校の怪談を取り上げ，その伝承・伝播の諸相を調べてもらう。

〔教材〕

参考書：松谷みよ子『現代民話考１－１２』ちくま文庫
常光徹『学校の怪談　口承文芸の展開と諸相』ミネルヴァ書房，2013年
伊藤龍平『ネットロア　ウェブ時代の「ハナシ」の伝承』青弓社，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の内容について，事前に勉強しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点…発表・議論（50%）
レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通す。

〔授　業　計　画〕

第１週　都市伝説・学校の怪談概要。授業の進め方。
第２週　発表の例示。基本的な調べ方。
第３週　発表。
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　補論。レポート提出。
第15週　まとめ。レポート返却。
発表の在り方については，受講者の人数に応じて決めることにしたい。

日本文化基礎演習II・IIII

3610010100900

副　題	日本の染織と服飾文化（1）							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ART-109-JX ART-241-JX

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し，また，各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて，文献の収集や現存作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

人は古来，美しく装い，身の回りのものを装飾するために，染や織の技法によるさまざまな工夫を重ねてきた。また衣服には，各時代や個人の階級なども反映されている。きものを装う習慣は現代まで継承され，日本の染織・服飾文化の歴史は私たちの身近に生き続けているといえるだろう。

本演習では，日本の服飾類と染織品を主な対象として，歴史的な位置付けなどを考えていく。まず，研究方法に関する講義を行った後，服飾類および染織品に関する基礎的なテーマを各自選んで研究し，報告を行う。対象となるテーマに関する文献の収集，作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などについては適宜解説を行う。報告までの流れを通じて，学術的な研究の基礎的な方法論を理解することを目指したい。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

授業に関する質問の受付方法などについては，授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本服飾史・染織史研究の概要
第３週　テーマに関する研究の進め方
第４週　学生による発表
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習I J ・III J

3610010101000

副　題	日本近世史研究の基礎							担　当　者	井奥　成彦　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	HIS-110-JX HIS-242-JX

〔授業の到達目標〕

日本近世史の基礎を学ぶとともに,活字で近世史料が読めるようになることを目標とします。

〔授業の内容〕

日本近世史研究（文献史学）の研究は，先行研究と近世史料の読解にもとづいています。本演習では，近世の特に社会・経済について，概説書によって先行研究を把握するとともに，活字史料を，各自の発表のかたちで読解します。概説書は下記書物を教科書として用い，活字史料は，プリントを配付します。

〔教材〕

教科書：浜野潔・井奥成彦ほか『日本経済史1600―2015』第1版，慶應義塾大学出版会，2017年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストは予め次の授業で対象とする部分を読んでおき，活字史料についても，自分が発表する部分でなくとも読んでおくこと。また，授業後に必ず復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

発表40%，試験40%，その他（出席状況など）20%。但し，出席が全授業回数の2/3に満たない学生は評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問，相談などは授業の前後にお願いします。

〔備考〕

初回の授業には必ず出席して下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，江戸時代の概説
第２週　江戸時代の概説書の輪読（１）
第３週　江戸時代の概説書の輪読（２）
第４週　江戸時代の概説書の輪読（３）
第５週　江戸時代の概説書の輪読（４）
第６週　江戸時代の概説書の輪読（５）
第７週　江戸時代の概説書の輪読（６）
第８週　近世史料の読み方についての解説
第９週　活字史料の輪読（１）
第10週　活字史料の輪読（２）
第11週　活字史料の輪読（３）
第12週　活字史料の輪読（４）
第13週　活字史料の輪読（５）
第14週　活字史料の輪読（６）
第15週　理解度の確認
履修人数や理解度を勘案しながら授業を進めますので，計画が変更になることもあります。

日本文化基礎演習IK・IIIK

3610010101100

副　題	食品研究の基礎（1）							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LIF-111-JX LIF-243-JX

〔授業の到達目標〕

食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し，使用できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を，具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の小麦加工品からテーマ食品を選択し，各種手法により多方面から調査・分析し，最終的にレポートにまとめる。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方
第２週　テーマ食品の解説
第３週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（１）
第４週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（２）
第５週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（３）
第６週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（４）
第７週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（５）
第８週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（６）
第９週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（７）
第10週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（８）
第11週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（９）
第12週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
第13週　結果の表示
第14週　レポートまとめ方指導
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本文化基礎演習ⅠL・ⅢL

3610010101200

副　題	スポーツ文化の系譜							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-112-JX SPO-244-JX

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び，スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また，資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは，これまで，各国の風土，時代による価値観，社会通念・制度，宗教，政治，教育，性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では，それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに，日本及び諸外国の，過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ，考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら，スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していただきたい。アプローチにあたっては，スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察･発表･意見交換等を行うが，はじめの数回は，スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに，スポーツ文化関連の博物館等への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で，疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し，授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲,貢献度（40%）,発表の内容・方法等（２回・計40%），レポート（20%）によって総合的に評価する。(上記の目安は,進度や課題内容等により多少変更する場合がある)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目
学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える
第２週　スポーツの読み解き（１）～「スポーツ文化複合」について
第３週　スポーツの読み解き（２）～現代社会とスポーツ
第４週　スポーツの読み解き（３）～近代スポーツと民族スポーツ
第５週　学生の発表ならびに討議
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IM・IIIM

3610010101300

副　題	情報社会における問題の分析							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	INF-113-JX INF-245-JX

〔授業の到達目標〕

（1）　与えられた問題に対し，論理的な分析に基づいたレポート作成およびプレゼンテーションができる．

（2）　情報社会において現在認識されている問題について，どのような立場があるかを客観的に説明できる．

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした．一方で，情報技術の急速な発展・普及に伴い，これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている．本授業では，情報社会の諸問題について考え，主体的な判断を行うための論理的な分析力を身に付けることを目的とする．本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び，後半で情報社会で起こっている具体的な問題（ソーシャルメディア，プライバシー，著作権など）について考える．

〔教材〕

参考書：情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版，2013年

教科書は使用しない．各回において講義資料を配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集や資料作成は準備学習の時間に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

各回の提出物60%と演習成果物（レポートと発表それぞれ２回）40%の計100%によって評価する．演習成果物では，調査の深さや論理的な考察の妥当性について問う．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，情報社会の特徴について概説する．
第２週　問題分析の進め方について概説する．
第３週　例題　（1）：問題の構造化
第４週　例題　（2）：情報の収集と活用
第５週　例題　（3）：文書の書き方
第６週　学生発表とまとめ
第７週　現在の情報社会で問題となっているテーマをいくつか取り上げ，概説する．
第８週　応用　（1）：問題分析
第９週　応用　（2）：対策案と副作用の検討
第10週　応用　（3）：論理の構築　（1）
第11週　応用　（4）：論理の構築　（2）
第12週　応用　（5）：根拠の提示
第13週　応用　（6）：発表の仕方
第14週　学生発表とまとめ
第15週　授業全体のまとめ

授業の後半は２～4人程度でのグループ作業を計画しているが，履修人数・学習状況によっては個人作業に変更することがある．

日本文化基礎演習IN・IIIN

3610010101400

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション							担　当　者	品川　明　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-114-JX LIF-246-JX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　自分の得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

日本文化基礎演習IO・IIIO

3610010101500

副　題	日常の日本語の意味世界１							担　当　者	佐藤 琢三　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	JPL-115-JX JPL-247-JX

〔授業の到達目標〕

日本語の類義語の分析を通して，自分の目でものをみて，自分の頭で考えて，それを自分の言葉で表現するという態度を身につける。また，受講者の言葉をとらえるセンスを養いたい。

〔授業の内容〕

現代日本語の類義語の分析をテーマとする。例えば，われわれが日頃何気なく使っている，「あがる」と「のぼる」はどのように違うのだろうか。「山にのぼった」とは言えても「山にあがった」とは言えないのはなぜなのだろうか。われわれにとって身近であるがゆえに客観的に捉えることの難しい日常の言葉を分析すると，われわれ日本人が世界をどのように捉えて体系化しているのかがみえてくる。日本語を考えるということは，日本人・日本文化を考えるということにほかならない。受講者には日本語を分析することの面白さを存分に味わってほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間程度。ただし，発表前は相当な時間の準備が必要となるであろう。

〔成績評価の方法〕

基本的には発表のできばえにより評価する。また，自分自身の発表のできに不満のある者，より研究を向上させたいと考える者にはレポートの提出も認め，レポートのできばえにより評点を加点する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　着眼と方法論の研究
第３週　〃
第４週　〃
第５週　受講者による発表と討論（類義語の分析）
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IP・IIIP

3610010101600

副　題	20世紀後半の日本美術							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-116-JX ART-248-JX

〔授業の到達目標〕

現代に直接つながる20世紀後半の日本美術について基礎的な知識と理解を得ることを目的とする。また受講生の調査研究能力をたかめること，説得力のある発表をする能力を身につけることも目標である。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」20世紀後半の日本は第二次世界大戦で中断された新しい美術の探求を再開した。日本は明治以降，西欧に対して受身だったが日本の芸術家たちはようやく世界と同じスピードで新しい芸術表現を展開し始めた。この授業では1950年代に始まる美術の状況を調べ，日本の近代美術，現代美術への理解を深めることを目的とする。

「授業の概要」1）1954年に発足した具体美術協会について，中心人物の吉原治良，ゼロの会から参加した白髪一雄，田中敦子らの作家，新たに参加した次世代の作家たちについて調査研究する。2）1951年に瀧口修造を中心に始まった実験工房に参加した作曲家，作家たちについて調査研究する，

〔教材〕

教科書：土方定一『日本の近代美術』（岩波文庫青574-1）岩波書店，2012年
　　岡倉覚三『茶の本』（岩波文庫青115-1）岩波書店，2005年
参考書：北澤憲昭『眼の神殿』美術出版社，1989年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書（参考書）を熟読すること。東京国立博物館，東京国立近大美術館の展示，その他明治時代の展示や特別展を調査すること。

初回授業で岡倉天心『茶の本』について1000字のレポートを提出すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，展覧会調査レポート（1000字×10本），発表内容のレポート（2000字×1本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から1時まで，午後2時半から3時まで
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　20世紀前半の美術概説
第2週　20世紀後半の美術概説
第3週　学生発表（大正期前衛美術）
第4週　学生発表（昭和初期前衛美術）
第5週　学生発表（具体美術協会）
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　学生発表（実験工房）
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習ⅡA・ⅣA

3610010200100

副　題	アートマネジメント入門							担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ART-117-JX ART-249-JX

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案のための初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

近年，美術や舞台芸術において，キュレイターや制作者の役割に注目が集まっている。アーティストとコミュニティ・社会の間に立って作品の制作を支援しつつ，より多くの観客に届けるためのシステムを考え企画運営する，アートマネジメントという仕事である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を紹介し，その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演，美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い，その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし，授業への参加態度（30%）を加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第２週　アートマネジメント概説
第３週　〃
第４週　学生による発表
第５週　同上
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IIB・IVB

3610010200200

副　題	絵画の「読解」と「記述」法							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-118-JX ART-250-JX

〔授業の到達目標〕
本演習では，<絵画史>研究を専門に行うための基礎知識の吸収を目指し，とくに絵画史研究上必要とされる，古美術の鑑賞方法や用語知識，また文献探索について講義するほか，美術館の利用法，展覧会での情報収集を実践する。

〔授業の内容〕
授業では江戸および明治時代の絵画を例として取り扱うが，最終的には受講者各自の興味ある時代の絵画研究に対応できるように指導する。また，美術研究上ではフィールド・ワークと呼ばれる「作品調査」が不可欠である。この作業では，直に作品に触れることになるが，その際には伝統的に守られるべきマナーがあり，調査の上ではその手順が重要な意味をもつ。
さらに本演習では，絵画芸術に描かれた内容をできるだけ正確に「読み解き」，さらにそれを受講者自身の「ことば」をもっていかに「記述」するかということをめざす。将来的に絵画研究で卒業論文を書く学生を想定し，絵画史研究のレポートの書き方も指導する予定である。

〔教材〕
授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
1．各自興味をもった絵画作品をテーマにして発表を求める。
2．途中一回のレポート提出と学期末に筆記試験を課す。
3．学期末に提出のレポートとは別に，数週間に一度の割合で絵画「読解」に関する簡単なレポートも課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕
1．年に数回，授業時間外に見学会を実施する。その参加度を重視する。
2．専門的に美術史に意欲のある学生を望む。西洋美術に関心のある学生も歓迎する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論１　絵画を「読む」とは何か
第２週　概論２　絵画を「読解する」意味と機能
第３週　序論１――西洋絵画における「イコノロジー」
第４週　序論２――東洋の「花鳥画」と隠喩（１）
第５週　序論３――東洋の「花鳥画」と隠喩（２）
第６週　絵画「読解」の手法・浮世絵を例に
第７週　見立てと古典文学
第８週　俳諧と浮世絵
第９週　民俗学からのアプローチ
第10週　鑑賞記録の方法
第11週　図書館・美術系史料館の利用と研究論文の探索と扱い方
第12週　絵画を「記述」する（１）――視覚芸術の「言語」とは
第13週　絵画を「記述」する（２）――記述の実践
第14週　プレゼンテーションの方法
第15週　美術館での見学会

日本文化基礎演習IIC・IVC

3610010200300

副　題	『万葉集』を読む							担　当　者	寺田　恵子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIT-119-JX LIT-251-JX

〔授業の到達目標〕

（1）日本最古の歌集『万葉集』の歌について知識を深める。
（1）辞典，索引類の使い方，注釈書，参考文献等を使った調査方法を学ぶ。
（3）自分が調べて考察した結果をまとめ，発表することができる。

〔授業の内容〕

『万葉集』の歌を教材として演習します。『万葉集』は，日本における最古最大の歌集です。万葉の歌を読み解くことによって日本文学，文化のルーツを学びます。また，この演習を通して，古典文学を読む上での基本的なスキルを身に付けます。

〔教材〕

教科書：小野寛『新選　万葉集抄』笠間書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：レポーター以外の学生も次回の歌に目を通し，予習しておく。
事後学習：読んだ歌についての配布資料等を整理し，自分の考察をまとめる。

〔成績評価の方法〕

発表レジュメ・発表内容40%，授業参加度10%，毎回のリアクション・ペーパー20%，学期末レポート30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，原則として授業後の受け付け，または学科事務室を通しての連絡によるものとする。

〔備考〕

意欲的な取り組みを期待します。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション。万葉集について。
第2週　演習の進め方について。　発表分担個所の決定。
第3週　レジュメ作成，プレゼンテーションの方法。文献検索等の方法。
第4週　発表と討議（1）
第5週　発表と討議（2）
第6週　発表と討議（3）
第7週　発表と討議（4）
第8週　発表と討議（5）
第9週　発表と討議（6）
第10週　発表と討議（7）
第11週　発表と討議（8）
第12週　発表と討議（9）
第13週　発表と討議（10）
第14週　発表と討議（11）
第15週　まとめ
演習発表の都合によって，授業計画に変更が加えられることがあります。

日本文化基礎演習IID・IVD

3610010200400

副　題	モダン東京研究							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	HIS-120-JX HIS-252-JX

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び，基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。

〔授業の内容〕

繁華街と百貨店，新交通機関と郊外開発，新しい住宅と生活のあり方など，大正から昭和初期にかけて形成されていった都市文化は，現在の私たちが享受する都市・生活文化の源流である。この授業では，これらの生活に密着した事象について，具体的な資料を基に知識を得，考えることを通じて，歴史研究の方法の基礎を学ぶことを目標とする。グループごとに，テキストをもとに各自が興味を持った事例について調査し，考えたことを発表するという作業を中心として，授業を進めていく。また，時間が許せば，このようにして得られた知識をもとに，学外見学に赴いたり，谷崎潤一郎『痴人の愛』を読解したい。各人の自由な好奇心を期待するが，調査と資料を読む手間はいとわないこと。

〔教材〕

教科書：谷崎潤一郎『痴人の愛』新潮文庫
参考書：内田青蔵『消えたモダン東京』（らんぷの本）初版，河出書房新社，2002年
　　今和次郎『考現学入門』ちくま文庫
教科書は絶版のため，コピーにて対応する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎時間，テキスト該当箇所の事前予習を要する。また，報告担当の場合は責任をもって準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加と報告，期末レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４時間目。事前に，授業後に直接，もしくは学科事務室を通してアポイントメントを取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　調査と報告の方法
第３週　資料調査と図書館利用の方法について
第４週　受講者の報告
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　『痴人の愛』演習
第14週　無声映画観賞
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIE・IVE

3610010200500

副　題	枕草子を読む									担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIT-121-JX LIT-253-JX

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって，当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また，注釈作業を通じて，辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し，活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は，大変ポピュラーな作品である。しかし，その成立と流布の過程について，謎の多い作品でもある。この授業では，そうした書誌的問題にも目配りしながら，受講生による発表を中心に，幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて，図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子　日本の古典を読む』小学館，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。３時間。

〔成績評価の方法〕

出席および発表，レポート等によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。
moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入部　―仮名の成立と仮名遣い―
第２週　枕草子の特質について
第３週　枕草子と日記文学
　　発表担当者と担当箇所の確定
第４週　担当者による発表と質疑応答　―枕草子の精読―
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IIF・IVF

3610010200600

副　題	過去の日本語の研究							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-122-JX JPL-254-JX

〔授業の到達目標〕

文献を使用した過去の言語の研究の基礎（文献検索，資料読解，調査，分析などが含まれる）およびプレゼンテーションの技法を習得する

〔授業の内容〕

文献を手がかりとして，過去の言語を研究する方法を習得することを目的とする。使用する文献は，中世日本語の口頭言語を反映しているといわれる狂言台本のひとつである『版本狂言記』である。毎回，発表担当の学生が担当部分について注釈をほどこし，さらに各自で設定したテーマについて調査・分析・発表をおこなう形式で授業を進めていく。発表者については，発表の内容のほかに，発表（プレゼンテーション）のやり方も重要な評価の対象となる。発表者以外の学生も，毎時間積極的に討論に参加するという意識がなによりも要求される。

〔教材〕

特になし。テキストはプリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時に必要な作業はA．担当箇所の注釈，B．テーマを設定した研究発表で，Aのためには５～10時間，Bのためには10～20時間程度

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容とプレゼンテーションの方法の善し悪しを同程度に評価対象とする（80%）。その他，討論への参加の積極性（20%），出席状況（最低でも開講時数の２／３以上が必要）によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　中世日本語と資料概説
第２週　『版本狂言記』およびその他の狂言台本や関連資料について
第３週　「発表」に関する説明
第４週　担当学生による研究発表および討論
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIG・IVG

3610010200700

副　題	現代社会を社会学的に考える							担　当　者	木村　絵里子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SOC-123-JX SOC-255-JX

〔授業の到達目標〕

（1）社会学の基礎的な文献を読み，社会学の概念や考え方を理解する。
（2）文献の内容を的確にまとめ，レポートする方法を学ぶ。
（3）現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは，どのようなことなのだろうか。「社会」とは，私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく，諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は，社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上らせることが可能となるのである。この基礎演習では，指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらう。それをもとにディスカッションを行いながら，現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do！ソシオロジー――現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には，「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。初回の授業時に持参すること。なお追加文献については，授業内で決定します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。ただし，文献購読の各レポート担当者は，それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），授業への参加態度（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション―現代日本と社会学―
第2週　『Do！ソシオロジー』購読（1）：序章
第3週　『Do！ソシオロジー』購読（2）：第1章
第4週　『Do！ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
第5週　『Do！ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
第6週　『Do！ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
第7週　『Do！ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
第8週　『Do！ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
第9週　追加文献購読（1）
第10週　追加文献購読（2）
第11週　追加文献購読（3）
第12週　追加文献購読（4）
第13週　追加文献購読（5）
第14週　追加文献購読（6）
第15週　まとめ（理解度の確認）

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本文化基礎演習IIH・IVH

3610010200800

副　題	日本の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-124-JX ANT-256-JX

〔授業の到達目標〕

1；日本に伝わる民間説話（民間伝承,口承文芸,民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。
2；その文化史的な意義を把握します。
3；諸外国の民間説話と比較して,世界的な普遍性と地域（日本,東アジア,ヨーロッパ）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し,「昔話」「伝説」を具体的に取りあげて，それぞれの特徴と意義を講義します。そのつど，比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して，普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）
青春出版社，2014年
上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また，折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献は，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお，当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

基本的な事柄は，演習時に連絡します。
また，掲示によって連絡することがあります。

〔備考〕

（1）当科目は「比較民俗文化論1,2；(民間伝承)〔日本編〕〔外国篇〕」と連動しています。
（2）授業時における，私語，および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授　業　計　画〕

第1週　民間説話とは？
第2週　昔話と伝説について
第3週　外国の昔話について　1；―アジア圏―
第4週　外国の昔話について　2；―ヨーロッパ圏―
第5週　本格昔話　1;
第6週　本格昔話　2;
第7週　本格昔話　3;
第8週　本格昔話　4;
第9週　本格昔話　5;
第10週　動物昔話　1;
第11週　動物昔話　2;
第12週　動物昔話　3;
第13週　笑い話　1;
第14週　笑い話　2;
第15週　まとめ

日本文化基礎演習II I ・IV I

3610010200900

副　題	日本の染織と服飾文化（2）							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ART-125-JX ART-257-JX

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し，また，各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて，文献の収集や現存作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

日本の染織史・服飾史の研究では，主に博物館や美術館などに所蔵される現存する染織・服飾品と，関連する史料や文献などが検討の対象となる。

本演習では，日本の染織技法や服飾様式に関連する文献を読み，基本的な理解を進め，各自報告を行う。また，授業では，染織品や服飾品の考察方法や扱い方，文献の検討方法などについても実践的な指導を行う。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜 4 限

授業に関する質問の受付方法などについては，授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　服飾史・染織史研究の方法
第 3 週　テーマに関する研究の進め方
第 4 週　学生による発表
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習II J・IV J

3610010201000

副　題	日本近世史研究の基礎									担　当　者	井奥　成彦　講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	HIS-126-JX HIS-258-JX

〔授業の到達目標〕

日本近世史の基礎を学ぶとともに,活字で近世史料が読めるようになることを目標とします。

〔授業の内容〕

日本近世史研究（文献史学）の研究は，先行研究と近世史料の読解にもとづいています。本演習では，近世の特に社会・経済について，研究文献と活字史料を，各自の発表のかたちで読解します。文献，活字史料ともに，プリントを配付します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予め次の授業で対象とするプリントを，自分が発表する部分でなくとも読んでおくこと。また，授業後に必ず復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

発表40%，試験40%，その他（出席状況など）20%。但し，出席が全授業回数の2/3に満たない学生は評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問，相談などは授業の前後にお願いします。

〔備考〕

初回の授業には必ず出席して下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，江戸時代の概説と研究文献の紹介
第２週　研究文献の輪読（１）
第３週　研究文献の輪読（２）
第４週　研究文献の輪読（３）
第５週　研究文献の輪読（４）
第６週　研究文献の輪読（５）
第７週　研究文献の輪読（６）
第８週　近世史料の読み方についての解説
第９週　活字史料の輪読（１）
第10週　活字史料の輪読（２）
第11週　活字史料の輪読（３）
第12週　活字史料の輪読（４）
第13週　活字史料の輪読（５）
第14週　活字史料の輪読（６）
第15週　理解度の確認
履修人数や理解度を勘案しながら授業を進めますので，計画が変更になることもあります。

日本文化基礎演習IIK・IVK

3610010201100

副　題	食品研究の基礎（2）							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LIF-127-JX LIF-259-JX

〔授業の到達目標〕

食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し，使用できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を，具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の大豆加工品からテーマ食品を選択し，各種手法により多方面から調査・分析し，最終的にレポートにまとめる。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方
第２週　テーマ食品の解説
第３週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（１）
第４週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（２）
第５週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（３）
第６週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（４）
第７週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（５）
第８週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（６）
第９週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（７）
第10週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（８）
第11週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（９）
第12週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
第13週　結果の表示
第14週　レポートまとめ方指導
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本文化基礎演習ⅡL・ⅣL

3610010201200

副　題	スポーツ文化の系譜							担　当　者	荒井　啓子　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-128-JX SPO-260-JX

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び，スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また，資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは，これまで，各国の風土，時代による価値観，社会通念・制度，宗教，政治，教育，性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では，それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに，日本及び諸外国の，過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ，考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら，スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していただきたい。アプローチにあたっては，スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察･発表･意見交換等を行うが，はじめの数回は，スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに，伝統スポーツやスポーツ文化関連の博物館への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で，疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し，授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（40%）及び発表（3　回を予定，レジュメの内容を含む。計60%）によって総合的に評価する。発表を2回とした場合は,授業への参加意欲･貢献度（40%）に加え，発表（40%）とレポート（20%）を対象とする。（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日3時間目
学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える
第2週　スポーツの読み解き（1）～「スポーツ文化複合」について
第3週　スポーツの読み解き（2）～現代社会とスポーツ
第4週　スポーツの読み解き（3）～近代スポーツと民族スポーツ
第5週　学外授業（伝統スポーツまたは博物館見学等）＜未定＞
第6週　学生の発表ならびに討議
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIM・IVM

3610010201300

副　題	情報社会における問題の分析							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	INF-129-JX INF-261-JX

〔授業の到達目標〕

（1）　与えられた問題に対し，論理的な分析に基づいたレポート作成およびプレゼンテーションができる．

（2）　情報社会において現在認識されている問題について，どのような立場があるかを客観的に説明できる．

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした．一方で，情報技術の急速な発展・普及に伴い，これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている．本授業では，情報社会の諸問題について考え，主体的な判断を行うための論理的な分析力を身に付けることを目的とする．本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び，後半で情報社会で起こっている具体的な問題（ソーシャルメディア，プライバシー，著作権など）について考える．

〔教材〕

参考書：情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版，2013年

教科書は使用しない．各回において講義資料を配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集や資料作成は準備学習の時間に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

各回の提出物60%と演習成果物（レポートと発表それぞれ２回）40%の計100%によって評価する．演習成果物では，調査の深さや論理的な考察の妥当性について問う．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，情報社会の特徴について概説する．
第２週　問題分析の進め方について概説する．
第３週　例題　（1）：問題の構造化
第４週　例題　（2）：情報の収集と活用
第５週　例題　（3）：文書の書き方
第６週　学生発表とまとめ
第７週　現在の情報社会で問題となっているテーマをいくつか取り上げ，概説する．
第８週　応用　（1）：問題分析
第９週　応用　（2）：対策案と副作用の検討
第10週　応用　（3）：論理の構築　（1）
第11週　応用　（4）：論理の構築　（2）
第12週　応用　（5）：根拠の提示
第13週　応用　（6）：発表の仕方
第14週　学生発表とまとめ
第15週　授業全体のまとめ

個人での作業を計画しているが，履修人数・学習状況によっては授業の後半は２～3人程度でのグループ作業に変更することがある．

日本文化基礎演習IIN・IVN

3610010201400

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション							担　当　者	品川　明　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-130-JX LIF-262-JX

〔授業の到達目標〕
　１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。
　２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
　３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。
　４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕
　１．体験学習と問いかけ
　いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。
　２．体験学習と人間関係コミュニケーション
　学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。
　３．体験学習と振り返り
　上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕
　特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕
　１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
　２．授業におけるファシリテーション　20%
　３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%
　４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
　akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
　日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　自分の得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ
できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

日本文化基礎演習IIO・IVO

3610010201500

副　題	日常の日本語の意味世界２									担　当　者	佐藤 琢三　教授
単位	２	配当年次	１ ２	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	３	コース・ナンバー	JPL-131-JX JPL-263-JX

〔授業の到達目標〕

日本語の類義語の分析を通して，自分の目でものをみて，自分の頭で考えて，それを自分の言葉で表現するという態度を身につける。また，受講者の言葉をとらえるセンスを養いたい。

〔授業の内容〕

現代日本語の類義語の分析をテーマとする。例えば，われわれが日頃何気なく使っている，「あがる」と「のぼる」はどのように違うのだろうか。「山にのぼった」とは言えても「山にあがった」とは言えないのはなぜなのだろうか。われわれにとって身近であるがゆえに客観的に捉えることの難しい日常の言葉を分析すると，われわれ日本人が世界をどのように捉えて体系化しているのかがみえてくる。日本語を考えるということは，日本人・日本文化を考えるということにほかならない。受講者には日本語を分析することの面白さを存分に味わってほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間程度。ただし，発表前は相当な時間の準備が必要となるであろう。

〔成績評価の方法〕

基本的には発表のできばえにより評価する。また，自分自身の発表のできに不満のある者，より研究を向上させたいと考える者にはレポートの提出も認め，レポートのできばえにより評点を加点する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　着眼と方法論の研究
第３週　〃
第４週　〃
第５週　受講者による発表と討論（類義語の分析）
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IIP・IVP

3610010201600

副　題	20世紀後半の日本美術							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-132-JX ART-264-JX

〔授業の到達目標〕

20世紀後半の日本美術のうち，1950年代から2000年にかけて展開した諸潮流について基礎的な知識と理解を得ることを目的とする。調査研究の能力を高め，パワーポイントの作成，説得力のある発表を行う能力をたかめることも目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」1950年代に始まる新しい美術の潮流は具体美術協会，実験工房の後に，読売アンデパンダン，ネオ・ダダ，ハイレッドセンター，もの派が生まれ，さらに1980年代，90年代には国際的に活躍する作家たちが現れた。こうした新しい美術潮流を調査研究し，日本美術の特質と世界における意味を探求する。

「授業の概要」様々な美術の潮流がどのように生まれてきたか，作家について調べる。

〔教材〕

教科書：赤瀬川原平『反芸術アンパン』（ちくま文庫）筑摩書房，1994年
赤瀬川原平『東京ミキサー計画』（ちくま文庫）筑摩書房，1994年
土方定一『日本の近代美術』（岩波文庫　青　574-1）岩波書店，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書（参考書）を熟読すること。関連の展覧会を調査すること。

〔成績評価の方法〕

1）出席，2）展覧会レポート（現代美術展覧会1000字×10本），3）期末レポート（発表内容を記述する2000字×1本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から1時，午後2時半から3時
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　1920年代以降1960年代までの日本の前衛美術概説
第2週　1950年代以降の前衛美術概説
第3週　学生発表（読売アンデパンダン）
第4週　学生発表（ネオ・ダダ）
第5週　〃
第6週　学生発表（ハイレッドセンター）
第7週　〃
第8週　〃
第9週　学生発表（もの派）
第10週　〃
第11週　学生発表（1980年代）
第12週　〃
第13週　学生発表（1990年代）
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化政策論I

3612000100100

副　題	文化政策の基本構造							担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-101-JA

〔授業の到達目標〕

(1)現代の文化政策に関する概念や理論について具体例に基づき理解を深める。

(2)国際的な比較等を通じて，日本の文化的特性や文化的多様性についてより広い視野から考察できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の文化政策に関する基本的な概念や理論について，その実際を諸外国の法制・行政組織との比較を通じて理解を深める。理論的・歴史的な考察と共に，視聴覚教材等を用いて日本文化の諸側面に触れる機会も設ける。春学期は特に日本の工芸に関して，柳宗悦の著作の精読も行う。以上により，本講が，より広い国際的な視野から日本の文化を再考する手がかりとなるようにしたい。

〔教材〕

参考書：平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会，2000年
後藤和子編『文化政策学』（有斐閣コンパクト）有斐閣，2001年
池上惇・植木浩・福原義春編『文化経済学』有斐閣，1998年
柳宗悦『工藝の道』（講談社学術文庫）講談社，2005年
柳宗悦『手仕事の日本』（岩波文庫）岩波書店，1997年
W．ボウモル＆W.ボウエン/池上惇･渡辺守章監訳『舞台芸術―芸術と経済のジレンマ』芸団協出版部，1994年
佐々木高明『日本文化の多重構造―アジア的視野から日本文化を再考する』小学館，1998年
佐々木高明『多文化時代を生きる―日本文化の可能性』小学館，2000年

柳宗悦「工藝の美」（上記『工藝の道』所収）および『手仕事の日本』は授業中にテキストとしても使用する。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。原則的に講義は配布プリントに基づいて行う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

進度に応じて適宜与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。美術館訪問，舞台芸術鑑賞などの実践と報告レポートの作成，自主的な課外学習や読書の時間を含めて，平均して各回につき2時間程度。

〔成績評価の方法〕

中間・期末レポート（50%），および平常の出席状況（リアクション・ペーパーの内容等50%）を総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　序論：文化政策とは？
第2週　文化政策の基本概念（1）文化の諸定義
第3週　文化政策の基本概念（2）文化と文明
第4週　文化政策の基本概念（3）文化的アイデンティティ
第5週　公的支援の理論的根拠（1）文化政策の歴史的背景
第6週　公的支援の理論的根拠（2）文化経済学の先駆者たち（A.スミス，J.ラスキン，W．モリス）
第7週　柳宗悦の思想と運動―日本文化政策論の視点から―　その1．
第8週　柳宗悦の思想と運動―日本文化政策論の視点から―　その2．
第9週　公的支援の理論的根拠（3）芸術と経済のジレンマ(W.ボウモル＆W．ボウエン)
第10週　公的支援の理論的根拠（4）文化の民主化（A.トフラー，P.ブルデュー）
第11週　日本文化政策の歩みと特質（1）文化財の保護と活用
第12週　日本文化政策の歩みと特質（2）文化芸術振興基本法
第13週　日本文化政策の歩みと特質（3）地域の文化振興政策
第14週　国際交流基金の活動と文化政策の評価方法
第15週　レポート返却と講評・まとめ

学期中に指定された美術館の訪問と，自由選択での舞台芸術の鑑賞を行い，それらを文化政策の観点から論じることを，中間および期末のレポート課題とする。

日本文化政策論II

3612000200100

副　題	日本文化政策の現状							担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-102-JA

〔授業の到達目標〕

国家の枠組みを超えたグローバルな視点と地元に根差したローカルな視点をともに取り入れつつ，現代日本文化政策の課題について考察する。文化に関する政策提言レポートを作成するための基礎力を身につけるとともに，日本の文化的多様性に理解を深める機会としたい。

〔授業の内容〕

春学期の講義内容をふまえて，秋学期には理論的考察とともに具体的な事例研究を行う。また，ユネスコ文化政策の歴史的展開の検討を通じて，近年の国際社会における文化政策の動向と日本の国際文化協力の実際や今後の課題ついても考察する。

〔教材〕

参考書：ジョセフ・L・サックス/都留重人監訳『「レンブラント」でダーツ遊びとは―文化的遺産と公の権利』岩波書店，200１年
林容子『進化するアートマネジメント』レイライン，2004年
高階秀爾『芸術のパトロンたち』（岩波新書）岩波書店，1997年
M.K.スミス＆M.ロビンソン/阿曽村邦昭・阿曽村智子訳『文化観光論―理論と事例研究　上・下』古今書院，2009年
野口　昇『ユネスコ―50年の歩みと展望』シングルカット社，1996年

原則，配布資料に基づき講義を行う。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。副教材として，適宜，視聴覚教材を使用する予定である。文化を政策の対象とすることの意義と課題について学ぶとともに日本文化の多様性に触れる機会ともしたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。身近な文化遺産など文化政策の対象となる案件の実例について主体的な調査を行うこと。日頃から地元の文化政策に関する情報を集めること。できれば,芸術鑑賞の機会を多く持つこと。これらの総合的な学習を含めて，予・復習に各回平均で２時間程度。

〔成績評価の方法〕

学期末には各自が「文化政策提言」を作成･提出することを課題とする。課題の成果（60%）と，授業参加時の積極性（リアクション・ペーパーの内容等40%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：文化多様性の時代―世界の構造的変化と日本文化政策の展開
第２週　文化と公共性（１）文化遺産と公的権利の諸問題
第３週　文化と公共性（２）文化的景観保全の現代的課題　その１―倉敷と鞆の浦の事例―
第４週　文化と公共性（３）文化的景観保存の現代的課題　その２―白川郷・五箇山の事例―
第５週　文化と経済（１）現代における文化の創造と消費のメカニズム
第６週　文化と経済（２）メセナの歴史的系譜と企業メセナ，フィルアンソロピー＆CSR
第７週　文化と経済（３）舞台芸術としての日本の伝統芸能
第８週　国際文化交流政策（１）ユネスコ「文化遺産保護六条約体制」の形成と展開
第９週　国際文化交流政策（２）無形文化遺産条約と「文化的アイデンティティ」の諸問題
第10週　国際文化交流政策（３）文化多様性宣言の意義と文化多様性条約の課題
第11週　日本文化の多様性（１）世界の先住民問題とアイヌ文化振興政策
第12週　日本文化の多様性（２）沖縄の文化・歴史と文化観光振興政策
第13週　日本文化の多様性（３）海外における日本文化紹介活動の歴史的展開
第14週　まとめ　世界の中の日本―日本文化紹介・日本語教育の実情と課題
第15週　レポート返却と講評・まとめ

日本人論I

3612001100100

副　題	古代・中世の日本人の神観							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	JPN-103-JA

〔授業の到達目標〕

日本の神々や祭りのありかたについて，基本的な知識をもてるようになること。
古代・中世の様々なジャンルの史料に対し，内容を理解する試みができること。
授業を通し，日本文化を考えるための自分の関心を発見できること。

〔授業の内容〕

古代・中世の人々が神々をどのように考え，神々と接していたのか，日本の神々や祭りに関する古典・歴史書・絵画等の史料の読解を通して，「神観」というフレームから日本人を考えたい。各講義は，それぞれ日本文化を考える上で，キーワードとなるであろう「自然」「食」「ケガレ」「女性」「子ども」等のテーマと結びつくものである。講義の中でグループ学習や，ミニ発表を行うことも予定している。

〔教材〕

教科書は用いず，プリントを配付する。参考書は授業の中で適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に課される史料の読解，あるいは課題に対する予習・復習など。（各 2 時間程度）

〔成績評価の方法〕

レポート（60%），課題（20%），リアクションペーパー（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に随時受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　日本人論をめぐって―日本文化を理解するために
第 2 週　神々の姿・かたち
第 3 週　自然と災害
第 4 週　神事とうらない
第 5 週　祟る神々―祝詞 1
第 6 週　罪と祓―祝詞 2
第 7 週　神々と食 1 －稲と肉
第 8 週　神々と食 2 －儀礼と食
第 9 週　祭りのなかの子ども 1
第10週　祭りのなかの子ども 2
第11週　古代・中世の巫女 1
第12週　古代・中世の巫女 2
第13週　神々の図像
第14週　女神と童子神
第15週　まとめ

日本人論II

3612001200100

副　題	近代日本の家・家族・家庭							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPN-104-JA

〔授業の到達目標〕

近代日本における家族生活をめぐる思想・イデオロギーや，現実の家族形態のあり方の変遷を多角的に学び，近代家族論の分野の基礎知識を身につける。日本の伝統文化や近代文化を理解するうえでの背景知識を得る。

〔授業の内容〕

人間にとって，自分がそのなかで生まれ育ち，生活を営んでいく家・家族・家庭といった単位は，普遍的なものであるとともに，時代によって地域によって，また社会状況に応じて変化していくものである。この日本列島では人々は近代の150年にわたって，どのような家族関係の慣習や制度や理想のもとで生き続けてきたのだろうか。変貌しつづけてきた家族のあり方を知ることは，そのまま日本の伝統にねざした文化を知ることでもある。

この授業では，近代日本で編成されていった「家・家族・家庭」をめぐる言説や実践を，近世日本や外国との比較もまじえて取り上げつつ，近代「日本人」の生活と人生に対する感覚を概観してみたい。それを通じて，各々が現代家族や家庭をめぐる近年の新たな問題や傾向について考える糧としてもらえれば幸いである。

〔教材〕

参考書：『21世紀家族へ』（ゆうひかく叢書）第3版，落合恵美子，2004年
鹿野政直『戦前・「家」の思想』第2版，創文社，1992年
海野福寿・大島美津子『家と村』（近代日本思想大系）岩波書店，1989年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後，その授業で扱った内容について復習し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度と期末試験で評価する。試験期間中に試験を実施する。出席が全回数の７割に満たない場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜・２時間目。授業時に直接，もしくは学科事務室をつうじてアポイントメントを取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　近世的「家」の成立と動揺
第２週　近世的「家」の崩壊から近代へ
第３週　戸籍法と「家」の再編
第４週　西洋的家族観・男女関係間の紹介と「家」批判
第５週　「ホーム」と「恋愛」
第６週　民法編纂事業と民法典論争
第７週　家族国家観と「家」の擬制化
第８週　「家庭」家族の誕生
第９週　良妻賢母思想と家族生活の改造
第10週　「家」への抵抗と反逆
第11週　総動員下の「家」と「家庭」
第12週　戦後改革と民法改正
第13週　高度成長期の家族と郊外
第14週　変容する家庭・家族と親密圏
第15週　まとめ

日本語学I

3612010100100

副　題	現代日本語の諸相							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	JPL-105-JA

〔授業の到達目標〕

日本語学に関する基礎知識を習得する。基礎知識の内容としては，言語分析に必要な概念，術語，基本的立場などがあげられる。

〔授業の内容〕

はじめに，日本語を含めたすべての言語に共通する一般的特徴について概説する。つぎに現代日本語に関して音的側面，語彙的側面，文法的側面から概説する。日本語を科学的に考察することとは，具体的にはどういうことであり，どういうことではないのかということを理解することが一番の目標となる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に必要な時間は各１～２時間程度

〔成績評価の方法〕

学期末に行われる試験かレポート（80%）および授業への参加態度（20%）による。試験受験やレポート提出の条件は開講回数の３分の２以上出席していること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限

メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　「日本語を話す」ことと「日本語について話すこと」の違い
第２週　日本語研究ではない日本語に関する言説の具体例とその非論理性
第３週　言語の一般的特徴①－言語の音的単位－
第４週　言語の一般的特徴②－言語の意味的単位－
第５週　言語の一般的特徴③－文法とは何か－
第６週　世界の言語と日本語
第７週　日本語の音的単位①－日本語の母音と子音－
第８週　日本語の音的単位②－音節と拍ー
第９週　日本語の音的特徴－清音と濁音－
第10週　日本語の音的特徴－現代日本語のアクセント－
第11週　日本語の語彙的特徴－和語と借用語－
第12週　日本語の文法的単位－単語と文節と文－
第13週　日本語の文法的特徴①－「は」と「が」－
第14週　日本語の文法的特徴②－日本語構文－
第15週　まとめ

日本語学II

3612010200100

副　題	日本語の歴史							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	JPL-106-JA

〔授業の到達目標〕

過去の言語変化に関する記述を通して，「歴史として認識する」ということはどういうことであって，どういうことではないかということを理解する。科学としての言語研究の立場から言語変化を分析する方法を理解する。

〔授業の内容〕

過去の日本語の変化のうち，上代～中古～中世に起こったもののいくつかに焦点をあてて，それらの変化前と変化後では何がどう変わったのか，また，それらはどういう意味をもつ変化だったのかを考えていく。日本語に起こったいろいろな変化を単に羅列するのではなく，一見，相互に直接的な関係がないようにみえる諸変化間に，因果関係や相関関係を見出し，言語変化や，言語の歴史的研究についての理解を深めることを目的とする。

〔教材〕

参考書：亀井孝他『日本語の歴史２．３』平凡社ライブラリー，2007年
特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習，復習のための必要な時間は毎回各１～２時間程度

〔成績評価の方法〕

学年末に行う試験かレポート（80%）および授業への参加態度（20%）による。また試験受験やレポート提出の条件として２/３以上の出席を必要とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　人間の歴史，言語の歴史，日本語の歴史
第２週　古代日本語の姿１　古代日本語の音的特徴
第３週　古代日本語の姿２　八母音から五母音へ１
第４週　古代日本語の姿３　八母音から五母音へ２
第５週　古代日本語の姿４　音的側面の変化と借用語
第６週　ハ行音の変遷１
第７週　ハ行音の変遷２
第８週　音便形の成立
第９週　アクセントの体系的変化
第10週　助動詞の数の減少１
第11週　助動詞の数の減少２
第12週　終止形と連体形の合流
第13週　二段活用の一段化１
第14週　二段活用の一段化２
第15週　まとめ

日本思想史I

3612011100100

副　題	神社と神道のなりたち							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	PHL-107-JA

〔授業の到達目標〕

神道の基本的な用語を理解し，神社や神道のなりたちについて，説明できるようになること。
古代・中世の神仏関係を通じて，日本の思想に対する理解を深められるようになること。

〔授業の内容〕

遺跡，文献や絵画など古代・中世の様々なジャンルの歴史的な資料をもとに，神社の起源や神道の成立を考察する。神道の成立を思想の形成という観点からとらえることによって，東アジア世界と日本の思想や文化とのつながりも考えたい。

〔教材〕

参考書：伊藤聡他著『神道』（日本史小百科）東京堂出版，2002年
佐藤弘夫編著『概説日本思想史』ミネルヴァ，2005年
岡田荘司編『日本神道史』吉川弘文館，2010年
＊教科書は用いず，プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に指示される文献や資料の読解・課題の予習（２時間）
復習として神社や神道の成立を理解するための年表作成（２時間）

〔成績評価の方法〕

学期末試験（50%），課題提出（30%），リアクションペーパー（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に随時受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　日本思想史とは
第２週　神社の起源をたどる
第３週　『古事記』『日本書紀』とその編纂意図
第４週　神々の系譜と氏祖『古語拾遺』
第５週　律令国家の形成
第６週　神祇令祭祀と唐の「祠令」
第７週　『延喜式』にみられる神祇行政と祭祀
第８週　神仏習合思想
第９週　本地垂迹説
第10週　平安時代の神社と祭祀
第11週　神道思想の形成１－両部神道
第12週　神社参詣１－僧侶たちの伊勢参宮
第13週　神道思想の形成２－伊勢神道
第14週　神社参詣２－参詣曼荼羅を読む
第15週　まとめ―日本思想史から考える神道

日本思想史II

3612011200100

副　題	明治維新と女性							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	PHL-108-JA

〔授業の到達目標〕

歴史資料を用いて，主体的に事象を調べたり，論じたりすることができるようになること。
日本の近代思想史の中から，自分の問題意識を発見できるようになること。

〔授業の内容〕

明治維新に際し，女性たちはどのように変化したのだろうか，あるいは日本の近代化に女性たちはどのように関わっていたのだろうか。皇后や女官という存在を軸に，公文書をはじめ日記などの私文書，あるいは絵画，新聞・雑誌の記事などの歴史資料を用い，明治維新と女性について思想史の問題として考えたい。

〔教材〕

参考書：小平美香『女性神職の近代―神祇儀礼・行政における祭祀者の研究』ぺりかん社，２００９年
小平美香『昭憲皇太后からたどる近代』ぺりかん社，２０１４年
教科書は用いず，資料を配布する。講義時にテーマごとの参考文献を指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に指示される資料の読解，課題の予習と復習（各２時間）

〔成績評価の方法〕

レポート（60%），課題提出（20%），リアクションペーパー（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に随時受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　明治維新とは
第２週　近代以前の教育
第３週　近代教育の発祥
第４週　学制と近代女子教育
第５週　福沢諭吉の思想―『女大学評論』『新女大学』
第６週　宗教行政と女性１―国民教化と女教導職
第７週　宗教行政と女性２－尼僧と婦人神職
第８週　産業と女性１―宮中養蚕と養蚕婦
第９週　産業と女性２－富岡製糸場と工女たち
第10週　産業と女性３－女性の洋装
第11週　万国博覧会と内国博覧会
第12週　慈善１－博愛者と赤十字社
第13週　慈善２－婦人慈善会
第14週　近代の皇后・女官
第15週　まとめ

日本思想史III

3612011300100

副　題	日本上代の異類婚姻譚							担　当　者	寺田　惠子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	PHL-109-JA

〔授業の到達目標〕

（1）日本の上代文献における異類婚姻譚の内容を理解する。
（2）日本上代の異類婚姻譚について考察し，そこから日本古代の人々の，異類や異界についての思想を考察する。
（3）日本古代の人々の，神や自然に対する感受性，考え方についての知識を深める。

〔授業の内容〕

日本の上代文学における異類婚姻譚について講義します。

人と，人でない存在―異類―との婚姻の物語は，古今東西の神話，伝説，昔話の中に多く残されています。異類婚姻譚は，時代や地域に限定されずに語られてきました。それは，このモティーフが人類にとって普遍的な意味合いを持っていたからだと考えることができます。異類は，多くの場合，動物や自然を表象する形で語られます。異類婚姻譚には，古代の人々が自然や動物をどのように認識してきたかを知る手がかりもあるでしょう。

ここでは，日本上代の神話，伝説に残る異類婚姻譚を読み，その特性を知り，またその意味を考察します。

〔教材〕

教科書は使用しません。授業は，毎回のプリント配布によって行います。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・準備学習：事前に配布された翌週の講義部分を読み，自分自身の問題意識をもって考察しておく。
・事後学習：授業内容について整理し，自分の考察を文章にしてまとめておく。

〔成績評価の方法〕

授業参加度20%，毎回のリアクション・ペーパ―30%，学期末レポート50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，原則として授業後の受付け，または学科事務室を通じての連絡によるものとする。

〔備考〕

自分なりの問題意識をもって，また授業を楽しむつもりで取り組んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
　　日本上代の異類婚姻譚について
第２週　三輪山型異類婚姻譚
第３週　丹塗矢型異類婚姻譚
第４週　ヌカビコとヌカビメ―雷神の訪れ―
第５週　オトヒヒメコ―ひれ振りの峯―
第６週　海外の異類婚姻譚（１）
第７週　豊玉ビメ―海神の娘―
第８週　肥長ヒメ―出雲の川―
第９週　水江の浦島子―うらしま伝説の始まり―
第10週　伊香の小江―白鳥処女説話―
第11週　狐との婚姻譚
第12週　日光感精型説話
第13週　海外の異類婚姻譚（２）
第14週　古代日本人と自然，神
第15週　まとめ

授業の進行具合によっては，授業計画に多少の変更を加えることがあります。

日本思想史IV

3612011400100

副　題	神話と伝説の人間関係							担　当　者	寺田　恵子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	PHL-110-JA

〔授業の到達目標〕

（1）古事記を中心とする日本上代文献中の，人間関係を語る物語の内容を理解する。
（2）日本文学の始まりに現れる人間関係について考察し，日本古代の人々の，人間についての考え方をとらえる。
（3）日本古代の人々の，人間に対する思想についての知識を深める。

〔授業の内容〕

日本上代の文献には，数多くの神話伝説が残されています。婚姻，協力，闘争，支配などの種々の関係によってそれは語られ，その関係の中にこそ物語は形成されました。その関係のあり方には，当時の人々の人間についての思想が反映されています。そして，そういった思想の中には1300年の時を生き続けて，現代日本の人間関係に見出されるものもあります。

この授業では，『古事記』の神話伝説のエピソードのいくつかを取り上げて読み，分析して，そこに現れる人間関係を探り，その特殊性と普遍性を考えます。なお，必要に応じて『日本書紀』『風土記』『万葉集』等の文献および海外文献も資料として参照します。

〔教材〕

教科書は使用しません。授業時に配布するプリントを教材とします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・準備学習：事前に配布される翌週の講義部分を読み，自分自身の問題意識をもって考察しておく。
・事後学習：授業内容について整理し，自分の考察を文章にしてまとめておく。

〔成績評価の方法〕

授業参加度20%，毎回のリアクション・ペーパー30%，学期末レポート50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，原則として授業後の受け付け，または学科事務室を通じての連絡によるものとする。

〔備考〕

自分なりの問題意識をもって，授業を楽しむつもりで受講してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス
第２週　女性神と男性神
第３週　女性と男性（１）
第４週　男性と女性（２）
第５週　海外の神話伝説における男性と女性
第６週　男女の作法―恋，求婚，結婚，子孫誕生，別離
第７週　親と子（１）父と息子
第８週　親と子（２）父と娘
第９週　親と子（３）母と息子，母と娘
第10週　親子の流儀―慈愛，援助，許可，管理，否定
第11週　兄弟姉妹（１）兄・弟
第12週　兄弟姉妹（２）兄・妹
第13週　兄弟姉妹（３）姉・弟，姉・妹
第14週　兄弟の形式―拮抗，対称，敵対，協力
第15週　まとめ

授業の進行具合によっては，授業計画に多少の変更を加えることがあります。

日本文学史I

3612012100100

副　題	和歌文学史概説							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIT-111-JA

〔授業の到達目標〕

最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』が,単に和歌文学史の背骨を形成するばかりでなく,広く日本文化史全般にわたる深い影響力を発揮し続けてきた事実を，具体的作品を読むことを通じて学んでもらう。

〔授業の内容〕

前半の数回の授業では,『古今和歌集』の部立の意味に着目しながら，四季の部や恋の部の歌をできるだけ多く読み解いて行く。後半の授業では,『古今和歌集』と他の作品や作家との関係について，ジャンルや時代を超えた考察を行う。具体的には,『枕草子』や『源氏物語』との関係，更には近代の正岡子規や三島由紀夫との関係について論及する。

〔教材〕

教科書：『古今和歌集』岩波書店(岩波文庫)

参考資料等については，適宜授業で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『古今和歌集』の読解を中心に 2 時間程度の予習が望ましい。

〔成績評価の方法〕

授業への取り組み方やレポートの内容を総合的に判断して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日午後 1 時半～ 2 時半

moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　受講者数の確認と授業計画の説明
第 2 週　『万葉集』と漢詩集
第 3 週　仮名の発明と『古今和歌集』の成立
第 4 週　『古今和歌集』の部立の意味について
第 5 週　『古今和歌集』四季の部概観(春)
第 6 週　『古今和歌集』四季の部概観(夏)
第 7 週　『古今和歌集』四季の部概観(秋)
第 8 週　『古今和歌集』四季の部概観(冬)
第 9 週　『古今和歌集』恋の部概観
第10週　『古今和歌集』と『枕草子』
第11週　『古今和歌集』と『源氏物語』
第12週　『古今和歌集』の受容史と正岡子規
第13週　三島由紀夫と『古今和歌集』（1）
第14週　三島由紀夫と『古今和歌集』（2）
第15週　現代における『古今和歌集』の再評価

日本文学史II

3612012200100

副　題	仮名散文の歴史							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIT-112-JA

〔授業の到達目標〕

平安時代初期，仮名文字の誕生とともに始動する日本文学の世界について，日記・物語・随筆・旅行記といった様々なジャンルの文章に具体的に触れることによって，知見を深めてもらう。

〔授業の内容〕

『平安文学十五講』という教科書の中から幾つかの散文作品を取り上げて，平安時代を中心に，仮名文学の歴史的展開を跡づけてみる。その際，和文の表現の豊かな可能性に気づいてもらうために，成立事情・動機・主題の異なる文章を，対比的に読み進めることにする。

〔教材〕

教科書：井上眞弓他編『平安文学十五講』翰林書房，2012年

参考資料等については，適宜授業で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

作品の講読の準備に，２時間程度の予習が望ましい。

〔成績評価の方法〕

授業への取り組み方やレポートの内容を総合的に判断して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日午後１時半～２時半。

moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　受講者数の確認と授業計画の説明
第２週　漢文の受容から仮名の発明へ
第３週　『入唐求法巡礼行記』－漢字文化圏の旅
第４週　『入唐求法巡礼行記』－唐帝国崩壊の予兆
第５週　『うつほ物語』の異境造形
第６週　『うつほ物語』の方法－予言される未来
第７週　音楽を主題とする物語
第８週　『竹取物語』－「かぐや姫」というプロット
第９週　『竹取物語』から『源氏物語』へ
第10週　『池亭記』－都市に住むということ
第11週　『枕草子』と『和漢朗詠集』
第12週　平安文学に描かれた都と鄙
第13週　『源氏物語』と『更級日記』
第14週　唐土を描く物語－『浜松中納言物語』
第15週　「古典」の誕生－『六百番歌合』と『無名草子』

民俗学I

3612014100100

副　題	衣食住の民俗							担　当　者	山崎　祐子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-113-JA

〔授業の到達目標〕

衣食住の民俗を通して，日常生活の変遷を学び，日本民俗学の基本的な考え方や学術語彙を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

私たちの生活は，ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが，この授業では，ケの部分を取り上げる。衣食住という当たり前の日常生活を民俗学の視点でテーマを設定し，解説をする。民俗調査報告書，市町村史などの資料の扱い方，読み方を学ぶ。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（40パーセント）と到達度の確認テスト（60パーセント）で総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，質問に応じる。日本文化学科を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　山村の暮らし
第３週　身体尺と尺貫法
第４週　民家の見方
第５週　イロリとカマド
第６週　主食
第７週　焼畑と雑穀
第８週　米を減らさない食事
第９週　発酵食品（スシの民俗）
第10週　木綿以前の衣料
第11週　仕事着
第12週　履物と被り物
第13週　涼しく暮らす知恵
第14週　まとめ
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

民俗学II

3612014200100

副　題	女性と子どもの民俗							担　当　者	山崎　祐子　講師		
単位	2	配当年次	1〜	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-114-JA

〔授業の到達目標〕

日本人の生死観の概念図を用いて，通過儀礼の意義を説明できるようにする。女性と子どもに関わる民俗を通して，民俗学の考え方を身につける。

〔授業の内容〕

私たちの生活は，ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが，この授業では，ハレの部分の通過儀礼を取り上げる。とくに，出産，子育て，結婚などの儀礼を中心にとりあげる。また，女性の視点から，生活改善の諸活動などについて解説する。民俗調査報告書，市町村史のほか，日本の昔話や伝説，手記などを資料として用い，書かれたものから何が読み取れるかを解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（60パーセント），リアクションペーパーなどの平常点（40パーセント）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の終了時に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通して連絡を受ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　通過儀礼概論・出産１
第３週　出産２
第４週　出産３
第５週　子どもから大人へ１ー子どもの年中行事
第６週　子どもから大人へ２ー教育としての口承文芸
第７週　成人の儀礼
第８週　結婚の儀礼
第９週　５月５日と女の家の民俗
第10週　手記を読む
第11週　生活改善の諸活動
第12週　柳田國男「遠野物語」をめぐって
第13週　「間引き図」を読み解く
第14週　まとめ
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本政治経済史

3612015400100

副　題	江戸の都市・村を舞台に							担　当　者	工藤　航平　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-115-JA

〔授業の到達目標〕

江戸時代の政治・経済を理解する。

〔授業の内容〕

江戸時代の政治と経済のしくみを検討する。政策の決定過程と伝達，治安維持，「平和な世」における幕府権威の発現の場や方法，流通，商人など，生活とかかわる側面をとりあげる。単なる制度や概説ではなく，その実態を描くことに留意したい。

〔教材〕

講義中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布するプリント類，参考文献・論文の内容確認。

〔成績評価の方法〕

講義中に実施する小テストおよび出席・授業態度（40%），期末試験（60%)。なお，出席は３分の２以上があくまでも条件であり，出席点はとらない。期末試験は記述式で，ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（江戸時代の概説）
第２週　政治１　文字文化と文書行政
第３週　政治２　幕府官僚制
第４週　政治３　法制度と訴訟・裁判
第５週　政治４　権威（１）
第６週　政治５　権威（２）
第７週　政治６　村の生活と制度（１）
第８週　政治７　村の生活と制度（２）
第９週　経済１　全国流通網の整備
第10週　経済２　株仲間と商業統制
第11週　経済３　消費都市と産地
第12週　経済４　産業の発展とブランド化
第13週　経済５　江戸の酒の流通
第14週　経済６　商家奉公人の世界
第15週　まとめ
進捗によって，計画を変更することがある。

日本社会制度史

3612016400100

副　題	法と家族と社会							担　当　者	菅原　正子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-116-JA

〔授業の到達目標〕

主に古代～近世初期の日本の法，社会制度，慣習について知り，日本独自の法や社会，家族のあり方などについて理解する。

〔授業の内容〕

日本が西洋文化の影響を強く受けた近現代より以前の法・家族・社会などについて，古代～近世初期を中心に近代初期まで言及しつつみていく。特に，日本独自の法のあり方と，家族とそれに関わる制度・慣習について，具体的な事例や史料を取り上げながら考察する。

〔教材〕

参考書：菅原正子『日本人の生活文化〈くらし・儀式・行事〉』第2刷版，吉川弘文館，2012年

教科書は使用しない。授業では毎回プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本史の時代区分，政府・政権とその所在地，支配者など，基本的な日本史の知識について確認しておくこと。毎回の授業の後には，自筆ノートと配付プリントを読み直してよく復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験の成績で評価する。毎回提出するリアクションペーパーは，成績評価とは無関係である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要
第２週　日本の法と制度の歴史
第３週　中国と日本の律令
第４週　天皇・皇后・女官
第５週　鎌倉幕府の法典『御成敗式目』
第６週　有職故実と武家故実
第７週　「家」意識の成立
第８週　夫婦の氏姓
第９週　家族の財産所有
第10週　家の年中行事
第11週　人生儀礼―誕生から結婚まで
第12週　葬礼とお墓
第13週　男子・女子の教育
第14週　家訓・教訓書
第15週　まとめ

☆伝統文化論I（花）

3612051100100

副　題	桜をめぐる現代日本と伝統文化							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-117-JA

〔授業の到達目標〕
日本語で「花」と言えば「桜」を指すほど，桜花は日本文化において重要な植物である。なぜこの植物に格別な＜意味＞を日本人は見い出してきたのかについて理解を深める。

〔授業の内容〕
「桜」は古来日本において特別な意味を担って浸透してきた花であるが，とりわけ江戸時代ほど「桜」が愛され，園芸・芸術・文学の分野のみならず，殖産興業や政治の手立てまでに活用された時代はなかった。しかし現代にまで続く「桜＝日本の花（国花）」というイメージは，実は江戸時代に誤って広まった言説に基づくものである。だがそうした誤った認識こそが，江戸時代以来の「桜」に関わる日本文化を，驚くほど豊かにしてきたとも言える。本授業では，現代日本における「桜」の文化的意味を，江戸時代における現象と対比しつつ，なぜに現代の日本においても，この花が文化的に不可欠の要素で有り続けているのかについて考える。

〔教材〕
今橋理子『江戸絵画と文学』（東京大学出版会，第４版，2006年）
今橋理子「環境保護から創造する伝統芸術（１）～（３）」（東京大学出版会広報誌『UP』2006年６月～８月号（連載））
山田孝雄『桜史』（講談社学術文庫，1990年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
平常の出席状況と学期末のレポート（予定）によって評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕
授業時間外に，美術館への見学会などを予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論：桜をめぐる日本文化研究の現状（１）
第２週　概論：桜をめぐる日本文化研究の現状（２）
第３週　桜と日本人（１）　古代の思想
第４週　桜と日本人（２）　和歌の詩学
第５週　桜と日本人（３）　皇国思想と象徴
第６週　桜と日本人（４）　戦時下の桜
第７週　桜と江戸文化（１）　園芸の広まりと博物学
第８週　桜と江戸文化（２）「桜画」の成立
第９週　桜と江戸文化（３）　琳派と桜
第10週　桜と江戸文化（４）　桜と祭礼
第11週　現代における桜（１）　浮世絵の場合
第12週　現代における桜（２）　桜木と工芸
第13週　現代における桜（３）　桜と環境保護
第14週　現代における桜（４）　桜をめぐる報道と流行現象
第15週　まとめ――東日本大地震後の日本と桜

伝統文化論II（茶）

3612051200100

副　題	茶の湯文化							担　当　者	谷村　玲子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-118-JA

〔授業の到達目標〕

初回から第五週までの講義を通じて，広く学際的そして比較文化の視点から，日本における茶の湯文化とは何かを理解する。それ以降の講義では，喫茶がどのように茶の湯という文化になっていくかを，歴史から学ぶ。最終的な目標としては，茶の湯という日本の伝統文化を，いかに世界の人々に伝えていくかを学生に考えさせたい。

〔授業の内容〕

茶の湯が日常的な喫茶とは大きく異なることを，学生一人一人に理解させたい。植物学におけるチャ，その伝播，日本の茶の湯文化と西洋紅茶文化の違い,茶会の象徴性を通じて。学生は茶の湯が日本独特な芸能文化であることを理解していく。特に本講義では，茶の湯を一；作法・点前という身体技法，二；数々の茶道具，三；茶室・茶庭の三つの要素から説明していく。建築・陶器・文学　等の様々な参考資料そして画像を用いながら，茶の湯を通して，人と物との関係，日本人の美意識，自然観を学生に考えさせたい。

さらに学期後半には，茶の湯史を従来の日本文化史の領域にとどまらず，文化人類学・教育学，社会学といった学際的視点から学生一人一人の興味を刺激し，新しい茶の湯研究の可能性を指摘したい。

〔教材〕

参考書：村井康彦『千　利休』（NHK　ブックス２８１）日本放送出版協会，1983年
熊倉功夫『茶の湯の歴史』（朝日選書　４０４）朝日出版社，1990年
Varley & Kumakura, *Tea in Japan*, University of Hawaii Press, 1989

毎回の講義ごとにその日の講義内容と史資料を各自に配布する。日本文化の講義ではあるが，広く比較文化や思想史関係，さらに英文参考書も講義の中で紹介の予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

翌週の内容を予告するので，特に歴史に関することは時代背景を確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験：配布資料と自筆ノートのみ持ち込み可

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

非常勤講師室または日本文化学科の研究室を通じて。

〔授　業　計　画〕

第１週　茶の湯研究とは何かを説明する。シラバスの確認を行った後に，正式な茶会のビデオをみて，茶の湯文化に関するアンケート調査を行う。
第２週　茶とは：植物としてのチャ。そして西洋の茶文化
第３週　茶道具：茶道具，日本と中国の工芸品の違い。道具から見た日本人の美意識の変化
持参の茶杓に各自学生は「銘」を付けて，授業終了時に提出。
第４週　茶の湯に見られる自然：茶庭の自然・身体技法，茶道具，そして茶庭における自然。
第５週　茶事：四時間にわたる正式の茶会。それぞれの場面での特殊な身体動作，そして水・灰・音（消音）・火の象徴する意味を考える。
第６週　茶の湯の歴史：茶に関する中国と日本の最古の文献を読む。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯
第７週　室町時代の茶の湯：会所の茶の湯とやつしの美意識の出現
第８週　戦国時代：南蛮文化と自由都市堺。最後に現代に伝わる南蛮文化の影響を考える。
第９週　下克上と茶の湯：信長・明智光秀・秀吉の茶会記録を分析する。
第10週　利休の茶会：天文十三年（一五四四）～天正一八年（一五九０）の会。約五十年にわたる利休の茶の湯の変容を茶会から探る。
第11週　利休の茶室：空間から見た利休の茶。秀吉の黄金の茶室，安土城，そして利休作と伝わる山崎の待庵を用いて，利休の茶とは何か，人々はなぜ利休の茶に惹かれたのかを考える。
第12週　利休の最後と利休後の茶の湯：利休の死のなぞ。利休の死後に茶の湯をリードした戦国大名の茶の湯。
第13週　江戸時代の茶の湯と家元制度：三千家の成り立ちの歴史。そして社会学的視点からみた家元制度。
第14週　武家の茶の湯：石州流茶の湯と武家茶人
第15週　女性と茶の湯：江戸時代から現代へ
出来るだけシラバスに沿って講義を進める所存である。しかし講義は“生き物”であり，受講学生の人数，興味や知識によって，時に内容に変化を持たせる可能性もある。

伝統文化論Ⅳ（書）

3612051400100

副　題								担　当　者	齊藤　登　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	TRD-120-JA

〔授業の到達目標〕

文字を通しての，和・漢文化・時代を理解する。

〔授業の内容〕

文字の歴史は，大陸日本を問わず正史であることは言うまでもありません。従って本講座では，文字より見た和・漢の歴史を中心に進めていきます。また，現在使用（含む作品）しうる文字は甲骨，金文，古文，篆書，隷書，草書，行書，楷書，草仮名，平仮名，片仮名などがあり，その使用目的，時代背景，エピソードなどを混え乍ら解説していきます。

〔教材〕

教科書：『書学書道史学会「書道史年表事典」』萱原書房

参考書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』光村図書出版（株），2013年

漢字，殷より近代約3500年，仮名約1200年以上の時代と共にスタイルを変え乍ら現代辿りついたかを知る上で必要。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

出来れば空いている時間に事典に目を通す程の興味がもてれば言うことなし。

〔成績評価の方法〕

レポート又は試験，人数による。出席重視。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

TELのみ　049-252-1714

〔備考〕

試験にするか，レポートにするかは人数による。

〔授　業　計　画〕

第１週　上記各体（10体）の説明。
第２週　「甲骨」殷代で使用された意義（政＝祭）を考える。
第３週　「金文」殷代の神器より黄金期の周代（西周）を解説。
第４週　「篆書の成立」春秋・戦国時代より秦の統一までを見る。
第５週　「隷書」漢帝国の文字と文化。
第６週　「隷書」より「草書」への経緯を解説。
第７週　草書の名品と日本へ渡来し草仮名への変革を解説。
第８週　「王羲之」を中心に行書の名品解説。我国への流入を見る。
第９週　「楷書」二大黄金期中，唐代の名品と北魏の雄渾な書を解説。
第10週　「漢倭奴国王印」の発見，漢字流入期を考える。
第11週　日本各地に残る文字の資料を解説する。
第12週　聖徳太子・法華義疏よりその他の金石文を考察。
第13週　奈良朝より平安初期までの書文化解説。
第14週　三筆と三跡の別，唐様より和風へ。仮名美の完成。
第15週　和・漢文字文化の相異点。

永い年月の為，１回の授業で２～300年移動することもあるので出来る限り出席することを望みます。

伝統文化論V（舞踊）

3612051500100

副　題	日本の伝統芸能を知る・学ぶ	担　当　者	森田　ゆい　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-121-JA

〔授業の到達目標〕

日本の伝統芸能の概要について人に説明出来る程度に理解する。

〔授業の内容〕

日本の伝統芸能には様々なジャンルがありますが，それぞれが固有の表現様式を持っています。

本授業では能楽（能と狂言），文楽，歌舞伎，日本舞踊，地唄舞，組踊，琉球舞踊，民俗芸能等の映像を比較しながらそれぞれの表現様式の特徴を学びます。

また，スポーツ科学の手法を用いた舞手の身体の分析結果について紹介します。

〔教材〕

授業中に紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に紹介する関連書籍を読むとより理解が深まります。

〔成績評価の方法〕

授業で学んだことを手がかりに興味を持った内容について題材を決め，レポートを作成する（30点）。

舞台鑑賞後にレポート作成（10点）。伝承について考えるレポート作成（10点）。リアクションペーパー（10点）。授業への参加態度（40点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　morita●musubinokai.org（change ● to @）

〔備考〕

授業期間内に１回以上舞台公演を鑑賞して頂きます。

お勧めの舞台については授業中に紹介します。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　道成寺のお話
第２週　「道成寺」能楽・文楽・歌舞伎舞踊①
第３週　「道成寺」組踊・歌舞伎舞踊②
第４週　「曽根崎心中」文楽と歌舞伎
第５週　舞と踊　日本舞踊と地歌舞
第６週　能　代表的な作品
第７週　狂言　代表的な作品
第８週　歌舞伎　代表的な作品
第９週　文楽　代表的な作品
第10週　伝承について考える
第11週　「道成寺」壬生狂言・黒川能，民俗芸能の世界
第12週　様々な身体表現
第13週　「三番叟」能楽・文楽・歌舞伎舞踊・民俗芸能
第14週　舞楽，琉球舞踊，韓国舞踊
第15週　総括

伝統文化論VI（演劇）

3612051600100

副　題	『風姿花伝』を読む									担　当　者	岩崎　雅彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-122-JA

〔授業の到達目標〕

古典芸能に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

世阿弥の能楽論を読む。能は室町時代に生まれた舞台芸能であり，完成された劇形態の芸能としては日本最古のものである。能を大成したのが観阿弥とその子の世阿弥である。特に世阿弥は能の芸術性を高めた最大の功労者であった。世阿弥は能役者・能作者であると同時に理論家でもあり，多くの能楽論を書き残している。その中から代表的なものである『風姿花伝』を取り上げ，講読する。

〔教材〕

教科書：野上豊一郎・西尾実『風姿花伝』（岩波文庫）岩波書店
参考書：表章『世阿弥・禅竹』（日本思想大系）岩波書店
田中裕『世阿弥芸術論集』（新潮日本古典集成）新潮社
竹本幹夫『風姿花伝・三道』（角川ソフィア文庫）角川学芸出版

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにあらかじめ目を通し，正しく音読できるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末にレポート提出

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　能についての概説①（能と狂言）
第２週　能についての概説②（能の作品）
第３週　観阿弥の生涯について
第４週　世阿弥の生涯について①（前半生）
第５週　世阿弥の生涯について②（後半生）
第６週　『風姿花伝』「年来稽古条々」七歳
第７週　『風姿花伝』「年来稽古条々」二十四，五
第８週　『風姿花伝』「年来稽古条々」四十四，五
第９週　『風姿花伝』「物学条々」序
第10週　『風姿花伝』「物学条々」老人
第11週　『風姿花伝』「物学条々」物狂
第12週　『風姿花伝』「物学条々」鬼
第13週　『風姿花伝』「問答条々」誠の花，時分の花
第14週　『風姿花伝』「奥義」初心を忘れず
第15週　『風姿花伝』「別紙口伝」秘すれば花
希望者を対象に，能楽堂での能・狂言の鑑賞も予定している。

伝統文化論VII（邦楽）

3612051700100

副　題	雅楽と平安時代の宮廷文化							担　当　者	遠藤　徹　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	TRD-123-JA

〔授業の到達目標〕

日本の雅楽の概要と特質，および日本文化における位置を理解する。

〔授業の内容〕

日本の伝統音楽は多彩な種目がありますが,そのなかで最古層を形成しているのが雅楽です。雅楽は，５世紀から９世紀にかけて大陸から渡来した楽舞や日本列島に古来伝わる歌舞を源流として，平安時代の宮廷社会で大成しました。平安時代以降も，日本の伝統音楽の形成にさまざまな影響を与えつつ，また日本の歴史と密接に関わりながら今日まで伝承されています。本授業では雅楽を様々な角度から読み解き，雅楽を生み出した平安時代の宮廷文化の特質，雅楽とそれ以後に発達した日本の伝統音楽の関係などを考えていきます。

〔教材〕

参考書：遠藤徹他『別冊太陽　雅楽』平凡社，2004年
遠藤徹『雅楽を知る事典』東京堂出版，2013年
柘植元一、遠藤徹他『シルクロードの響き』山川出版社，2002年
芝祐靖、遠藤徹他『雅楽入門事典』柏書房，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

理解が不十分な点は参考文献等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

試験

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail endo●u-gakugei.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　総論
第２週　雅楽の源流と東アジアの古代文化（１）
第３週　雅楽の源流と東アジアの古代文化（２）
第４週　楽舞の伝来と左舞・右舞
第５週　御遊の成立と詩歌管絃
第６週　平安時代の宮廷儀礼と雅楽
第７週　古典文学に描かれた雅楽（１）枕草子など
第８週　古典文学に描かれた雅楽（２）平家物語など
第９週　宮廷歌謡の展開，催馬楽・朗詠・風俗歌・今様など
第10週　神事の歌舞，御神楽・東遊など
第11週　仏教儀礼と雅楽
第12週　楽家と楽書
第13週　中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（１）
第14週　中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（２）
第15週　総括

伝統文化論VIII（染織）

3612051800100

副　題	日本の伝統染織							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-124-JA

〔授業の到達目標〕

日本の伝統的な染と織の文化についての基礎的な知識を修得する。現代に継承される伝統的な染織技法や作品に触れ，日本の伝統文化についての理解を深める。

〔授業の内容〕

現代まで継承される「きもの」とともに，日本の伝統的な染と織の文化は今日まで受け継がれてきた。近年では，国が主導するクール・ジャパン戦略において，日本の伝統工芸に着目した文化輸出が図られるなど，国際社会へ日本をアピールするための重要なツールとして，日本の染織を含む伝統工芸が注目されている。一方で，生活スタイルの変化により，日本各地に発展してきた多様で独創的な染織文化のうち，存続が危ぶまれるような深刻な状況に直面している地域も少なくない。

本講義では，世界に誇ることのできる日本の伝統的な染織文化について，代表的な産地に着目して学んでいく。講義の中では，現在に継承される伝統的な染織技法や実際の染織品などに触れる機会も設け，現代まで生き続ける伝統文化をより深く理解することを目指したい。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦・道明三保子『すぐわかる 産地別 染め・織りの見わけ方』東京美術，2012年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（80%），授業への参加態度（20%）により総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の伝統染織
第３週　日本の染と織（１）　江戸小紋
第４週　日本の染と織（２）　南部絞
第５週　日本の染と織（３）　小千谷縮・越後上布
第６週　日本の染と織（４）　結城紬
第７週　日本の染と織（５）　有松・鳴海絞
第８週　日本の染と織（６）　京友禅
第９週　日本の染と織（７）　京鹿の子
第10週　日本の染と織（８）　西陣織
第11週　日本の染と織（９）　博多織
第12週　日本の染と織（10）　久留米絣
第13週　日本の染と織（11）　紅型
第14週　日本の染と織（12）　芭蕉布
第15週　まとめ　―染と織にみる日本の美意識―

授業計画は変更することがある。

日本生活文化史I（衣文化）

3612061100100

副　題	日本の服飾史							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-125-JA

〔授業の到達目標〕

日本の服飾の歴史に関する基礎的な知識を学び，日本の服飾文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

日本における服飾の歴史を考える時，一般的には現代まで継承される「きもの」や，女房装束である「十二単」などが注目される傾向が強い。高校までの歴史教科書では，服飾の歴史に関する記述は極めて限られており，私たちにとって最も身近な服飾文化に関して，その歴史に触れる機会は十分ではないと言えるだろう。

そこで本講義では，日本の古代から現代に至る服飾の歴史を通観することで，我が国の服飾文化の展開をより深く理解してもらいたい。日本の服飾文化は，古代より中国などの諸外国から強い影響を受けつつ，摂取した外来の文化を咀嚼し，多様な独自の展開を遂げてきた。諸外国との影響関係も視野に入れながら，現代社会にも受け継がれる日本の服飾の歴史について考えたい。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（80%），授業への参加態度（20%）により総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　服飾の起源
第３週　飛鳥時代の服飾
第４週　奈良時代の服飾
第５週　平安時代の服飾（１）
第６週　平安時代の服飾（２）
第７週　鎌倉時代の服飾
第８週　室町時代の服飾（１）
第９週　室町時代の服飾（２）
第10週　戦国時代の服飾
第11週　安土桃山時代の服飾
第12週　江戸時代の服飾（１）
第13週　江戸時代の服飾（２）
第14週　近代から現代へ
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本生活文化史II（衣文化）

3612061200100

副　題	江戸の「きもの」と衣文化							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-126-JA

〔授業の到達目標〕

江戸時代の「きもの」を中心とした多様な衣文化の展開について学び，現代まで引き継がれる日本の民族衣装としての「きもの」と伝統的な衣文化が持つ独自性の源について理解を深める。

〔授業の内容〕

現在，私たちが「きもの」と呼ぶ衣服は，江戸時代以前は「小袖」と呼ばれた。小袖とは，平安時代から続く袖口の大きく開いた大袖形式の衣服に対して，袖口が小さく詰まった衣服を指している。古来，小袖は貴族階級の下着として，また庶民には動きやすい表着として着用されたが，中世から近世への移行期には小袖が身分の上下を問わず中心的衣服となり，江戸時代には小袖を中心とした衣文化が発展した。

本講義では，現代の日本社会にも引き継がれている日本の民族衣装としての「きもの」に視座を据え，その源としての江戸時代の多様な衣文化について学ぶ。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦『江戸のきものと衣生活』小学館，2007年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（80%），授業への参加態度（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　江戸のきもの　―小袖―
第３週　流行の変遷（１）　辻が花
第４週　流行の変遷（２）　慶長小袖
第５週　流行の変遷（３）　寛文小袖
第６週　流行の変遷（４）　小紋染
第７週　流行の変遷（５）　友禅染
第８週　流行の変遷（６）　御所解と茶屋辻
第９週　流行の変遷（７）　裾模様
第10週　衣服の諸相（１）　能装束の世界
第11週　衣服の諸相（２）　歌舞伎の衣装
第12週　生産と流通（１）　雛形本と紺屋
第13週　生産と流通（２）　呉服屋と古着屋
第14週　生産と流通（３）　更衣
第15週　まとめ

授業計画は変更することがある。

日本生活文化史III（食文化）

3612061300100

副　題	日本の食生活の変遷							担　当　者	宇都宮　由佳　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	LIF-127-JA

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を歴史的変遷から理解する．日本の食の成り立ち，すなわち過去の食スタイルが現在に至るまでの過程を学ぶことで，現時点から将来の食を考える力を身につける．

〔授業の内容〕

日本の食生活を中心として，各時代の自然環境，政治，経済，宗教，文化など社会情勢を背景に，どのようなモノをどのように調理して食してきたのか，その時代の特徴と食の変遷を解説する．

また，日本の食文化は，様々な国・地域の文化の影響を受けながら形成してきた．そこで，外来の食文化の受容，従来の食スタイルの変容，発展あるいは衰退について事例をあげながら，日本の食文化の成り立ちを紐解いていく．

〔教材〕

毎回，教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める．参考書は適宜紹介する．

学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は，授業内容にあわせて適宜指示する．Ａ４サイズで１ページ以上の課題である．

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%），理解度の確認（50%），授業への取り組み（30%）で評価をする．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールにて連絡を受ける

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方の説明，食文化の成り立ち
第２週　旧石器時代・縄文・弥生時代―厳しい自然環境下での食物，稲の伝播
第３週　古墳時代から飛鳥時代―米と律令国家（政治）
第４週　奈良時代から平安時代―貴族食の発達，大饗料理，中国文化の影響
第５週　鎌倉時代―武士の食事，携帯・保存食，市の発達
第６週　精進料理―禅風食の普及，仏教の一般大衆化
第７週　室町時代から戦国時代―本膳料理，庖丁流派の成立
第８週　懐石料理と会席料理
第９週　安土・桃山時代―南蛮文化の流入，南蛮菓子，卵料理の登場
第10週　江戸時代―発達した庶民の料理
第11週　卓袱料理と普茶料理
第12週　行事食と郷土食
第13週　明治・大正・昭和（戦前）－西洋化と肉食，和洋折衷
第14週　昭和から現代―家電製品の普及，技術の発展
第15週　将来の食を考える―国際化と伝統食
授業は，教員が用意したプリント，パワーポイント，DVDなど活用して実施する．

日本生活文化史Ⅳ（食文化）

3612061400100

副　題	食物の起源と伝播，思想とマナー									担　当　者	宇都宮　由佳　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	LIF-128-JA

〔授業の到達目標〕

食物の起源と伝播，人々の食べ物に込めた思い，食に関するマナーやタブー（食物禁忌）を理解する．日本の伝統的な食文化について，調味料，だし，嗜好品（酒），江戸時代の食（すし，そば，てんぷら），行事食などの知識を身につける．食を通して，自らのアイデンティティを確立するとともに他の食文化に対する理解を深める．

〔授業の内容〕

近年，諸外国の食に触れることが多くなったが，食文化の成り立ちや背景を学ぶことは，非常に大切である．私たちが普段食べている物について，その起源や発祥，伝播などを比較文化の視点をもちながら学んでいく．あわせて人々が食べ物に込めた思い，またマナーやタブー（食物禁忌）を理解し，なぜそのようなことが必要なのか考える．

日本の伝統的な食文化について，調味料の種類，だし，嗜好品，江戸時代に発展した食（蕎麦やてんぷら），行事食などについて，トピックスに分けて解説する．

〔教材〕

毎回，教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める．参考書は適宜紹介する．

学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は，授業内容にあわせて適宜指示する．Ａ４サイズで１ページ以上の課題である．

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%），理解度の確認（50%），授業への取り組み（30%）で総合的に評価をする．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールにて連絡をとる

〔備考〕

食文化はもちろん，その背景となる社会情勢に関心をもってほしい．

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のすすめ方　主食とは何か？世界の主食を考える
第２週　ムギの食文化―ムギの栽培と伝播，ヨーロッパとアジアのムギの食べ方
第３週　コメの食文化―コメの栽培と伝播，炊飯の仕方，ウルチとモチ米の食べ方
第４週　麺の食文化―麺の誕生と製法，中国・朝鮮半島・日本の麺の種類と食文化，東南アジアのコメ麺，イタリアの麺状パスタ
第５週　食事作法―箸，スプーン，フォークの誕生，テーブルクロスの必要性，食事マナー
第６週　食物禁忌と宗教１―ユダヤ教，キリスト教，イスラム教のタブーとその理由
第７週　食物禁忌と宗教２―上座部仏教，大乗仏教のタブーとその理由
第８週　タンパク質を補った大豆食品
第９週　ダシの文化―かつおぶしとコンブ
第10週　日本酒の歴史と文化
第11週　すしの歴史と文化
第12週　そば，天ぷらの歴史と文化
第13週　うなぎの蒲焼の歴史と文化
第14週　日本の菓子の歴史的変遷
第15週　まとめ
授業は，教員が用意したプリント，パワーポイント，DVDなど活用して実施する

日本生活文化史V（住文化）

3612061500100

副　題	構成要素からみた住宅デザイン							担　当　者	乾　尚彦　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-129-JA

〔授業の到達目標〕

日本の住まいのデザインの特徴と変遷を把握する。

〔授業の内容〕

日本の住まいには，長い伝統を持つデザインが継承されている。その具体的なかたち，変遷をみながら，それを成立させてきた要因を考察することで，日本の住まいの伝統について理解を深めることを目的としている。また，建築の各部構法に関する基礎的用語についても解説していくので，建築入門の講義としても位置付けることができる。

〔教材〕

参考書：安藤・乾・山下『住まいの伝統技術』建築資料研究社，1995年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４限（事前にメールで申し込むこと）

ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　開口部１
第２週　開口部２
第３週　屋根１
第４週　屋根２
第５週　屋根３
第６週　継手仕口
第７週　架構１
第８週　架構２
第９週　壁・床
第10週　階段
第11週　空間構成１
第12週　空間構成２
第13週　モジュール　京間と田舎間
第14週　総括１
第15週　総括２

日本生活文化史VI（住文化）

3612061600100

副　題										担　当　者	栢木　まどか　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-130-JA

〔授業の到達目標〕

日本の住文化とはどのようなものであるという特質，またそれを成り立たせてきた背景や，都市環境に関する理解を得ることができる。

〔授業の内容〕

日本の文化を理解する一助として，現代に至るまでの日本の住文化の変遷を，歴史的背景，都市形成，環境の変化を踏まえて解説し，それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指す。

日本の伝統建築が持つ空間，意匠，構造の特質とそれらの歴史的展開の経緯について学ぶことで，住まいや建築，都市に対する柔らかい視点を身につけて欲しい。また，本講義では特に東京の都市と建築の近代以降の変化について，具体的地名を挙げながら詳しく取り上げる。

〔教材〕

教科書は使用しません。授業では適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自らの住まい，また自分の知る建築や都市について興味を持ち，授業進行に合わせた観察を行ってください。事前に課題を課す場合がありますので，それは授業時に提出してください。

〔成績評価の方法〕

事前課題及び授業時間内の３回程度のミニレポート40%，期末のレポート60%で評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

連絡はメールにて受け付けます。必ず授業名，学籍番号，氏名を明記のこと。アドレス：kayanoki●rs.kagu.tus.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　概説・住まいの構成要素／ガイダンス・自己紹介／先史時代の住宅
第２週　古代～中世の都市と住まい／都市，絵巻物に描かれる住宅，社寺，寝殿造
第３週　身分社会と住宅／城下町の構造，武家住宅，茶室
第４週　近世の都市と住居　江戸・地方都市
第５週　近代の都市計画と建築１　西洋化と居留地
第６週　近代の都市計画と建築２　都市計画の誕生
第７週　戦前の住宅１　郊外住宅地の発展
第８週　戦前の住宅２　関東大震災からの復興
第９週　東京のまちと住まい１　下町
第10週　東京のまちと住まい２　山の手・郊外
第11週　東京のまちと住まい３　繁華街
第12週　集合住宅の変遷１　同潤会アパート
第13週　集合住宅の変遷２　「団地」の展開とnLDK
第14週　戦後～現代の住宅の系譜
第15週　総括　住まい方の変化・現代の住環境
授業の進捗により内容は調整します。

日本文化論

3613001000100

副　題	日本の神話を知る									担　当　者	平藤　喜久子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	JPN-131-JA

〔授業の到達目標〕

『古事記』を読み解き，日本の神話を知る

〔授業の内容〕

神話というと，今となっては意味のわからない，古い物語というイメージがあるかもしれない。しかし，日本の神話には，日本の文化の成り立ちを知る手がかりとなるような，日本人の心性をうかがえるような話が多く含まれている。この授業では，８世紀に編纂された古事記を読みながら，日本の神話に関する知識を得ていく。

〔教材〕

教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院，1996年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回取り上げる予定の箇所を読み，内容を理解しておく。60分程度。

〔成績評価の方法〕

授業時試験。机上レポートとする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業終了時に受ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　古事記が生まれた時代：古事記はどのようにして記されたか
第３週　天地のはじまり。伊耶那岐神，伊耶那美神の物語
第４週　黄泉の国訪問と三貴子誕生
第５週　須佐之男命の乱暴と天の岩屋神話
第６週　八岐大蛇退治の神話
第７週　大国主神の物語（１）
第８週　大国主神の物語（２）
第９週　国譲り神話（１）
第10週　国譲り神話（２）
第11週　天孫降臨
第12週　海幸山幸の誕生
第13週　海の神の娘との結婚
第14週　人代へ
第15週　試験
授業計画は，履修者に示した上で変更されることがある。

近代文化論I

3613001100100

副　題	近代文化のなかの経済思想――〈働くこと〉と〈つくること〉をめぐる思想と文化									担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-132-JA

〔授業の到達目標〕

近代文化は労働，制作，創造，芸術の関係をどのように捉えたかを，西洋と日本の事例について考える。

〔授業の内容〕

19世紀から20世紀の初頭にかけて，西洋においても日本においても物質文明の発展の裏で格差が拡大し，社会的矛盾が広がっていた。そうしたなかで芸術の制作と再定義に携わりつつ社会の変革についても思索したウィリアム・モリスという人物がいる。モリスは工芸家・デザイナーとして現在でも世界中で愛されるデザインの生みの親であっただけではなく，詩人であり社会改革家でもあった。この授業ではマルクス，ラスキン，ラファエル前派，そしてガンジーなど，モリスに連なる芸術と思想の系譜を紹介することとしたい。またモリスの仕事は日本においても早くから紹介され,柳宗悦や宮沢賢治にもインスピレーションを与えることになった。彼らによって考えられた働くこと，ものづくり，社会の変革と革命，エコロジー，そして生活と芸術の関係と役割といった様々なテーマは，今なお重要な問題提起でありつづけるだろう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業内容を配布資料などを通じて復習することと，関連する文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度と期末の試験によって評価する。全授業回数の３分の２以上出席していることが，期末試験を受験する条件となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日３時間目
授業時に直接，もしくは学科事務室をつうじて連絡をすること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　近代的「労働」以前の世界
第３週　近代的な労働観と「経済人」の登場――ロビンソン・クルーソーの経営生活
第４週　経済学(ポリティカル・エコノミー)の誕生――アダム・スミス『諸国民の富』
第５週　理想の工場と理想の労働――ロバート・オウエンとニュー・ラナーク
第６週　「疎外」される働く人間――マルクスとエンゲルスの出発点
第７週　ソローの森の生活――何のための労働か，生きるに価する生を生きるとは
第８週　ジョン・ラスキンと「穏やかな経済学」
第９週　ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
第10週　理想の労働協同体――空想的社会主義から近代都市計画へ
第11週　日本資本主義の精神――塩原多助・渋沢栄一・福沢諭吉
第12週　日本の産業革命と初期社会主義
第13週　「民芸」と美しき村――柳宗悦と『白樺』
第14週　田園都市構想と農村の労働/芸術――宮沢賢治
第15週　まとめ

近代文化論II

3613001200100

副　題	「社会」とは何か――歴史から考える							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-133-JA

〔授業の到達目標〕

「社会」をめぐる近代思想の基礎的な枠組みを学び，日本語と翻訳の問題および「社会」という言葉をめぐって展開された近代日本の歴史と思想について理解する。

〔授業の内容〕

「社会」という言葉は，日頃，さまざまなシーンで耳にする機会の多い言葉である。だが，この言葉がどんな意味をもっているのかを正面から問うことは難しい。たとえば，「社会人」という言葉がある。これはいったいどのような「社会」に生きる，どのような「人」のことを意味しているのだろうか。よく気を付けてみると，「社会」という言葉の意味は一つではなく，文脈に応じていろいろな意味やニュアンス，価値づけが与えられていることが感じられるだろう。それとともに，皆さん自身もあまり自覚しないままに，「社会」という言葉をいろいろな意味で使い分けているのではないだろうか。

この言葉は，日本語にとってはもともとsocietyという言葉の翻訳語として定着したものである。societyは近代の重要概念のひとつであり，ヨーロッパ近代社会の展開とともに，この概念についての思考も深まっていった。この授業では，「社会・society」という言葉に焦点をあてつつ，この言葉をめぐる歴史と多様な意味をたどることをつうじて，私たちが今，この言葉とどのように向き合えばよいのかを考えてみたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業後には授業内容を復習して理解を深めるとともに，授業で紹介した文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度と試験によって評価する。出席が授業回数の７割以上であることが，試験を受ける条件となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜，３時間目。授業時間に直接，もしくは学科事務室をつうじてアポイントメントを取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに――「社会」のイメージ探訪
第２週　「社会」と’society’――「社会」概念の東西
第３週　翻訳と近代化
第４週　’society’と出会うまで――近世後期から幕末期の想像力
第５週　’society’と出会う・１――幕末維新期の西洋体験と西洋近代「社会」体験
第６週　’society’と出会う・２――幕末維新期の西洋体験と西洋近代「社会」体験
第７週　’society’を想像する・１――西周と19世紀西洋社会科学との出会い
第８週　’society’を想像する・２――福沢諭吉と19世紀西洋社会科学との出会い
第９週　西洋近代における’society’の構想・１――「社会契約」という発想
第10週　西洋近代における’society’の構想・２――「商業社会」・「市民社会」
第11週　「ソサエチー」を結ぶ――明六社の実験
第12週　「社会」が生まれる――近代的公共圏の成立
第13週　「社会」を使う・１――明治期における「社会」概念の諸相
第14週　「社会」を使う・２――20世紀前半における「社会」概念
第15週　「社会」を使う・３――20世紀後半における「社会」概念

民俗文化論I（民俗信仰）

3615021100100

副　題	異界をのぞく							担　当　者	山崎　祐子　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ANT-201-JB

〔授業の到達目標〕

民俗学の心意伝承の基本事項を学び，異界という概念を説明できるようにする。それぞれの身のまわりの事象を民俗学の視点で分析する方法を身につける。

〔授業の内容〕

古い伝統的な行事や伝承ばかりではなく，今，自分たちの目の前で起きていることも民俗学の扱う対象である。この授業では，民間信仰の基礎知識をふまえながら，身近な問題を異界という概念を用いて解説する。民俗調査報告書，市町村史のほか，昔話，伝説，世間話，都市伝説，随筆，近世の地誌類などを，民俗学の視点でどう読むかを解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。配布した資料を読み返す。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（40パーセント），到達度確認テスト（60パーセント）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通じて連絡を取る。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　境界の民俗
第３週　海と山１－魂の行方
第４週　海と山２－富士信仰
第５週　祈願の形
第６週　呪いと占い
第７週　口承文芸１－昔話と異界
第８週　口承文芸２－西行話と民謡
第９週　口承文芸３－皿屋敷と都市開発
第10週　口承文芸４－都市伝説と学校の怪談
第11週　口承文芸５－多摩ニュータウンの狐話
第12週　柳田國男「妖怪談義」を読む
第13週　異界をのぞく・狐の窓
第14週　まとめ
第15週　〃
授業内容は変更することもある。

民俗文化論II（民俗行事・祭礼）

3615021200100

副　題	年中行事と祭礼							担　当　者	山崎　祐子　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ANT-202-JB

〔授業の到達目標〕

年中行事，祭礼の基本事項を学び，一年をどのようなリズムで暮らしてきたのかを理解する。基本的な太陰太陽暦の構造を理解し，伝統的な年中行事の意味を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

主な年中行事を季節別に取り上げ，続いて祭礼と民俗芸能を取り上げる。太陰太陽暦から太陽暦への改暦は，年中行事と季節感の混乱をもたらした。何が変わったのか，変わらないものは何なのかを，検討する。祭礼と民俗芸能では，主に秋から冬にかけて行われる祭礼を取り上げ，映像を見ながら解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。映像の視聴のまとめをすること。

〔成績評価の方法〕

ビデオの視聴によるワークシート（25パーセント），期末試験（60パーセント），リアクションペーパーなどの平常点（15パーセント）で総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通して連絡を取る。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　太陰太陽暦の基礎知識
第３週　正月とはいつなのか
第４週　七夕と盆
第５週　祭礼の見方
第６週　年中行事の構造
第７週　民俗芸能ー荒神神楽
第８週　民俗芸能の基礎知識
第９週　民俗芸能ー三河の花祭
第10週　民俗芸能ー田楽
第11週　祭礼と競技
第12週　江戸の正月
第13週　東日本大震災の復興と民俗芸能
第14週　まとめ
第15週　〃
授業で上映するビデオを借用する関係上，授業の順序が変わることがある。

民俗文化論III（都市民俗学）

3615021300100

副　題	人工物の霊魂観―つくも神と刀剣の信仰―							担　当　者	伊藤　慎吾　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ANT-203-JB

〔授業の到達目標〕

非生物系のものが超常的な，あるいは人間的な存在として創造される文化的諸相を歴史的に捉える。

人工物に霊魂があるという思想が現代の日本にどのようなかたちで現れているのか，そしてその理由について，自分の考えを持つ。

〔授業の内容〕

日本文化の歴史を俯瞰すると，人間以外の異類が関わる領分が非常に大きい。神の領分から日常生活まで幅広く,その関わり方も多岐にわたる。本来生物として,ただ存在するものに様々な意味を与えることによって，文化的表象として立ち顕れていくのだった。

異類という概念は人間以外の存在で，生物・非生物を問わないものである。生物ならば分かりやすいだろうが，非生物，たとえば身の回りの器物・道具の類であっても異類として存在する。年経た道具には魂が宿って妖怪化する。物語世界では人間や動物と一緒に非生物のものがキャラクター化することもしばしばである。昔話「猿蟹合戦」では猿や蟹，蜂と同様に臼や牛糞なども登場する。

非生物に霊魂が宿り，また霊的な力を感じる文化層があり，非生物から妖怪を生み出す文化層があり，非生物をもとにキャラクターを創造する文化層がある。あるものに生あるものとしての価値を与えることで文化創造に寄与させていくという点では生物も非生物もないのである。日本文化に限ってみれば，非生物の中でも人間の手で作り出した器物・道具の類，つまり人工物でさえ霊魂が宿るものと考えられる点が顕著である。

そこで人工物を対象とし，根源的な霊魂観から表現物の中でキャラクター化するものまで押さえることで，その歴史と文化の諸相を取り上げていきたい。

〔教材〕

参考書：伊藤慎吾『妖怪・憑依・擬人化の文化史』初版，笠間書院，2016年

随時，プリント資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の内容に関して調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）

レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通す。

〔授　業　計　画〕

第１週　付喪神とは何か。
第２週　物に宿る霊魂。
第３週　『付喪神絵巻』を読む。
第４週　器物妖怪と付喪神。
第５週　『画図百器徒然袋』を読む。
第６週　水木しげる作品の付喪神。
第７週　京極夏彦作品の付喪神。
第８週　畠中恵作品の付喪神。
第９週　ライトノベルの付喪神。
第10週　中国その他，海外の器物妖怪。
第11週　神剣とは何か。
第12週　妖刀とは何か。
第13週　刀剣の人格化。刀剣男士の文化史的意義。
第14週　補論。
第15週　まとめ。

民俗文化論Ⅳ（都市民俗学）

3615021400100

副　題	現代の擬人化を考える									担　当　者	伊藤　慎吾　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ANT-204-JB

〔授業の到達目標〕

現代文化における擬人化という表現手法の実態とその価値について，自分の考えを持つこと。

〔授業の内容〕

擬人化とは人間以外のものを人間として表現することである。文学や絵画の領域で古くから見られる手法だが，フォークロアとしても口承文芸や芸能の世界にしばしば見られるものである。そこで本講義では，歴史と民俗の諸相を踏まえた上で，現代文化における擬人化の実態に迫っていくつもりである。

〔教材〕

参考書：伊藤慎吾『妖怪・憑依・擬人化の文化史』第1版，笠間書院，1016年

随時，プリント資料を配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の内容について調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）

レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通す。

〔授　業　計　画〕

第１週　擬人化という表現方法。
第２週　擬人化キャラクターの住む世界。
第３週　妖怪・神・精霊とは何が違うのか。
第４週　『もやしもん』の世界。
第５週　擬人化の対象と目的。
第６週　キャラクターの型。
第７週　人間型の流行。
第８週　80年代から90年代へ。
第９週　ゼロ年代のブーム。
第10週　『ヘタリア』効果。
第11週　二次元媒体。
第12週　マスコットキャラクター，グッズ。
第13週　コスプレ，パフォーマンス。
第14週　補論。
第15週　まとめ。

比較民俗文化論I（民間伝承）

3615022100100

副　題	日本の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ANT-205-JB

〔授業の到達目標〕

1：日本に伝わる民間説話（口承文芸,民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。
2；その文化史的な意義を把握します。
3；諸外国の民間説話と比較して，世界的な普遍性と地域（日本，東アジア）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し，「昔話」と「伝説」を具体的に取りあげて，それぞれの特徴と意義を講義します。そのつど，比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して，普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また，折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお，当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

基本的な事柄は，授業時に連絡します。
また，掲示によって連絡することがあります。

〔備考〕

（1）当科目は秋学期の「比較民俗文化論２（民間伝承）〔外国編〕」と連動しています。
（2）授業時における，私語，および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　民間説話とは？
第２週　昔話と伝説について
第３週　外国の昔話について―アジア圏―
第４週　外国の昔話について―ヨーロッパ圏―
第５週　本格昔話
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　動物昔話
第11週　〃
第12週　〃
第13週　笑い話
第14週　〃
第15週　まとめ

比較民俗文化論II（民間伝承）

3615022200100

副　題	外国の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ANT-206-JB

〔授業の到達目標〕
1.民間説話（口承文芸，伝承文芸）の文化的な意義を把握します。
2.民俗学，物語学（ナラトロジィ）・説話学などの専門学術の目的と方法を理解します。
3.民間説話をフィールドにして，日本と外国との文化比較を実践的に修得します。

〔授業の内容〕
およそ人間の共同社会が営まれるところには，はやくから口承文芸や民間の物語が生まれ，今なお様ざまなかたちで伝えられています。このグローバルな普遍性のもとに，特定域（国，民族，言語）の昔話と伝説が存在しています。日本の昔話を諸外国，諸民族のそれと比較対照することによって，その共通面と各個の独自面を考え，伝承文芸の文化史的意義を講義します。
この授業は，春学期の「比較民俗文化論１；（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。なるべく両者を履修するようにして下さい。

〔教材〕
教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年
教材として複写資料を用意します。また，必要に応じて参考書を授業時に紹介していきます。
参考書・論文：徳田和夫「民間説話と古文献」（『民間説話の研究 - 日本と世界』1987年,同朋社），「浄蔵法師と恩愛の妻子」（イメージ・リーディング叢書『絵語りと物語り』1990年,平凡社），「『長谷雄草紙』絵巻と昔話『鼻高扇』」（昔話 - 研究と資料19『視る昔話』1991年,三弥井書店），「〔欲の熊鷹〕の分布圏 - お伽草子・異類物世界への通路」（『伝承文学研究』46号,1997年），「中世の民間説話と『蛙の草紙絵巻』」（『学習院女子大学紀要』３,2001年），「鳥獣草木譚の中世 -〔もの言う動物〕説話とお伽草子『横座房物語』」（講座日本の伝承文学10『ヨミ・カタリ・ハナシの世界』2004年,三弥井書店），「古典説話と昔話」（シリーズことばの世界２『かたる』2008年），
徳田著『室町の妖怪―説話伝承と図像』（2017年，せりか書房）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度，学期末のレポートによっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
基本的な事柄は，授業時に連絡します。また，掲示によって連絡することがあります。

〔備考〕
（１）下記の授業計画の内容，順序には変更がありえます。
（２）当科目は春学期の「比較民俗文化論１；（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。
※授業内容とは無関係な私語，携帯電話の使用，正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　同話・類話，比較説話学，物語学（ナラトロジィ）
第２週　動物の物語
第３週　人間と動物の物語
第４週　グリム童話（１）
第５週　グリム童話（２）
第６週　文化英雄
第７週　世界のシンデレラ
第８週　ドラゴン退治の物語
第９週　トリック・スターと巨人伝説
第10週　精霊と妖怪
第11週　アイヌ民族の昔話（１）
第12週　アイヌ民族の昔話（２）
第13週　東アジアの昔話（１）
第14週　東アジアの昔話（２）
第15週　まとめ

比較生活文化論I（地域食文化論）

3615031100100

副　題	食文化へのアプローチ							担　当　者	磯部　泰子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIF-207-JB

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を広く世界に発信できるように，食文化の基礎知識を学び，日本の食文化を伝える方法を取得できるようにする。

〔授業の内容〕

自然環境とそこで生活する人々の工夫によって，世界各地域に独特の食文化が形成されている。

日本の食文化の地域性と日本人の味覚特性を理解して，多角的な視点で日本の食文化を観られるようにする。

海外や日本の食文化の事例も学ぶ。

〔教材〕

参考書：石毛直道『石毛直道　食の文化を語る』第１版，ドメス出版，２００９年
原田信男『日本料理の社会史　和食と日本文化』第１版，小学館，２００５年

必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「発酵」か「旨み」に関して調べ，レポートで提出。20時間
食文化に関して自分のテーマをみつけて，調べて，レポートで提出。30時間
授業で出す課題に関しての準備とレポート作成。10時間

〔成績評価の方法〕

２回の課題レポート（４０％），授業後に提出するリアクション・ペーパーと発表（40%）意欲的に授業にとりくんだか（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合には，isobe●gol.com　までメイルで問い合わせて下さい。（change ● to @）

〔備考〕

味覚の実施授業などを行うために，受講者を制限する。
受講者は日本文化学科掲示板を確認すること。
シラバスの内容や日程は，変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　食文化とは「風土と食文化」
第３週　食から見た日本史「米を選んだ日本の歴史」
第４週　味覚授業１「醤油」
　　醤油の国際化　「如何に海外に広まったか」
第５週　「発酵」
第６週　味覚授業２　嗜好「台湾茶」
第７週　「旨み」
第８週　日本の食文化からの考察１
　　「世界無形文化遺産　和食」
第９週　日本の食文化からの考察２
第10週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ１
　　「食文化の物語性と町おこし」海外の事例
第11週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ２
　　「食における価値創造」
第12週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ３
　　「地域の食と歴史を考証」国内の事例
第13週　食文化へのアプローチ　国際比較
第14週　発表
第15週　まとめ

日本生活文化論I（ものの文化史）

3615032100100

副　題	装身具にみる日本の服飾文化							担　当　者	梅谷　知世　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIF-209-JB

〔授業の到達目標〕

装身具の歴史を通して日本の服飾文化の多様なあり方について理解する。

〔授業の内容〕

装身具は服飾を構成する一要素にすぎないが，装飾性や呪術性など人の心が服飾に求める役割が凝縮されることが多い。装身具は，人に装われることによってはじめて生活に密着し，単なる「もの」ではなく，さまざまな意味を担うようになる。わが国においは，すでに縄文時代に社会的意味や美的価値をもつ装身具があらわれ，以後，貴族のコミュニケーションの道具という側面をもつ扇の発達した平安時代，市民層にまで装身具文化が拡大した江戸時代，和装に西洋式装身具を組み合わせる和洋折衷の装いが広く好まれた近代など，各時代の社会や文化のあり様と人びとの生活感情を反映させつつ，多様な装身具文化が展開した。

本講義では，「装身具と人間」という視座にもとづき，日本服飾の歴史の中にあらわれた装身具文化について，政治や社会や宗教との関係，異文化接触，造形性，美意識，流行など，さまざまな視点から考察する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回プリントを配布する。

参考文献は授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業後に，配布プリントやノートを再確認して復習し，授業で紹介した参考文献にも目を通して授業内容についての理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

出席状況・授業態度（30%），期末試験（70%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに―装身具研究の意味
第２週　縄文・弥生時代の装身具
第３週　古墳時代の装身具
第４週　奈良時代の装身具（衣服令と正倉院の装身具）
第５週　平安時代の装身具（扇）
第６週　桃山時代の装身具（変わり兜）
第７週　江戸時代の装身具１（印籠と根付）
第８週　江戸時代の装身具２（櫛・簪・笄）
第９週　江戸時代の装身具３（装身具の意匠と絵師）
第10週　江戸時代の装身具４（袋物１）
第11週　江戸時代の装身具５（袋物２）
第12週　近代の装身具１（和装用装身具にみる明治の新風）
第13週　近代の装身具２（西洋式装身具の受容と展開１）
第14週　近代の装身具３（西洋式装身具の受容と展開２）
第15週　まとめ

日本生活文化論II（通過儀礼）

3615032200100

副　題	慶弔の装い							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-JB

〔授業の到達目標〕

通過儀礼の装いの歴史について学び，日本の伝統文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

七五三や成人の祝事などの通過儀礼は，現代の日本社会においても息づいており，私たちにとって最も身近な伝統的儀礼といえる。本講義では，日本における通過儀礼の装いに焦点を当て，その起源と展開をたどる。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（80%），出席状況と授業態度（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　慶弔の装い
第３週　出産の装束
第４週　誕生に関する儀礼
第５週　七五三の歴史（１）
第６週　七五三の歴史（２）
第７週　成人の祝事（１）
第８週　成人の祝事（２）
第９週　振袖の今昔
第10週　婚礼衣装（１）
第11週　婚礼衣装（２）
第12週　留袖の今昔
第13週　長寿の祝事
第14週　葬送の儀
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本生活文化論III（住文化論）

3615032300100

副　題	祭祀空間の構造							担　当　者	乾　尚彦　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-211-JB

〔授業の到達目標〕

様々な祭祀が都市，集落，住まいのなかでどのようにおこなわれてきたかを理解する。

〔授業の内容〕

居住空間を正しく理解するためには，日常生活だけでなく，祭祀，儀礼がどのようにおこなわれるかを理解する必要がある。日本各地の様々な祭祀を映像で紹介しながら，それが都市，集落，住まいの空間とどのように関わるのかを考察し，日本の祭祀空間の構造の特質を述べていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，授業への参加態度，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限（事前にメールで申し込むこと）

ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　住まいで祀る神々
第２週　冬祭りのコスモロジー１　奥三河花祭り，高千穂神楽，椎葉神楽，備中神楽
第３週　冬祭りのコスモロジー２　新野の雪祭り，西浦田楽
第４週　冬祭りのコスモロジー３　遠山の霜月祭り，坂部の冬祭り
第５週　冬祭りのコスモロジー４　大日堂舞楽
第６週　祖霊を迎える空間１　三遠南信の盆踊り，念仏踊り
第７週　祖霊を迎える空間２　小浜島のソーラ，悪石島のボジェ
第８週　豊饒を迎える空間１　藤守と板橋の田遊び，伊雑宮と会津の御田植祭り
第９週　豊饒を迎える空間２　龍郷のショッチョガマと平瀬マンカイ，竹富島のタナドゥイ
第10週　豊饒を迎える空間３　久高島の八月行事
第11週　祓いと再生１　蛇と獅子～蛇も蚊も祭り，間々田の蛇祭り，三朝のジンショ，沼田の湯立て神楽
第12週　祓いと再生２　渡名喜島のシマノーシ，弥美神社大祭
第13週　祓いと再生３　室根大祭，相模国府祭（こうのまち），大国魂神社暗闇祭り，春日若宮おん祭
第14週　まとめ１
第15週　まとめ２

日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）

3615032400100

副　題								担　当　者	木村　絵里子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-212-JB

〔授業の到達目標〕

1)自分自身の身近なことだけではなく，現代，あるいは時代を超えた社会に対する想像力を持てるようになること。

2)上記のような想像力によって，現代都市の文化や生活に対する理解を深めることができること。

3)社会学的知見を通して，社会的問題に対する実践的な思考力を身に付けること。

〔授業の内容〕

近代化の特徴のひとつに「都市化」があり，現代社会の文化は都市と密接に関わっているといえる。本講義では，下記にあるように都市における若者の文化に関わる多様なトピックや諸問題を，「社会学」の知見を通じて理解を深めていく。さらに私たちが普段直接触れることのできない，歴史的な観点を通じて現代社会の輪郭をより明確に浮かび上がらせる。それは，現代社会を女性として生きるということはどのようなことなのか，そして様々な他者と共に生きるということはどのようなことなのかを想像・理解することにつながるのである。

〔教材〕

講義で扱う文献・資料については，講義内に適宜提示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，関連文献を読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），授業への参加態度（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション――都市の文化と生活
第2週　都市とファッション（1）：流行現象の成り立ち
第3週　都市とファッション（2）：流行と若者文化
第4週　都市とファッション（3）：流行と若者文化
第5週　ディスカッション
第6週　<女性美>の誕生(1)：明治期
第7週　<女性美>の誕生(2)：明治期～大正期
第8週　<女性美>の誕生(3)：昭和初期～戦後
第9週　<女性美>の現在：現代における美に関する文化
第10週　「恋愛結婚」の誕生：恋愛と結婚の結合の起源
第11週　現代都市の若者の恋愛意識・行動
第12週　現代都市の若者の友人関係
第13週　現代都市の若者のメディア利用
第14週　ディスカッション
第15週　まとめ

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本史論I（古代）

3615041100100

副　題	奈良・平安時代の都と地方							担　当　者	中込　律子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	HIS-213-JB

〔授業の到達目標〕

（1）奈良・平安時代の都（みやこ）と地方の交流を通じて，律令国家の成立と変貌を理解する。（2）古代の都市と地方の生活や環境などを理解する（3）歴史をリアルに考える力を身につけ，多角的に考えることを学ぶ。

〔授業の内容〕

律令国家の成立により，全国を支配する仕組みが整い，都と地方の関係は大きく変化した。藤原京・平城京には人や物が集まり，高い文化が花開いた。地方には国衙・郡家も造られ，地方の情報は公文書により中央に伝達された。この仕組みは，平安時代中期には大きく変貌するが，それは律令国家によりもたらされたものが，社会にも広まっていくという側面でもある。写真・図・絵画など画像を用い，イメージ豊かに時代の変化をとらえ直す。

〔教材〕

授業時にプリントを配布。参考書は，随時プリントで紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

複数の週にわたって同じプリントを使用するので，復習あるいは予習のために配布プリントに目を通す。大学入試で日本史を選択しなかった学生は，予備的な知識として高校教科書等に目を通し，用語に慣れておく（暗記は必要ない）。以上の予習・復習各30分程度。さらに，参考文献（講義で提示）や辞書類による調査など予復習３時間

〔成績評価の方法〕

学期末試験（論述形式）80%。授業態度（随時のリアクションペーパーや口頭の質問。リアクションペーパーは，試験ではなく，相互に質問する手段）20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

講義の前後の時間に質問に答える（～15：30）。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕

講義において随時質問用紙を配布し，学生の基礎知識や講義の理解度を確かめる。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに　―奈良・平安時代のイメージ―
第２週　奈良・平安時代の概観　―その位置づけ
第３週　律令国家の成立
第４週　平城京１　―都城制
第５週　平城京２　―大寺院の建立
第６週　平城京３　―和同開珎発行・市のにぎわい
第７週　国府と郡家１―考古学からみた地方支配の拠点
第８週　国府と郡家２―地方の役人の仕事
第９週　平安遷都と平安時代前期の政治
第10週　平安中期の変化１　―「班田制の崩壊」の意味すること
第11週　平安中期の変化２　―郡家がなくなる
第12週　平安中期の変化２　―平安京の変貌，京都のにぎわい
第13週　平安時代の貨幣　―本朝十二銭から米・絹へ
第14週　地方社会と文字
第15週　理解度の確認
必要に応じて講義順を変更する場合がある。

日本史論II（中世）

3615041200100

副　題	恋する武士、闘う貴族							担　当　者	関　幸彦　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	HIS-214-JB

〔授業の到達目標〕

今年度は武士と貴族の織りなす人間模様について人物と時代という観点から考えます。テーマは「恋」と「闘い」です。この二つの主題を通じ中世という時代の特色を勉強します。

〔授業の内容〕

『源氏物語』『平家物語』『太平記』などの世界から，武士と貴族の恋愛事情や闘いの様子をさぐります。恋は貴族の専売ではないし，闘いも武士だけのものではないのです。公武両者のせめぎ合う中世の記憶を，平安王朝から鎌倉・南北朝に焦点をしぼり通覧します。

〔教材〕

教科書：関幸彦『恋する武士　闘う貴族』第1版，山川出版，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキスト相当項目について，若干の予習が希ましい。

〔成績評価の方法〕

試験　70%　出席　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　中世における愛と恋
第２週　恋する武士の群像①
第３週　恋する武士の群像②
第４週　恋する武士の群像③
第５週　恋する武士の群像④
第６週　恋する武士の群像⑤
第７週　『平家物語』と闘う貴族①
第８週　『平家物語』と闘う貴族②
第９週　『平家物語』と闘う貴族③
第10週　『太平記』と貴族①
第11週　『太平記』と貴族②
第12週　『太平記』と貴族③
第13週　恋する武士　闘う貴族（まとめ）①
第14週　恋する武士　闘う貴族（まとめ）②
第15週　理解度の確認
武士や貴族たちを取り上げ時代と人物から中世社会の特色について考える。列伝，伝記風に語ることで人物を通じ歴史を読むことが主眼です

日本史論III（近世）

3615041300100

副　題	江戸時代の社会と医療							担　当　者	長田　直子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	HIS-215-JB

〔授業の到達目標〕

近世社会を概観し，そこで生きた人々の生活を知った上で，医療を例に日本近世社会のしくみ・特色を理解する。

〔授業の内容〕

本授業では，まず，前半で近世社会のしくみを概説する。そのうえで，後半部では人々が生きてゆく中で直面する病と医療を取り上げ，江戸時代の社会の中での医療の役割・人々の関わりから近世社会の特色と変化を見る。

〔教材〕

とりわけ教科書などは使用しないが，授業中に配布する史料プリントを教材とする。
参考文献は，授業中に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された史料プリント類に目を通し，参考文献等の内容を確認すること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験　(70%)，授業への参加態度・小課題提出・授業への参加態度（30%）を総合して評価する
なお，遅刻・早退は３回で欠席１回分とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

授業は，基本的に講義形式だが，適宜小課題などを課す。
第１週では，ガイダンスも行うため，履修希望者は出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　近世社会のしくみ　－幕藩体制・身分制度
第３週　近世日本と西洋
第４週　対外貿易
第５週　武士社会
第６週　町人社会と生活
第７週　村社会と生活
第８週　庶民文化の発展　－近世の人々の旅
第９週　近世医療の概説　－漢方医学・蘭方医学
第10週　医師と医療
第11週　薬（売薬・民間薬）・宗教と医療
第12週　温泉と医療
第13週　伝染病への対処　－コレラ
第14週　伝染病への対処　－天然痘と種痘
第15週　授業内容のまとめ
履修者の関心・授業進行の状況等によって，講義内容が多少異なる事もある。

日本史論Ⅳ（近現代）

3615041400100

副　題								担　当　者	加藤　厚子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	HIS-216-JB

〔授業の到達目標〕

幕末から高度経済成長期までを主な対象とし，日本のマス･メディア産業の発達過程と構造，マス・メディア関連政策の策定過程を概観して，両者の特徴を検討することにより，国家と社会，マス・メディアの関係を多面的に理解し，現状を多様な視点から分析する基礎能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

近年，マス・メディアに対する人々の認識やマス・メディア産業そのものが大きく変化し，インターネット普及以前のマス・メディアの歴史に関して様々な見解が登場している。またマス･メディアの機能について日本と諸外国とを比較した場合，国や文化による特徴がみられる。これはメディアの社会的位置づけや産業としての発達程度，政府によるメディア政策などの差異に起因するものであり，この歴史的経緯をふまえなければ，マス・メディアの特徴や現況の正確な把握は困難である。幕末から高度経済成長期までのマス・メディア産業の発展過程と関連政策を概観しその特徴を理解することで，現在のマス・メディアを考察するための基礎能力を養う。

〔教材〕

参考書：佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）岩波書店，1998年
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフトパワーのメディア文化政策』新曜社，2012年
教科書は使用しない。その他各回の参考文献は講義中で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布する次回講義に関する予習プリント（資料）を読み，設問について考察すること（30分）。講義後は配布資料や講義中指示する文献の関連個所を読んで復習すること（30分）。

〔成績評価の方法〕

小レポート１回（20%），学期末試験（80%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外はメール：katsusha1895●gmail.com　で連絡すること。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　マス・メディア発達過程の通史的整理：メディアの発達過程を整理し，講義の基礎となる時系列を把握する。
第２週　マス・メディア概念の変化：メディア概念の変化を理解し，メディアに対する認識の多様性を考える。
第３週　活字メディア（１）新聞の企業化：新聞社の発達過程と新聞の機能，関連政策を検討し特徴を指摘する。
第４週　活字メディア（２）戦時下の統合と戦後の事業再編：戦中・占領期における新聞の特性と社会的役割を検討する。
第５週　活字メディア（３）出版業の興隆：明治期から現在に至るまでの出版流通機構の形成過程について概観する。
第６週　音声メディア（１）ラジオ放送の開始：国主導で発達したラジオ放送の機能と期待された社会的役割を検討する。
第７週　音声メディア（２）占領政策に伴うラジオ放送改革：ラジオ放送の機構・内容，受容変化を分析する。
第８週　音声メディア（３）レコードとコンテンツ販売：音声記録について他メディアと融合した発達過程を検討する。
第９週　映像メディア（１）企業化と寡占市場の形成：1920年代における日本独自の映画市場の確立過程を概観する。
第10週　映像メディア（２）戦時統制と市場の拡張・再編：戦時映画統制政策の特質について検討する。
第11週　映像メディア（３）世界の戦時メディア統制：戦時期における諸外国のメディア統制政策を概観する。
第12週　映像メディア（４）日本映画黄金期の到来：占領期以降，社会認識における映画の位置づけの変容を考察する。
第13週　映像メディア（５）テレビの普及と既存メディア：産業史の観点からテレビの登場・普及を概観する。
第14週　メディアの構成要素（１）通信社：通信社の設立過程を概観し，他メディアとの連関性について検討する。
第15週　メディアの構成要素（２）広告：日本における広告業の発達過程と特徴について考察する。
授業内容は進行状況により変更する場合がある。

☆日本文化交流史I

3615051100100

副　題	中世・近世の日朝関係							担　当　者	米谷　均　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-217-JB

〔授業の到達目標〕
　中世～近世日朝関係史を，対馬を軸に概説して理解を深める。また本講義では，ヒトの往来やモノの交流などによって得られる「相互理解」はもとより，情報の一方通行などによって生じる「相互不理解」についても積極的に検討する。

〔授業の内容〕
　現在，日韓両国は歴史問題や領土問題などをめぐってささくれ立っている。両国の対立の背後には,「似て非なるもの」同士による,「我をもって彼を察する」悪循環が大きく関係している。本講義では，前近代の日本と朝鮮半島との因縁の関係を，ヒト・モノ・情報の交流という視点から検討する。その際には，東アジア海域という開かれた海の世界のなかで，両国の関係を多元的に考察するよう心がけたい。なお視聴覚面からの理解を深めるため，機会があればDVDやビデオなども利用したい。

〔教材〕
参考書：橋本雄『偽りの外交使節―室町時代の日朝関係―』（歴史文化ライブラリー351）吉川弘文館，2012年
田代和生『新・倭館―鎖国時代の日本町―』新装版，ゆまに書房，2011年
佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』（日本史リブレット77）山川出版社，2008年
鶴田啓『対馬からみた日朝関係』（日本史リブレット41）山川出版社，2006年
田代和生 校注『交隣提醒』（東洋文庫852）平凡社，2014年
授業で配布するプリントを中心に講義を行います。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　配付されたプリントは予め目を通しておいて下さい。

〔成績評価の方法〕
　論述試験ないしはレポート（どちらを選ぶかは未定）のほか，出欠状況を加味して評価を出します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　連絡を要する際には，学科事務室を通じて連絡を入れてください。また緊急の場合の連絡方法は，授業初日に案内いたします。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（日朝関係と対馬の歴史）
第２週　東シナ海地域における前期倭寇―「倭寇」は全て日本人の海賊なのか？―
第３週　同　上
第４週　対馬宗氏と応永の外寇（1419年）―「対馬は韓国領」なる言説の源泉―
第５週　同　上
第６週　中世日朝通交体制の成立―ハンコによる通交統制―
第７週　同　上
第８週　朝鮮仏教文物の日本渡来―「倭寇」による掠奪品？　外交使節による招来品？―
第９週　同　上
第10週　朝鮮通信使の来日と室町幕府―中世日本と外国使節―
第11週　同　上
第12週　書き替えられる国書―偽造と改竄（かいざん）―
第13週　同　上
第14週　文禄・慶長の役と戦後処理―戦争捕虜の送還―
第15週　同　上
講義の進捗状況により，授業計画を変更することもあります。

☆歴史資料論I（考古）

3615061100100

副　題	先史時代の考古学							担　当　者	工藤　雄一郎　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	HIS-219-JB

〔授業の到達目標〕

先史考古学の基礎を学び，その研究目的と研究手法を学ぶ。

先史時代の遺跡研究の中で特に研究の進展の著しい年代学や環境考古学，植物考古学について理解する。

旧石器時代から弥生時代までの人々の生活の変化を理解する。

〔授業の内容〕

文字がない先史時代の考古学とはどういった学問なのか。まずはその方法と研究対象の基礎を学ぶ。そのうえで，近年の考古学では，自然科学分析などを取り入れた学際研究が特にその重要性増しつつあることから，環境考古学，植物考古学などについて，旧石器時代から弥生時代までの研究事例を取り上げながら，最新の研究動向について理解する。

〔教材〕

教科書：工藤雄一郎・国立歴史民俗博物館『ここまでわかった！縄文人の植物利用』第3版，新泉社，2014年

参考書：工藤雄一郎・国立歴史民俗博物館『さらにわかった！縄文人の植物利用』第1版，新泉社，2017年

松井章『環境考古学マニュアル』同成社，2003年

教材として，毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，参考書に目を通し，疑問点を授業中に質問できるようにすること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，学期末試験による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　先史考古学とは何か
第２週　先史考古学の研究史（ヨーロッパ）
第３週　先史考古学の研究史（日本）
第４週　人類の進化と旧石器時代の始まり
第５週　ネアンデアルタール人と現代人
第６週　現代人的行動とは何か―後期旧石器時代の環境と人類―
第７週　先史学と年代学
第８週　土器の出現の歴史的意義―縄文時代の始まりー
第９週　環境考古学とは何か
第10週　貝塚から分かること―動物考古学とその方法―
第11週　縄文時代の植物利用と管理・栽培
第12週　ウルシと漆の考古植物学
第13週　縄文時代の土偶と精神文化
第14週　縄文時代から弥生時代へ
第15週　まとめと解説

歴史資料論III（古文書）

3615061300100

副　題	江戸時代の古文書を読み解く							担　当　者	工藤　航平　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-221-JB

〔授業の到達目標〕

江戸時代（近世）のくずし字を，辞書類を用いて解読・理解できる能力を身に付けることを目標とします。

〔授業の内容〕

日本の文化を研究する上での第一歩となるのは，古文書・古記録や書籍などを読み解くことです。

本授業では，古文書・古記録や書籍などの写真版をテキストとし，履修者に予習してきてもらい，毎回輪読するかたちで進めていきます。

くずし字を解読する上でのポイント，辞書類の使い方，古文書等に記された意味や時代背景などについて，適宜解説を加えます。

〔教材〕

教科書：林秀夫ほか『近世古文書解読辞典』柏書房

古文書等の解読に必要不可欠なので，購入の上，授業に必ず持参してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様であるため，辞書を用いての予習・復習は必須です。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（授業方針・計画の説明，江戸時代の古文書等の概要）
第２週　くずし字を解読するポイント
第３週　辞書類の使い方
第４週　テキストの輪読
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめと補足

第１週は，授業の進め方と，古文書・くずし字とはどういうものかを解説し，本授業の意義について理解してもらいます。／第２週・第３週は，補助資料や短い文章を用いて，くずし字の解読の仕方や辞書類・参考図書の利用方法などを解説し，解読するための基本的な技術を身に付けてもらいます。／第４週から第14週では，実際にテキストを用いて，履修者に輪読してもらい，それをもとに適宜解説を加えます。／第15週では，授業全体のまとめと補足を行います。

歴史資料論IV（古文書）

3615061400100

副　題								担　当　者	吉成　香澄　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-322-JB

〔授業の到達目標〕

江戸時代のくずし字を，辞書を用いて解読できる能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

日本文化を研究する上で，古文書や古記録などの史料を読解することが基本となる。

本講義では，江戸時代のくずし字で記された古文書類の写真版をテキストとして配布する。授業ではテキストの輪読を行う。読解のポイント，辞書の使い方，時代的背景などについては適宜説明する。

履修者は予習の上で参加することを求める。

〔教材〕

教科書：林英夫ほか『近世古文書解読字典』柏書房

古文書を解読するために，辞書は不可欠なので，履修者は購入すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様，辞書を用いて解読の予習・復習を行うこと。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡をとること。

学科事務室を通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（江戸時代の古文書等の概要）
第２週　辞書の使い方等の説明
第３週　テキストについての解説
第４週　テキストの輪読
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　補足とまとめ
進捗によって，計画を変更することがある。

形象文化論I（絵画）

3613051100100

副　題	日本絵画史の諸様相							担　当　者	石田　佳也　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-201-JC

〔授業の到達目標〕

様々なテーマを通して，各時代の画家や主要な作品を確認することにより，日本絵画史の概要を理解する。

〔授業の内容〕

絵巻や屏風などの日本絵画には，花鳥や山水，人物，動物などさまざまな画題が描かれている。この講義では，日本絵画史の基礎事項を確認しながら，とくに個々の主要作品の画題に着目して，その画家や流派，技法，文化史的意義や時代背景を詳しく考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回に配布したレジュメの内容を，15分程度の時間で再確認する。可能であれば，授業中に指定した参考文献を参照し(１時間以上)，また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する(１時間以上)。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（40%）と期末のレポート（60%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンス
第２週　日本絵画史の基礎事項　画家や流派，技法を中心に
第３週　〃
第４週　〃
第５週　日本絵画の画題について
第６週　日本絵画史の諸様相　主要作品を通して文化史的意義や時代背景を考察する
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括
毎回，スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は，適宜変更する場合もある。

形象文化論II（絵画）

3613051200100

副　題	「花鳥」をめぐる形象と美意識							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-202-JC

〔授業の到達目標〕

日本美術のみならず広く伝統的な東洋絵画に表れた「花鳥」の文化的意味について考える。

〔授業の内容〕

日本における「花鳥画」は，江戸時代18世紀を迎えると本草学や博物学の影響を受けて，それまでの様式図像や意味の範疇を超える，新しい形象が生み出されることになる。東洋芸術において伝統的に描かれてきた「花鳥画」ジャンルの何が江戸絵画に受け継がれ，どのような図像が革新的なものとしてあらたに誕生したのか，美術史のみならず文学や歴史学，民俗学的視点も折り込みながら考えてみたい。

〔教材〕

教科書：

今橋理子『江戸の花鳥画――博物学をめぐる文化とその表象』（講談社学術文庫，2017年）ほか。

参考書：

今橋理子『江戸の動物画――近世美術と文化の考古学』(東京大学出版会，2004年)ほか

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業への参加態度と学期末のレポート（予定）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕

授業時間外に美術館への見学会などを予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論・花鳥画とは何か（１）
第２週　概論・花鳥画とは何か（２）
第３週　江戸時代博物学史・概論（１）
第４週　江戸時代博物学史・概論（２）
第５週　芸道と科学――近衛家凞論（１）
第６週　芸道と科学――近衛家凞論（２）
第７週　中国的花鳥画の伝播（１）――沈南蘋と長崎派
第８週　中国的花鳥画の伝播（２）――江戸と上方
第９週　花鳥画の変革（１）――博物学と秋田蘭画
第10週　花鳥画の変革（２）――秋田蘭画における花鳥と美人
第11週　浮世絵花鳥版画論（１）――初期版画について
第12週　浮世絵花鳥版画論（２）――俳諧文学との関係
第13週　江戸の「動物画」を考える（１）
第14週　江戸の「動物画」を考える（２）
第15週　まとめ――現代と「江戸の花鳥画」

形象文化論III（生活芸術）

3613051300100

副　題	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術	担　当　者	岡部　昌幸　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ART-203-JC

〔授業の到達目標〕

西洋美術から日本美術，日本の伝統文化の理解を深め，アール・ヌーヴォー，アール・デコ，ジャポニスム，そのほか19世紀末から20世紀前半の欧米と日本の諸芸術について，知識を得，体験的な学びをする。

〔授業の内容〕

西洋の近代美術史を中心とした美術に親しむことから始め，アール・ヌーヴォー，アール・デコとジャポニスム（日本美術心酔），生活美術・装飾美術における東西美術文化交渉と日本文化の果たした国際貢献を論じます。現在，国際化や企業・行政の文化的地域的貢献，さらには環境問題の必要が叫ばれています。しかし，それらのコンセプトと実現は，すでに19世紀～20世紀前半の日本と，日本の影響を基に起きた欧米の美意識・造形の革命に見直すことができます。過去の歴史と，今なお生きる作品に，豊かな美と心，生き方を学びましょう。型どおりの通史やジャンルでなく，美術の楽しみ方を体験し，作家の内面や実作品との対話を通じて，未知の新しい価値を見出す眼を養いましょう。作品鑑定の学びも導きます。

〔教材〕

教科書：岡部昌幸『すぐわかる作家別アール・ヌーヴォーの美術（改訂版）』改訂版，東京美術，2011年
岡部昌幸『渡辺省亭－花鳥画の孤高なる輝き』東京美術，2017年
購入は必須です。参考書は，講義中で随時，指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習および復習として，学期中に美術館見学３館(都内，各４時間)，教科書・参考書通読６時間を最低，必要とします。

〔成績評価の方法〕

（１）出席の確認は毎回行いますが，意味ある出席を求め，積極的な関わりを求めます。また（２）学期中に小レポートを１，２回，そして（３）学期末に400字×７枚程度のレポートの提出，（４）指定された美術館・歴史的文化財の見学を課し，およそ（１）を30%（２）を15%（３）を40%（４）を15%の割合で総合評価を行います。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで連絡

〔授　業　計　画〕

第１週　美術と人生（１）
第２週　美術と人生（２）
第３週　バレエ・リュスと総合芸術
第４週　アール・ヌーヴォーのコレクションと美術館収集（１）
第５週　アール・ヌーヴォーのコレクションと美術館収集（２）
第６週　ファッションと20世紀芸術
第７週　作品鑑定と美術品の流通(１)
第８週　作品鑑定と美術品の流通(２)
第９週　庭園の芸術
第10週　アール・ヌーヴォー，アール・デコの建築
第11週　竹久夢二と大正ロマン，粋の構造
第12週　日本のアール・デコ
第13週　北斎とジャポニスム
第14週　イームズ・デザイン
第15週　イサム・ノグチ，環境芸術へ

受講者もこの講義の流れに沿い，それぞれ自分自身，受講の目標の設定，学習の計画，将来の展望をもって，この講義の受講を有意義なものとする意欲と心構えを求めたいと思います。受動的ではなく自主的に関わる受講態度を求めます。

形象文化論IV（空間造形）

3613051400100

副　題	江戸の大名庭園と絵画芸術							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-204-JC

〔授業の到達目標〕

現代に「公園」として残る江戸の大名庭園を絵画と空間造形の両面から探り，自然に親しむ時空を近世期以来日本人がいかに形成してきたかを考える。

〔授業の内容〕

かつて江戸という都市は「三百諸侯」と言われるほど，多くの大名・旗本が居住していた。彼らのほとんどが上（かみ）・中（なか）・下（しも）屋敷そして抱屋敷というように複数の屋敷を持っていたため，単純に計算しても江戸の街中には千数百の大名屋敷があり，そのほとんどの屋敷内には〈庭園〉が設えられていたのである。今日こうした江戸の庭を文化史上では〈大名庭園〉と呼んでいるが,〈大名庭園〉は当時,それ自体が造形として鑑賞されるにとどまらず,大名や旗本らの政治的交際上重要な役割を果たした。そしてその一方で〈庭〉は創造力の源ともなり，多くの絵画や文学といった芸術作品を生み出した。これら〈大名庭園〉と〈庭園画〉の実例をあげ，その文化の厚みを体感したい。

〔教材〕

教科書：今橋理子『江戸絵画と文学――〈描写〉と〈ことば〉の江戸文化史』第４版，東京大学出版会，2006年

上記教科書を中心に話をすすめますので，必携して下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業への参加態度と学期末レポート（予定）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕

授業時間外に現在の東京に残るいくつかの大名庭園を実地見学の予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　概説１―江戸の都市設備と大名屋敷
第２週　概説２―大名庭園と庭園画をめぐる言説
第３週　和歌の庭―柳沢吉保「六義園」（１）
第４週　和歌の庭―柳沢吉保「六義園」（２）
第５週　和歌の庭―柳沢吉保「六義園」（３）
第６週　現存する「大名庭園」への実地見学（１）
第７週　見立てと旅―尾張徳川家「戸山荘」（１）
第８週　見立てと旅―尾張徳川家「戸山荘」（２）
第９週　見立てと旅―尾張徳川家「戸山荘」（３）
第10週　養生の思想と庭―松平定信「沿恩園」（１）
第11週　養生の思想と庭―松平定信「沿恩園」（２）
第12週　養生の思想と庭―松平定信「沿恩園」（３）
第13週　現実と虚構のあいだ―仮想の旅と「庭園紀行」（１）
第14週　現実と虚構のあいだ―仮想の旅と「庭園紀行」（２）
第15週　現存する「大名庭園」への実地見学（２）

形象文化論V（近現代美術）

3613051500100

副　題	現代美術はどのように形成されてきたか	担　当　者	清水　敏男　教授

単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ART-205-JC

〔授業の到達目標〕

日本の近代美術の足跡をたどり現代美術が生成されてきた背景を理解する。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」日本の近代化は明治時代にはじまるが，西欧においては近代化は19世紀に急速に進展していた。西欧における近代美術の進展を参照しつつ，日本の近代美術，現代美術とは何かを理解することが本講義のの狙いである。

「授業の概要」江戸時代から明治，大正，昭和，平成と200年の美術の歴史をテーマを軸にたどっていく。17世紀以降の西欧の近代史，近現代美術史にも言及し，世界的視野のなかでの日本文化を考える。

〔教材〕

教科書：土方定一『日本の近代美術』（岩波文庫青574-1）岩波書店，2012年
清水敏男『THE MIRROR』東京書籍，2016年
椹木野衣『日本・現代・美術』新潮社，1998年

参考書：野家啓一『パラダイムとは何か』（講談社学術文庫）講談社，2014年
ジャック・アタリ『21世紀の歴史』作品社，2011年

教科書を読みレポートを提出すること。（1000字X3本）10月「THE MIRROR」，11月「日本の近代美術」，12月「現代・日本・美術」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

東京国立近代美術館，国立西洋美術館を調査しレポート（1000字X2本）を初回提出すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，展覧会調査レポート（1000字×10本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，午後２時半から３時
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　近代と近代美術の概念について
第２週　江戸時代の近代性
第３週　高橋由一
第４週　工部美術学校とフォンタネージ
第５週　フェノロサと岡倉天心
第６週　日本美術院の絵画
第７週　黒田清輝，藤島武二の意味
第８週　藤田嗣治
第９週　阪神間モダニズム
第10週　吉原治良と前衛美術
第11週　具体美術協会と実験工房
第12週　ネオダダ，ハイレッドセンター，もの派
第13週　1980年代の日本美術
第14週　1990年代の日本美術
第15週　2000年代の日本美術

形象文化論VI（芸術交流論）

3613051600100

副　題	近代日本の音楽文化の諸相							担　当　者	高久　暁　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ART-206-JC

〔授業の到達目標〕

・現代日本の音楽文化の基層をなしている近代日本（江戸時代末期から明治時代・大正時代・昭和初期）の音楽の諸相とその豊かさを知り，日本の音楽文化により深く多面的にアプローチできるようにする。

・近代日本の音楽ジャンルを代表する曲種と楽曲，歴史的に重要な役割を果たした作曲家・演奏家たちについて，録音資料や映像資料を介して体感的に知る。

〔授業の内容〕

江戸時代末期から昭和初期にかけての時代は，日本の音楽文化がダイナミックな進展と変化を遂げた時期として特筆されます。今年度の授業では，この時期に発生・発展・消滅あるいは発展的解消を見たさまざまな音楽をジャンル横断的に紹介してその音楽的実態を知り，社会的背景や影響関係についても考察を行います。授業では録音資料や映像資料を積極的に活用します。

〔教材〕

教科書は特に使用しません。講師の作成したプリントを配布します。参考図書はたくさんあるので，授業で指示あるいは紹介するようにします。レポート作成の際に，これらの参考図書を読む必要があります（［成績評価の方法］を参照）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として調べるべき項目（人名や作品名や用語など）や聞くべき音楽（動画サイトを用いることもあります）を授業で指示することがあります。その場合，一回の授業について30分から１時間程度の時間が必要となるでしょう。詳細は初回の授業で説明します。

〔成績評価の方法〕

出席の回数とレポートを総合的に評価します。今年度は短いレポート(授業の内容に関連する首都圏の音楽博物館，または展示の見学報告)と，授業の内容に基づいたレポート１通（学期末のレポート，2400字程度）の提出を課します。レポートを作成するために授業で指示された参考図書を読む必要があります。詳細は初回の授業で説明します。また，７月初旬の授業でもプリントを配布して詳しく指示を行います。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

・出講時限の前後の時間帯に直接面会するようにしてください。

・学期末レポートの執筆要領を記したプリントに，教員と確実に連絡の取れるメールアドレスを書くようにします。

〔備考〕

音楽の専門的知識や経験は必要ありませんが，義務教育修了程度までの音楽全般にわたる知識は前提とします。社会情勢の変化に応じて，授業内容を変更する場合があります。日本と隣接地域（朝鮮半島，中国大陸，台湾など）の地理の知識や近代史の基礎的な知識が必要となる場合もありますが，最低限の必須項目は授業でも触れるようにします。授業に出席して，どのようなタイプの音楽も積極的に聞き取ってゆく態度が一番大切です。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス，音楽をめぐる学問とその広がり，音楽の調べ方，首都圏の代表的な音楽資料館とその利用法，成績評価の課題（レポート）の説明ほか
第２週　日本の音楽文化の特質（１）歴史的・地理的概観
第３週　日本の音楽文化の特質（２）社会史的概観
第４週　日本の音楽文化の特質（３）近代日本の音楽文化の特質
第５週　失われた近代日本の外来音楽（１）明楽・琉球宮廷音楽：日本の音楽文化のなかの中国音楽
第６週　失われた近代日本の外来音楽（２）清楽・清楽から演歌・歌謡曲へ
第７週　唱歌の諸相（１）複数の「唱歌」・学習院でも歌われた保育唱歌
第８週　唱歌の諸相（２）唱歌の東アジア世界への伝播
第９週　唱歌の諸相（３）唱歌の細分化・儀式唱歌と校歌・社歌
第10週　西洋音楽の大衆化の諸相
第11週　邦楽の近代・新日本音楽とその後
第12週　戦前期の西洋音楽（１）　作曲家とその作品(山田耕筰，信時潔ほか)
第13週　戦前期の西洋音楽（２）　演奏家とその演奏（久野久・澤田柳吉から原智恵子・安川加壽子など)
第14週　戦前期の西洋音楽（３）　外来演奏家たちの役割とその演奏
第15週　授業で十分に触れられなかった重要事項について，まとめ

授業計画については初回の授業でも説明します。

身体文化論I（近現代舞踊）

3613053000100

副　題								担　当　者	内野　儀　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-207-JC

〔授業の到達目標〕

バレエからはじまる芸術としての舞踊について，歴史的知識を習得し，個々のジャンルやアーティスト，作品の芸術的意義について説明できるようになる。

〔授業の内容〕

簡単にバレエの歴史を振り返り，ひきつづき，20世紀に日・米・欧で創造された現代舞踊を順次とりあげ，その活動を映像資料で紹介し，その思想や活動の意義を現代芸術との関係の中で考察する。

〔教材〕

教科書：鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史』平凡社，2012年
　　尼ヶ崎　彬『ダンス・クリティーク』勁草書房，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(授業でとりあげる予定の舞踊家等についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた舞踊家等についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験により評価するが，場合によってはレポートに代替することもある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔備考〕

※旧科目「身体文化論Ⅰ（現代舞踊）」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　バレエの歴史（１）
第２週　バレエの歴史（２）
第３週　バレエの歴史（３）
第４週　マーサ・グラハムとモダンダンス
第５週　石井漠と日本の新舞踊
第６週　カニングハムとバランシン
第７週　ポスト・モダンダンスの実験
第８週　土方巽と暗黒舞踏
第９週　モーリス・ベジャール
第10週　アルヴィン・エイリー
第11週　フランスのヌーヴェル・ダンス
第12週　ピナ・バウシュとフォーサイス
第13週　新しい潮流
第14週　日本のコンテンポラリー・ダンス（１）
第15週　日本のコンテンポラリー・ダンス（２）
上記計画は現在の予定であり，じっさいには変動することがある。

身体文化論II（現代演劇）

3613053200100

副　題								担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-208-JC

〔授業の到達目標〕

明治維新にともなう日本近代化への努力の一部としての「近代的演劇」の模索，1960年代の反近代を標榜する文化革命の一部としての「反近代演劇」の実験，そして現代の多様な演劇実践について，基本的知識を獲得し，自分自身の視点をもって説明できるようになる。

〔授業の内容〕

明治の新しい演劇への出航と，1960年代以降の創造的な演劇に焦点を当て，現代の「ポストドラマ演劇」までを映像資料を利用しつつ概観する。

〔教材〕

授業中に指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(シラバスに示した演劇人についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた演劇人についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験によって評価するが，場合によってはレポートによって代替する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　演劇改良運動から新劇の登場まで
第２週　新劇の展開
第３週　60年代演劇１（鈴木忠志）
第４週　60年代演劇２（唐十郎）
第５週　60年代演劇３（寺山修司）
第６週　70年代演劇（つかこうへい）
第７週　80年代演劇１（野田秀樹）
第８週　80年代演劇２（鴻上尚史）
第９週　80年代演劇３（女性作家たち）
第10週　90年代演劇１（平田オリザ）
第11週　90年代演劇２（宮城聡）
第12週　ゼロ年代演劇１（岡田利規）
第13週　ゼロ年代演劇２　（矢内原美邦）
第14週　現代演劇（さまざまな新潮流１）
第15週　現代演劇（さまざまな新潮流２）
演劇改良運動，新派・新劇，アンダーグラウンド演劇，小劇場演劇，そしてパフォーマンスを含む現代の演劇までを映像資料を見つつ，紹介する。

日本思想研究I（神話）

3613061100100

副　題	神話から日本の思想を探る								担　当　者	平藤　喜久子　講師
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	JPN-209-JC

〔授業の到達目標〕

日本神話の学びを通し，日本人の古代から現代への思想について学び，知見を得る。

〔授業の内容〕

神話学の方法を用いて日本の神話をさまざまな角度から分析し，日本人の思想について，その成り立ちや普遍性，固有性などを考えていく。

〔教材〕

教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院，1996年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に予告された内容について，テキストを読んだり，調べたりする。60分程度。

〔成績評価の方法〕

授業時試験。机上レポート

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業終了時に受ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　神話の読み解き方
第３週　神話と神道
第４週　神話と民間信仰
第５週　神話と昔話
第６週　神話の比較１はじまりの神話
第７週　神話の比較２人間のはじまり
第８週　神話の比較３作物の起源，火の起源
第９週　神話の比較４英雄の神話
第10週　神話の比較５英雄の神話２
第11週　神話と心１
第12週　神話と心２
第13週　神話と心３
第14週　神話と現代
第15週　試験。机上レポート
授業計画は，履修者に示した上で，変更される可能性がある。

日本思想研究II（仏教）

3613061200100

副　題	日本的仏教の特色							担　当　者	加藤　みち子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	PHL-210-JC

〔授業の到達目標〕

・世界宗教の一つである仏教の基本的な考え方を理解すること。

・インド，中国・東南アジアなどの仏教とは異なる「日本仏教」の特色について理解を深めること。

・現代にまで通じる仏教思想の日本文化への定着の諸相について知識を得ること。

〔授業の内容〕

本講義では，日本思想との出会いによって変容し日本化した仏教の特色について理解することを目指します。

具体的には，中国で成立し，日本独自の展開をした，禅，浄土，密教，天台などの思想を，中国と日本を比較しながら説明していきます。また。各宗派が説法に用いた絵画資料なども手掛かりに，日本仏教独自の仏教信仰，現代にまで通じる仏教行事の意味などについても解説していきます。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『絵から読み解く日本仏教－日本仏教概論』山喜房佛書林，2012年

参考文献，補助的参考文献については，講義の中で随時，紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，配布プリントの指定個所をあらかじめ読んでから出席すること。（約30分）

授業後は，教科書・配布プリント・ノートを再読し，紹介された参考文献を読んで理解を深めること。（約90分）

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業内ミニレポート等（30%）の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

第一回授業に必ず出席してください。成績評価，授業の進め方等について重要な説明をします。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンスとイントロダクションー世界宗教としての仏教
第２週　東アジア仏教の特色ー漢文経典の成立と，宗派仏教
第３週　禅と禅宗ーその思想と特色
第４週　「十牛図」からみる禅の思想と禅の日本化
第５週　阿弥陀仏の浄土と念仏ー浄土宗とその教え
第６週　「来迎図」からみる浄土思想と日本的浄土思想
第７週　薬師如来と温泉信仰
第８週　神仏習合とはー「女体権現」とは？
第９週　閻魔王と地獄，そして法華経信仰
第10週　六道輪廻と地蔵信仰
第11週　施餓鬼供養と観音信仰
第12週　霊山曼荼羅と修験の思想
第13週　「観心十法界図」と天台の思想
第14週　「曼荼羅」と密教の思想
第15週　エピローグ－日本思想と「日本的」仏教の特色

授業計画は進み具合によって，若干変更することがあります。

日本思想研究III（神道）

3613061300100

副　題	神道思想の特色							担　当　者	加藤　みち子　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	PHL-211-JC

〔授業の到達目標〕

・仏教の仏や，キリスト教の神とは異なる，神道・神祇信仰の「かみ」と「かみまつり」の意味を理解すること。

・日本思想史上における神道理論の成立・発展とその意義を理解すること。

〔授業の内容〕

本講義は，古代以来，日本の生活思想文化の形成に多大な影響を与えた「神祇信仰」と「神道思想」の特色を，12世紀から17世紀を中心にみていきます。この作業を通して，現代日本人の生活にも深くかかわる「神道思想」とその意義を考察することを目指します。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『「かみ」は出会って発展する－神道ではない日本の「かみ」史・古代中世編』北樹出版，2011年

教科書は必携です。必ず入手し，毎時間持参してください。学習を深めるための参考書は，授業内で，随時紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書・配布プリントの指定個所を読んで質問が出来るようにして来てください。（約30分）

教科書・配布資料を再読し，参考文献を読んで理解を深めてください。（約90分）

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業内ミニレポート等（30%）の総合評価です。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業後に質問等を受けつけます。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

第１回授業に必ず出席してください。単位取得等に関する重要事項を説明します。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方についてのガイダンス，イントロダクション
第２週　「かみ」に関する基礎知識
第３週　「かみまつり」に関する基礎知識
第４週　変容発展する「かみ」
第５週　仏教と出会って発展する「かみ」－八幡神
第６週　本地垂迹と山王神道
第７週　伊勢神宮の祭神
第８週　神道五部書と「皇」字をほしがる神
第９週　度会家行と伊勢の神道説
第10週　日本は「神国」か？
第11週　御霊信仰－人の「たま」を神としてまつること
第12週　「心」と出会った神－吉田神道説
第13週　三社託宣と「かみのことば」
第14週　「神もうで」のいろいろ－遠隔地の神社への参拝の意味
第15週　エピローグ－日本思想と神道
だだし，進み具合，受講生の理解度によって多少変更することがあります。

☆日本思想研究Ⅳ（劇場の思想）

3613062000100

副　題								担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	PHL-212-JC

〔授業の到達目標〕

人々が集まり，そこで何かが行われる場所／空間を広い意味での劇場と捉える。西洋にとどまらず日本を含む文化圏における広い意味での劇場という場所／空間の歴史を学ぶことで，劇場という場所／空間が果たしうる役割を考え，説明できるようになる。

〔授業の内容〕

劇場の歴史を，ギリシャ・ローマ時代から始め，ルネッサンスから近・現代にいたるまで，日本における能舞台や歌舞伎劇場についても言及しながら，まずは辿ってみる。ひきつづき，現代日本における劇場という制度の現状や問題点について考える。

〔教材〕

開講時に指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(シラバスに示した事項について教科書による学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた事項についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験により評価するが，場合によってはレポートに代替することもある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔備考〕

※旧科目「日本思想研究Ⅳ（歌学）」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　劇場とは何か？
第２週　ギリシャ・ローマ時代
第３週　ルネッサンスの劇場
第４週　西洋近代の劇場（１）
第５週　西洋近代の劇場（２）
第６週　現代西洋の劇場（１）
第７週　現代西洋の劇場（２）
第８週　日本の劇場（１）
第９週　日本の劇場（２）
第10週　日本の劇場（３）
第11週　現代日本の公共劇場（１）
第12週　現代日本の公共劇場（２）
第13週　現代日本の公共劇場（３）
第14週　劇場論の射程（１）
第15週　劇場論の射程（２）
上記計画は現在の予定であり，じっさいには変動することがある。

日本思想研究VI（近世思想）

3613061600100

副　題								担　当　者	吉田　麻子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PHL-214-JC

〔授業の到達目標〕
わたしたちが生きている今の時代の価値観・もののとらえ方・考え方などは絶対的なものではないということを実感し，相対化できるようになること。

〔授業の内容〕
近年のアニメ「妖怪ウォッチ」の大流行をあげるまでもなく，現代科学がいくら進んだところで，わたしたちはこの世ならぬものに対しての興味を失うことは決してありません。いつになっても「本当にあった怖い話」は尽きることなく口にのぼり，多くの人々の関心をひきつけて止みません。
また，わたしたちが普段から「霊魂なんて存在しない，死んでしまえばそこにあるのは無だけだ」と考えていたとしても，やっぱり親しい人のお墓の前に立てば，自然と心の中でその向こうにいる誰かに向かって言葉をかけてしまうのも事実です。つまり，現代人である私たちは，一方では「死後の魂」や「この世ならぬ不思議なものたち」について冷静で客観的な意識を持ちながらも，どこかで完全には割り切ることができないという，大変あいまいで矛盾した感覚をもっているのではないでしょうか。
ところで，近代西洋科学が入ってくる以前の日本では，死や死後の世界，あるいは妖怪や幽霊といった不思議な存在は，現代の私たちが感じているよりもずっと身近で当たり前のものでした。
この授業では，江戸時代の日本人が，人間の死生をどう考えていたのか，またそこに神や妖怪や幽霊はどう関わっていたのかについてとりあげます。特に，江戸時代の思想家・平田篤胤（篤胤は妖怪話を研究し，また人の霊魂の行方を考えました）を中心に考えていきます。

〔教材〕
教科書：吉田麻子『平田篤胤ー交響する死者・生者・神々』平凡社新書，２０１６年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習・・・テキストの次の章を読んでおく。復習・・・授業でとったノートや書き込んだプリントの断片的な情報を，次の授業までに，もう一度，自分の言葉できちんとした文章に直しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業全体の三分の二以上の出席を最低条件として，成績評価は授業中に提出する課題が20%，最後に課すレポートが80%とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　二十一世紀の死生観１
第３週　二十一世紀の死生観２
第４週　二十一世紀の死生観３
第５週　霊魂のゆくえと西洋文明の接近
第６週　鬼神は実在するのか
第７週　大江戸妖怪ブーム
第８週　土着的奇談とフィールドワーク
第９週　祈ること祭ること
第10週　死と生の捉え直し１
第11週　死と生の捉え直し２
第12週　江戸の知識人と異界
第13週　南島の死生観１
第14週　南島の死生観２
第15週　まとめ

日本文学論I（上代）

3613071100100

副　題	万葉集の恋１―相聞歌の世界１―							担　当　者	倉住　薫　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-215-JC

〔授業の到達目標〕

万葉歌の表現分析を通じ，相聞歌の世界を理解する。

〔授業の内容〕

日本最古の歌集である万葉集には，さまざまな恋の歌（相聞歌）が収載されている。相手に「恋」する心は，1000年以上隔たった万葉集の時代も現代も，基本的には同じである。しかし「恋」を取り巻く状況や環境は，現代とは全く異なっている。例えば，愛の言葉を綴るメールや携帯電話も，会いたいときにすぐに会うための交通手段も存在しない。自由な恋愛は必ずしも歓迎されてはいなかった。その一方で，人妻への愛を高らかと歌う歌も，万葉集にはある。

万葉集の時代の人々は，どんな恋をし，どのように恋の心を歌ったのであろうか。

本講義では，上代文学を読むための基礎知識をふまえ，他の上代文学作品（古事記・日本書紀など）を参考にしつつ，歌が詠まれた状況や，歌の意味を理解していく。具体的な歌の分析を通して，万葉集の恋の歌を理解していきたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・配布プリントに目を通し，対象作品の注釈書を調査する。120分

〔成績評価の方法〕

毎回の小レポートと確認のための試験（持ち込み不可），授業への参加姿勢を総合して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
　　上代文学を学ぶための基礎知識
第２週　文学の発生
第３週　万葉集の「こひ」　1
　　－大伴百代と坂上郎女－
第４週　万葉集の「こひ」　2
　　－大伴百代と坂上郎女－
第５週　万葉集の「こひ」　3
　　－大伴百代と坂上郎女－
第６週　但馬皇女の恋　1
第７週　但馬皇女の恋　2
第８週　但馬皇女の恋　3
第９週　をとめの伝説　1
　　－菟原処女－
第10週　をとめの伝説　2
　　－菟原処女－
第11週　をとめの伝説　3
　　－菟原処女－
第12週　万葉集の七夕歌　1
第13週　万葉集の七夕歌　2
第14週　万葉集の七夕歌　3
第15週　まとめと確認

日本文学論II（上代）

3613071200100

副　題	万葉集の恋２―相聞歌の世界２―							担　当　者	倉住　薫　講師
単位	２	配当年次	２～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	２	コース・ナンバー	LIT-216-JC

〔授業の到達目標〕

万葉歌の表現分析を通じ，相聞歌の世界を理解する。

〔授業の内容〕

日本最古の歌集である万葉集には，さまざまな恋の歌（相聞歌）が収載されている。相手に「恋」する心は，1000年以上隔たった万葉集の時代も現代も，基本的には同じである。しかし「恋」を取り巻く状況や環境は，現代とは全く異なっている。例えば，愛の言葉を綴るメールや携帯電話も，会いたいときにすぐに会うための交通手段も存在しない。自由な恋愛は必ずしも歓迎されてはいなかった。その一方で，人妻への愛を高らかと歌う歌も，万葉集にはある。

万葉集の時代の人々は，どんな恋をし，どのように恋の心を歌ったのであろうか。

本講義では，上代文学を読むための基礎知識をふまえ，他の上代文学作品（古事記・日本書紀など）を参考にしつつ，歌が詠まれた状況や，歌の意味を理解していく。具体的な歌の分析を通して，万葉集の恋の歌を理解していきたい。

〔教材〕

授業時の配布プリント

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・配布プリントに目を通し，対象作品の注釈書を調査する。120分

〔成績評価の方法〕

毎回の小レポートと確認のための試験（持ち込み不可），授業への参加姿勢を総合して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
　　上代文学を学ぶための基礎知識
第２週　文学の発生
第３週　相聞歌の始発　１
　　―磐姫と仁徳天皇―
第４週　相聞歌の始発　２
　　―磐姫と仁徳天皇―
第５週　相聞歌の始発　３
　　―磐姫と仁徳天皇―
第６週　禁忌の恋　１
　　―采女との恋―
第７週　禁忌の恋　２
　　―采女との恋―
第８週　禁忌の恋　３
　　―采女との恋―
第９週　大津皇子と大伯皇女の物語　１
第10週　大津皇子と大伯皇女の物語　２
第11週　大津皇子と大伯皇女の物語　３
第12週　柿本人麻呂と妻　１
第13週　柿本人麻呂と妻　２
第14週　柿本人麻呂と妻　３
第15週　まとめと確認

日本文学論III（中古）

3613071300100

副　題	越境する物語							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIT-217-JC

〔授業の到達目標〕

平安時代の物語が，海外に対して開かれた視座を有していることを，具体的作品に即して理解する。

〔授業の内容〕

『竹取物語』,『うつほ物語』,『浜松中納言物語』を中心に，そこに登場する舶来の品々に着目し，王朝人の国際感覚を確認するとともに，海外を舞台として新たな物語を展開する，王朝人の想像力の在り方について考察する。

〔教材〕

教科書：上坂信男訳注『竹取物語』（講談社学術文庫）講談社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前の作品講読と事後の補足的調査。3時間。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），レポート（80%）を概ねの目安とし，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後1時半～2時半。

moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　受講生の確認と授業計画の説明。
第2週　物語文学史概説
第3週　異国を描く物語について
第4週　『竹取物語』の構造
第5週　求婚難題説話と舶来品（1）
第6週　求婚難題説話と舶来品（2）
第7週　求婚難題説話と舶来品（3）
第8週　『うつほ物語』の構造
第9週　『うつほ物語』の類聚趣味
第10週　蔵を開く物語―『うつほ物語』とアラビアンナイト
第11週　俊蔭巻の波斯国描写の特質
第12週　俊蔭巻の波斯国とアジア世界
第13週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（1）
第14週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（2）
第15週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（3）

※日本文学論Ⅳ（中古）

3613071400100

副　題	英語圏の日本古典文学研究について							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIT-218-JC

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』や『更級日記』の英訳本の読解を通じて，日本の古典文学を海外の読者に紹介することの意義や問題点について，具体的に考察し理解を深めてもらう。

〔授業の内容〕

海外の日本文学研究，とりわけアメリカを中心とする英語圏におけるそれは，量的にも質的にも充実度を増しているが，そのような海外の研究に対する日本国内の研究者や読書人の関心は，残念ながら決して高いとは言えない。授業では，そうした偏りを是正する意味もこめて，日本古典文学に関する英語圏の論文を紹介する。この授業を通じて，日本文学や日本文化に対する国際的理解なるものが，基本的に翻訳を前提としてしか成り立たないという現実に目を向け，その意味を考えてもらう。また，アンツェン＆伊藤訳“The Sarashina Diary”を用いて，『更級日記』の新旧英訳の比較を具体的に行なう。

〔教材〕

参考書：ソーニャ・アンツェン＆伊藤守幸, *The Sarashina Diary*, Columbia University Press, 2014

教材は，適宜コピーして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

英語教材を多く用いるので，事前準備と事後の復習は欠かせない。４時間。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），レポート（80%）を概ねの目安とし，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。

moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　受講生の確認と授業計画の説明
第２週　英語圏の日本文学研究の歴史を概観する
第３週　英語圏における『源氏物語』受容の歴史について
第４週　アーサー・ウェイリー訳『源氏物語』登場の意義
第５週　「世界文学」としての『源氏物語』
第６週　川端康成のノーベル文学賞受賞をめぐって
第７週　川端康成の受賞記念講演の英訳について
第８週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（１）
第９週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（２）
第10週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（３）
第11週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（４）
第12週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（５）
第13週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（１）
第14週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（２）
第15週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（３）

日本文学論V（中世）

3613071500100

副　題	絵巻と文学、説話絵巻, お伽草子絵巻, 妖怪絵巻の世界							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	LIT-219-JC

〔授業の到達目標〕

中世日本における様ざまな物語文学・説話文学を知識とし，その特徴を文化史的に理解します。

日本のビジュアル・カルチャーの展開の把握と，文芸メディアとしての絵巻に親しみます。

〔授業の内容〕

代表的な説話絵巻，お伽草子絵巻，妖怪絵巻を取り上げて，その文芸面とビジュアル・カルチャーの意義を説明し，あわせて比較文化の視点からも講義します。

対象が視覚的な作品であることから，映像,画像を多用します。

〔教材〕

参考書などを授業の開始時および折々に紹介し，またプリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト（理解度の確認）とレポートによっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

基本的な事柄は，授業時に連絡します。

また，掲示によって連絡することがあります。

〔授　業　計　画〕

第１週　ことばと絵，文学と絵画
第２週　「絵解き」について
第３週　中世説話文学とお伽草子絵巻
第４週　絵巻物の展開
第５週　〃
第６週　〃
第７週　奈良絵本，絵入り版本の数かず
第８週　説話絵巻
第９週　〃
第10週　〃
第11週　お伽草子絵巻
第12週　〃
第13週　〃
第14週　妖怪絵巻
第15週　〃

本学の文化交流ギャラリー，および外部の美術館・博物館の見学を必須とします。
また，授業時に絵巻・奈良絵本・錦絵を，本物あるいは複製によって，熟覧できるるように計ります。

日本文学論VI（中世）

3613071600100

副　題	奈良絵本・絵巻にみる異郷・異界							担　当　者	恋田　知子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-220-JC

〔授業の到達目標〕

物語の形成と構造，本文と絵の関係，文化・信仰的背景など，さまざまな角度から奈良絵本や絵巻を読み解く力の獲得をめざします。問題を設定し，それを解決するのに必要な作業を学び，レポートや卒業論文を書くための基礎的な力を養います。

〔授業の内容〕

室町から江戸中期にかけて制作された彩色の絵入り本，いわゆる「奈良絵本・絵巻」を鑑賞します。奈良絵本・絵巻には，室町時代を中心に制作された短編の物語群であるお伽草子をはじめ，幸若舞曲や古浄瑠璃などの芸能をもとにした作品，王朝物語や軍記物語などもあり，素朴な絵本から豪華な絵巻まで多種多様である。

本講義では，各作品に描かれた「異郷」や「異界」を取り上げ，天竺・震旦・日本の三国世界観や東アジアの「異界」観，現代アニメなども視野に入れ，さまざまな角度から作品を読み解きます。

〔教材〕

参考書：市古貞次編『御伽草子』（日本古典文学大系）岩波書店，1958年
大島建彦・渡浩一編『室町物語草子集』（新編日本古典文学全集）小学館，2002年
松本隆信編『御伽草子集』（新潮日本古典集成）新潮社，1980年
小松和彦『異界と日本人―絵物語の想像力』角川書店，2003年
徳田和夫編『お伽草子百花繚乱』笠間書院，2008年
石川透『広がる奈良絵本・絵巻』三弥井書店，2008年
恋田知子『薄雲御所 慈受院門跡所蔵 大織冠絵巻』勉誠出版，2010年
鈴木健一編『海の文学史』三弥井書店，2016年

教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

シラバスや講義において紹介したお伽草子の作品や参考文献について，図書館等を利用して予習や復習を試み（４時間程度），講義内容の理解を深めてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・コメント内容・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は毎回のコメント用紙や授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡してください。

〔備考〕

講義形式ですが，最後の10～15分を使って毎回コメントを書いてもらう予定です。
講義に反映したいので，意欲的に取り組んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　講義概要および評価方法・室町期の文芸について
第２週　概説　奈良絵本・絵巻の特徴
第３週　『浦島太郎』にみる竜宮と蓬莱１
第４週　『浦島太郎』にみる竜宮と蓬莱２
第５週　鬼のすみか　―『酒呑童子』１―
第６週　鬼のすみか　―『酒呑童子』２―
第７週　天上の異郷　―『天稚彦草子』１―
第８週　天上の異郷　―『天稚彦草子』２―
第９週　異界探検　―『富士の人穴草子』１―
第10週　異界探検　―『富士の人穴草子』２―
第11週　異国をめぐる　―『御曹子島渡』―
第12週　お伽草子における異国「天竺」「唐土」―『不老不死』『二十四孝』―
第13週　『大織冠絵巻』にみる唐と竜宮１
第14週　『大織冠絵巻』にみる唐と竜宮２
第15週　まとめ　―唐と日本の境「ちくらが沖」―

講義の進行状況にあわせて，取り上げる作品や順序を変更する場合もあります。
初回ガイダンスには必ず参加してください。

日本文学論VII（近世）

3613071700100

副　題	仮名草子の世界							担　当　者	恋田　知子　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-221-JC

〔授業の到達目標〕

仮名草子の諸作品を中心に江戸の文芸に親しみ，当代の文化や思想，社会状況を考慮しながら，さまざまな角度から作品を読み解く力を育成します。問題を設定し，それを解決するのに必要な作業を学び，レポートや卒業論文を書くための基礎的な力を養います。

〔授業の内容〕

江戸初期に創られた，平仮名主体の散文文芸である仮名草子を鑑賞します。印刷技術の発達により，読者層が拡大した近世には，さまざまなジャンルの文芸が誕生します。本講義では，中世から近世の過渡期に位置づけられる仮名草子は，物語や詩歌，日記や随筆，評論や実録など多様なジャンルを含んでおり，のちに花開く江戸文芸の萌芽を見てとることもできます。

本講義では近世文学の特徴的なテーマに即して仮名草子の諸作品を読み解きます。中世からの物語草子の流れと新興の文学の特徴を明らかにし，仮名草子の諸作品から江戸の文学や文化，社会について考察します。

〔教材〕

参考書：前田金五郎・森田武編『仮名草子集』（日本古典文学大系）岩波書店
渡辺守邦・渡辺憲司編『仮名草子集』（新日本古典文学大系）岩波書店
朝倉治彦編『未刊仮名草子集研究（一）』未刊国文資料刊行会
中野三敏『江戸の出版』ぺりかん社，2005年
冨士昭雄編『江戸文学と出版メディア』笠間書院，2001年
堤邦彦『江戸の怪異譚―地下水脈の系譜』ぺりかん社，2004年

教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

シラバスや講義において紹介したお伽草子の作品や参考文献について，図書館等を利用して予習や復習を試み（４時間程度），講義内容の理解を深めてください。授業では作品の一部しか取り上げないので，各自興味を持った作品を読んでみるよう心がけてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・コメント内容・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は毎回のコメント用紙や授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡してください。

〔備考〕

講義形式ですが，最後の10〜15分を使って毎回コメントを書いてもらう予定です。
講義に反映したいので，意欲的に取り組んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　―　講義概要および評価方法，江戸の文芸とは　―
第２週　概説１　近世文学の特徴　―　出版文化の隆盛と劇文学の展開　―
第３週　概説２　仮名草子の特徴　―　お伽草子・仮名草子・浮世草子　―
第４週　古典へのまなざし１　―　古活字本の発達と古典の隆盛　―
第５週　古典へのまなざし２　―『仁勢物語』の方法　―
第６週　女性へのまなざし１　―『名女情比』と遊里・遊郭の文芸　―
第７週　女性へのまなざし２　―『露殿物語』と西鶴の好色物　―
第８週　死へのまなざし１　―　九相図の世界　―
第９週　死へのまなざし２　―『一休骸骨』と『二人比丘尼』―
第10週　動物へのまなざし　―　異類物の系譜と『伊曾保物語』の展開　―
第11週　旅へのまなざし１　―　寺社参詣と縁起・略縁起　―
第12週　旅へのまなざし２　―『竹斎』『東海道名所記』から滑稽本へ　―
第13週　怪異へのまなざし１　―　寺院の唱導と江戸怪談　―
第14週　怪異へのまなざし２　―『伽婢子』にみる翻案と『雨月物語』の達成　―
第15週　まとめ　―　ふたたび，江戸の文芸とは　―

講義の進行状況にあわせて，取り上げる作品や順序を変更する場合もあります。
初回ガイダンスには必ず参加してください。

☆日本文学論VIII（近現代）

3613071800100

副　題	日本近代小説史							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIT-222-JC

〔授業の到達目標〕

日本の近代小説の歴史を学び，文学史の基礎を身につける。
日本の近代文学の展開を，歴史や思想の流れとともに理解する。

〔授業の内容〕

この授業では明治から昭和期に至る近代日本の小説の歴史についての概説を行う。作家と作品とが生み出される歴史的・社会的なコンテクストを学びつつ，日本の近代小説が模索してきた問題と表現について探究する。できるだけ多くのさまざまな小説テクストに実際に触れてもらいたい。

〔教材〕

教科書：安藤宏『日本近代小説史』（中公選書）中央公論新社，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として教科書を事前に読み(1時間)，また授業や教科書で扱った小説テクストを自分で読むこと(3時間)。

〔成績評価の方法〕

授業時に提出するリアクションペーパー(40%)と，期末レポート(60%)により評価する。
なお，授業実施回数の1/3以上欠席した場合は，履修したとは認められない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日・４時間目をオフィス・アワーとする。事前に直接授業中に，もしくは日本文化学科事務室をつうじてアポイントメントを取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　文明開化期の「文学」――戯作・翻訳小説・政治小説
第３週　「小説」の誕生――坪内逍遥と二葉亭四迷
第４週　言文一致と文壇形成
第５週　『文学界』から悲惨小説・初期自然主義文学へ
第６週　日露戦後文学
第７週　自然主義・漱石・鴎外
第８週　大正文壇の成立
第９週　白樺派と教養主義
第10週　マルキシズムとプロレタリア小説
第11週　モダニズムの小説
第12週　昭和前期の「文芸復興」
第13週　戦争と文学
第14週　戦後の作家たち
第15週　高度経済成長下の小説

☆中国文学論I

3614007100100

副　題								担　当　者	和田　浩平　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIT-223-JC

〔授業の到達目標〕

教養として広く中国文学に親しむこができ，また中学校，高等学校における国語教育(古典)の現場で，豊かな漢文学習の指導ができるように中国文学における特に漢詩(韻文)の歴史とその特質について，系統的に習得することを目指すものである。教材の選定，読解と鑑賞の方法，言語感覚と表現力の向上指導など，国語教育の現場において必要とされる技法も合わせて習得したい。

〔授業の内容〕

授業は，漢文・中国文学を系統的に習得するために，特に漢詩（韻文）の歴史と特質の面から講義するものである。詩経，楚辞，漢代の韻文学，魏晋南北朝の詩，唐詩（初唐，盛唐，中唐，晩唐），宋詩，元詩，明詩，清詩に至るまでを網羅的に取り上げていくことにする。

〔教材〕

教材は授業時に適宜配布します。

参考書としては，佐藤一郎著『中国文学史』(慶應義塾大学出版社)をあげておきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布されたプリントを，30分から１時間程度かけて，予習と準備をするのが望ましい。

〔成績評価の方法〕

授業時の発表，小テスト，レポート等により，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業前及び授業後の休み時間

〔授　業　計　画〕

第１週　中国文学（漢詩）の歴史と特質
第２週　詩経
第３週　楚辞
第４週　漢代の韻文学　古詩十九首
第５週　魏晋南北朝の詩（一）曹操，曹植
第６週　魏晋南北朝の詩（二）陶淵明，謝霊雲
第７週　初唐の四傑
第８週　盛唐の詩（一）孟浩然，王維
第９週　盛唐の詩（二）李白，杜甫
第10週　中唐の詩（一）白居易
第11週　中唐の詩（二）韓愈，柳宗元
第12週　晩唐の詩　杜牧，李商隠
第13週　宋代の詩
第14週　元代の詩
第15週　明清の詩

☆現代文化論I（都市論）

3616011100100

副　題								担　当　者	岩館　豊　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	SOC-301-JD

〔授業の到達目標〕

1）現代都市をめぐる課題や議論について基本的な知識を身につける。
2）都市や文化に関する現象を社会の成り立ちや変化と関連づけて考察できるようになる。
3）具体的な都市や文化事象について調べ思考したことを表現できるようになる。

〔授業の内容〕

都市とは，人々の新たなつながりや文化が生まれてくる場所です。その一方で，一定のつながり方や生き方を強いてくるような空間でもあります。この授業では，グローバル化，貧困・格差や労働，災害などのテーマや議論を中心にとりあげながら，現代文化の特質や課題そして可能性について，都市（論）という視角から考察していきます。都市で起こる事象には，社会のあり方や変化といったものが，しばしば矛盾や困難をともないながら具体的なかたちで立ち現れてきます。と同時に，都市に生きる人々の実践には，新たな文化と生き方の胎動があります。都市の現実に学ぶことは，来たるべき都市と文化をつくるための手がかりを探究することに他なりません。

〔教材〕

教科書：中筋直哉・五十嵐泰正『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房，2013年
参考書：町村敬志『都市空間に潜む排除と反抗の力』（差別と排除の〔いま〕）明石書店，2013年
若林幹夫『都市論を学ぶための12冊』弘文堂，2014年
特定の教科書は使用しません。授業のなかで，参考となる文献などを紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習として，毎回配布するレジュメや資料をよく読んできてください。
受講生は，講義内容に関する中間レポートおよび最終レポートを執筆していきます。レポート作成のための作業が必要となります。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（15%），中間レポート（35%），最終レポート（50%）を総合して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の前後に声をかけてください。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　導入：社会変動と都市
第３週　高度経済成長と都市（１）：都市問題
第４週　高度経済成長と都市（２）：「金の卵」
第５週　グローバル化と都市（１）：郊外の団地から
第６週　グローバル化と都市（２）：郊外の団地から
第７週　レポートについて：都市を調べ，書く
第８週　新自由主義と都市（１）：貧困と格差
第９週　新自由主義と都市（２）：過重労働と不安定雇用
第10週　新自由主義と都市（３）：若者の労働組合
第11週　災害と都市（１）：阪神・淡路大震災の経験
第12週　災害と都市（２）：東日本大震災とボランティア
第13週　災害と都市（３）：東京のインフラ危機
第14週　ヒトーモノの集合としての都市
第15週　まとめ
受講人数や受講生との議論に応じて，計画を組み替えていくことがあります。

現代文化論III（児童文化）

3616011300100

副　題	現代日本の児童文学が描いてきたもの							担　当　者	藤田　のぼる　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CHL-203-JD

〔授業の到達目標〕

児童文学のおもしろさを実感すると共に，児童文学作品を通して子どもの成長の実相や，大人として自立しようとしている自身のありかたを考察する手がかりとする。

〔授業の内容〕

大学の講義の中で「児童文学」という項目があることに意外の感を覚える人もいるでしょうが，そこには三つほどの意義を述べることができます。一つは，子ども時代本をあまり読まなかったという人はもとより，かなり読んだ人にしても，「読み残した」であろう作品はたくさんあり，そのおもしろさにふれてほしい，ということ。それから，将来母親ということも含めて大人として子どもと対する時のひとつのアイテムとして，子どもの本について知っておくことは有効だろう，ということ。そして，次の点がもっとも大切なことですが，今子ども時代と決別しようとしている大学生という時期に，児童文学にふれることで，自らの子ども時代の意味を自分の中で問い直してほしいということです。

講義でとりあげるのは，主に現代（といっても1960年代以降）の日本の児童文学作品で，物語を中心に，毎回さまざまな角度から２，３点の作品を紹介していきます。併せて，詩や絵本も随時紹介するので，相当駆け足の講義になりますが，児童文学そして自身の子ども時代再発見の契機になれば，と願っています。

〔教材〕

参考書：佐藤宗子・藤田のぼる『少年少女の名作案内　日本の文学・リアリズム編』自由国民社，2010年
佐藤宗子・藤田のぼる『少年少女の名作案内　日本の文学・ファンタジー編』自由国民社，2010年
藤田のぼる他『「場所」から読み解く世界児童文学事典』原書房，2014年

指定の教科書はなし。必要に応じ，プリント（短編作品など）を配布します。参考書は，いずれも主要な児童文学作品が紹介されているので，講義をさらに深めて理解するために有用です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義で紹介した作品を，可能な範囲で読むようにしてください。

〔成績評価の方法〕

基本的には，学期末に提出のレポートによって評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の場合は，学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　児童文学の講義を始めるにあたって
第２週　子どものいる場所から１～学校の中で
第３週　子どものいる場所から２～家族の中で
第４週　子どものいる場所から３～社会の中で
第５週　ファンタジーの方法１～向こう側の世界に
第６週　ファンタジーの方法２～この世界のどこかに
第７週　ファンタジーの方法３～ハイ・ファンタジーの世界
第８週　ファンタジーの方法４～新しいファンタジー
第９週　テーマを深める１～「生」と「死」をめぐって
第10週　テーマを深める２～“愛”について
第11週　テーマを深める３～「特別」の人たち
第12週　子どもを捉える視点から１～子どもの成長を描く
第13週　子どもを捉える視点から２～子どもの発見を描く
第14週　子どもを捉える視点から３～子どもの冒険を描く
第15週　まとめ～さまざまな子ども像
授業計画は状況により変更する場合があります。

☆現代文化論Ⅳ（ファッション）

3616011400100

副　題								担　当　者	徳井 淑子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-204-JD

〔授業の到達目標〕

現代ファッションの成立の経緯を理解し，私たちの生活のなかで生まれる新たなファッションについて批評できるようになる。また服飾における異文化交流の事例を理解し，比較文化の視野で日本の服飾文化を説明できるようになる。

〔授業の内容〕

現代ファッションの造形性と精神性を歴史的視野と比較文化の視点でとらえ直してみる。現代文化の産物と思われている今日のファッションは，意外に歴史のなかにルーツをもっている。新しいファッションとは，過去の服飾のさまざまな要素の組み合わせによって生まれると言ってもよい。一方で，今日の世界のグローバル化のなかで私たち日本人の服飾は，もはや和洋の二項対立によってとらえることはできない。本講義では，19世紀から今日にいたるヨーロッパの服飾事象，および東西の服飾文化の交流を紹介し，造形性の背景にある精神性を考察しながら現代服飾の特質を考える。

〔教材〕

参考書：京都服飾文化研究財団『ファッション』第1版，タッシェン，2005年
深井晃子『カラー版世界服飾史』第2版，美術出版社，2010年
徳井淑子『図説ヨーロッパ服飾史』（ふくろうの本）第1版，河出書房新社，2010年

教科書を使用しない。適宜プリントを準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の準備として復習に２時間以上，予習に２時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（50%），中間レポート（30%），毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

tokui.yoshiko●ocha.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　現代モードの誕生（１）20世紀ファッションの簡素化
第３週　現代モードの誕生（２）シャネルの功績
第４週　現代モードの誕生（３）ダンディスムの精神
第５週　歴史の記憶（１）黒服の系譜とクロモフォビア
第６週　歴史の記憶（２）色と文様に対する感情の東西比較
第７週　歴史の記憶（３）色彩調和の比較文化
第８週　模倣とファッション（１）デザイナーとコピー
第９週　模倣とファッション（２）オリジナリティと引用
第10週　模倣とファッション（３）復古調と異国趣味
第11週　模倣とファッション（４）近代の洋装化とジャポニスム
第12週　模倣とファッション（５）流行とブランド
第13週　身体呈示の社会性（１）ジェンダー
第14週　身体呈示の社会性（２）からだの矯正・整形・変形
第15週　理解度の確認

現代文化論V（イメージとメディア）

3616011500100

副　題	現実と虚構							担　当　者	堀江　秀史　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ART-305-JD

〔授業の到達目標〕
現代のメディア環境を批判的に考察するための知識を得る。また，その方法を習得する。
戦後日本における芸術家たちの取り組みについて，一定の知識を得る。
文化現象を学問的に論述するとはどういうことかを自ら考えられるようになる。また，それを言語として記述するための基礎的なディシプリンを身につける。

〔授業の内容〕
表現されたものが示す内容は，われわれが日々暮らす現実を反映することはあっても，現実そのものではない。フィクション，ノンフィクションの如何に拠らず，そこに表された世界は二次的なものにすぎない。しかし，そうした二次的な世界が現実を侵犯することもあり，現実と虚構は，実ははっきりと区別することが難しい。
本授業では，上に記した意味を，詩人・劇作家として知られる寺山修司（1935もしくは36年生，1983年没）の営みから詳しく解説する。戦後日本における，寺山のマスメディアを活用したテクストを主たる対象として，虚構が現実を侵犯する様々な作品，事例を紹介し，それらを手掛かりとして，映画，テレビ，ラジオ，雑誌などのメディアと現実の関わりについて考察する。
また，そうした具体的考察を通じて，現代日本文化を論ずることの意義と方法についても考えたい。

〔教材〕
参考書：上野俊哉、毛利嘉孝『カルチュラル・スタディーズ入門』筑摩書房，2000年
教科書は使用しない。授業では適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業中に示す参考文献（研究書）を読むこと。適宜紹介する文学その他の作品に，積極的に触れること。都内の映画，演劇，展覧会を観に行くこと。以上を強く推奨する（受講にあたっての義務ではない）。

〔成績評価の方法〕
毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（50%）及び期末レポートもしくはテスト（50%）によって評価する（レポートかテストかは初回に指示する）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業の前後。あるいは，随時メールによって対応。別途指示。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　イメージと言語１――寺山修司脚本による映像作品から
第３週　イメージと言語２――寺山修司脚本によるラジオドラマから
第４週　嘘と事実――寺山修司による語り
第５週　フィクションの枠組み，ラジオメディアと現実１――ウェルズ『宇宙戦争』から
第６週　フィクションの枠組み，ラジオメディアと現実２――寺山修司『大人狩り』から
第７週　フィクションへの現実の導入１――ドキュラマ論，ラジオ
第８週　フィクションへの現実の導入２――ドキュラマ論，演劇
第９週　フィクションへの現実の導入３――実験映像
第10週　ダイアローグとモノローグ――寺山修司の理念
第11週　独白と現実――フィクションの枠組みの中で
第12週　現代日本文化を論ずること１――比較文学の方法論概説
第13週　現代日本文化を論ずること２――比較文学の方法の実例
第14週　現実と虚構――寺山修司の写真
第15週　まとめ
上記は目安であり，内容は学生の興味関心に応じて変わる可能性がある――毎回の授業では，前半の時間を使って，リアクションペーパーに対して返答する。その内容によって授業の方向は変化し得る。

※現代文化論VI（カルチュラル・スタディーズ）

3616011600100

副　題	＜文化＞の力学を考える								担　当　者	本橋　哲也　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	SOC-306-JD

〔授業の到達目標〕

カルチュラル・スタディーズの基本的な思考と方法を学びます。

〔授業の内容〕

カルチュラル・スタディーズとは，大学の内外で日常的にみなさんが触れており，それに囚われ，創ってもいる＜文化＞の力学について考える方法です。そうした考え方にこれまで馴染みのなかった皆さんにも楽しく学んでいただけるよう，さまざまな映画を鑑賞することを通じて，そのような力関係を分析し考えます。自分の日常生活や周囲の人間関係，そして世界で生起する出来事にとって，＜文化＞がいかに関与しているかについての，思考の訓練を行い，他者の存在について思いを凝らすことの大切さを実感していただきたいと思います。

〔教材〕

教科書：本橋哲也『『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』』大修館書店，2006年

教科書は，授業中に朗読していただくなど，初回から最後まで毎回使用しますので，必ず教室に持ってきてください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として映画を見る（２～３時間）。

復習として教科書の内容を確認する（２～３時間）。

〔成績評価の方法〕

授業後の筆記試験による評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email:tedtedm●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　１）パワーポイント講義：「カルチュラル・スタディーズとは何か？～他者のまなざし」
第２週　２）アイデンティティ：「千と千尋の神隠し」
第３週　３）子ども：「亀も空を飛ぶ」
第４週　４）生殖：『ヴェラ・ドレイク』
第５週　５）メディア：『恋におちたシェイクスピア』
第６週　６）スポーツ：「ミリオンダラー・ベイビー」
第７週　７）音楽：『耳に残るは君の歌声』
第８週　８）ディアスポラ：「エレニの旅」
第９週　９）在日：「パッチギ！」
第10週　10）労働：『息子のまなざし』
第11週　11）ホロコースト：『シンドラーのリスト』
第12週　12）民族分断：『JSA』
第13週　13）難民：『イン・ディス・ワールド』
第14週　14）帝国：『プロスペローの本』
第15週　15）先住民：『鳥の歌』
集中講義科目として，９月11日(月)から13日(水)に実施予定。

現代文化論VII（スポーツ文化論）

3616011700100

副　題	スポーツという文化							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SPO-207-JD

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会について理解を深め，「スポーツを文化として捉える」という観点を「スポーツ文化複合」の側面から学ぶ。

〔授業の内容〕

衣・食・住・音楽・美術・演劇等々と同様に，スポーツという文化もまた，時代や国の情況によって多様な姿が映し出されてきた。スポーツは，その社会が織り成す「伝統」の，あるいは「現代」の様々な文化の糸と絡み合いながら，私たちの生活の中に根づいている。この時間では，スポーツという人間の営みとその社会的・文化的・歴史的背景（気候・風土・民族・時代・社会通念・社会制度・宗教・政治・教育・産業・メディア・ファッション・性差・健康等）との関わりを眺めながら，人間にとってあるいは現代社会においてスポーツとはどのような文化なのか，という問題を考えていきたい。同時に，スポーツの窓から見た，文化の「変容と持続」，あるいは「独自性と普遍性」についても論じていきたい。映像・小説・CM・マスメディア資料なども読み解きながら講義をすすめる。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通した上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（50%），理解度の確認（30～40%），授業への参加意欲（20～10%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目

日本文化学科事務室に問い合わせること。

〔備考〕

「特別授業」を開催する場合がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的とすすめ方
第２週　人はなぜスポーツをするのか（スポーツ映画を観る）
第３週　近代オリンピックⅠ
第４週　近代オリンピックⅡ
第５週　女性とスポーツ（女性スポーツの黎明期から現代まで）
第６週　ジェンダーとスポーツ（「らしさ」の社会通念とスポーツ）
第７週　イスラーム女性とスポーツ（異文化の中の近代スポーツ）
第８週　メディアとスポーツⅠ（テレビが変えたスポーツ文化）
第９週　メディアとスポーツⅡ（広告・CMとスポーツ）
第10週　近代スポーツと民族スポーツ（スポーツの普遍性と独自性）
第11週　イギリス生まれのスポーツとアメリカ生まれのスポーツ
第12週　パラリンピックとパラリンピアン
第13週　スポーツと環境問題
第14週　日本人とスポーツ（花見・遠足・運動会）
第15週　日本人とスポーツ（伝統スポーツと外来スポーツ）

メディア論

3616021100100

副　題	情報通信技術							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	INF-208-JD

〔授業の到達目標〕

情報理論の基礎を学習し，情報通信技術に関する理解を深める。また，社会科学的側面からインターネットの問題点や今後について，考察できる基礎知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

20世紀に誕生したコンピュータは，ネットワークで結ばれ巨大情報メディアに成長した。この講義では,コンピュータやインターネットについて解説する。技術的な内容が中心となるが,社会に与えた影響についても触れていく。また,「情報理論」に関する内容についてもふれる。マスメディアに関する内容も含まれるが，マスメディア論ではないので注意すること。

履修にあたって特に条件は設けない。

また，講義内容の理解状況により，授業計画を変更することがある。ガイダンスには必ず出席すること。

〔教材〕

教科書：川合　慧『『情報』（東京大学教養学部テキスト）』東京大学出版会，2006年

詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間，課題のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

履修者数が40名以下の場合は，試験を行わず課題提出（レポート：100%）とし，平常の成績を重視する。また，試験を行った場合は，試験（100%）の結果で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５限

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報とは
第３週　情報の表現（記号化，デジタル化，他）
第４週　情報伝達の仕組み
第５週　コンピュータの歴史
第６週　コンピュータの仕組み
第７週　インターネット
第８週　デジタル化の功罪
第９週　画像・映像データ
第10週　放送とインターネット
第11週　電子メディアと非電子メディアの比較
第12週　インターネットが引き起こした社会問題
第13週　未来のメディア
第14週　まとめ
第15週　〃

第１週の授業に必ず出席すること。履修者数により授業計画を一部変更することがある。

現代生活論I（現代食品情報）

3616041100100

副　題	現代食品情報							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-209-JD

〔授業の到達目標〕

現代の多様な食品情報を系統的に理解できるようになる。

〔授業の内容〕

現代の食生活には様々な加工食品が大きな役割を果たしている。食品成分の機能性の開発や加工技術の進歩により加工食品の種類は増加し，使用される原料も，新たな生産方法や品種の開発，海外からの輸入品の増加などにより極めて多様である。授業では，まず加工食品に関する現代のいくつかの諸問題を概説し，ついで，食品加工の原点である食品保蔵の原理と実際，および各種加工食品について解説する。最後に，学生各自で関心のある食品をとり上げて現状をさらに詳しく調査し，レポートしてもらう。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

提出レポート（約90%）と授業への参加状況（約10%）で成績評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　加工食品と問題点
第３週　食品保蔵の原理と実際１
第４週　食品保蔵の原理と実際２
第５週　食品保蔵の原理と実際３
第６週　食品の品質保持と加工
第７週　〃
第８週　食品の安全性の評価法
第９週　食品情報と表示
第10週　情報の信頼性
第11週　ダイエット甘味料，ダイエタリーファイバー強化食品，ビタミン強化食品
第12週　DHA強化食品，ポリフェノール強化食品，ミネラルウオーター，インスタント食品
第13週　レトルト食品，冷凍食品，有機栽培食品
第14週　レポート作成指導
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

現代生活論II（現代の食生活）

3616041200100

副　題	ライフステージ別の食生活および問題点							担　当　者	濱谷　亮子　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-JD

〔授業の到達目標〕

出生，発育，加齢にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴を学び，ライフステージ別の食生活の特徴や問題点を説明することができる。

〔授業の内容〕

生命の営みと健康の保持・増進のために，ヒトは食物を摂取することが不可欠である。ライフステージ別（胎児期，乳幼児期，学童・思春期，成人期，高齢期）の生理的変化や栄養状態の特徴を学び，ヒトの摂食行動に影響を及ぼす因子（精神的要因，社会環境等）を踏まえ，現代の食生活の問題点やライフステージ別の望ましい食生活の在り方を学習する。

〔教材〕

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義で取り上げるライフステージの食生活上の問題について情報を収集し，授業内に発表できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），3回の課題レポート（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　適正体重を維持するために必要なこと
第2週　健康維持・増進のためのエネルギー・各栄養素の摂取量について
第3週　妊娠（胎児）期の特性と栄養・食生活
第4週　乳汁期の特性と栄養・食生活（母乳栄養の利点と留意点）
第5週　乳汁期の特性と栄養・食生活（人工乳栄養の利点と留意点）
第6週　離乳期の特性と栄養・食生活（離乳初期，中期）
第7週　離乳期の特性と栄養・食生活（離乳後期，完了期）
第8週　幼児期の特性と栄養・食生活（食物アレルギー）
第9週　幼児期の特性と栄養・食生活（食育の取り組み方）
第10週　学童期の特性と栄養・食生活（学童期のダイエット願望と健康への影響）
第11週　成人期の特性と栄養・食生活1（メタボリックシンドロームとは）
第12週　成人期の特性と栄養・食生活2（アルコール過飲と健康障害）
第13週　高齢期の特性と栄養・食生活（低栄養）
第14週　我が国の健康づくり施策
第15週　まとめと解説

現代生活論III（自己と他者）

3616041500100

副　題	親密性をめぐって							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	SOC-311-JD

〔授業の到達目標〕

自己と他者をつなぐ社会空間として親密性の意義を理解し，現代のさまざまな社会問題について親密性という視点から考えられるようになる。

〔授業の内容〕

フェミニズムの「個人的なことは政治的なこと」というスローガンとともに，親密性の研究が社会学において重要な意味をもつようになった。この授業では，それまで「社会」の外部として社会科学の研究から排除されてきた親密性に焦点を当てる。社会学者A．ギデンズの親密性をめぐる理論を手がかりとして，現代社会のいくつかの問題について考えていく。

なお，この授業は性的な事柄もテーマとして扱うので，そうした話題を不快に感じる学生は受講するかどうかよく検討すること。

〔教材〕

参考書：アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房，1995年

教科書は使用せず，適宜プリント等を使用する。なお，配布済みのプリントを後日あらためて配布することはしない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ほぼ毎週オンライン学習システムを通じて課題を出すので，それに取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）とオンライン課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。

kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　自己とアイデンティティ
第３週　モダニティにおける自己
第４週　家父長制と近代家族
第５週　親密性の変容
第６週　新しい家族の出現
第７週　セクシュアリティ（１）
第８週　セクシュアリティ（２）
第９週　セクシュアル・マイノリティ
第10週　依存と虐待
第11週　アダルト・チルドレン
第12週　ドメスティック・バイオレンス（１）
第13週　ドメスティック・バイオレンス（２）
第14週　「つながり」と「キャラ」
第15週　講義のまとめ
授業計画は変更することがある。

現代生活論Ⅳ（個人と集団）

3616041600100

副　題	貧困と社会的排除							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	SOC-312-JD

〔授業の到達目標〕

社会学が問題にしてきた貧困と社会的排除の諸相について，データにもとづいて現状を理解し，望ましい社会のありかたを考えられるようになる。

〔授業の内容〕

現代の日本社会の「格差」がさまざまに論じられ，人々の貧困や社会的排除，とりわけ「女性の貧困」や「子どもの貧困」が重大な問題だと意識されているにもかかわらず，格差や貧困の問題は一向に解決に向かっているようには思われない。この授業では，格差，貧困，社会的排除を捉える理論的・実践的な視点と諸データを提示しながら，社会的連帯と生活保障の必要性とその方策を考えていく。

〔教材〕

参考書：岩田正美『現代の貧困――ワーキングプア／ホームレス／生活保護』（ちくま新書）筑摩書房，2007年
阿部彩『弱者の居場所がない社会――貧困・格差と社会的包摂』（講談社現代新書）講談社，2011年
橘木俊詔編著『格差社会』（福祉＋α）ミネルヴァ書房，2012年

教科書は使用せず，適宜プリント等を使用する。なお，配布済みのプリントを後日あらためて配布することはしない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ほぼ毎週オンライン学習システムを通じて課題を出すので，それに取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）とオンライン課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　リスク社会と個人化
第３週　格差，貧困，社会的排除（１）
第４週　格差，貧困，社会的排除（２）
第５週　ホームレス状態（１）
第６週　ホームレス状態（２）
第７週　女性の貧困（１）
第８週　女性の貧困（２）
第９週　子どもの貧困（１）
第10週　子どもの貧困（２）
第11週　外国人の困窮（１）
第12週　外国人の困窮（２）
第13週　シティズンシップの諸権利
第14週　シティズンシップから人権へ
第15週　講義のまとめ
授業計画は変更することがある。

☆日本経済論

3616051200100

副　題								担　当　者	山口　綾子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ECO-214-JD

〔授業の到達目標〕

日本経済についての理解を深めることを通じて，受講生が今後の経済・社会生活に活かせるような，経済的知識・考え方を身につけることをめざします。

〔授業の内容〕

日本経済は，少子高齢化，財政赤字などさまざまな問題を抱えています。経済学の予備知識のない学生を対象に，こうした問題について，基本的なところからお話することで，日本経済の現状についての理解を深め，受講生が今後の経済・社会生活に活かせるような経済的知識・考え方を身につけるよう工夫したいと思っています。

〔教材〕

授業時に適宜プリントを配布します。
参考書は授業時に適宜指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日ごろから新聞・テレビ，インターネット，書籍等を通じて経済関連のニュースに関心を持つこと(3時間)。

授業時に配布したプリントを見直し，興味を引いた点については参考文献等でさらに理解を深める(1時間)。疑問点については，極力当該授業時に質問，解決すること。なお質問は次回授業時でも受け付けます。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%）および授業時に適宜行う理解度確認テスト（70%）で総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　本コースの進め方
第２週　日本経済の概要（その１）　経済を何で計るか：経済指標の見方・使い方，GDPとは？
第３週　日本経済の概要（その２）　世界の中の日本，景気循環
第４週　戦後の日本経済の歴史（その１）　高度成長とその終焉
第５週　戦後の日本経済の歴史（その２）　石油危機後の不況，円高，バブル
第６週　戦後の日本経済の歴史（その３）　産業構造の変化と労働市場の変化
第７週　戦後の日本経済の歴史（その４）　バブルの生成と崩壊，失われた10年
第８週　戦後の日本経済の歴史（その５）　デフレの進行とアベノミクス　／　まとめ，理解度の確認
第９週　日本の金融（その１）　お金の役割　中央銀行とは？
第10週　日本の金融（その２）　金融政策と物価の安定
第11週　国際収支と円相場（その１）　日本の貿易構造　国際収支
第12週　国際収支と円相場（その２）　日本の対外政策
第13週　日本の財政（その１）　財政の役割　財政赤字問題
第14週　日本の財政（その２）　少子高齢化とその経済的影響
第15週　まとめ　理解度の確認
以上の授業計画は順番・内容など適宜変更の可能性があります。

日本社会論

3616051300100

副　題	現代日本社会の構造変動と自己の変容							担　当　者	奥山　敏雄　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	SOC-215-JD

〔授業の到達目標〕

現代日本社会の構造変動とそれにともなう自己のあり方の変化について理解することを通じて，各自が現在感じている自己をめぐる閉塞感や生きづらさなどの経験が日本社会のなかで作り出されたものであることを理解し，そうした閉塞感や生きづらさを社会的観点から距離をとって捉え返すことができるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日本社会が経験した世界的にも例のない急激な社会変動をめぐり，生産と消費，生活世界と自己，他者とのコミュニケーションなどについて概観し，資本制システムと自己という観点を軸に，1960年代から70年代半ばまで，70年代半ばから90年代半ばまで，90年代半ばから現在へと，大きく３つの局面に分けて，日本社会の現在がどのように生み出されてきたのか，そのなかで自己のあり方がどのように「型どられてきた」のかを考える。そしてこの観点から，日本社会を覆っている深い閉塞感について考えたい。

〔教材〕

教科書は使用しない。参考書は授業のなかで適宜情報提供する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後に関連する参考文献を読んで，授業内容をさらに発展的に理解すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)と学期末試験(70%)を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会の変化と自己の「型どり」
第２週　産業社会の形成とその論理
第３週　組織の巨大化と管理される個人
第４週　近代家族と私化
第５週　大衆社会と欲望
第６週　人並み化の圧力と大衆消費
第７週　消費の様式の変容
第８週　差異の生産とシミュレーション
第９週　個性化の意味
第10週　情報化社会と消費
第11週　虚構の時代と自己
第12週　グローバル化と格差社会の形成
第13週　ネット社会とコミュニケーション
第14週　自己の身体化，内閉化
第15週　絶対的異質性としての他者の喪失

※比較文化論III（芸術）

3617021300100

副　題	展覧会カタログ研究							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ART-303-JE

〔授業の到達目標〕

展覧会および展覧会カタログの〈メディア性〉について総合的に学び，その文化的意義について批評的検証を行う。

〔授業の内容〕

本授業では〈展覧会カタログ〉研究をテーマとする。「展覧会」というイベントは，今日単に集客を目的とするだけでなく，広く学術成果を一般に還元することが可能な場としても認識され，ひとつのメディアとしても重要な役割を果たしていると言える。本授業では，まずこのような立場から「展覧会」を再認識し，絵画・工芸・写真などの美術の分野はもちろんのこと，歴史・民俗・文学さらには音楽や映画の領域にまで，近年幅広く広がっている様々な展覧会の現状を分析する。そしてその際に多く編まれる「カタログ」について単にこれを〈開催記録〉と見なすのではなく，カタログ制作の過程やその現状をフィールド調査することを重視する。授業は講義と発表を併用したゼミ形式で行い，美術館・博物館への共同調査も実施する。授業ではまず例証研究として，国内外における近年の日本近世美術に関しての展覧会カタログ全般を扱う。その後履修者各自の関心領域に合わせた，展覧会カタログに関する小テーマを設定し口頭発表また報告書を作成する。

〔教材〕

教科書：今橋映子『展覧会カタログの愉しみ』（東京大学出版会，2003年）

上記テキストの他に随時コピー類を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業への参加態度，口頭発表および学期末にレポートを提出してもらう。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕

履修者の人数制限をする。

実際的に展覧会を取材するために，見学会だけでなく履修者が個別に美術館等を訪ねてもらうことになる。

〔授　業　計　画〕

第１週　美術展をめぐるカタログ制作の現状（１）
第２週　美術展をめぐるカタログ制作の現状（２）
第３週　美術展をめぐるカタログ制作の現状（３）
第４週　美術館・博物館への取材・調査（１）
第５週　美術館・博物館への取材・調査（２）
第６週　美術館・博物館への取材・調査（３）
第７週　口頭発表（１）
第８週　口頭発表（２）
第９週　口頭発表（３）
第10週　口頭発表（４）
第11週　口頭発表（５）
第12週　口頭発表（６）
第13週　口頭発表（７）
第14週　口頭発表（８）
第15週　あるべき美術展カタログの姿とは――全体討議

※比較文化論Ⅳ（民俗）

3617021400100

副　題	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ANT-304-JE

〔授業の到達目標〕
1.日本の民俗文化・伝統文化の学習分析において，比較文化論の必要性を理解します。
2.民俗文化の意義を把握した上で，比較文化論や文化比較の方法について理解します。
3.日本を含む東北アジアと，ヨーロッパの民俗文化を比較対照し，その共通性と対応性を認知します。

〔授業の内容〕
日本と外国の民俗儀礼（年中行事・祭礼・コスプレ），信仰（民間信仰・俗信・パワースポット，聖人），物語（民間説話・宗教説話）,妖怪・妖精・モンスターを比較対照します。また，図像学も導入し，物語・聖人・動物・妖怪・モンスター図像，ゆるキャラの分析もおこないます。
それらから，民俗文化における世界的共通性と地域的独自性を考えていきます。

〔教材〕
授業時にプリント等に拠って指示します。また，教材プリントを用意します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度，学期末のレポートに拠って評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
基本的な事柄は，授業時に連絡します。
また，掲示によって連絡することがあります。

〔備考〕
必要に応じて，美術館，博物館の見学を薦めます。その際には，見学感想文の提出を求めます。
※授業内容と無関係な私語，飲食，携帯電話等の使用，正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　民俗学と比較民俗学１
第２週　民俗学と比較民俗学２
第３週　年中行事１
第４週　年中行事２
第５週　年中行事３
第６週　祭礼１
第７週　祭礼２
第８週　信仰１（アニミズムと神仏習合）
第９週　信仰２（仏教とキリスト教）
第10週　信仰３（俗信）
第11週　物語１（日本とアジア１）
第12週　物語２（日本とアジア２）
第13週　物語３（日本とヨーロッパ１）
第14週　物語４（日本とヨーロッパ２）
第15週　まとめ
以上の［授業計画］は，必要に応じて，追加・削除，順序変更がありえます。

比較文化論V（社会）

3617021500100

副　題	写真の中の江戸							担　当　者	金行　信輔　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	HIS-305-JE

〔授業の到達目標〕

写真（古写真）の分析を通して，都市江戸の風景と地形，建築と空間の実態を知り，江戸の人びとがどのような空間・環境の中で生活していたのかを理解する。地図・絵図・文献など関連する諸資料を用いて，写真を読み解く方法を身につける。

〔授業の内容〕

幕末以来，都市の風景を写した写真（古写真）は数多く残されているが，歴史学的観点からの分析は十分に進んでいない。そこでこの授業では，写真を丁寧に分析し，都市江戸の風景・地形・建築・空間の実像・実態を明らかにする。同時に江戸期・明治期の地図・絵図・建築図・文献など関連する諸資料の活用，撮影地点の現地調査によって写真の内容を読み解く方法を解説する。写真をその細部まで読み解くことによって，これまで絵画のみでイメージされていた都市江戸の姿がリアルに浮かび上がってくることだろう。

〔教材〕

教科書：金行信輔『写真の中の江戸（仮）』ユウブックス，2017年８月刊行予定
その他，参考書は授業で適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，参考文献の内容を確認する。

〔成績評価の方法〕

期末試験（100%）。出席状況も考慮する。期末試験は教科書，ノート，配布資料の持ち込みを可とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

事務室を通して連絡すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに―授業内容について
第２週　歴史資料としての写真―なぜ写真なのか
第３週　写真の伝来と江戸
第４週　写真を読み解くための知識―地図・絵図の読み方，都市の構成要素と建築
第５週　江戸のパノラマ―愛宕山（１）
第６週　江戸のパノラマ―愛宕山（２）
第７週　江戸城とその周辺（１）―江戸城
第８週　江戸城とその周辺（２）―霞ヶ関・永田町
第９週　江戸城とその周辺（３）―日本橋・築地
第10週　人びとのすがた
第11週　名所寺院（１）―五百羅漢寺
第12週　名所寺院（２）―浅草寺
第13週　外堀に沿って（１）―お茶の水・外神田・市谷
第14週　外堀に沿って（２）―赤坂見附・赤坂黒鍬谷
第15週　補足とまとめ
授業計画は変更することがある。

比較文化論VI（嗜好）

3617021600100

副　題										担　当　者	中野　美季　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIF-306-JE

〔授業の到達目標〕
講義と体験を通じて味覚への理解を深め，味わう力，表現する力を養う。食の分野に関心を持ち，積極的に参加する意欲ある学生を歓迎する。

〔授業の内容〕
今日，食への人々の関心は極めて高い反面，味わうための五感や食材についての基礎知識は十分とはいえないのが現状である。本講義では適宜感覚の実験及び基本食材の比較テイスティングを行い，ワークシートに詳細に記入することにより，味わう手順を体験的に理解し，表現力を養うことを目指す。
1．識別テスト等を利用して五感を認識する。
2．文化としての日本の味を基本食材から理解する。講師はイタリア食文化を専門とするため，適宜イタリアとの比較をまじえて考察する。
3．味の背景にある文化を理解し，世界の中の日本，日本の中の自分を意識し，表現する。
講義の進度により，シラバスに記載の内容・順序等は適宜変更される。

〔教材〕
参考書：プラート味覚教育センター／中野美季『味覚の学校』木楽舎，2012年
ほぼ毎回ワークシートに記入・回収する。必要に応じて参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
自分自身の食生活，郷土の食文化に，日常的に関心をもって向き合うこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加姿勢と貢献度（60%）を重視し，ワークシートとレポート（40%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
風味や味覚の官能検査を行うため，受講者を制限する。受講希望者は日本文化学科掲示板を確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，味覚の基礎知識
第２週　味と五感
第３週　嗅覚の実験
第４週　味覚の実験
第５週　日本のだし（魚の節類の比較）
第６週　日本のだし（昆布の比較）
第７週　味覚と文化（食品の保存，熟成など）
第８週　味覚と文化（日本酒入門）
第９週　味覚と文化（ワイン入門）
第10週　味覚と文化（調味料，食材など）
第11週　〃
第12週　味覚と文化（イタリアの伝統食品）
第13週　まとめと発表
第14週　討議
第15週　調理実習と試食

比較文化論VII（生活）

3617021700100

副　題	装飾文化の交流							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ART-307-JE

〔授業の到達目標〕

日本と諸外国との文化交流について歴史の中で確認し，その意義を理解する。

〔授業の内容〕

古来，人は生活の中で用いる身近なものに，さまざまな文様や技法を凝らして装飾をほどこしてきた。文様や装飾技法は，文化圏を越えて伝播し，日本は中国や西アジア，ヨーロッパ諸国などとも影響関係がみとめられる。本講義では，文様や装飾美術に着目し，日本が諸外国から受けた影響と，日本から諸外国へ与えた影響について考える。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（80%），授業への参加態度（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　―装飾文化の交流―
第２週　文様（１）　龍と鳳凰
第３週　文様（２）　唐草文
第４週　文様（３）　咋鳥文の系譜
第５週　信仰の美術（１）　仏像の誕生
第６週　信仰の美術（２）　浄土教美術
第７週　茶の湯の美術（１）　唐物
第８週　茶の湯の美術（２）　わび茶
第９週　南蛮文化と南蛮美術
第10週　世界を魅了した日本の装飾美術（１）
第11週　世界を魅了した日本の装飾美術（２）
第12週　近代の美術（１）
第13週　近代の美術（２）
第14週　日本の意匠
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

比較文化論VIII（Japanese CultureI）

3617021800100

副　題	Melodrama								担　当　者	J．P．チャン　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	JPN-308-JE

〔授業の到達目標〕

The goal of the course will be to try to define and understand melodrama. Students will be expected to understand what melodrama is and how it is expressed in movies and to write a paper in English on movies that discuss the themes and aesthetics of melodrama. Students will be expected to participate in discussions about these movies in English.

〔授業の内容〕

This course will examine melodrama in world cinema. In watching and analyzing these movies, we will discuss movies that may be described as melodrama or melodramatic. Is it a genre? Is it a mode of expression? What is it, and why is it so popular and powerful? Melodrama is often associated with its devices and excess, and we will examine exactly what that means. What desires and values do contemporary melodramas express and shape?

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend 2-4 hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on homework, a midterm quiz, and a term paper (750-1200 words).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to meet with students after class and by appointment. Email at jeong.chang.classes●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction
Homework: Reading from THE MELODRAMATIC IMAGINATION by Peter Brooks
第２週　In the Mood for Love　［花様年華　(かようねんか)］(2000)
Homework: Short response paper on the movie.
第３週　Discuss In the Mood for Love and the Brooks reading
Homework: Reading by Stephen Teo, "Wong Kar-wai's In the Mood for Love"
第４週　Mise-en-scène and slow-motion in In the Mood for Love
Homework: Short response paper on the movie and the readings
第５週　Final discussion for In the Mood for Love. Review for midterm quiz.
第６週　Midterm Quiz
第７週　Journey to the Shore　［岸辺の旅］　(2016)
Homework: Reading on nostalgia and family
第８週　Discuss Journey to the Shore
Homework: Short response paper on the movie and the reading
第９週　Discuss Journey to the Shore, melodrama, and nostalgia
第10週　Watch Pixar Short "La Luna" (2011) and discuss
第11週　Writing the introduction and thesis
Homework: Write your introduction and thesis
第12週　Peer review introduction
Topic sentences
Writing the body of the paper
Homework: Write the body of the paper
第13週　Peer review the body of the paper
Writing the conclusion
Homework: Rewrite body and write the conclusion
第14週　Reverse outlining and peer review the final paper
Homework: Final Rewrite of the Paper
第15週　Turn in Final Paper

比較文化論IX（Japanese Culture II）

3617021900100

副　題	Reading Movies							担　当　者	J．P．チャン　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	JPN-309-JE

〔授業の到達目標〕

The goals of the course are to understand the different formal methods for reading a movie and applying specific terms for analyzing films. Students will be expected to write papers to show how these techniques create meaning in movies.

〔授業の内容〕

This course will introduce students to the different film techniques that can be used to "read" movies. Movies are unique in the way they convey meaning not only through dialogue and story, but also through its visual tools. Everything in a movie is a series of choices, whether it is the color of the curtains in a room, the placement of a vase, or the editing decisions that place one shot next to another. We will watch short films and feature films and apply film terms to see how meaning is produced and conveyed to an audience using these film techniques.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend 2-4 hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on homework, a midterm quiz, and a term paper (700-1200 words).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to meet with students after class and by appointment.
Email at jeong.chang.classes●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction
Homework: Read handout on Editing
第２週　Modern Times　［モダン・タイムス］　(1936)
第３週　Discuss Modern Times and editing in the movie
Homework: Write a short response paper on Modern Times and editing
第４週　Continue discussion of Modern Times and lecture on mise-en-scène
Read handout on camera positioning
第５週　Tokyo Story　［東京物語］　(1953)
第６週　Discuss Tokyo Story, mise-en-scène, and camera positioning
Homework: Write a short response paper on Tokyo Story
第７週　Continue discussing Tokyo Story
Midterm Quiz Review
第８週　Midterm Quiz
第９週　Run Lola Run　［ラン・ローラ・ラン］　(1998)
Reading on graphic matching and managing time in movies
第10週　Discuss Run Lola Run and graphic matching
Writing the introduction and thesis
Homework: Write your introduction
第11週　Peer review introduction
Topic sentences
Writing the body of the paper
Homework: Write the body of the paper
第12週　Peer review the body of the paper
Writing the conclusion
Homework: Rewrite body and write the conclusion
第13週　Peer review the entire paper
Homework: Rewrite the paper
第14週　Reverse outlining
Homework: Final rewrite of the paper
第15週　Turn in final paper

比較文化論X（工芸）

3617022000100

副　題	海を渡った工芸品							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-310-JE

〔授業の到達目標〕

日本が受容した外来の文化と，諸外国において受容された日本の文化について知ることで，日本文化の独自性への理解を深める。

〔授業の内容〕

古代より，日本には中国などの国々から多くの工芸品が海を渡りもたらされ，日本の文化に大きな影響を与えてきた。また一方で，日本で制作された漆工・染織・やきものなどの工芸品が諸外国に渡り，西欧美術等にも大きな影響を与えている。

本講義では，海を渡って日本にもたらされた工芸品と，日本から諸外国へ舶載された工芸品に注目し，それらが日本と諸外国へ与えた影響について考える。

〔教材〕

参考書：中村修也『黄金文化と茶の湯』（よくわかる伝統文化の歴史３）淡交社，2006年
中村修也『茶道・香道・華道と水墨画』（よくわかる伝統文化の歴史2）淡交社，2006年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%）と授業への参加態度（20%）により総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は日本文化学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　正倉院の宝物（１）
第３週　正倉院の宝物（２）
第４週　唐物（１）
第５週　唐物（２）
第６週　名物裂
第７週　南蛮文化の影響
第８週　JAPAN　―輸出漆器―
第９週　古渡り更紗
第10週　伊万里焼
第11週　明治の輸出工芸
第12週　ジャポニスムと工芸
第13週　ジャポニスムとファッション
第14週　アール・ヌーボー
第15週　まとめ

授業計画は変更することがある。

日本文化演習IA・IIIA

3611010100100

副　題	日本芸術の諸相							担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ART-301-JY ART-439-JY

〔授業の到達目標〕

近現代日本の芸術文化に関する基本的知識の獲得し，その研究方法を習得すること。

〔授業の内容〕

近現代日本の芸術文化の各分野に関し，入門的概説書や新しい視点で書かれた研究書を取り上げ，学生が分担してその内容を報告し，全員で討議する。対象リストは網羅的になるように教員が用意する。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（発表準備）は30時間。それ以外の週の予習（指定図書・文献の通読）は４時間。復習（授業内容の確認と必要箇所の再読）は２時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%），授業への参加態度（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　〃
第３週　学生による発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IB・IIIB

3611010100200

副　題	比較日本文化論（I）							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-302-JY ART-440-JY

〔授業の到達目標〕
学際的視点で，美術史（絵画史）および視覚芸術研究を行う方法論の基礎を学び，将来的な卒業論文執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕
近年日本美術史研究は，従来の〈技法〉〈様式〉〈流派〉研究のみならず，美術史以外の，例えば歴史，民俗，社会，文学研究など他分野の研究成果を取り入れつつ，〈作品解釈論〉の方法を広げようとしている。こうした動向は，現在の比較日本文化論研究の方向と直結しており，私たちはそれを直視しなければならない。本授業では日本文化研究の方法を，美術史から発して探っていこうとする読みであるが，その手掛かりとしてまず〈美術と文学〉を考えていく。本授業は秋学期の授業へと継続・対応する形となる。本授業では，美術と文学の双方の領域において活躍した詩画人・与謝蕪村を例に考えていく。蕪村の俳諧作品は，明治以降の俳句文芸に多大な影響を与えて，近代では長らく画家としてよりも詩人としての業績の高さに比重がおかれていた。しかし江戸時代には，むしろ画家としての評価が高く，彼に私淑し，傾倒した画家は少なくなかった。〈詩・書・画〉一体を文字通りめざした芸術家蕪村が，18世紀という社会的変革の時代を背景に，絵画という〈視覚〉の世界と，文学という〈言語〉世界の間で，どのようなイマジネーションを育んでいたのかを探っていきたい。

〔教材〕
藤田真一『蕪村』（岩波新書705, 2001年）
今橋理子『江戸絵画と文学』（東京大学出版会，1999年）ほか使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
途中一回と学期末にそれぞれレポートを課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕
出席数および年に数回授業時以外に見学会を実施するので，その参加度を重視する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論（１）――比較日本文化論の現在
第２週　概論（２）――〈比較研究〉の方法と理論
第３週　与謝蕪村を〈読む〉――テキスト輪読（１）
第４週　与謝蕪村を〈読む〉――テキスト輪読（２）
第５週　与謝蕪村を〈読む〉――テキスト輪読（３）
第６週　与謝蕪村を〈読む〉――テキスト輪読（４）
第７週　与謝蕪村を〈読む〉――テキスト輪読（５）
第８週　美術館での見学会（１）
第９週　蕪村における絵画と文学――発表（１）
第10週　蕪村における絵画と文学――発表（２）
第11週　蕪村における絵画と文学――発表（３）
第12週　蕪村における絵画と文学――発表（４）
第13週　蕪村における絵画と文学――発表（５）
第14週　美術品調査の方法と理論
第15週　美術館での見学会（２）

日本文化演習IC・IIIC

3611010100300

副　題	日本の神話							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-303-JY LIT-441-JY

〔授業の到達目標〕
日本の神話の意義及び仕組みが分かり，研究上のの問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕
古事記・日本書紀の二文献は，いずれもこの世の始原から書き起こし，歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は，神々による世界の形成が描かれており，これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり，これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば，それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により，各神話の本源の姿を探究すると共に，各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ，風土記も参照する。

〔教材〕
教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院
参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
学期末のレポート(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通して連絡する。

〔備考〕
古語辞典必携

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明
第２週　発表及び討論
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習ID・IIID

3611010100400

副　題	戦後日本の思想と問題									担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-304-JY HIS-442-JY

〔授業の到達目標〕

現代の歴史学の新たな方法と問題点を学ぶ。
歴史学の理論的な記述を講読する読解力を身につける。
日本近代史および思想史・文化史についての基礎知識を得る。
日本近代史にかかわる歴史研究の方法の基礎を学び，資料の読解方法を知る。
戦後の日本の思想と問題点とを学ぶ。

〔授業の内容〕

最初にリン・ハント『グローバル時代の歴史学』の講読をつうじて，現代歴史学の新たな方法と問題について学び，歴史学の理論的な記述を講読する読解力を身につける。
つづいて日本の戦後の歴史と思想を，研究書と実際の思想史的資料を講読しながら学ぶ。

〔教材〕

教科書：リン・ハント『グローバル時代の歴史学』岩波書店，2016年
『民主主義と市民社会』（リーディングス戦後日本の思想水脈）岩波書店，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前に必ず次回の講読箇所を予習してくること。また報告担当の際には責任を持って準備をすること。

〔成績評価の方法〕

授業参加と報告，期末課題によって評価する。
出席回数が開講回数の３分の２に満たない場合は，原則として履修を認定しない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日２時間目。直接メールでアポイントメントを取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　『グローバル時代の歴史学』講読・１
第３週　『グローバル時代の歴史学』講読・２
第４週　『グローバル時代の歴史学』講読・３
第５週　『グローバル時代の歴史学』講読・４
第６週　『民主主義と市民社会』講読・１
第７週　『民主主義と市民社会』講読・２
第８週　『民主主義と市民社会』講読・３
第９週　『民主主義と市民社会』講読・４
第10週　『民主主義と市民社会』講読・５
第11週　『民主主義と市民社会』講読・６
第12週　『民主主義と市民社会』講読・７
第13週　『民主主義と市民社会』講読・８
第14週　『民主主義と市民社会』講読・９
第15週　ディスカッション・まとめ

日本文化演習IE・IIIE

3611010100500

副　題	平安時代の文学（1）									担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-305-JY LIT-443-JY

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて，文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して，日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として，古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって，くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては，「若菜上」の巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」若菜上』新典社
　　中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。４時間。

〔成績評価の方法〕

出席および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。
moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　『源氏物語』についての概説
第２週　担当箇所の確定と発表方法に関する説明
第３週　担当者による発表と質疑応答　―『源氏物語』若菜上の講読―
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IF・IIIF

3611010100600

副　題	日本語研究の方法							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-306-JY JPL-444-JY

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎（文献検索，コーパス利用，調査，分析，プレゼンテーションなど）を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず，日本語やその他の言語に関する研究書や研究論文などを読む。それぞれの学生が興味･関心のある事柄に関する文献を探し，その内容について，解説，批判，今後の研究の展開の可能性などに関する報告を行う。（初回授業から数回，教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

また，ゼミ旅行に関連する国内外の地域の言語事情についての調査研究発表も行う。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。発表時以外は１～２時間程度の予習（指定された研究書，学術論文などを読んでおく）が必要

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他，討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限

メール（アドレスは日本文化学科事務室へ行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明
第２週　具体的な研究方法の検討
第３週　以後は担当学生による発表と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IG・IIIG

3611010100700

副　題	現代社会研究（1）							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SOC-307-JY SOC-445-JY

〔授業の到達目標〕

社会学の知見を参考にして，現代社会について研究するための基礎的な知識とスキルを習得し，自らの研究課題を立案し，情報収集・調査を進められるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会の諸側面について社会学からアプローチする。授業は学生の発表とその内容についての議論を中心に進めていく。学期の前半は3年生が中心となり，現代社会研究に関する教科書的な内容の文献を講読し，現代社会を見る視点を獲得する。教科書は社会学の基本事項を解説したものを2冊使用する。1冊は現代社会論のいくつかのトピックを扱うもので，もう1冊は家族社会学に特化した内容である。後半は4年生が卒業論文の構想を発表する。

研究は他者との交流，意見交換によってはじめて醸成されるものである。そのため学生には積極的な授業参加と生産的な議論が要求されている。

授業はMoodleというオンライン学習システムを利用しながら進める。

〔教材〕

教科書：本田由紀編『現代社会論』（有斐閣ストゥディア）有斐閣，2015年
岩間暁子ほか著『問いからはじめる家族社会学』（有斐閣ストゥディア）有斐閣，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書は事前に該当箇所を読み，質問等を用意してくること。発表に際しては，さまざまな角度からの質問に答えられるよう，レジュメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また，予習・復習を含めた課題を適宜出すので，その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（30%），発表・授業への取り組み（20%），課題（50%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日4限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　現代社会論（1）　言説（第1章）・能力（第2章）
第3週　現代社会論（2）　仕事（第3章）・友だち（第4章）
第4週　現代社会論（3）　家族（第5章）・居場所（第6章）
第5週　現代社会論（4）　排除（第7章）・分断（第8章）
第6週　家族社会学（1）「家族」を読み解くために（第1章）・「近代家族」の成立（第2章）
第7週　家族社会学（2）　家族・貧困・福祉（第3章）・結婚（第4章）
第8週　家族社会学（3）　就業と家族（第5章）・妊娠・出産・子育て（第6章）
第9週　家族社会学（4）　親-成人子関係のゆくえ（第7章）・個人・家族・親密性のゆくえ（第8章）
第10週　卒業論文構想発表（1）
第11週　卒業論文構想発表（2）
第12週　卒業論文構想発表（3）
第13週　卒業論文構想発表（4）
第14週　卒業論文構想発表（5）
第15週　授業の総括
授業計画や履修人数等の理由で変更することがある。

日本文化演習IH・IIIH

3611010100800

副　題	中世文化・民俗文化〔1〕―民間説話・お伽草子・芸能など―									担　当　者	徳田　和夫　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-308-JY ANT-446-JY

〔授業の到達目標〕

1.日本の伝統文化を，民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
2.民俗の概念とその多様性の認知，および説話伝承について多方面からの研究を実践する。
3.文化を，本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕

中世における女性の物語や，中世から現代にまで伝わる民間説話をお伽草子絵巻に照らして解析し，また関連する芸能作品を鑑賞して，日本人の精神文化史を考察していきます。

文学史的な把握に加えて，特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など），民俗学（民間信仰・俗信・年中行事など）を導入していきます。

さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比），物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵・仏教絵画など），芸能史（古典芸能・民俗芸能・話芸）などからアプローチします。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説:絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）2014，青春出版社。
参考書：徳田『室町の妖怪―説話伝承と図像』（2017,せりか書房），『お伽草子事典』（2002,東京堂出版）。また，プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（研究と演習発表40%，質問・発言20%，レポート40%）によっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

基本的な事柄は，演習時に連絡します。
また，メールを用いて連絡することがあります。

〔備考〕

（1）ゼミ旅行，美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。
（2）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授　業　計　画〕

第1週　概説（1）
第2週　概説（2）
第3週　演習発表と討議
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習II・IIII

3611010100900

副　題	日本の染織と服飾文化の諸相（1）									担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ART-309-JY ART-447-JY

〔授業の到達目標〕

卒業論文の作成に向けて，日本服飾史・染織史研究の方法を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

日本服飾史･染織史に関する研究論文を取り上げ，各自担当を決めて内容について報告する。先行研究を検討することにより，卒業論文の制作に向けて各自のテーマをより深く理解し，検討課題を明確化することを目指す。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜 4 限，金曜 4 限。

教員との連絡方法については，授業の中で説明する。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　学生による発表と討論
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習I J・III J

3611010101000

副　題	日本近世の政治・社会・文化（1）							担　当　者	工藤　航平　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	HIS-310-JY HIS-448-JY

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき，最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。春学期は，江戸時代の活字史料の輪読を通して意味解釈や課題を発見する方法を学ぶ。参加者は，史料の担当箇所について報告する。テキストについては，参加者の関心も聞いたうえで，決定したい。なお，学期末には4年生は卒業論文の予備的なレポートを，3年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，自身のみならず他の報告者の史料についても，読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

報告（40%），レポート（30%），授業への参加態度（30%）により評価する。報告を担当しない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室もしくは指定の連絡手段を用いて連絡を取ること。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また，就職活動と重ならない限り，毎回出席すること。

〔授　業　計　画〕

第1週　授業のガイダンス
第2週　時代の概説・辞書類の説明等
第3週　卒業論文の原案報告（4年生）
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　史料研究報告（3年生）
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　卒業論文の進捗報告（4年生）
参加人数によって，計画に若干の変更がありうる。テキストは，各人の関心を聞いた上で検討する。また，1，2回，都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。夏季の合宿については，学期中に検討する。

日本文化演習IK・IIIK

3611010101100

副　題	食品研究１							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIF-311-JY LIF-449-JY

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め，論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

多様な日本食文化の対象である食品・食材とその利用について，文化的価値と科学的特性を研究し総合的に評価するための方策を中心に検討する。日本の伝統食品，現代の加工食品，新しい食品原料などについての関連文献を講読し，内容を検討すると共に，必要な基礎的実験技術，調査･分析手法を習得する。その後，特定の食品や食に関連する問題を研究テーマに選び，研究を進めるための実際的な方策・手法についての検討や予備的調査を中心として具体的な研究計画の策定を行っていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物等（約80%），授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　資料調査，基礎実習，基礎実験など研究手法の検討と計画の策定の指導
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本文化演習ⅠL・ⅢL

3611010101200

副　題	スポーツ文化の諸相							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	SPO-312-JY SPO-450-JY

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を，主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め，スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ，卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕

日本及び諸外国の，過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を，社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら，スポーツの窓から社会や人間を眺め，同時に，社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。

「スポーツ」とは，近代スポーツばかりではなく，日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが，そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく，その周辺領域（社会，ジェンダー，メディア，民族，環境，教育，健康，異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては，前半は，スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い，分担したテーマについて発表を行う。後半は，各自が自由な発想と関心によってテーマを選び，発表・討議を行い，研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で，独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では，その内容をレジュメとして用意し，授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲・貢献度（40%），発表内容及び方法（30%），レポート（30%）によって総合的に評価する。（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目
火曜日４時間目
メール（アドレスは授業時に伝える）にて連絡をとる。
学科事務室に問い合わせる。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：スポーツの概念
第２週　スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第３週　〃
第４週　学生の発表ならびに討議
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IM・IIIM

3611010101300

副　題	インターネットコミュニケーション							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-313-JY INF-451-JY

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で，（1）　自らテーマを設定し，必要な情報を収集・分析する能力，（2）　自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける．

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って，日常的な情報伝達手段に変化している．本授業では，この分野の諸問題について考察し，問題の調査分析を行うことを主な目的とする．春学期は教員による解説と学生による調査発表によって今後の議論に必要となる基礎的な知識を習得することに重点を置く．

〔教材〕

参考書：藤代 裕之『ソーシャルメディア論: つながりを再設計する』青弓社，2015年
その他の参考文献は授業中に適宜紹介する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のための準備作業（文献調査，資料作成など）はすべて準備学習に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

担当部分の発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する．発表では担当部分の理解度と説明の明快さについて問う．授業参加の必要条件として，他の学生の発表に対して発言を行うことを求める．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　インターネットコミュニケーション概説
第３週　テキストコミュニケーション
第４週　集合知
第５週　ソーシャルメディア
第６週　ソーシャルメディア活用事例
第７週　ソーシャルグラフの形成
第８週　情報の拡散
第９週　ネットワーク構造の分析（1）
第10週　ネットワーク構造の分析（2）
第11週　コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（1）
第12週　コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（2）
第13週　個人情報とプライバシー
第14週　サービスのアーキテクチャ
第15週　まとめ
原則として，各回学生発表である．関連する領域の範囲内で，調査テーマを変更することがある．

日本文化演習IN・IIIN

3611010101400

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-314-JY LIF-452-JY

〔授業の到達目標〕

1．体験学習法と答えを教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS, MARE, PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

金曜日午後に課外活動を実施することがある。金曜日午後の時間割は演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

日本文化演習IO・IIIO

3611010101500

副　題	言語学・日本語教育Ⅰ							担　当　者	佐藤 琢三　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	JPL-315-JY JPL-453-JY

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては，言語研究の諸分野に広くふれ，問題の着眼の仕方や研究手法について学ぶ。4年生に関しては，卒業論文作成のための具体的な青写真を描き，実質的な調査等を開始する。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ，他言語との対照，関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には，次のような分野を扱うことになるだろう。

文法，意味，アクセント，語彙，語用論，文章・談話，会話分析，言語行動，敬語・待遇表現，方言，男女差，誤用分析，諸外国語との対照，日本語教育など

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし，発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし，正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜4限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　導入
第2週　昨年の卒論の紹介と講評
第3週　言語変化・若者言葉
第4週　社会言語調査
第5週　日英対照研究（語彙・意味）
第6週　異文化コミュニケーション
第7週　文法
第8週　日英対照研究（発想と表現）
第9週　意味論
第10週　日中（または日韓）対照研究
第11週　通言語的視点から見た日本語
第12週　卒論構想発表
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
授業計画は変更する場合がある。

日本文化演習IP・IIIP

3611010101600

副　題	アートによる地域活性化の調査、研究	担　当　者	清水　敏男　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ART-316-JY ART-454-JY

〔授業の到達目標〕
アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術，デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕
近年，文化芸術によって都市，地域の活性化を実現しようという動きが顕著である。文化芸術は行政，政治，経済活性化に利用される存在なのか，文化芸術の本来の意味は何か，ミュージアムなどの機関，アートプロジェクト，パブリックアートなどの実例を通じて考察する。具体的には横浜を例に調査研究する。毎月課題図書を読み議論する。
卒業論文:1945年以降の現在の，日本の視覚芸術（絵画，彫刻，写真），デザイン（グラフィック，プロダクツ，建築）の分野を対象とし，自分自身の問題意識を明確にし，自分のテーマを選定する。対象についての調査研究，文献調査，関係者へのインタビュー，実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。
３年次からテーマを設定し，長期にわたって調査研究する。

〔教材〕
教科書：清水敏男『THE MIRROR　クリエイティヴ・ミュージアムの提案』東京書籍，2016年
佐々木雅幸『創造都市への挑戦』（岩波現代文庫）岩波書店，2012年
マイケル・フィンドレー『アートの価値　マネー、パワー、ビューティー』美術出版社，2014年
ジャレド・ダイアモンド『「銃・病原菌・鉄　（上）（下）』（草思社文庫）草思社，2013年
小山登美夫『現代アートビジネス』（アスキー新書）アスキー・メディアワークス，2008年
課題図書４月「THE MIRROR」，５月「創造都市への挑戦」，６月「アートの価値　マネー，パワー，ビューティー」，７月８月「銃･病原菌･鉄　（上）（下）」，９月「現代アートビジネス」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時間以外に横浜の文化芸術の状況について調査する。現代美術の展覧会を調査する。（最低10回）2017年に実施されるアートプロジェクトを調査する。（横浜トリエンナーレ，札幌国際芸術祭など最低２か所）アートプロジェクトにボランティアとして参加する。課題図書を読み概要をまとめ感想を書く。（４月から９月で５冊）

〔成績評価の方法〕
１）出席日数，２）発表，３）期末レポート（発表内容を2000字で記述する），４）展覧会レポート（３年生のみ，1000字×10本），５）課題図書レポート（1000字X5本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時半から１時，２時半から３時
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔備考〕
現代美術のみならず，近代以前の美術も積極的に見，自分でレポートを作成するなどして準備しておくこと。日本文化基礎演習Pを事前に受講しておくことがのぞましい。
夏季ゼミ旅行は９月に実施する。アートプロジェクトに参加することを予定している。必ず出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，共同研究チーム編成，テーマ決定
第２週　共同研究発表（横浜）
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　４年生卒業論文中間発表
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総評

日本文化演習IQ・IIIQ

3611010101700

副　題	電子メディア							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-317-JY INF-455-JY

〔授業の到達目標〕

卒業研究に必要な基礎能力を身につけることを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし，「何か」というのは,映像･音楽･アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの,プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また，設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので，不安な学生は，事前に担当者に問い合わせてください。

テーマを決めた後，必要に応じてグループ分けを行い，基礎能力の充実に努めます。この段階では，出席を重視します。学期末には，基礎知識はもちろんのこと，基礎的な技術力が身についているか確認します。

また，決められたテーマで簡単な作品を制作します。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に教科書を読み，課題制作を進める。準備学習として教科書理解に30時間，課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な基礎知識が身についているかどうか確認します。また，出席状況も重視します。

作品の評価50%，制作に必要な技術の理解度・習得度30%，制作へ取り組む姿勢20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５限

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　製作作品のテーマの希望調査（グループ分け）
第２週　基礎学習１（全体）
第３週　基礎学習２（グループ別）
第４週　課題制作１（その１）
第５週　課題制作１（その２）
第６週　中間発表１
第７週　課題制作２（その１）
第８週　課題制作２（その２）
第９週　中間発表２
第10週　課題制作３（その１）
第11週　課題制作３（その２）
第12週　中間発表３
第13週　まとめ
第14週　まとめと解説
第15週　まとめと次学期の制作計画の検討

日本文化演習ⅠS・ⅢS

3611010101900

副　題	日常生活におけるメディア利用							担　当　者	越塚　美加　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	INF-319-JY INF-457-JY

〔授業の到達目標〕

研究を進めるにあたって基本的な文献探索法，文献の読み方，書誌事項の書き方，レジュメの書き方，発表の仕方などの手法をメディアに関する文献を手がかりに習得する。

〔授業の内容〕

３年生はメディアの特性やその利用についての文献を輪読しながら，さまざまな情報伝達に用いられるメディアと私たちの生活との関係について歴史的に，また現在の状況を考察する。また，研究を進めるうえで必要な情報探索技能や書誌事項の扱いについても取り上げる。

４年生には卒業論文のテーマの選択に関わるテーマの文献を選んで，その内容についての発表を課す。この作業を通じて，研究調査の手法について学ぶとともに，基本的な情報収集法とその記録法等の基礎的な素養を身につける。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
参考書：渡辺武達, 田口哲也『メディア学の現在』新訂第2版，世界思想社，2015年
　　長田攻一, 田所承己『つながるつながらないの社会学』弘文堂，2014年

最初に教科書として挙げたものは必ず購入すること。3-4年生の授業を通じて卒業論文までこれに則っていきます。但し，昨年度と変更しましたので，４年生で昨年度差し替え前の資料を購入した方は改めて今回の教科書を購入しなおす必要はありません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に提示した情報探索法については，各自復習して，習得に努めること。また，日常的にメディアに関する新聞記事や雑誌記事などを意識的に読み，メディア自体あるいはそれらを取り巻く環境について自習してほしい。

〔成績評価の方法〕

平常点（含む小レポート）及び期末レポート。
平常点には，授業への参加態度

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日４限～５限（ゼミ終了後）
日本文化学科の事務室あるいはメールにて

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報メディア概説
第３週　日常生活で利用しているメディア（文献講読１）
第４週　日常生活で利用しているメディア（文献講読２）
第５週　日常生活で利用しているメディア（文献講読３）
第６週　日常生活で利用しているメディア（文献講読４）
第７週　日常生活で利用しているメディア（文献講読５）
第８週　情報探索法１
第９週　情報探索法２
第10週　発表の手法を学ぶ（プレゼンテーション，図表の扱い）
第11週　文献調査発表１
第12週　文献調査発表２
第13週　文献調査発表３
第14週　文献調査発表４
第15週　まとめ

演習形式ですので，授業には十分な準備時間をかけ積極的に臨んでください。

日本文化演習IIA・IVA

3611010200100

副　題	日本芸術の諸相							担　当　者	内野　儀　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ART-320-JY ART-458-JY

〔授業の到達目標〕

近現代日本の芸術文化に関する基本的知識の獲得し，その研究方法を習得すること。

〔授業の内容〕

近現代日本の芸術文化の各分野に関し，入門的概説書や新しい視点で書かれた研究書を取り上げ，学生が分担してその内容を報告し，全員で討議する。対象リストは網羅的になるように教員が用意する。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（発表準備）は30時間。それ以外の週の予習（指定図書・文献の通読）は４時間。復習（授業内容の確認と必要箇所の再読）は２時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%），授業への参加態度（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp（change　●　to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　〃
第３週　学生による発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIB・IVB

3611010200200

副　題	比較日本文化論（II）							担　当　者	今橋 理子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-321-JY ART-459-JY

〔授業の到達目標〕
学際的視点で，美術史（絵画史）および視覚芸術研究を行う方法論の基礎を学び，将来的な卒業論文執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕
本演習は春学期に開講される授業と継続・対応する形で行われるが，秋学期では〈絵画と文学〉の問題を，さらに江戸時代のみならず明治以降の近・現代にまで広げたい。〈絵画と文学〉という問題は，単純にはある一つの〈絵画〉作品に，文学がどのような影響を及ぼしたのか，あるいはその逆の場合を考察すると考えられるが,双方の関係はただそれだけではないだろう。授業では先の蕪村のように，〈絵画〉と〈文学〉という二つの異なる芸術分野で才能を開花させた人々を取り上げ，ある一人の芸術家の思考の中で，二つの表現方法がいかに類似し，またいかに異なっていたのかを，作品に則する形で考察しようとするものである。扱う芸術家は，江戸期では建部綾足，池大雅，渡辺崋山などの文人を始めとして，洋風画の司馬江漢，江戸琳派の酒井抱一，浮世絵師にて戯作者の山東京伝。明治以降では夏目漱石，正岡子規，木下杢太郎，金子光晴，小出楢重，岸田劉生，岡本太郎などが挙げられる。それぞれの芸術家が生きた文化背景にも留意しながら，受講者各自は一人の作家〈画家〉を選び研究，口答発表し，その成果をレポートとしてまとめることになる。

〔教材〕
今橋理子『江戸絵画と文学―〈描写〉と〈ことば〉の江戸文化史』（東京大学出版会,1999年）ほか使用。詳細は開講時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
途中一回と学期末にそれぞれレポートを課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通してアポイントを取ること。

〔備考〕
出席数および年に数回授業時間外に見学会を実施するので，その参加度を重視する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概説１――クロスジャンルとしての芸術研究（１）
第２週　概説２――クロスジャンルとしての芸術研究（２）
第３週　概説３――クロスジャンルとしての芸術研究（３）
第４週　概説４――〈絵画と文学〉研究の地平（１）
第５週　概説５――〈絵画と文学〉研究の地平（２）
第６週　概説６――〈絵画と文学〉研究の地平（３）
第７週　口答発表（１）
第８週　口答発表（２）
第９週　口答発表（３）
第10週　口答発表（４）
第11週　口答発表（５）
第12週　口答発表（６）
第13週　口答発表（７）
第14週　美術館における作品調査の方法（１）
第15週　美術館における作品調査の方法（２）

日本文化演習IIC・IVC

3611010200300

副　題	日本の神話							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-322-JY LIT-460-JY

〔授業の到達目標〕
日本の神話の意義及び仕組みが分かり，研究上のの問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕
古事記・日本書紀の二文献は，いずれもこの世の始原から書き起こし，歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は，神々による世界の形成が描かれており，これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり，これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば，それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により，各神話の本源の姿を探究すると共に，各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ，風土記も参照する。

〔教材〕
教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院
参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
学期末のレポート(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
日本文化学科事務室を通して連絡する。

〔備考〕
古語辞典必携

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明
第２週　発表及び討論
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IID・IVD

3611010200400

副　題	戦後日本の思想と問題									担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-323-JY HIS-461-JY

〔授業の到達目標〕

現代の歴史学の新たな方法と問題点を学ぶ。
歴史学の理論的な記述を講読する読解力を身につける。
日本近代史および思想史・文化史についての基礎知識を得る。
日本近代史にかかわる歴史研究の方法の基礎を学び，資料の読解方法を知る。
戦後の日本の思想と問題点とを学ぶ。

〔授業の内容〕

最初にリン・ハント『グローバル時代の歴史学』の講読をつうじて，現代歴史学の新たな方法と問題について学び，歴史学の理論的な記述を講読する読解力を身につける。
つづいて日本の戦後の歴史と思想を，研究書と実際の思想史的資料を講読しながら学ぶ。

〔教材〕

教科書：大沼保昭『「歴史認識」とは何か』（中公新書）中央公論新社，2015年
『日常からの挑戦』（リーディングス戦後日本の思想水脈）岩波書店，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前に必ず次回の講読箇所を予習してくること。また報告担当の際には責任を持って準備をすること。

〔成績評価の方法〕

授業参加と報告，期末課題によって評価する。
出席回数が開講回数の３分の２に満たない場合は，原則として履修を認定しない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日２時間目。直接メールでアポイントメントを取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　『「歴史認識」とは何か』講読・１
第３週　『「歴史認識」とは何か』講読・２
第４週　『「歴史認識」とは何か』講読・３
第５週　ディスカッション
第６週　『日常からの挑戦』講読・１
第７週　『日常からの挑戦』講読・２
第８週　『日常からの挑戦』講読・３
第９週　『日常からの挑戦』講読・４
第10週　『日常からの挑戦』講読・５
第11週　『日常からの挑戦』講読・６
第12週　『日常からの挑戦』講読・７
第13週　『日常からの挑戦』講読・８
第14週　『日常からの挑戦』講読・９
第15週　ディスカッション・まとめ

日本文化演習IIE・IVE

3611010200500

副　題	平安時代の文学（2）									担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-324-JY LIT-462-JY

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて，文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して，日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として，古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって，くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては，「若菜上」の巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」若菜上』新典社
　　中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。４時間。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。
moriyuki.ito●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　『源氏物語』についての概説
第２週　担当箇所の確定と発表方法に関する説明
第３週　担当者による発表と質疑応答　―『源氏物語』若菜上の講読―
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIF・IVF

3611010200600

副　題	言語研究の可能性							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-325-JY JPL-463-JY

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し，その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても，研究対象である言語をどのような視点から，どのような存在としてみるのかによって，さまざまな内容の研究がある。まず，言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り，次にその中から，自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また，秋学期のはじめに，４年次学生の卒業論文の中間発表を行い，卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は，準備のための時間が10時間以上必要。発表時以外は１～２時間程度の予習（あらかじめ指定された文献を読んでおく）が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容，発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また，最低でも開講時数の２／３以上の出席が必要。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メールによる（アドレスは初回時に伝える）

〔授　業　計　画〕

第１週　卒業論文執筆の注意事項
第２週　卒業論文中間発表１
第３週　卒業論文中間発表２
第４週　卒業論文中間発表３
第５週　卒業論文中間発表４
第６週　さまざまな言語研究１
第７週　さまざまな言語研究２
第８週　共時態に関する研究
第９週　過去の言語に関する研究
第10週　卒業論文着想発表１
第11週　卒業論文着想発表２
第12週　卒業論文着想発表３
第13週　卒業論文着想発表４
第14週　卒業論文着想発表５
第15週　まとめ

日本文化演習IIG・IVG

3611010200700

副　題	現代社会研究（2）							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SOC-326-JY SOC-464-JY

〔授業の到達目標〕

論文作成の基本的なルール，技法を学び，必要な研究能力を習得して，卒業論文（4年生)・ミニ卒業論文（3年生）を完成させる。

〔授業の内容〕

初めの数回は論文作成の方法等について学ぶ。その後，学生の個人研究発表を行う。4年生は卒業論文のテーマと方法を確定し，構想（問題意識と問題設定，結論，議論の展開を示す章立てを含む）と経過・進捗状況を報告する。質疑応答と議論を経て，他の出席学生とともに問題の理解を深め，研究方針を修正しつつ，論文の完成を目指す。3年生は学年末レポート（ミニ卒）ならびに次年度の卒業論文に向けた研究テーマを設定し，それに関係する重要な文献や先行研究について報告する。研究のテーマは広い意味での社会学，社会思想，倫理学などに関わるものであることが望ましい。

発表を聞く学生は，積極的に議論し，発表者の研究がよりよいものとなるように協力すること。

〔教材〕

参考書：石黒圭『この1冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本』日本実業出版社，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表に際しては，さまざまな角度からの質問に答えられるよう，レジュメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また，卒業論文・ミニ卒業論文に向けて課題を適宜出すので，その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（30%），発表・授業への取り組み（40%），課題（30%）から総合的に評価する。特に議論への参加を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日4限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。(change ● to @)

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション，論文の書き方（1）
第2週　論文の書き方（2）
第3週　卒業論文中間発表（1）
第4週　卒業論文中間発表（2）
第5週　卒業論文中間発表（3）
第6週　卒業論文中間発表（4）
第7週　卒業論文中間発表（5）
第8週　個人研究発表（1）
第9週　個人研究発表（2）
第10週　個人研究発表（3）
第11週　個人研究発表（4）
第12週　個人研究発表（5）
第13週　個人研究発表（6）
第14週　個人研究発表（7）
第15週　授業の総括
授業計画は変更の可能性がある。

日本文化演習IIH・IVH

3611010200800

副　題	中世文化・民俗文化〔2〕―お伽草子・民間説話・芸能など―	担　当　者	徳田　和夫　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-327-JY ANT-465-JY

〔授業の到達目標〕

1.日本の伝統文化を民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
2.民俗の概念とその分野の多様性の認知，および物語伝承の多方面からの研究を実践する。
3.文化を，本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕

春学期の「日本文化演習H：中世文化・民俗文化〔１〕―民間説話・古典説話・芸能など―」を発展させて，おもに絵巻，奈良絵本テキストのお伽草子（＝14～17世紀の短編の物語草子群）作品を取りあげ，さまざまな視点から分析をおこないます。物語を通して精神文化の形成と発展を把握し，あわせて現代に生きる私たちの文化的使命を考えます。

文学史の観点に加えて，特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など），民俗学を導入します。

さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比），物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵など），芸能史（古典芸能・民俗芸能）などからアプローチします。

〔教材〕

参考書：徳田和夫『室町の妖怪―説話伝承と図像』せりか書房，2017年
徳田和夫編『世界の文学29・日本１:お伽草子』（週間朝日百科）朝日新聞社，2000年
徳田和夫『お伽草子・伊曽保物語』（新潮日本古典文学アルバム）新潮社，1991年
徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版，2002年
徳田和夫『絵語りと物語り』（イメージリーディング叢書）平凡社，1990年
徳田和夫編『お伽草子 百花繚乱』笠間書院，2008年
徳田和夫監修『図説：日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

教科書とは別にプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（研究と演習発表40%，質問・発言20%，レポート40%）によっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

基本的な事柄は，演習時に連絡します。
また，メールを用いて連絡することがあります。

〔備考〕

（１）ゼミ旅行,美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。
（２）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授　業　計　画〕

第１週　概説（１）
第２週　概説（２）
第３週　演習発表と討議
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習II I ・IV I

3611010200900

副　題	日本の染織と服飾文化の諸相（2）									担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ART-328-JY ART-466-JY

〔授業の到達目標〕

研究に必要な方法論の基礎を学び，資料の収集や検討方法および現存作例の分析方法，研究成果のプレゼンテーションの方法を習得する。研究成果を卒業論文の執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕

日本の染織と服飾文化に関して，各自がテーマを設定して研究を進め，研究成果を発表する。各自の研究成果について全員で討論を行い，研究をより深めることを目指す。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜 4 限，金曜 4 限。

教員との連絡方法については，授業の中で説明する。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　学生による発表と討論
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習II J・IV J

3611010201000

副　題	日本近世の政治・社会・文化（2）							担　当　者	工藤　航平　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	HIS-329-JY HIS-467-JY

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき，最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。秋学期は，江戸時代に関する研究論文の輪読を通して意味解釈や課題を発見する方法を学ぶ。参加者は，担当論文について報告する。テキストについては，参加者の関心も聞いたうえで，決定したい。なお，３年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，自身のみならず他の報告者の史料についても，読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

報告（40%），レポート（30%），授業への参加態度（30%）により評価する。報告を担当しない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室もしくは指定の連絡手段を用いて連絡を取ること。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また，就職活動と重ならない限り，毎回出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のガイダンス
第２週　テキストの相談等
第３週　研究論文の輪読（４年生）
第４週　〃
第５週　研究論文の輪読（３年生）
第６週　〃
第７週　卒業論文最終報告（４年生）
第８週　〃
第９週　〃
第10週　研究論文の輪読（３年生）
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　卒業論文概要報告（４年生）
第15週　〃

参加人数によって，計画に若干の変更がありうる。テキストは，各人の関心を聞いた上で検討する。また，１，２回，都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。夏季の合宿については，学期中に検討する。

日本文化演習IIK・IVK

3611010201100

副　題	食品研究２									担　当　者	阿部　誠　教授
単位	２	配当年次	３ ４	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	３	コース・ナンバー	LIF-330-JY LIF-468-JY

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め，論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

日本の伝統食品，現代の加工食品，各種食品原料，食品製造・加工技術，各種調理品，食生活・食形態などを対象に設定した各自の研究テーマと策定した研究計画に基づき，資料調査や実地調査，実験等を通じて，検証，解析を行っていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物（約80%），授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　テーマごとの調査・研究とその指導
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本文化演習ⅡL・ⅣL

3611010201200

副　題	スポーツ文化の諸相							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	SPO-331-JY SPO-469-JY

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を，主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め，スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ，卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕

日本及び諸外国の，過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を，社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら，スポーツの窓から社会や人間を眺め，同時に，社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。

「スポーツ」とは，近代スポーツばかりではなく，日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが，そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく，その周辺領域（社会，ジェンダー，メディア，民族，環境，教育，健康，異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては，前半は，スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い，分担したテーマについて発表を行う。後半は，各自が自由な発想と関心によってテーマを選び，発表・討議を行い，研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で，独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では，その内容をレジュメとして用意し，授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲･貢献度（40%），発表（30%），レポート（30%）によって総合的に評価する。
（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目
火曜日４時間目
メール(授業時にメールアドレスを伝える）にて連絡をとる。
学科事務室に問い合わせる。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：スポーツの概念
第２週　スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第３週　〃
第４週　学生の発表ならびに討議
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IIM・IVM

3611010201300

副　題	インターネットコミュニケーション							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-332-JY INF-470-JY

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で，（1）　自らテーマを設定し，必要な情報を収集・分析する能力，（2）　自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける．

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って，日常的な情報伝達手段に変化している．本授業では，この分野の諸問題について考察し，問題の調査分析を行うことを主な目的とする．秋学期は学生による調査発表によって進め，自ら問題分析を行い，他者に説明・提案する能力を高めることに重点を置く．

〔教材〕

参考書：増田 直紀（監修，翻訳），高口 太朗（翻訳）『ネットワーク科学』丸善出版，2014年
その他の参考文献は授業中に適宜紹介する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のための準備作業（文献調査，資料作成など）はすべて準備学習に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

担当部分の発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する．発表では担当部分の理解度と説明の明快さについて問う．授業参加の必要条件として，他の学生の発表に対して発言を行うことを求める．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学生発表
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
原則として，各回学生発表である．関連する領域の範囲内で，調査テーマを変更することがある．

日本文化演習IIN・IVN

3611010201400

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-333-JY LIF-471-JY

〔授業の到達目標〕

1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

日本文化演習IIO・IVO

3611010201500

副　題	言語学・日本語教育 II									担　当　者	佐藤 琢三　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	JPL-334-JY JPL-472-JY

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては，具体的な問題に着眼し試験的に小規模な調査等を実施する。また，卒業論文作成をみすえて，中間論文を執筆する。4年生に関しては，卒業論文の完成を目指し，研究の総仕上げを行う。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ，他言語との対照，関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には，次のような分野を扱うことになるだろう。

文法，意味，アクセント，語彙，語用論，文章・談話，会話分析，言語行動，敬語・待遇表現，方言，男女差，誤用分析，諸外国語との対照，日本語教育など

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間程度。ただし，発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし，正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜4限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　4年生による卒論発表
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　3年生による中間論文に向けた発表
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
授業計画は変更する場合がある。

日本文化演習IIP・IVP

3611010201600

副　題	アートによる地域活性化の調査、研究							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ART-335-JY ART-473-JY

〔授業の到達目標〕
アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術，デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕
３年生は春学期から継続している共同研究を深化すると同時に卒業論文の準備を行う。
４年生は卒業論文を完成する。
卒業論文:1945年以降の現在の，日本の視覚芸術（絵画，彫刻，写真），デザイン（グラフィック，プロダクツ，建築）の分野を対象とし，自分自身の問題意識を明確にし，自分のテーマを選定する。対象についての調査研究，文献調査，関係者へのインタビュー，実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。

〔教材〕
教科書：白洲正子『日本の伝統美を訪ねて』（河出文庫）河出書房新社，2011年
梅棹忠夫『文明の生態史観』（中公文庫）中央公論新社，2015年
岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』（新潮文庫）新潮社，2015年
課題図書：10月「日本の伝統美を訪ねて」，11月「文明の生態史観」，12月「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」，１月「花伝書（風姿花伝）」世阿弥編，講談社文庫，1972年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時間以外に横浜の文化芸術の状況について調査する。現代美術の展覧会を調査する。（最低10回）課題図書を読み概要をまとめ感想を書く。（10月から１月で４冊）

〔成績評価の方法〕
１）授業への参加態度，２）発表，３）期末レポート（発表内容を2000字で記述する），４）展覧会レポート（３年生のみ，1000字×10本）５）課題図書レポート（３，４年生，1000字×４本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時半から１時，午後２時半から３時
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔備考〕
現代美術のみならず，近代以前の美術も積極的に見，自分でレポートを作成するなどして準備しておくこと。日本文化基礎演習Pを事前に受講しておくことがのぞましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　共同研究発表（横浜）
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　３年生卒論発表
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　４年生卒業論文発表
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIQ・IVQ

3611010201700

副　題	コンピュータによる作品制作							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-336-JY INF-474-JY

〔授業の到達目標〕

卒業研究を念頭に置いて，最後まで作品を仕上げる能力を習得し，計画した作品を完成させる経験を積むことを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし，「何か」というのは，映像・音楽・アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの，プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また，設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので，不安な学生は，事前に担当者に問い合わせてください。

春学期の演習を発展させ，各自（または各グループ）で，制作（製作）目標・計画を立てます。審査後，作成に取り掛かります。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に計画を立案し，課題制作を進める。準備学習として計画立案に20時間，課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な知識・技術力の習得度50%，作品の内容および完成度50%で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５限

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　製作作品のテーマの決定
第２週　製作活動１（製作計画について個人・グループごとに審査）
第３週　製作活動２
第４週　製作活動３
第５週　中間報告１（進行状況の確認）
第６週　製作活動４
第７週　製作活動５
第８週　製作活動６
第９週　中間報告２（完成に向けて，進行状況の確認）
第10週　製作活動７
第11週　製作活動８
第12週　発表準備
第13週　発表および演習メンバによる審査
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIS・IVS

3611010201900

副　題	接触した情報が日常生活に与える影響							担　当　者	越塚　美加　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	INF-338-JY INF-476-JY

〔授業の到達目標〕

春学期に勉強したことを踏まえ，議論に挙がっている事象を批判的に分析し，他者の意見を考慮しながらさらに自分の意見を提示する手法を学ぶ。また，グループワークを通じて，一つの見方に取りまとめていく手法を学ぶ。

〔授業の内容〕

3年生は，全員が関心のある情報メディア関連のテーマを決めて文献調査あるいは小規模の社会調査を行い，その結果を分析して，まとめ，報告するまでの一連の作業を行う。春学期の学習成果を活かし，文献調査等，最初から自分たちで分担して調査を進めていく。その途上で，KJ法等のグループ内でアイディアをまとめ上げていく手法等を学習する。これまでの例としては「電子書籍の現状及び将来」「インターネット上の広告」というテーマのもと，二つのグループに分かれて文献調査および議論に基づいて現状及び将来の可能性について議論した。

4年生は，卒業論文の進捗状況並びに関連文献の批判的な分析結果について，報告を求める。

〔教材〕

参考書：橋元良明編『日本人の情報行動2015』東京大学出版会，2016年

3年生が調査の対象とするメディアやその扱いについては，話し合いの結果，最終決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3年生のグループワークについては，授業時間内では時間が足りないので，文献調査に始まり，結果のまとめ提示法について授業時間外に各グループごとに準備すること。4年生は卒論の進捗状況だけではなく，必要な文献を読んだ結果についての報告も求める。その準備を授業時間外にきちんと行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）及びレポート（50%）

特に3年生はグループワークを含むので，出席及び講論への積極的参加を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日4限，5限（ゼミ終了後）

日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メール

〔授　業　計　画〕

第1週　調査対象の選定
第2週　先行研究の検討
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　調査の計画立案
第7週　〃
第8週　調査の実施
第9週　〃
第10週　調査結果の分析
第11週　〃
第12週　〃
第13週　学生の発表と議論
第14週　〃
第15週　まとめ

3年生は，グループによる分担作業を中心として，授業時間外の作業が多く想定されるので，きちんと準備をして臨むこと。やむを得ず欠席する場合には，事前にきちんと連絡すること。

卒業研究（春）

3611091100200

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-401-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業研究を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業研究の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業研究（秋）

3611091100100

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-402-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業研究を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業研究の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業論文（春）

3611091200200

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-403-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業論文の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業論文（秋）

3611091200100

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-404-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業論文の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

国際コミュニケーション学科

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅠA	文化財とは何か	MSE-101-IX	1	春		2	M．ウーゴ	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠB			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠC	老舗企業に学ぶ経営学	MAN-103-IX	1	春		2	金城　亜紀	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠD	中・東欧研究の可能性	ARE-104-IX	1	春		2	中島　崇文	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠE	国際政治とグローバリゼーション	POL-105-IX	1	春		2	畠山　圭一	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠF			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-107-IX	1	春		2	荘林幹太郎	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠH	マイノリティの歴史と現在	SOC-108-IX	1	春		2	武井　彩佳	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-109-IX	1	春		2	金野　　純	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠJ	教育改革の比較研究	EDU-110-IX	1	春		2	大桃　敏行	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-111-IX	1	春		2	羅　　京洙	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠL	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史	GEN-112-IX	1	春		2	根占　献一	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠM	現代社会の法的分析(国際法と国内法)	LAW-113-IX	1	春		2	櫻井　大三	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠN	アジア太平洋地域研究の方法	ARE-114-IX	1	春		2	乾　　尚彦	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠO	イギリス文化展望	ENG-115-IX	1	春		2	古庄　　信	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠP	世界の一体化のはじまりと文化の交流	HIS-116-IX	1	春		2	空　由佳子	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠQ	国際協力	INR-117-IX	1	春		2	伊藤由紀子	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠR		PSY-118-IX	1	春		2	田辺　　龍	204
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠS			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠT	グローバル経済とは何か(基礎　その1)	ECO-120-IX	1	春		2	宇野　公子	205
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-121-IX	1	春		2	品川　　明	206
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠV			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠW			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠX	ウェブ上の情報システム	INF-124-IX	1	春		2	江藤　正己	207
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡA	世界遺産という企画	MSE-125-IX	1		秋	2	M．ウーゴ	208
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡB			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡC	老舗企業に学ぶ経営学	MAN-127-IX	1		秋	2	金城　亜紀	209
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡD	中・東欧研究の可能性	ARE-128-IX	1		秋	2	中島　崇文	210
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡE	文明の衝突か共生か	POL-129-IX	1		秋	2	畠山　圭一	211
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡF			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-131-IX	1		秋	2	荘林幹太郎	212
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡH	マイノリティの歴史と現在	SOC-132-IX	1		秋	2	武井　彩佳	213
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-133-IX	1		秋	2	金野　　純	214
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡJ	教育改革の比較研究	EDU-134-IX	1		秋	2	大桃　敏行	215
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-135-IX	1		秋	2	羅　　京洙	216
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡL	オペラと上演方法	GEN-136-IX	1		秋	2	大崎さやの	217
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡM	現代社会の法的分析(国際法と国内法)	LAW-137-IX	1		秋	2	櫻井　大三	218

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅡN	世界の住まい	ARE-138-IX	1		秋	2	乾　尚彦	219
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡO	イギリス文化展望	ENG-139-IX	1		秋	2	古庄　信	220
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡP	世界の一体化のはじまりと文化の交流	HIS-140-IX	1		秋	2	空　由佳子	221
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡQ	国際協力	INR-141-IX	1		秋	2	伊藤由紀子	222
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡR	国際情報をどう読むか	PSY-142-IX	1		秋	2	石澤　靖治	223
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡS			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡT	グローバル経済とは何か(基礎　その2)	ECO-144-IX	1		秋	2	宇野　公子	224
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-145-IX	1		秋	2	品川　明	225
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡV			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡW			1	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡX	ウェブ上の情報システム	INF-148-IX	1		秋	2	江藤　正己	226
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢA	文化財とは何か	MSE-249-IX	2	春		2	M．ウーゴ	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢB			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢC	老舗企業に学ぶ経営学	MAN-251-IX	2	春		2	金城　亜紀	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢD	中・東欧研究の可能性	ARE-252-IX	2	春		2	中島　崇文	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢE	国際政治とグローバリゼーション	POL-253-IX	2	春		2	畠山　圭一	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢF			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-255-IX	2	春		2	荘林幹太郎	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢH	マイノリティの歴史と現在	SOC-256-IX	2	春		2	武井　彩佳	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-257-IX	2	春		2	金野　純	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢJ	教育改革の比較研究	EDU-258-IX	2	春		2	大桃　敏行	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-259-IX	2	春		2	羅　京洙	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢL	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史	GEN-260-IX	2	春		2	根占　献一	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢM	現代社会の法的分析(国際法と国内法)	LAW-261-IX	2	春		2	櫻井　大三	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢN	アジア太平洋地域研究の方法	ARE-262-IX	2	春		2	乾　尚彦	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢO	イギリス文化展望	ENG-263-IX	2	春		2	古庄　信	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢP	世界の一体化のはじまりと文化の交流	HIS-264-IX	2	春		2	空　由佳子	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢQ	国際協力	INR-265-IX	2	春		2	伊藤由紀子	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢR		PSY-266-IX	2	春		2	田辺　龍	204
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢS			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢT	グローバル経済とは何か(基礎　その1)	ECO-268-IX	2	春		2	宇野　公子	205
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-269-IX	2	春		2	品川　明	206
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢV			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢW			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢX	ウェブ上の情報システム	INF-272-IX	2	春		2	江藤　正己	207
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣA	世界遺産という企画	MSE-273-IX	2		秋	2	M．ウーゴ	208
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣB			2	―	―	2	―	―

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅣC	老舗企業に学ぶ経営学	MAN-275-IX	2		秋	2	金城　亜紀	209
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣD	中・東欧研究の可能性	ARE-276-IX	2		秋	2	中島　崇文	210
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣE	文明の衝突か共生か	POL-277-IX	2		秋	2	畠山　圭一	211
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣF			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-279-IX	2		秋	2	荘林幹太郎	212
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣH	マイノリティの歴史と現在	SOC-280-IX	2		秋	2	武井　彩佳	213
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-281-IX	2		秋	2	金野　　純	214
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣJ	教育改革の比較研究	EDU-282-IX	2		秋	2	大桃　敏行	215
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-283-IX	2		秋	2	羅　　京洙	216
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣL	オペラと上演方法	GEN-284-IX	2		秋	2	大崎さやの	217
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣM	現代社会の法的分析(国際法と国内法)	LAW-285-IX	2		秋	2	櫻井　大三	218
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣN	世界の住まい	ARE-286-IX	2		秋	2	乾　　尚彦	219
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣO	イギリス文化展望	ENG-287-IX	2		秋	2	古庄　　信	220
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣP	世界の一体化のはじまりと文化の交流	HIS-288-IX	2		秋	2	空　由佳子	221
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣQ	国際協力	INR-289-IX	2		秋	2	伊藤由紀子	222
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣR	国際情報をどう読むか	SOC-290-IX	2		秋	2	石澤　靖治	223
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣS			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣT	グローバル経済とは何か(基礎　その2)	ECO-292-IX	2		秋	2	宇野　公子	224
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-293-IX	2		秋	2	品川　　明	225
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣV			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣW			2	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣX	ウェブ上の情報システム	INF-296-IX	2		秋	2	江藤　正己	226
国際関係基礎科目群	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、働く意義について考える	MAN-101-IA	1～		秋	2	金城　亜紀	227
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	MAN-202-IA	2～	春		2	田島　博和	228
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（1）	ARE-103-IA	1～	春		2	中島　崇文	229
	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	ARE-104-IA	1～		秋	2	中島　崇文	230
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	INR-105-IA	1～	春		2	畠山　圭一	231
	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	INR-106-IA	1～		秋	2	荘林幹太郎	232
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	ENV-107-IA	1～	春		2	荘林幹太郎	233
	環境科学Ⅱ		ENV-108-IA	1～		秋	2	竹田　麻里	234
	マスコミュニケーション論Ⅰ(概論)	メディアと情報社会	SOC-109-IA	1～	春		2	蔡　　星慧	235
地域文化系基礎科目群	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　琢三	236
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　琢三	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
地域文化系基礎科目群	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	ARE-107-IB	1～		秋	2	畠山　圭一	242
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	PHL-108-IB	1～	春		2	根占　献一	243
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	ARE-109-IB	1～	春		2	金野　　純	244
	イスラム文化論Ⅰ		ARE-110-IB	1～	春		2	高尾賢一郎	245
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246
	比較神話論		ANT-112-IB	1～	春		2	東　由美子	247
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	LIF-113-IB	1～	春		2	真島　麗子	248
	比較居住文化論	建築空間の歴史と居住空間の文化誌	LIF-114-IB	1～	春		2	栗原　伸治	249
英語演習基礎科目群	英語演習ⅠA	Language and Culture in Our World	ENG-201-IV	2	春		2	川口エレン	250
	英語演習ⅠB	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	ENG-202-IV	2	春		2	大野　純子	251
	英語演習ⅠC	時事英語のリスニング	ENG-203-IV	2	春		2	渡辺　幸俊	252
	英語演習ⅠD	アイルランドの文化に触れる	ENG-204-IV	2	春		2	小村　志保	253
	英語演習ⅠE	A Taste of English	ENG-205-IV	2	春		2	谷口めぐみ	254
	英語演習ⅠF	Language Change	ENG-206-IV	2	春		2	川口エレン	255
	英語演習ⅠG	Reading for better communication	ENG-207-IV	2	春		2	清水　英之	256
	英語演習ⅠH	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	ENG-208-IV	2	春		2	大野　純子	257
	英語演習ⅠI	English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs	ENG-209-IV	2	春		2	清水　英之	258
	英語演習ⅠJ	Reciting English poems	ENG-210-IV	2	春		2	清水　英之	259
	英語演習ⅠK	TOEIC® Listening and Reading Test　対策	ENG-211-IV	2	春		2	山口志のぶ	260
	英語演習ⅠL	TOEIC® Listening and Reading Test　対策	ENG-212-IV	2	春		2	山口志のぶ	261
	英語演習ⅡA	Language and Culture in Our World	ENG-213-IV	2		秋	2	川口エレン	262
	英語演習ⅡB	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	ENG-214-IV	2		秋	2	大野　純子	263
	英語演習ⅡC	時事英語のリスニング	ENG-215-IV	2		秋	2	渡辺　幸俊	264
	英語演習ⅡD	アイルランドの歴史に触れる	ENG-216-IV	2		秋	2	小村　志保	265
	英語演習ⅡE	A Flavor of English	ENG-217-IV	2		秋	2	谷口めぐみ	266
	英語演習ⅡF	Language Change	ENG-218-IV	2		秋	2	川口エレン	267
	英語演習ⅡG	Reading for better communication	ENG-219-IV	2		秋	2	清水　英之	268
	英語演習ⅡH	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	ENG-220-IV	2		秋	2	大野　純子	269
	英語演習ⅡI	English Pronunciation Practice through Shakespeare Works	ENG-221-IV	2		秋	2	清水　英之	270
	英語演習ⅡJ	English Pronunciation Practice through English Popular Songs	ENG-222-IV	2		秋	2	清水　英之	271
	英語演習ⅡK	TOEIC® Listening and Reading Test 対策	ENG-223-IV	2		秋	2	山口志のぶ	272
	英語演習ⅡL	TOEIC® Listening and Reading Test 対策	ENG-224-IV	2		秋	2	山口志のぶ	273
国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	ICM-201-IC	2～	春		2	明石　和康	274
	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	国境線から読み解く国際関係史	INR-202-IC	2～		秋	2	舘　　葉月	275
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧文化交流にみる近世と近代	INR-203-IC	2～		秋	2	伊藤真実子	276
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		INR-204-IC	2～	春		2	齋藤　洋子	277
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	INR-205-IC	2～		秋	2	畠山　圭一	278

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際関係専門科目群	国際法Ⅰ	分権社会の法	LAW-206-IC	2～	春		2	櫻井　大三	279
	国際法Ⅱ	国家と国際法	LAW-207-IC	2～		秋	2	櫻井　大三	280
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	VOL-208-IC	2～	春		2	野口　朝夫	281
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	VOL-209-IC	2～		秋	2	伊藤由紀子	282
	国際機構論Ⅰ	国際機構の機能とその可能性	INR-310-IC	3～	春		2	小中さつき	283
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	INR-311-IC	3～		秋	2	小中さつき	284
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	INR-212-IC	2～	春		2	伊藤由紀子	285
	国際開発論Ⅱ		INR-213-IC	2～		秋	2	横田香穂梨	286
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ	MAN-214-IC	2～	春		2	金城　亜紀	287
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	MAN-215-IC	2～		秋	2	田島　博和	288
	金融論	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-216-IC	2～		秋	2	宇野　公子	289
	国際経済Ⅰ	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-217-IC	2～	春		2	宇野　公子	290
	国際経済Ⅱ	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-218-IC	2～		秋	2	宇野　公子	291
	マスコミュニケーション論Ⅱ（理論）	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	SOC-219-IC	2～		秋	2	蔡　星慧	292
	マスコミュニケーション論Ⅲ（広告・ＰＲ）	広告やPRの役割を理解する	SOC-220-IC	2～	春		2	中馬　淳	293
	☆比較教育学		EDU-321-IC	3～		秋	2	大桃　敏行	294
	比較政治学Ⅰ	比較宗教と政治	POL-222-IC	2～	春		2	杉原　志啓	295
	比較政治学Ⅱ	宗教対立と政治	POL-223-IC	2～		秋	2	杉原　志啓	296
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	POL-224-IC	2～	春		2	畠山　圭一	297
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	POL-225-IC	2～		秋	2	齋藤　洋子	298
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と21世紀の課題	POL-326-IC	3～	春		2	加藤　朗	299
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	POL-327-IC	3～		秋	2	加藤　朗	300
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	人種主義の歴史	HIS-328-IC	3～	春		2	武井　彩佳	301
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	HIS-329-IC	3～		秋	2	武井　彩佳	302
地域文化系専門科目群	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・外交・社会	POL-201-ID	2～	春		2	明石　和康	303
	アメリカ文化論Ⅱ	文化、社会、政治、外交	POL-202-ID	2～		秋	2	石澤　靖治	304
	イスラム文化論Ⅱ		ARE-203-ID	2～		秋	2	高尾賢一郎	305
	☆イギリス文化論Ⅰ	英国史概観（古代ローマ～近代）	ARE-204-ID	2～	春		2	古庄　信	306
	☆イギリス文化論Ⅱ			2～	－	－	2	－	－
	フランス文化論Ⅰ		ARE-206-ID	2～	春		2	泉　美知子	307
	フランス文化論Ⅱ	史料を通して見る前近代フランス史	ARE-207-ID	2～		秋	2	加藤　玄	308
	ドイツ文化論Ⅰ	ドイツとは何か	ARE-208-ID	2～	春		2	武井　彩佳	309
	ドイツ文化論Ⅱ	現代ドイツ	ARE-209-ID	2～		秋	2	武井　彩佳	310
	イタリア文化論Ⅰ		ARE-210-ID	2～	春		2	関　孝弘	311
	イタリア文化論Ⅱ	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア	LIT-211-ID	2～		秋	2	宮坂　真紀	312
	東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）	遺跡を通してみるアジア文化	ARE-212-ID	2～	春		2	重枝　豊	313
	東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	ARE-213-ID	2～		秋	2	乾　尚彦	314

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
地域文化系専門科目群	☆アフリカ文化論			2～	―	―	2	―	―
	☆中南米文化論			2～	―	―	2	―	―
	中国文化論		ARE-216-ID	2～		秋	2	金野　純	315
	朝鮮文化論	韓国の文化と社会	ARE-217-ID	2～	春		2	羅　京洙	316
	☆南アジア文化論			2～	―	―	2	―	―
	☆ロシア文化論			2～	―	―	2	―	―
	東欧文化論	ドナウ流域諸国の歴史と文化	ARE-220-ID	2～		秋	2	中島　崇文	317
	☆オセアニア文化論			2～	―	―	2	―	―
	アメリカ文学Ⅰ		LIT-222-ID	2～	春		2	山口志のぶ	318
	アメリカ文学Ⅱ		LIT-223-ID	2～		秋	2	山口志のぶ	319
	☆イギリス文学Ⅰ			2～	―	―	2	―	―
	☆イギリス文学Ⅱ			2～	―	―	2	―	―
	比較音楽論Ⅰ（東洋）		ART-326-ID	3～	春		2	丸山　洋司	320
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	ART-327-ID	3～		秋	2	米田かおり	321
	☆比較宗教論Ⅰ			3～	―	―	2	―	―
	☆比較宗教論Ⅱ			3～	―	―	2	―	―
	文化遺産学	文化財から文化遺産へ	MSE-230-ID	2～	春		2	M．ウーゴ	322
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅠA	International Relations of East Asia	ENG-301-IW	3	春		2	羅　京洙	323
	外国語演習ⅠB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(1)	ENG-302-IW	3	春		2	久保田有香	324
	外国語演習ⅠC		ENG-303-IW	3	春		2	大西　克典	325
	外国語演習ⅠD	英語で読む国際交渉――貿易交渉はなぜ、どのように行われるのか	ENG-304-IW	3	春		2	林　正德	326
	外国語演習ⅠE	ヨーロッパ文化の理解を深める	ITA-305-IW	3	春		2	根占　献一	327
	外国語演習ⅠF	Race and Ethnicity	ENG-306-IW	3	春		2	武井　彩佳	328
	外国語演習ⅠG	ビジネス現場からみた日米関係	ENG-307-IW	3	春		2	大出　隆	329
	外国語演習ⅠH	世界の経済社会問題	ENG-308-IW	3	春		2	宇野　公子	330
	外国語演習ⅠI	Experiencing Shakespeare	ENG-309-IW	3	春		2	古庄　信	331
	外国語演習ⅠJ	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯	ENG-310-IW	3	春		2	中島　崇文	332
	外国語演習ⅠK	金融・経済基礎	ENG-311-IW	3	春		2	中島　洋子	333
	外国語演習ⅠL	Cultural Properties in Japan	MSE-312-IW	3	春		2	M．ウーゴ	334
	外国語演習ⅠM	英語で読む国際法	LAW-313-IW	3	春		2	櫻井　大三	335
	外国語演習ⅠN	外国語で読む現代日本	HIS-314-IW	3	春		2	金野　純	336
	外国語演習ⅠO	英語で学ぶ環境経済	ENG-315-IW	3	春		2	荘林幹太郎	337
	外国語演習ⅡA	Experiencing Shakespeare	ENG-316-IW	3		秋	2	古庄　信	338
	外国語演習ⅡB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(2)	ENG-317-IW	3		秋	2	久保田有香	339
	外国語演習ⅡC	アメリカ人から見たフランス	ENG-318-IW	3		秋	2	清水　領	340
	外国語演習ⅡD	英語で読む食品の安全・品質制度の考え方と仕組み	ENG-319-IW	3		秋	2	林　正德	341
	外国語演習ⅡE	イタリア、ルネサンスの芸術家像	ENG-320-IW	3		秋	2	高橋　朋子	342

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅡF	Race and Ethnicity	ENG-321-IW	3		秋	2	武井　彩佳	343
	外国語演習ⅡG	グローバル企業のCSR戦略とアライアンス戦略	ENG-322-IW	3		秋	2	大出　　隆	344
	外国語演習ⅡH	世界の経済社会問題	ENG-323-IW	3		秋	2	宇野　公子	345
	外国語演習ⅡI	アメリカ現代政治	ENG-324-IW	3		秋	2	藤原　朝子	346
	外国語演習ⅡJ	International Relations of East Asia	ENG-325-IW	3		秋	2	羅　　京洙	347
	外国語演習ⅡK	金融・経済基礎	ENG-326-IW	3		秋	2	中島　洋子	348
	外国語演習ⅡL	World Cultural and Natural Heritage	MSE-327-IW	3		秋	2	M．ウーゴ	349
	外国語演習ⅡM	英語で読む国際法	LAW-328-IW	3		秋	2	櫻井　大三	350
	外国語演習ⅡN	外国語で読む現代日本	HIS-329-IW	3		秋	2	金野　　純	351
	外国語演習ⅡO	英語で学ぶ日本の農村・環境問題	ENG-330-IW	3		秋	2	荘林幹太郎	352
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅠA	文化財の保護と活用	MSE-301-IY	3	春		2	M．ウーゴ	353
	国際コミュニケーション演習ⅠB			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅠC	企業家に学ぶ応用経営史	MAN-303-IY	3	春		2	金城　亜紀	354
	国際コミュニケーション演習ⅠD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-304-IY	3	春		2	中島　崇文	355
	国際コミュニケーション演習ⅠE	情報戦略なき国家	POL-305-IY	3	春		2	畠山　圭一	356
	国際コミュニケーション演習ⅠF			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-307-IY	3	春		2	荘林幹太郎	357
	国際コミュニケーション演習ⅠH	宗教と民族	HIS-308-IY	3	春		2	武井　彩佳	358
	国際コミュニケーション演習ⅠI	東アジアの歴史と社会	HIS-309-IY	3	春		2	金野　　純	359
	国際コミュニケーション演習ⅠJ	教育改革を考える	EDU-310-IY	3	春		2	大桃　敏行	360
	国際コミュニケーション演習ⅠK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-311-IY	3	春		2	羅　　京洙	361
	国際コミュニケーション演習ⅠL	ヨーロッパ文化の諸問題－ルネサンスの視点より	PHL-312-IY	3	春		2	根占　献一	362
	国際コミュニケーション演習ⅠM	国際法と国内法の基本問題	LAW-313-IY	3	春		2	櫻井　大三	363
	国際コミュニケーション演習ⅠN	比較生活文化研究	ANT-314-IY	3	春		2	乾　　尚彦	364
	国際コミュニケーション演習ⅠO	English and Its Culture I	ENG-315-IY	3	春		2	古庄　　信	365
	国際コミュニケーション演習ⅠP	ヨーロッパ対外交流史の研究	HIS-316-IY	3	春		2	坂野　正則	366
	国際コミュニケーション演習ⅠQ	国際開発協力	INR-317-IY	3	春		2	伊藤由紀子	367
	国際コミュニケーション演習ⅠR		ICM-318-IY	3	春		2	小泉　成史	368
	国際コミュニケーション演習ⅠS			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅠT	グローバル経済とは何か(その１)	ECO-320-IY	3	春		2	宇野　公子	369
	国際コミュニケーション演習ⅠU	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-321-IY	3	春		2	品川　　明	370
	国際コミュニケーション演習ⅠV	言語学・日本語教育Ⅰ	JPL-322-IY	3	春		2	佐藤　琢三	371
	国際コミュニケーション演習ⅠW	日本語研究の方法	JPL-323-IY	3	春		2	福島　直恭	372
	国際コミュニケーション演習ⅠX	情報システム	INF-324-IY	3	春		2	江藤　正己	373
	国際コミュニケーション演習ⅡA	文化財の保護と活用	MSE-325-IY	3		秋	2	M．ウーゴ	374
	国際コミュニケーション演習ⅡB			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅡC	企業家に学ぶ応用経営史	MAN-327-IY	3		秋	2	金城　亜紀	375

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅡD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-328-IY	3		秋	2	中島　崇文	376
	国際コミュニケーション演習ⅡE	日本の政治文化の特質	POL-329-IY	3		秋	2	畠山　圭一	377
	国際コミュニケーション演習ⅡF			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅡG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-331-IY	3		秋	2	荘林幹太郎	378
	国際コミュニケーション演習ⅡH	宗教と民族	HIS-332-IY	3		秋	2	武井　彩佳	379
	国際コミュニケーション演習ⅡI	東アジアの歴史と社会	HIS-333-IY	3		秋	2	金野　　純	380
	国際コミュニケーション演習ⅡJ	教育改革を考える	EDU-334-IY	3		秋	2	大桃　敏行	381
	国際コミュニケーション演習ⅡK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-335-IY	3		秋	2	羅　　京洙	382
	国際コミュニケーション演習ⅡL	中世イタリアの港湾都市を知る	PHL-336-IY	3		秋	2	亀長　洋子	383
	国際コミュニケーション演習ⅡM	国際法と国内法の基本問題	LAW-337-IY	3		秋	2	櫻井　大三	384
	国際コミュニケーション演習ⅡN	比較生活文化研究	ANT-338-IY	3		秋	2	乾　　尚彦	385
	国際コミュニケーション演習ⅡO	English and Its Culture II	ENG-339-IY	3		秋	2	古庄　　信	386
	国際コミュニケーション演習ⅡP	ヨーロッパ対外交流史の研究	HIS-340-IY	3		秋	2	坂野　正則	387
	国際コミュニケーション演習ⅡQ	国際開発協力	INR-341-IY	3		秋	2	伊藤由紀子	388
	国際コミュニケーション演習ⅡR	国際関係・メディア・世論	ICM-342-IY	3		秋	2	石澤　靖治	389
	国際コミュニケーション演習ⅡS			3	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅡT	グローバル経済とは何か(その２)	ECO-344-IY	3		秋	2	宇野　公子	390
	国際コミュニケーション演習ⅡU	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-345-IY	3		秋	2	品川　　明	391
	国際コミュニケーション演習ⅡV	言語学・日本語教育 II	JPL-346-IY	3		秋	2	佐藤　琢三	392
	国際コミュニケーション演習ⅡW	言語研究の可能性	JPL-347-IY	3		秋	2	福島　直恭	393
	国際コミュニケーション演習ⅡX	情報システム	INF-348-IY	3		秋	2	江藤　正己	394
	国際コミュニケーション演習ⅢA	文化財の保護と活用	MSE-449-IY	4	春		2	M．ウーゴ	353
	国際コミュニケーション演習ⅢB			4	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅢC	企業家に学ぶ応用経営史	MAN-451-IY	4	春		2	金城　亜紀	354
	国際コミュニケーション演習ⅢD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-452-IY	4	春		2	中島　崇文	355
	国際コミュニケーション演習ⅢE	情報戦略なき国家	POL-453-IY	4	春		2	畠山　圭一	356
	国際コミュニケーション演習ⅢF			4	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-455-IY	4	春		2	荘林幹太郎	357
	国際コミュニケーション演習ⅢH	宗教と民族	HIS-456-IY	4	春		2	武井　彩佳	358
	国際コミュニケーション演習ⅢI	東アジアの歴史と社会	HIS-457-IY	4	春		2	金野　　純	359
	国際コミュニケーション演習ⅢJ			4	―	―	2	―	―
	国際コミュニケーション演習ⅢK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-459-IY	4	春		2	羅　　京洙	361
	国際コミュニケーション演習ⅢL	ヨーロッパ文化の諸問題－ルネサンスの視点より	PHL-460-IY	4	春		2	根占　献一	362
	国際コミュニケーション演習ⅢM	国際法と国内法の基本問題	LAW-461-IY	4	春		2	櫻井　大三	363
	国際コミュニケーション演習ⅢN	比較生活文化研究	ANT-462-IY	4	春		2	乾　　尚彦	364
	国際コミュニケーション演習ⅢO	English and Its Culture I	ENG-463-IY	4	春		2	古庄　　信	365
	国際コミュニケーション演習ⅢP	ヨーロッパ対外交流史の研究	HIS-464-IY	4	春		2	坂野　正則	366

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅢQ	国際開発協力	INR-465-IY	4	春		2	伊藤由紀子	367
	国際コミュニケーション演習ⅢR			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅢS			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅢT			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅢU	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-469-IY	4	春		2	品川　明	370
	国際コミュニケーション演習ⅢV	言語学・日本語教育Ⅰ	JPL-470-IY	4	春		2	佐藤　琢三	371
	国際コミュニケーション演習ⅢW	日本語研究の方法	JPL-471-IY	4	春		2	福島　直恭	372
	国際コミュニケーション演習ⅢX	情報システム	INF-472-IY	4	春		2	江藤　正己	373
	国際コミュニケーション演習ⅣA	文化財の保護と活用	MSE-473-IY	4		秋	2	M．ウーゴ	374
	国際コミュニケーション演習ⅣB			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣC	企業家に学ぶ応用経営史	MAN-475-IY	4		秋	2	金城　亜紀	375
	国際コミュニケーション演習ⅣD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-476-IY	4		秋	2	中島　崇文	376
	国際コミュニケーション演習ⅣE	日本の政治文化の特質	POL-477-IY	4		秋	2	畠山　圭一	377
	国際コミュニケーション演習ⅣF			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-479-IY	4		秋	2	荘林幹太郎	378
	国際コミュニケーション演習ⅣH	宗教と民族	HIS-480-IY	4		秋	2	武井　彩佳	379
	国際コミュニケーション演習ⅣI	東アジアの歴史と社会	HIS-481-IY	4		秋	2	金野　純	380
	国際コミュニケーション演習ⅣJ			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-483-IY	4		秋	2	羅　京洙	382
	国際コミュニケーション演習ⅣL	中世イタリアの港湾都市を知る	PHL-484-IY	4		秋	2	亀長　洋子	383
	国際コミュニケーション演習ⅣM	国際法と国内法の基本問題	LAW-485-IY	4		秋	2	櫻井　大三	384
	国際コミュニケーション演習ⅣN	比較生活文化研究	ANT-486-IY	4		秋	2	乾　尚彦	385
	国際コミュニケーション演習ⅣO	English and Its Culture Ⅱ	ENG-487-IY	4		秋	2	古庄　信	386
	国際コミュニケーション演習ⅣP	ヨーロッパ対外交流史の研究	HIS-488-IY	4		秋	2	坂野　正則	387
	国際コミュニケーション演習ⅣQ	国際開発協力	INR-489-IY	4		秋	2	伊藤由紀子	388
	国際コミュニケーション演習ⅣR			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣS			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣT			4	—	—	2	−	−
	国際コミュニケーション演習ⅣU	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-493-IY	4		秋	2	品川　明	391
	国際コミュニケーション演習ⅣV	言語学・日本語教育Ⅱ	JPL-494-IY	4		秋	2	佐藤　琢三	392
	国際コミュニケーション演習ⅣW	言語研究の可能性	JPL-495-IY	4		秋	2	福島　直恭	393
	国際コミュニケーション演習ⅣX	情報システム	INF-496-IY	4		秋	2	江藤　正己	394
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）		ICM-401-IZ	4	春集中		8	金城　亜紀	395
	卒業研究（秋）		ICM-402-IZ	4		秋集中	8	金城　亜紀	396
	卒業論文（春）		ICM-403-IZ	4	春集中		8	金城　亜紀	397
	卒業論文（秋）		ICM-404-IZ	4		秋集中	8	金城　亜紀	398

国際コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
指定された他学科専門科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43
	☆比較文化論Ⅰ（比較日本文化）			3～	―	―	2	―	―
	☆比較文化論Ⅱ（文学）			3～	―	―	2	―	―
	※比較文化論Ⅲ（芸術）	展覧会カタログ研究	ART-303-JE	3～		秋	2	今橋　理子	128
	※比較文化論Ⅳ（民俗）	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー	ANT-304-JE	3～		秋	2	徳田　和夫	129
	比較文化論Ⅴ（社会）	写真の中の江戸	HIS-305-JE	3～		秋	2	金行　信輔	130
	比較文化論Ⅵ（嗜好）		LIF-306-JE	3～	春		2	中野　美季	131
	比較文化論Ⅶ（生活）	装飾文化の交流	ART-307-JE	3～		秋	2	福島　雅子	132
	比較文化論Ⅷ（Japanese Culture Ⅰ）	Melodrama	JPN-308-JE	3～	春		2	J. P. チャン	133
	比較文化論Ⅸ（Japanese Culture Ⅱ）	Reading Movies	JPN-309-JE	3～		秋	2	J. P. チャン	134
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135

国際コミュニケーション基礎演習IA・IIIA

3620010100100

副　題	文化財とは何か							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	MSE-101-IX MSE-249-IX

〔授業の到達目標〕
文化財を通じて，特定の課題について調べる・考える・発表する力をつけること。

〔授業の内容〕
現在,我々が「文化財」あるいは「文化遺産」と呼ぶものはどういうものか。また,「文化財」として我々が守ろうとしているものはどういうものか。そして，それをなぜ後世に残そうとするのか。日本，海外を問わず，人類にとっての「文化財」，その概念，その保存の目的と背景を概観する。実のところ，世界中で「遺産」として考えられている対象には少なからず違いがある。有形のもの，無形のもの，文化的なもの，自然的なもの，さらに，それらを統合したもの，重点の置かれ方はさまざまに異なる。このような事情を踏まえた上で，日本国内の文化財を分析し，そして外国ではどのような「遺産」があるのかを比較することによって，それぞれに共通する特徴を理解する。また，地域によって捉え方の異なる「遺産」については，遺産の保存方法に関して，具体的な実例をもとに考察を深める。各自，日本や外国の「遺産」に関して調査し意見交換を図る。そうした成果を定期的に小論文としてまとめ，発表し，調べる力や論文の執筆力を高めてゆく。

〔教材〕
参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
文化庁文化財部（編）『未来に伝えよう　文化財』文化庁，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートやレジメ［50%］発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金・3限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　文化財について
第3週　日本の文化財　1
第4週　日本の文化財　2
第5週　日本の文化財　3
第6週　発表・討論
第7週　〃
第8週　〃
第9週　外国の文化財　1
第10週　外国の文化財　2
第11週　外国の文化財　3
第12週　発表・討論
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IC・IIIC

3620010100300

副　題	老舗企業に学ぶ経営学							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MAN-103-IX MAN-251-IX

〔授業の到達目標〕
1. 老舗企業の研究を通して，経営史の視座から経営学の基本を理解する。
2. 自らテーマを設定し，学習と研究を進める方法論を実践的に取得する。
3. チームで協力して研究し，論文を執筆する。

〔授業の内容〕
日本は，創業が200年を超える老舗企業が世界で最も多く存在する国といわれます。本基礎演習では，時代の風雪に耐え荒波を乗り越える不老長寿の経営を維持してきた老舗企業を対象に，学生が主体的に経営学を歴史的視座で学び，現在と未来への含意を考えます。

〔教材〕
教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第2版，慶応義塾大学出版会，2015年
田久保善彦『創業300年の長寿企業はなぜ栄え続けるのか』東洋経済新報社，2014年
参考書：横澤利昌『老舗企業の研究―100年企業に学ぶ革新と創造の連続』改訂新版，生産性出版，2012年
テーマに対応した参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，課題を出しそれを準備しているという前提で演習を進ます。一週間あたり最低４時間は授業時間外で本演習のための時間を確保するようにしてください。

〔成績評価の方法〕
グループでの発表：30%
Class contribution: 30%
学期末レポート：40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日：14：45～15：45 (4222研究室)
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔備考〕
・本基礎演習は実力がつく分，ハードです。現時点での学力は問いませんが，勉学に励む意欲がない方や時間を傾注できない方にはお勧めできません。
・演習に積極的に取組み，お互いに高め合いながら，楽しく勉学する意欲のある方を歓迎します。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　老舗研究概論１
第３週　老舗研究概論２
第４週　資料検索ガイダンス
第５週　研究テーマの設定１
第６週　研究テーマの設定２
第７週　発表とコメント
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　予備日
第15週　Wrap-up
・より良い演習にするために，本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション基礎演習ID・IIID

3620010100400

副　題	中・東欧研究の可能性							担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ARE-104-IX ARE-252-IX

〔授業の到達目標〕
中・東欧全般に関する理解を深め，この地域を対象とする研究はどのようなものが可能であるのかを理解すると共に，論文の執筆の方法を具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕
毎週，『アカデミック・スキルズ』を１章ずつ検討した後，中・東欧及びその周辺地域を対象とする様々なテーマによる論文を１本ずつ精読する。受講生は『アカデミック・スキルズ』の該当する章と取り上げる予定の論文を事前に読んだ上で授業に臨むことが前提となるが，授業では担当教員は内容，体裁，脚注の付け方，参考文献の記載方法等について具体例に即して説明し，また，受講生は全員が一言ずつコメントするものとする。

〔教材〕
教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門―』慶應義塾大学出版会，2012年
授業で取り上げる論文については担当教員が用意し，前の週に事前に配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書の該当部分に目を通し，また，事前に配布された論文を熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕
受講態度（約15%），授業中に行うコメントと授業終了時に提出するペーパーの内容の緻密さ（約55%），指定された期限までに提出するレポートの出来具合（約30%）等によって総合的に評価する。また，１回の欠席につきおおむね５点の減点とし，加えて，欠席日に提出すべき課題が遅れても未提出の場合にはさらに５点の減点となる。このように欠席した場合の減点が大きいため，受講生は毎週欠かさず出席するよう，最大限に努力してほしい。日常的に欠席しがちな人，じっくりと長い文章を読むことを好まない人は歓迎しないし，本基礎演習は勧めない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載する）。

〔備考〕
国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者や中欧国際協力研修参加予定者は，この国際コミュニケーション基礎演習Dの他，地域研究基礎論I・II，東欧文化論をできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明，自己紹介
第２週　論文の執筆の方法，研究テーマの設定の事例
第３週　中・東欧における日常のデザイン
第４週　中・東欧における観光業の発展
第５週　中・東欧の都市における緑化政策
第６週　中・東欧における日本美術の受容（１）
第７週　中・東欧における日本美術の受容（２）
第８週　中・東欧におけるホロコーストとそれを伝える博物館
第９週　中・東欧における社会主義時代の作家たち
第10週　中・東欧において社会主義時代に育った政治家
第11週　中・東欧における戦争被害者の研究
第12週　中・東欧の国々における歴史教育と歴史教科書
第13週　中・東欧におけるポスト社会主義期の移民の問題
第14週　レポートの返却とコメント
第15週　総括

国際コミュニケーション基礎演習IE・IIIE

3620010100500

副　題	国際政治とグローバリゼーション							担　当　者	畠山 圭一　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	POL-105-IX POL-253-IX

〔授業の到達目標〕
文献購読を通じて，国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに，文献調査，理論分析，調査内容報告，討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕
冷戦終結以来，国際社会における紛争や摩擦は国家，民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになっている。今後の国際関係を理解し，国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには，国際社会の主体である各々の国家が，相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では，世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに，異文化，異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本，中国）の文明，文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り，今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕
教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況，演習参加の積極性，報告内容，リポート等によって総合的に評価(授業への参加状況の配点は２割，リポートの配点は４割，その他４割)し，60点以上を合格とする。欠席について，無断欠席２回，連続３回の欠席，総計４回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻，受講停止とするので，注意されたい。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入講義
第２週　テキスト輪読
第３週　テキスト内容の報告と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション基礎演習IG・IIIG

3620010100700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENV-107-IX ENV-255-IX

〔授業の到達目標〕

「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから，「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換する(これまでの経験則からは，毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している)。

〔授業の内容〕

本基礎演習では，地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として，国際コミュニケーションに必要な基本的技術，とくに論理的に考え，書き，発表する技術を学ぶ。

具体的には，５週目までの毎回の演習において，講師から地球環境問題の事例について紹介し，受講生はそれをもとに２～３パラグラフの文章を書き，その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで，６週目以降に，論点（テーマ）を設定したうえで，それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕

教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会，2004年
『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会，2006年

「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2週間に１回を基本として３パラグラフ程度のレポートを課す（平均すると毎週４時間程度の負荷のイメージ）。

〔成績評価の方法〕

ほぼ毎回出題される小メモ（２～３パラグラフ）の宿題（40%），授業における発言等（20%），最終レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週水曜日昼休み
20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には，20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第３週　同上
第４週　〃
第５週　〃
第６週　レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第７週　事例演習
第８週　同上
第９週　〃
第10週　〃
第11週　レポート最終発表
第12週　同上
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IH・IIIH

3620010100800

副　題	マイノリティの歴史と現在							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-108-IX SOC-256-IX

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と，彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは，過去には社会から排除されたり，強制的に同化させられたりしました。この授業では，主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ，その歴史，現在の彼らを取り巻く社会状況，差別の構造などについて考えます。

授業では，配布したテキストを読み，特定のマイノリティについて自分で調べ，報告します。この後，報告したテーマでレポートにまとめます。さらに，参加者は新聞に目を通し，マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（40点），報告（20点），レポート（20点），新聞の切り抜き（20点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜・水曜の４時限後，約30分。
授業の前後に申し出ること。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加態度に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　「マイノリティとは何か」：報告者の決定
第２週　テキスト解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　報告＋解説
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　関連する映画鑑賞
第11週　報告＋解説
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
計画通りいかないこともあります。

国際コミュニケーション基礎演習II・III

3620010100900

副　題	歴史社会学および東アジア地域研究							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-109-IX HIS-257-IX

〔授業の到達目標〕

歴史社会学の研究方法の概略を理解し，地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法，レポートの作成方法，プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕

歴史と聞くとナポレオン，毛沢東，始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが，私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には，かならず歴史的な背景があります。本演習では，歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し，それを日本，中国，韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。

担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが，歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕

授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布されるコースパックを熟読し，内容をまとめておくこと。また授業では，内容に関して意見を求められることもあるので，自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限
授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔備考〕

本演習は，３年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　歴史社会学と地域研究
第３週　歴史をどのように研究するのか？（１）　―研究の作法
第４週　歴史をどのように研究するのか？（２）　―日本，中国，韓国，カンボジアを事例として
第５週　報告とディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IＪ・IIIＪ

3620010101000

副　題	教育改革の比較研究							担　当　者	大桃　敏行　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	EDU-110-IX EDU-258-IX

〔授業の到達目標〕

教育改革に関する基本的知識を習得し，グローカルな観点から改革課題について理解を深める。

〔授業の内容〕

グローバル化の進展のなかで，日本の教育は国際機関や諸外国の影響を強く受けるようになった。その一方で，国内においても，自治体や学校で独自の改革や実践が行われている。そして，このグローバルな影響とローカルな改革は共鳴し合うところがある。本授業ではグローバルとローカル（グローカル）な観点から教育改革の分析を行う。まず，日本の自治体や学校での改革の分析から始めて，次に国際機関や諸外国の政策や改革の検討を行う。対象国については，受講生の関心を聞いて決めたい。

〔教材〕

教科書：大桃敏行・押田貴久『教育現場に革新をもたらす自治体発カリキュラム改革』初版，学事出版，２０１４年

参考書：二宮皓『世界の学校　教育制度から日常の学校風景まで』初版，学事出版，２０１４年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて４時間程度。

〔成績評価の方法〕

授業での発表（50%）と最終レポート（50%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日２時限及び随時。

連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　教育改革の動向に関する講義
第３週　自治体発の教育改革の事例分析
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　諸外国の教育改革の事例分析
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　全体のまとめ

国際コミュニケーション基礎演習IK・IIIK

3620010101100

副　題	東アジアにおける人の移動と文化交流							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-111-IX ARE-259-IX

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を，人と文化の移動と交流という観点から分析し，そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバリゼーションが進む中，今日の東アジア地域では，近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心がますます高まっている。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は，東アジア国際関係の変容を自覚し，国境という物理的･心理的境界を越える移動と交流を繰り広げている。本演習では，東アジアの人々が国家，国境，国民，民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし，新たな地域空間とそこでの共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では，国境を越える人々の移動によって文化の移動，さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお，本演習は，大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえつつ，（1）担当教員による講義，（2）関連文献の輪読，（3）学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて4時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），プレゼンテーション（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　アカデミックな思考と方法（1）
第3週　アカデミックな思考と方法（2）
第4週　アカデミックな思考と方法（3）
第5週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（1）
第6週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（2）
第7週　文献講読と討論（1）
第8週　文献講読と討論（2）
第9週　文献講読と討論（3）
第10週　プレゼンテーションと討論（1）
第11週　プレゼンテーションと討論（2）
第12週　プレゼンテーションと討論（3）
第13週　プレゼンテーションと討論（4）
第14週　プレゼンテーションと討論（5）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション基礎演習IL・IIIL

3620010101200

副　題	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	GEN-112-IX GEN-260-IX

〔授業の到達目標〕

歴史を知ることで自分という存在を考えられうる視点を養うこと

〔授業の内容〕

学問や文学の世界で女性が活躍するようになったのは，ヨーロッパでも必ずしも昔からではない。ルネサンス時代に次第に男性と張り合う知的な女性が現れてきた。アドリア海の女王，ヴェネツィア共和国にはcortegiana onestaと呼ばれる「職業婦人」がいた。その一人がヴェロニカ・フランコである。

彼女に関わるテクストー研究者の解説と彼女の手紙ーを読みながら，ヨーロッパ文化や歴史への貢献を考えていきたい。テクスト（英文）は易しくないうえに，古典語のみならず，イタリア語を始めとするヨーロッパ近代の各国語が出てくる可能性があるが，多様なヨーロッパ各国語を考える機会にしてほしい。

〔教材〕

テクスト教材（英文）はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各２時間以上。

〔成績評価の方法〕

発表（40%），授業への参加態度（40%），レポート（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５時間目（あらかじめの連絡要）。
学内メール・アドレス。

〔備考〕

映像資料多用。

〔授　業　計　画〕

第１週　序―歴史の中の女性
第２週　オリエントとヨーロッパ間のヴェネツィア
第３週　テクストに基づく各自の発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　映像資料
第14週　〃
第15週　結―まとめ
女性の社会的役割などを歴史的に考察する機会にしてほしい。

国際コミュニケーション基礎演習IM・IIIM

3620010101300

副　題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LAW-113-IX LAW-261-IX

〔授業の到達目標〕
現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し，その問題の所在（背景と論点）を明らかにするとともに，その解決の在り方を展望することができる。

〔授業の内容〕
本演習では，諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し，その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い，その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。
取り上げる題材は法律問題が望ましいが，社会問題として議論に値するものであれば，それも可とする。

〔教材〕
教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
『六法』が必携となる（指定『六法』については，開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
一コマ90分の授業に対して，最低限以下の予習・復習が必要となる。
１．予習120分：指示された新聞記事を熟読し，プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。
２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，討論への参加（以上を平常点として50％程度）。
（２）割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50％程度）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
法律に関する基本的な知識や発想を習得するために，受講生には，「法学I･II」および「国際法I･II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　演習の受け方・心得等
第３週　『アカデミック・スキルズ』について
第４週　受講生による個別報告（１）
第５週　受講生による個別報告（２）
第６週　受講生による個別報告（３）
第７週　受講生による個別報告（４）
第８週　受講生による個別報告（５）
第９週　受講生による個別報告（６）
第10週　受講生による個別報告（７）
第11週　受講生による個別報告（８）
第12週　受講生による個別報告（９）
第13週　受講生による個別報告（10）
第14週　受講生による個別報告（11）
第15週　受講生による個別報告（12）
平素から新聞を読む習慣を身につけ，関心のある事件・事象に注目し，どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

国際コミュニケーション基礎演習IN・IIIN

3620010101400

副　題	アジア太平洋地域研究の方法							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-114-IX ARE-262-IX

〔授業の到達目標〕

東南アジア，東アジア，オセアニアの地域研究の方法の基礎を習得する。

〔授業の内容〕

東南アジア，東アジア，オセアニアには多様な文化が見られるが，こうした地域の文化を研究する上で必要な基礎的な技術の習得を目標とする。具体的には，フィールドワークやアンケート調査の方法，当該地域に関わる書誌，データベース（HRAFなどを含む），関連図書館，研究機関，分野別の研究者を把握し，当該地域の基層文化に関わる諸学説を概観し，将来，当該地域で各種のテーマのもとに研究を進めていく上での基礎を確立する。また，毎回の報告を通して，資料を扱う上で問題となる引用の方法，著作権の扱い，発表・報告・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告のためのレジュメ作成。他の報告者の内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート，授業への参加態度，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４限（事前にメールで申し込むこと）
ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，アジアと自分との関わり
第２週　地域研究の資料操作法１　（１）KJ法とアウトラインプロセッサー（２）カードとフィールドノート
第３週　地域研究の資料操作法２　著作権と引用
第４週　資料探索１　検索とデータベース
第５週　資料探索２　アジア・太平洋の研究機関，学会，専門図書館，書店
第６週　アジアの基層論１　アジア文化の起源論
第７週　アジアの基層論２　モンゴロイドの拡散と適応
第８週　アジアの基層論３　空間区分と風土，社会，世界観
第９週　アジアの基層論４　アジア・太平洋探検史
第10週　アジア文化の諸相１
第11週　アジア文化の諸相２
第12週　アジア文化の諸相３
第13週　アジア文化の諸相４
第14週　アジア文化の諸相５
第15週　アジア文化の諸相６

国際コミュニケーション基礎演習IO・IIIO

3620010101500

副　題	イギリス文化展望							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-115-IX ENG-263-IX

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読，発表その他のアクティヴィティをとおして，英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し，自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は，もともとは日本の面積の約３分の２という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが，およそ1500年の歴史を経て，今や国際語，世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか，そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか，また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか，様々なトピックからこの問題を考察しながら，同時に同じ島国である日本とその文化，考え方との違いを観察する。またテキストをとおして，英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。さらに発表（プレゼンテーション）をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Yutaka Waku & Bill Benfield, *Cultural Walks in Britain*, 成美堂, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回のテキスト講読箇所は必ず予習で読んでおくこと。特に発表担当者は念入りに調べて発表に臨むこと。また発表者以外の履修者も質問に答えられるよう本文を熟読し，わからない単語・発音など前もって調べておくこと。予習・復習に各２時間は最低必要。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。

期末試験（50%），見学授業レポート（10%），テキスト個別発表（20%），グループ発表（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限

国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして相談希望日時を申し込むことが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
第３週　４つの国：イギリス
第４週　ピーターラビットの故郷：Lake District
第５週　シェイクスピアの故郷：Stratford-upon-Avon
第６週　首都の歴史：London 1
第７週　サクソン人の故郷：Wessex
第８週　大学の町：Cambridge & Oxford
第９週　英国人が最も愛する田舎：Cotswolds
第10週　シャーロック・ホームズ：London 2
第11週　ビートルズを生んだ町：Liverpool
第12週　陶器の故郷：the Midlands
第13週　ロビン・フッド伝説：Sherwood, Nottingham
第14週　ウィスキーの故郷：Scotland
第15週　まとめ

上述の授業計画にある第３週～14週は，テキストに基づいて個人またはグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IP・IIIP

3620010101600

副　題	世界の一体化のはじまりと文化の交流							担　当　者	空　由佳子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	HIS-116-IX HIS-264-IX

〔授業の到達目標〕

現代社会が抱える諸問題を，その歴史的背景にまで遡って理解することができる思考力を養う。

〔授業の内容〕

地球規模でのヒト･モノ･情報の移動が進み，急速に変化する現代世界においては，ヨーロッパ中心的な歴史観の見直しが求められています。本科目では，近世ヨーロッパの海外進出によりはじまる世界の一体化を，ヨーロッパと非ヨーロッパとの相互関係で捉え，現代世界を地球規模の視点で捉える実践力を養うことを目的とします。また，参加者自身によるテキストの講読，発表，ディスカッションを通して，アカデミックな方法（問題提起，調査，分析，アウトプット）を身につけます。

〔教材〕

教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

文献は初回授業で指定します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

文献の事前講読，発表の準備。

〔成績評価の方法〕

出席，発表，授業参加の積極性（50%），期末レポート（50%）で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail:prof.yukasora●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション，アカデミックな方法
第２週　近世における世界の一体化のはじまり
第３週　文献講読，発表，ディスカッション
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IQ・IIIQ

3620010101700

副　題	国際協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INR-117-IX INR-265-IX

〔授業の到達目標〕
国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する。

〔授業の内容〕
阪神・淡路大震災で，日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し，「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に，非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動，役割も評価されはじめ，98年には非営利活動を活発にする１つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し，より多くの日本人が専門家，ボランティアとして世界各地で活躍し，また，徐々にではあるが，これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら，戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか，貧富の格差，環境問題といったように問題は深刻化し，山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を，国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕
教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書，2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には４時間以上費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
課題１および２　30%，Code of Conduct 20%，国際貢献関連　15%，発表またはレポート15%，授業への参加意欲他　20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第１回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　INTRODUCTION
第２週　ディスカッション課題１
第３週　ディスカッション課題２
第４週　Code of Conduct I
第５週　Code of Conduct II
第６週　Code of Conduct III
第７週　「国際貢献のウソ」
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　レポートフォローアップ
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション基礎演習IR・IIIR

3620010101800

副　題								担　当　者	田辺　龍　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	PSY-118-IX PSY-266-IX

〔授業の到達目標〕

日本の近代化についての理解を深める。また，読書の仕方や議論，発表のやり方なども理解し体得する。

〔授業の内容〕

グローバル化した社会を考え，そこで生きていくためには，ベースとなる知識として，自国の文化への理解は不可欠である。本演習では，日本の近代化について，特に生活世界において何が起こったのかについて，様々な事象を題材として，教科書を全員で読みながら，議論をし，考えていく。参加者には事前に教科書の該当部分を読み，ゼミの中では内容について議論をおこなうことが求められる。

〔教材〕

教科書：柳田國男『明治大正史 世相篇 新装版』（講談社学術文庫）講談社，１９９３年

「固有名詞を用いずに書かれた歴史」として先駆的な仕事。名もなき生活者にとっての近代化とは何かを考えるために今も読まれるべき書物です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の予習として，教科書の各項目を事前に読むことに２時間以上，各週の発表・議論内容の復習に２時間以上かけること。

〔成績評価の方法〕

授業での発表と議論への参加などの授業への貢献（80%），期末の発表（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　総論：明治大正期の世相の変化を振り返る
第３週　食生活における個人の自由とは何か
第４週　建築とわれわれの「内面」
第５週　景観の変遷
第６週　都会と地方
第７週　鉄道の普及と旅の変化
第８週　近代恋愛の登場
第９週　「家」制度の衰微
第10週　産業構造の変容
第11週　労働力の移動について
第12週　近代化の負の側面
第13週　共同体および共同性について
第14週　生活改善という目標
第15週　最終発表

国際コミュニケーション基礎演習IT・IIIT

3620010102000

副　題	グローバル経済とは何か(基礎　その1)							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECO-120-IX ECO-268-IX

〔授業の到達目標〕

グローバル経済の下，経済・社会活動の国際化がますます進展し，経済・社会問題の多くは世界とのかかわりを無視しては考えることができない状況となってきている。国際コミュニケーション基礎演習では，こうした状況のもとで複雑化する経済・社会の国際的相互依存関係を経済学的に理解することを目指す。

〔授業の内容〕

初学者を対象に，国際経済を始めとする経済問題を考える上で基本的な分析ツールとなる経済理論に関する簡単な導入を行なう。具体的にはミクロ経済学，統計学や計量経済学の考え方や基本用語を概説し，それらを使った実証分析の手順について述べる。このため取り扱うべきテーマは貿易，金融，FDI，ODA，知的所有権，頭脳流出，国際経済協力の枠組み，WTOの活動等，多岐にわたる。この基礎演習では，経済・社会問題の国際的相互依存関係に関する講義を行った後で，各自主体的に調査を行い，その結果を発表する。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各2時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第1週　グローバル経済とは何か。
第2週　需要と供給
第3週　市場取引と資源配分
第4週　グローバル経済における国際機関の役割
第5週　UNCTAD
第6週　〃
第7週　ITC
第8週　〃
第9週　WTO
第10週　〃
第11週　OECD
第12週　〃
第13週　WIPO
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IU・IIIU

3620010102100

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-121-IX LIF-269-IX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jpとasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　自分の得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

国際コミュニケーション基礎演習IX・IIIX

3620010102400

副　題	ウェブ上の情報システム							担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-124-IX INF-272-IX

〔授業の到達目標〕
資料を効率よく検索し，適切に利用できる
現代社会における情報システムの意義や位置づけを考察できる
調べたことを他人に分かり易く伝えるプレゼンテーションができる
指定された形式に沿って，自分の意見をレポートにまとめることができる

〔授業の内容〕
私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で，情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。
しかしながら，多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では，普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で扱うとともに，さらに一歩進んだ情報システムの活用方法をとりあげます。
授業では，主に次の三つの作業を求めます。（１）情報システムの特徴や活用方法等について，小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。（２）調べた内容について，パワーポイント等を用いて，他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は，発表内容に対してコメントを書き評価する。（３）期末レポートを作成する。

〔教材〕
参考書：NHKスペシャル取材班『グーグル革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
小課題に沿って，発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，小課題(30%)，発表(20%)，期末レポート(20%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合，成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
この授業を履修するにあたり，求める前提知識は，「ホームページを見ることができる」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，プレゼンテーションとは
第２週　参考資料の調査方法（Web検索）
第３週　参考資料の調査方法（文献検索）
第４週　図書館及び，図書館資料の使い方
第５週　発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較）
第６週　発表(例　どのような人がどのようにWikipediaを書いているか？）
第７週　発表(例　Yahoo知恵袋では，どのような人が質問・回答しているのか？）
第８週　発表(例　Andorid携帯のAndroidとは何か？）
第９週　発表(例　口コミサイトで得られる情報は，テレビや雑誌の情報とどのように違うか？）
第10週　発表(例　毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには？）
第11週　発表(例　Amazonの優れているところはどこか？）
第12週　発表(例　削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか？）
第13週　発表(例　USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには？）
第14週　発表(例　ネットならではの広告にはどのようなものがあるか？）
第15週　現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から，履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり，履修者の人数等によって変更となる。

国際コミュニケーション基礎演習ⅡA・ⅣA

3620010200100

副　題	世界遺産という企画							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	MSE-125-IX MSE-273-IX

〔授業の到達目標〕
世界遺産についての知識を深めつつ，調べる力を身につけること。

〔授業の内容〕
世界遺産は「文化遺産」,「自然遺産」，そして「複合遺産」に区分されるが，それぞれはどのような遺産だろうか。まず，日本にはどのような世界遺産があるのかを見てゆく。日本の世界遺産を中心に，それらがどのような基準で選択され，世界遺産リストに推薦されたのかを深く理解する。さらに，既に登録された日本の世界遺産だけではなく，推薦されたけれど登録されなかった遺産，また，これから推薦されようとしている遺産を検討し，日本国内の文化財としての価値だけではなく，その世界的な意義までを理解する。学生は小グループに分かれ，グループごとに世界遺産に関して調査し意見交換を重ねる。そうした成果を定期的にレジメや小論文としてまとめ，発表し，選んだテーマについて調べる力を高めてゆく。

〔教材〕
参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
日本ユネスコ協会連盟（編）『世界遺産年報』講談社、エイジャ，1997年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートやレジメ［50%］発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火　お昼休み
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる自然遺産や文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の文化遺産と自然遺産　1
第３週　日本の文化遺産と自然遺産　2
第４週　日本の文化遺産と自然遺産　3
第５週　発表・討論
第６週　〃
第７週　〃
第８週　日本の世界遺産暫定リスト　1
第９週　日本の世界遺産暫定リスト　2
第10週　日本の世界遺産暫定リスト　3
第11週　発表・討論
第12週　〃
第13週　〃
第14週　日本の世界遺産と外国の世界遺産
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIC・IVC

3620010200300

副　題	老舗企業に学ぶ経営学							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MAN-127-IX MAN-275-IX

〔授業の到達目標〕

1. 老舗企業の研究を通して，経営史の視座から経営学の基本を理解する。
2. 自らテーマを設定し，学習と研究を進める方法論を実践的に取得する。
3. チームで協力して研究し，論文を執筆する。

〔授業の内容〕

日本は，創業が200年を超える老舗企業が世界で最も多く存在する国といわれます。本基礎演習では，時代の風雪に耐え荒波を乗り越える不老長寿の経営を維持してきた老舗企業を対象に，学生が主体的に経営学を歴史的視座で学び，現在と未来への含意を考えます。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第2版，慶応義塾大学出版会，2015年
田久保善彦『創業300年の長寿企業はなぜ栄え続けるのか』東洋経済新報社，2014年
参考書：横澤利昌『老舗企業の研究―100年企業に学ぶ革新と創造の連続』改定新版，生産性出版，2012年
テーマに対応した参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，課題を出しそれを準備しているという前提で演習を進ます。一週間あたり最低４時間は授業時間外で本演習のための時間を確保するようにしてください。

〔成績評価の方法〕

グループでの発表：30%
Class contribution: 30%
学期末レポート：40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：14：45～15：45 (4222研究室)
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔備考〕

・本基礎演習は実力がつく分，ハードです。現時点での学力は問いませんが，勉学に励む意欲がない方や時間を傾注できない方にはお勧めできません。
・演習に積極的に取組み，お互いに高め合いながら，楽しく勉学する意欲のある方を歓迎します。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　老舗研究概論１
第３週　老舗研究概論２
第４週　資料検索ガイダンス
第５週　研究テーマの設定１
第６週　研究テーマの設定２
第７週　発表とコメント
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　予備日
第15週　Wrap-up
・より良い演習にするために，本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション基礎演習IID・IVD

3620010200400

副　題	中・東欧研究の可能性							担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ARE-128-IX ARE-276-IX

〔授業の到達目標〕
中・東欧全般に関する理解を深め，この地域を対象とする研究はどのようなものが可能であるのかを理解すると共に，論文の執筆の方法を具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕
毎週，『アカデミック・スキルズ』を１章ずつ検討した後，中・東欧及びその周辺地域を対象とする様々なテーマによる論文を１本ずつ精読する。受講生は『アカデミック・スキルズ』の該当する章と取り上げる予定の論文を事前に読んだ上で授業に臨むことが前提となるが，授業では担当教員は内容，体裁，脚注の付け方，参考文献の記載方法等について具体例に即して説明し，また，受講生は全員が一言ずつコメントするものとする。

〔教材〕
教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門―』慶應義塾大学出版会，2012年
授業で取り上げる論文については担当教員が用意し，前の週に事前に配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書の該当部分に目を通し，また，事前に配布された論文を熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕
受講態度（約15%），授業中に行うコメントと授業終了時に提出するペーパーの内容の緻密さ（約55%），指定された期限までに提出するレポートの出来具合（約30%）等によって総合的に評価する。また，１回の欠席につきおおむね５点の減点とし，加えて，欠席日に提出すべき課題が遅れても未提出の場合にはさらに５点の減点となる。このように欠席した場合の減点が大きいため，受講生は毎週欠かさず出席するよう，最大限に努力してほしい。日常的に欠席しがちな人，じっくりと長い文章を読むことを好まない人は歓迎しないし，本基礎演習は勧めない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載する）。

〔備考〕
国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者や中欧国際協力研修参加予定者は，この国際コミュニケーション基礎演習Dの他，地域研究基礎論I・II，東欧文化論をできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明，自己紹介
第２週　論文の執筆の方法，研究テーマの設定の事例
第３週　中・東欧における日常のデザイン
第４週　中・東欧における観光業の発展
第５週　中・東欧の都市における緑化政策
第６週　中・東欧における日本美術の受容（１）
第７週　中・東欧における日本美術の受容（２）
第８週　中・東欧におけるホロコーストとそれを伝える博物館
第９週　中・東欧における社会主義時代の作家たち
第10週　中・東欧において社会主義時代に育った政治家
第11週　中・東欧における戦争被害者の研究
第12週　中・東欧の国々における歴史教育と歴史教科書
第13週　中・東欧におけるポスト社会主義期の移民の問題
第14週　レポートの返却とコメント
第15週　総括

国際コミュニケーション基礎演習IIE・IVE

3620010200500

副　題	文明の衝突か共生か									担　当　者	畠山 圭一　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	POL-129-IX POL-277-IX

〔授業の到達目標〕
文献購読を通じて，国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに，文献調査，理論分析，調査内容報告，討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕
冷戦終結以来，国際社会における紛争や摩擦は国家，民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになっている。今後の国際関係を理解し，国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには，国際社会の主体である各々の国家が，相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では，世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに，異文化，異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本，中国）の文明，文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り，今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕
教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況，演習参加の積極性，報告内容，リポート等によって総合的に評価(授業への参加状況の配点は２割，リポートの配点は４割，その他４割)し，60点以上を合格とする。欠席について，無断欠席２回，連続３回の欠席，総計４回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻，受講停止とするので，注意されたい。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入講義　文明から見た世界
第２週　テキスト輪読
第３週　テキスト内容報告と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション基礎演習IIG・IVG

3620010200700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENV-131-IX ENV-279-IX

〔授業の到達目標〕

「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから，「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換する(これまでの経験則からは，毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している)。

〔授業の内容〕

本基礎演習では，地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として，国際コミュニケーションに必要な基本的技術，とくに論理的に考え，書き，発表する技術を学ぶ。

具体的には，５週目までの毎回の演習において，講師から地球環境問題の事例について紹介し，受講生はそれをもとに２～３パラグラフの文章を書き，その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで，６週目以降に，論点（テーマ）を設定したうえで，それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕

教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会，2004年
『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会，2006年

「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2週間に１回を基本として３パラグラフ程度のレポートを課す（平均すると毎週４時間程度の負荷のイメージ）。

〔成績評価の方法〕

ほぼ毎回出題される小メモ（２～３パラグラフ）の宿題（40%），授業における発言等（20%），最終レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週水曜日昼休み
20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合には，20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第３週　同上
第４週　〃
第５週　〃
第６週　レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第７週　事例演習
第８週　同上
第９週　〃
第10週　〃
第11週　レポート最終発表
第12週　同上
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIH・IVH

3620010200800

副　題	マイノリティの歴史と現在							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-132-IX SOC-280-IX

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と，彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは，過去には社会から排除されたり，強制的に同化させられたりしました。この授業では，主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ，その歴史，現在の彼らを取り巻く社会状況，差別の構造などについて考えます。

授業では，配布したテキストを読み，特定のマイノリティについて自分で調べ，報告します。この後，報告したテーマでレポートにまとめます。さらに，参加者は新聞に目を通し，マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（40点），報告（20点），レポート（20点），新聞の切り抜き（20点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後の30分。
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加態度に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　「マイノリティとは何か」：報告者の決定
第２週　テキスト解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　報告＋解説
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　関連する映画鑑賞
第11週　報告＋解説
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
計画通りいかないこともあります。

国際コミュニケーション基礎演習II I・IV I

3620010200900

副　題	歴史社会学および東アジア地域研究							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-133-IX HIS-281-IX

〔授業の到達目標〕

歴史社会学の研究方法の概略を理解し，地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法，レポートの作成方法，プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕

歴史と聞くとナポレオン，毛沢東，始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが，私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には，かならず歴史的な背景があります。本演習では，歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し，それを日本，中国，韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。

担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが，歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕

授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布されるコースパックを熟読し，内容をまとめておくこと。また授業では，内容に関して意見を求められることもあるので，自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限
授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔備考〕

本演習は，３年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　歴史社会学と地域研究
第３週　歴史をどのように研究するのか？（１）　―研究の作法
第４週　歴史をどのように研究するのか？（２）　―日本，中国，韓国，カンボジアを事例として
第５週　報告とディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習II J・IV J

3620010201000

副　題	教育改革の比較研究							担　当　者	大桃　敏行　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	EDU-134-IX EDU-282-IX

〔授業の到達目標〕

教育改革に関する基本的知識を習得し，グローカルな観点から改革課題について理解を深める。

〔授業の内容〕

グローバル化の進展のなかで，日本の教育は国際機関や諸外国の影響を強く受けるようになった。その一方で，国内においても，自治体や学校で独自の改革や実践が行われている。そして，このグローバルな影響とローカルな改革は共鳴し合うところがある。本授業ではグローバルとローカル（グローカル）な観点から教育改革の分析を行う。まず，日本の自治体や学校での改革の分析から始めて，次に国際機関や諸外国の政策や改革の検討を行う。対象国については，受講生の関心を聞いて決めたい。

〔教材〕

教科書：大桃敏行・押田貴久『教育現場に革新をもたらす自治体発カリキュラム改革』初版，学事出版，２０１４年

参考書：二宮皓『世界の学校　教育制度から日常の学校風景まで』初版，学事出版，２０１４年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて４時間程度。

〔成績評価の方法〕

授業での発表（50%）と最終レポート（50%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日２時限及び随時。

連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　教育改革の動向に関する講義
第３週　自治体発の教育改革の事例分析
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　諸外国の教育改革の事例分析
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　全体のまとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIK・IVK

3620010201100

副　題	東アジアにおける人の移動と文化交流							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-135-IX ARE-283-IX

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を，人と文化の移動と交流という観点から分析し，そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバリゼーションが進む中，今日の東アジア地域では，近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心がますます高まっている。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は，東アジア国際関係の変容を自覚し，国境という物理的･心理的境界を越える移動と交流を繰り広げている。本演習では，東アジアの人々が国家，国境，国民，民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし，新たな地域空間とそこでの共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では，国境を越える人々の移動によって文化の移動，さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお，本演習は，大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえつつ，（1）担当教員による講義，（2）関連文献の輪読，（3）学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて4時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），プレゼンテーション（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　アカデミックな思考と方法（1）
第3週　アカデミックな思考と方法（2）
第4週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動
第5週　講義：人の移動と多文化共生＜日本篇＞
第6週　講義：人の移動と多文化共生＜韓国篇＞
第7週　文献講読と討論（1）
第8週　文献講読と討論（2）
第9週　文献講読と討論（3）
第10週　プレゼンテーションと討論（1）
第11週　プレゼンテーションと討論（2）
第12週　プレゼンテーションと討論（3）
第13週　プレゼンテーションと討論（4）
第14週　プレゼンテーションと討論（5）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション基礎演習IIL・IVL

3620010201200

副　題	オペラと上演方法							担　当　者	大崎　さやの　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	GEN-136-IX GEN-284-IX

〔授業の到達目標〕

西欧の文化が生み出した代表的な芸術ジャンルの，歴史の中での変遷を学ぶことを通して，現代の人間社会と文化について考えられる視点を養うこと。

〔授業の内容〕

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術です。現代に至るまで，多くのオペラ作品が作られ，現代でも上演され続けています。オペラは西欧を代表する芸術様式の一つですが，その上演方法は時代と共に変遷しています。近年，オペラはオリジナルの台本に書かれた本来の舞台設定から遠く離れた，いわゆる「読み替え」演出によって上演されるケースが多く見られます。本演習では，オペラとその上演方法の歴史的な変遷について書かれたテクストを読みながら，オペラ作品とその上演方法の関係や，さまざまな上演方法がオペラ史において果たしてきた役割について考えてみたいと思います。テクストは平易な文体で書かれており，さまざまなオペラの上演方法についての時代別の概観を伴う，大変興味深いものです。演習を通して，オペラ作品はもちろん，その上演方法についての歴史的な理解を深めることができるでしょう。この授業をきっかけに，学生のみなさんのオペラと演劇文化についての知識と関心が深まることを期待します。なお，テクストには，作品タイトル等英語以外の言語も用いられていますが，各言語への興味を深めるよい機会となるでしょう。

〔教材〕

テクスト教材（英語）は，こちらで準備します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，配布したテクストの講読箇所（１回の授業で１～２ページ進む予定）をあらかじめ読んだうえで出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（50%），発表（25%），レポート（25%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

ビデオによる作品鑑賞を随時行います。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　テクスト紹介　各自の担当箇所決定
第２週　オペラ史の簡単なまとめ
第３週　テクストに基づく各自の発表（１）
第４週　テクストに基づく各自の発表（２）
第５週　作品鑑賞（１）
第６週　テクストに基づく各自の発表（３）
第７週　テクストに基づく各自の発表（４）
第８週　作品鑑賞（２）
第９週　テクストに基づく各自の発表（５）
第10週　テクストに基づく各自の発表（６）
第11週　作品鑑賞（３）
第12週　テクストに基づく各自の発表（７）
第13週　テクストに基づく各自の発表（８）
第14週　作品鑑賞（４）
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIM・IVM

3620010201300

副　題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LAW-137-IX LAW-285-IX

〔授業の到達目標〕
現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し，その問題の所在（背景と論点）を明らかにするとともに，その解決の在り方を展望することができる。

〔授業の内容〕
本演習では，諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し，その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い，その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。
取り上げる題材は法律問題が望ましいが，社会問題として議論に値するものであれば，それも可とする。

〔教材〕
教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
『六法』が必携となる（指定『六法』については，開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
一コマ90分の授業に対して，最低限以下の予習・復習が必要となる。
１．予習120分：指示された新聞記事を熟読し，プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。
２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，討論への参加（以上を平常点として50％程度）。
（２）割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50％程度）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
法律に関する基本的な知識や発想を習得するために，受講生には，「法学II」および「国際法I･II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　演習の受け方・心得等
第３週　『アカデミック・スキルズ』について
第４週　受講生による個別報告（１）
第５週　受講生による個別報告（２）
第６週　受講生による個別報告（３）
第７週　受講生による個別報告（４）
第８週　受講生による個別報告（５）
第９週　受講生による個別報告（６）
第10週　受講生による個別報告（７）
第11週　受講生による個別報告（８）
第12週　受講生による個別報告（９）
第13週　受講生による個別報告（10）
第14週　受講生による個別報告（11）
第15週　受講生による個別報告（12）
平素から新聞を読む習慣を身につけ，関心のある事件・事象に注目し，どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

国際コミュニケーション基礎演習IIN・IVN

3620010201400

副　題	世界の住まい							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-138-IX ARE-286-IX

〔授業の到達目標〕

世界の住まい研究に必要な基礎的な技術を習得する。

〔授業の内容〕

世界各地には，様々な形式の住居とそれに関わる文化がある。そうした比較居住文化研究の基礎として，世界各地の伝統的な住文化がどのようなものかを調べる。毎回，発表者は，担当地域の文献を探し，それを読み，レジュメにまとめて報告するというのが基本である。それらを通して，文献や資料探索の方法を学び，研究史や研究機関，研究者，基礎文献を把握する。また，資料を扱う上で問題となる引用の方法，著作権の扱い，発表・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔教材〕

教科書：OLIVER, Paul（ed.）, *Encyclopedia of Vernacular Architecture of the World*, Cambridge University Press, 1997

英文の教科書は，国際コミュニケーション学科事務室に保管してあるので，各自，それを閲覧する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告者はレジュメの作成。その他は，内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート，授業への参加態度，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日 4 限（事前にメールで申し込むこと）
ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　住文化の見方・調べ方
第 2 週　発表者が選択した地域の報告
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ 1
第15週　まとめ 2

国際コミュニケーション基礎演習IIO・IVO

3620010201500

副　題	イギリス文化展望							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-139-IX ENG-287-IX

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読，発表その他のアクティヴィティをとおして，英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し，自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は，もともとは日本の面積の約３分の２という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが，およそ1500年の歴史を経て，今や国際語，世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか，そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか，また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか，様々なトピックからこの問題を考察しながら，同時に同じ島国である日本とその文化，考え方との違いを観察する。またテキストをとおして，英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。さらに発表（プレゼンテーション）の実践をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Yutaka Waku & Bill Benfield, *Cultural Walks in Britain*, 成美堂, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表者だけでなく出席者全員が毎回のテキスト講読箇所のわからない単語・発音などを念入りに調べておく。予習・復習に各２時間は必要。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。

期末試験（50%），見学授業レポート（10%），テキスト個別発表（20%），グループ発表（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限

国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして希望の相談日時を申し込むことが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
第３週　４つの国：イギリス
第４週　ピーターラビットの故郷：Lake District
第５週　シェイクスピアの故郷：Stratford-upon-Avon
第６週　首都の歴史：London 1
第７週　サクソン人の故郷：Wessex
第８週　大学の町：Cambridge & Oxford
第９週　英国人が最も愛する田舎：Cotswolds
第10週　シャーロック・ホームズ：London 2
第11週　ビートルズを生んだ町：Liverpool
第12週　陶器の故郷：the Midlands
第13週　ロビン・フッド伝説：Sherwood, Nottingham
第14週　ウィスキーの故郷：Scotland
第15週　まとめ

上述の授業計画にある第３週～14週は，テキストに基づいてグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IIP・IVP

3620010201600

副　題	世界の一体化のはじまりと文化の交流	担　当　者	空　由佳子　講師

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	HIS-140-IX HIS-288-IX

〔授業の到達目標〕

現代社会が抱える諸問題を，その歴史的背景にまで遡って理解することができる思考力を養う。

〔授業の内容〕

地球規模でのヒト･モノ･情報の移動が進み，急速に変化する現代世界においては，ヨーロッパ中心的な歴史観の見直しが求められています。本科目では，近世ヨーロッパの海外進出によりはじまる世界の一体化を，ヨーロッパと非ヨーロッパとの相互関係で捉え，現代世界を地球規模の視点で捉える実践力を養うことを目的とします。また，参加者自身によるテキストの講読，発表，ディスカッションを通して，アカデミックな方法（問題提起，調査，分析，アウトプット）を身につけます。

〔教材〕

教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

文献は初回授業で指定します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

文献の事前講読，発表の準備。

〔成績評価の方法〕

出席，発表，授業参加の積極性（50%），期末レポート（50%）で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail（prof.yukasora●gmail.com）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション，アカデミックな方法
第２週　近世における世界の一体化のはじまり
第３週　文献講読，発表，ディスカッション
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIQ・IVQ

3620010201700

副　題	国際協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INR-141-IX INR-289-IX

〔授業の到達目標〕
国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する。

〔授業の内容〕
阪神・淡路大震災で，日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し，「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に，非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動，役割も評価されはじめ，98年には非営利活動を活発にする１つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し，より多くの日本人が専門家，ボランティアとして世界各地で活躍し，また，徐々にではあるが，これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら，戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか，貧富の格差，環境問題といったように問題は深刻化し，山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を，国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕
教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書，2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には４時間以上費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
課題１および２　30%，Code of Conduct 20%，国際貢献関連　15%，発表またはレポート15%，授業への参加意欲他　20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第１回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　INTRODUCTION
第２週　ディスカッション課題１
第３週　ディスカッション課題２
第４週　Code of Conduct I
第５週　Code of Conduct II
第６週　Code of Conduct III
第７週　「国際貢献のウソ」
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　レポートフォローアップ
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション基礎演習IIR・IVR

3620010201800

副　題	国際情報をどう読むか									担　当　者	石澤　靖治　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	PSY-142-IX PSY-290-IX

〔授業の到達目標〕

現在起きている国際問題にはどのようなものがあるかを知り，それがどのように私たちに伝えられているかをわかるようにする。自分の考えをまとめて口頭と文章で，わかりやすく発表できるようにする。

〔授業の内容〕

毎回,担当者がその週のニュースについてまとめ,それをわかりやすく「週刊ニュースジャーナル」として，プレゼンテーションを行う。国際関係について基礎的な内容を学ぶ。学期中に２回ほど自分の考えをコラムにまとめる。

〔教材〕

随時，テーマによって適当なものがあれば指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の準備学習に４時間以上かけること。

〔成績評価の方法〕

授業でのプレゼンテーション（40%），２回提出するコラム（40%），授業参加の状況（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日　12：30～13：00
emailによる

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　今週の世界のニュース・プレゼン，国際情勢解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
受講生の状況によって，進行と内容を変えることがある。

国際コミュニケーション基礎演習ⅡＴ・ⅣＴ

3620010202000

副　題	グローバル経済とは何か(基礎　その2)							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECO-144-IX ECO-292-IX

〔授業の到達目標〕

グローバル経済の下，経済活動の国際化がますます進展し，経済問題の多くは世界経済とのかかわりを無視しては考えることができない状況となってきている。国際コミュニケーション基礎演習は，こうした状況のもとで複雑化する経済・社会の国際的相互依存関係を経済学的に理解するものである。

〔授業の内容〕

初学者を対象に，国際経済を始めとする経済問題を考える上で基本的な分析ツールとなる経済理論に関する導入を行なう。具体的にはマクロ経済学，統計学や計量経済学の考え方や基本用語を概説し，それらを使った実証分析の手順について述べる。このため取り扱うべきテーマは保健，労働，人権，女性，難民，国際経済協力の枠組み等，多岐にわたる。この基礎演習では，経済・社会問題の国際的相互依存関係に関する講義を行った後で，各自主体的に調査を行い，その結果を発表する。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　グローバル経済とは何か。経済をマクロからとらえよう。
第２週　有効需要
第３週　貨幣の機能
第４週　マクロ経済政策
第５週　国際経済学
第６週　グローバル経済における国際機関の役割
第７週　WHO
第８週　UNAIDS
第９週　The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria
第10週　〃
第11週　ILO
第12週　UNHCR
第13週　UNOCHA
第14週　UNOHCHR
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIU・IVU

3620010202100

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション							担　当　者	品川　明　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-145-IX LIF-293-IX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jpとasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　自分の得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

国際コミュニケーション基礎演習ⅡX・ⅣX

3620010202400

副　題	ウェブ上の情報システム							担　当　者	江藤　正己　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-148-IX INF-296-IX

〔授業の到達目標〕

資料を効率よく検索し，適切に利用できる
現代社会における情報システムの意義や位置づけを考察できる
調べたことを他人に分かり易く伝えるプレゼンテーションができる
指定された形式に沿って，自分の意見をレポートにまとめることができる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で，情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。

しかしながら，多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では，普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で扱うとともに，さらに一歩進んだ情報システムの活用方法をとりあげます。

授業では，主に次の三つの作業を求めます。（１）情報システムの特徴や活用方法等について，小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。（２）調べた内容について，パワーポイント等を用いて，他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は，発表内容に対してコメントを書き評価する。（３）期末レポートを作成する。

〔教材〕

参考書：NHKスペシャル取材班『グーグル革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

小課題に沿って，発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)，小課題(30%)，発表(20%)，期末レポート(20%)

ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合，成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。

連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

この授業を履修するにあたり，求める前提知識は，「ホームページを見ることができる」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，プレゼンテーションとは
第２週　参考資料の調査方法（Web検索）
第３週　参考資料の調査方法（文献検索）
第４週　図書館及び，図書館資料の使い方
第５週　発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較）
第６週　発表(例　どのような人がどのようにWikipediaを書いているか？）
第７週　発表(例　Yahoo知恵袋では，どのような人が質問・回答しているのか？）
第８週　発表(例　Andorid携帯のAndroidとは何か？）
第９週　発表(例　口コミサイトで得られる情報は，テレビや雑誌の情報とどのように違うか？）
第10週　発表(例　毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには？）
第11週　発表(例　Amazonの優れているところはどこか？）
第12週　発表(例　削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか？）
第13週　発表(例　USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには？）
第14週　発表(例　ネットならではの広告にはどのようなものがあるか？）
第15週　現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から，履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり，履修者の人数等によって変更となる。

経営学I

3622005300100

副　題	経営学の基礎を学び、働く意義について考える	担　当　者	金城　亜紀　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	MAN-101-IA

〔授業の到達目標〕

1．経営学の全体像とポイントを理解し，基礎的な知識を体系的に取得すること。
2．キャリア形成についての理解を深め，目標を設定できるようになること。
3．経営学に関し，自信をもって人前で意見を主張し建設的な議論ができ，論理的かつ明晰な文章が書けるようになること。

〔授業の内容〕

次年度の春学期と併せて通年で完結する授業です。（経営学IIも受講することが望ましい）。
本授業ではディスカッションを重視します。授業に積極的に取組み，チームとしてお互いを高め，楽しく勉強する意欲のある方を歓迎します。

〔教材〕

教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣，2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版，日本経済新聞出版社，2003年
教科書や参考書と共に，学習支援システム「ムードル」を活用して，補助教材を提供します。宿題やレポートもムードルで配布，提出していただきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１回の授業につき平均して約４時間の学習が必要です。そのための時間が確保できない方，学習意欲の低い方には履修をお勧めしません。

〔成績評価の方法〕

宿題（40%），授業内容の確認テスト（30%），最終レポート（30%）。
学期中に小テストを行う可能性があります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：14：45～15：45（4222研究室）
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　モチベーション
第３週　欲求とリーダーシップ
第４週　雇用システム
第５週　非正規雇用
第６週　報酬制度
第７週　日本的雇用の変化
第８週　人材育成制度
第９週　グローバル人材
第10週　若者と労働
第11週　人工知能のインパクト
第12週　女性のキャリアについて考える
第13週　21世紀のキャリア形成
第14週　予備日
第15週　理解度の確認
・シラバスの記載内容は，受講生の人数や理解度に応じ，授業をより良くするために変更することがあります。

※マーケティングI

3622005500100

副　題	消費財マーケティングの基礎理論							担　当　者	田島　博和　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	MAN-202-IA

〔授業の到達目標〕

消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論を理解する。

〔授業の内容〕

消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論について，具体的な例を挙げながら，そしてお互いの関連を明確にしながら講義します。

〔教材〕

参考書：和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』（有斐閣アルマ）第5版，有斐閣，2016年

以下のホームページから資料をダウンロードして下さい。http://www.tku.ac.jp/~htajima/lecture.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：前回のノートおよび資料を見返す。予習：資料の該当箇所を読む。必要な時間：各120分以上。

〔成績評価の方法〕

期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については，一回目の授業で説明します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで連絡して下さい。htajima●tku.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　マーケティングを学ぶための予備知識
第３週　マーケティングの定義
第４週　ポジショニング
第５週　マーケティング環境
第６週　製品戦略
第７週　価格戦略
第８週　販売促進戦略
第９週　流通戦略
第10週　マーケティング戦略のダイナミクス：新製品のマーケティング戦略と製品ライフサイクル
第11週　顧客関係性管理
第12週　マーケティングのグローバル化
第13週　データを活用したマーケティング（１）
第14週　データを活用したマーケティング（２）
第15週　まとめ

地域研究基礎論I（第三世界）

3622011100100

副　題	中・東欧研究概論（1）							担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ARE-103-IA

〔授業の到達目標〕
地域研究の基本的な考え方を，中・東欧を事例として修得し，世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また，本学の協定校の比較的多い中・東欧に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕
地域研究の基本的な考え方を概観した後，その具体例として中・東欧に関し，できるだけ多様な観点からおおむね時系列で講義する。春学期は主に20世紀初頭までの時代を扱う。

〔教材〕
教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための66章』（エリア・スタディーズ48）第2版，明石書店，2016年
毎週，授業時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
記述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出する感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。また，１回の欠席につき５点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされないので注意すること。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕
基礎科目群に属する授業科目であるので，秋学期の地域研究基礎論IIと共にできる限り１年次（必修科目と重なって１年次に履修できなかった場合には２年次）に履修するのが望ましい。中欧国際協力研修参加予定者，国際コミュニケーション学科の１，2年生で中島ゼミへの申請を検討している者は，地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を多数履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　学習院女子大学と中・東欧との関わり
第３週　地域研究とは何か
第４週　中・東欧の地理的概観
第５週　中・東欧の８か国による13年前（2004年５月１日）のEUへの加盟
第６週　中・東欧の地域概念―「中欧」,「東欧」とは何か―
第７週　中・東欧の民族移動の時代と建国―今でも語り継がれるタタール人の脅威―
第８週　中・東欧の中世における王国―現代でも理想化されることのある時代―
第９週　中・東欧の中世に西欧から移り住んだ人々―各地に残されているドイツ人の文化遺産―
第10週　中・東欧の中世における宗教の対立と共存―三十年戦争とクロアチアのネクタイ発祥伝説―
第11週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（１）―オスマン帝国支配下の諸民族の動向―
第12週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（２）―ロシア帝国支配下の諸民族の動向―
第13週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（３）―ハプスブルク帝国支配下の諸民族の動向―
第14週　中･東欧からの近現代における西欧や北米への移住･アジアに足を運んだ中･東欧の人々
第15週　総括

地域研究基礎論II（第三世界）

3622011200100

副　題	中・東欧研究概論（2）								担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ARE-104-IA

〔授業の到達目標〕
地域研究の基本的な考え方を，中・東欧を事例として修得し，世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また，本学の協定校の比較的多い中・東欧地域に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕
春学期に引き続き，20世紀から21世紀にかけての中・東欧を様々な側面から概観する。地域研究基礎論Iを履修していない者はシラバスにおける当該頁も参照すること。

〔教材〕
教科書：六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』（エリア・スタディーズ66）明石書店，2010年
毎週，授業時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
記述式の期末試験の点数（約50%）及び毎週の授業終了時に提出する感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。また，１回の欠席につき５点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされないので注意すること。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕
基礎科目群に属する授業科目であるので，できる限り１年次，さもなければ２年次に履修することが望ましい。また，西洋芸術論，言語地理学も可能な限り併行して履修することをお勧めする。さらに，中欧国際協力研修参加予定者，国際コミュニケーション学科の１，２年生で中島ゼミへの申請を検討している者は，地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　中・東欧における二つの世界大戦と国境線の変化
第３週　中・東欧における社会主義体制の導入
第４週　中・東欧の社会主義期における政治と経済―西側世界との壁と計画経済―
第５週　中・東欧の社会主義期における国威発揚の政策―教育とスポーツを中心に―
第６週　中・東欧の社会主義期における社会と家族，破綻する経済
第７週　中・東欧における社会主義体制の崩壊―無血あるいは流血の革命―
第８週　中・東欧のポスト社会主義期における民族問題（１）ハンガリー人
第９週　中・東欧のポスト社会主義期における民族問題（２）ロマ（ジプシー）
第10週　中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争―旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（１）―
第11週　中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争―旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（２）―
第12週　中・東欧諸国のEUやNATOへの加盟と国境を越える人々の移動
第13週　中・東欧における市場経済への移行と社会問題―民営化の推進，西欧への出稼ぎと取り残された子供たち―
第14週　中・東欧の日本との交流―外交，文化，教育，ODA等，様々な観点から―
第15週　総括

国際関係基礎論I

3622013100100

副　題	国際安全保障学の基礎							担　当　者	畠山 圭一　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-105-IA

〔授業の到達目標〕
国際関係の基本構造と概念的枠組みを理解する。

〔授業の内容〕
巨大で複雑な世界―その中の様々な問題をめぐって世界中のあらゆる人々や文化の相互作用によって展開される出来事を解明していくこと。それが「国際関係論」と呼ばれる学問の役割である。今日，私たちの生活は国際社会と切り離しては考えられない。食糧や衣類や各種消耗品，エネルギーや資源，金融や情報，その他の一切が国際社会との相互依存で支えられている。国際関係に関する的確な判断なくして私たちの日常生活は成り立たず，その意味で，国際関係研究に課せられた使命は非常に重い。だが国際関係研究がそうした役割を果たすには各国の文化や国内政治，経済はもちろん国家以外の主体（国際機構，多国籍企業，個人）によって営まれる国際的諸活動に関する様々な分野の学問的知見を必要とする。国際関係の研究は一般的には「国家間の紛争と協力」に関する研究であり，中でも最重要なテーマは「戦争と平和」の問題である。このテーマを扱う分野は，一般に「国際政治学」もしくは「国際安全保障学」と呼ばれ，常に国際関係研究の主流を形成している。国際関係基礎論Ｉは，初学者を対象に「国際安全保障学（国際政治学）」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供することを目的とする。

〔教材〕
教科書：村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
受講生自らが２時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。テキストの指定箇所を熟読し，理解を深め，自らの課題を持って講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
国際関係に関する基本用語・基礎概念・基礎理論に関する理解度について判定するため，期末試験を実施し，６割以上の者を合格とする。試験は択一もしくは選択形式。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
受講生が講義毎に２時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。国際関係基礎論は，本学，特に国際コミュニケーション学科，英語コミュニケーション学科の学生にとっては専門科目を受講する上での全般的基礎となる国際関係に関する基礎的な概念や用語を習得するための非常に重要な科目であり，その性格上，特に復習を励行してほしい。また，なるべく，すべての学生が，できれば１，２年時に受講することを強く勧める。なお，計４回の欠席または３回連続の欠席で受講停止とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：日常生活と国際関係
第２週　激動する国際社会－世界はどこに向かうのか
第３週　国際関係論の対象と方法
第４週　国際関係の主体と環境
第５週　国家システムの変遷－国際システムは時代とともに変化する
第６週　国際関係の変遷－国際システムも時代とともに変化する
第７週　20世紀の国際政治略史－20世紀は国際政治にとって激動の時代だった
第８週　パワー・ポリティクス
第９週　国家と対外政策
第10週　外交
第11週　国際紛争
第12週　軍事力と軍備管理
第13週　国際機構と国際法
第14週　問題演習
第15週　総括　激動する現代の世界政治システム－世界はどこへ行くのか

国際関係基礎論II

3622013200100

副　題	国際政治経済の基本的枠組み									担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-106-IA

〔授業の到達目標〕

第２次大戦以降の国際政治経済体制の変遷について，その理論的基礎を理解するとともに，大きな流れを為替や関税をめぐる国際政治経済の枠組みを中心に把握する。

〔授業の内容〕

国際関係研究は一般的には「国家間の紛争と協力」という文脈で捉えられ，1960年代までは「戦争と平和」の問題（国際政治もしくは国際安全保障論）が中心テーマだった。ところが1970年代以降，（主として先進国間の）国際経済活動をめぐる紛争や協力が国際関係における重要課題となり，「国際関係における政治と経済の関係の研究（国際政治経済学）」が国際関係研究の第二の柱としてクローズアップされるようになった。冷戦が終わると国際政治経済学の関心は先進国の問題から（経済依存，国際債務，海外支援，技術移転を含む）南北問題や地球環境問題やグローバル・テレコミュニケーションといった問題へと移ったが，その背景には，南北間の経済格差や地球環境問題や各種分野におけるグローバリゼーションが「地域紛争」「地域覇権国による冒険主義」「（今回の同時多発テロのような）新たな戦争」等にみられる深刻な国際安全保障上の脅威をもたらしかねないという事情も存在している。今日，国際関係の研究者は，従来，別々に論じられがちだった「国際安全保障学」と「国際政治経済学」の学問的成果を結びつけて論じることが多くなっており，実際，お互いの学問的成果のいずれを欠いても国際関係における適切な判断は不可能になっている。国際関係基礎論IIでは，国際関係論のもう一つの柱である「国際政治経済学」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供する。

〔教材〕

教科書：野林健・大芝亮・納家政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門　新版』有斐閣，2005年
参考書：岩本 武和、奥 和義、小倉 明浩、金早雪『グローバル・エコノミー 新版』（有斐閣アルマ）有斐閣，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２回の持ち帰り中間試験はそれぞれ６時間程度の負荷を想定。６回の課題は毎回３時間程度，毎回の授業は教科書の各章に対応していることから，その復習に２時間程度を想定。

〔成績評価の方法〕

２回の中間試験（自宅持ち帰り：合計40%），６回の課題（合計20%），期末試験（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）に連絡すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―国際関係をめぐる政治と経済
第２週　国際政治経済学とは何か
第３週　国際政治経済学をめぐる理論と思想
第４週　国際政治経済秩序の形成
第５週　国際政治経済秩序の発展と転換
第６週　貿易を巡る国際政治経済
第７週　開発援助を巡る国際政治経済
第８週　科学技術を巡る国際政治経済：知的財産権を中心として
第９週　地球環境問題と国際政治経済（１）：京都議定書を巡る政治経済
第10週　地球環境問題と国際政治経済（２）：生物多様性条約を巡る政治経済
第11週　グローバリズムとリージョナリズム：WTOとFTA
第12週　地域的枠組みの展開：EU
第13週　地域的枠組みの展開：アジア
第14週　今後の展開
第15週　総括

環境科学I

3622021100100

副　題	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENV-107-IA

〔授業の到達目標〕

水，土，大気に係る環境問題の基礎的な事項を理解できる。

〔授業の内容〕

環境やその保全に関わる複雑性を考えるとき，自然科学に加えて，経済学などの社会科学も含めた多様な分野の知見に基づく総合的な視野が必要となる。例えば，水質問題を議論する場合，どのような化学物質がどのような形態で水質汚染を引き起こすかということに関する科学的知識を踏まえた上で，汚染を減じるための最適な政策手段（規制，課税，補助金等）を経済学的な知見も援用しつつ決定しなければならない。

「環境科学I」では，水，大気，土にまつわる環境問題について自然，社会科学の両方を含む広角的な視点から捉えることによって環境問題の複雑性を概観し，その解決に向けた総合的視野の重要性をともに議論していきたい。

〔教材〕

参考書：中西準子『環境リスク学』日本評論社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に4時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出欠確認を兼ねる：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日昼休み

20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　水と環境（1）：水循環の科学的メカニズムとそれに与える経済活動の影響（水質汚濁，水資源の枯渇）
第3週　同上（2）：水質の汚染とそれを軽減するための技術的および経済学的手法
第4週　同上（3）：水資源の枯渇とそれによる環境影響を軽減するための技術的および経済学的手法
第5週　大気と環境（1）：地球の大気環境の変遷と温暖化のメカニズム
第6週　同上（2）：温暖化防止のための国際的枠組
第7週　同上（3）：オゾン層の破壊，酸性雨
第8週　土壌と環境（1）：土壌の成り立ちと土壌汚染
第9週　同上（2）：塩害や砂漠化の進展と対応策
第10週　農業と環境（1）：農薬，化学肥料と食料・環境
第11週　同上（2）：窒素循環のメカニズム
第12週　同上（3）：バイオマス資源の活用
第13週　リスク評価と費用便益分析（1）
第14週　同上（2）
第15週　まとめ

環境科学II

3622021200100

副　題								担　当　者	竹田　麻里　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENV-108-IA

〔授業の到達目標〕

環境と人間の経済活動の関わりを理解し，環境問題を含む様々な社会問題について，社会科学（主に経済学）の概念や理論を参照して考えることができるようになることを目指します。

〔授業の内容〕

環境問題の理解にとって重要な社会科学（主に経済学）の基礎的概念について講義し，いくつかの事例を用いて理解を深めます。授業で取り上げる事例は，気候変動対策，農業・農村政策，自然資源管理などです。

〔教材〕

教科書は指定しませんが，授業中に適宜参考書を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は課しません。授業計画第７週頃には理解度の確認を行いますので，配布資料を用いて復習を行い，授業内容の理解を深めてください。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業時に提出するリアクションペーパー（20%）
授業中に行うミニテスト（30%）
期末試験（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

atakeda●mail.ecc.u-tokyo.ac.jp（change ● to @）にメールで連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス・授業の進め方の説明
　　イントロダクション：環境と経済学
第２週　市場経済と環境問題（１）
第３週　市場経済と環境問題（２）
第４週　環境政策手法（１）
第５週　環境政策手法（２）
第６週　気候変動に対する取り組み（１）
第７週　気候変動に対する取り組み（２），理解度の確認
第８週　自然資源の経済学
第９週　コモンズの悲劇と共同体
第10週　農業環境政策
第11週　自由貿易と環境（１）
第12週　自由貿易と環境（２）
第13週　貧困と環境・資源問題
第14週　環境評価
第15週　まとめと解説

マスコミュニケーション論I（概論）

3625000500100

副　題	メディアと情報社会							担　当　者	蔡　星慧　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SOC-109-IA

〔授業の到達目標〕

メディアと社会との相互関係を理解し，議論することでメディア環境の変化を批判的に観る力，リテラシーをつけていきたい。

〔授業の内容〕

メディアは国際情勢，国内の社会環境と関わって大きく変化し，様々な情報や文化を生み出す。本講ではそういったメディアの環境変化と近未来，社会的意味合いについて考えてみる。

〔教材〕

特に指定はありません。毎回配付するレジュメと資料を配付し，その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み，調べる課題などがあります。所用時間は１時間～３時間未満です。

〔成績評価の方法〕

・授業への参加態度20%
・リアクションペーパー/ミニ課題10%
（毎回授業の終わりに当日授業の中心内容，感想，質問などを書く）
・レポート30%
・定期試験40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-Mail:chekadai●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　メディアと情報社会
第２週　マス・コミュニケーションの歴史
第３週　新聞メディアの特性－新聞の紙面，産業特性
第４週　新聞メディアの特性－ジャーナリズムの力を考える
第５週　放送メディアの特性－放送の制度的特性と構造
第６週　放送メディアの特性－放送ジャーナリズムとは何か
第７週　職業としてのジャーナリスト
第８週　出版メディアの特性－本づくりのプロセスとエディターシップ
第９週　出版メディアの特性－雑誌の誌面からみる特集，企画力，流行と文化
第10週　雑誌の文化史
第11週　メディアをめぐる最新動向
第12週　政治とマスメディア
第13週　放送と通信の融合
第14週　メディアはメッセージである
第15週　総合まとめ―メディアの近未来
テーマによる時事問題など，補充資料がある場合授業の進行に多少の変更もあります。

言語学I

3622007100100

副　題	言語における文法の構造							担　当　者	佐藤 琢三　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIN-101-IB

〔授業の到達目標〕

特に形態論と統語論の諸問題をとりあげ，言語学の基本概念を具体例にそくして正確に理解する。また，言語に対する興味を喚起する。

〔授業の内容〕

われわ日常無意識のうちに使いこなしている日本語や英語を外国語として客観的にとらえた場合，それはどのような姿に映るのだろうか。この授業では，現代日本語や現代英語を諸外国語との比較の中で客観的にとらえることができるよう，トレーニングを行う。受講者が言語学に親しみをもてるように，なるべく身近な現象からアプローチしてゆきたい。

〔教材〕

なし。毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが，復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

中間試験と期末試験による。評価は厳密に行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜 4 限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

意欲のある者であれば誰でも歓迎するが，教室内において学ぶ意思のない者，講義に集中することのできない者は目障りである。そのような者は,くれぐれも履修を遠慮してもらいたい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　導入＋世界の諸言語と日本語・英語 1
第 2 週　世界の諸言語と日本語・英語 2
第 3 週　世界の諸言語と日本語・英語 3
第 4 週　語のクラスと文法
第 5 週　形態論と語形成 1
第 6 週　形態論と語形成 2
第 7 週　形態論と語形成 3
第 8 週　まとめ・確認
第 9 週　文の骨格
第10週　他動性
第11週　受動文 1
第12週　受動文 2
第13週　視点の原理
第14週　言語理論の展開
第15週　まとめ・確認
授業計画は変更する場合がある。

言語学II

3622007200100

副　題	言語における音声と意味							担　当　者	佐藤 琢三　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIN-102-IB

〔授業の到達目標〕

音声学・音韻論と意味論の分野をとりあげる。音声学・音韻論に関しては，その基本概念の習得を徹底して図り，外国語学習及び外国語教授の基礎としたい。また，意味論に関しては，言語の本質が人間のもののとらえ方にあるという考え方に基づき，人間という種の本能とも言うべき意味づけという行為から言語現象の諸相や言語文化の基底にある発想のあり方について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では言葉の研究の諸分野のうち，音声と意味に焦点をあてる。われわれが日ごろ何気なく発している言語音はどのような構造をしていて，どのような規則性が潜んでいるのだろうか。外国語を学んだり教えたりする際に，どのような知識をどのように活用するべきなのだろうか。また，われわれが日ごろ何気なく発している言葉の意味の本質とはいかなるものだろうか。言葉の意味の研究を通してみえてくるものは何なのだろうか。このような問題について受講者とともに考える。

〔教材〕

なし。毎回，プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが，復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

中間試験と期末試験による。評価は厳密に行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

意欲のある者であれば誰でも歓迎するが，教室内において学ぶ意思のない者，講義に集中することのできない者は目障りである。そのような者は,くれぐれも履修を遠慮してもらいたい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　外国語と発音の諸問題（音声学導入）
第３週　アクセント（ピッチ=日本語とストレス=英語）
第４週　子音の構造１
第５週　子音の構造２
第６週　母音・音素と異音
第７週　音韻論の諸相
第８週　まとめ・確認
第９週　日常の言葉の意味を考える（意味論導入）
第10週　認知意味論１（意味とは何か）
第11週　認知意味論２（日英の比喩の発想と文化）
第12週　認知意味論３（スル的言語とナル的言語）
第13週　認知意味論４（全体と部分のとらえ方）
第14週　認知意味論５（語結合と慣用句）
第15週　まとめ・確認

社会言語学I

3622008100100

副　題	社会の中の言語							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIN-103-IB

〔授業の到達目標〕

言語の多様性につて理解し，それを通して社会の多様性，人間の考え方，価値観の多様性を理解する。

〔授業の内容〕

言語は，人間社会の中で生まれ，人間社会の中で使われ，そして変化していくものである。言語について考える際にも，言語だけを切り離して考えるのではなく，それが使われる社会とか，それを使う人間という要因を含めて考える必要がある。本講義では，まず，言語が人間社会の中でどのように生まれたのかという問題から話をはじめる。次に，言語が人間にとってどのような役割を果たしているのかという問題，そしてそのような役割を果たすために言語はどのような性格を持っているのかということ，どのように変化していくのかということなどを取り上げる。最後に，言語はどのように死んでいくのか，なぜ死んでしまうのかという点についても言及する。

〔教材〕

参考書：ロレト・トッド『ピジン・クレオール入門』（21世紀の言語学）大修館書店，1986年
デビッド・クリスタル『消滅する言語』中公新書，2004年

受講者に購入を義務付ける教科書的な書籍はないが，授業内容に関連の深い参考図書は，授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要な予習・復習時間は各２時間程度

〔成績評価の方法〕

毎回，授業内容に関する簡単なレポートを提出してもらい，その採点結果で評価する。ただし，開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　社会言語学とはなにか
第２週　言語の誕生・言語の起源
第３週　言語の誕生・ピジンとクレオール１
第４週　言語の誕生・ピジンとクレオール２
第５週　言語の働き・言語と国家
第６週　言語の働き・言語と民族
第７週　言語の働き・言語と社会階級
第８週　言語の働き・アイデンティティーの指標としての言語１
第９週　言語の働き・アイデンティティーの指標としての言語２
第10週　言語の働き・言語と認識，思考
第11週　言語の変化・言語変化の原動力
第12週　言語の変化・言語変化の方向と定着
第13週　言語的不平等
第14週　言語の死・危機言語の実態
第15週　言語の死・危機言語に関する対応

社会言語学II

3622008200100

副　題	近代日本の言語政策							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	LIN-104-IB

〔授業の到達目標〕

近代日本の言語政策に関する知識を習得し，それを通して現代の日本語，日本社会のあり方を理解する。言語研究の基本的立場，考え方などを身につける。

〔授業の内容〕

日本語話者が「標準日本語」とか「国語」と呼んでいるものの実体はいかなるものなのかについて考えていく。そのような概念は古代から連綿と続いてきたものではなく近代の産物である。そのような概念はなぜ生まれ，社会においてどのような役割を果たしているのかという点について，近代国民国家日本の成立時期を中心に考察を進めていく。同様の手順で，日本語の特徴のひとつといえる「敬語体系」という概念の虚構性についても言及する。

〔教材〕

参考書：イ・ヨンスク『「国語」という思想－近代日本の言語認識－』岩波書店，1996年
福島直恭『書記言語としての「日本語」の誕生－その存在を問い直す－』笠間書院，2008年

教科書は特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に必要な時間は各２時間程度

〔成績評価の方法〕

毎回，講義に関連する簡単なレポートを提出してもらい，その採点結果で評価する。ただし，開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　社会言語学の導入
第２週　社会言語学と言語政策
第３週　「日本語」という存在についての疑問
第４週　「話しことば」と「書きことば」
第５週　「書きことば」と標準語
第６週　声の文化と文字の文化
第７週　「日本語」以前の日本語
第８週　「日本語」の成立事情１　言文一致
第９週　「日本語」の成立事情２　標準語と標準語教育
第10週　「日本語」の成立事情３　植民地支配と「日本語」
第11週　「日本語」虚構説
第12週　敬語虚構論
第13週　〃
第14週　海外の言語政策
第15週　まとめ

文化人類学I

3622009100100

副　題	文化人類学の基礎概念							担　当　者	齋藤　亜子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ANT-105-IB

〔授業の到達目標〕

文化人類学の基礎概念を学び，異文化を理解する。

〔授業の内容〕

文化人類学とは，人間の文化的側面を学ぶ学問です。私たちのものの見方や普段何気なく行っているふるまい方は，文化の異なる社会では奇妙に思われることがあるかも知れません。また，私たちには奇妙に思えることが他の社会では当たり前として捉えられている場合もあります。異文化について知ることは，ものの見方は一つではないということを学び，また自分の文化を客観的に見つめ直すことでもあります。

グローバル化の時代といわれる現在では，人々は異なる文化圏を行き来し，また移り住んだ先で新たな文化を築いているケースが数多くあります。このように複雑化した現在の多様な文化を理解するのに文化人類学を学ぶことは有用であるといえるでしょう。

この授業では，主に文化人類学の基礎概念を学んでいきます。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳　編『よくわかる文化人類学』第2版，ミネルヴァ書房，2010年
山下晋司、船曳建夫　編『文化人類学キーワード』改訂版，有斐閣，2008年

教科書は特に指定しません。講義の中で必要に応じて教材を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には指定した教材または配布プリントをあらかじめ読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

小テスト　20%，リアクションペーパー　30%，期末試験　50%で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義概要の説明：文化人類学とは何か
第２週　文化人類学の歴史と理論１
第３週　文化人類学の歴史と理論２
第４週　言語と文化
第５週　家族
第６週　婚姻
第７週　ジェンダーとセクシュアリティ
第８週　メキシコ先住民の母系社会
第９週　民族とエスニシティー
第10週　贈与と交換
第11週　信仰と世界観
第12週　通過儀礼と分類
第13週　伝統的医療と妖術
第14週　死と葬儀
第15週　理解度の確認

文化人類学II

3622009200100

副　題	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク							担　当　者	齋藤　亜子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ANT-106-IB

〔授業の到達目標〕

現代における民族問題について学ぶ。またフィールドワークの疑似体験を通じて文化人類学の調査方法を学ぶ。

〔授業の内容〕

文化人類学Iで学んだ基礎概念は，フィールドワークによる調査によって積み上げられてきたものです。文化人類学IIでは，主にラテンアメリカの先住民の文化をみていきますが，同時にフィールドノートや写真観察法によって文化人類学の調査方法であるフィールドワークがどのようなものであるかを概観します。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳　編『よくわかる文化人類学』第2版，ミネルヴァ書房，2010年
山下晋司、船曳建夫　編『文化人類学キーワード』改訂版，有斐閣，2008年

教材は必要に応じて講義の中で提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

リアクションペーパーでは毎回いくつかの質問に答えてもらうので提示した参考資料や配布プリントによく目を通しておくこと。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー　30%，写真観察法，発表　20%　期末試験　50%で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義内容の説明：文化人類学とフィールドワーク
第２週　先住民とは　ラテンアメリカの先住民（１）
第３週　ラテンアメリカの先住民（２）
第４週　異文化へのまなざし　人種主義，オリエンタリズム批判
第５週　写真観察法とフィールドノート
第６週　映像資料：ペルーの伝統行事１
第７週　映像資料：ペルーの伝統行事２
第８週　環境破壊と先住民
第９週　観光と文化
第10週　写真観察法：発表・ディスカッション１
第11週　写真観察法：発表・ディスカッション２
第12週　写真観察法：発表・ディスカッション３
第13週　映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か１
第14週　映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か２
第15週　まとめ

北米文化論

3623000300100

副　題	北米地域の地理・風土と政治・文化							担　当　者	畠山 圭一　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ARE-107-IB

〔授業の到達目標〕
北米地域の地理，歴史，政治，社会，文化，外交等に関する基礎的知識を習得する。

〔授業の内容〕
太平洋を挟んで日本の対岸にある北米は日本と密接な関係をもった地域である。特にアメリカは日本にとって政治，経済，文化のいずれをとってもきわめて重要な国家であるばかりか，歴史的に見ても実に深い縁で結ばれた国家である。たとえば日本が国際社会で注目され始めた1890年代は，国際社会がアメリカに注目し始めた時期でもあった。また鎖国時代の日本を開国へと導いたのがアメリカの「黒船」であるとすれば，それまで孤立主義を貫いていたアメリカを国際政治の場に引きずり出したのは日本の「真珠湾攻撃」であった。ところで，この北米地域はアメリカ，カナダという二つの先進国を構成国とし，両国はともにイギリスに起源を発している。しかしながら両国の性格やたどった歩みは著しく異なっており，アメリカがイギリスの支配から離脱した共和国であるのに対してカナダはイギリス女王を君主とする立憲君主国であり，またアメリカの躍動感にあふれた歴史に対してカナダの歴史は内戦も奴隷制度も先住民との戦いも歴史的暗殺も少ない穏かなものである。かかる性格の違った二国によって北米地域が構成されているところに，北米文化のもつ特殊性と魅力と力強さがある。本講義はこうした北米地域についての地理，歴史，政治，社会，文化等に関する基礎的知識の提供と，国際関係論（日米関係），アメリカ文化論等の専門科目を学ぶ上での導入を目的とするものである。

〔教材〕
教科書：畠山圭一・加藤普章　編・著『世界政治叢書Ⅰ　アメリカ・カナダ編』（世界政治叢書）ミネルヴァ書房，2008年
アメリカとカナダを一体として取り扱った数少ない教科書で，本授業のために編纂された。基礎的な資料もふんだんに含まれ，きわめて有用なテキストである。授業でしばしば活用し，試験準備にとっても必携のテキストであり，予習・復習に活用してもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習および復習(それぞれ２時間を標準とする)を前提に行われる講義である。テキストの指定箇所を熟読の上，理解を深めて講義に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
期末試験の結果で評価し，６割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
計４回の欠席または連続３回の欠席で受講停止とする。また，授業開始後15分以上遅刻した場合は欠席とみなすので注意されたい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入　目的と対象
第２週　北米論　1　地理的特徴　北米の自然と資源の農業
第３週　アメリカ論　1　アメリカの地域（1）－ニューイングランド，中部大西洋地域，南部
第４週　アメリカ論　2　アメリカの地域（2）－中西部，太平洋岸西部，ハワイ，アラスカ
第５週　アメリカ論　3　アメリカの歴史－地域構造の変遷，多様性と統一
第６週　アメリカ論　4　アメリカの政治－連邦制と三権分立
第７週　アメリカ論　5　アメリカの精神文化－国民統合の思想的基盤
第８週　アメリカ論　6　アメリカの外交－孤立主義と国際主義
第９週　カナダ論　1　カナダの地域－東部沿岸諸州，プレーリー諸州，ブリティッシュコロンビア州
第10週　カナダ論　2　カナダの歴史－多元社会の形成
第11週　カナダ論　3　カナダの政治－連邦制と議院内閣制
第12週　カナダ論　4　カナダの社会文化－多文化社会とアイデンティティの模索
第13週　カナダ論　5　カナダの外交－「ミドル・パワー」外交
第14週　北米論　2　北米文明の特質
第15週　結語　北米と日本

ヨーロッパ文化論

3623000400100

副　題	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PHL-108-IB

〔授業の到達目標〕

近代のヨーロッパは世界的に大きな影響を及ぼしたが，近・現代の日本とも深い関係があることを理解できるようになること。

〔授業の内容〕

ルネサンスと宗教改革から始まるとされるヨーロッパ近代の思想と宗教，文化の発展をたどりながら，ヨーロッパ文化を広く，世界的グローバリゼーションのなかで考えていく。

〔教材〕

ハービソン『キリスト教的学識者』（知泉書館）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各２時間半以上

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（40パーセント），普段のリアクション・ペーパー（15パーセント），試験（45パーセント）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５時間目（あらかじめ連絡を要す）
学内メールアドレス

〔授　業　計　画〕

第１週　序ーヨーロッパとは，近代とは。
第２週　ルネサンス―イタリアを中心にした文化世界
第３週　ルネサンスの発展
第４週　宗教改革―ドイツを中心に
第５週　宗教改革の展開
第６週　カトリック改革と日本
第７週　バロック時代
第８週　科学革命―天才たちの世紀
第９週　科学と進歩史観
第10週　合理思想と国家理性
第11週　啓蒙思想
第12週　啓蒙と近代日本
第13週　映像資料
第14週　〃
第15週　結ーヨーロッパ文化の近代的意義
専門家を招いて「特別授業（講義）」を行う予定。

アジア文化論

3623000500100

副　題	アジアにおける戦争、革命、社会変容							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ARE-109-IB

〔授業の到達目標〕

わたしたちが住む東アジアを中心に世界史を理解し，自分自身が大きな歴史的世界のなかに存在している感覚を身につける。そしてさまざまな歴史や人生をみることで，「他者」への想像力を養う。

〔授業の内容〕

日本，台湾，韓国，中国，ベトナム，カンボジアを取り上げ，アジアの戦争，革命，そして社会変容の過程を講義・映像資料などをとおして学び，現在もなお続く暴力の連鎖について，歴史的な角度から考える。

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業の最初のプリントに，授業に関連した参考文献が記載されているので，授業内容と合わせて関連文献を熟読し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー・出席（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　台湾統治（１）
第３週　台湾統治（２）
第４週　韓国統治
第５週　満州国の建国と＜日本＞の拡大
第６週　日本社会はなぜ戦争へと向かったのか
第７週　中国における革命，建国，そして冷戦（１）
第８週　中国における革命，建国，そして冷戦（２）
第９週　文化大革命
第10週　ベトナム戦争と東アジア世界の変容
第11週　クメール・ルージュの革命とカンボジア（１）
第12週　クメール・ルージュの革命とカンボジア（２）
第13週　20世紀後半における国家への反逆と革命
第14週　まとめ：東アジアの戦争・革命・社会変容と「暴力」について（１）
第15週　〃

イスラム文化論I

3623003100100

副　題								担　当　者	高尾　賢一郎　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ARE-110-IB

〔授業の到達目標〕

イスラム教の成り立ちや教えの基本的事項について知る。なぜ日本人の目にイスラムが分かりづらい，あるいは「厳しい宗教」と映るのかを考察できるようになる。日本文化との比較を通して宗教としてのイスラムの特性を説明できるようになる。

〔授業の内容〕

イスラム教がどのように興り拡大したのかについて，その成り立ちと基本的な教義の内容を説明する。イスラム教がどのように継承されてきたのかについて，「イスラム学」と呼ばれるイスラム社会の学問分野の概要を説明する。近代がイスラム教にどう影響したのかについて，イスラム社会に起こった変化を説明する。

〔教材〕

教科書は使用せず，授業では適宜プリントを配布する。また各回ごとに参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初回以降，次回授業で使用するプリントと参考書の重要箇所のコピーなどを配布する。授業にあたりこれらを２時間程度かけて熟読しておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（40%），中間レポート（１回，30%），毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（30%）の３つを総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，初回授業で指示するメールアドレスを通して，授業後に教室にて，あるいは学科事務室を通じて受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：イスラムを学ぶ
第２週　イスラムの誕生と伝播（１）：預言者ムハンマド
第３週　イスラムの誕生と伝播（２）：後継者とその後
第４週　イスラムの分裂（１）：スンナ派とシーア派
第５週　イスラムの分裂（２）：少数派
第６週　イスラムの基本教義（１）：神
第７週　イスラムの基本教義（２）：預言者
第８週　イスラムの基本教義（３）：六信五行
第９週　イスラムの継承（１）：聖典
第10週　イスラムの継承（２）：伝承
第11週　イスラムの継承（３）：法学
第12週　イスラムの継承（４）：神秘主義
第13週　イスラムと近代（１）：様々な「改革」
第14週　イスラムと近代（２）：国家の中のイスラム
第15週　まとめ
理解度に鑑みた進捗状況を考慮して，授業内容を変更する場合がある。

言語地理学

3623010100100

副　題	スラヴの言語と文化							担　当　者	坂倉　千鶴　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	GEO-111-IB

〔授業の到達目標〕

「言語地理学」および「スラヴの言語と文化」の諸相について基礎的な知識を習得するとともに，受講者が自ら選択したテーマを深めながら，班毎の共同作業を通してそれぞれの「言語と文化のハンドブック」を作成し，新入生に向けて情報として発信します。

〔授業の内容〕

この授業では，まず印欧語族のひとつを形成しているスラヴ語派について，その概要を分かりやすく紹介した後，それぞれのスラヴ語について，文化も視野に収めつつ具体的に学んで行く予定です。初心者のためのスラヴの言語文化入門といった内容になります。時にはゲストスピーカーを交えながら演習形式で進めて行く予定です。

〔教材〕

参考書：黒田龍之助『羊皮紙に眠る文字たち－スラヴ言語文化入門』初版，現代書館，1998年
三谷恵子『スラヴ語入門』初版，三省堂，2011年
桑野隆『ロシア・中欧・バルカン　世界のことばと文化入門』（世界のことばと文化シリーズ）初版，成文堂，2010年
三谷恵子『比較で読みとくスラヴ語のしくみ』初版，白水社，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各回の授業用プリントを毎回一週間前に配布しますので，事前に読んで疑問点を整理した上で授業に臨んでください。

詳細については，初回授業時にお知らせします。

〔成績評価の方法〕

年度末に課すレポート（55%）と出席状況（15%），授業への取り組みの姿勢（30%）などを総合的に勘案します。

課題レポートとして，班毎に協力して「～の言語と文化のハンドブック」を作成します。

出席票とコメントシート，両方の提出をもって出席と見なします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

gengochiri●yahoo.co.jp（change ● to @）

〔備考〕

スラヴ・東欧関係の授業を受講していることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　言語地理学とは何か？
第 3 週　スラヴ語の話
第 4 週　班分け，班毎に図書館で文献渉猟，文献リストの作成。キリル文字の学習。
第 5 週　ロシアの言語と文化
第 6 週　ウクライナの言語と文化
第 7 週　ベラルーシの言語と文化
第 8 週　ポーランドの言語と文化
第 9 週　チェコの言語と文化
第10週　スロヴァキアの言語と文化
第11週　ソルブの言語と文化
第12週　ブルガリアの言語と文化
第13週　セルビアの言語と文化
第14週　クロアチアの言語と文化
第15週　各班によるまとめのプレゼンテーション

比較神話論

3623011100100

副　題								担　当　者	東　由美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ANT-112-IB

〔授業の到達目標〕
神話的思考について理解を深め，現代社会を相対化する視野を養います。

〔授業の内容〕
19世紀から20世紀にかけて，文学はもとより，文化／社会人類学，心理学，言語学，宗教学などといった様々な分野においても,「神話」が研究素材として取り上げられるようになり,「神話」を分析するための画期的な手法も次々と生み出されるようになりました。一方，分析手法が多角的になるにつれ,「神話」とは何かという問題が浮上してくることになります。つまり，分析方法の変化に応じて，どのような事物を「神話」としてとらえるのかということも，議論されるようになってきます。ギリシアの古典や『古事記』・『日本書紀』に描かれた神々の物語から，伝説や昔話，ひいては洞窟に描かれた太古の絵画，土偶，こういったものまでも「神話」の範疇に含めて考察されるようになってきているのが現状です。ですから,「神話学」とは，あらゆる「神話」研究者に共通する確固たる不変の分析対象を持たず,「神話学」独自の分析手法も持ちません。この意味において,「神話学」は，現在においてもいまだ単独で地位を築いていない学問分野です。本講義では,「神話学」的に重要だと思われる事柄を取り上げて講義を行います。

〔教材〕
参考書等については，講義の中で適宜指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：授業内で指定する文献の指定範囲を読んで不明な点を可能な限り調べてくること。
復習:授業終了後，授業中に指定された課題について小レポートを作成し理解を深めること。
必要な時間は 4 時間程度と予想している。

〔成績評価の方法〕
毎回の授業で内容の理解のための小レポートを提出してもらいます。成績はレポートの提出回数および内容の充実度を合計して判定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：yu_higashi●me.com（change ● to @）

〔備考〕
成績評価の詳細について，第一回の授業で説明します。履修希望者は第一回の講義に出席してください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション：評価方法，講義の目的，導入講義
第 2 週　夢と精神分析
第 3 週　精神分析と文化研究
第 4 週　古代社会と現代の民俗世界
第 5 週　フロイトの精神分析
第 6 週　フロイトと夢
第 7 週　ドリームワーク
第 8 週　エディプス・コンプレックス
第 9 週　神話と精神分析
第10週　現代における神話
第11週　芸術作品における神話的表象 1
第12週　芸術作品における神話的表象 2
第13週　芸術作品における神話的表象 3
第14週　芸術作品における神話的表象 4
第15週　芸術作品における神話的表象 5

比較道具論

3623011200100

副　題	生活を支える道具から生活文化を考察する	担　当　者	真島　麗子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIF-113-IB

〔授業の到達目標〕

1.道具(生活財)を通して，様々な地域の文化に触れ，国際社会で活躍するための基礎知識を身につけることができる。

2.具体的な造形物や現象を取り上げ，その歴史や地理的文脈を理解しながら考察し，比較分析することから，問題点を発見する能力を養う。

3.私達が築いた物質文化の現状を把握し，過去の反省点を明確にしながら，国際社会に向けて新たな生活環境が提案できる価値観を修得する。

〔授業の内容〕

道具は，広い意味で私達の五体（頭・首・胸・手・足）や五感（視・聴・臭・味・触）の動きを補助する物として使われ，作り出された造形物の総称である。そして，これらは人間が作り出した最も古い文化の一つであると言える。

人間の歴史は，道具の素材発見，および，その性能の拡大と製作技術の発展史でもあり，様々な道具類の使用が，私達の生活にも大きな変容をもたらしてきた。しかし，一方，この物質文化が，地球温暖化を初めとする環境破壊も引き起こしてきた。

生活財の歴史や利用状況，増加に伴う問題点などを浮き彫りにすると同時に，今後の生活環境について考えることが重要である。他国との比較も行い国際的な視野も広げる。

単一の道具からだけでなく，保有する道具の種類や数量，又，無意識に置かれた道具(生活財)の状況から生活文化を考察する。

〔教材〕

参考書：日本生活学会編『生活学事典』第1版，TBSブリタニカ，1999年
近藤雅樹『日用品の二〇世紀』(二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容　8）第1版，ドメス出版，2003年
山口昌伴『台所の一万年-食べる営みの歴史と未来』（百の知恵双書）第1版，社団法人農山漁村文化協会，2006年

教科書は使用しない。その都度プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業開始30分ほどを，前回の授業後に提出されたリアクションペーパーからの質問や問題点に答え，共に考える時間にあてているが，その遣り取りの中で出された課題に解答できるよう，予習，復習に２時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

中間レポート(40%)，最終レポート(45%)，，授業後のリアクションペーパーの内容(15%)等を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること

〔備考〕

毎回，映像資料（パソコン画像）を利用しながら考察する。

〔授　業　計　画〕

第１週　道具から見た生活史概要・生活を支える道具から生活文化を考察する方法・中世の絵巻にみる生活道具
第２週　道具の保有内容からの考察１　－群馬の養蚕農家の暮らし（鍋・釜の利用）・台所道具の歴史
第３週　道具の保有内容からの考察２　－道具の配置状況からみる竹富島（二棟造り）の住み方
第４週　道具の保有内容からの考察３　－収納の歴史と蔵の役目・収納方法を考える
第５週　生活財の増加と暮らしの変容１　－郊外の3LDKの暮らしの実態
第６週　生活財の増加と暮らしの変容２　－ライフコースと保有数の問題点
第７週　他国の生活財保有と暮らし１　－韓国の都市生活・済州島等
第８週　他国の生活財保有と暮らし２　－インドネシア－バリ島の生活財
第９週　他国の生活財保有と暮らし３　－ネパールの暮らし・地球家族-30ヶ国の生活財
第10週　他国の生活財保有と暮らし４　－台所と食の道具史-イギリス・スウェーデン等
第11週　他国の生活財保有と暮らし５　－フィリピン-バタン島・サブタン島の生活財
第12週　木の技術と容器－刳物から桶・樽作り・その活用
第13週　石の技術とアーチの石橋　－沖縄・熊本県　通潤橋・中国等
第14週　伝統技術の活用と地方の資料館づくり　－船造りの村と北前船の復原・新潟県佐渡市相川　佐渡金山資料館からの考察
第15週　まとめ-問題点と解説

1.伝統技術から作られた道具や文化財を活用した町並みの保存・地域の資料館づくりにも触れる。
2.授業後のリアクションペーパーからも問題点を抽出し授業を進めていく。興味深い問題点が出た場合は授業計画に繰り込む。

比較居住文化論

3623011300100

副　題	建築空間の歴史と居住空間の文化誌							担　当　者	栗原　伸治　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	LIF-114-IB

〔授業の到達目標〕

居住文化の見方，調べ方を学んだうえで，居住文化の共通性と多様性について考察できるようにする。

〔授業の内容〕

本講義では,居住文化の舞台装置としての建築空間の歴史について通時的に把握する。また，人類文化としての建築とその居住空間について共時的に把握する。具体的には，中国建築と近代建築の歴史，中国を中心としたアジア地域の居住空間，またメディア空間における居住文化や文化表象，さらには文化と空間認識の関係について，事例をとおして理解する。そのうえで，それぞれを比較することによって，居住文化の共通性と多様性について考察する。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日常生活で見たり体験したりした居住空間や居住文化に対して意識的になること。そのうえで，それらについて調べたり思考したりすること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%），授業中におこなう課題レポート（30%），最終レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　概論
第２週　建築空間・居住空間と居住文化
第３週　中国建築の歴史１：都市・建築空間の思想と構成
第４週　中国建築の歴史２：居住空間の構成と秩序
第５週　近代建築の歴史
第６週　現代建築の歴史と文化誌
第７週　居住空間と居住環境：インドネシア・ジャワと中国・江南
第８週　居住空間と居住文化１：中国・黄土高原と少数民族
第９週　居住空間と居住文化２：シノワズリの逆輸入
第10週　メディア空間文化表象１：映画から読む
第11週　メディア空間文化表象２：テレビ番組から読む
第12週　文化と空間認識１：方位観とその生成
第13週　文化と空間認識２：空間感覚とその身体化
第14週　総括１：レポート課題の説明と作成
第15週　総括２：レポート課題の発表と解説

英語演習IA

3624000100100

副　題	Language and Culture in Our World							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-201-IV

〔授業の到達目標〕

The instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. Everyone is responsible for knowing the contents of all chapters, not just the students assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Students can contact the instructor by email: ekawa●shirayuri.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

・The classes will be conducted in English.

・Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

・Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductory Class
Chapter-selection for presentations
Chapter 1 - The Dawn of Language
第２週　Chapter 2 - Do Animals Have Language?
Chapter 3 - The Rosetta Stone
第３週　Quiz 1
Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar
Chapter 5 - Younger is Better
第４週　Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism
Quiz 2
Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第５週　Chapter 8 - Politeness
Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第６週　Quiz 3
Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner?
Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第７週　Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning
Quiz 4
Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第８週　Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect?
Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第９週　Quiz 5
Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial?
Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週　Chapter 18 - Esperanto
Quiz 6
Chapter 19 - Language Change
第11週　How to Write a Paper
Chapter 20 - Prescriptivisim and Descriptivism
Chapter 21 - Loanwords
第12週　Quiz 7
Chapter 22 - Why Do Languages Disappear?
Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週　Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh
Quiz 8
Final Paper Due
第14週　Language Game
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習IB

3624000100200

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-202-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，シャドイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013年
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習30分，復習30分。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度30%，各unit終了後の小テスト50%，レポート20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Addicted to Your Smartphone?
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 2 Tutoring for Tots
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 3 Corporate Wellness Programs GainingPopularity
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
第10週　同上
第11週　Unit 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
第12週　同上
第13週　Unit 6 Silicon Valley School: No Computers in Classrooms
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストと英語によるニュースの要約作成を行います。
やむを得ない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習IC

3624000100300

副　題	時事英語のリスニング							担　当　者	渡辺　幸俊　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-203-IV

〔授業の到達目標〕

ロイター通信社の最新ニュースを使って国際ニュースを理解できるようになること。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信しているTHOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように5回～6回発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。ネット掲載のニュースの他，その時点での最新ニュースを取り上げていきます。Reproductionに関しては，予習を徹底してください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，語彙テスト20%，Reproduction 60%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡を取ってください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　天気予報，内容要約，語彙の理解度確認
第2週　最新ニュースのディクテーション，内容要約，語彙の理解度確認
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

「最新」のニュースを扱いますので，毎時間のニュース内容は現時点では分かりません。予習に際して，テレビ・ラジオ・新聞等に関心を払い，日々の生活に取り入れてください。

英語演習ID

3624000100400

副　題	アイルランドの文化に触れる							担　当　者	小村　志保　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ENG-204-IV

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞，雑誌，論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

英語圏の国として認識されているアイルランドですが，国民が英語を日常的に使用するようになったのは，わずか150年ほど前のことです。それまでは大多数の国民が母語であるアイルランド語（ゲール語）を使用し，それに伴って独自の文化や風習も継承してきました。こうした経緯から，現在でもアイルランドで使用される英語には興味深い特徴があります。授業ではアイルランドで広く知られている神話，民話，妖精物語などを読みながら，その文化や歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも１度英文テキストの和訳を発表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%），課題発表とそれに取り組む姿勢（40%），授業内容の理解度（30%）により判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　テキストの輪読と解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　授業内容のまとめと理解度の確認
課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

英語演習IE

3624000100500

副　題	A Taste of English							担　当　者	谷口　めぐみ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-205-IV

〔授業の到達目標〕

本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕

「英語を楽しく学びたい！」という学生の想いに応えられるような，そして，高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう，少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。今，多くの方々の関心を呼ぶ「食」と「文学作品」の接点をみつけてテキストにしたものを用いて，身近な話題から英語を楽しく，効果的に，学習しましょう。

文法テキストを用いて文法事項の復習をしっかりと行った後，200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め，文法項目の実践化に挑戦しましょう。また，テキストで紹介された文学作品の原書講読を通じて，作品や著者に関するグループディスカッションを適宜行います。

〔教材〕

教科書：Fiona Wall Minami et als., *A Taste of English: Food and Fiction*, Asahi Press, 2013
福井慶一郎、加藤主税『大学教養英文法（改訂版）』朝日出版社，２００１年

上記指定テキストの他，輪読用資料や文法事項の補充プリントを配布し，演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で説明した文法事項の復習及び定着のため，演習問題に取り組んだうえで，次回授業に参加すること。

文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので，あらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるよう準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席点および授業参加態度（30%），試験（40%），課題（30%）により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

初回授業時（オリエンテーション）で説明いたします。

〔備考〕

授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　文。　直訳の罠。
第２週　品詞
　　Beatrix Potter (Chapters 2 and 3)
第３週　Beatrix Potter
第４週　比較
　　O. Henry (Chapter 7)
第５週　時制
　　Ernest Hemingway (Chapter 8)
第６週　〃
第７週　O. Henry
　　Ernest Hemingway
第８週　〃
第９週　助動詞
　　Bridget Jones and Dieting (Chapter 13)
第10週　関係詞
　　Breakfast and Tiffany's (Chapter 11)
第11週　受動態
　　Agatha Christie
第12週　Itの用法（強調）
　　Harry Potter and Chocolate Frogs
第13週　Review
　　和訳集中特訓
第14週　Review
　　要約集中特訓
第15週　Presentation
　　本の紹介

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり，進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。秋学期開講の英語演習II･Eと学習内容の力点が異なるように授業の年間計画を立てているため，英語演習I･Eと英語演習II･Eを続けて受講することに問題はありません。

英語演習IF

3624000100600

副　題	Language Change							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-206-IV

〔授業の到達目標〕

The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are in languages in general and in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned materials on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Students can contact the instructor by email: ekawa●shirayuri.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introductory Class
第 2 週　Language Change - The Basics
第 3 週　English in the Past 1
第 4 週　English in the Past 2
第 5 週　Creating Words
第 6 週　Borrowing Words
第 7 週　Changes in Pronunciation
第 8 週　Changes in Spelling
第 9 週　Changes in Grammar
第10週　Changes in Meaning
第11週　The Origin of Dialect
第12週　World Englishes
第13週　The Birth and Death of Language
第14週　Attitudes towards Language Change
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習IG

3624000100700

副　題	Reading for better communication							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-207-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。また，人間関係におけるコミュニケーション（相互理解）の方法について考察します。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を習得するために,必要な文法的事項を確認し,英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の心理的な交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を 2 時間以上，授業の復習を 2 時間以上することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科の事務室を通して連絡をして下さい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　英語の発音とリズムについて
第 2 週　英語のイントネーションについて
第 3 週　Introduction　（1）
第 4 週　Introduction　（2）
第 5 週　Introduction　（3）
第 6 週　One Woman Caught in the Trap　（1）
第 7 週　One Woman Caught in the Trap　（2）
第 8 週　One Woman Caught in the Trap　（3）
第 9 週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（1）
第10週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（2）
第11週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（3）
第12週　Loving, Not Mothering　（1）
第13週　Loving, Not Mothering　（2）
第14週　Loving, Not Mothering　（3）
第15週　まとめ

英語演習IH

3624000100800

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENG-208-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，シャドイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習30分，復習30分。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度30%，各unit終了後の小テスト50%，レポート20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Addicted to Your Smartphone?
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 2 Tutoring for Tots
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 3 Corporate Wellness Programs GainingPopularity
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
第10週　同上
第11週　Unit 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
第12週　同上
第13週　Unit 6 Silicon Valley School: No Computers in Classrooms
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストと英語でのニュースの要約作成を行います。
やむを得ない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習II

3624000100900

副　題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-209-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through reading Shakespeare songs.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識のWilliam Shakespeareのsongsをテキストに使用し，英語の発音を基礎から学びます。英語での発声の仕方，母音の発音の仕方，子音の発音の仕方，単語の発音方法，語句の発音方法などを科学的に学び，ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。英語には正しい発音といわれるものはありません。なぜなら，英語は様々な方言で成り立っているからです。では，私たち日本人はどのような英語の発音をすればよいのでしょうか。一緒に研究しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版，朝日出版社，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間以上，授業後に教科書の音読と暗記に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回のリアクションペーパーおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡して下さい。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音：O Mistress Mine (p. 92.)
第2週　リズムの習得：O Mistress Mine (p. 92.)
第3週　イントネーションの理解と習得：Under the Greenwood Tree (p. 90.)
第4週　It was a Lover and his Lass (p. 94.)
第5週　Come away, death (p. 104.)
第6週　Who is Silvia? (p. 96.)
第7週　How should I your True Love Know? (p. 98.)
第8週　Tomorrow is St. Valentine's Day (p. 100.)
第9週　O Willo, Willo, Willo (p. 102.)
第10週　Fear no more the heat o' the sun (p. 84.)
第11週　When that I was and a little tiny boy (p. 106.)
第12週　Sonnet 105 (p. 124.)
第13週　Puck (p. 170.)
第14週　Prospero (p. 168.)
第15週　まとめ
原則として毎回違ったシェイクスピアの歌を読みます。

英語演習I J

3624000101000

副　題	Reciting English poems							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-210-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英語の詩を朗読することです。英語の詩を人前で朗読するためには，世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語での朗読を楽しみましょう。また，声を出す朗読は健康にも効果があり，皆さんの心の成長を促すと共に楽しい人生を生きるきっかけにもなるでしょう。

〔教材〕

教科書：宮原牧子他『マザーグースの英詩の世界』英光社，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に2時間以上，授業後にテキストの音読と暗記に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数，毎回のリアクションペーパー，定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡して下さい。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声と母音の発音方法：Pat-a-cake, Pat-a-cake, Baker's Man (p.85.)
第2週　ストレスアクセントとリズム：Mary Had a Little Lamb (p.12.)
第3週　イントネーションの機能：Humpty Dumpty Sat on a Wall (p.81.)
第4週　単語の発音方法：A Was an Archer, Who Shot at a Frog (p.83.)
第5週　語句の発音方法：Twinkle, Twinkle, Little Star (p.31.)
第6週　リズムの習得：This Is the House that Jack Built (p.86.)
第7週　リズムとイントネーションの習得：London Bridge is Broken Down (p.60.)
第8週　意味をイメージする音読：I Saw a Fishpond All on Fire (p.89.)
第9週　想像する世界：If All the Seas were One Sea (p.66)
第10週　英詩朗読健康法：Betty Botter Bought Some Butter (p.79)
第11週　歴史を伝えるマザーグース：Who Killed Cock Robin? (p.70.)
第12週　不気味なマザーグース：There was a Crooked Man, and he Walked a Crooked Mile (p.53.)
第13週　マザーグースの動物たち：Three Blind Mice, See How they Run! (p.7.)
第14週　その他のマザーグース：Old Woman, Old Woman, Shall we Go A-shearing? (p.46.)
第15週　まとめ

授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。

英語演習IK

3624000101100

副　題	TOEIC® Listening and Reading Test　対策	担　当　者	山口　志のぶ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-211-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテスト（TOEIC® Listening and Reading Test）に立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は，リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる５つのアクセントに聞き慣れ，口頭練習や数多くの問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。また，昨年より出題されている新形式問題については別途プリントを配布して対応いたします。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業への貢献度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC650点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　（TOEICとは / 新TOEIC形式の問題について）
第２週　Unit 1 Part 1 Photographs 1
第３週　Unit 2 Part 1 Photographs 2
第４週　Part 1　まとめ
第５週　Unit 3 Part 2 Question-Response 1
第６週　Unit 4 Part 2 Question-Response 2
第７週　Part 2　まとめ
第８週　Unit 5 Part 3 Conversations 1
第９週　Unit 6 Part 3 Conversations 2
第10週　Part 3　まとめ
第11週　Unit 7 Part 4 Short Talks 1
第12週　Unit 8 Part 4 Short Talks 2
第13週　Part 4　まとめ
第14週　〃
第15週　総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習IL

3624000101200

副　題	TOEIC® Listening and Reading Test　対策	担　当　者	山口　志のぶ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-212-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテスト（TOEIC® Listening and Reading Test）に立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は，リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる５つのアクセントに聞き慣れ，口頭練習や数多くの問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。また，昨年より出題されている新形式問題については別途プリントを配布して対応いたします。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業への貢献度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC650点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　（TOEICとは / 新TOEIC形式の問題について）
第２週　Unit 1 Part 1 Photographs 1
第３週　Unit 2 Part 1 Photographs 2
第４週　Part 1　まとめ
第５週　Unit 3 Part 2 Question-Response 1
第６週　Unit 4 Part 2 Question-Response 2
第７週　Part 2　まとめ
第８週　Unit 5 Part 3 Conversations 1
第９週　Unit 6 Part 3 Conversations 2
第10週　Part 3　まとめ
第11週　Unit 7 Part 4 Short Talks 1
第12週　Unit 8 Part 4 Short Talks 2
第13週　Part 4　まとめ
第14週　〃
第15週　総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習IIA

3624000200100

副　題	Language and Culture in Our World							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-213-IV

〔授業の到達目標〕

The instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. Everyone is responsible for knowing the contents of all chapters, not just the students assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Students can contact the instructor by email: ekawa●shirayuri.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

・The classes will be conducted in English.

・Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

・Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductory Class
Chapter-selection for presentations
Chapter 1 - The Dawn of Language
第２週　Chapter 2 - Do Animals Have Language?
Chapter 3 - The Rosetta Stone
第３週　Quiz 1
Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar
Chapter 5 - Younger is Better
第４週　Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism
Quiz 2
Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第５週　Chapter 8 - Politeness
Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第６週　Quiz 3
Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner?
Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第７週　Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning
Quiz 4
Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第８週　Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect?
Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第９週　Quiz 5
Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial?
Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週　Chapter 18 - Esperanto
Quiz 6
Chapter 19 - Language Change
第11週　How to Write a Paper
Chapter 20 - Prescriptivisim and Descriptivism
Chapter 21 - Loanwords
第12週　Quiz 7
Chapter 22 - Why Do Languages Disappear?
Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週　Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh
Quiz 8
Final Paper Due
第14週　Language Game
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習ⅡB

3624000200200

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！							担　当　者	大野　純子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-214-IV

〔授業の到達目標〕
・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕
・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドーイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕
教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013年
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習30分，復習30分。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度30%，各unit終了後の小テスト50%，レポート20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕
教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 8 Learning Small Talk
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 9 Happy Meal Ads Target Kids
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 10 Internships-Are They Worth It?
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 11 Happiness 101
第10週　同上
第11週　Unit 12 Therapy Dogs Help the Sick
第12週　同上
第13週　Unit 13 Ford Going Green with U.S.-Grown Crops
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストと英語でのニュースの要約作成を行います。
やむをえない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習IIC

3624000200300

副　題	時事英語のリスニング							担　当　者	渡辺　幸俊　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-215-IV

〔授業の到達目標〕

ロイター通信社の最新ニュースを使って国際ニュースを理解できるようになること。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信しているTHOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように5回～6回発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。ネット掲載のニュースの他，その時点での最新ニュースを取り上げていきます。Reproductionに関しては，予習を徹底してください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，語彙テスト20% Reproduction 60%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡を取ってください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　天気予報，内容要約，語彙の理解度確認
第2週　最新ニュースのディクテーション，内容要約，語彙の理解度確認
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

「最新」のニュースを扱いますので，毎時間のニュース内容は現時点では分かりません。予習に際して，テレビ・ラジオ・新聞等に関心を払い，日々の生活に取り入れてください。

英語演習IID

3624000200400

副　題	アイルランドの歴史に触れる							担　当　者	小村　志保　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ENG-216-IV

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞，雑誌，論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

一般的な世界史の学習においてアイルランドの歴史が取り上げられることはほとんどありません。長く英国の支配下にあったため英国の一部として誤って認識されることも多いのですが，実際にはアイルランドの歴史は英国からの独立を目指してきた歴史と言うことができます。今日まで約500年に及ぶ独立運動では，暴力に頼るのか非暴力で運動を進めるのか，が常に問題になってきましたが，このことは今日の世界情勢を考える際にも参考になるものです。授業では主に独立運動にかかわった人々の言説を参考に，民族，言語，宗教が複雑に絡んだアイルランドの歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも１度英文テキストの和訳を発表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%），課題発表とそれに取り組む姿勢（40%），授業内容の理解度（30%）により判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　テキストの輪読と解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　授業内容のまとめと理解度の確認
課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

英語演習IIE

3624000200500

副　題	A Flavor of English								担　当　者	谷口　めぐみ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-217-IV

〔授業の到達目標〕

本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕

「英語を楽しく学びたい！」という学生の想いに応えられるような，そして，高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう，少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。「英語を楽しく学ぶ」方法の１つとして，映画を題材としたテキストを用いて，映画に登場する食文化や食べ物をはじめとする身近な話題から英語を楽しく，効果的に，学習しましょう。

文法テキストを用いて文法事項の復習をしっかりと行った後，それぞれの映画について述べた200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め，文法項目の実践化に取り組みます。また，総合的な英語力の養成となるよう，英作文の練習を行い，映画批評に挑戦します。

〔教材〕

教科書：Fiona Wall Minami et als., *A Flavor of English: Cinema and Cuisine*, Asahi Press, 2014
福井慶一郎、加藤主税『大学教養英文法（改訂版）』朝日出版社，2001年

参考書：Eric Bray, *Movie Time!*, Nan'un-Do, 2012

上記指定テキストの他，英作文用のプリント教材を配布し，演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で説明した文法事項の復習及び定着のため，演習問題に取り組んだうえで，次回授業に参加すること。

文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので，あらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるよう準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席点および授業参加態度（20%），試験（30%），課題提出状況（20%）,教室内プレゼンテーション（30%）により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オリエンテーションで説明いたします。

〔備考〕

授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　文。
第２週　時制
　　Kramer v. Kramer (Chapter 1)
第３週　時制の照応と話法
　　形容詞
第４週　比較
　　The Devil Wears Prada (Chapter 2)
第５週　疑問詞
　　Charlie and the Chocolate Factory (Chapter 10)
第６週　Charlie and the Chocolate Factory　（１）
　　登場人物の紹介
第７週　Charlie and the Chocolate Factory　（２）
　　登場人物の紹介
第８週　仮定法
　　Notting Hill (Chapter 6)
第９週　Notting Hill（１）
　　あらすじ紹介
第10週　Notting Hill（２）
　　あらすじ紹介
第11週　前置詞
　　Everybody's Fine (Chapter 11)
第12週　接続詞
　　No Reservations (Chapter 7)
第13週　Review
　　映画批評に挑戦（１）
第14週　Review
　　映画批評に挑戦（２）
第15週　Review
　　映画批評に挑戦（３）

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり，進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。春学期開講の英語演習I・Eの学習内容と異なるように授業の年間計画を立てているため，英語演習I・Eと英語演習II・Eを続けて受講することに問題はありません。

英語演習ⅡF

3624000200600

副　題	Language Change							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-218-IV

〔授業の到達目標〕

The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are in languages in general and in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned materials on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Students can contact the instructor by email: ekawa●shirayuri.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introductory Class
第 2 週　Language Change - The Basics
第 3 週　English in the Past 1
第 4 週　English in the Past 2
第 5 週　Creating Words
第 6 週　Borrowing Words
第 7 週　Changes in Pronunciation
第 8 週　Changes in Spelling
第 9 週　Changes in Grammar
第10週　Changes in Meaning
第11週　The Origin of Dialect
第12週　World Englishes
第13週　The Birth and Death of Language
第14週　Attitudes towards Language Change
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習IIG

3624000200700

副　題	Reading for better communication							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-219-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。また，男女間の愛をテーマに，コミュニケーションの技術について考察します。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を体得するために,必要な文法的事項を確認し,英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の愛ある交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を 2 時間以上，授業の復習を 2 時間以上することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡して下さい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　英語の発音とリズムについて
第 2 週　英語のイントネーションについて
第 3 週　Loving, Not Mothering
第 4 週　The Adult Love Script　（1）
第 5 週　The Adult Love Script　（2）
第 6 週　Give-and-Take　（1）
第 7 週　Give-and-Take　（2）
第 8 週　Give-and-Take　（3）
第 9 週　Tolerance and Empathy
第10週　Dependability
第11週　Personal Development
第12週　Sharing　（1）
第13週　Sharing　（2）
第14週　Realism, Intimacy, The X factor
第15週　まとめ

英語演習IIH

3624000200800

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENG-220-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドーイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習30分，復習30分。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度30%，各unit終了後の小テスト50%，レポート20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 8 Learning Small Talk
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 9 Happy Meal Ads Target Kids
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 10 Internships-Are They Worth It?
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 11 Happiness 101
第10週　同上
第11週　Unit 12 Therapy Dogs Help the Sick
第12週　同上
第13週　Unit 13 Ford Going Green with U.S.-Grown Crops
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストと英語でニュースの要約作成を行います。
やむをえない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習II I

3624000200900

副　題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Works	担　当　者	清水　英之　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-221-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識のWilliam Shakespeareの作品をテキストに使用し，英語の発音を基礎から学びます。英語での発声法，母音の発音の仕方，子音の発音の仕方，単語の発音方法，語句の発音方法などを科学的に学び，ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。Shakespeareの作品にはイギリス文化の本質が詰まっています。日本の文化と比較をしながら，より深い英語の世界を体験しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版，朝日出版社，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間以上，授業後に教科書の音読と暗記に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回のリアクションペーパーおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音：O Mistress Mine（p.92.）
第2週　アクセントと子音の発音：O Mistress Mine（p.92.）
第3週　リズム練習（1）Lovers（p.24.）
第4週　リズム練習（2）Nothing（p.40.）
第5週　イントネーションの不思議　Universe（p.70.）
第6週　イントネーション練習（1）What is a Man？（p.62.）
第7週　イントネーション練習（2）Mercy（p.32.）
第8週　人間の苦悩とは何か：To be or not to be（p.78.）
第9週　なぜ学問をするのか：Schoolboys（p.22.）
第10週　聖書文化圏の人間像：Infants（p.18.）
第11週　美と錬金術：Sonnet 18（p.114.）
第12週　友情の美学：Sonnet 29（p.116.）
第13週　愛とは何か：Sonnet 105（p.124.）
第14週　Prospero (p.168.)
第15週　まとめ：レポート作成
原則として毎回違ったシェイクスピアのセリフを読みます。

英語演習II J

3624000201000

副　題	English Pronunciation Practice through English Popular Songs							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-222-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英米のポピュラーソングズを用いて英語の発音を学ぶことです。英語の歌を歌うためには，世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語の歌を楽しみましょう。また，この授業の目的は，人生の最大のテーマである愛と孤独について考察することです。英米の流行歌に触れることによりアメリカ人やイギリス人の心を感じ，彼らの愛や孤独について考えましょう。

〔教材〕

教材はプリントを使用します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に2時間以上，授業後に英語の歌の練習に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数，毎回のリアクションペーパー，定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡して下さい。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音
第2週　英語の子音の発音
第3週　英語のリズムについて　Mary had a little lamb
第4週　英語のイントネーションについて　Twinkle, twinkle, little star
第5週　I'm a Rock
第6週　You're Beautiful
第7週　Let it Be
第8週　Honesty
第9週　I Still Haven't Found What I'm Looking for
第10週　Imagine
第11週　Greatest Love of All
第12週　A Candle in the Wind
第13週　Last Christmas
第14週　Chiquitita
第15週　まとめ

授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。また，授業以外の学習として習った英語の歌をカラオケなどで練習してください。

英語演習IIK

3624000201100

副　題	TOEIC® Listening and Reading Test 対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-223-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテスト(TOEIC® Listening and Reading Test)に立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期はリーディング・パート対策に重点をおいて文法や長文読解の問題を数多くこなし，テスト全体を見失わないように偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時，速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説する予定です。また，昨年より出題されている新形式問題については別途プリントを配布して対応いたします。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業への貢献度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC650点未満の者

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction（TOEICとは / 新TOEIC形式の問題について）
第 2 週　Listening Test: Part 1 - 4　復習
第 3 週　Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
第 6 週　〃
第 7 週　Unit 11 Part 6 Text Completion 1
第 8 週　〃
第 9 週　Unit 12 Part 6 Text Completion 2
第10週　〃
第11週　Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
第12週　〃
第13週　Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
第14週　〃
第15週　まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習ⅡL

3624000201200

副　題	TOEIC® Listening and Reading Test 対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-224-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテスト(TOEIC® Listening and Reading Test)に立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期はリーディング・パート対策に重点をおいて文法や長文読解の問題を数多くこなし，テスト全体を見失わないように偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時，速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説する予定です。また，昨年より出題されている新形式問題については別途プリントを配布して対応いたします。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業への貢献度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC650点未満の者

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction（TOEICとは / 新TOEIC形式の問題について）
第 2 週　Listening Test: Part 1 - 4　復習
第 3 週　Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
第 6 週　〃
第 7 週　Unit 11 Part 6 Text Completion 1
第 8 週　〃
第 9 週　Unit 12 Part 6 Text Completion 2
第10週　〃
第11週　Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
第12週　〃
第13週　Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
第14週　〃
第15週　まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

国際コミュニケーション論

3622000300100

副　題	歴史を動かす国際報道							担　当　者	明石　和康　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ICM-201-IC

〔授業の到達目標〕

国際関係がダイナミックに展開している現在，日々変化する世界の動きを伝える国際報道の重要性は日に日に高まっている。歴史が大きく動く際の国際報道の役割を理解するとともに，報道の持つ国際的なコミュニケーション能力の実態を学ぶことで，学生自身が世界の動きを大きな歴史の一コマとしてとらえる力を養い，自らのコミュニケーション能力も磨く意志を持つように社会認識を深める。

〔授業の内容〕

国際報道の担い手とは何かを最初に提示し，続いて教員の通信社記者としての経験を基に，主に米国や欧州，中南米における報道の実態，歴史的な出来事が起きた際の国際報道の役割，さらには現在の報道について実例に当たりながらその意味合いや内容を批判的に学ぶ。具体的な事例としては，米国での客観報道の歴史，国際通信社の変遷と業務，ベルリンの壁崩壊時（1989年）や米同時多発テロ（2001年）の際の報道などを取り上げる。毎回，質疑と意見提示の時間を設け，積極的な参加を学生に求める。

〔教材〕

参考書：明石和康『ヨーロッパがわかる―起源から統合への道のり』岩波書店，2013年
明石和康『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店，2012年
その他，随時指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。また，復習とレポート作成にしっかり時間をかけること。１コマの授業について，予習・復習の時間は合わせて少なくとも４時間とし，計60時間の教室外学習の時間を取るように。

〔成績評価の方法〕

適宜レポートを提出させる。数回のレポート（１回につき2000字程度）の総合点が50%，理解度の確認が20%，授業中の質疑応答，意見提示が30%。なお，出席を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に連絡を

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の説明，スケジュール
第２週　国際報道の担い手とは
第３週　アメリカにおける報道１
第４週　アメリカにおける報道２
第５週　アメリカにおける報道の歴史
第６週　理解度の確認
第７週　欧州における報道
第８週　歴史の変わり目とは何か
第９週　中南米における報道
第10週　理解度の確認
第11週　通信社の歴史と役割
第12週　現在の国際報道１
第13週　現在の国際報道２
第14週　理解度の確認
第15週　まとめ

理解度の確認の時期は多少前後する可能性がある。進行状況にもよるが，少なくとも２回はレポートを提出してもらう。授業内容を変更する場合もある。授業中には適宜，教員から学生に質問し，学生からの質問や意見も求める。

国際関係論I（国際関係史）

3622000900100

副　題	国境線から読み解く国際関係史							担　当　者	舘　葉月　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	INR-202-IC

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパを軸とした国際関係史を学びながら，どのような歴史的条件や展開を経て現在の国際社会が成立したのかを理解する。

〔授業の内容〕

歴史のなかで国際関係上の大きな変化が生じたとき，国境線は引き直されてきた。そうした節目に着目し，近代から現代にかけての国際関係史を概観する。また，国境線は時代によってその意味を変えてきた。19世紀以降，パスポートコントロールや身元登録の厳格化によって，国境という存在が人々の生活の中に入り込んでいった。逆に，20世紀のヨーロッパ統合は域内での移動の自由化をもたらした。こうした例にみられるように，国際関係の変化が，個人や社会にどのような影響を与えてきたかについても具体的解説を行う。

〔教材〕

参考書：近藤和彦　編『ヨーロッパ史講義』山川出版社，2015年
南塚信吾・秋田 茂・高澤紀恵　編『新しく学ぶ西洋の歴史：アジアから考える』ミネルヴァ書房，2016年

授業では適宜プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読（授業中にも適宜関連文献を紹介する）。

時事ニュースに関心を持つようにしてほしい（授業ではヨーロッパを中心に扱うが，世界の様々な地域で起こっていることにアンテナを張ってほしい）。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（30%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

hazukitate●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　近代的国際関係の始まり
第３週　19世紀（１）ヨーロッパの勢力拡張と国境線
第４週　19世紀（２）ヨーロッパの勢力拡張と国境線
第５週　19世紀（３）国境を越える人々の移動と監視の強化
第６週　20世紀前半（１）第一次世界大戦とパリ講和会議－アルザス・ロレーヌ
第７週　20世紀前半（２）第一次世界大戦とパリ講和会議－中東欧再編
第８週　20世紀前半（３）第一次世界大戦とパリ講和会議－委任統治領
第９週　20世紀前半（４）1930年代の危機と第二次世界大戦
第10週　20世紀後半（１）戦後処理と冷戦の始まり
第11週　20世紀後半（２）仏独和解とヨーロッパ統合
第12週　20世紀後半（３）植民地の独立とその後
第13週　20世紀後半（４）冷戦とさまざまな「壁」
第14週　21世紀（１）現代世界と難民問題
第15週　授業内容のまとめと確認
授業の進行は前後することがある

国際関係論II（日欧関係）

3622000600100

副　題	日欧文化交流にみる近世と近代							担　当　者	伊藤　真実子　講師
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-203-IC

〔授業の到達目標〕

近世・近代における日欧文化交流についての理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では，近世・近代における日欧文化交流を，モノの往来，蒐集活動からたどる。当時の王侯貴族，学者，市井の人々が抱いていた，世の中にあるモノを知りたい，手に入れたい，という知的好奇心と情熱がもたらす文化交流，文化の豊穣を，個人のコレクション，公共博物館，万国博覧会や，個人の生活の中での「異国のモノ（デザイン）」に対する態度などから考察することで，近世・近代における異文化への憧憬，あるいは摩擦，蔑視などが生まれた背景や，当時の価値観などの諸側面を考える。

〔教材〕

第１回の授業で参考文献リストを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%），授業中に提出するコメントペーパー（20%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　モノを集める，見せる，見る　コレクションと博物館の歴史（前近代）
第２週　同じ
第３週　17-18世紀　ヨーロッパの個人コレクションと博物学
第４週　同じ
第５週　〃
第６週　17-19世紀　日本の個人コレクションと博物学
第７週　同じ
第８週　〃
第９週　市民と博物館　個人コレクションから公共博物館へ
第10週　同じ
第11週　万国博覧会
第12週　万国博覧会と日本
第13週　同じ
第14週　〃
第15週　授業内容のまとめと確認

国際関係論III（日米関係）

3622000700100

副　題								担　当　者	齋藤 洋子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INR-204-IC

〔授業の到達目標〕

日米関係史と日米文化比較を通して，日本および米国の政治・社会・文化についての知見を獲得する。国際社会における日米関係の意義についての見識を深める。

〔授業の内容〕

日米両国の政治・社会・文化などの特質と日米関係の歴史を検討し，今日の国際社会における日米関係の役割と意義を考察する。講義では，まず日本社会とアメリカ社会の特質，相違点を確認した上で，過去から現在まで両国を訪れた人々の感想や観察などの記録から，両国の社会・文化の特質を考察する。その後，日米関係の歴史を同時期の世界史の動向を踏まえた上で検討し，今後の日米関係と両国が国際社会で果たすべき役割を考察する。

〔教材〕

教科書：五百旗頭眞『日米関係史』有斐閣，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：事前にテキストの該当個所を読み，わからない固有名詞や事柄について調べておくこと。

復習：授業の中で紹介した参考文献などを紐解き理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

定期試験　60%
レポート　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　日本とアメリカの相違点（政治システム・宗教・国家観）
第３週　日本人の見たアメリカ（ジョン万次郎から現在まで）
第４週　アメリカ人の見た日本（ペリーから現在まで）
第５週　日米関係史（１）19世紀後半の日米関係
第６週　日米関係史（２）日露戦争前後の日米関係
第７週　日米関係史（３）第一世界大戦と日本・アメリカ
第８週　日米関係史（４）国際新秩序の成立と日米関係
第９週　日米関係史（５）満州事変後の日米関係
第10週　日米関係史（６）日米戦争
第11週　日米関係史（７）アメリカの占領政策とその転換
第12週　日米関係史（８）冷戦期の日米関係
第13週　日米関係史（９）冷戦終結後の日米関係
第14週　日米関係史（10）国際社会の多極化と日米関係
第15週　総括　今後の日米関係の展望

※国際関係論Ⅳ（将来展望）

3622000800100

副　題	21世紀の国際関係							担　当　者	畠山 圭一　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-205-IC

〔授業の到達目標〕
近代的価値観，特に20世紀の価値観が国際関係に及ぼした影響とそこから人類が学んだ教訓を探り，その知見をもとに，21世紀の国際社会における潮流変化の意味を理解し，国際社会の将来を展望する力を養う。

〔授業の内容〕
21世紀を迎えた今日，国際社会の環境は急速に変化しつつある。それは単に冷戦が終わったということではなく，大戦争や冷戦あるいは大恐慌の背景にあった（時には主因であった），観念や価値観がその説得力・影響力を大きく失ったことや新たな技術が発達したことと深く関係している。今日，政治，経済，社会，国際関係等の思想潮流やシステムも大きく変わろうとしている。本講義では，20世紀から21世紀への時代潮流の変化を見つめながら，21世紀の国際関係の姿を展望し，21世紀に人類が直面するであろう国際関係の課題と日本の対外政策のあり方を検討する。

〔教材〕
教科書：添谷芳秀編『21世紀国際政治の展望』慶應義塾大学出版会
本講義は何よりも予習・復習が重要であり，国際政治における20世紀の教訓と21世紀の課題についての深い議論が展開されている本書は，本講義の議論を深め，授業の到達目標を達成するために必携のテキストである。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義１時間あたり受講生が２時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当個所を読んで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
定期試験（６割）とリポート（４割）の点数を合算して評価し，６割以上を合格とする。定期試験・リポートともに，受講者の内容理解と思索の深さを基準に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
予習内容，授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお３回連続欠席，計５回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。無断退出は認めないので，やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―検討課題と分析方法
第２週　国際関係に関する文明史または人類史的視点
第３週　20世紀はどんな時代だったのか【１】社会改革の実験
第４週　20世紀はどんな時代だったのか【２】ナショナリズムの昂揚
第５週　20世紀はどんな時代だったのか【３】経済学の発達
第６週　20世紀はどんな時代だったのか【４】科学技術の進歩
第７週　20世紀から21世紀へ【１】宗教の復権？
第８週　20世紀から21世紀へ【２】情報化社会の波
第９週　20世紀から21世紀へ【３】ボーダーレス＝新たな帝国の出現？
第10週　20世紀から21世紀へ【４】覇権安定論とその限界
第11週　21世紀の国際関係【１】民主主義の将来
第12週　21世紀の国際関係【２】経済自由主義の将来
第13週　21世紀の国際関係【３】新しい国際システム
第14週　21世紀の国際関係【４】戦争の未来
第15週　総括―21世紀を希望の世紀とするために

国際法I

3622002100100

副　題	分権社会の法							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	LAW-206-IC

〔授業の到達目標〕
国際法が分権社会の法であることを具体例を用いて説明することができるようになる。

〔授業の内容〕
「国際法I」では，国際法の中でもその基本的な骨格をなす主要論点（総論）についての理解を深めることに講義の主眼が置かれる。講義では，近年わが国が直面している国際法上の諸問題などの具体的な事例を取り上げることに留意し，分かりやすい解説を心掛けたい。毎回の講義では，その日の学習内容を示したレジュメを配布することを予定している。
講義では，まず導入として，国際法の意義と基本的性格について考察する。国際法とは何か，その起源と歴史的変遷，その存在理由，国際法の存立基盤である国際社会の構造および性格とそれを反映した国際法の特徴，国際法の法的性質などが主要な検討課題となる。
そのうえで，国際法の形成について考察する。国際法は分権社会の法である以上，その形成態様はおのずと国内社会におけるそれとは異なる。これは通常，国際法の法源論という形で議論される。
以上を踏まえたうえで,国際法と国内法とがどのような協働関係を築いているのかを理論的・実際的な見地から考察することとしたい。

〔教材〕
（１）教科書は開講時に指示する。
（２）『条約集』（指定条約集については，開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
一コマ90分の授業に対して，最低限以下の予習・復習が必要となる。
１．予習90分：教科書の該当箇所を熟読し，そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに，具体的な事例を判例集等で確認すること。
２．復習90分：講義レジュメを読み返し，不明な用語，事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（10%程度）
（２）学期末試験（90%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
国際法も法律学の一分野である以上，その習得にあたり法学の基礎知識はきわめて重要（というか，不可欠）である。したがって，受講生には，担当者による「法学I」および「法学II」を履修済みであるか，少なくとも「法学I」を並行して履修することが強く推奨される。
併せて，新聞の国際面で報道される事件・事象にも平素から目配りをしておくことが求められる（時事問題に関心をもち，日本や諸外国，国際社会がどのように動いているのかに注意を払って欲しい）。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　法学体系全体における国際法の位置づけ
第３週　国際法の概念・歴史
第４週　国際社会の組織構造　（１）
第５週　国際社会の組織構造　（２）
第６週　国際法の意義・特徴
第７週　国際法の法的性質
第８週　国際法の成立形式（法源・総論）
第９週　慣習国際法
第10週　条約国際法（条約法・総論）
第11週　法の一般原則
第12週　条約の締結手続
第13週　条約の適用範囲
第14週　条約の無効・終了
第15週　総括

法学はもとより，外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて，外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

国際法II

3622002200100

副　題	国家と国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	LAW-207-IC

〔授業の到達目標〕
国家に関する国際法規則の内容を理解し，それら関連規則の国際紛争事例への適用態様とその法的帰結を説明することができるようになる。

〔授業の内容〕
「国際法II」では，「国際法I」で習得した総論的理解を前提とした上で，国家に関する国際法の規則を明らかにすることに主眼が置かれる。
講義の前半では，国家承認および政府承認の諸問題が検討される。国際法は，国家の成立や変動・消滅についてどのような規律の枠組みを有しているのか，また，政府の非合法的な変更が行われた場合に，国際法上はどのような対応がありうるのかが，ここでの問題意識である。
講義の後半では，国家管轄権というキーワードを軸に，国家の領域主権が及ぶ場所的範囲の構造と性質を解明する。国家管轄権とは，国家がその国内法を一定の人，財産または事実に対して適用し執行する国際法上の権能をいい，国家主権の具体的な発現形態を示すものである。今日の国際社会において生ずる国際紛争は，各国がその政策，国内法令または執行措置などの国家管轄権を，相互に受忍可能な国際法上の条件と限界を越えて実施することに起因しており，国際紛争の争点を把握するためにも，国家管轄権の基本構造とその特質の理解は不可欠である。
以上，いずれの論点の検討に際しても，近年わが国が直面している国際法上の諸問題にできる限り言及するように努めることとし，国際法が単なる道徳や礼譲ではなく，実定法規範として機能している実態を明らかにすることに努めたい。

〔教材〕
（１）開講時に指示する。
（２）『条約集』（指定条約集については，開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
一コマ90分の授業に対して，最低限以下の予習・復習が必要となる。
１．予習90分：教科書の該当箇所を熟読し，そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに，具体的な事例を判例集等で確認すること。
２．復習60分：講義レジュメを読み返し，不明な用語，事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（10％程度）
（２）学期末試験（90％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
国際法は，一般に，総論的な理解（「国際法I」）を前提とした上で，各論での議論（「国際法II」）が展開される。両者を一貫して学習し，はじめて国際法という学問の基本的な発想が理解できる。その意味で，受講生には「国際法I」を予め履修しておくことが強く推奨される。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　国際法I（総論）の重要論点の確認
第３週　国家承認　（１）
第４週　国家承認　（２）
第５週　国家承認　（３）
第６週　政府承認　（１）
第７週　政府承認　（２）
第８週　政府承認　（３）
第９週　国家領域（１）
第10週　国家領域（２）
第11週　国家領域（３）
第12週　国家領域（４）
第13週　国家管轄権（１）
第14週　国家管轄権（２）
第15週　国家管轄権（３）

法学はもとより，外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて，外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

ボランティア論I

3622002300100

副　題	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	担　当　者	野口　朝夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	VOL-208-IC

〔授業の到達目標〕

「ボランティア」活動に参加したことがあるという学生も，機会があれば参加してみたいという学生も多いでしょう。しかし，「ボランティア」って何ですか？と問われると，どう答えるのか戸惑う人もいるのではありませんか。どのように参加したらいいの？何をしたらいいの？資格がいるの？など，実際のことは判りにくいかも知れません。さらに，そもそも，なんでボランティアなんて必要なのか，という議論もあるかも知れません。

この授業の目的は，「ボランティア」の意味を考えることで，そのような疑問を解きながら，１人１人が「ボランティア」を身近で普通なこととして，自ら実践できるようになることにあります。そのため，講義を通し皆が主体的に「考える」ことが期待されます。

〔授業の内容〕

「ボランティア」概念の歴史的な変遷，活動内容，役割，成果などを，主に国際協力NGOが担う分野から学ぶことで，「ボランティア」・NGO活動の意味を考えます。さらに，各自が参加したいボランティア活動を定め，プロジェクト実施のためのアクションプランをグループで作成することで，ボランティ活動を立ち上げるために必要な事項を学びます。

〔教材〕

教材は使用しません。進行に合わせ適時，資料を配付します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前半の授業では，前回の授業の振り返りをおこない，資料などで理解を深める学習が必要です。さらに，一部，調べたことを発表することがあり，各自事前準備が必要となります。また後半では，アクションプラン作成のため，グループで資料収集や分析，計画立案などを授業前後に準備をする必要があります。

〔成績評価の方法〕

授業への参加姿勢40%　レポート30%　調査研究の熱心さ・アクションプランの評価30%の割合で評価をおこないます。ただし，アクションプラン，レポートは全ての提出が前提となります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業終了後に受け付けます。それ以外は学科事務室を通して連絡をして下さい。

〔備考〕

ボランティア活動のアクションプランを作成することから，受講者は，具体的に何らかのボランティアをしたいという思いを持っていることが前提となります。また，秋学期の「ボランティア演習」を選択希望の学生は，本授業を選択することが望まれます。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の目的　スケジュールについて
　　ボランティアって何か　ボランティアをすることの意味を考える
第２週　ボランティア概念の変遷，展開を知る
第３週　市民セクターを考える　NPO・NGOの世界を考える
第４週　日本のNGOの歴史と現在を知る
第５週　国際協力の担い手としてのNGOを学ぶ　ビジョン　ミッションとボランティア
第６週　NGO・NPOの組織運営を知る
第７週　「私」のボランティア　何のために，何が出来るか，何をしたいかを考える
第８週　NPO・NGOを調べる　参加したいボランティア活動のテーマを探す
第９週　ボランティアの具体的内容を考える。アクションプランの作成
　　ボランティア団体を立ち上げ，行動計画を練る
第10週　アクションプランの作成
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　アクションプランの発表
第15週　授業をふり返る　「私にとってのボランティア」とは。レポート作成

授業計画は，大体の流れを示すもので，詳細は変更になることがあります。
授業中のおしゃべりは厳禁します。教室の途中の出退席も禁止します。

ボランティア論II

3622002400100

副　題	NPOとわたしたち							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	VOL-209-IC

〔授業の到達目標〕
NPOと市民社会の関わりあい方を理解する。

〔授業の内容〕
今日,社会の多様な分野で積極的な市民参加が行われており,NPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）などの非営利・非政府の新しい社会セクター（市民セクター）が注目されている。こうした市民組織の存在が今後のよりよい社会づくりに向けて不可欠であるとの認識は一般化しつつある。しかし，組織数やその役割が増大しながらも，欧米の組織と比較すると，組織・資金力ともに貧弱であり，こうした市民組織の強化，およびこれらの組織を支える市民社会の育成が必要である。本講義では，NPOが存在する意義や背景を検証しながら，その活動の役割や現状と課題について理解を促すことが目標である。

〔教材〕
授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
随時指定します。１回の授業あたり３－４時間，文献を読んだり，レポートを書くための時間を予定してください。

〔成績評価の方法〕
授業内で書く小ペーパー（複数回実施・出欠席確認をかねる）45%，学外でのボランティア活動　10%，試験　45%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
交通機関による遅延も含め，時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので，気をつけてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ボランティアの源流と歴史
第３週　人から組織社会
第４週　なぜNPOなのか（１）
第５週　なぜNPOなのか（２）
第６週　NPO法人の現状（１）
第７週　NPO法人の現状（２）
第８週　NPOと市民社会
第９週　NPOと企業
第10週　社会企業家
第11週　世界のNPO
第12週　日本のNPOの課題と展望
第13週　〃
第14週　まとめ
第15週　理解度の確認

国際機構論I

3622003100100

副　題	国際機構の機能とその可能性							担　当　者	小中　さつき　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-310-IC

〔授業の到達目標〕
国際機構の構造や働きを通して，国際社会の仕組みや問題を理解できるようにする。また，国際紛争解決のために国際機構に何ができるのか，国際機構を通じて日本の果たすべき役割は何なのかについて，自らの頭で考える力を身につけることを目標とする。

〔授業の内容〕
いまや，人権，平和，環境，経済，文化，どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。国際連合をはじめ，国際原子力機関（IAEA），国連児童基金（UNICEF），国際通貨基金（IMF），国際労働機関（ILO），世界保健機関（WHO）などの国連専門機関，EUをはじめとする地域的な国際機構のニュースを毎日のように目にする。授業では，国際法に基づき，主に国際連合の組織構造や実際の活動を分析し，なぜ国際機構が設立される必要があるのか，国際機構が国際社会で果たしている役割，また果たすべき任務を学び，考える。国際機構に関わる時事問題に関しても随時取り上げ，問題を掘り下げていく。

〔教材〕
参考書：横田洋三　編著『新国際機構論』国際書院，２００５年
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，２００５年
最上敏樹『国際機構論講義』初版，岩波書店，２０１６年
香西茂、安藤仁介　編『国際機構条約・資料集』第２版，東信堂，2002年
テキストについては初回の授業で説明する。レジュメや資料を毎回配布する予定なので，参考書を必ずしも購入する必要はないが，国際機構についてより理解を深めたい人には有用であろう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
配布したレジュメや資料，また参考書を使って４時間ほど授業の内容をしっかり予習・復習することが重要である。また,国際情勢について新聞等で常に状況を理解しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕
期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポートや発言（20%）で評価する。
出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕
本講座の内容を理解するためには，国際法の基礎知識が必要となる。必要な内容についてはもちろん講義で説明するが，貪欲に新しい知識を吸収してほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　国際機構，国際機構法とは何か
第２週　国際法の基礎
第３週　国際社会の組織化（１）ーなぜ国際機構は必要なのかー国際連盟設立まで
第４週　国際連盟の構造と任務
第５週　国際社会の組織化（２）国際連合の設立から現在まで
第６週　総論　国際機構の設立　目的　任務
第７週　総論　国際機構の法主体性
第８週　総論　国際機構の意思決定手続
第９週　総論　国際機構の決議の法的効果
第10週　総論　国際機構と国家（１）加盟
第11週　総論　国際機構と国家（２）特権・免除
第12週　地域的国際機構
第13週　NGO（非政府間機構）
第14週　国際機構で働く
第15週　まとめ
授業内容については，受講者の関心のある問題を優先的に取り入れていきたい。授業初回でアンケートを取る予定なので，扱ってほしいテーマについて考えておくこと。

国際機構論II

3622003200100

副　題	様々な分野における国際機構の活動							担　当　者	小中　さつき　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-311-IC

〔授業の到達目標〕

国際機構の構造や任務の内容を理解することにより，国際社会が抱える問題や国際社会全体の仕組みを学ぶ。またわが国が，国際機構を通じて国際社会に対してどのような貢献ができるかを考える力を身につけることを目標とする。安全保障，貿易，人権といった，個別の分野における国際機構の働きや，特定の国際機構の特徴を学び，国際機構論Iよりも，より具体的に機構について検討する。

〔授業の内容〕

いまや，人権，平和，環境，経済，文化，どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。様々な国際問題に各国が個別に対応するのではなく，組織として対応することにより，国際社会は無用な争いを避け，紛争発生を予防し，問題の解決を促進することを目指す。しかしながら国際機構の一員になることにより，国家は一定の義務を引き受けることとなり，また意思決定についても一定の制約を受けることになる。それでもなお国際社会が国際機構を求める社会的必要性とは何なのか。分野ごとに抱える問題点を正確に理解し，その上でどのような国際機構が設立されているのか，その内容，有用性，限界そして可能性を様々な国際機構を取り上げながら学んでいく。

〔教材〕

参考書：横田洋三『新国際機構論』国際書院，２００５年
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，２００５年
最上敏樹『国際機構論講義』初版，岩波書店，２０１６年
香西茂、安藤仁介　編『国際機構条約・資料集』東信堂，2002年

教科書や参考書については最初の授業で説明する。基本的にはレジュメや資料を毎回配布する予定なので，参考書は必ずしも購入する必要はないが，国際機構についてより深く学びたい人には有用な文献である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布したレジュメや資料，また参考書を使って４時間ほど授業の内容をしっかり予習・復習することが重要である。その他に，必ず毎日新聞に目を通し，国際関係関連の記事をしっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポート（20%）で評価する。
出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（国際機構，国際機構法とは何か）
第２週　安全保障と国際機構（国際連合と地域的機構）
第３週　国際連合の安全保障制度（１）しくみ
第４週　国際連合の安全保障制度（２）事例研究
第５週　国際連合の安全保障制度（３）今後の課題
第６週　貿易と国際機構
第７週　人権保障と国際機構
第８週　国際人道法と国際機構
第９週　環境保護と国際機構
第10週　教育・文化と国際機構
第11週　開発援助と国際機構
第12週　海上交通の安全と国際機構
第13週　地域的機構（ヨーロッパ）
第14週　地域的機構（アジア，アフリカ）
第15週　まとめ

授業内容については，受講者の関心のある問題を優先的に取り入れていきたいと考えている。授業初回でアンケートを取る予定なので，扱ってほしいテーマについて考えておくこと。

国際開発論I

3622003300100

副　題	国際開発援助							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-212-IC

〔授業の到達目標〕
開発途上国の開発に関わる課題と展望を理解する。

〔授業の内容〕
今日，「豊かな」先進国と「貧しい」開発途上国の２つ世界が存在する。戦後，賠償，復興，開発などさまざまな戦略と目的で国際開発援助活動が行われてきたが，世界の貧富の差は縮まるばかりか拡大している。経済開発中心から，人間開発，参加型開発というように開発理論は変遷し，昨今では良い統治，アカウンタビリティー，参加，持続，エンパワメント，社会資本などのキーワードを中心に議論が進められている。本講義では，国家にとっての開発とはどういうことを意味することかを理解しながら，これからの展望を考察する。また，問題の多様性と社会組織のパターン，ダイナミズム，変化のあり方に関する認識を提示する。開発途上国の直面する諸問題を認識しながら，社会開発の側面を考察し，どのような解決方法が可能かさぐる。

〔教材〕
授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
随時指定します。１回の授業あたり３－４時間，文献を読んだり，レポートを書くための時間を予定してください。

〔成績評価の方法〕
授業内で書く小ペーパー（複数回実施・出欠席確認をかねる）45%，学外でのボランティア活動　10%，試験　45%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
交通機関による遅延も含め，時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので，気をつけてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　開発　vs　発展
第２週　開発途上国（１）
第３週　貧困
第４週　開発理論の流れ（１）
第５週　開発理論の流れ（２）
第６週　開発途上国と教育
第７週　開発途上国と保健
第８週　開発援助の様々な担い手
第９週　国際協力の意義（１）
第10週　国際協力の意義（２）
第11週　日本から学ぶこと
第12週　課題と展望
第13週　映像紹介
第14週　まとめ
第15週　理解度の確認

国際開発論II

3622003400100

副　題								担　当　者	横田　香穂梨　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	INR-213-IC

〔授業の到達目標〕

学生が，国際開発の歴史を知り，現在の国際開発の潮流の背景を理解できるようになること。
学生が，国際開発における可能性と課題を理解できるようになること。
学生が，国際開発における具体的なトピックについて，自ら考察できるようになること。

〔授業の内容〕

講義の前半では，国際開発の歴史を辿ることにより，今日の国際開発にみられる潮流とその背景を探る。後半では，国際開発の具体的事例を，1)子どもや女性，障害者など社会的弱者に対する援助，2)感染症対策や水，食料や環境問題への取り組み，の２点に注目して取り上げ，議論する。先進国と開発途上国との間の格差のみならず，日本も含めた先進諸国国内においても格差の拡大がみられる今，国際開発の役割と意義が改めて問われている。グローバルな諸問題に国際開発がどのように取り組んできたのかを批判的に検討することにより，今後の展望についても考えたい。

〔教材〕

教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考文献を適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予備知識は必要としないが，普段から国際開発に関連したニュースに関心を持って触れておくことが，講義内容を理解する上で助けになる。復習としては，講義時に示したキーワードについての理解を確認した上で，参考文献を活用しながら，自分なりの考察を深めるよう心がけてほしい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験50%，授業内小テスト（１回の予定）20%，リアクションペーパー30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に随時受け付ける。それ以外の時間は,学科事務室を通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　国際開発と日本
第３週　国際開発の歴史（１）貧困の把握とその処方箋をめぐって
第４週　国際開発の歴史（２）国際人権システム
第５週　国際開発の歴史（３）アクターの変容
第６週　国際開発の歴史（４）MDGs（ミレニアム開発目標）からSDGs（持続可能な開発目標）へ
第７週　まとめと理解度の確認
第８週　女子教育
第９週　児童労働
第10週　障害と開発
第11週　環境問題
第12週　感染症対策
第13週　水
第14週　食料安全保障
第15週　まとめ
受講生の人数や関心，理解度に応じて，計画が変更される場合がある。

経営学II

3622005400100

副　題	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ	担　当　者	金城　亜紀　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	MAN-214-IC

〔授業の到達目標〕

1．経営学の全体像とポイントを理解し，基礎的な知識を体系的に取得すること。
2．自信をもって人前で経営学に関する自分の意見を表明し，建設的な議論ができるようになること。
3．授業で学んだ内容を応用し，論理的かつ明晰な文章が書けるようになること。

〔授業の内容〕

・私たちの意思と努力で，組織の長所は伸び，短所も強みに変えられます。経営学は，そのためのツールです。経営学を学ぶことは充実した楽しい人生を送るためにも有益です。
・「会社」を題材に，「戦略」，「組織」，「人材」を軸に，(通年で）合計15の質問と約150のキーワードに分解して経営学を学びます。現実の企業や経済の動きの理解を深められるように，鮮度の良いトピックスを提供し，グローバルな視点も取り入れます。
・本授業は，ディスカッションや発表の機会も多く，ダイナミックに展開します。それは，経営学は実践の学問であり，「自分の頭で考え」，「他者と議論し」，「具体的な行動」につなげることが大切だからです。
・受講するにあたり，経営学に関する事前の知識は不要です。明るく，元気な方を歓迎します。
・秋学期と合わせて通年で完結する予定です。

〔教材〕

教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣，2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版，日本経済新聞出版社，2003年
教科書や参考書と共に，学習支援システム「ムードル」を活用して，補助教材を提供します。宿題やレポートもムードルで配布，提出していただきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１回の授業につき平均して約４時間の学習が必要です。そのための時間が確保できない方，学習意欲の低い方には履修をお勧めしません。

〔成績評価の方法〕

宿題（40%），授業内容の確認テスト（30%），最終レポート（30%）。
学期中に小テストを行う可能性があります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：14：45～15：45（4222研究室）
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔授　業　計　画〕

第１週　なぜ，学習院女子大学で経営学を学ぶのか？
第２週　リーダーシップとは何か？
第３週　会社の経営とは？
第４週　会社になぜ理念が必要なのか？
第５週　ビジョン
第６週　戦略（１）
第７週　戦略（２）
第８週　マーケティング（１）
第９週　マーケティング（２）
第10週　組織論（１）
第11週　組織論（２）
第12週　企業間関係論
第13週　組織形態
第14週　予備日
第15週　理解度の確認

・シラバスの記載内容は，受講生の人数や理解度に応じ，授業をより良くするために変更することがあります。

※マーケティングII

3622005600100

副　題	東南アジアでのマーケティング							担　当　者	田島　博和　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	MAN-215-IC

〔授業の到達目標〕

東南アジアの多様性を踏まえたマーケティングを理解する。

〔授業の内容〕

東南アジア，特にASEANに加盟する10カ国を対象にして，地理・政治・経済・民族・宗教などに関する多様性を紹介した後に，それを踏まえて各地域でのマーケティングについて講義します。春学期に開講する「マーケティングI」の応用編であると同時に，東南アジアに対する理解の出発点となる授業にしていきたいと思っています。

〔教材〕

参考書：川端基夫『アジア市場のコンテキスト【東南アジア編】』新評論，2005年
和田充夫・恩蔵 直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』（有斐閣アルマ）第5版，有斐閣，2016年

一回目の授業で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：前回のノートと資料を見返す。予習：今回の資料を読む。必要な時間：各120分以上。

〔成績評価の方法〕

期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については，一回目の授業で説明します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで連絡して下さい。htajima●tku.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　東南アジアの概況
第２週　マーケティング戦略の体系
第３週　各国のマーケティング環境（１）政治制度・法律
第４週　各国のマーケティング環境（２）経済
第５週　各国のマーケティング環境（３）民族・宗教・文化
第６週　マーケティング環境に基づく市場細分化
第７週　各国でのマーケティング（１）タイ
第８週　各国でのマーケティング（２）ベトナム
第９週　各国でのマーケティング（３）マレーシア・シンガポール
第10週　各国でのマーケティング（４）ミャンマー・ラオス・カンボジア
第11週　各国でのマーケティング（５）フィリピン
第12週　各国でのマーケティング（６）インドネシア
第13週　各国でのマーケティング（７）ブルネイ
第14週　まとめ（１）
第15週　まとめ（２）

金融論

3622005800100

副　題	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	担　当　者	宇野　公子　教授

単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECO-216-IC

〔授業の到達目標〕

外国為替や通貨制度などの国際経済学の基本的知識をもとに，なぜ国際金融が必要で，そこにどのような問題が発生し，なぜ政府が介入するのかを学ぶことで，さまざまな国際経済問題について論理的に考える力を身に付けることである。

〔授業の内容〕

国際経済学の基礎的な理論や現状について考察する。現代の経済はグローバル化の進展により，ヒト，モノ，カネなどが国境を越えて活発に移動する。国際経済学は大きく貿易と国際金融に分けられる。本講義では，経済のグローバル化が進展している中で，外国為替をはじめとして，さまざまな国際金融の問題について考えていきたい。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
　　伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』第3版，日本経済新聞社，2005年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト(70%)，授業中のコメントシート(30%)で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　グローバル化と国際金融
第２週　為替レートの変動―円高と貿易構造・産業構造
第３週　外国為替市場―為替レートの種類，為替リスク
第４週　為替介入―介入の形態，目的，効果
第５週　為替レートの決定―購買力平価，アセットアプローチ
第６週　世界の通貨制度―固定相場制，変動相場制
第７週　IMF体制―IMFの変遷と役割
第８週　国際収支―国際収支表の見方
第９週　経済政策と経常収支―貿易収支の黒字と赤字
第10週　金融・財政政策―国際的な影響
第11週　通貨統合―ユーロ
第12週　国際資本移動―国境を越える資金
第13週　通貨危機―発生の原因と影響
第14週　累積債務―要因と対応
第15週　まとめ

国際経済I

3622006100200

副　題	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ECO-217-IC

〔授業の到達目標〕

国際経済学の２大分野である国際貿易と国際金融について概説する。貿易理論や貿易政策などの国際経済学の基本的知識をもとに，なぜ財・サービス貿易や海外投資が必要になり，それに伴ってどのような問題が発生し，政府が介入するのかを学ぶ。同時に実体経済と表裏一体の関係にある，外国為替や通貨制度などの基本的知識についても学び，国際金融とそれに対する政府の介入について考えることを通じて，様々な国際経済問題について論理的に考える力を身に付けることを目指す。

〔授業の内容〕

国際経済学の基礎的な理論や現状について考察する。現代の経済はグローバル化の進展により，ヒト，モノ，カネなどが国境を越えて活発に移動する。国際経済学は大きく貿易と国際金融に分けられる。日本は外国との取引なしに生活をすることはできない。そこで,本講義では,経済のグローバル化が進展している中で，なぜ貿易が行われているのか，どのような国際金融の課題があるか，等を中心に考えていきたい。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
　　伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』第3版，日本経済新聞社，2005年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト（70%）　授業中の参加・発表（30%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　グローバル経済とは何か
第２週　グローバル化と貿易
第３週　比較優位の理論―リカードの比較生産費説
第４週　〃
第５週　貿易理論の展開―ヘクシャーオリーンの理論
第６週　産業内貿易―同一産業の輸出入
第７週　貿易と政府―貿易に介入する政府
第８週　貿易政策の展開―国内生産への影響
第９週　グローバル化と国際金融
第10週　為替レートの変動―円高と貿易構造・産業構造
第11週　外国為替市場―為替レートの種類，為替リスク
第12週　為替介入―介入の形態，目的，効果
第13週　為替レートの決定―購買力平価，アセットアプローチ
第14週　世界の通貨制度―固定相場制，変動相場制
第15週　まとめ

国際経済II

3622006200200

副　題	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	担　当　者	宇野　公子　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ECO-218-IC

〔授業の到達目標〕

国際経済学の２大分野である国際貿易と国際金融について概説する。貿易理論や貿易政策などの国際経済学の基本的知識をもとに，なぜ財・サービス貿易や海外投資が必要になり，それに伴ってどのような問題が発生し，政府が介入するのかを学ぶ。同時に実体経済と表裏一体の関係にある，外国為替や通貨制度などの基本的知識についても学び，国際金融とそれに対する政府の介入について考えることを通じて，様々な国際経済問題について論理的に考える力を身に付けることを目指す。

〔授業の内容〕

国際経済学の基礎的な理論や現状について考察する。現代の経済はグローバル化の進展により，ヒト，モノ，カネなどが国境を越えて活発に移動する。国際経済学は大きく国際貿易と国際金融に分けられる。本講義では，経済のグローバル化が進展している中で，さまざまな国際貿易・金融の問題について，IMF,

WTO等の国際機関の活動を中心に考えていきたい。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
　　伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』第3版，日本経済新聞社，2005年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト（70%）　授業中の参加・発表（30%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　国際貿易体制―GATT・WTOの変遷と役割
第２週　貿易摩擦―日米貿易摩擦
第３週　アジアの経済発展―輸出志向工業化
第４週　貿易と産業構造の調整―衰退産業の問題
第５週　直接投資―企業の海外進出
第６週　グローバル化と企業―企業の国際的事業展開
第７週　経済統合―FTA・EPA
第８週　IMF体制―IMFの変遷と役割
第９週　経済政策と経常収支―貿易収支の黒字と赤字
第10週　金融・財政政策―国際的な影響
第11週　通貨統合―ユーロ
第12週　国際資本移動―国境を越える資金
第13週　通貨危機―発生の原因と影響
第14週　累積債務―要因と対応
第15週　まとめ

マスコミュニケーション論II（理論）

3625000600100

副　題	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	担　当　者	蔡　星慧　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SOC-219-IC

〔授業の到達目標〕

前期の授業と連続し，コミュニケーション理論，メディアと社会，メディアと文化を中心に事例を挙げながらメディアと私たちの相互関係に対する理解を深める機会にしていきたい。

〔授業の内容〕

本講ではメディアが生み出してきた様々な文化現象を事例にコミュニケーション力としてのメディアに注目してみる。加えて私たち受け手が現代社会を生きる上で，メディアをいかに有効に活用するか，送り手と受け手のインタラクティブ性について批判的に考えてみる。

〔教材〕

特に指定しません。毎回レジュメと資料を配付し，その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み，調べる課題などがあります。所用時間は１時間～３時間未満です。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），リアクションペーパー（10%），レポート（30%），期末定期試験（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-Mail:chekadai●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　マス・コミュニケーションの基礎概念
第２週　メディアとコミュニケーション
第３週　コミュニケーションとは
第４週　マス・コミュニケーション効果研究理論－初期理論
第５週　マス・コミュニケーション効果研究理論－後期理論
第６週　文化とコミュニケーション
第７週　カルチュラルスターディーズからみる事例
第８週　メディアと流行
第９週　皇室イメージの戦前と戦後
第10週　テレビの文化
第11週　80年代の文化
第12週　若者の文化
第13週　クールジャパン，日本の文化コミュニケーションを知る
第14週　メディア社会とコミュニケーション力
第15週　まとめ

授業では学生との議論など，学生の積極的な授業参加を重視します。シラバスは授業内容に反映するメディアの最新動向の言及や議論によって，多少進行を変えることもあります。

マスコミュニケーション論III（広告・ＰＲ）

3625000700100

副　題	広告やPRの役割を理解する							担　当　者	中馬　淳　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	SOC-220-IC

〔授業の到達目標〕

広告やPRに関心を持ち，その意味するところを理解すること。メディアのコンテンツや広告として発信される企業・団体等のメッセージを受け取るリテラシーを獲得すること。

〔授業の内容〕

この授業では，広告やPRについて，基本的な考え方や役割を実例を交えて解説します。

両者はアプローチこそ違えども,「人を説得する」というメカニズムは同じです。人がコマーシャルに引き付けられたり，お気に入りの店ができるのは，どうしてなのでしょうか。あるいは,「この企業に就職したい」という気持ちはどこから生まれてくるのでしょうか。

特に近年では，デジタルメディアやソーシャルメディアの台頭で，マスメディアを使った広告やPRが主流だった時代とは少し違った様相を見せ始めています。そうした状況を交えながら,「人を動かす」コミュニケーションのメカニズムについて考えていきたいと思います。

受講者にはディスカッションやレポートの作成などが課せられるなど，能動的な参加を求めていきますので，よろしくお願いします。

〔教材〕

教科書は特に使用しません。参考書は適宜ご案内します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介する広告やPRに関して，実際にメディアで触れ，考える時間をとってもらうことが最も重要になる。また，期間中に何度かレポートの作成が課せられる（各回４時間程度を想定）。

〔成績評価の方法〕

期末試験（約70%），レポートの提出と質（約30%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション～広告とPRの現在
第２週　コンセプト・ターゲットの設定
第３週　広告表現の考え方
第４週　メディアプランニング
第５週　デジタルメディアと広告
第６週　統合コミュニケーション
第７週　戦略PRとパブリシティ
第８週　ブランドとは何か
第９週　コーポレート・コミュニケーション：企業のイメージをどう高めていくか
第10週　クライシス・コミュニケーション：企業の危機にどう対処するか
第11週　ソーシャル・コミュニケーション：企業は社会とどう向き合っていくか
第12週　広告やPRにまつわる仕事
第13週　まとめ
第14週　〃
第15週　〃
進行状況により，上記計画は一部変更することがあります。

☆比較教育学

3625001000100

副　題								担　当　者	大桃　敏行　教授		
単位	2	配当年次	3〜	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	EDU-321-IC

〔授業の到達目標〕

共通教育の保障と多様性，教育の平等保障，参加型学校改革と選択型学校改革など，教育制度研究における基本的事項を習得し，日米比較の観点から理解を深める。

〔授業の内容〕

第二次世界大戦後の改革において，そして今日の改革にあっても，アメリカの教育は日本の教育に強い影響を与えてきた。本授業では，まず比較教育学の性格の検討から始め，次に国際的な数値から日本の教育の特徴を説明する。それにもとづき，日米比較を中心に教育制度の基本的事項について考察する。また，中間レポートについて討議を行い，それぞれの関心領域に関する理解を深める。

〔教材〕

教科書は使用しない。授業で用いる文献はプリントして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて 4 時間程度。

〔成績評価の方法〕

中間レポート（40%）と最終試験（60%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日 2 時限及び随時。
連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　比較教育学のとらえ方
第 2 週　国際数値でみる日本の教育
第 3 週　公教育制度の形成と宗教的多様性
第 4 週　公教育制度の形成と人種的民族的多様性
第 5 週　公教育制度の形成と教育の地方自治
第 6 週　教育の機会の平等保障のとらえ方
第 7 週　教育の平等保障と成果主義
第 8 週　規制緩和と学校の多様化
第 9 週　中間レポートの作成に向けた検討
第10週　中間レポートについての検討
第11週　参加型学校改革
第12週　選択型学校改革
第13週　学校に通わせない自由
第14週　教員の養成や評価への成果主義の浸透
第15週　全体のまとめ

比較政治学I

3625001300100

副　題	比較宗教と政治							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	POL-222-IC

〔授業の到達目標〕

世界の主要宗教の教義と宗教史の学習。

〔授業の内容〕

比較政治学１では，本年度全体のテーマを探究していく基礎として，世界における主要宗教の教義と歴史を詳しくレクチャーしていく予定である。具体的には，キリスト教，ユダヤ教，イスラム教，仏教，儒教，そして日本の神道の教義，またそれぞれの宗教史となる。そのうえで，現代における宗教対立と政治の問題点を講義していく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年

授業中比較政治学と宗教史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業関連のプリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

sugi-y●mvb.biglobe.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　比較政治学の基礎理論（１）
第３週　比較政治学の基礎理論（２）
第４週　キリスト教（１）
第５週　キリスト教（２）
第６週　ユダヤ教
第７週　イスラム教
第８週　仏教
第９週　儒教
第10週　神道
第11週　キリスト教文明史
第12週　アメリカにおけるキリスト教
第13週　世界の宗教対立の歴史
第14週　現代の宗教対立
第15週　宗教と政治

小テストと期末レポートは，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

比較政治学II

3625001400100

副　題	宗教対立と政治							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	POL-223-IC

〔授業の到達目標〕

宗教と政治の関連に関する基礎知識の習得。

〔授業の内容〕

秋学期の本講座では，比較政治学１における世界の主要宗教の基礎的な教義を簡単に復習しつ，世界各地域の歴史的な宗教対立と政治の問題を概観していく。とくに日本における政教分離と政治の問題を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年

授業中比較政治学と宗教史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

sugi-y●mvb.biglobe.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　アジアとキリスト教
第３週　アジアへのキリスト教文明の到来
第４週　日本へのキリスト教文明の到来と対立
第５週　日本における儒教
第６週　日本における儒教と政治
第７週　日本における政教分離
第８週　近代日本の宗教と政治（１）
第９週　近代日本の宗教と政治（２）
第10週　日本人の宗教観
第11週　日本人の宗教への無関心
第12週　宗教国家アメリカ
第13週　無宗教国家中国
第14週　宗教と政治的対立
第15週　日本の文明史的特異性

小テストと期末レポート，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

国際政治I（歴史と現状）

3622004100100

副　題	国際政治の歴史と現状									担　当　者	畠山 圭一　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	POL-224-IC

〔授業の到達目標〕
20世紀の国際政治の歴史と基礎理論および今日の課題を理解する。

〔授業の内容〕
21世紀の国際政治を展望するための前提として，20世紀が人類に残した様々な国際政治上の教訓を探るのが本講義の目的である。20世紀という時代はそれまでのあらゆる価値観が挑戦を受け，政治，経済，社会について考えうるほとんどすべての理論と制度が実験され，その可能性が極限まで試された時代だった。しかも，その影響が全世界規模であらゆる社会階層にまで波及し，世界戦争，革命，大恐慌が価値観，秩序，生活環境の激変をもたらした時代でもあった。本講義では，20世紀の世界，人類に大きな影響を与えてきた社会思想，政治思想，国際政治理論とその具体的な展開の歴史を取り上げ，20世紀の国際政治並びに20世紀という時代の特殊性について考察を行う。

〔教材〕
教科書：ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィド・A・ウェルチ『国際紛争(原書第10版)理論と歴史』有斐閣，2013年
国際政治の歴史と理論に関するオーソドックスな必携テキスト。授業内でしばしば使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義１時間あたり受講生が２時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当個所を読んで授業に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
定期試験（６割）とリポート（４割）の点数を合算して評価し，６割以上を合格とする。基礎知識の習得状況をもっとも重視するが，国際政治の各事象に関する分析・解釈の深さも加味しながら評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
予習内容，授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお３回連続欠席，計４回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。授業開始後15分以降の遅刻は欠席とみなす。無断退出は認めないので，やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入・国際政治の常識（リアリズムとリベラリズム，国際政治と倫理・モラル）
第２週　歴史　１．20世紀における大規模紛争の起源（国際システム，多様な紛争要因）
第３週　歴史　２．勢力均衡と第１次世界大戦（勢力均衡，第１次世界大戦の起源）
第４週　歴史　３．集団安全保障の失敗と第２次世界大戦（集団安全保障，第２次世界大戦の起源）
第５週　歴史　４．冷戦の起源（抑止と封じ込め，冷戦に関する３つの解釈，ルーズベルトの政策，スターリンの政策）
第６週　歴史　５．冷戦の進展（冷戦の軌跡，３つの分析レベル，米ソの戦略目的，封じ込め）
第７週　歴史　６．冷戦の終結（緊張緩和の過程，冷戦終結）
第８週　歴史　７．冷戦の教訓―核兵器の役割(物理学と政治,恐怖の均衡,核抑止の問題,キューバ危機)
第９週　中間的まとめ
第10週　現状　１．国家主権と介入
第11週　現状　２．国際法と国際機構
第12週　現状　３．地域紛争
第13週　現状　４．相互依存とパワー
第14週　現状　５．新世界秩序―国民国家と国際紛争の将来
第15週　総括

国際政治II（日本の使命）

3622004200100

副　題	近代日本政治外交史							担　当　者	齋藤 洋子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	POL-225-IC

〔授業の到達目標〕
近代日本の主要な外交政策について学び，現代の日本が抱える外交問題を歴史的な背景を踏まえて理解できるようになる。

〔授業の内容〕
本講義では，幕末から第二次世界大戦後にいたる日本の外交政策を概観し，近代日本が直面した問題，選択した政策を客観的に考察する。当該期は国際社会における日本の地位が激変した時代であり，政府要路者は難しい判断が迫られた。国内世論，国際社会の動向などを踏まえつつ，近代日本のリーダーたちは，どのような判断を下し政策を決定していったのか，その過程を再考する。
また，現在日本が直面している外交問題についても，授業との関連の中で適宜解説，分析していく。

〔教材〕
参考書：井上寿一『日本外交史講義』岩波書店，2003年
佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む近代日本外交史：大久保利通から広田弘毅まで』吉川弘文館，2009年
佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む現代日本外交史：近衛文麿から小泉純一郎まで』吉川弘文館，2008年
I.ニッシュ 著；宮本盛太郎 監訳『日本の外交政策：1869-1942 霞が関から三宅坂へ』ミネルヴァ書房，1994年
関静雄『近代日本外交思想史入門』ミネルヴァ書房，1999年
その他授業中適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：毎回の授業に関する歴史的流れを参考書などで確認しておくこと。
復習：授業中紹介した参考文献などを読み理解を深めること。

〔成績評価の方法〕
レポート　50%
期末試験　50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
近代史の基本的な流れは理解しているものとして授業を進めます。高校で日本史を選択しなかった場合などは，解説書や参考書で大まかな流れを掴んでおいて下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス／ペリー来航の衝撃
第２週　開国後の対外危機―薩英戦争，下関戦争，外国人殺傷事件―
第３週　岩倉使節団の見た世界
第４週　マリア・ルス号事件
第５週　条約改正交渉（１）
第６週　条約改正交渉（２）／大津事件
第７週　初期議会と日清戦争
第８週　日英同盟の成立と日露戦争
第９週　日韓併合と日本の大陸政策
第10週　第一次世界大戦と日本
第11週　ワシントン体制と協調外交
第12週　満州国樹立と国際連盟脱退
第13週　アジア新秩序と日米交渉
第14週　占領下の日本
第15週　講和条約と日米安保条約

国際政治III（構造変化）

3625003100100

副　題	国際関係の構造変化と21世紀の課題							担　当　者	加藤　朗　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-326-IC

〔授業の到達目標〕
国際構造の変化の動態を歴史的に分析し，国際構造の変化がもたらす影響とその原因を探る知識や分析力を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕
今日の国際構造は，冷戦時代における米・ソという二つの超大国による安定的な「二極」構造とも，ポスト冷戦時代における超大国アメリカと欧・日・露・中などの複数の強国による不透明ながらも協調的だった「一超多強」構造とも異なっている。それは,「グローバル化の進展」「非国家主体の興隆」「主要国における大国意識の高まり」「文明間競争の予兆」などが複合的に作用し，大国間の激しい覇権競争と，国際テロリズムや大量破壊兵器拡散による既存秩序への様々な挑戦が展開する，流動的で，かつ競争・対立的なものとなっている。こうした動乱の時代を経て，やがて新たな国際秩序が生まれ，再び人類は国際的な安定と繁栄を享受することとなろう。だが，そうした安定期に至るまでの過渡期は逆に破滅的な結果をもたらすこともある。20世紀の例を見ても人類は２度にわたる世界大戦を体験している。それゆえ，国際構造の変化の動態を分析し，国際構造の変化がもたらす影響を探ることは，わが国の外交・安全保障政策や国際貢献を考える上からも，国際社会の平和と安定と秩序を形成する上からも極めて重要な前提作業である。本授業では，冷戦終結以降の国際構造の変化とその影響について考察するとともに，我が国の国際政治上の課題を明らかにする。

〔教材〕
教科書：ジョセフ・S.ナイ ジュニア (著), デイヴィッド・A. ウェルチ (著), 田中 明彦 (翻訳), 村田 晃嗣 (翻訳)『国際紛争』原書第９版，有斐閣，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。ディスカッションを通通して，思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
リアクション・ペーパー（30%）と授業内レポートの点数（70%）を合算して６割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
akira●obirin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕
この授業は国際政治の応用編である。ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので，教科書を活用して，予習・復習を充分に行って授業に臨んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―国際構造の変化とは何か
国際構造の変化とは何かについて概説する
第２週　国際構造と国際紛争
国際構造を変化させる国際紛争の要因について概説する。
第３週　国際構造の変化の理論
国際構造分析に必要なバランス・オブ・パワーについて概説する。
第４週　第一次世界大戦の起源
国際構造を根底から崩壊させた第一次世界大戦がなぜ勃発したのか概説する。
第５週　集団安全保障の興亡
第１次世界大戦後に設立された国際連盟の興亡について概説する。
第６週　第二次世界大戦の起源
なぜ20年で再び世界大戦が起きたのか，ヒトラーの政策を中心に概説する。
第７週　冷戦構造の形成
なぜ米ソ対立の冷戦構造が形成されたか，ローズベルト，スターリンの政策を軸に概説する。
第８週　核兵器の役割
冷戦構造の形成にあたって核兵器が果たした役割について概説する。
第９週　冷戦の進展
冷戦がどのように進展していったか，デタントや第２次冷戦等について概説する。
第10週　地域紛争の拡大
冷戦期には米ソ代理の地域紛争が多発したが，中でも国際構造に大きな影響を与えてきた中東地域の紛争について概説する。
第11週　冷戦の終結
冷戦がどのように終結し，国際構造に変動をもたらしたかを概説する。
第12週　グローバリゼーションと相互依存
グローバリゼーション，相互依存とは何か，それらの進展が，どのように国際構造を変動させたか概説する。
第13週　情報革命，脱国家的主体とパワーの分散
冷戦後の国際構造を変革してきた要因は何かについて概説する。
第14週　世界武力社会紛争と国際構造
破綻国家の内戦や世界的に拡散するテロが国際構造にどのような影響をあたえるかを概説する。
第15週　結論－世界秩序の課題
現在の国際構造が抱える課題について概説する。

国際政治Ⅳ（国際戦略）

3625003200100

副　題	国際戦略の理論と政策							担　当　者	加藤　朗　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-327-IC

〔授業の到達目標〕

戦略とは何かを理解した上で，最後に日本はどのような国家戦略，安全保障戦略を取るべきかを検討する。

〔授業の内容〕

本講義では，戦略理論を用いながら，21世紀の国際社会を展望し，最終的には，日本が取りうる対外政策・安全保障政策上の選択肢を検討する。国家戦略とは，ある国家目標の達成のために自らの能力と資源をいか　に効果的に用いるかをめぐる理論・技術であり，日本が国際貢献を果たし，あるいは国家･国民の安全と繁栄を確実にするための基本指針となるものである。しかしながら，戦略の策定はさまざまな偏見や誤解や希望的観測など反映されやすく，かつ断片的・不正確な情報・知識に基づくものともなりやすい。そのため，　戦略策定に当たっては，人類が長い歴史を通じて見出してきた経験則に基づく客観性を伴った英知の集積である戦略理論や戦略思想を学ぶことが絶対的に必要と　なる。また主要国の指導者たちがどのような発想を持って国際政治を展開しているかを理解する上でも有用である。そうした戦略論の基礎理論や代表的思想を紹介・解説しながら，21世紀の日本の国家戦略について考えていきたい。

〔教材〕

参考書：石津朋之・永末聡・塚本勝也編著『戦略原論』初版，日本経済新聞社，2010年
石津朋之 (監修), ジョン ベイリス (編集), ジェームズ ウィルツ (編集), コリン グレイ (編集)『戦略論』初版，勁草書房，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ディスカッションを中心に進めるので，予習による事前準備(2～３時間が基準)が重要となる。参考文献の指定箇所を熟読の上，自らの課題を明らかとして講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕

リアクション・ペーパー（30%）と授業内レポート（70%）の点数を合算して６割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

akira●obirin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので，参考書を活用して，予習・復習を充分に行って授業に臨んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―戦略とは何か：戦略の概念について概観し，国家戦略とは何かを考える。
第２週　戦争の原因：国家にとって最大の戦略は戦争の回避である。戦争はなぜ起きるのか，戦略の起点となる戦争の原因について考察する。
第３週　近代の戦略思想（１）総力戦戦略：国家が総力を結集した第１次世界大戦で欧米各国がどのような総力戦戦略を採ったかを分析し，総力戦戦略の失敗について考察する。
第４週　近代の戦略思想（１）総力戦戦略：第２次世界大戦で日本は総力戦戦略の下国家総動員体制で戦争に臨んだ。しかし，結果は惨憺たる敗戦であった。一体いどこが間違っていたのだろうか。日本の総力戦戦略の失敗の本質を探る。
第５週　非対称戦の戦略：第２次世界大戦後は内戦やゲリラ戦，そして9.11以降は対テロ戦争のような紛争主体が国家と非国家のような非対称な武力紛争が猖獗を極めている。このような非対称戦にどのような戦略が採られているかを検討する。
第６週　人間の安全保障戦略：冷戦終焉後，国家の安全保障戦略に対抗して人間本位の人間の安全保障の概念が広がってきた。では具体的にどのように人間の安全保障が実践されているのか，その戦略の実態を明らかにする。
第７週　民主主義による平和戦略：「民主主義国家は戦争をしない」というテーゼははたして正しいか。正しいとするなら，非民主国家を民主化するための戦争は許されるか。イラク戦争にも通底する民主主義の平和戦略をあらためて検討する。
第８週　人道的武力介入戦略：ルワンダの大虐殺を見過ごした反省から国際社会はコソボ紛争で虐殺を予防する目的で武力を行使した。人を救うために人を殺傷するという矛盾を孕んだ人道的武力介入とは何だろうか。
第９週　軍備管理戦略：核兵器，化学兵器等の大量破壊兵器だけでなく，通常兵器や兵器に使用される資機材や原料，技術を管理することで国際社会は戦争を抑制する努力を続けてきた。その歴史的変遷や現状を検証する。
第10週　技術戦略:国力の基礎には技術力がある。大英帝国，ドイツ，ソ連そしてアメリカなど，大国といわれる国家は必ず技術大国とりわけ軍事技術大国であった。軍事技術とは何か，どのような戦略が構築されてきたかを検証する。
第11週　文化戦略：国力には軍事・経済のハードパワーと文化のソフトパワーがある。21世紀の今日軍事戦略だけでなく。ソフトパワーの文化に基づく戦略も国家戦略の重要な要素となっている。文化戦略とは何かを検証する。
第12週　国際法の戦略：中国は「三戦」の一つとして，「法律戦」を掲げている。国際法や国内法を駆使して国益を追求する戦略は中国だけでなく各国とも重要な国家戦略の一つである。その戦略の実態を考察する。
第13週　日本の国家安全保障戦略：第二次世界大戦後の日本の国家戦略を冷戦時代の吉田ドクトリンや現在の安倍ドクトリンを参考に検証する。
第14週　日本の防衛戦略：日本の防衛戦略の歴史と現状を日米同盟を軸に検証する。,
第15週　21世紀の日本の国家戦略：これまでの戦略を参考に，将来に向けた日本の国家戦略についてみんなで討議する。

ヨーロッパ政治史I

3625004100100

副　題	人種主義の歴史							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-328-IC

〔授業の到達目標〕

人種主義（レイシズム）とは何か，その歴史的起源，展開，現在への影響について理解する。

〔授業の内容〕

現代の世界は，人種や民族による分断が著しい。西欧社会における人種主義（レイシズム）の起源，その展開，これが20世紀にもたらした負の遺産，そして現代の社会における人主義の発露のあり方について考える。

〔教材〕

参考書：G.M.フレドリクソン『人種主義の歴史』みすず書房，2009年
ルース・ベネディクト『人種主義　その批判的考察』名古屋大学出版会，1997年
竹沢・斎藤・板野・川島『人種神話を解体する（1）～（3）』東京大学出版会，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自が読書に必要な時間。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度：期末試験もしくはレポート＝50：50。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜
授業前後に申し出ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　導入：人種とは何か
第2週　近代以前に人種は存在したか
第3週　西洋の拡張と「人種」の発見
第4週　近代の科学と人種主義
第5週　反ユダヤ主義
第6週　人種国家としてのナチズム
第7週　関連する映画鑑賞
第8週　アメリカと人種主義
第9週　ジェンダーの問題としての人種（1）
第10週　ジェンダーの問題としての人種（2）
第11週　人種と映画
第12週　人種とスポーツ：「肉体」の神話
第13週　現代の人種主義：ヘイトクライム，ヘイトスピーチ
第14週　現代の人種主義：見えざる人種主義
第15週　理解度の確認

ヨーロッパ政治史II

3625004200100

副　題	強制移住とジェノサイド							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3〜	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-329-IC

〔授業の到達目標〕

19/20世紀を，強制的な人の移動と，それに伴い発生したジェノサイドという観点から理解する。

〔授業の内容〕

近代から現代にかけては世界的な規模で国境線の移動があり，人の強制的な移動がなされた時代である。これは民族的に均質な国家を樹立するという試みと表裏一体の関係にある。20世紀のヨーロッパと，ヨーロッパの勢力が及んだ地域（中東・アフリカ）を中心として，住民交換，強制移動，ジェノサイドの事例を学び，連綿と続く暴力の歴史について考える。

〔教材〕

参考書：ノーマン・ネイマーク『スターリンのジェノサイド』みすず書房，2012年
石田勇治・竹内進一編『ジェノサイドと現代世界』勉誠出版，2010年
ノーマン・ナイマーク『民族浄化のヨーロッパ史：憎しみの連鎖の20世紀』刀水書房，2014年

授業でプリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度：試験（もしくはレポート）＝50：50。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加態度に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：概念の説明
第２週　先住民の殺害
第３週　最初のジェノサイド？ドイツ西南アフリカ
第４週　トルコとギリシアの住民交換
第５週　アルメニア・ジェノサイド
第６週　特別授業
第７週　スターリンの強制移住（１）
第８週　スターリンの強制移住（２）
第９週　ナチズム（１）「民族ドイツ人」の移住
第10週　ナチズム（２）スラブ人のジェノサイド
第11週　ドイツ人の追放
第12週　パレスチナ人の追放
第13週　関連する映画鑑賞
第14週　ジェノサイドのアクター
第15週　理解度の確認
計画通りにいかないこともあります。

アメリカ文化論I

3623001100100

副　題	米大統領とアメリカの政治・外交・社会							担　当　者	明石　和康　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	POL-201-ID

〔授業の到達目標〕

米大統領の変遷を軸としてアメリカ政治の制度や思想について基礎的な知識を養いつつ，アメリカ国民がアメリカの国内状況と対外関係の変化をどうとらえ，大統領に対する国民の要望と期待が時代ごとにどのように変わっていったのかを理解できるようにする。特に，アメリカという国が独立から240年ほどの間にどう変化してきたのかを政治，外交，社会の各面から把握し，現在のアメリカが抱える問題を分析できるようにする。

〔授業の内容〕

最初に米大統領選の制度と仕組みを説明する。なぜ特殊な選挙人制度ができたのかや，州権が強い理由など。次に，大統領選挙と大統領の歴史をたどる。時期的には，独立戦争から南北戦争まで，繁栄の時代から20世紀前半の大恐慌，そして，第二次大戦後の冷戦，唯一の超大国時代，オバマ，トランプ時代までをたどる。特に，外交の変遷に力点を置く。講師の通信社記者としてのワシントン駐在経験を生かし，ジャーナリストの目で見た具体性のあるアメリカ論を展開する。

〔教材〕

教科書：明石和康『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店（ジュニア新書），２０１２年

参考書は，授業の進行に合わせて適宜紹介する。アメリカの政治・外交に関する文献は多数あるので，各自関心に合わせて自主的に文献に当たること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間

〔成績評価の方法〕

試験はしない。出席と講義への参加を重視する。平常点（30%），理解度の確認（30%），レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に連絡方法を案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の説明，スケジュール
第２週　アメリカ大統領と選挙制度
第３週　アメリカ独立からモンロー宣言まで
第４週　南北戦争から20世紀初頭の資本主義発展期まで：リンカーンの指導力
第５週　大恐慌と第二次世界大戦：F･ルーズベルトのニューディール政策
第６週　冷静体制の構築：トルーマン，アイゼンハワー
第７週　公民権運動と宇宙開発―ケネディ，ジョンソン
第８週　ベトナム戦争―ジョンソン，ニクソン
第９週　理解度の確認
第10週　大統領の失墜：ウォーターゲート事件，カーター
第11週　保守主義の時代と冷戦終結：レーガン，ブッシュSr.
第12週　超大国の繁栄と挫折：クリントン，ブッシュJr.
第13週　アメリカ社会の変貌：オバマの時代
第14週　2016年大統領選とトランプ政権
第15週　まとめ
理解度の確認も含めて，進行が多少前後することがある。

アメリカ文化論II

3623001200100

副　題	文化、社会、政治、外交							担　当　者	石澤　靖治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-202-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカ社会と文化における，象徴的なテーマについての理解を深めることを目標とする。また日本との比較も加えることによって,アメリカ社会と文化の特色を明確に認識することで,異文化理解を深める。

〔授業の内容〕

扱う分野は，合衆国憲法修正第１条とメディア・世論形成，アメリカ社会の多様性の象徴である移民と人種・マイノリティ，宗教，アメリカ例外主義，合衆国憲法修正第２条と銃規制，ソフトパワー，最終的にそれらを日本との比較の中で検討していく。

〔教材〕

教科書：五十嵐武・古矢旬、松本礼二『『アメリカの社会と政治』』（有斐閣ブックス）有斐閣，2005年
久保文明他『『アメリカ政治』』（有斐閣アルマ）有斐閣,，2007年
参考書：有賀夏紀『『アメリカの20世紀（上・下）』』中央公論新社，2002年
他に随時支持する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間

〔成績評価の方法〕

期末試験：50%，内容の理解度確認：30%，授業中のコメント提出等：20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日　12：30～13：00
emailによる

〔授　業　計　画〕

第１週　合衆国憲法修正第１条：メディアとアメリカ
第２週　新聞とアメリカ社会・世論形成
第３週　テレビ・インターネットとアメリカ社会・世論形成
第４週　選挙とメディア
第５週　移民・マイノリティ（黒人・ヒスパニック・アジア系）とアメリカ
第６週　移民・マイノリティ（ヒスパニック系・アジア系）とアメリカ
第７週　女性とアメリカ
第８週　宗教（キリスト教）とアメリカ
第９週　宗教（イスラム教）とアメリカ
第10週　アメリカの民主主義とアメリカ例外主義：American exceptionalism
第11週　合衆国憲法修正第２条と銃規制
第12週　政治的公正をめぐる問題（political correctness）
第13週　アメリカとソフトパワー
第14週　社会制度からの日米比較
第15週　文化からの日米比較
学期の中ごろに「理解度の確認」を行う。順番や内容が変わることがある。その際は初回の授業で提示する。外交問題を扱いことがある。

イスラム文化論II

3623003200100

副　題								担　当　者	高尾　賢一郎　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ARE-203-ID

〔授業の到達目標〕

イスラム社会（イスラム教が根付いた社会）における統一性と，地域毎の多様性を知る。教義としてのイスラム教と現実のイスラム社会がどう違うか，またなぜ違うかについて考察できるようになる。現実のイスラム社会で見られる諸問題について，その背景や特徴を説明できるようになる。

〔授業の内容〕

イスラム教が社会に根付くとはどういうことかについて説明する。イスラム社会がイスラム社会であるための要素として何があるのかについて説明する。近代国家及び社会におけるイスラム教の位置付けについて，それに伴う諸問題を事例にして説明する。

〔教材〕

教科書は使用せず，授業では適宜プリントを配布する。また各回ごとに参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初回以降，次回授業で使用するプリントと参考書の重要箇所のコピーなどを配布する。授業にあたりこれらを２時間程度かけて熟読しておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（40%），中間レポート（１回，30%），毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（30%）の３つを総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，初回授業で指示するメールアドレスを通して，授業後に教室にて，あるいは学科事務室を通じて受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：世界の中のイスラム
第２週　イスラム社会の生活（１）：儀礼
第３週　イスラム社会の生活（２）：教育
第４週　イスラム社会の生活（３）：ジェンダー
第５週　イスラム社会の宗教権威（１）：スンナ派の場合
第６週　イスラム社会の宗教権威（２）：シーア派の場合
第７週　イスラム社会の民間信仰（１）：様々な「聖者」
第８週　イスラム社会の民間信仰（２）：スーフィー教団
第９週　イスラム社会の取り締まり（１）：勧善懲悪
第10週　イスラム社会の取り締まり（２）：宗教警察
第11週　イスラム社会の政治運動（１）：イスラム主義
第12週　イスラム社会の政治運動（２）：ムスリム同胞団
第13週　イスラム社会と過激主義（１）：問題の背景
第14週　イスラム社会と過激主義（２）：問題の所在
第15週　まとめ
理解度に鑑みた進捗状況を考慮して，授業内容を変更する場合がある。

☆イギリス文化論I

3626000100100

副　題	英国史概観（古代ローマ～近代）							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ARE-204-ID

〔授業の到達目標〕

古代から近代に至る英国の歴史を概観しつつ，英国という国家形成のプロセスを社会的および言語的視点から考察する。これらの概念がおよそ理解され，試験において与えられた質問に適切に答えられるよう毎回の授業内容をまとめておくこと。

〔授業の内容〕

ヨーロッパの西のはずれに位置するイギリスは今から約500年前までは日本同様，小さな島国にすぎず，耐えず大陸の列強の国々の脅威にさらされてきたが，同時に独自の文化を築いてきた。そしてイギリスの母国語は，いまや「ひとつの国の言葉Englsih」から「世界中のEnglishes」へと広まり，世界の共通語の地位を占めるまでに至った。この授業ではその小さな国が大きな力を得るに至った過程を概観しつつ，イギリスの文化とは何かを考えるきっかけとしたい。

〔教材〕

教科書：古庄　信『英語史とともに観るイギリス文化論I』初版，コーエー印刷，2017年
参考書：出口保夫他『21世紀イギリス文化を知る事典』東京書籍，2009年
　　木下卓他『イギリス文化55のキーワード』ミネルヴァ書房，2009年
　　指　昭博『イギリスの歴史』河出書房新社，2002年

毎回の授業でプリントを配布する。テキストは上記のものを初回の授業で購入してもらう。履修希望者は上記のテキスト，参考文献を必読の上，授業に臨んでもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

上記の参考書・テキストなどを読み，毎回の講義内容について予め２～3時間の予習をしておくことが望ましい。

〔成績評価の方法〕

授業終了時に記入するワークシート(30%)，学期末試験(70%)をもって評価する。ワークシートの評価については欠席・遅刻・授業態度等も含まれる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限
国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして希望の日時を申し込むこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスとイギリスの地理的理解ほか国家の名称について
第２週　古代ローマ時代：ブリテンの歴史登場
第３週　古代ローマ時代の遺産
第４週　アングロ・サクソン～ヴァイキング侵入
第５週　ノルマン人征服
第６週　中世１：十字軍遠征～百年戦争
第７週　中世２：カンタベリー物語にみる貴族・聖職者・庶民の生活
第８週　中世３：バラ戦争～王位継承をめぐって，そして市民階級の台頭
第９週　近代１：ヘンリー８世とイギリスの宗教革命
第10週　近代２：エリザベス女王の時代
第11週　近代３：シェイクスピアと演劇文化１
第12週　近代４：シェイクスピアと演劇文化２
第13週　近代５：シェイクスピアの遺産～新大陸へ
第14週　近代～現代１：大英帝国の繁栄と衰退
第15週　まとめ

およそ上記の計画に沿って授業を行うが，実際の授業時間数に従って，若干の変更や入れ替えが出る場合もある。

フランス文化論I

3626001100100

副　題								担　当　者	泉　美知子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ARE-206-ID

〔授業の到達目標〕

首都パリを中心に，中世から19世紀までのフランス文化について理解を深める。

〔授業の内容〕

この授業では，パリの街を彩る代表的なモニュメントを通して，フランス文化にアプローチします。大聖堂や宮殿はどのような様式で，どのような目的のために建造されたのか，パリの街はどのような構想のもとに設計されたのか,美術館や記念碑にはどのような意味があるのか,革命後の近代化のなかで街はどのように変貌するのか，といった問題を取り上げながら，歴史の歩みのなかで，フランス文化がどのように形成されてきたのかについて考えます。

〔教材〕

参考書：アルフレッド・フィエロ『パリ歴史事典』白水社，2011年
ジャン=マリー ペルーズ・ド・モンクロ『芸術の都パリ大図鑑―建築・美術・デザイン・歴史』西村書店，2012年
ジャン=ロベール・ピット『パリ歴史地図』東京書籍

教科書はありません。授業中にプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

世界史の教科書を再読して，フランスの歴史を復習しておきましょう。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業への参加態度とコメントシート（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに　フランス文化とパリ
第２週　世界遺産「パリのセーヌ河岸」
第３週　セーヌ川に架かる橋
第４週　ノートル＝ダム大聖堂とサント・シャペル
第５週　ルーヴル宮殿
第６週　絶対王政下の古典主義の建築
第７週　国王と広場，パリの城壁
第８週　ルーヴル美術館
第９週　ナポレオンと芸術
第10週　鉄とガラスのパサージュ
第11週　パリの地下（カタコンブと下水道）
第12週　19世紀パリの大改造とオペラ座
第13週　近代都市パリの姿－万博と建築
第14週　大統領の都市計画（グラン・プロジェ）
第15週　まとめ

フランス文化論II

3626001200100

副　題	史料を通して見る前近代フランス史							担　当　者	加藤　玄　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ARE-207-ID

〔授業の到達目標〕

（1）　史料の類型を理解する。
（2）　史料を時代状況の中に位置づける。
（3）　史料解釈の技法の基礎を身につける。

〔授業の内容〕

中近世のフランスで作成された史料の日本語訳の精読を通じて，具体的な史料解釈の技法の基礎を教授する。

フランス王国（現在のベルギーも含む）を中心に，図像，歴史書，奇蹟譚，聖人伝，所領明細帳，地図，遺言書，年代記，手紙，日記，国王赦免状など中近世の史料を扱う。

〔教材〕

毎回の授業でプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前の週に配布された史料を熟読し，予め解釈を考えておくこと。

毎回の授業の準備として復習に2時間以上，予習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業後に提出するリアクション・ペーパー（30%）と学期末課題レポート（70%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記のアドレスにメールを送ること。

katoumak●fc.jwu.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　はじめに／中世フランスの農民の生活
第2週　クローヴィスの洗礼
第3週　カロリング期の社会
第4週　ザンクト・ガレン修道院平面図
第5週　修道院の生活
第6週　中世の領主所領
第7週　農民の状況
第8週　サン・スヴェールの世界図
第9週　領主の戦争と神の平和
第10週　都市の職人
第11週　都市の反乱
第12週　商人の活動
第13週　パリの一市民の見たジャンヌ・ダルク
第14週　近世パリの職人の生活
第15週　まとめ

ドイツ文化論I

3626002100100

副　題	ドイツとは何か							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ARE-208-ID

〔授業の到達目標〕
歴史や宗教を通してドイツ文化の根底にあるものを理解する。

〔授業の内容〕
「ドイツ人」とは誰のことを言うのだろうか。「ドイツ」とはどのような場所のことを言うのだろうか。われわれが現在「ドイツ」として理解しているものが，歴史的に常にそう理解されてきたとは限らない。ドイツ人自身は，ドイツをどのように捉えてきたのか，第二次世界大戦以前のドイツを対象に，歴史的背景から考える。

〔教材〕
参考書：若尾祐司・井上茂子『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ，2005年
若尾祐司・井上茂子『ドイツ文化史入門―16世紀から現代まで』昭和堂，2011年
授業でプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度：試験＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月・水曜の４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕
遅刻者は授業への参加態度に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：「ドイツ」という概念
第２週　ドイツの自然
第３週　中世の都市の発展
第４週　中世の人々の暮らし
第５週　信仰
第６週　ドイツの中の他者
第７週　ドイツ人は何を食べてきたか
第８週　特別講義
第９週　ドイツ人ディアスポラ（１）
第10週　ドイツ人ディアスポラ（２）
第11週　ドイツの軍隊
第12週　ジェンダー（１）
第13週　ジェンダー（２）
第14週　ジェンダー（３）
第15週　理解の確認
計画通りいかないこともあります。

ドイツ文化論II

3626002200100

副　題	現代ドイツ							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ARE-209-ID

〔授業の到達目標〕

戦後ドイツの政治や社会を，「ナチズムの克服」「想起」「環境」などの側面から理解する。

〔授業の内容〕

戦後ドイツは，第二次世界大戦以前とは全く異なる政治文化やメンタリティを持つ社会となった。現代ドイツの特徴を，ナチズムの過去の克服や，移民・外国人の受け入れをめぐる議論，そしてドイツが世界をリードする環境問題への取り組みなどの点から，多面的に学ぶ。

〔教材〕

参考書：ノルベルト・フライ／佐藤健生『過ぎ去らぬ過去との取り組み　日本とドイツ』岩波書店，2011年
矢野久『労働移民の社会史　戦後ドイツの経験』現代書館，2010年
石田勇治『過去の克服：ヒトラー後のドイツ』復刻版，白水社，2014年

授業でプリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度：試験＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加態度に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　1945年の出発点
第２週　過去の克服（１）
第３週　過去の克服（２）
第４週　過去の克服（３）
第５週　想起の文化（１）
第６週　想起の文化（２）
第７週　関連する映画鑑賞
第８週　イスラエルとの関係
第９週　移民・外国人（１）
第10週　移民・外国人（２）
第11週　労働
第12週　環境への取り組み（１）
第13週　環境への取り組み（２）
第14週　EUの中で
第15週　理解度の確認
計画通りいかないこともあります。

イタリア文化論I

3626003100100

副　題								担　当　者	関　孝弘　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ARE-210-ID

〔授業の到達目標〕

現在，世界中で接している音楽はイタリアから発展し，少なくとも18世紀までのヨーロッパは音楽に限らず，文化全てはイタリアが中心となって牽引されていました。そのイタリア人の持つ日常的文化感覚を紐解くことにより，グローバルな国際的な感覚の理解度を深めることを目指します。

〔授業の内容〕

イタリアは芸術の宝の都です。ルネッサンス時代の絵画，彫刻，建築などは容易に思い出すことができるでしょうが，音楽の方はいかがでしょうか？日本では音楽の都はドイツ，と思う方が多いかもしれません。しかし，バッハ，モーツァルトほか多くの作曲家たちは，イタリアの音楽を手本とし目指しました。またイタリアはオペラの発祥の地であり，声楽中心の音楽文化の国というイメージが強いかもしれませんが，ピアノも弦楽器も，そして音を記す五線譜もイタリアで考案されました。音楽用語のほとんどは今も変わらずにイタリア語が使われていますが，正しく認識されているでしょうか。この講義はイタリア音楽を切り口にして，ピアニストとして30年以上にわたる日伊の往復生活で感じたこと，思ったことなどを絡めながら，イタリアの文化と歴史を知り，イタリア人の生活感覚に近づくのが狙いです。時々，ピアノの実演奏も交えて進めようと思っています。

〔教材〕

参考書：マリアンジェラ・ラーゴ、関 孝弘（共著）『ブリッランテな日々』晶文社，2015年
関 孝弘、マリアンジェラ・ラーゴ（共著）『これで納得！よくわかる音楽用語のはなし』全音楽譜出版社，2006年
関 孝弘、マリアンジェラ・ラーゴ（共著）『一目で納得！音楽用語事典』全音楽譜出版社，2010年

「ブリッランテな日々」は，30年以上にわたる日伊の往復生活の中で感じたこと，思っていることを楽しくエッセーとしてまとめてあります。国際人として生きるためのイタリア的発想術が凝縮されています。

「これで納得！よくわかる音楽用語のはなし」「一目で納得！音楽用語事典」は，日本の音楽教育の中で大きく歪曲されてしまった用語の真の意味を解き明かした本です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特別にナシ

〔成績評価の方法〕

平常点と理解度の合計で，総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始日にお知らせします。

〔授　業　計　画〕

第１週　序。
第２週　文化に占める音楽の意義。
第３週　イタリア人の生活と音楽。
第４週　イタリアの歴史的劇場。
第５週　音楽に見るヨーロッパの地図，およびイタリアの南北問題。
第６週　イタリアの教育と音楽（１）
第７週　イタリアの教育と音楽（２）
第８週　イタリアはなぜ天才が多く輩出されたのか
第９週　言語と音楽（１）
第10週　言語と音楽（２）
第11週　宗教と音楽
第12週　音楽文化の中の鍵盤楽器（１）
第13週　音楽文化の中の鍵盤楽器（２）
第14週　結び
第15週　理解度の確認

イタリア文化論II

3626003200100

副　題	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア							担　当　者	宮坂　真紀　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	LIT-211-ID

〔授業の到達目標〕

18世紀ヴェネツィアにおける文化的諸相の歴史的意義や特色について理解を深めるとともに，絵画や文学テクストを通して様々な文化現象について考察できるようになる。

〔授業の内容〕

アドリア海に浮かぶ水上都市ヴェネツィアはその地理的特異性もさることながら，サン・マルコ広場に面した古い格式あるカフェ，そして仮面をつけた人々が行き交う幻想的なカーニヴァルなど，今日なお世界中から人々を惹きつけてやまない魅力的要素に溢れています。

そのヴェネツィアの長い歴史の中でも，とくに18世紀は文化的成熟度において一つの頂点を極めた時代といえるでしょう。

この講義では，主に18世紀を中心にヴェネツィアにおける様々な現象を取り上げ，文化史的意義や特色を考察しますが，背景となる史実を確認するだけでなく，P.ロンギ，G.D.ティエポロ，C.ゴルドーニなど18世紀の絵画や文学をとおして，同時代の人々の目にどのように映っていたのかという観点からも論じて見たいと思います。

〔教材〕

授業中に講義内容に関連する資料を配付します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期のはじめに参考文献を紹介します。授業の予習として各回のテーマに沿ったページを事前に読んできてください。また，各授業は前回までの講義内容を踏まえた上で進行しますので，復習として授業後に配布プリントやノートの内容を整理して次の授業に臨んでください。

〔成績評価の方法〕

成績は，学期末試験（80%）と授業への取り組み（20%）に基づいて評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　現代につながる18世紀のヴェネツィアの文化現象
第２週　ヴェネツィアにおけるカフェのはじまり
第３週　カフェの社会的役割
第４週　ヴェネツィアにおける出版文化の興隆
第５週　18世紀におけるジャーナリズムの興隆
第６週　女性の社会進出
第７週　文学や絵画のテーマとしての女性
第８週　服飾の流行
第９週　社交生活の様相
第10週　別荘生活の様相
第11週　商業劇場の誕生と発展
第12週　音楽院の役割
第13週　広場の様相とその役割
第14週　ヴェネツィアのカーニヴァル
第15週　講義のまとめと確認

各回の講義計画はあくまで予定です。授業の進捗状況に応じて一部，変更する場合もあります。

東南アジア文化論I（大陸部）

3626003300100

副　題	遺跡を通してみるアジア文化							担　当　者	重枝　豊　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ARE-212-ID

〔授業の到達目標〕

日本と距離的には近い東南アジアだが，それらの国々の基層文化はさまざまな違いをもっている。それらを理解することによって，日本文化について再考できる視野をもてるようになること。

〔授業の内容〕

東南アジア大陸部の文化を建築を通して解読する。講義主体はベトナムとカンボジア，ミャンマーであるが，東南アジア，広域アジア圏を常に念頭に置きながら，東南アジア大陸部の文化摂取，醸造，展開のプロセスを探る。覚える各国史ではなく，現場で考える立場の地域史をグローバルにとらえることを講義の目的とする。

〔教材〕

参考書：千原大五郎『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』第３版，鹿島出版会，1987年
日本建築学会編『東洋建築史図集』第１版，彰国社，1995年
桃木至朗『歴史世界としての東南アジア』（世界史リブレット12）第１版，山川出版社，1996年

毎回資料を配付する。教科書はとくに定めないが，毎回提示する図書を各自が事前に読んでいるものとして，授業を進めるので注意すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習を２時間，復習を２時間。

〔成績評価の方法〕

記述式の試験の実施と，出席，１～２回程度のレポート提出することがある。その場合は期末試験80点，出席・レポート20点の総合評価として成績を付ける。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

講義の前後に直接お願いしたい。緊急の要件の場合はメールでの連絡も受け付ける
メールアドレス：shigeeda.yutaka●nihon-u.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスとアジアの基層文化について　講義の進め方について
第２週　カンボジアの歴史と文化遺産１　プレ・アンコール期の建築について
第３週　カンボジアの歴史と文化遺産２　アンコール期の建築（アンコール・ワット以前）
第４週　カンボジアの歴史と文化遺産３　アンコール・ワットとバイヨン寺院
第５週　カンボジアの歴史と文化遺産４　東北タイのクメール寺院
第６週　ベトナムの歴史と文化遺産１　チャンパーの聖地ミーソン遺跡
第７週　ベトナムの歴史と文化遺産２　チャンパーのさまざまな地域の遺跡
第８週　ベトナムの歴史と文化遺産３　北部仏教寺院の成立と特徴
第９週　インドネシアの歴史と文化遺産１　中部ジャワの初期遺構
第10週　インドネシアの歴史と文化遺産２　プランバナンとボロブドール遺跡群
第11週　インドネシアの歴史と文化遺産３　ソロ遺跡群と東部ジャワ遺跡
第12週　ミャンマーの歴史と文化遺産　パガン遺跡
第13週　ラオスの歴史と文化遺産　ワット・プー遺跡とカトゥー族の民家
第14週　コーケー遺跡の重要性と保存手法について
第15週　ミーソン・サイトミュージアムの建設の意義

毎回推薦図書を提示するので，予備知識をもって受講することが望ましい。講義は毎回パワーポイントを用いて行なう。

東南アジア文化論II（島嶼部）

3626003400100

副　題	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	担　当　者	乾　尚彦　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ARE-213-ID

〔授業の到達目標〕

東南アジア島嶼部の文化の特質，その基層文化を把握する。

〔授業の内容〕

東南アジア島嶼部には，多くの民族が住み，様々な自然，歴史，社会的条件から，多様な生活文化，住まいの諸相がみられる。こうした多様性と同時に共通性も指摘できる。それは，日本を含めたアジアの基層文化とも関連している。

本講義では，東南アジア島嶼部に生活する民族（オーストロネシア系の諸民族）の文化をいくつか具体的にとりあげ，それを成立させてきた要因について考えていきたい。対象とするのは，これまで実際にフィールドワークによって調査研究をおこなってきた地域・民族である。生活文化の実相を，調査者の視点で多くの画像資料を用いながら具体的に示していきたい。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義前日まで）。

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，授業への参加態度，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４限（事前にメールで申し込むこと）

ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ヤミ族（台湾）１
第２週　ヤミ族（台湾）２
第３週　ヤミ族（台湾）３
第４週　パイワン族（台湾）１
第５週　パイワン族（台湾）２
第６週　ニアス族（インドネシア）１
第７週　ニアス族（インドネシア）２
第８週　ボントック族（フィリピン）１
第９週　ボントック族（フィリピン）２
第10週　ボントック族（フィリピン）３
第11週　ボントック族（フィリピン）４
第12週　イフガオ族（フィリピン）
第13週　バタック族（インドネシア）
第14週　総括１
第15週　総括２

中国文化論

3626003800100

副　題										担　当　者	金野　純　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ARE-216-ID

〔授業の到達目標〕

現代中国を多面的に理解することで，メディアで流される単純化された＜中国イメージ＞を相対化する。

〔授業の内容〕

最近,世界の政治経済で中国の存在感が高まっている。その中国を多面的に理解するために，日中関係，政治経済，民族，宗教，家族についてテーマ毎に学習する

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で配布するプリントに，参考文献が記載されているので，授業内容とともに参考文献を各自熟読し，内容に対する理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　日中関係の歴史と現在（1）
第 3 週　日中関係の歴史と現在（2）
第 4 週　現代中国の政治構造
第 5 週　現代中国の政治史
第 6 週　現代中国の経済発展（1）
第 7 週　現代中国の経済発展（2）
第 8 週　現代中国の格差問題（1）
第 9 週　現代中国の格差問題（2）
第10週　現代中国の民族問題（1）
第11週　現代中国の民族問題（2）
第12週　現代中国社会と宗教結社（1）
第13週　現代中国社会と宗教結社（2）
第14週　現代中国の家族と女性
第15週　まとめ

朝鮮文化論

3626004500100

副　題	韓国の文化と社会							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ARE-217-ID

〔授業の到達目標〕

本授業は,東アジアの諸文化を踏まえつつ,朝鮮半島（特に韓国）の文化と社会について様々な角度から総体的に理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

これまでの朝鮮文化論をクリティカルにとらえつつ，比較文化論という観点から朝鮮文化への理解を深める。具体的には，朝鮮半島独自の文化的な伝統と現代に触れると共に，歴史的にも文化的にも近い関係にある日本と朝鮮半島の文化交流についても解説をおこなう。また，受講生との積極的な質疑応答と討論を軸として授業を進めたい。受講生は，朝鮮半島の文化と社会に関する情報･知識に接する機会を多くし，問題意識をもって授業に臨むことが求められる。なお，関連の視聴覚教材も必要に応じて豊富に使用する。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献を授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，授業に参加すること。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて 4 時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

レポート（40%）と期末試験（30%）を重視するが，授業への参加態度・貢献度（30%）も加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　東アジアの中のコリア
第 3 週　朝鮮半島の歴史と現在
第 4 週　恨（ハン）という情緒
第 5 週　朝鮮半島の歌文化：アリランからK-POPまで
第 6 週　日韓文化交流：<韓流篇>
第 7 週　日韓文化交流：<日流篇>
第 8 週　若者文化
第 9 週　教育と学歴
第10週　コリアン・ディアスポラ（在外コリアン）とその文化
第11週　在日コリアンと多文化共生
第12週　韓国の政治文化と大統領
第13週　北朝鮮の文化と社会
第14週　歴史認識問題と日韓・日朝関係
第15週　総合討論・総括

東欧文化論

3626004800100

副　題	ドナウ流域諸国の歴史と文化							担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ARE-220-ID

〔授業の到達目標〕
東欧，特に南東欧の文化の諸側面に関する幅広い知識を身につける。

〔授業の内容〕
ドイツ，オーストリア，スロヴァキア，ハンガリー，旧ユーゴスラヴィア諸国，アルバニア，ブルガリア，ルーマニアといったドナウ川流域を中心とする国々の歴史と文化について，多様な側面から講義する。地域研究基礎論I･IIと相互補完的な講義科目である。

〔教材〕
教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための66章』（エリア・スタディーズ48）第2版，明石書店，2016年
六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』（エリア・スタディーズ66）明石書店，2010年
毎週，授業開始時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
記述式の期末試験の点数（約50%）及び毎週の授業終了時に提出する感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。また，１回の欠席につき５点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕
できる限り２年次，さもなければ３年次に履修するのが望ましい。また，関連科目である地域研究基礎論I･IIを履修済み，もしくは履修中であることが望ましい。また，秋学期には西洋芸術論，言語地理学も可能な限り履修することをお勧めする。さらに，中欧国際協力研修参加予定者，国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者は，地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を多数履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　東欧におけるドナウ川の概観とイメージ
第３週　東欧におけるドナウ川の実態，運河建設と流域諸国間の協力
第４週　東欧の窓口としてのウィーン
第５週　東欧におけるギリシア的要素とローマ概念の変遷
第６週　東欧における東方正教会（１）―起源と発展―
第７週　東欧における東方正教会（２）―モルドヴァの修道院のフレスコ画の事例―
第８週　東欧における巡礼―メジュゴーリエ，ニクラ，マリヤ・ビストリツァ，オフリド，カルヴァリア・ゼブジドフスカなどの聖地―
第９週　東欧における吸血鬼や魔女への信仰
第10週　東欧の食文化
第11週　東欧における四季折々の風習
第12週　東欧における社会主義時代の文化
第13週　東欧におけるマス・メディア
第14週　日本の東欧支援と東欧における対日感情
第15週　総括

アメリカ文学I

3626006100100

副　題								担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-222-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し，それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって，アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

春学期は植民地時代から19世紀中葉までの歴史を概観して，その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。理解を深めるために映像資料を大いに活用します。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第１版，朝日出版社，2008年
上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版，2008年

教科書は使用せず，適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60％と平常点約40％をもとに総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

第１回目の授業には必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　植民地時代　－　アメリカ文学の黎明期
第３週　〃
第４週　〃
第５週　独立革命期　－　ナショナリズムの高揚と国民文学の萌芽
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　発展する新国家　－　ロマンティシズムの勃興と国民文学の誕生
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

上記の内容は一応の目安であり，受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

アメリカ文学II

3626006200100

副　題								担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-223-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し，それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって，アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

秋学期は19世紀前半から20世紀初頭までの歴史を概観して，その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。理解を深めるために映像資料を大いに活用する予定です。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第１版，朝日出版社，2008年
上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版，2008年

教科書は使用せず，適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%と平常点約40%をもとに総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

第１回目の授業には必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　発展する新国家　－　アメリカ・ルネサンスの文学
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　「金メッキ時代」　－　アメリカ・リアリズムの芽生えと地方色の文学
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　「金メッキ時代」　－　アメリカ・リアリズム文学の確立と展開
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

上記の内容は一応の目安であり，受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

比較音楽論I（東洋）

3626011100100

副　題								担　当　者	丸山　洋司　講師		
単位	2	配当年次	3〜	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-326-ID

〔授業の到達目標〕

「東洋」と「西洋」の音楽にはどのような相違点や共通点があるのか。また両者は歴史的にどのように影響を与えあったのか。これらのテーマについて，各自さまざまな角度から考えることができるようになる。

〔授業の内容〕

各回異なるテーマを設定して講義する。授業でとりあげる予定のテーマは「言葉と音楽」「声の芸術」「楽器」「音組織」「リズム」「音楽と宗教」などである。それぞれのテーマについて,「東洋」と「西洋」の相違点や共通点，あるいは両者の影響関係という視点から各学生が考察を深めていくきっかけを作る。

〔教材〕

参考書：柘植元一、塚田健一『はじめての世界音楽』音楽之友社，1999年

教科書は使用しない。授業で，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業冒頭の小レポートにそなえて，各自文献を読んだり，視聴覚資料を視聴する時間をとる。

復習：授業で疑問に思った点，興味を持った点を各自掘り下げて調べる。文献を読むだけでなく，視聴覚資料を視聴することがのぞまれる。

〔成績評価の方法〕

授業冒頭で課す小レポートの記述内容（20%），リアクションペーパーの記述内容（20%），学期末試験（60%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email: hiromaru886●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言葉と音楽
第３週　声の芸術（１）声楽の諸様式
第４週　声の芸術（２）声楽様式の伝播
第５週　楽器（１）楽器の分類
第６週　楽器（２）体鳴楽器
第７週　楽器（３）膜鳴楽器
第８週　楽器（４）弦鳴楽器（単一弦鳴楽器）
第９週　楽器（５）弦鳴楽器（複合弦鳴楽器）
第10週　楽器（６）気鳴楽器
第11週　音組織
第12週　リズム
第13週　音楽と宗教（１）仏教・イスラム教
第14週　音楽と宗教（２）日本におけるキリスト教音楽の受容
第15週　総括

比較音楽論II（西洋）

3626011200100

副　題	ヨーロッパの社会とオペラ							担　当　者	米田　かおり　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ART-327-ID

国際コミュニケーション学科

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパの音楽活動のなかで非常に重要なジャンルとして今なお愛好されている「オペラ」が，社会のなかでどのような役割を果たしてきたかを歴史的な視点から理解し，オペラと社会との関わりについての知識を修得する。また授業内で使用する映像資料なども通してオペラそのものの楽しさを体験し，オペラについての関心を広げる。

〔授業の内容〕

「オペラ」は「敷居が高い」「堅苦しい」と概して考えられるかもしれないが，ヨーロッパの音楽の歴史をながめてみたとき,オペラほどあらゆる階層の人々に愛好されたジャンルはない。歌手の歌唱力や華やかな舞台,「恋愛物」のストーリーなど，オペラには聴衆を魅了する要素があふれている。音楽家もオペラに魅せられ，モーツァルトをはじめ，多くの音楽家がオペラでの成功を最大の目標に掲げていた。同時にオペラは当時の社会と密接に関わり，時代や地域ごとに異なる様相を映し出したジャンルである。この授業では，ヨーロッパの社会とオペラの関わりを歴史的に考察しながら，作品や作曲家ばかりではなく，歌手や聴衆，劇場，台本などについても理解を深める。

〔教材〕

授業ごとにプリントを配布し，適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業内容（オペラ作品や作曲家など）を告知するので，授業後に提出するリアクション・ペーパーに反映できるよう，自身の専門や関心との関連について，事前にまとめておくこと。

また限られた時間内でオペラ作品全体を鑑賞することは難しいため，授業内で扱った作品を図書館などの視聴覚資料を用いて積極的に鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（65%），毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（35%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ヨーロッパの音楽と社会―オペラから見えるもの
第２週　オペラのなかの「日本」―ジャコモ・プッチーニ（1858-1924）《蝶々夫人》を例に
第３週　イタリアの宮廷文化とオペラの誕生
第４週　公開オペラの登場―ヴェネツィア共和国とオペラ
第５週　カストラート（去勢歌手）への熱狂―ナポリ王国とオペラ
第６週　17～18世紀フランスとオペラ―ルイ14世時代におけるフランス語オペラの確立
第７週　18世紀におけるイタリア・オペラへの熱狂―イギリス,ロシアを例に
第８週　モーツァルト（1756-1791）とウィーン（１）王侯貴族の社交生活とオペラ
第９週　モーツァルトとウィーン（２）ドイツ語歌芝居《魔笛》の背景にあるもの
第10週　19世紀ドイツ・ナショナリズムとオペラ―リヒャルト・ヴァーグナー（1813-1883）の楽劇
第11週　19世紀イタリアにおけるオペラ（１）「ベル・カントの時代」ロッシーニ，ベッリーニ，ドニゼッティの活躍
第12週　19世紀イタリアにおけるオペラ（２）ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）
第13週　19世紀フランスにおけるオペラ―パリ・オペラ座から見えるもの
第14週　19世紀国民楽派とオペラ―ロシア，チェコを例に
第15週　20世紀のオペラ―イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン（1913-1976）を例に

文化遺産学

3626012300100

副　題	文化財から文化遺産へ							担　当　者	M．ウーゴ　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	MSE-230-ID

〔授業の到達目標〕

文化遺産の保護や活用の意味を理解すること。

〔授業の内容〕

文化遺産は，移動可能な絵画から，広い土地に根づく遺跡までが含まれる。歴史的に重要なもの，芸術的に重要なもの，民俗学的に貴重なもの，さまざまである。芸術は，絵画と彫刻と建築からなるとされているが，本授業では建築を中心に西洋や日本で古代から現在まで，どのように芸術作品や歴史資料を扱ってきたのかを考える。芸術作品を鑑賞しながらも，複数の建物や都市空間からなる歴史地区を対象にし，地域や時代によって大きく異なるその保護方法について理解を深める。どのような「文化遺産」が保護対象になってきたかを時代追って考察し，「文化遺産」を通史的に理解することを目的とする。

〔教材〕

参考書：伊藤延男・濱島正士・他『歴史的建造物の保存』（新建築学大系50）彰国社，1999年
ユッカ・ヨキレット（著）、益田兼房（監修）『建築遺産の保存-その歴史と現在』（立命館大学歴史都市防災研究センター叢書）アルヒーフ，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献等），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況と授業時の積極性［10%］，中間試験［30%］，期末試験［60%］

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金・3限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　古代と中世にける文化財の保護
第3週　近世以降の文化財修復事業
第4週　19世紀：近代国家形成と歴史
第5週　明治維新後の文化財保護
第6週　文化財の調査
第7週　博物館の設立
第8週　文化財の保護行政1
第9週　文化財の保護行政2
第10週　文化財の保護行政3
第11週　戦前の文化財保護
第12週　戦中・戦後の文化財保護
第13週　現在の文化遺産の保護
第14週　文化遺産の保護と国際協力
第15週　まとめ

外国語演習ⅠA

3628000100100

副　題	International Relations of East Asia							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-301-IW

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を英語で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため，言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は，言うまでもなく，最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題，例えば地域統合や安全保障，朝鮮半島問題（北朝鮮を含む），日韓関係，歴史認識問題，人の移動，文化交流などに関する英語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し，英語文化圏の人々は，東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また，本演習では，関連文献の講読を中心としつつも，語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献や資料などを演習中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，演習に参加すること。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），課題（30%），期末試験（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（１）
第３週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（２）
第４週　リーディング（読解）演習（１）
第５週　リーディング（読解）演習（２）
第６週　リーディング（読解）演習（３）
第７週　リスニング（聴解）演習（１）
第８週　リスニング（聴解）演習（２）
第９週　リスニング（聴解）演習（３）
第10週　プレゼンテーション演習（１）
第11週　プレゼンテーション演習（２）
第12週　プレゼンテーション演習（３）
第13週　ライティング（作文）演習（１）
第14週　ライティング（作文）演習（２）
第15週　総合討論・総括

外国語演習IB

3628000100200

副　題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(1)							担　当　者	久保田　有香　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-302-IW

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について，英語文献を題材に，ジェンダー，市場及び国際関係という三つの視点から，理解を深めること。また，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は，ASEAN諸国について，ジェンダー，市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め，みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし，日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては，東南アジア諸国における女性の社会進出状況，背景としての投資環境状況，また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えていますが，学期の初めに皆さんの関心事を伺って，可能な限りお応えしたいと思います。

また，本授業を通じて，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさについても触れていただきたく，授業形式は，指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず,社会人になってからも有用と考えられるディスカッションを積極的に取り入れ,参加型を目指しています。ディスカッションでは，想定される場面にふさわしい英語についてもとりあげます。

基本的に記事の講読とディスカッションをセットで授業を進めますが，日本アセアンセンターに出向しているアセアン各国の職員との対話も適宜実施し，アセアンについての知識を多面的に深められるようにしたいと考えています。

〔教材〕

各回毎に指定，または配布。

ASEANインフォメーションマップ（日本アセアンセンター）を資料として配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習:配布された記事については簡単な和訳を準備すること（一時間程度），ディスカッション前には，各自のリサーチおよびチーム内でのすり合わせが必要(一時間程度)。

〔成績評価の方法〕

（１）授業への参加態度(20%)，意欲的に授業に取り組んだか（40%）

（２）期末試験（40%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール（ykubota●asean.or.jp（change ● to @））

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス

第２週　ASEANおよびASEAN10カ国の概要，テキストの配布

第３週　講読

第４週　講読記事に関するディスカッション

第５週　講読，次回のテキストの配布

第６週　講読記事に関するディスカッション

第７週　講読，次回のテキストの配布

第８週　講読記事に関するディスカッション

第９週　ASEANスタッフとの対話（１）

第10週　ASEANスタッフとの対話（２）

第11週　講読，次回のテキストの配布

第12週　講読記事に関するディスカッション

第13週　講読，次回のテキストの配布

第14週　講読記事に関するディスカッション

第15週　総括

外国語演習IC

3628000100300

副　題								担　当　者	大西　克典　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENG-303-IW

〔授業の到達目標〕

ルネサンス期から近世のイタリア半島の歴史について基礎的な知識を獲得すること。
専門的な外国語文献を読むための基礎的な読解力を養うこと。

〔授業の内容〕

ルネサンス期から18世紀に至るまでのイタリア半島の歴史は，ローマ教皇やフィレンツェ，ヴェネツィアなどイタリア内部の国家と，フランスや神聖ローマ帝国などイタリア外部の諸勢力が離合集散を繰り返したため，複雑な経緯を辿っていきます。しかし，それゆえにイタリア半島の歴史を理解することで，イタリアから近世ヨーロッパの歴史をより深く理解することができるはずです。この演習では，適宜映像素材を交えながら，英語を中心とした外国語文献の購読を通じて，主に16世紀から18世紀のイタリアの歴史を学んでいきます。

〔教材〕

プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布されたプリントを読み，予習・復習を行ってください。

〔成績評価の方法〕

授業中に課される課題(50%)と授業への参加姿勢(50%)にもとづき総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等があれば授業後に受け付けます。それ以外の時間については，学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文献購読とディスカッション（１）
第３週　文献購読とディスカッション（２）
第４週　文献購読とディスカッション（３）
第５週　文献購読とディスカッション（４）
第６週　文献購読とディスカッション（５）
第７週　文献購読とディスカッション（６）
第８週　文献購読とディスカッション（７）
第９週　文献購読とディスカッション（８）
第10週　文献購読とディスカッション（９）
第11週　文献購読とディスカッション(10)
第12週　文献購読とディスカッション(11)
第13週　文献購読とディスカッション(12)
第14週　文献購読とディスカッション(13)
第15週　総括
参加者の希望や人数により授業計画を変更する場合もあります。

外国語演習ID

3628000100400

副　題	英語で読む国際交渉――貿易交渉はなぜ、どのように行われるのか	担　当　者	林　正徳　講師

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-304-IW

〔授業の到達目標〕

1.　まとまった量の英語文献を読んで内容のポイントを把握し，重要な論点や疑問点について活発なディスカッションを行うことができるようになること。

2. WTOドーハ・ラウンドの停滞，「メガFTA」交渉，TPP交渉合意とその発効の成否などの貿易交渉をめぐる様々な報道について，理解し自分の考えを持つための基礎知識と理解のための方法論を身につけること。

〔授業の内容〕

1.　国際貿易交渉は，国民の生活に関係する多くの事項を内容とするにもかかわらず，交渉内容は公開されず，また一般にはなじみがない言葉や概念が多いこともあって，誤解や無関心が多い分野である。しかし，英国のEU離脱，TPP協定交渉合意と米国の「離脱」など，国際問題や日本の経済の今後を理解し考えるうえで，国際貿易交渉とは何かを理解することは不可欠である。この授業では，国際交渉理論のテキストを通じて，WTOやFTAなどの貿易交渉がなぜ行われるのかについて理解するための概念的枠組みと見方を提供する。

2.　テキストの英語文献を輪読する。教材テキストの１パラグラフ程度ずつ授業の際にアトランダムに指名された学生が内容の紹介と疑問点・感想を述べ，これをもとに質疑応答とディスカッションを行う。あわせて，講師から関連事項を含めて解説を行う。授業は，単なる英文テキストの訳読ではなく各自が内容のポイントを把握したうえで，質疑応答とディスカッション，解説を通じて副題のテーマについて理解を深める。

〔教材〕

参考書：Hampson, F.O. with Hart, M., *Multilateral Negotiations: Lessons from Arms Control, Trade and the Environment*, 1st. Edition, The John Hopkins University Press, 1995
Bartels, L. & Ortino, F., *Regional Trade Agreements and the WTO Legal System*, 1st. Edition, Oxford University Press, 2013
林　正徳・弦間正彦『「ポスト貿易自由化」時代の貿易ルール――その枠組みと影響分析』第１版，農林統計出版，1955年

教材のうち授業に使用する部分をプリントして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめテキストを読んで内容を理解し要約を発表するために毎回３時間程度の負荷を想定し，授業の復習レポート作成に１時間程度の負荷を想定する。期末のレポート作成には６時間程度の負荷を想定する。

〔成績評価の方法〕

平常点（指示された個所の要約，質問・ディスカッションへの積極的な参加，復習レポートの提出)に60点，期末レポートに40点。なお，理由のいかんを問わず６回以上欠席の場合には成績評価の対象外とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業中に行うこと。それ以外に必要が生じた場合には学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション――授業の進め方，貿易交渉についての基礎的な説明，使用テキストの解説
第２週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　枠組みとプレーヤー（１）
第３週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　枠組みとプレーヤー（２）
第４週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　枠組みとプレーヤー（３）
第５週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　枠組みとプレーヤー（４）
第６週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　枠組みとプレーヤー（５）
第７週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　交渉過程　（１）
第８週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　交渉過程　（２）
第９週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　交渉過程　（３）
第10週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　交渉過程　（４）
第11週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　交渉過程　（５）
第12週　GATTウルグアイ・ラウンド　――　結論とまとめ
第13週　地域貿易協定の政治経済学（１）
第14週　地域貿易協定の政治経済学（２）
第15週　総括

外国語演習IE

3628000100500

副　題	ヨーロッパ文化の理解を深める							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ITA-305-IW

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ文化・思想の発展の中で，ルネサンスの意義を知るようになること。

〔授業の内容〕

ルネサンス人の個別作品などに関わる外国語テキスト（主に英語になるだろう）を読みながら，ヨーロッパの思想，宗教の意義を考える機会としたい。

〔教材〕

テキスト教材はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

常に１時間半程度の予習と４，50分程度の復習を必要とする。

〔成績評価の方法〕

普段の発表と授業参加を重視，テストは実施しないが，レポートは課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５時間目（あらかじめ連絡を要す）

学内メールアドレス

国際コミュニケーション学科

〔授　業　計　画〕

第１週　テキストに関わる説明
第２週　テキストに関わる発表
第３週　テキスト購読
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　映像資料鑑賞
第８週　テキスト購読
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　映像資料鑑賞
第14週　テキストに関わる発表
第15週　〃
専門テキストなのでかなりの努力を必要とするであろう。

外国語演習IF

3628000100600

副　題	Race and Ethnicity							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-306-IW

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティ―の歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では，英語圏の大学１年生レベルのテキストを読みながら，おもにアメリカの人種問題，エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく，同時にリスニングも取り入れた，総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況（50点），課題の提出（40点），授業態度（10点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加状況に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　文献講読＋リスニング
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　関連する映画鑑賞
第８週　文献講読＋リスニング
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
計画通りに進まないこともあります。

外国語演習IG

3628000100700

副　題	ビジネス現場からみた日米関係							担　当　者	大出　隆　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-307-IW

〔授業の到達目標〕
1980年代以降の日米関係に於いて，ビジネスがどう両国関係に関わってきたのか，その概要を理解し，互いに重要な経済パートナーである日米両国のあるべき関係を(特にビジネスの視点を通じて)考える力を身につける。併せてビジネス現場で使われる英語力向上も図る。

〔授業の内容〕
日米間の企業活動に関わる様々な事象を取上げ,ビジネス現場で起きていることを,その時々の社会情勢や国際情勢と関連付け，日米関係の文脈の中で，その実態を的確に把握する。その上でそれらをロビー活動を含む熾烈な企業間競争から社会貢献活動/文化交流活動まで多角的な視点で捉える。同盟関係にあり世界で最大級の経済規模を持つ日米両国の関係は，ビジネス抜きでは考えられず,そうした視点から利益を享受する二国間関係のあるべき姿を考えていく。但し，本演習では様々な事象をあくまで概論的に取上げるので，興味を惹かれた点については，更に深く学んでいってもらいたい。

〔教材〕
参考書：大河原良雄『オーラルヒストリー 日米外交』ジャパンタイムズ，2006年
Roger Benjamin 他, *The Fairness Debate in US-Japan Economic Relations*, RAND, 1991
教科書は使用しない。授業では適宜プリントを配布する。参考書"The Fairness Debate in US-Japan Economic Relations"はインターネット上で公開されている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，次週のテキスト配布時に課題を出します。授業ではグループ討論で課題を検討し，発表してもらいます。それに基づくディスカッションを毎回行いますので事前準備(テキスト予習と課題検討)が必要です。

〔成績評価の方法〕
出席(20%)，授業への積極的参加(発言/ディスカッションへの貢献)(30%)，期末レポート(50%)。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕
この演習では国際ビジネスに関わる事例を取上げ，そこに内在する問題点に関して，「自分ならどうするか？」と常に考えてもらいます。国際ビジネスに関心ある学生に適します。

〔授　業　計　画〕

第１週　【学期の予定の説明】　講義の全体像を紹介する。
第２週　【日米経済摩擦】　70-80年代の日米貿易摩擦の実態を概説し，その後の貿易不均衡是正を目的にした日米構造協議に至るプロセスを考える。
第３週　【日本企業が絡む米国内の事件１】　80年代に米国で起きた日立と東芝が絡む夫々の事件から，その後の日本企業の対米戦略を考える。
第４週　【日本企業が絡む米国内の事件２】　トヨタ大規模リコール事件とGMの一時国有化の例から，企業と国家の関わり方と，事件後のトヨタの対米戦略を探る。
第５週　【米国でのロビー活動１】　米国でのロビー活動について，その歴史，手法等の概要を解説し，民間が関わる米国議会のPower Politicsの一端を学ぶ。
第６週　【米国でのロビー活動２】　ロビー活動の実例を紹介し,その実態を理解した上で,ロビー活動のあるべき姿を考える。
第７週　【Buy American政策】　保護主義的色彩の強いBuy American法について，それを是とする米国社会の構造と背景を探り，日本企業の対応策を考える。
第８週　【日米経済交流】　日米両国経済関係の健全な発展の為に開始された日米財界人会議の活動を概観し，その意義や目的を探る。
第９週　【日米科学技術交流】　日米間には科学技術協力協定があるが十分とは言い難い。その問題の所在を探り，同交流のあり方を検討する。
第10週　【日米間アライアンス】　アライアンスとは何か？につき概説し，日米間の企業間提携の実態につき学ぶ。
第11週　【日系アメリカ人】　日系米人について学び，日系米人により設立された米日カウンシル(USJC)と日本ビジネス界との関わり等について考える。
第12週　【CSR(企業の社会的責任)活動】　グローバル企業のCSR活動事例を学び，その意義を考える。
第13週　【ビジネス界からの発信１】　日米協力による情報発信を「日米原子力Round Table」を例に，原発安全性の科学的評価を世界に発信する活動の意義を考える。
第14週　【ビジネス界からの発信２】　ワシントン日本商工会財団を例に，日本企業による米国でのコミュニティ活動の意義について考える。
第15週　総括

外国語演習IH

3628000100800

副　題	世界の経済社会問題							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-308-IW

〔授業の到達目標〕

世界レベルの貧困撲滅運動の中で，世界の子供達の現状を知る。基本的知識をもとに，なぜ子供への特別のケアが必要で，そこにどのような問題が発生し，なぜ政府や国際機関が介入するのかを学ぶことで，さまざまな国際経済問題について論理的に考える力を身に付ける。

〔授業の内容〕

UNICEFのフラッグシップとなるレポートを教材にして，子供と社会の問題を世界の様々な地域との比較を通して考察する。

〔教材〕

参考書：UNICEF, *A fair chance for every child*, United Nations Publication, ２０１６

教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間。

〔成績評価の方法〕

期末テスト（70%），授業への参加意欲（30%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み

学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　世界のグローバル化と経済成長
第２週　UNICEF REPORT：世界のグローバル化と子供たち
第３週　アフリカ
第４週　南アジア
第５週　東アジア
第６週　南太平洋諸島国
第７週　南アメリカ
第８週　カリブ海　諸島国
第９週　北アフリカ・中東諸国
第10週　EU
第11週　北アメリカ
第12週　ロシア，東ヨーロッパ
第13週　日本
第14週　グローバル化と子供の問題
第15週　まとめ

外国語演習II

3628000100900

副　題	Experiencing Shakespeare							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-309-IW

〔授業の到達目標〕
　シェイクスピアの作品を原語で講読，現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおしてプレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕
　シェイクスピアの喜劇『十二夜』の原作(Twelfth Night)を講読する。受講生一人ひとりの講読箇所を指定し，調べた内容の発表を行う。また講読箇所の個別またはグループによる朗読発表を行う。また5月に来日する英国劇団ITCLの本学公演を観劇して，レヴューを英語で書く練習をする。またこの作品の舞台版や映画版の鑑賞をとおして，それらの脚本化された作品と原作の比較を行う。公演には履修生全員が公演スタッフとして参加することを単位取得の条件のひとつとする。

〔教材〕
教科書：『Twelfth Night』
参考書：河合祥一郎『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂，2010年
　　L・ダントン=ダウナー、アラン・ライディング『シェイクスピアヴィジュアル事典』新樹社，2004年
テキストは担当者が用意したものを購入してもらう。(授業初回時に教室にて配布予定)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　予習においては原文講読に欠かせないOEDを念入りに引いて問題となる語について調べておくこと。

〔成績評価の方法〕
　授業での発表(20%), ITCL公演スタッフ参加(30%),　観劇レヴューのレポート(10%), 試験(40%)の割合で評価する。*「十二夜」公演スタッフ参加および観劇(5月20日)は必修。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　月曜3～4時限
　国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして事前に希望の日時を申し込むこと。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　原作講読1: Act 1
第3週　原作講読2: Act 1　および朗読発表
第4週　原作講読3: Act 2
第5週　原作講読4: Act 2　および朗読発表
第6週　原作講読5: Act 2
第7週　原作講読6: Act 3
第8週　原作講読7: Act 3　および朗読発表
第9週　原作講読8: Act 3
第10週　原作講読9: Act 4
第11週　原作講読10: Act 4　および朗読発表
第12週　原作講読11: Act 4
第13週　原作講読12: Act 5
第14週　原作講読13: Act 5　および朗読発表
第15週　原作講読14: Review　および朗読発表
英国劇団ITCLの公演(5月20日)の準備・当日のスタッフ業務によって授業スケジュールに若干変更が出る場合もある。

外国語演習ＩＪ

3628000101000

副　題	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-310-IW

〔授業の到達目標〕
中・東欧における社会や文化・芸術に関する理解を深めると共に，英文の読解力の更なる向上を達成する。

〔授業の内容〕
今学期前半は社会主義体制が崩壊する直前の1988年にウィーンからイスタンブルまで，ハンガリー，ルーマニア，ブルガリアを通って自転車で旅をしたイギリス人女性のジャーナリストが現地での印象を記したテキストの中で第10章（フレスコ画で有名な修道院で有名な北モルドヴァを旅する部分）を精読し，当時の西側にはまだ闇に包まれていた「もう一つのヨーロッパ」の現状を考察する。他方，今学期後半はオーストリア出身の音楽家モーツァルトの生涯に関する文献の一部（ピアノ協奏曲やオペラ『魔笛』，『レクイエム』に関する章）を精読する。授業では一文ずつ丁寧に訳し，構文等を確認すると共に，内容の把握にも努める。２冊目のテキストに関しては，一つの文章が10行以上にわたる長文のものも少なくないので，ある程度の忍耐を要するものとなっている。こちらの方は原文は独語であり，これを英訳したものを読むことになるが，テキストには独文も記載されているので，独語履修者は原文と比較することも可能である。

〔教材〕
教科書：Georgina Harding, *In Another Europe: A Journey to Romania*, London, Hodder&Stoughton, 1990, 157p
Johannes Jansen, *Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)*, Köln, London, Los Angeles, Madrid, Paris, Tokyo, Taschen, 2005, 96p
テキストはコピーして配布する。初回の授業にて早速テキストを読み始めるので，履修予定者は事前に必ずコピーを受け取り，予習しておくこと４号館の１階に入ってすぐ左の国際コミュニケーション学科のレポートボックス室の小部屋の中島ゼミのボックスに３月末に入れておくので，自分の名前の付されたものを時間のある時に持っていくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週，教科書の中で読むであろう箇所を事前に熟読し，訳しておくこと。履修者は大学ノート等を１冊，各自で用意し，訳文を予習の段階で一通り作成しておき，授業時に一文ずつ添削するという方法を取るのが良いと思われる。

〔成績評価の方法〕
中間試験（約25%）及び期末試験（約30%）の合計点数に毎週授業開始時に実施される小テストの合計点（約45%）を加味して100点満点として算出する。なお，予習していないと判断される場合には減点することがある。テキストにはやや難しい箇所もあるので，履修者は毎週，予習と復習に十分な時間をかけて取り組むことが求められる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載する）。

〔備考〕
中島ゼミの３年生はできるだけ履修すること。地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dといった関連科目を出来るだけ数多く履修済み，ないしは履修中であることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明，当時の時代背景
第２週　鉱山町ボルシャで外国人価格を要求されて
第３週　モルドヴァの中世の歴史
第４週　ビザンツ様式やゴシック様式の入り混じった教会のある北モルドヴァ地方
第５週　牧歌的な風景の中に聳えるスチェヴィツァ修道院
第６週　東ベルリン出身の学生たちから見たルーマニア
第７週　理解度の確認
第８週　初期のピアノ協奏曲
第９週　２つの短調のピアノ協奏曲
第10週　晩年のピアノ協奏曲
第11週　『魔笛』の作曲と『皇帝ティトスの慈悲』の不成功
第12週　『レクイエム』の作曲依頼とモーツァルトの死
第13週　未完の『レクイエム』の補筆
第14週　夫を失ったコンスタンツェと子供たち
第15週　理解度の確認

外国語演習IK

3628000101100

副　題	金融・経済基礎							担　当　者	中島　洋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-311-IW

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げながら，金融の基礎知識を身につけ，同時に英語での表現力を高めること。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み，金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり，タイムリーな金融経済事象を採り上げるので，その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは，授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習が必要。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，プレゼンテーション，小テストなどを総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本経済の概要と課題ーアベノミクス
第２週　米国経済とトランプ政権
第３週　お金とは
第４週　金利と物価
第５週　債券市場
第６週　株式市場
第７週　為替市場（１）
第８週　為替市場（２）
第９週　中央銀行の役割
第10週　日本銀行の金融政策
第11週　欧米の金融政策
第12週　国際収支動向
第13週　日本の高齢化と労働市場
第14週　男女格差と女性の活躍
第15週　まとめ，理解度の確認

外国語演習IL

3628000101200

副　題	Cultural Properties in Japan							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	MSE-312-IW

〔授業の到達目標〕

To become able to explain about Japanese Cultural Properties in English.

〔授業の内容〕

本演習では，日本国内の文化財に関する資料を英語で読み，その理解を深めることを目的とする。さらに，調べた文化財を英語の小論文にまとめ，その特徴を英語で発表し，全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の文化に初めて触れる人にどのように，何を説明する必要があるのかを考えることで，日本の文化財の特徴や外国の文化財との違いを明確にし，文化財を国際コミュニケーションの手段として利用し，自国の文化についてより深く理解することができるだろう。日本の文化財を海外に英語で紹介するとともに，世界で一般的に使われている英語に慣れ親しみ，身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Cultural Properties Department, Agency for Cultural Affairs (ed.), *Cultural Properties for Future Generations*, Agency for Cultural Affairs, Japan, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）［20%］，試験，レポートや発表［80%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金・3限
OH以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　有形文化財
第3週　無形文化財
第4週　民俗文化財
第5週　記念物
第6週　文化的景観
第7週　伝統的建造物群
第8週　発表と討論
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

外国語演習IM

3628000101300

副　題	英語で読む国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LAW-313-IW

〔授業の到達目標〕

国際法の基本的な事柄について書かれた英語文献の意味内容を把握し，正確な日本語訳を作成することができるようになる。

〔授業の内容〕

本演習は，国際法の基本的な事柄を英語文献の解析を通じて学習することを目的としている。その意図するところは，外国語（英語）で書かれた学術書の主張内容を的確に理解し，アカデミックな議論の展開に慣れることにある。教材には，アメリカやイギリスの大学で初めて国際法を学ぶ大学生（法学部生に限らない）に広く読まれている，定評ある下記の入門書を用いる。

近い将来諸君は，学部レベルでこの種の文献を読み込んできた人たちとさまざまな分野で交流し，競い合うこととなるであろう。欧米の知的エリートたちと対等に渡り合うための第一歩として，いわば「世界共通語」でもある国際法の英語原典に親しんで頂くことには，それなりの意義があると思われる。

授業は例年，「英語の形から入る」というスタイル，すなわち，英文法の知識および英語構文の基本事項を確認しながら一文一文を精読するというスタイルにこだわっている。これにより，受講生は，英語の文章を正確に読み解く力（したがって，正確な日本語訳を作成する力）を向上させることができるであろう。今年度もこのやり方を踏襲しつつ，幾ばくかでも英文の内容把握（国際法上の議論）に接近してみたいと考えている。

〔教材〕

教科書：Buergenthal, Th. & Murphy, S. D., *Public International Law in a Nutshell*, 5th Edition, Thomson/West, 2013

上記テキストの中から，国際人権法，国際人道法，海洋法，国際環境法，国際機構論，国際安全保障論のいずれか一つの分野を取り上げる予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では，事前に英文マテリアルの該当箇所を音読し，不知の語句の意味を辞書で調べ，和訳を作成してくること。復習では，教師が説明した文法や構文，英文の意味内容を踏まえて，正確な和訳を辞書なしで作成できるようにすること。

〔成績評価の方法〕

（１）毎回の出席，予習ノートの提出，授業中に指示された箇所の訳読および板書訳，質疑応答（以上を平常点として50％程度）

（２）期末試験（50％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。

Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

テキストの内容理解を十分に深めるために，担当者による「国際法I・II」を履修済みであるか，並行して履修されることを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　受講の心得の確認
第３週　テキストの訳読　（１）
第４週　テキストの訳読　（２）
第５週　テキストの訳読　（３）
第６週　テキストの訳読　（４）
第７週　テキストの訳読　（５）
第８週　テキストの訳読　（６）
第９週　テキストの訳読　（７）
第10週　テキストの訳読　（８）
第11週　テキストの訳読　（９）
第12週　テキストの訳読　（10）
第13週　テキストの訳読　（11）
第14週　テキストの訳読　（12）
第15週　総括

外国語演習IN

3628000101400

副　題	外国語で読む現代日本							担　当　者	金野　純　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	HIS-314-IW

〔授業の到達目標〕

日本に関する，英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕

海外に出て，自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において，自らの国について知ることは必須である。

本演習では，参加者が自己の語学能力に応じて，英語もしくは中国語を選択し，担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し，みなでディスカッションする。こうした作業を通して，外国語を通して現代日本について改めて考え，同時に，外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても，考えてみたい。

〔教材〕

授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定された記事を翻訳し，内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは，各自の意見を求められることもあるので，自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加を重視する。成績は，授業参加（発言・報告等50%），期末試験（50%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくはメール（jun6116●gmail.com（change ● to @））。

〔備考〕

参加者の人数により，授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は，必ず英語を選択すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　導入
第 2 週　文献講読とディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ，予備日
第15週　〃

外国語演習IO

3628000101500

副　題	英語で学ぶ環境経済							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-315-IW

〔授業の到達目標〕

経済に係る基礎的な英文について，センテンスを正確に翻訳するとともに，パラグラフ単位での意味を把握することができるようになる。

〔授業の内容〕

本演習では，地球環境問題への経済学の適用を題材として，英語で「サブスタンス」を学ぶことを目的とする。経済学関連の入門書，あるいは一般向けの啓蒙書をテキストとして，環境経済学の基礎を学ぶ。概ね毎回出題される宿題を解くことによって，英語を丁寧に読む習慣を身につけてほしい。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に 4 時間程度の負荷を想定。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言（25%），中間試験（25%），期末試験またはレポート（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は，20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　地球温暖化とその原因①
第 3 週　地球温暖化とその原因②
第 4 週　市場の効率性
第 5 週　市場の失敗としての外部性①
第 6 週　市場の失敗としての外部性②
第 7 週　外部性としての地球温暖化①
第 8 週　外部性としての地球温暖化②
第 9 週　外部性の是正政策①
第10週　外部性の是正政策②
第11週　貿易と環境
第12週　リカードの比較優位
第13週　環境外部性と貿易
第14週　WTO交渉と環境
第15週　総活

外国語演習IIA

3628000200100

副　題	Experiencing Shakespeare							担　当　者	古庄　信　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-316-IW

〔授業の到達目標〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞し，現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおして英語独自のリズムやイントネーションを身につけながら，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞する。さらに毎回，テキスト講読箇所の個別またはグループによる朗読及び内容に関する発表を行う。発表担当は学期始めに決定する。発表者はOEDを調べて発表原稿を作成すること。

〔教材〕

教科書：荒井良雄他, *Globe Shakespeare Quotations*, 朝日出版社, 2012
参考書：G. L. ブルック（三輪・佐藤他共訳）『シェイクスピアの英語』初版，松柏社，1998年
L・ダントン=ダウナー、アラン・ライディング『シェイクスピアヴィジュアル事典』新樹社，2004年
河合祥一郎『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の発表箇所については，発表者だけでなく履修者全員が念入りな予習をして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業での発表(20%)，試験(70%)，出席(10%)の割合で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～４時限
直接個人研究室を訪問してもよいが，国際コミュニケーション学科事務室をとおして希望の日時を伝えるのが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　原作講読1: All the World’s a Stage (As You Like It)
第３週　原作講読2: Lovers (Romeo and Juliet)および朗読発表
第４週　原作講読3: Justice vs. Mercy (The Merchant of Venice)および朗読発表
第５週　原作講読4: Nothing (Macbeth)および朗読発表
第６週　原作講読5: Prologue (Henry V)および朗読発表
第７週　原作講読6: Speak the Speech (Hamlet)および朗読発表
第８週　原作講読7: What is a Man? (Hamlet)および朗読発表
第９週　原作講読8: To be or not to be (Hamlet)および朗読発表
第10週　原作講読9: Sonnet No. 18および朗読発表
第11週　原作講読10: Sonnet No. 30および朗読発表
第12週　原作講読11: Sonnet No. 105および朗読発表
第13週　原作講読12: Enlightenment- Brutus’ Speech (Julius Caesar)および朗読発表
第14週　原作講読13: Enlightenment- Antony’s Speech (Julius Caesar)および朗読発表
第15週　原作講読14: Enlightenment-Sparrow Speech (Hamlet)および朗読発表

外国語演習IIB

3628000200200

副　題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(2)							担　当　者	久保田　有香　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-317-IW

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について，英語文献を題材に，ジェンダー，市場及び国際関係という三つの視点から，理解を深めること。また，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は，ASEAN諸国について，ジェンダー，市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め，みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし，日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては，東南アジア諸国における女性の社会進出状況，背景としての投資環境状況，また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えていますが，学期の初めに皆さんの関心事を伺って，可能な限りお応えしたいと思います。

また，本授業を通じて，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさについても触れていただきたく，授業形式は，指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず,社会人になってからも有用と考えられるディスカッションを積極的に取り入れ,参加型を目指しています。ディスカッションでは，想定される場面にふさわしい英語についてもとりあげます。

基本的に記事の講読とディスカッションをセットで授業を進めますが，日本アセアンセンターに出向しているアセアン各国の職員との対話も適宜実施し，アセアンについての知識を多面的に深められるようにしたいと考えています。

〔教材〕

各回毎に指定，または配布。

ASEANインフォメーションマップ（日本アセアンセンター）を資料として配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習:配布された記事については簡単な和訳を準備すること（一時間程度），ディスカッション前には，各自のリサーチおよびチーム内でのすり合わせが必要(一時間程度)。

〔成績評価の方法〕

（１）授業への参加態度(20%)，意欲的に授業に取り組んだか（40%）

（２）期末試験（40%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール（ykubota●asean.or.jp（change ● to @））

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス

第２週　ASEANおよびASEAN10カ国の概要，テキストの配布

第３週　講読

第４週　講読記事に関するディスカッション

第５週　講読，次回のテキストの配布

第６週　講読記事に関するディスカッション

第７週　講読，次回のテキストの配布

第８週　講読記事に関するディスカッション

第９週　ASEANスタッフとの対話（１）

第10週　ASEANスタッフとの対話（２）

第11週　講読，次回のテキストの配布

第12週　講読記事に関するディスカッション

第13週　講読，次回のテキストの配布

第14週　講読記事に関するディスカッション

第15週　総括

外国語演習IIC

3628000200300

副　題	アメリカ人から見たフランス									担　当　者	清水　領　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-318-IW

〔授業の到達目標〕

英語の論説を正確に読み取れるようにする。書き手の背景を意識しながら，欧米の中の多様性を理解する。カルチャー・ショックと文化の受容について考え，英語で意見を表現出来るようにする。

〔授業の内容〕

この授業ではアメリカ人がフランスについて論じた著作物・映画を通して，アメリカとフランスの違いについて学習します。フランスとアメリカは欧米という言葉で一括りにされがちですが，両者の文化や思考には歴史が形作った隔たりがあります。前半はニューヨーク・タイムズ紙のパリ女性特派員が書いたコラムを講読し，後半は出席者の希望を考慮してテクストを選択します。コラムの内容は歴史・宗教問題から子育て文化比較と多岐にわたっており，授業で背景を解説しながら講読します。

〔教材〕

テキストは配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各回ごとにテキストの指定箇所を和訳して授業に臨むこと。（予習 3 時間程度）
授業内容を復習し，必要であれば質問カードを作成すること。（復習 1 時間程度）

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー(30%)，授業の予習準備・参加度(50%)，中間レポート(20%)。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

最初の授業で出席者に通知する。または学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　テクスト講読
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　背景説明とディスカッション
第 6 週　テクスト講読
第 7 週　〃
第 8 週　背景説明とディスカッション
第 9 週　テクスト講読
第10週　〃
第11週　背景説明とディスカッション
第12週　映像鑑賞
第13週　〃
第14週　テクスト講読
第15週　ディスカッションとまとめ

外国語演習IID

3628000200400

副　題	英語で読む食品の安全・品質制度の考え方と仕組み	担　当　者	林　正徳　講師

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-319-IW

〔授業の到達目標〕

1.　まとまった量の英語文献を読んで内容のポイントを把握し，重要な論点や疑問点について活発なディスカッションを行うことができるようになること。

2.　食品の安全・品質制度をめぐっては国際貿易問題に発展する事例も多く，様々な報道もなされている。こうした問題について，理解し自分の考えを持つための基礎知識と理解のための方法論を身につけること。

〔授業の内容〕

1.「食品の安全・安心を守る」,「日本食品の品質は世界的に評価されている」といった言葉がよく聞かれる。しかし，食品の「安全性」や「品質」とはいったい何だろうか。日本での理解と，外国での理解は同じだろうか。こうした基本的概念について，英語で書かれた文献の輪読を通じて，基礎的な概念と今後理解を深めてゆくための方法論を提供する。

2.　テキストの英語文献を輪読する。教材テキストの１パラグラフ程度ずつ授業の際にアトランダムに指名された学生が内容の紹介と疑問点・感想を述べ，これをもとに質疑応答とディスカッションを行う。あわせて，講師から関連事項を含めて解説を行う。授業は，単なる英文テキストの訳読ではなく各自が内容のポイントを把握したうえで，質疑応答とディスカッション，解説を通じて副題のテーマについて理解を深める。

〔教材〕

参考書：P. B. Hutt, *"The Basis and Purpose of Government Regulation of Adulteration and Misbranding of Food"*, Food Drug Cosmetic Law Journal, Vol.33, No.10, 1978
Augustin-Jean, L., Ilbert, H. & Saavedra-Rivano, N., *Geographical Indications and International Agricultural Trade : The Challenge for Asia*, 1st. Edition, Palgrave Macmillan, 2012
林　正徳・弦間正彦『「ポスト貿易自由化」時代の貿易ルール――その枠組みと影響分析』第１版，農林統計出版，2015年

教材のなかから授業に使用する部分をコピーして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめテキストを読んで内容を理解し要約を発表するために毎回３時間程度の負荷を想定。授業の復習レポート作成に１時間程度の負荷を想定する。期末のレポート作成には６時間程度の負荷を想定する。

〔成績評価の方法〕

平常点（指示された個所の要約，質問・ディスカッションへの積極的な参加，復習レポートの提出)に60点，期末レポートに40点。なお，理由のいかんを問わず６回以上欠席の場合には成績評価の対象外とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業中に行うこと。それ以外に必要が生じた場合には学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション――授業の進め方，基本的概念についての基礎的な説明，使用テキストの解説
第２週　食品安全・表示に関する政府規制の基礎と目的　（１）
第３週　食品安全・表示に関する政府規制の基礎と目的　（２）
第４週　食品安全・表示に関する政府規制の基礎と目的　（３）
第５週　食品安全・表示に関する政府規制の基礎と目的　（４）
第６週　産地表示から地理的表示へ　――　神戸牛と松坂牛の場合（１）
第７週　産地表示から地理的表示へ　――　神戸牛と松坂牛の場合（２）
第８週　日本での地理的品質規格の発達　――　日本酒の場合（１）
第９週　日本での地理的品質規格の発達　――　日本酒の場合（２）
第10週　中国の食品市場における地理的表示と制度　――　金華ハムの場合（１）
第11週　中国の食品市場における地理的表示と制度　――　金華ハムの場合（２）
第12週　中国の緑茶産地の地理的表示制度　――　龍井茶の場合（１）
第13週　中国の緑茶産地の地理的表示制度　――　龍井茶の場合（２）
第14週　食品安全・品質制度と地理的表示制度
第15週　総括

外国語演習IIE

3628000200500

副　題	イタリア、ルネサンスの芸術家像							担　当　者	高橋　朋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-320-IW

〔授業の到達目標〕

15世紀初頭，フィレンツェで興った美術革新をルネサンスと呼びます。この時代は傑出した芸術家たちが，多くの名作を生みだしました。昨今我が国の美術展覧会でもよく話題になる画家や彫刻家たちが活躍した時代です。本年は彼らがどのようにして芸術家として修業し，腕を磨き，知性を磨いたかを論じたテクストを購読し，イタリア・ルネサンス美術を成り立たせている基本と背景を理解することを目標とします。

〔授業の内容〕

講読するテクストはFrancis Ames-LewisのThe Intellectual Life of the Early Renaissance Artistです。長い間西洋では，画家や彫刻家は単なる職人として，詩人や数学者，人文主義者たちに比べると社会的に低い職業とみなされていました。ところが16世紀になると絵画や彫刻はあらゆる学芸のなかで最も優れた芸術と主張されるようになります。もちろんレオナルド・ダ・ヴィンチ，ミケランジェロの登場があったからです。本年度はこうした西洋美術史の頂点に立つ美術家を，彼らが描いた自画像を通じて芸術家の意識の向上といった観点から考察します。尚，Ames-Lewis　の本書は，イタリア・ルネサンス美術を学ぶ際の必読書ともいえる名著です。

〔教材〕

教材はコピーを配布しますからテキストを購入する必要はありません。以下に一応テクストをあげておきます。

Francis Ames-Lewis, The Intellectual Life of the Early Renaissance Artist, Yale University Press, London, 2000.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に西洋美術史，特に中世からルネサンスにかけてを勉強しておくこと。

〔成績評価の方法〕

講読の授業ですから，分担部分の訳と理解力が評価の基本です。また学期最後には本年度講読した内容に関するレポートを提出してもらいます。それらに出席状況を加味して評価します

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　12時10分から13時

kohitaka●pony.ocn.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

毎回,一人10行（１パラグラフくらい）を分担します。演習の参加人数によって異なりますが，２回に１度程度で自分の分担が回ると思ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　演習で用いるテクストの紹介。講読分担等，今後の授業の方針確認
第２週　テクストの購読
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

この授業では英語のテクストを読むだけでなく，そこで語られている作品や内容を理解することも目的としています。ですから，講読者はできる限り自分の分担箇所で語られる作品を見つけてコピー，あるいはパワーポイント，あるいは本を持ち込むなどで作品を提示することを求めます。また教師のほうでも，さらに詳しい関連作品に言及し，作品を提示し，美術史の理解がさらに深まることを目指します。

外国語演習ⅡF

3628000200600

副　題	Race and Ethnicity							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-321-IW

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティ―の歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では，英語圏の大学１年生レベルのテキストを読みながら，おもにアメリカの人種問題，エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく，同時にリスニングも取り入れた，総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況（50点），課題の提出（40点），授業態度（10点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は授業への参加状況に関する評価が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　文献講読＋リスニング
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　関連する映画鑑賞
第８週　文献講読＋リスニング
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
計画通りに進まないこともあります。

外国語演習IIG

3628000200700

副　題	グローバル企業のCSR戦略とアライアンス戦略	担　当　者	大出　隆　講師

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-322-IW

〔授業の到達目標〕

企業のCSR(企業の社会的責任)戦略とアライアンス(戦略的提携)戦略の活動概要を理解し，グローバルに展開する企業に必要な戦略とはどういうものかを学び，グローバル企業の活動に関わる課題をみつけて，自分なりに解決案を考える力を身につける。

〔授業の内容〕

本演習では，グローバル企業の様々な事業活動の内，CSR活動とアライアンス活動に焦点をあて，それらがどのような活動で，何故企業が行う必要があるのかを考える。関連する英文資料を読みながら具体的事例を通して，企業がグローバルに事業展開する上で直面する課題とは何かを学び，その解決策を検討してゆく。CSRとアライアンス分野の活動を例に，当該分野におけるグローバル企業のビジネス戦略について考えていきたい。

〔教材〕

参考書：Kash Rangan他, *Why Every Company Needs a CSR Strategy and How to Build It*, Harvard Business School, 2012
江夏健一/桑名義晴『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』三訂版，同文館，2012年

教科書は使用しない。授業では適宜プリントを配布する。参考書"Why Every Company Needs a CSR Strategy and How to Build It"はインターネット上で公開されている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，次週のテキスト配布時に課題を出します。授業ではグループ討論で課題を検討し，発表してもらいます。それに基づくディスカッションを毎回行いますので事前準備(テキスト予習と課題検討)が必要です。

〔成績評価の方法〕

出席(20%)，授業への積極的参加(発言/ディスカッションへの貢献)(30%)，期末レポート(50%)。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕

この演習では，国際ビジネスに関わる事例を取上げ，そこに内在する問題点に関して，「自分ならどうするか？」と常に考えてもらいます。国際ビジネスに関心ある学生に適します。

〔授　業　計　画〕

第１週　【学期の予定の説明】　講義の全体像を紹介する。
第２週　【CSRの基本概念】　CSRがどう経営と関わるかを解説し，企業がグローバルにビジネス展開する上で求められる社会的責任について考える。
第３週　【コーポレートガバナンス】　企業統治の観点から行うCSRへの取組み例を解説し，その必要性や意義を考える。
第４週　【サスティナブル社会の実現】　環境問題に取組むGE等主要企業例を紹介し，環境負荷削減に向けた企業活動のあり方を考える。
第５週　【財団の活動】　財団による社会貢献を行う企業活動例を紹介し，その意義を考える。
第６週　【CSRからCSVへ】　CSRを進化させた概念として新たに注目されているCSV(共通価値の創造)について学習し，CSRとの本質的な違いを理解する。
第７週　【ゲスト招待】　在日アメリカ人ゲストを招待し，企業のCSR活動等について学生との意見交換を行う。
第８週　【アライアンス戦略とは？】　企業間の各種提携について解説し，何故，企業がアライアンスを行う必要があるのかを考える。
第９週　【共同開発契約】　実際の共同開発契約書を読み，具体的取決め内容を理解し，英文契約書特有の表現も学習する。
第10週　【JV Case Study 1】　GMとトヨタの合弁事業の経緯や実態を理解し，そこに内在する問題点を考える。
第11週　【JV Case Study 2】　ハネウェル社と山武計器の提携は1960年代に始まり順調に推移するも90年代に解消した。当該ケースの問題点を考える。
第12週　【Virtual JV】　航空業界アライアンス“Sky Team”の礎になったKLMとNWAの仮想合弁事業の戦略を学び，その有用性を探る。
第13週　【Outsourcing】　アライアンスと似て非なるアウトソーシングを学び，トランプ大統領がアウトソースする米企業に警告を発する理由を考える。
第14週　【アライアンスの成功要因】　アライアンスを競争優位の戦略，成長戦略として成功させるには何が必要なのかを考える。
第15週　【総括】
第７週に招待を予定しているゲストの都合次第で授業スケジュールに変更が出る場合もあります。

外国語演習IIH

3628000200800

副　題	世界の経済社会問題							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-323-IW

〔授業の到達目標〕

世界レベルの貧困撲滅運動の中で，世界の投資の現状を知る。基本的知識をもとに，なぜ投資が経済発展のために必要で，そこにどのような問題が発生し，なぜ政府や国際機関が介入するのかを学ぶことで，さまざまな国際経済問題について論理的に考える力を身に付ける。

〔授業の内容〕

UNCTADのフラッグシップとなるWorld Investment Reportを教材にして，経済発展と投資の関連を世界の様々な地域間での比較を通して考察する。

〔教材〕

参考書：UNCTAD, *World Investment Report*, United Nations Publication, ２０１６

教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間。

〔成績評価の方法〕

期末テスト（70%），授業への参加意欲（30%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み

学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　世界のグローバル化と経済成長
第２週　投資と経済発展
第３週　アフリカ
第４週　南アジア
第５週　東アジア
第６週　南太平洋諸島国
第７週　南アメリカ
第８週　カリブ海　諸島国
第９週　北アフリカ・中東諸国
第10週　EU
第11週　北アメリカ
第12週　ロシア，東ヨーロッパ
第13週　日本
第14週　グローバル化と投資の問題
第15週　まとめ

外国語演習II I

3628000200900

副　題	アメリカ現代政治							担　当　者	藤原　朝子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ENG-324-IW

〔授業の到達目標〕

（1）　英語のニュース・資料を読み（聞き），英語で簡潔にまとめる能力の習得。
（2）　アメリカ政治を中心とする国際情勢の理解。
（3）　ストーリー性のあるプレゼンテーション能力の習得。

〔授業の内容〕

2017年はアメリカ政治に大きな変化が起きる年として注目されています。

本講義では，最新のニュース（英語）を読みながら（または視聴しながら），その内容・背景を理解し，キータームを使って英語でまとめる方法を学びます。

具体的には，１週目に短い英文を読んで，内容や背景を確認した上で，グループで資料を検討し，２週目に英語でプレゼンテーションを行います。

〔教材〕

時事ニュース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

プレゼンテーションのための英文原稿は，発表前日までに教員にメールで提出して，添削を受けます。

〔成績評価の方法〕

期末試験は行いません。

隔週の課題（40%），プレゼンテーション（40%），グループワークへの貢献（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。また授業中に教員のメールアドレスを知らせるので，その他の質問や，プレゼンテーション原稿の提出・添削は，メールにより行います。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　アメリカの政権交代（１）
第３週　アメリカの政権交代（２）
第４週　アメリカとヨーロッパ（１）
第５週　アメリカとヨーロッパ（２）
第６週　アメリカと中国（１）
第７週　アメリカと中国（２）
第８週　アメリカの通商政策（１）
第９週　アメリカの通商政策（２）
第10週　アメリカと中東（１）
第11週　アメリカと中東（２）
第12週　アメリカの軍事力（１）
第13週　アメリカの軍事力（２）
第14週　アメリカと日本
第15週　まとめ

＊上記のトピックは例として示したものです。最新情勢により内容は変更されます。

外国語演習II J

3628000201000

副　題	International Relations of East Asia							担　当　者	羅　京洙　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-325-IW

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を英語で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため，言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は，言うまでもなく，最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題，例えば地域統合や安全保障，朝鮮半島問題（北朝鮮を含む），日韓関係，歴史認識問題，人の移動，文化交流などに関する英語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し，英語文化圏の人々は，東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また，本演習では，関連文献の講読を中心としつつも，語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献や資料などを演習中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，演習に参加すること。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて4時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），課題（30%），期末試験（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（1）
第3週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（2）
第4週　リーディング（読解）演習（1）
第5週　リーディング（読解）演習（2）
第6週　リーディング（読解）演習（3）
第7週　リスニング（聴解）演習（1）
第8週　リスニング（聴解）演習（2）
第9週　リスニング（聴解）演習（3）
第10週　プレゼンテーション演習（1）
第11週　プレゼンテーション演習（2）
第12週　プレゼンテーション演習（3）
第13週　ライティング（作文）演習（1）
第14週　ライティング（作文）演習（2）
第15週　総合討論・総括

外国語演習IIK

3628000201100

副　題	金融・経済基礎							担　当　者	中島　洋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-326-IW

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げ，国際金融をより身近なものとして感じられるように理解を深め，同時に英語の表現力を高めること（春学期の授業内容とは重複しない。）。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み，金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり，タイムリーな金融経済事象を採り上げるので，その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは，授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習は必要。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，プレゼンテーション，小テストなどを総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　グローバリゼーションと国際金融
第２週　日米の金融情勢概観
第３週　国際金融システムの歴史と発展（１）
第４週　国際金融システムの歴史と発展（２）
第５週　金利と物価
　　ユーロ市場の変遷と課題
第６週　サブプライム問題とリーマンショック
第７週　為替相場のしくみ
第８週　為替相場動向
第９週　リスクヘッジの手段（１）
第10週　リスクヘッジの手段（２）
第11週　国際収支のしくみ
第12週　国際収支動向
第13週　国際収支と為替の関係
第14週　直接投資
第15週　まとめ

外国語演習ⅡL

3628000201200

副　題	World Cultural and Natural Heritage	担　当　者	M．ウーゴ　准教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	MSE-327-IW

〔授業の到達目標〕

To learn about World Heritage in English.

〔授業の内容〕

本演習では，世界遺産に関する資料を英語で読み，その理解を深めることを目的とする。演習生は興味のある世界遺産について調べ，調べた内容を英語で紹介し，全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の世界遺産のみならず，海外の世界遺産の魅力を理解すると同時に，その特徴を英語で紹介することによって，世界文化遺産や自然遺産，さらに文化財一般にまつわる専門用語に慣れ親しみ，身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Unesco World Heritage Centre (ed.), *World Heritage*, Pressgroup Holding Europe SA, Valencia(Spain), 1996年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートや試験［50%］，発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火・お昼休み

OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　cultural properties
第 3 週　world heritage
第 4 週　発表・討論
第 5 週　〃
第 6 週　world heritage: success stories 1
第 7 週　world heritage: success stories 2
第 8 週　world heritage: challenges and issues
第 9 週　発表・討論
第10週　〃
第11週　world heritage: international cooperation 1
第12週　world heritage: international cooperation 2
第13週　world heritage: international cooperation 3
第14週　発表・討論
第15週　まとめ

外国語演習IIM

3628000201300

副　題	英語で読む国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LAW-328-IW

〔授業の到達目標〕
国際法の基本的な事柄について書かれた英語文献の意味内容を把握し，正確な日本語訳を作成することができるようになる。

〔授業の内容〕
春学期に引き続き，下記の定評ある入門書を用いて，国際法の基本的な事柄を英語文献の解析を通じて学習することとしたい。演習の目的・進め方，使用教材の性格等については，春学期のシラバスを参照されたい。
近い将来諸君は，学部レベルでこの種の文献を読み込んできた人たちとさまざまな分野で交流し，競い合うこととなるであろう。欧米の知的エリートたちと対等に渡り合うための第一歩として，いわば「世界共通語」でもある国際法の英語原典に親しんで頂くことには，それなりの意義があると思われる。
秋学期は，春学期に培った英文読解の技法にさらに磨きをかけつつ，テキストの内容把握（国際法上の議論）にいっそうこだわってみたいと思う。

〔教材〕
教科書：Buergenthal, Th. & Murphy, S. D., *Public International Law in a Nutshell*, 5th Edition, Thomson/West, 2013
上記テキストの中から，国際人権法，国際人道法，海洋法，国際環境法，国際機構論，国際安全保障論のいずれか一つの分野を取り上げる予定（春学期に扱った内容とは異なる）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，事前に英文マテリアルの該当箇所を音読し，不知の語句の意味を辞書で調べ，和訳を作成してくること。復習では，教師が説明した文法や構文，英文の意味内容を踏まえて，正確な和訳を辞書なしで作成できるようにすること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，予習ノートの提出，授業中に指示された箇所の訳読および板書訳，質疑応答（以上を平常点として50％程度）
（２）期末試験（50％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
テキストの内容理解を十分に深めるために，担当者による「国際法I・II」を履修済みであるか，並行して履修されることを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　受講の心得の確認
第３週　テキストの訳読　（１）
第４週　テキストの訳読　（２）
第５週　テキストの訳読　（３）
第６週　テキストの訳読　（４）
第７週　テキストの訳読　（５）
第８週　テキストの訳読　（６）
第９週　テキストの訳読　（７）
第10週　テキストの訳読　（８）
第11週　テキストの訳読　（９）
第12週　テキストの訳読　（10）
第13週　テキストの訳読　（11）
第14週　テキストの訳読　（12）
第15週　総括

外国語演習IIN

3628000201400

副　題	外国語で読む現代日本							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	HIS-329-IW

〔授業の到達目標〕

日本に関する，英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕

海外に出て，自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において，自らの国について知ることは必須である。

本演習では，参加者が自己の語学能力に応じて，英語もしくは中国語を選択し，担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し，みなでディスカッションする。こうした作業を通して，外国語を通して現代日本について改めて考え，同時に，外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても，考えてみたい。

〔教材〕

授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定された記事を翻訳し，内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは，各自の意見を求められることもあるので，自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加を重視する。成績は，授業参加（発言・報告等50%），期末試験（50%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくはメール（jun6116●gmail.com（change ● to @））。

〔備考〕

参加者の人数により，授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は，必ず英語を選択すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　導入
第 2 週　文献講読とディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ，予備日
第15週　〃

外国語演習IIO

3628000201500

副　題	英語で学ぶ日本の農村・環境問題							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-330-IW

〔授業の到達目標〕

英語のみの授業により，総合的かつ複層的な内容（この授業の場合，我が国の農村・環境問題）を理解できる。

〔授業の内容〕

本演習では，TPPなどで最も政治的にセンシティブな事項となっている我が国の農村問題について，その歴史的意味合いや，農産物貿易問題との関係性，農業政策の影響など総合的かつ複層的な視点で議論する。授業は英語のみで行われ，受講生に対する講義中の質問などを通して，受講生も英語のみで対応する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に毎週４時間程度の負荷を想定。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言（25%），中間試験（25%），期末試験またはレポート（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日昼休み
20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合は，20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　農村とは？
第３週　我が国の農業農村を巡る状況
第４週　同上
第５週　農業農村が環境に与える影響
第６週　同上
第７週　〃
第８週　農業環境問題を議論するための経済学の基礎
第９週　同上
第10週　〃
第11週　農業農村と環境を調和させるための政策
第12週　同上
第13週　〃
第14週　総括
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IA・IIIA

3621010100100

副　題	文化財の保護と活用							担　当　者	M．ウーゴ　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	MSE-301-IY MSE-449-IY

〔授業の到達目標〕
社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え，調べる力，文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕
「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば，文化財に指定される対象は，宗教建築から民家へ，単独の記念物から景観へ，高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち，時代，地域，文化的背景の違いによって，文化財を取り巻く価値観も，「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では，文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて，世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。
１）日本における文化財制度調査。文化庁，地方自治体，専門的組織の役割と成果。
２）世界遺産の役割。ユネスコ,国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
３）日本国内と国際機関の比較。特に，文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程，推薦と保護活動，国際協力企画の具体的な事例。
４）文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕
参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉誠出版，2003年
後藤治、オフィスビル総合研究所「歴史的建造物保存の財源確保に関する提言」プロジェクト『都市の記憶を失う前に』白揚社，2008年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポート［40%］や発表［50%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金・３限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，日本語の文献はもちろんのこと，英語文献も活用すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の文化財制度１
第３週　日本の文化財制度２
第４週　日本の文化財制度３
第５週　まとめ
第６週　社会における文化財の役割１
第７週　社会における文化財の役割２
第８週　文化財と世界遺産１
第９週　文化財と世界遺産２
第10週　まとめ
第11週　国内外の比較１
第12週　国内外の比較２
第13週　国内外の比較３
第14週　国内外の比較４
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IC・IIIC

3621010100300

副　題	企業家に学ぶ応用経営史							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	MAN-303-IY MAN-451-IY

〔授業の到達目標〕

日本の経営発展の主要なテーマと，それを最もよく体現した企業家をケースとして設定し，産業経営史を研究します。成果物としてチームでプレ卒論（ひとり約２万字を担当）を執筆していただきます。こうして，卒業後のキャリアを主体的に形成できる実力を涵養します。

〔授業の内容〕

4～６月は教科書を用いて経営史の基礎を養いながら，論文の執筆方法，資料検索スキル等を学びます。その後，プレ卒論のテーマを決めて，夏の中間発表会までに概ね６合目まで完成することを目指します。秋学期は執筆・発表・批評に充当し，卒論と同じ時期にプレ卒論を提出していただきます。

〔教材〕

教科書：宇田川勝、生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣ブックス）有斐閣，2014年
参考書：宮本又郎・加賀野忠男・企業家研究フォーラム編『企業家学のすすめ』有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1週間当たり概ね10時間程度の準備学習が必要になると思われます（プレ卒論の執筆時間を含める）。

〔成績評価の方法〕

演習への貢献（発表，議論への参加等）：70%
プレ卒論の進捗状況：30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：14：45～15：45 (4222研究室)
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔備考〕

経営史は複合的な学術領域であり，現代への含意も大きいため，参加者間で議論することを通じて理解を深めていくことに意味があります。したがって，遅刻・欠席をしないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　第４章：在来産業の革新　波多野鶴吉（郡是製糸）
第３週　同上
第４週　第５章：大企業時代の到来　武藤山治（鐘紡紡績）
第５週　同上
第６週　第６章：都市型産業の誕生　小林一三（阪急電鉄）
第７週　同上
第８週　第７章：先駆的マーケティング活動　二代鈴木三郎助（味の素）
第９週　第８章：重化学工業の開拓　野口遵（日窒コンツェルン）
第10週　第９章：企業家活動の破綻　金子直吉（鈴木商店）
第11週　資料検索指導（４）
第12週　プレ卒論骨子発表（１）
第13週　プレ卒論骨子発表（２）
第14週　プレ卒論骨子発表（３）
第15週　夏休みへの準備と課題設定
より良い内容にするために本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション演習ID・IIID

3621010100400

副　題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究							担　当　者	中島　崇文　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ARE-304-IY ARE-452-IY

〔授業の到達目標〕

中・東欧の歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に，各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と教科書の講読を織り交ぜたものとなる。春学期には３年生による卒業論文の構想発表が中心となる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず，他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。それ以外の時間帯には教科書を精読するものとする。

〔教材〕

教科書：柴宜弘『図説バルカンの歴史』新装版，河出書房新社，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自の研究発表の際にはしっかりしたレジュメを準備すること。また，教科書は全員が事前に熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%），授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスはゼミのガイダンス等で既にお知らせしている通りである）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明，自己紹介，文献講読
第２週　様々な研究テーマの事例，文献講読
第３週　芸術鑑賞（国立新美術館での「ミュシャ展」見学）
第４週　論文の執筆方法，文献講読
第５週　卒業論文構想発表（３年生），文献講読
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IE・IIIE

3621010100500

副　題	情報戦略なき国家							担　当　者	畠山 圭一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	POL-305-IY POL-453-IY

〔授業の到達目標〕
国際関係，国際政治，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕
「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察する。高度情報化時代の今日，私たちはさまざまなデーターを瞬時にして獲得できるようになったが，データーが多ければ多いほど，情報処理・分析は，困難になる。また入手データーが質の高い情報を提供するとは限らない。すなわち，高度情報化に伴うデーター量の増大は，かえってコミュニケーションや相互理解を妨げかねず，情報の質を低下させる危険性の方が大きいのである。かかる時代，国際コミュニケーションに最も必要な課題は，今まで以上に相手のもつ固有の歴史，文化，伝統や政治・経済・社会に関する思想・制度を深く理解し，「相手の偏見や誤解を解消し，自らの意思を適切に相手に受容させる」発信能力と「状況を正しく把握し，相手の意思を深く洞察する」受信能力の向上を図ることである。そこで，本演習では「IT革命」の国際情報戦略上の影響を探り，更に諸国，諸民族の歴史，文化，伝統を比較し，国際文化交流の担い手に必要な，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔教材〕
追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
演習への参加状況（２割），演習参加の積極性，報告内容，リポート等（あわせて８割）によって総合的に判断し，60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
学外講師（研究者，官僚，国際機関幹部，ジャーナリスト等）による特別講義や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。また春合宿，夏合宿も予定している。国際政治，外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　導入講義
第３週　テキスト輪読と討論
第４週　報告と討論
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IG・IIIG

3621010100700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENV-307-IY ENV-455-IY

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性，相互連関性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるるとともにその過程を通じて，異分野間，異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては，いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読，（場合によっては）東京近傍における現地調査，実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング，クラスでのグループディスカッショ等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は，環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより，社会，経済，文化，自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに，政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回４時間程度の負荷で，次回で使用する資料のレジュメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

授業中の議論（20%），小レポート（２～３回：30%），期末レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日５時間目
20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は，基礎演習G地球環境論I,IIのセット,環境科学I，環境経済学，国際関係基礎論Ⅱのいずれかを受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球温暖化防止政策：日本
第３週　地球温暖化防止政策：EU
第４週　地球温暖化防止政策：米国
第５週　水政策：日本
第６週　水政策：EU
第７週　水政策：米国
第８週　水政策：豪州
第９週　バイオマス政策：日本
第10週　バイオマス政策：EU
第11週　バイオマス政策：米国
第12週　景観・生物多様性保全政策：日本
第13週　景観・生物多様性保全政策：EU
第14週　景観・生物多様性保全政策：米国
第15週　総合討論

国際コミュニケーション演習IH・IIIH

3621010100800

副　題	宗教と民族									担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-308-IY HIS-456-IY

〔授業の到達目標〕

西洋史における宗教と民族の対立の問題を通史的に理解する。

〔授業の内容〕

西洋の歴史においては，常に宗教対立，民族対立が見られ，これが時には歴史を動かす要因となってきた。その歴史を学び，現代に生きる我々はそこから何を教訓として選び取るのか考える。

３年生は指定されたテキストの個所をレジュメにまとめ発表し，４年生は卒業論文の構想を学期内に最低１度は報告する。

〔教材〕

初回の授業で教科書を一斉購入する。採用教科書は第一回目の授業で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度と報告等，総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後30分。

メール等。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：自己紹介，報告者の決定など
第２週　文献講読
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　課外授業
第９週　文献講読＋４年生卒論構想発表
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　予備日

国際コミュニケーション演習II・III I

3621010100900

副　題	東アジアの歴史と社会							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	HIS-309-IY HIS-457-IY

〔授業の到達目標〕

近現代の東アジアの歴史と社会の動きを理解し，また現在の日本社会について様々な角度から考える視座を身に着ける。

〔授業の内容〕

演習では，日本および東アジアに関連した歴史学的，社会学的な研究を講読する。参加者は，各自が担当する文献の内容について発表し，皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には，各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては，事前にガイダンスをおこない指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し，報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も，事前に文献を読み，適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（発言・報告等　40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　自己紹介・オリエンテーション
第 2 週　文献講読・発表・ディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　研究計画発表
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習I J

3621010101000

副　題	教育改革を考える							担　当　者	大桃　敏行　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	EDU-310-IY

〔授業の到達目標〕

教育の制度や改革に関する専門的知識を習得し，教育改革について理解を深める。あわせて，教育に関する研究方法の基本的事項を習得する。

〔授業の内容〕

教育の制度や改革に関する論文の講読と発表，討議を中心に授業を進める。対象とする論文は，受講生の関心を聞いて決めたい。あわせて，教育の研究方法に関する文献の講読を通して，基本的な研究方法を学ぶ。

〔教材〕

参考書：秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー―学校参加型マインドへのいざない』初版，東京大学出版会，2005年

教科書は使用しない。授業で用いる文献はプリントして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて 4 時間程度。

〔成績評価の方法〕

授業での発表（60%）と最終レポート（40%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日 2 時限及び随時。

連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　教育改革の概要に関する講義
第 3 週　教育の制度や改革に関する文献の講読・発表・討議
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　教育の研究方法に関する文献の講読・発表・討議
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　全体のまとめ

国際コミュニケーション演習IK・IIIK

3621010101100

副　題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究							担　当　者	羅　京洙　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ARE-311-IY ARE-459-IY

〔授業の到達目標〕
東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在，南北コリアがいかにして「地域の一員」として関わっていくのか，大きな関心が寄せられている。本演習は，東アジアの中の朝鮮半島を，「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕
東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や，朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし，東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では，朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を，比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ，担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバリゼーションが進む中，東アジアでは，人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には，文化の移動も伴われ，互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕
特定の教科書は用いないが，指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕
演習への参加態度・貢献度（30%），研究報告（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
演習の内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔備考〕
本演習は，受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として，（１）関連文献の輪読とディスカッション，（２）学生によるプレゼンテーション，（３）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また，第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や，（学生主体・自由参加の形で）フィールドワークの機会を設けることも計画している。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　文献講読と討論（１）
第３週　文献講読と討論（２）
第４週　文献講読と討論（３）
第５週　文献講読と討論（４）
第６週　プレゼンテーションと討論（１）
第７週　プレゼンテーションと討論（２）
第８週　プレゼンテーションと討論（３）
第９週　プレゼンテーションと討論（４）
第10週　プレゼンテーションと討論（５）
第11週　プレゼンテーションと討論（６）
第12週　プレゼンテーションと討論（７）
第13週　プレゼンテーションと討論（８）
第14週　プレゼンテーションと討論（９）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション演習IL・IIIL

3621010101200

副　題	ヨーロッパ文化の諸問題－ルネサンスの視点より							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	PHL-312-IY PHL-460-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパにおける思想・文化の背景にキリスト教や古代のギリシャ・ローマ文明が深くかかわっていることを知り，ルネサンス文化の意義を考察する。

〔授業の内容〕

ルネサンスを軸にヨーロッパ的文化の諸相を考え，私たちとの関係も考える場にしたい。この演習を希望する者の意見や関心を聞いたうえで使用テクストなどを決め，受講生には適宜，関心テーマ，卒論に向けた発表報告を期待したい。

〔教材〕

読んでいくテクストは外国語（英語）文献の場合もありうる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間以上。

〔成績評価の方法〕

演習参加への熱意（40%）とレポート（60%）で判断。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日 5 時間目
学内メールアドレス

〔備考〕

適宜，受講生にも関心テーマの発表を行なってもらう形式を取り入れる。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ヨーロッパ文化の諸相―古典古代とルネサンス・近代の関係
第 2 週　以下，先の各週と関わるテキストの精読
第 3 週　同上
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括
グローバルな世界の流れを理解する機会としたい。

国際コミュニケーション演習IM・IIIM

3621010101300

副　題	国際法と国内法の基本問題							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LAW-313-IY LAW-461-IY

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実に生じている問題を国際法･国内法の観点から検討し，卒業論文の作成に必要な調査，分析，報告を行う。他の受講生との議論を通じて，研究の知見や作法を共有する。

〔授業の内容〕

本演習は，現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと，諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で，素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる），その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる），その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが，本演習の目的である。

〔教材〕

参考書：佐藤望［他］『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

受講生は，各自の卒論テーマを報告するうえで不可欠となる主要な参考文献を予め渉猟し，紹介できるようにすること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．報告者は，指示された要領に従い報告原稿，レジュメを準備すること。

２．報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正すること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。

（１）演習への参加態度（毎回の出席，所定の報告，討論への参加，課外活動への参加等）

（２）その他，ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。

Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として，受講生には以下の諸点が求められる。

（１）『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していること。

（２）ゼミ開講時までに，別に指示する課題図書を読了していること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス

第２週　使用教材の概要説明，演習の受け方・心得等

第３週　受講生による個別報告（１）

第４週　受講生による個別報告（２）

第５週　受講生による個別報告（３）

第６週　受講生による個別報告（４）

第７週　受講生による個別報告（５）

第８週　受講生による個別報告（６）

第９週　受講生による個別報告（７）

第10週　受講生による個別報告（８）

第11週　受講生による個別報告（９）

第12週　受講生による個別報告（10）

第13週　受講生による個別報告（11）

第14週　受講生による個別報告（12）

第15週　受講生による個別報告（13）

国際コミュニケーション演習IN・IIIN

3621010101400

副　題	比較生活文化研究							担　当　者	乾　尚彦　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-314-IY ANT-462-IY

〔授業の到達目標〕

人間が地球に住むためにつくりだした具体的な環境，文化を対象にする。これらを比較することで，その特質や異文化に対する理解を深めるのが目的である。

〔授業の内容〕

まず，世界各地の都市，建築，生活文化を比較研究することを主題にした研究論文を読んでいく。毎回，発表者は，自分の関心に応じた論文を検索し，更にその内容に関連した文献をさがし，文化や対象地域についての基礎的な事項を整理しながら，論文の構成や研究手法，結論について報告する。全員で，その内容について，検討，討論をおこなう。これらを通して，比較文化研究に必要な基礎的な事項，基礎文献，資料探索法について習熟を深めるとともに，研究論文とはどうあるべきか，どのような要素を必要とするかについて把握していく。次に，フィールドワークの実例を通して，その技術や方法論について学んでいく。

また，毎回，世界各地の建築，世界遺産を数例とりあげ，建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告内容のレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート，演習への参加態度，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日 4 限（事前にメールで申し込むこと）
ninui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　建築文化の資料探索法
第 2 週　建築文化に関する研究論文 1
第 3 週　建築文化に関する研究論文 2
第 4 週　建築文化に関する研究論文 3
第 5 週　建築文化に関する研究論文 4
第 6 週　フィールドワーク論　今和次郎の悉皆調査
第 7 週　フィールドワーク論　路上観察学会の視力・妹尾河童の表現力
第 8 週　フィールドワーク論　参与観察とは
第 9 週　フィールドワーク論　民家の見方調べ方・デザインサーヴェイの方法
第10週　フィールドワーク論　映像人類学の方法
第11週　フィールドワーク論　旅行記か論文か
第12週　フィールドワーク論　分類とは何か
第13週　フィールドワーク論　文化の記述方法
第14週　まとめ 1
第15週　まとめ 2

国際コミュニケーション演習IO・IIIO

3621010101500

副　題	English and Its Culture I							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ENG-315-IY ENG-463-IY

〔授業の到達目標〕
　３年次（演習I）では２年次までに培った英語力をさらに伸ばしつつシェイクスピアをとおして演劇文化および英国文化の理解を深める。また特に英語史関連の文献講読をとおして，４年次における卒論作成へのステップとする。４年次は前半期において，参考文献の入手，データ分析など本格的な卒論作成にむけての準備を行う。

〔授業の内容〕
　英語という言語は，16－７世紀〈シェイクスピアの時代〉までは，たかだかブリテン島というちっぽけな島国の中で使われるゲルマン語の一末裔にすぎなかった。それが21世紀を迎えたこの時代，今や全世界の共通語として用いられるほどの興隆をみせるまでになった。このように地球全域でコミュニケーションの道具として使われる英語という言語の特色とは何か？その秘密に触れ，問題点を英語学的観点から究明しつつ，各自のテーマを発見し，これを４年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には，英語史の流れを概観しつつ，英語の地名や政治・文化・宗教・生活習慣その他英国のあらゆるものと言葉の結びつきについて考察したい。このため「イギリス」に関連するものを文字情報だけでなく，映像情報をふんだんに駆使して受講者に提供する。したがって受講希望者は基本的に「イギリスが好き」であることが条件となる。また，５月に来日する英国劇団の本学公演の上演スタッフとしての参加も必修とする。

〔教材〕
　各受講生の希望するテーマに沿った教材プリントを使用する。他にドキュメンタリー番組のビデオなど視聴覚教材も用いる。参考書については大学図書館にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　教材プリントの発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに調べておくこと。予習・復習に最低各１時間半以上かけること。

〔成績評価の方法〕
　定期試験（70%）の他，ゼミ関連授業および活動の出席状況や予習・発表状況等（30%）を参考とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　月曜３～4時限
　直接研究室へ来訪してもよいが，あらかじめメールで希望の面談日時を連絡することが望ましい。
　個人研究室の，メールアドレスは新学期に受講生に直接伝える。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス・資料プリント類配布
第２週　テキスト講読／受講者発表
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　テキスト講読：受講者発表およびまとめ
2017年５月20日に予定されている英国劇団の本学上演に関しては，上記に述べた目的のため，必ず全員参加すること。また春・秋に予定されている関連授業も必修とする。

国際コミュニケーション演習IP・IIIP

3621010101600

副　題	ヨーロッパ対外交流史の研究							担　当　者	坂野　正則　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	HIS-316-IY HIS-464-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との越境的な文化接触（商業・文学・宗教）と人的移動について理解を深める。

〔授業の内容〕

国別の歴史認識やヨーロッパ・アジア・アメリカ・アフリカに関する単純で通俗的な理解を克服し，複数の地域や領域を横断するヒト・モノ・思想の文明的役割について学ぶ。担当教員は，近世（16－18世紀）フランスと他のヨーロッパ地域や非ヨーロッパ地域（北アメリカ・東アジア）との宗教的接触を専門とするが，その前後の時代やほかの地域（アフリカ・中東・東ヨーロッパなど）や主題について関心をもつ学生も歓迎する。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

全体的には地理に関する理解を深めることが求められる。また関連文献の講読または発表準備も必須である。

〔成績評価の方法〕

報告とレポートの内容（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期のオリエンテーションと自己紹介
第２週　文献講読・発表・ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　これまでの授業内容のまとめ

国際コミュニケーション演習IQ・IIIQ

3621010101700

副　題	国際開発協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	INR-317-IY INR-465-IY

〔授業の到達目標〕
国際協力のあるべき姿を客観的に述べられるようにする。

〔授業の内容〕
【国際コミュニケーション演習　ＩＱ】
「豊かな」先進国と，「貧しい」と言われる開発途上国がある中，地球規模の活動が盛んに行われ，まさに国内外を問わず，地球の全生態系を含めた相互依存の重要性が説かれている。そのような状況の中，ボランティア･国際援助活動の重要性は拡大し続けている。ボランティア，援助活動などは自分が持つ能力，労力，技術，知識を他者に提出することでとどまるのであろうか。または，反対にそのような活動から当事者が得るものの方が多いのではないだろうか。あるいは，どれだけ私たち先進国の人間は，貧困，人権，環境問題，ジェンダーなどについて知り，理解しているのだろうか。「現場から見た視点」を中心に，参加した活動の紹介を通して，実例を挙げながら，ボランティアや国際協力のあり方，展望，参加の仕方について考察する。
【国際コミュニケーション演習　III Q】
国際コミュニケーション演習IとIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか，そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を作成する。

〔教材〕
授業中に指示，配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には４時間以上費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
レポート　40%，発表　40%，授業への参加意欲他　20%
IとIIIでは異なりますので，詳細は授業中に配布する書面で確認してください。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第１回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　INTRODUCTION
第２週　テキスト輪読，発表，ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション演習IR

3621010101800

副　題								担　当　者	小泉　成史　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ICM-318-IY

〔授業の到達目標〕

国際情勢を読み解く力を学生一人一人がつけられようにする。

〔授業の内容〕

幅広国際情勢を全て扱うのではなく，特に日米の科学技術関連の関連に力を入れる。

映像資料を多く扱う。

学生は学期中にエッセイ（テーマは自由）を一人一作品必ず書いて提出すること。レポートとは別。

〔教材〕

参考書：茂木誠『ニュースのなぜは世界史に学べ』（SB新書）SBクリエティブ，２０１５年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献を２時間以上読む。

〔成績評価の方法〕

普段の授業態度の積極性，発言。

学期末のレポート。場合によっては試験も実施。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email:hfd00327●nifty.com（change ● to @）で対応します。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，講師自己紹介
第２週　国際コミュニケーションとは何か？
第３週　演習と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

学部の講義は初めてなので学生の理解能力と知識により随時対応する。

国際コミュニケーション演習IT

3621010102000

副　題	グローバル経済とは何か(その１)							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECO-320-IY

〔授業の到達目標〕

グローバル経済の下，経済・社会活動の国際化がますます進展し，経済問題の多くは世界経済とのかかわりを無視しては考えることができない状況となってきている。国際コミュニケーション演習は，こうした状況のもとで複雑化する経済・社会の国際的相互依存関係を理解するものである。

〔授業の内容〕

国際経済を始めとする経済問題を考える上で基本的な分析ツールとなる経済理論に関する導入を行なう。具体的にはミクロ経済学，統計学や計量経済学の考え方や基本用語を説明し，それらを使った実証分析の手順について述べる。このため取り扱うべきテーマは貿易，金融，FDI，ODA，知的所有権，頭脳流出，国際経済協力の枠組み，WTOの活動等，多岐にわたる。この演習では，経済・社会問題の国際的相互依存関係を，調査，発表，講義を通して考える。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　グローバル経済とは何か。
第２週　需要と供給
第３週　需要曲線と消費者行動
第４週　費用の構造と供給行動
第５週　市場取引と資源配分
第６週　独占と競争の理論
第７週　消費者の理論
第８週　グローバル経済における国際機関の役割
第９週　UNCTAD
第10週　〃
第11週　ITC
第12週　WTO
第13週　OECD
第14週　WIPO
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IU・IIIU

3621010102100

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-321-IY LIF-469-IY

〔授業の到達目標〕

1．体験学習法と答えを教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。

2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jpとasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

金曜日午後に課外活動を実施することがある。金曜日午後の時間割は演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

国際コミュニケーション演習IV・IIIV

3621010102200

副　題	言語学・日本語教育Ⅰ							担　当　者	佐藤 琢三　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	JPL-322-IY JPL-470-IY

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては，言語研究の諸分野に広くふれ，問題の着眼の仕方や研究手法について学ぶ。4年生に関しては，卒業論文作成のための具体的な青写真を描き，実質的な調査等を開始する。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ，他言語との対照，関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には，次のような分野を扱うことになるだろう。

文法，意味，アクセント，語彙，語用論，文章・談話，会話分析，言語行動，敬語・待遇表現，方言，男女差，誤用分析，諸外国語との対照，日本語教育など。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間程度。ただし，発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし，正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜4限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　導入
第2週　昨年の卒論の紹介と講評
第3週　言語変化・若者言葉
第4週　社会言語調査
第5週　日英対照研究（語彙・意味）
第6週　異文化コミュニケーション
第7週　文法
第8週　日英対照研究（発想と表現）
第9週　意味論
第10週　日中（または日韓）対照研究
第11週　通言語的視点から見た日本語
第12週　卒論構想発表
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
授業計画は変更する場合がある。

国際コミュニケーション演習IW・IIIW

3621010102300

副　題	日本語研究の方法							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-323-IY JPL-471-IY

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎（文献検索，コーパス利用，調査，分析，プレゼンテーションなど）を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず，日本語やその他の言語に関する研究書や研究論文などを読む。それぞれの学生が興味･関心のある事柄に関する文献を探し，その内容について，解説，批判，今後の研究の展開の可能性などに関する報告を行う。（初回授業から数回，教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

また，ゼミ旅行に関連する国内外の地域の言語事情についての調査研究発表も行う。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。発表時以外は１～２時間程度の予習（指定された研究書，学術論文などを読んでおく）が必要

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他，討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール（アドレスは初回時に伝える）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明
第２週　具体的な研究方法の検討
第３週　以後は担当学生による発表と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IX・IIIX

3621010102400

副　題	情報システム							担　当　者	江藤　正己　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	INF-324-IY INF-472-IY

〔授業の到達目標〕

３年生
・学術研究に必要な基礎的事項やコンピュータの基礎的知識を修得する
・情報システムの可能性を理解する
４年生
・卒業論文・研究に関連する文献を整理し，自己の研究の学術的意義を明確に主張できる
・卒業論文・研究における調査の具体的な枠組みを設計する

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では，人間の知的活動に関わる文系的な側面から，広い意味での「情報システム」を研究します。

３年生(春学期)は，パワーポイントを使ったプレゼンテーション，情報検索･収集，文献要約，情報システムの調査，エクセルを使ったテキスト分析などをおこないます。４年生は，年間を通じて，卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら，卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(50%)，課題(50%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では，「システムをつくる」ことを選択した場合でも，「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（１）
第３週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（２）
第４週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（３）
第５週　文献要約（１）
第６週　文献要約（２）
第７週　文献要約（３）
第８週　情報システム調査（１）
第９週　情報システム調査（２）
第10週　情報システム調査（３）
第11週　エクセルを使ったテキスト分析（１）
第12週　エクセルを使ったテキスト分析（２）
第13週　エクセルを使ったテキスト分析（３）
第14週　エクセルを使ったテキスト分析（４）
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIA・IVA

3621010200100

副　題	文化財の保護と活用							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	MSE-325-IY MSE-473-IY

〔授業の到達目標〕
社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え，調べる力，文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕
「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば，文化財に指定される対象は，宗教建築から民家へ，単独の記念物から景観へ，高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち，時代，地域，文化的背景の違いによって，文化財を取り巻く価値観も，「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では，文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて，世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。
1）日本における文化財制度調査。文化庁，地方自治体，専門的組織の役割と成果。
2）世界遺産の役割。ユネスコ，国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
3）日本国内と国際機関の比較。特に，文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程，推薦と保護活動，国際協力企画の具体的な事例。
4）文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕
参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉誠出版，2003年
青柳正規『文化立国論：日本のソフトパワーの底力』筑摩書房，2015年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポート［40%］や発表［50%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火・お昼休み
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，日本語の文献はもちろんのこと，英語文献も活用すること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　日本の文化財制度1
第3週　日本の文化財制度2
第4週　日本の文化財制度3
第5週　まとめ
第6週　社会における文化財の役割1
第7週　社会における文化財の役割2
第8週　文化財と世界遺産1
第9週　文化財と世界遺産2
第10週　まとめ
第11週　国内外の比較1
第12週　国内外の比較2
第13週　国内外の比較3
第14週　国内外の比較4
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIC・IVC

3621010200300

副　題	企業家に学ぶ応用経営史							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	MAN-327-IY MAN-475-IY

国際コミュニケーション学科

〔授業の到達目標〕

日本の経営発展の主要なテーマと，それを最もよく体現した企業家をケースとして設定し，経営史を研究します。成果物としてチームでプレ卒論（ひとり約２万字を担当）を執筆していただきます。こうして，卒業後のキャリアを主体的に形成できる実力を涵養します。

〔授業の内容〕

春学期と合宿で養った基礎力をバネに，いよいよプレ卒論の執筆に傾注します。２～3週間に１回の頻度で途中経過を報告し，建設的な批判を議論を重ねながら，内容を高め完成していきます。指定討論者をあらかじめ設定しますが，ゼミ生全員でコメントすることが求められ，そのための予習が必要です。４年生は卒論を執筆します。

〔教材〕

プレ卒論のレジメと草稿が主たる教材となります。適宜，関連する資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1週間当たり概ね10時間程度以上の準備学習が必要になると思われます（プレ卒論の執筆時間を含める）。

〔成績評価の方法〕

演習への貢献（発表，議論への参加等）：50%
プレ卒論：50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：14：45～15：45 (4222研究室)
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔備考〕

経営史は複合的な学術領域であり，現代への含意も大きいため，参加者間で議論することを通じて理解を深めていくことに意味があります。したがって，遅刻・欠席をしないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off（秋学期の目標設定）
第２週　プレ卒論の中間報告とディスカッション，コメント，指導
第３週　同上
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括：プレ卒論・卒論提出
より良い内容にするために本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション演習IID・IVD

3621010200400

副　題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究							担　当　者	中島　崇文　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ARE-328-IY ARE-476-IY

〔授業の到達目標〕

秋学期に引き続き，中･東欧の歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に，各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と文献講読を織り交ぜたものとなる。秋学期には４年生による卒業論文の最終発表が中心となる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず，他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。また，３年生による中間発表も行われる。教科書も春学期より継続して読み進める。

〔教材〕

教科書：柴宜弘『図説バルカンの歴史』新装版，河出書房新社，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自の研究発表の際にはしっかりしたレジュメを準備すること。また，教科書は全員が事前に熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%),授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスはゼミのガイダンス等で既にお知らせしている通りである)。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明，文献講読
第２週　卒業論文中間発表（３年生)，文献講読
第３週　〃
第４週　〃
第５週　卒業論文最終発表（４年生)，文献講読
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　卒業論文中間発表（３年生)，文献講読
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IIE・IVE

3621010200500

副　題	日本の政治文化の特質							担　当　者	畠山 圭一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	POL-329-IY POL-477-IY

〔授業の到達目標〕

国際関係，国際政治，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕

春学期に引き続き，「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察するが，秋学期では，相手の偏見や誤解を解消し，自らの思想や意図を相手に適切に伝えるには，いったい，どのような情報発信が必要かという点に注目して演習を進めたい。意思伝達にとって重要なことは，伝えようとする物事の本質を深く知り，さらにそれを相手に理解できるように説明することである。本演習では「日本の政治文化の特質」や「日本の国家理念」等についての検討を加え，対日誤解を解き，日本の思想や意図を的確に伝えるためにはどのような説明が必要であるかを検討する。また，年度の最後に「日本の国際戦略」を総合テーマに各グループからの研究報告も行ってもらう。

〔教材〕

追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

演習への参加状況（２割)，演習参加の積極性，報告内容，リポート等（あわせて８割）によって総合的に判断し，60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕

月に１回程度，学外講師（研究者，官僚，国際機関幹部，ジャーナリスト等）による特別授業や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。秋合宿または冬合宿も予定している。国際政治，外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入講義
第２週　テキスト輪読と討論
第３週　報告と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション演習IIG・IVG

3621010200700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENV-331-IY ENV-479-IY

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性，相互連関性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるるとともにその過程を通じて，異分野間，異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては，いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読，（場合によっては）東京近傍における現地調査，実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング，クラスでのグループディスカッショ等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は，環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより，社会，経済，文化，自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに，政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回４時間程度の負荷で，次回で使用する資料のレジュメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

授業中の議論（20%），小レポート（２～３回：30%），期末レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日５時間目
20070095●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は，基礎演習G地球環境論I,IIのセット,環境科学I，環境経済学，国際関係基礎論Ⅱのいずれかを受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球温暖化防止政策：日本
第３週　地球温暖化防止政策：EU
第４週　地球温暖化防止政策：米国
第５週　水政策：日本
第６週　水政策：EU
第７週　水政策：米国
第８週　水政策：豪州
第９週　バイオマス政策：日本
第10週　バイオマス政策：EU
第11週　バイオマス政策：米国
第12週　景観・生物多様性保全政策：日本
第13週　景観・生物多様性保全政策：EU
第14週　景観・生物多様性保全政策：米国
第15週　総合討論

国際コミュニケーション演習IIH・IVH

3621010200800

副　題	宗教と民族							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-332-IY HIS-480-IY

〔授業の到達目標〕

西洋史における宗教と民族の対立の問題を通史的に理解する。

〔授業の内容〕

西洋の歴史においては，常に宗教対立，民族対立が見られ，これが時には歴史を動かす要因となってきた。その歴史を学び，現代に生きる我々はそこから何を教訓として選び取るのか考える。

3年生は指定されたテキストの個所をレジュメにまとめ発表する。また卒論構想も発表する。4年生は，9・10月に卒論の中間発表を行い，11・12月に個別に卒業論文の添削指導を行う。

〔教材〕

教科書は前期のものを継続使用。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度と報告等，総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜4時限後30分
メール等。

〔授　業　計　画〕

第1週　文献購読＋4年卒論報告
第2週　文献講読＋4年卒論報告
第3週　〃
第4週　〃
第5週　文献講読
第6週　〃
第7週　〃
第8週　課外授業＋4年生卒論添削
第9週　文献講読＋4年生卒論添削
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　3年卒論構想発表
第14週　〃
第15週　予備日

国際コミュニケーション演習II I・IV I

3621010200900

副　題	東アジアの歴史と社会							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	HIS-333-IY HIS-481-IY

〔授業の到達目標〕

近現代の東アジアの歴史と社会の動きを理解し，また現在の日本社会について様々な角度から考える視座を身に着ける。

〔授業の内容〕

演習では，日本および東アジアに関連した歴史学的，社会学的な研究を講読する。参加者は，各自が担当する文献の内容について発表し，皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には，各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては，事前にガイダンスをおこない指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し，報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も，事前に文献を読み，適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（発言・報告等　40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com（change ● to @））

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　自己紹介・オリエンテーション
第 2 週　文献講読・発表・ディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　研究計画発表
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習II J

3621010201000

副　題	教育改革を考える							担　当　者	大桃　敏行　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	EDU-334-IY

〔授業の到達目標〕

教育改革に関する専門的知識を習得し，自らのテーマを設定して研究を進められるようになる。あわせて，教育に関する研究方法について理解を深める。

〔授業の内容〕

教育政策や教育改革の事例分析と発表，討議を中心に授業を進める。対象事例は日本だけでなく，ユネスコやOECDなどの国際機関や諸外国を含めるが，受講生の関心を聞いて決めたい。あわせて，教育の研究方法に関する文献の講読を通して，研究方法について理解を深める。授業の終盤ではそれぞれの研究テーマと方法について発表を行う。

〔教材〕

参考書：秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー―学校参加型マインドへのいざない』初版，東京大学出版会，２００５年

教科書は使用しない。授業で用いる文献はプリントして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて４時間程度。

〔成績評価の方法〕

授業での発表（60%）と最終レポート（40%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日２時限及び随時。

連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　教育の政策や改革に関する事例分析・発表・討議
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　教育の研究方法に関する文献の講読・発表・討議
第11週　〃
第12週　〃
第13週　研究テーマと方法の発表と討議
第14週　〃
第15週　全体のまとめ

国際コミュニケーション演習IIK・IVK

3621010201100

副　題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ARE-335-IY ARE-483-IY

〔授業の到達目標〕

東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在，南北コリアがいかにして「地域の一員」として関わっていくのか，大きな関心が寄せられている。本演習は，東アジアの中の朝鮮半島を，「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕

東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や，朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし，東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では，朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を，比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ，担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバリゼーションが進む中，東アジアでは，人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には，文化の移動も伴われ，互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），研究報告（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の演習時に案内する。

〔備考〕

本演習は，受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として，（１）関連文献の輪読とディスカッション，（２）学生によるプレゼンテーション，（３）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また，第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や，（学生主体・自由参加の形で）フィールドワークの機会を設けることも計画している。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　文献講読と討論（１）
第３週　文献講読と討論（２）
第４週　文献講読と討論（３）
第５週　文献講読と討論（４）
第６週　プレゼンテーションと討論（１）
第７週　プレゼンテーションと討論（２）
第８週　プレゼンテーションと討論（３）
第９週　プレゼンテーションと討論（４）
第10週　プレゼンテーションと討論（５）
第11週　プレゼンテーションと討論（６）
第12週　プレゼンテーションと討論（７）
第13週　プレゼンテーションと討論（８）
第14週　プレゼンテーションと討論（９）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション演習ⅡL・ⅣL

3621010201200

副　題	中世イタリアの港湾都市を知る									担　当　者	亀長　洋子　講師
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	PHL-336-IY PHL-484-IY

〔授業の到達目標〕

中世イタリアの港湾都市の様相を様々な角度から考察し，人々の思想や行動が時代の個性の中で展開していくのを理解し，現代社会に生きる我々自らのあり方を問いかける。

〔授業の内容〕

上記副題に関連するテクストを輪読する。

4年生は卒論に向けた各自のテーマを絞っていくために口頭発表などを行うこととする。

3年生については，自身が関心を抱くテーマを展開するための助言を行う時間を授業時間内に設定する。

〔教材〕

外国語テクスト（こちらで準備する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間。

〔成績評価の方法〕

出席と授業時の態度によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の後に声をかけてください。

〔授　業　計　画〕

第1週　参加者の顔合わせ
第2週　テキスト講読と発表
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIM・IVM

3621010201300

副　題	国際法と国内法の基本問題							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LAW-337-IY LAW-485-IY

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実に生じている問題を国際法･国内法の観点から検討し，卒業論文の作成に必要な調査，分析，報告を行う。他の受講生との議論を通じて，研究の知見や作法を共有する。

〔授業の内容〕

本演習は，現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと，諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で，素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる），その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる），その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが，本演習の目的である。

〔教材〕

参考書：佐藤望［他］『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

受講生は，各自の卒論テーマを報告するうえで不可欠となる主要な参考文献を予め渉猟し，紹介できるようにすること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．報告者は，指示された要領に従い報告原稿，レジュメを準備すること。
２．報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正すること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。
（１）演習への参加態度（毎回の出席，所定の報告，討論への参加，課外活動への参加等）
（２）その他，ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として，受講生には以下の諸点が求められる。
（１）『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していること。
（２）ゼミ開講時までに，別に指示する課題図書を読了していること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　使用教材の概要説明，演習の受け方・心得等
第３週　受講生による個別報告（１）
第４週　受講生による個別報告（２）
第５週　受講生による個別報告（３）
第６週　受講生による個別報告（４）
第７週　受講生による個別報告（５）
第８週　受講生による個別報告（６）
第９週　受講生による個別報告（７）
第10週　受講生による個別報告（８）
第11週　受講生による個別報告（９）
第12週　受講生による個別報告（10）
第13週　受講生による個別報告（11）
第14週　受講生による個別報告（12）
第15週　受講生による個別報告（13）

国際コミュニケーション演習IIN・IVN

3621010201400

副　題	比較生活文化研究							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-338-IY ANT-486-IY

〔授業の到達目標〕

文化をフィールドワークによって調べるための基礎を習得する。

〔授業の内容〕

春学期に続いて，フィールドワークの具体的な事例を個別にとりあげ，実際の技術について学んでいく。その上で，実際のフィールドワークを実施（演習の時間外に数日かけて行う），文化を記録する方法について考える。また，翌年度の卒業論文への導入として，4000字程度の小論文を作製し，論文の書き方について学ぶ。

春学期同様，毎回，世界各地の建築，世界遺産を数例とりあげ，建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告のためのレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート，演習への参加態度，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４限（事前にメールで申し込むこと）

niniui●aorod.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　フィールドワークの方法論
第２週　フィールドワークの準備と計画１
第３週　フィールドワークの準備と計画２
第４週　論文の書き方
第５週　先行研究の把握１
第６週　先行研究の把握２
第７週　先行研究の把握３
第８週　小論文を書く１
第９週　小論文を書く２
第10週　小論文を書く３
第11週　小論文を書く４
第12週　小論文を書く５
第13週　小論文を書く６
第14週　論文発表会１（パワーポイント，キーノートなどによる）
第15週　論文発表会２（パワーポイント，キーノートなどによる）

国際コミュニケーション演習IIO・IVO

3621010201500

副　題	English and Its Culture II							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ENG-339-IY ENG-487-IY

〔授業の到達目標〕

３年生はゼミにおける最後の学びの時間として，卒論作成に必要となる論文・参考文献の読み方を訓練する。また４年生は，卒論作成にむけて綿密な計画を立て，個別指導により卒論完成を目指す。

〔授業の内容〕

春学期に続いて英国文化と英語史の流れを，テキストをとおして概観しつつ，歴史の各節目における英国および英語の特徴・問題点を把握することを秋学期の主な目標とする。また英語という言語に代表される英国の諸文化と言葉の結びつきについても考察したい。ルネサンス以降，英語は，新世界の発見・植民地化にともない飛躍的な発展を見ることになる。そして二つの大きな世界戦争（特に第二次世界大戦）をとおして世界の共通語としての地位を獲得するに至っていく。そのプロセスにおける英語という言語の特色とは何か？その秘密に触れ，問題点を英語学的観点から究明しつつ，各自のテーマを発見し，これを４年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には，Shakespeareや聖書の現代英語における影響，また近代における「様々な英語」の発達史を，テキストをとおして概観する。さらに卒業論文・卒業研究に必要となるであろうその他の研究論文・参考資料等にもあたり，その読み方等も訓練する。

〔教材〕

教材としては，テキストのほかにCD・映画のビデオなど視聴覚教材もふんだんに用いる。参考書については大学図書館，個人研究室にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業における発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに２～3時間を目安として調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席(10%),レポート(10%)，プレゼンテーション(10%)，関連する授業（外国語演習，英語学概論，イギリス文化論など）及び学期末試験(70%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～４時限

直接個人研究室に来訪してもよいが，面談を確実に行うためには，希望の日時をあらかじめメールで連絡しておくこと。メールアドレスは学期始めに受講生に伝える。

〔備考〕

４年生は別に設ける時間帯において卒論指導を行う。毎週指定された卒論指導を受けなかった場合，また指導に従わない場合には卒論の評価を行わないので十分に注意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　英国と英語文化について／テキスト講読および発表
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIP・IVP

3621010201600

副　題	ヨーロッパ対外交流史の研究							担　当　者	坂野　正則　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	HIS-340-IY HIS-488-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との越境的な文化接触（商業・文学・宗教）と人的移動について理解を深める。並行して卒業論文作成の準備を進める。

〔授業の内容〕

国別の歴史認識やヨーロッパ・アジア・アメリカ・アフリカに関する単純で通俗的な理解を克服し，複数の地域や領域を横断するヒト・モノ・思想の文明的役割について学ぶ。担当教員は，近世（16－18世紀）フランスと他のヨーロッパ地域や非ヨーロッパ地域（北アメリカ・東アジア）との宗教的接触を専門とするが，その前後の時代やほかの地域（アフリカ・中東・東ヨーロッパなど）や主題について関心をもつ学生も歓迎する。なお，秋学期には，卒業論文の主題の見つけ方や文献探索についても入門的指導を行う。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

全体的には地理に関する理解を深めることが求められる。また関連文献の講読または発表準備も必須である。

〔成績評価の方法〕

報告とレポートの内容（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　秋学期のオリエンテーション
第２週　文献講読・発表・ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　卒業論文作成について
第11週　発表・ディスカッション
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　これまでの授業内容のまとめ

国際コミュニケーション演習IIQ・IVQ

3621010201700

副　題	国際開発協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	INR-341-IY INR-489-IY

〔授業の到達目標〕
自分の問題意識に基づき卒業論文執筆の準備，発表をする。

〔授業の内容〕
【国際コミュニケーション演習　II Q】
国際コミュニケーション演習Iでは国際援助・協力活動に実際に参加した。その現場体験をふまえ，それらの活動が意味することを考察する。また，現場で認識された問題などの解決法をさぐるためのグループディスカッションなどを行う。前半は，参加した活動内容を基盤に，研究テーマを選択し，個別のテーマに関連する分野の文献を広範に読み，レポートする。後半は，研究テーマを発表する。
【国際コミュニケーション演習　IV Q】
国際コミュニケーション演習I, II, IIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか，そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を完成させる。

〔教材〕
演習時に指定。プリント使用。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には4時間以上費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
レポート　40%，発表　40%，授業への参加意欲他　20%
IIとIVでは異なりますので，授業内で配布する書面にて詳細を確認してください。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合,必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第1週　INTRODUCTION
第2週　テーマ発表，ディスカッション
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション演習IIR

3621010201800

副　題	国際関係・メディア・世論							担　当　者	石澤　靖治　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ICM-342-IY

〔授業の到達目標〕

日本を中心とした国際関係の争点を理解する。その際にメディアと情報がどのように影響しているのかを理解できるようにする。自らの考えを文章で表現できるようにする。

〔授業の内容〕

担当者が，毎回国際ニュースについての解説プレゼンを行う。日本を中心とした国際関係・メディア・世論について学んでいくが，それらは受講生のプレゼンと教員の解説，ディスカッションにより行う。コラムを書く。学期の最後に卒論のテーマにつながるものについての個人研究を行い提出する。場合によってはゼミからの情報発信を行う。

〔教材〕

教科書:石澤靖治『テキスト現代ジャーナリズム論』(Minerva Text Library）ミネルヴァ書房，2008年

その他，随時指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間。

〔成績評価の方法〕

授業での発表・発言，提出するコラム，研究レポート。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：12：30〜13：00

emailによる

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　メディア分析・国際情勢分析 1
第 3 週　メディア分析・国際情勢分析 2
第 4 週　メディア分析・国際情勢分析 3
第 5 週　メディア分析・国際情勢分析 4
第 6 週　メディア分析・国際情勢分析 5
第 7 週　メディア分析・国際情勢分析 6
第 8 週　メディア分析・国際情勢分析 7
第 9 週　メディア分析・国際情勢分析 8
第10週　個人研究の発表 1
第11週　個人研究の発表 2
第12週　個人研究の発表 3
第13週　個人研究の発表 4
第14週　個人研究の発表 5
第15週　まとめ

状況によって内容と進行が変わることがある。その際は初回に示す。

国際コミュニケーション演習IIT

3621010202000

副　題	グローバル経済とは何か(その２)							担　当　者	宇野　公子　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECO-344-IY

〔授業の到達目標〕

グローバル経済の下，経済活動の国際化がますます進展し，経済問題の多くは世界経済とのかかわりを無視しては考えることができない状況となってきている。国際コミュニケーション基礎演習は，こうした状況のもとで複雑化する経済の国際的相互依存関係を，経済学的に理解するものである。

〔授業の内容〕

国際経済を始めとする経済問題を考える上で基本的な分析ツールとなるマクロ経済理論に関する導入を行なう。又，統計学と計量経済分析を概説する。具体的には統計学や計量経済学の考え方や基本用語を説明し，それらを使った実証分析の手順について述べる。このため取り扱うべきテーマは保健，労働，人権，女性，難民，国際経済協力の枠組み等，多岐にわたる。この基礎演習では，経済･社会問題の国際的相互依存関係を，調査，発表，講義を通して考える。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『入門経済学』第4版，東洋経済，2012年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　経済をマクロからとらえる。
第２週　有効需要と乗数メカニズム
第３週　貨幣の機能
第４週　マクロ経済政策
第５週　インフレと失業
第６週　財政政策のマクロ経済分析
第７週　経済成長と経済発展
第８週　国際経済学
第９週　グローバル経済における国際機関の役割
第10週　WHO･ UNAIDS
第11週　The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria
第12週　ILO
第13週　UNHCR
第14週　UNOCHA
第15週　UNOHCHR

国際コミュニケーション演習IIU・IVU

3621010202100

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-345-IY LIF-493-IY

〔授業の到達目標〕

1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕

1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕

ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕

1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jpとasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

国際コミュニケーション演習IIV・IVV

3621010202200

副　題	言語学・日本語教育 II									担　当　者	佐藤 琢三　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	JPL-346-IY JPL-494-IY

〔授業の到達目標〕

3年生に関しては，具体的な問題に着眼し試験的に小規模な調査等を実施する。また，卒業論文作成をみすえて，中間論文を執筆する。4年生に関しては，卒業論文の完成を目指し，研究の総仕上げを行う。

〔授業の内容〕

現代日本語を中心としつつ，他言語との対照，関連領域の諸問題も含めて幅広く研究する。より具体的には，次のような分野を扱うことになるだろう。

文法，意味，アクセント，語彙，語用論，文章・談話，会話分析，言語行動，敬語・待遇表現，方言，男女差，誤用分析，諸外国語との対照，日本語教育など。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各2時間程度。ただし，発表とレポートの準備には相当の時間を必要とするであろう。

〔成績評価の方法〕

レポートにより評価する。ただし，正当な理由なき遅刻と欠席は減点の対象となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜4限
emailによる
takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　4年生による卒論発表
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　3年生による中間論文に向けた発表
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
授業計画は変更する場合がある。

国際コミュニケーション演習IIW・IVW

3621010202300

副　題	言語研究の可能性							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-347-IY JPL-495-IY

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し，その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても，研究対象である言語をどのような視点から，どのような存在としてみるのかによって，さまざまな内容の研究がある。まず，言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り，次にその中から，自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また，秋学期のはじめに，４年次学生の卒業論文の中間発表を行い，卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は，準備のための時間が10時間以上必要。発表時以外は１～２時間程度の予習（あらかじめ指定された文献を読んでおく）が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容，発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また，最低でも開講時数の２／３以上の出席が必要。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メールによる（アドレスは初回時に伝える）

〔授　業　計　画〕

第１週　卒業論文執筆の注意事項
第２週　卒業論文中間発表１
第３週　卒業論文中間発表２
第４週　卒業論文中間発表３
第５週　卒業論文中間発表４
第６週　さまざまな言語研究１
第７週　さまざまな言語研究２
第８週　共時態に関する研究
第９週　過去の言語に関する研究
第10週　卒業論文着想発表１
第11週　卒業論文着想発表２
第12週　卒業論文着想発表３
第13週　卒業論文着想発表４
第14週　卒業論文着想発表５
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習ⅡX・ⅣX

3621010202400

副　題	情報システム									担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	INF-348-IY INF-496-IY

〔授業の到達目標〕

３年生
・情報システムの特長や問題点を深く理解する
・４年次に卒業論文・研究として取り組む「リサーチクエッション」を見つける
４年生
・卒業論文・研究に関する調査の結果を整理・考察し，成果を文章の形でまとめる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では，人間の知的活動に関わる文系的な側面から，広い意味での「情報システム」を研究します。

３年生(秋学期)は，情報システムをつくる過程を一通り体験します。具体的には，グループ単位で，小規模な簡易情報システムをソフトウェアやウェブサービス等を用いて構築します。その後，アンケート調査やインタビュー調査等によって評価をおこない，つくったシステムの問題点や情報システムの意義について考えます。４年生は，年間を通じて，卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら，卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(50%)，課題(50%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では，「システムをつくる」ことを選択した場合でも，「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報システムの設計（１）
第３週　情報システムの設計（２）
第４週　情報システムの設計（３）
第５週　情報システムの構築（１）
第６週　情報システムの構築（２）
第７週　情報システムの中間評価
第８週　情報システムの構築（３）
第９週　情報システムの構築（４）
第10週　情報システムの構築（５）
第11週　情報システムの最終評価（１）
第12週　情報システムの最終評価（２）
第13週　期末発表（１）
第14週　期末発表（２）
第15週　まとめ

卒業研究（春）

3621091100200

副　題								担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-401-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

所属するゼミ教員と連絡。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業研究（秋）

3621091100100

副　題								担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-402-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

所属するゼミ教員と連絡。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業論文（春）

3621091200200

副　題								担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-403-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

所属するゼミ教員と連絡。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業論文（秋）

3621091200100

副　題								担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-404-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

所属するゼミ教員と連絡。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

英語コミュニケーション学科

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション基礎演習科目群	英語コミュニケーション基礎演習ⅠA	アメリカ文化論（移民）	ECM-101-EX	1	春		2	岩﨑　光洋	407
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠB	Cross-cultural Communication	ECM-102-EX	1	春		2	G．R．ファリア	408
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠC	異文化コミュニケーション論概論	ECM-103-EX	1	春		2	田島　千裕	409
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠD	「国際共通語」としての英語	ECM-104-EX	1	春		2	渡邊　知子	410
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠE	ビジネス英話	ECM-105-EX	1	春		2	C．ウィン	411
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠF	英語学習法	ECM-106-EX	1	春		2	萱　忠義	412
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡA	アメリカ文化論（移民）	ECM-107-EX	1		秋	2	岩﨑　光洋	413
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡB	Cross-cultural Communication	ECM-108-EX	1		秋	2	G．R．ファリア	414
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡC	異文化コミュニケーション論概論	ECM-109-EX	1		秋	2	田島　千裕	415
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡD	「国際共通語」としての英語	ECM-110-EX	1		秋	2	渡邊　知子	416
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡE	ビジネス英話	ECM-111-EX	1		秋	2	C．ウィン	417
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡF	英語学習法	ECM-112-EX	1		秋	2	萱　忠義	418
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢA	アメリカ文化論（移民）	ECM-213-EX	2	春		2	岩﨑　光洋	407
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢB	Cross-cultural Communication	ECM-214-EX	2	春		2	G．R．ファリア	408
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢC	異文化コミュニケーション論概論	ECM-215-EX	2	春		2	田島　千裕	409
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢD	「国際共通語」としての英語	ECM-216-EX	2	春		2	渡邊　知子	410
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢE	ビジネス英話	ECM-217-EX	2	春		2	C．ウィン	411
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢF	英語学習法	ECM-218-EX	2	春		2	萱　忠義	412
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣA	アメリカ文化論（移民）	ECM-219-EX	2		秋	2	岩﨑　光洋	413
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣB	Cross-cultural Communication	ECM-220-EX	2		秋	2	G．R．ファリア	414
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣC	異文化コミュニケーション論概論	ECM-221-EX	2		秋	2	田島　千裕	415
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣD	「国際共通語」としての英語	ECM-222-EX	2		秋	2	渡邊　知子	416
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣE	ビジネス英話	ECM-223-EX	2		秋	2	C．ウィン	417
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣF	英語学習法	ECM-224-EX	2		秋	2	萱　忠義	418
	海外研修A	Studying at the University of Lethbridge	ECM-225-EX	2	春集中		18	岩﨑　光洋	419
	海外研修B	Studying at the University of Lethbridge	ECM-226-EX	2		秋集中	18	岩﨑　光洋	420
英語コミュニケーション演習基礎科目群	TOEIC Basics A	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-101-EV	1	春		2	C．ウィン	421
	TOEIC Basics B	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-102-EV	1	春		2	W．トング	422
	TOEIC Basics C	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-103-EV	1	春		2	ウィルキンソン ヤエコ	423
	TOEIC Skills A	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-104-EV	1		秋	2	C．ウィン	424
	TOEIC Skills B	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-105-EV	1		秋	2	W．トング	425
	TOEIC Skills C	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-106-EV	1		秋	2	ウィルキンソン ヤエコ	426
	Paragraph Writing A	Paragraph Writing	ENG-107-EV	1	春		2	田島　千裕	427
	Paragraph Writing B	Grammar-based Writing	ENG-108-EV	1	春		2	萱　忠義	428
	Paragraph Writing C	パラグラフとは何か。「真似る」から「学ぶ」へ	ENG-109-EV	1	春		2	式町眞紀子	429
	Writing Practice A	Paragraph Writing	ENG-110-EV	1	春		2	田島　千裕	430
	Writing Practice B	Grammar-based Writing	ENG-111-EV	1	春		2	萱　忠義	431

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション英語演習基礎科目群	Writing Practice C	パラグラフとは何か。「真似る」から「学ぶ」へ	ENG-112-EV	1	春		2	式町眞紀子	432
	Essay Writing A	Essay Writing	ENG-113-EV	1		秋	2	田島　千裕	433
	Essay Writing B	Grammar-based Writing	ENG-114-EV	1		秋	2	萱　　忠義	434
	Essay Writing C	エッセイとは何か	ENG-115-EV	1		秋	2	式町眞紀子	435
	Writing Skills A	Essay Writing	ENG-116-EV	1		秋	2	田島　千裕	436
	Writing Skills B	Grammar-based Writing	ENG-117-EV	1		秋	2	萱　　忠義	437
	Writing Skills C	エッセイの書き方	ENG-118-EV	1		秋	2	式町眞紀子	438
	Academic Writing A		ENG-201-EV	2	春		2	S．クレイ	439
	Academic Writing B		ENG-202-EV	2		秋	2	S．クレイ	440
	Presentations A		ENG-203-EV	2	春		2	J．テスター	441
	Presentations B		ENG-204-EV	2		秋	2	J．テスター	442
	Listening Practice A		ENG-205-EV	2	春		2	渡辺　幸俊	443
	Listening Practice B		ENG-206-EV	2		秋	2	渡辺　幸俊	444
	Listening Skills A		ENG-207-EV	2	春		2	渡辺　幸俊	445
	Listening Skills B		ENG-208-EV	2		秋	2	渡辺　幸俊	446
	Discussing Global Issues A		ENG-209-EV	2	春		2	T．スコット	447
	Discussing Global Issues B		ENG-210-EV	2		秋	2	T．スコット	448
	Discussing Business Issues A		ENG-211-EV	2	春		2	G．ディオリオ	449
	Discussing Business Issues B		ENG-212-EV	2		秋	2	G．ディオリオ	450
英語コミュニケーション英語演習専門科目群	Debate A	Effective Arguments	ECM-301-EW	3	春		2	C．トロイ	451
	Debate B	Effective Arguments	ECM-302-EW	3		秋	2	C．トロイ	452
	Business Presentations A		ECM-303-EW	3	春		2	伊藤　直美	453
	Business Presentations B		ECM-304-EW	3		秋	2	伊藤　直美	454
	Business Writing A		ECM-305-EW	3	春		2	T．スコット	455
	Business Writing B		ECM-306-EW	3		秋	2	T．スコット	456
	Discussing Current Issues A		ECM-307-EW	3	春		2	J．テスター	457
	Discussing Current Issues B		ECM-308-EW	3		秋	2	J．テスター	458
	Newspaper English A		ECM-309-EW	3	春		2	S．クレイ	459
	Newspaper English B		ECM-310-EW	3		秋	2	S．クレイ	460
	In-Depth News Listening A	ニュースとビジネス英語のリスニング	ECM-311-EW	3	春		2	C．ウィン	461
	In-Depth News Listening B	ニュースとビジネス英語のリスニング	ECM-312-EW	3		秋	2	C．ウィン	462
英語コミュニケーション専門演習科目群	※英語コミュニケーション特殊演習Ⅰ	聖書と映画	ECM-301-EY	3	春		2	岩﨑　光洋	463
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅱ	アカデミー賞作品とアメリカ文化	ECM-302-EY	3		秋	2	岩﨑　光洋	464
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅲ	Japanese Culture as Seen by Japanese	ECM-303-EY	3	春		2	G．R．ファリア	465
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅳ	Japanese Society	ECM-304-EY	3		秋	2	G．R．ファリア	466
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅴ	Theory of Intercultural Communication	ECM-305-EY	3	春		2	田島　千裕	467
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅵ	Introduction to Comparative Cultural Studies	ECM-306-EY	3		秋	2	田島　千裕	468

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション専門演習科目群	英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ	世界の多様な英語	ECM-307-EY	3	春		2	渡邊　知子	469
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅷ	世界の多様な英語	ECM-308-EY	3		秋	2	渡邊　知子	470
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅸ	Discussing Business Topics	ECM-309-EY	3	春		2	C．ウィン	471
	英語コミュニケーション特殊演習Ⅹ	Discussing Business Topics	ECM-310-EY	3		秋	2	C．ウィン	472
	英語コミュニケーション特殊演習XI	第二言語習得	ECM-311-EY	3	春		2	萱　忠義	473
	英語コミュニケーション特殊演習XII	第二言語習得	ECM-312-EY	3		秋	2	萱　忠義	474
	英語コミュニケーション演習ⅠA	卒業論文作成　Ⅰ	ECM-313-EY	3	春		2	岩﨑　光洋	475
	英語コミュニケーション演習ⅠB	Intercultural Communication	ECM-314-EY	3	春		2	G．R．ファリア	476
	英語コミュニケーション演習ⅠC	Intercultural Communication Competence	ECM-315-EY	3	春		2	田島　千裕	477
	英語コミュニケーション演習ⅠD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-316-EY	3	春		2	渡邊　知子	478
	英語コミュニケーション演習ⅠE	ビジネス英語	ECM-317-EY	3	春		2	C．ウィン	479
	英語コミュニケーション演習ⅠF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-318-EY	3	春		2	萱　忠義	480
	英語コミュニケーション演習ⅡA	卒業論文　Ⅰ	ECM-319-EY	3		秋	2	岩﨑　光洋	481
	英語コミュニケーション演習ⅡB	Intercultural Communication	ECM-320-EY	3		秋	2	G．R．ファリア	482
	英語コミュニケーション演習ⅡC		ECM-321-EY	3		秋	2	田島　千裕	483
	英語コミュニケーション演習ⅡD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-322-EY	3		秋	2	渡邊　知子	484
	英語コミュニケーション演習ⅡE	ビジネス英語	ECM-323-EY	3		秋	2	C．ウィン	485
	英語コミュニケーション演習ⅡF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-324-EY	3		秋	2	萱　忠義	486
	英語コミュニケーション演習ⅢA	卒業論文作成　Ⅰ	ECM-425-EY	4	春		2	岩﨑　光洋	475
	英語コミュニケーション演習ⅢB	Intercultural Communication	ECM-426-EY	4	春		2	G．R．ファリア	476
	英語コミュニケーション演習ⅢC	Intercultural Communication Competence	ECM-427-EY	4	春		2	田島　千裕	477
	英語コミュニケーション演習ⅢD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-428-EY	4	春		2	渡邊　知子	478
	英語コミュニケーション演習ⅢE	ビジネス英語	ECM-429-EY	4	春		2	C．ウィン	479
	英語コミュニケーション演習ⅢF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-430-EY	4	春		2	萱　忠義	480
	英語コミュニケーション演習ⅣA	卒業論文　Ⅰ	ECM-431-EY	4		秋	2	岩﨑　光洋	481
	英語コミュニケーション演習ⅣB	Intercultural Communication	ECM-432-EY	4		秋	2	G．R．ファリア	482
	英語コミュニケーション演習ⅣC		ECM-433-EY	4		秋	2	田島　千裕	483
	英語コミュニケーション演習ⅣD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-434-EY	4		秋	2	渡邊　知子	484
	英語コミュニケーション演習ⅣE	ビジネス英語	ECM-435-EY	4		秋	2	C．ウィン	485
	英語コミュニケーション演習ⅣF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-436-EY	4		秋	2	萱　忠義	486
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）		ECM-401-EZ	4	春集中		8	G．R．ファリア	487
	卒業研究（秋）		ECM-402-EZ	4		秋集中	8	G．R．ファリア	488
	卒業論文（春）		ECM-403-EZ	4	春集中		8	G．R．ファリア	489
	卒業論文（秋）		ECM-404-EZ	4		秋集中	8	G．R．ファリア	490
国際コミュニケーション学科・国際関係学科共通	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、働く意義について考える	MAN-101-IA	1～		秋	2	金城　亜紀	227
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	MAN-202-IA	2～	春		2	田島　博和	228
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（1）	ARE-103-IA	1～	春		2	中島　崇文	229

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	ARE-104-IA	1～		秋	2	中島　崇文	230
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	INR-105-IA	1～	春		2	畠山　圭一	231
	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	INR-106-IA	1～		秋	2	荘林幹太郎	232
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	ENV-107-IA	1～	春		2	荘林幹太郎	233
	環境科学Ⅱ		ENV-108-IA	1～		秋	2	竹田　麻里	234
	マスコミュニケーション論Ⅰ（概論）	メディアと情報社会	SOC-109-IA	1～	春		2	蔡　星慧	235
国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　琢三	236
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　琢三	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241
	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	ARE-107-IB	1～		秋	2	畠山　圭一	242
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	PHL-108-IB	1～	春		2	根占　献一	243
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	ARE-109-IB	1～	春		2	金野　純	244
	イスラム文化論Ⅰ		ARE-110-IB	1～	春		2	高尾賢一郎	245
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246
	比較神話論		ANT-112-IB	1～	春		2	東　由美子	247
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	LIF-113-IB	1～	春		2	真島　麗子	248
	比較居住文化論	建築空間の歴史と居住空間の文化誌	LIF-114-IB	1～	春		2	栗原　伸治	249
国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	ICM-201-IC	2～	春		2	明石　和康	274
	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	国境線から読み解く国際関係史	INR-202-IC	2～		秋	2	舘　葉月	275
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧文化交流にみる近世と近代	INR-203-IC	2～		秋	2	伊藤真実子	276
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		INR-204-IC	2～	春		2	齋藤　洋子	277
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	INR-205-IC	2～		秋	2	畠山　圭一	278
	国際法Ⅰ	分権社会の法	LAW-206-IC	2～	春		2	櫻井　大三	279
	国際法Ⅱ	国家と国際法	LAW-207-IC	2～		秋	2	櫻井　大三	280
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	VOL-208-IC	2～	春		2	野口　朝夫	281
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	VOL-209-IC	2～		秋	2	伊藤由紀子	282
	国際機構論Ⅰ	国際機構の機能とその可能性	INR-310-IC	3～	春		2	小中さつき	283
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	INR-311-IC	3～		秋	2	小中さつき	284
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	INR-212-IC	2～	春		2	伊藤由紀子	285
	国際開発論Ⅱ		INR-213-IC	2～		秋	2	横田香穂梨	286
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ	MAN-214-IC	2～	春		2	金城　亜紀	287
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	MAN-215-IC	2～		秋	2	田島　博和	288
	金融論	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-216-IC	2～		秋	2	宇野　公子	289
	国際経済Ⅰ	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-217-IC	2～	春		2	宇野　公子	290

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際関係専門科目群・国際コミュニケーション学科	国際経済Ⅱ	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか	ECO-218-IC	2～		秋	2	宇野　公子	291
	マスコミュニケーション論Ⅱ（理論）	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	SOC-219-IC	2～		秋	2	蔡　星慧	292
	マスコミュニケーション論Ⅲ（広告・ＰＲ）	広告やPRの役割を理解する	SOC-220-IC	2～	春		2	中馬　淳	293
	☆比較教育学		EDU-321-IC	3～		秋	2	大桃　敏行	294
	比較政治学Ⅰ	比較宗教と政治	POL-222-IC	2～	春		2	杉原　志啓	295
	比較政治学Ⅱ	宗教対立と政治	POL-223-IC	2～		秋	2	杉原　志啓	296
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	POL-224-IC	2～	春		2	畠山　圭一	297
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	POL-225-IC	2～		秋	2	齋藤　洋子	298
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と21世紀の課題	POL-326-IC	3～	春		2	加藤　朗	299
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	POL-327-IC	3～		秋	2	加藤　朗	300
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	人種主義の歴史	HIS-328-IC	3～	春		2	武井　彩佳	301
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	HIS-329-IC	3～		秋	2	武井　彩佳	302
地域文化系専門科目群・国際コミュニケーション学科	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・外交・社会	POL-201-ID	2～	春		2	明石　和康	303
	アメリカ文化論Ⅱ	文化、社会、政治、外交	POL-202-ID	2～		秋	2	石澤　靖治	304
	イスラム文化論Ⅱ		ARE-203-ID	2～		秋	2	高尾賢一郎	305
	☆イギリス文化論Ⅰ	英国史概観（古代ローマ～近代）	ARE-204-ID	2～	春		2	古庄　信	306
	☆イギリス文化論Ⅱ			2～	－	－	2	－	－
	フランス文化論Ⅰ		ARE-206-ID	2～	春		2	泉　美知子	307
	フランス文化論Ⅱ	史料を通して見る前近代フランス史	ARE-207-ID	2～		秋	2	加藤　玄	308
	ドイツ文化論Ⅰ	ドイツとは何か	ARE-208-ID	2～	春		2	武井　彩佳	309
	ドイツ文化論Ⅱ	現代ドイツ	ARE-209-ID	2～		秋	2	武井　彩佳	310
	イタリア文化論Ⅰ		ARE-210-ID	2～	春		2	関　孝弘	311
	イタリア文化論Ⅱ	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア	LIT-211-ID	2～		秋	2	宮坂　真紀	312
	東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）	遺跡を通してみるアジア文化	ARE-212-ID	2～	春		2	重枝　豊	313
	東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	ARE-213-ID	2～		秋	2	乾　尚彦	314
	☆アフリカ文化論			2～	－	－	2	－	－
	☆中南米文化論			2～	－	－	2	－	－
	中国文化論		ARE-216-ID	2～		秋	2	金野　純	315
	朝鮮文化論	韓国の文化と社会	ARE-217-ID	2～	春		2	羅　京洙	316
	☆南アジア文化論			2～	－	－	2	－	－
	☆ロシア文化論			2～	－	－	2	－	－
	東欧文化論	ドナウ流域諸国の歴史と文化	ARE-220-ID	2～		秋	2	中島　崇文	317
	☆オセアニア文化論			2～	－	－	2	－	－
	アメリカ文学Ⅰ		LIT-222-ID	2～	春		2	山口志のぶ	318
	アメリカ文学Ⅱ		LIT-223-ID	2～		秋	2	山口志のぶ	319
	☆イギリス文学Ⅰ			2～	－	－	2	－	－
	☆イギリス文学Ⅱ			2～	－	－	2	－	－

英語コミュニケーション学科　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群	比較音楽論Ⅰ（東洋）		ART-326-ID	3～	春		2	丸山　洋司	320
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	ART-327-ID	3～		秋	2	米田かおり	321
	☆比較宗教論Ⅰ			3～	－	－	2	－	－
	☆比較宗教論Ⅱ			3～	－	－	2	－	－
	文化遺産学	文化財から文化遺産へ	MSE-230-ID	2～	春		2	M．ウーゴ	322

以下は、平成23～25年度入学者を対象とする科目群である。

科目群	科目名	副題	ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ	配当年次	学期		単位	担当者	頁
指定された他学科専門科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135

英語コミュニケーション基礎演習IA・IIIA

3630010100100

副　題	アメリカ文化論（移民）							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-101-EX ECM-213-EX

〔授業の到達目標〕

アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕

移民の国，人種のルツボ，などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で，一つのアメリカという国家を形成しながらも，その一方で自己の独自性というアイデンティティーを保持してきたのかを考えてみる。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので，知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加すること。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解できるよう映像作品（映画・ニュース映画・ドキュメント・フィルムなど）を多用しながら，議論と考察を加えてみたい。

〔教材〕

参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
有賀夏紀『アメリカの20世紀（上・下）』（中公新書）中央公論新社，2007年
プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントの熟読（各２時間）

〔成績評価の方法〕

授業内での発表20%　レポート30%　試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレスについては第一回の授業の際に提示します

〔授　業　計　画〕

第１週　イギリスからの移民。映画　Scarlet Letterを参考に，イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て，アメリカの原点を考える。
第２週　黒人移民の歴史　1　奴隷解放までの歴史　映画　AMISTAD
第３週　黒人移民の歴史　2　公民権運動「キング牧師，マルコムX，ケネディー」映画　MALCOLM X
第４週　黒人移民の歴史　3　映画　The Color Purple
第５週　黒人移民の歴史　4　黒人のアメリカ社会における現状　映画　Jungle Fever
第６週　ユダヤ系アメリカ人　1　第二次大戦以前　映画　Gentleman's Agreement
第７週　ユダヤ系アメリカ人　2　第二次大戦以降　映画　Schindler's List
第８週　ユダヤ系アメリカ人　3　アメリカの政治・経済等への影響力
第９週　日系アメリカ人　映画　Snow Falling on Cedars
第10週　中国系アメリカ人　映画　JOY LUCK CLUB
第11週　ヒスパニック　映画　SCARFACE
第12週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　1
第13週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　2
第14週　まとめ（1）
第15週　まとめ（2）

英語コミュニケーション基礎演習IB・IIIB

3630010100200

副　題	Cross-cultural Communication							担　当　者	G．R．ファリア　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-102-EX ECM-214-EX

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, and become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, Cultures in Contrast, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from the themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on participation in class (30%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 4時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Social adjustment: culture shock
第 3 週　Academic motivation: miscommunication
第 4 週　Group learning: unethical behavior
第 5 週　Campus living: roommate relations
第 6 週　Time management: punctuality
第 7 週　Difficult decisions: interpersonal conflict
第 8 週　Gender issues: sexual orientation
第 9 週　Peer pressure: binge drinking
第10週　Religious beliefs: discrimination
第11週　Student-teacher interactions: sexual harassment
第12週　Academic integrity: plagiarism
第13週　Personal relationships: racism and prejudice
第14週　Discussion（1）
第15週　Discussion（2）

英語コミュニケーション基礎演習IC・IIIC

3630010100300

副　題	異文化コミュニケーション論概論							担　当　者	田島　千裕　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-103-EX ECM-215-EX

〔授業の到達目標〕

学期末には履修者が以下を身に付けていることを目標とする。1)「文化とコミュニケーション」,「言語とコミュニケーション」,「心理とコミュニケーション」,「社会とコミュニケーション」に関わる,いくつかの異文化コミュニケーションの基本的コンセプトを理解している。2)異なる文化的価値を認める柔軟性を身に付け,異文化に対する感受性を備えている。3)レポートの書き方を理解し，レポート執筆のスキルを身に付けている。

〔授業の内容〕

毎回，学習するコンセプトの理解を深めるために，コミュニケーション活動，グループ活動，発表，教科書講読，リアクションペーパーの記入等の活動を行う。学期末には，各自が選択したコンセプトに関するレポートを提出する。学習を予定しているコンセプト例は，授業計画を参照のこと。

〔教材〕

初日にお伝えします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：毎回実施する小テストに向けて，教科書と配布物を精読すること。
予習：次回の授業に向けて，教科書を精読しておくこと。
レポート用の資料集め，資料の講読，レポート執筆等。

〔成績評価の方法〕

1. 出席・授業参加度(授業中の発表回数を含む)　25%
2. 小テスト　25%
3. レポート　25%
4. 授業内容の理解度　25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日 2 時限
メールで。(授業初日にメールアドレスをお知らせします)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　シラバス　／「自己開示」
第 2 週　教科書　／「文化」
第 3 週「ステレオタイプ」
第 4 週「カルチャーショック」
第 5 週「言語相対論」
第 6 週「言語習得」1
第 7 週「言語習得」2
第 8 週「自己概念」／　レポート概要 1／　パワーポイント発表者の募集
第 9 週「コミュニケーション能力」
第10週「コミュニケーションスタイル」／　レポート概要 2
第11週　非言語コミュニケーション「視線」「動作学」／パワーポイント発表者締切
第12週　非言語コミュニケーション「空間」「接触学」「周辺言語」
第13週　授業内容の復習　／　レポート提出締め切り
第14週　授業内容の理解度確認
第15週　発表等／振り返り
授業計画は，授業の進み具合により変更になる可能性があります。

英語コミュニケーション基礎演習ID・IIID

3630010100400

副　題	「国際共通語」としての英語							担　当　者	渡邊　知子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-104-EX ECM-216-EX

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景，英語使用の現状，英語が果たす役割，英語の多様性について学び，英語を取り巻く状況を多面的に捉えることができるようになる。英語で意見を交換し，自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状，英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ，世界の様々な英語も紹介する。English as a Lingua Francaとは何かについても考える。演習を通して，皆さんにとって英語，英語学習とは何なのか，未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

参考書：Jennifer Jenkins, *World Englishes*, 2nd Edition, Routledge, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された文献を読み，疑問点を挙げておくこと。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（30%）
発表（30%）
課題（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　英語の世界的な広がりと歴史的背景
第3週　English as a Lingua Francaとは？（1）
第4週　English as a Lingua Francaとは？（2）
第5週　英語の多様性
第6週　World Englishes
第7週　Pidgin and creole languages
第8週　中間発表
第9週　英語の役割（1）
第10週　英語の役割（2）
第11週　公用語論
第12週　未来における英語教育
第13週　期末発表（1）
第14週　期末発表（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション基礎演習IE・IIIE

3630010100500

副　題	ビジネス英話							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-105-EX ECM-217-EX

〔授業の到達目標〕
The goal of this course is to learn basic business communication in English.

〔授業の内容〕
この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内，アポイントメントの取り方，電話対応，商品やサービスの説明，苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ，適切な英語表現を学び，ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性と実感が湧くよう授業を進めます。ボキャブラリー練習を行い，ビジネス英語の語彙の取得だけではなく，実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い，英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ，実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験，あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕
教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009
700点以上の正式なTOEICスコアを有する学生：
授業中に正式なTOEICスコアを提示した場合，Business Venture 2 Pre-Intermediate WORKBOOK New Edition（ISBN: 978-0-19-457810-3）を購入する必要がない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕
Attendance and Participation 30%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔備考〕
受講対象者：
TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Socializing
第２週　Telephoning
第３週　Making Appointments
第４週　Presenting Information
第５週　Products and Services
第６週　Discussing Decisions
第７週　Dealing with Complaints
第８週　Checking Progress
第９週　Describing the Future
第10週　Regulations and Advice
第11週　Meetings
第12週　Presentations（１）
第13週　Presentations（２）
第14週　Presentations（３）
第15週　Presentations（４）

英語コミュニケーション基礎演習IF・IIIF

3630010100600

副　題	英語学習法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-106-EX ECM-218-EX

〔授業の到達目標〕

（1）　言語とは何かを知る。
（2）　言語学の基礎を理解する。
（3）　さまざまな英語教授法を概観する。
（4）　効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕

この基礎演習では，まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして，言語の本質を理解した上で，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を，後半部分では応用言語学的・英語教育学的要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお，入門コースであるので予備知識は必要としませんが，教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習は，１回の授業に２時間程度）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%，クイズ20%，試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の５時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言語学の基礎知識：言語の始まり
第３週　言語学の基礎知識：言語の変遷
第４週　言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
第５週　言語学の基礎知識：公用語とは何か
第６週　言語学の基礎知識：方言とは何か
第７週　言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
第８週　理解度の確認
第９週　応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
第10週　応用言語学：優れた言語の学習者とは？
第11週　応用言語学：語学習得における教授法の役割
第12週　応用言語学：バイリンガル教育について
第13週　応用言語学：早期英語教育について
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

英語コミュニケーション基礎演習ⅡA・ⅣA

3630010200100

副　題	アメリカ文化論（移民）							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-107-EX ECM-219-EX

〔授業の到達目標〕

アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕

移民の国，人種のルツボ，などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で，一つのアメリカという国家を形成しながらも，その一方で自己の独自性というアイデンティティーを保持してきたのかを考えてみる。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので，知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加していただきたい。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解できるよう映像作品（映画・ニュース映画・ドキュメント・フィルムなど）をできるだけ多用しながら，議論と考察を加えてみたい。

〔教材〕

参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
有賀夏紀『アメリカの20世紀（上・下）』（中公新書）中央公論新社，2007年
プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間

〔成績評価の方法〕

授業内での発表20%　レポート30%　試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレスに関しては，初回の授業にてお知らせします

〔授　業　計　画〕

第1週　イギリスからの移民。映画　Scarlet Letterを参考に，イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て，アメリカの原点を考える。
第2週　黒人移民の歴史　1　奴隷解放までの歴史　映画　AMISTAD
第3週　黒人移民の歴史　2　公民権運動「キング牧師，マルコムX，ケネディー」映画　MALCOLM X
第4週　黒人移民の歴史　3　映画　The Color Purple
第5週　黒人移民の歴史　4　黒人のアメリカ社会における現状　映画　Jungle Fever
第6週　ユダヤ系アメリカ人　1　第二次大戦以前　映画　Gentleman's Agreement
第7週　ユダヤ系アメリカ人　2　第二次大戦以降　映画　Schindler's List
第8週　ユダヤ系アメリカ人　3　アメリカの政治・経済等への影響力
第9週　日系アメリカ人　映画　Snow Falling on Cedars
第10週　中国系アメリカ人　映画　JOY LUCK CLUB
第11週　ヒスパニック　映画　SCARFACE
第12週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　1
第13週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　2
第14週　まとめ（1）
第15週　まとめ（2）

英語コミュニケーション基礎演習IIB・IVB

3630010200200

副　題	Cross-cultural Communication							担　当　者	G．R．ファリア　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-108-EX ECM-220-EX

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, and become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, Cultures in Contrast, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from the themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on participation in class (30%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 3時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Social adjustment: culture shock
第 3 週　Academic motivation: miscommunication
第 4 週　Group learning: unethical behavior
第 5 週　Campus living: roommate relations
第 6 週　Time management: punctuality
第 7 週　Difficult decisions: interpersonal conflict
第 8 週　Gender issues: sexual orientation
第 9 週　Peer pressure: binge drinking
第10週　Religious beliefs: discrimination
第11週　Student-teacher interactions: sexual harassment
第12週　Academic integrity: plagiarism
第13週　Personal relationships: racism and prejudice
第14週　Discussion
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IIC・IVC

3630010200300

副　題	異文化コミュニケーション論概論							担　当　者	田島　千裕　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-109-EX ECM-221-EX

〔授業の到達目標〕

学期末には履修者が以下を身に付けていることを目標とする。1)「文化とコミュニケーション」,「言語とコミュニケーション」,「心理とコミュニケーション」,「社会とコミュニケーション」に関わる,いくつかの異文化コミュニケーションの基本的コンセプトを理解している。2)異なる文化的価値を認める柔軟性を身に付け,異文化に対する感受性を備えている。3)レポートの書き方を理解し，レポート執筆のスキルを身に付けている。

〔授業の内容〕

毎回，学習するコンセプトの理解を深めるために，コミュニケーション活動，グループ活動，発表，教科書講読，リアクションペーパーの記入等の活動を行う。学期末には，各自が選択したコンセプトに関するレポートを提出する。学習を予定しているコンセプト例は，授業計画を参照のこと。

〔教材〕

初日にお伝えします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：毎回実施する小テストに向けて，教科書と配布物を精読すること。
予習：次回の授業に向けて，教科書を精読しておくこと。
レポート用の資料集め，資料の講読，レポート執筆等。

〔成績評価の方法〕

1. 出席・授業参加度(授業中の発表回数を含む)25%
2. 小テスト25%
3. レポート25%
4. 授業内容の理解度　25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日２時限
メールで。(授業初日にメールアドレスをお知らせします)

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス　／「自己開示」
第２週　教科書　／「文化」
第３週「ステレオタイプ」
第４週「カルチャーショック」
第５週「言語相対論」
第６週「言語習得」１
第７週「言語習得」２
第８週「自己概念」／　レポート概要１／　パワーポイント発表者の募集
第９週「コミュニケーション能力」
第10週「コミュニケーションスタイル」／　レポート概要２
第11週　非言語コミュニケーション「視線」「動作学」／
　　パワーポイント発表者締切
第12週　非言語コミュニケーション「空間」「接触学」「周辺言語」
第13週　授業内容の復習　／　レポート提出締め切り
第14週　授業内容の理解度確認
第15週　発表等／振り返り
授業計画は，授業の進み具合により変更になる可能性があります。

英語コミュニケーション基礎演習IID・IVD

3630010200400

副　題	「国際共通語」としての英語							担　当　者	渡邊　知子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-110-EX ECM-222-EX

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景，英語使用の現状，英語が果たす役割，英語の多様性について学び，英語を取り巻く状況を多面的に捉えることができるようになる。英語で意見を交換し，自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状，英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ，世界の様々な英語も紹介する。English as a Lingua Francaとは何かについても考える。演習を通して，皆さんにとって英語，英語学習とは何なのか，未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

参考書：Jennifer Jenkins, *World Englishes*, 2nd Edition, Routledge, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された文献を読み，疑問点を挙げておくこと。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（30%）
発表（30%）
課題（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　英語の世界的な広がりと歴史的背景
第3週　English as a Lingua Francaとは？（1）
第4週　English as a Lingua Francaとは？（2）
第5週　英語の多様性
第6週　World Englishes
第7週　Pidgin and creole languages
第8週　中間発表
第9週　英語の役割（1）
第10週　英語の役割（2）
第11週　公用語論
第12週　未来における英語教育
第13週　期末発表（1）
第14週　期末発表（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション基礎演習IIE・IVE

3630010200500

副　題	ビジネス英話							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-111-EX ECM-223-EX

〔授業の到達目標〕
The goal of this course is to learn basic business communication in English.

〔授業の内容〕
この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内，アポイントメントの取り方，電話対応，商品やサービスの説明，苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ，適切な英語表現を学び，ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性と実感が湧くよう授業を進めます。ボキャブラリー練習を行い，ビジネス英語の語彙の取得だけではなく，実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い，英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ，実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験，あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕
教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009
700点以上の正式なTOEICスコアを有する学生：
授業中に正式なTOEICスコアを提示した場合，Business Venture 2 Pre-Intermediate WORKBOOK New Edition（ISBN: 978-0-19-457810-3）を購入する必要がない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕
Attendance and Participation 30%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔備考〕
受講対象者：
TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Socializing
第２週　Telephoning
第３週　Making Appointments
第４週　Presenting Information
第５週　Products and Services
第６週　Discussing Decisions
第７週　Dealing with Complaints
第８週　Checking Progress
第９週　Describing the Future
第10週　Regulations and Advice
第11週　Meetings
第12週　Presentations（１）
第13週　Presentations（２）
第14週　Presentations（３）
第15週　Presentations（４）

英語コミュニケーション基礎演習ⅡF・ⅣF

3630010200600

副　題	英語学習法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-112-EX ECM-224-EX

〔授業の到達目標〕

（1）　言語とは何かを知る。
（2）　言語学の基礎を理解する。
（3）　さまざまな英語教授法を概観する。
（4）　効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕

この基礎演習では，まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして，言語の本質を理解した上で，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を，後半部分では応用言語学的・英語教育学的要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお，入門コースであるので予備知識は必要としませんが，教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習は，１回の授業に２時間程度）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%，クイズ20%，試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の５時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言語学の基礎知識：言語の始まり
第３週　言語学の基礎知識：言語の変遷
第４週　言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
第５週　言語学の基礎知識：公用語とは何か
第６週　言語学の基礎知識：方言とは何か
第７週　言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
第８週　理解度の確認
第９週　応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
第10週　応用言語学：優れた言語の学習者とは？
第11週　応用言語学：語学習得における教授法の役割
第12週　応用言語学：バイリンガル教育について
第13週　応用言語学：早期英語教育について
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

海外研修 A

3630030300100

副　題	Studying at the University of Lethbridge	担　当　者	岩﨑　光洋　教授

単位	18	配当年次	2	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-225-EX

〔授業の到達目標〕

6か月間のカナダ留学研修。語学研修のみならず異文化交流の実戦の場として有効に活用すること。留学期間中は積極的にコミュニケーションを図り，国際的な視野を広げるとともに，多様な価値観が存在する社会で生き抜く能力を養うよう努力すること。

〔授業の内容〕

授業は全てレスブリッジ大学側が提供。授業では簡潔で明瞭な発言，応答が常に求められていることを意識して，十分な予習すること。なお，語学の成績によりレスブッリジ大学の通常科目を上限2科目まで履修することが可能。特に，ライティング能力の不足が指摘されているので，十二分な準備をすること。

〔教材〕

レスブッリジ大学が提供

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習　5時間　復習　3時間

〔成績評価の方法〕

レスブッリジ大学側からの評価を70パーセント
レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

2週間に1度，メールにて学業とホームステーに関する報告を必ずすること。
メールアドレスに関しては第一回ガイダンスの際にお知らせします。

〔授　業　計　画〕

第1週　1第1回ガイダンス　レベル・チェック
第2週　2授業開始
第3週　3授業
第4週　4授業
第5週　5授業
第6週　6授業
第7週　7授業
第8週　8授業
第9週　9授業
第10週　10授業
第11週　11授業
第12週　12授業
第13週　13授業
第14週　14授業
第15週　15授業　最終試験
レスブッリジ大学側の指導に従い，規則を遵守すること。大学での勉学に全力を注ぐことはもちろんであり，生活の基盤となるホームステーファミリーとの円滑な会話と意思の疎通に努め，異文化理解を深めることにも努力すること。

海外研修Ｂ

3630030300200

副　題	Studying at the University of Lethbridge	担　当　者	岩﨑　光洋　教授

単位	18	配当年次	2	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-226-EX

〔授業の到達目標〕

６か月間のカナダ留学研修。語学研修のみならず異文化交流の実戦の場として有効に活用すること。留学期間中は積極的にコミュニケーションを図り，国際的な視野を広げるとともに，多様な価値観が存在する社会で生き抜く能力を養うよう努力すること。

〔授業の内容〕

授業は全てレスブリッジ大学側が提供。授業では簡潔で明瞭な発言，応答が常に求められていることを意識して，十分な予習すること。なお，語学の成績によりレスブッリジ大学の通常科目を上限２科目まで履修することが可能。特に，ライティング能力の不足が指摘されているので，十二分な準備をすること。

〔教材〕

レスブッリジ大学が提供

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習　５時間　復習　３時間

〔成績評価の方法〕

レスブッリジ大学側からの評価を70パーセント
レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

2週間に１度，メールにて学業とホームステーに関する報告を必ずすること
メールアドレスに関しては第一回ガイダンスの際にお知らせします。

〔備考〕

政治・経済・文化に関する国内外のトピックをテーマに小論作成のトレーニングを実施します。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　レベル・チェック
第２週　授業（１）
第３週　授業（２）
第４週　授業（３）
第５週　授業（４）
第６週　授業（５）
第７週　授業（６）
第８週　授業（７）
第９週　授業（８）
第10週　授業（９）
第11週　授業（10）
第12週　授業（11）
第13週　授業（12）
第14週　授業（13）
第15週　最終試験

レスブッリジ大学側の指導に従い，規則を遵守すること。大学での勉学に全力を注ぐことはもちろんであり，生活の基盤となるホームステーファミリーとの円滑な会話と意思の疎通に努め，異文化理解を深めることにも努力すること。

TOEIC Basics A

3634030100100

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-101-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村　紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版] [CD3枚付き]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction，模擬試験
第２週　模擬試験
第３週　Listening & Reading Comprehension（１）
第４週　Listening & Reading Comprehension（２）
第５週　Listening & Reading Comprehension（３）
第６週　Listening & Reading Comprehension（４）
第７週　Listening & Reading Comprehension（５）
第８週　模擬試験（１）
第９週　模擬試験（２）
第10週　Listening & Reading Comprehension（１）
第11週　Listening & Reading Comprehension（２）
第12週　Listening & Reading Comprehension（３）
第13週　Listening & Reading Comprehension（４）
第14週　模擬試験（１）
第15週　模擬試験（２）

TOEIC Basics B

3634030100200

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）	担　当　者	W．トング　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-102-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEICテスト新最強トリプル模試１』ジャパンタイムズ，2017年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

２号館１階講師控室に来てください。

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction，模擬試験
第２週　模擬試験
第３週　Listening & Reading Comprehension（１）
第４週　Listening & Reading Comprehension（２）
第５週　Listening & Reading Comprehension（３）
第６週　Listening & Reading Comprehension（４）
第７週　Listening & Reading Comprehension（５）
第８週　模擬試験（１）
第９週　模擬試験（２）
第10週　Listening & Reading Comprehension（１）
第11週　Listening & Reading Comprehension（２）
第12週　Listening & Reading Comprehension（３）
第13週　Listening & Reading Comprehension（４）
第14週　模擬試験（１）
第15週　模擬試験（２）

TOEIC Basics C

3634030100300

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）							担　当　者	ウィルキンソン　ヤエコ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-103-EV

〔授業の到達目標〕

Listening, Reading, Grammarの３つの基礎力をアップし，TOEICテストのスピードに対応できる力を養い，より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕

語彙力を含む基礎力を伸ばし，TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また，模擬テストを通し，自分の弱みを確認し，復習する事で，弱点を克服します。課題を含め，自己学習が求められます。

〔教材〕

教科書：中村紳一郎『TOEICテスト　新・最強トリプル模試1』（ISBN978-4-7890-1388-8）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年

教科書は，変更の可能性あり

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期初めに配布する授業計画表に記載されている通りにホームワークを提出すること

単語帳，ディクテーション，授業内容復習等のホームワークは，週に約４時間程度の量となります。

〔成績評価の方法〕

成績は，以下の割合にて評価する。

授業への参加態度　30%

宿題　20%

単語帳　10%

テスト　20%

ロールプレイ，暗唱　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて，連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　模擬試験

第２週　模擬試験

第３週　Listening & Reading Comprehension（１）

第４週　Listening & Reading Comprehension（２）

第５週　Listening & Reading Comprehension（３）

第６週　Listening & Reading Comprehension（４）

第７週　模擬試験（１）

第８週　模擬試験（２）

第９週　Listening & Reading Comprehension（１）

第10週　Listening & Reading Comprehension（２）

第11週　Listening & Reading Comprehension（３）

第12週　Listening & Reading Comprehension（４）

第13週　模擬試験

第14週　Listening & Reading Comprehension
まとめ

第15週　理解度の確認

授業計画は，変更することがある。

TOEIC Skills A

3634030200100

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）	担　当　者	C．ウィン　教授

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-104-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村　紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試2[改訂新版] [CD3枚付き]』（ISBN: 978-4-7890-1389-5）ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度，宿題，授業中の姿勢

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction，模擬試験
第２週　模擬試験
第３週　Listening & Reading Comprehension（１）
第４週　Listening & Reading Comprehension（２）
第５週　Listening & Reading Comprehension（３）
第６週　Listening & Reading Comprehension（４）
第７週　模擬試験（１）
第８週　模擬試験（２）
第９週　Listening & Reading Comprehension（１）
第10週　Listening & Reading Comprehension（２）
第11週　Listening & Reading Comprehension（３）
第12週　模擬試験（１）
第13週　模擬試験（２）
第14週　模擬試験（３）
第15週　模擬試験（４）

TOEIC Skills B

3634030200200

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）							担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-105-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自学習が必要となります

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEICテスト新最強トリプル模試１』ジャパンタイムズ，2017年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

２号館１階講師控室に来てください。

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction，模擬試験
第２週　模擬試験
第３週　Listening & Reading Comprehension（１）
第４週　Listening & Reading Comprehension（２）
第５週　Listening & Reading Comprehension（３）
第６週　Listening & Reading Comprehension（４）
第７週　Listening & Reading Comprehension（５）
第８週　模擬試験（１）
第９週　模擬試験（２）
第10週　Listening & Reading Comprehension（１）
第11週　Listening & Reading Comprehension（２）
第12週　Listening & Reading Comprehension（３）
第13週　Listening & Reading Comprehension（４）
第14週　模擬試験（１）
第15週　模擬試験（２）

TOEIC Skills C

3634030200300

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）							担　当　者	ウィルキンソン　ヤエコ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-106-EV

〔授業の到達目標〕
Listening, Reading, Grammarの３つの基礎力をアップし，TOEICテストのスピードに対応できる力を養い，より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕
語彙力を含む基礎力を伸ばし，TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また，模擬テストを通し，自分の弱みを確認し，復習する事で，弱点を克服します。課題を含め，自己学習が求められます。

〔教材〕
教科書：中村紳一郎『TOEICテスト　新・最強トリプル模試2』（ISBN978-4-7890-1389-5）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年
教科書は変更の可能性あり

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
学期初めに配布する授業計画表に記載された通りにホームワークを提出すること。
単語帳，ディクテーション，授業内容復習等のホームワークは，週に約４時間程度の量となります。

〔成績評価の方法〕
成績は，以下の割合にて評価する。
授業への参加（出席，態度を含む）30%
宿題　20%
単語帳　10%
テスト　20%
ロールプレイ，暗唱　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
対象者：TOEIC750点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　模擬試験
第２週　模擬試験
第３週　Listening & Reading Comprehension（１）
第４週　Listening & Reading Comprehension（２）
第５週　Listening & Reading Comprehension（３）
第６週　Listening & Reading Comprehension（４）
第７週　模擬試験（１）
第８週　模擬試験（２）
第９週　Listening & Reading Comprehension（１）
第10週　Listening & Reading Comprehension（２）
第11週　Listening & Reading Comprehension（３）
第12週　Listening & Reading Comprehension（４）
第13週　模擬試験
第14週　Listening & Reading Comprehension
まとめ
第15週　理解度の確認
授業計画は，変更することがある。

Paragraph Writing A

3634030300100

副　題	Paragraph Writing									担　当　者	田島　千裕　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-107-EV

〔授業の到達目標〕

At the end of the semester, students will be able to:

-Write paragraphs with topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.

-Follow the writing process (e.g., brainstorming, mind mapping, outlining, writing and editing/revising).

-Write a timed writing paragraph.

〔授業の内容〕

In this class, students will write paragraphs assisted by a textbook. Students will engage in speed writing to improve fluency, as well as writing assignments to improve accuracy. There will be three timed writing assignments.

〔教材〕

教科書：*Writing Paragraphs*, Macmillan

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will spend time preparing and reviewing the class content, mostly writing and editing their paragraphs. The textbook related homework will also be given.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation: 20%
2. Homework: 20%
2. Writing assignment 1: 20%
3. Writing assignment 2: 20%
4. Writing assignment 3: 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods.

My email address will be distributed on the first day of class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Syllabus / Orientation / Introduction to speedwriting
第 2 週　Unit 1: Beginning to Work
第 3 週　Unit 2: Giving and Receiving Gifts
第 4 週　Unit 3: Favorite Place
第 5 週　Unit 4: An Exceptional Person
第 6 週　Unit 5: Trends and Fads
第 7 週　Unit 6: White Lies
第 8 週　Unit 7: Explanations and Excuses
第 9 週　Unit 8: Problems and Challenges
第10週　Unit 9: Strange Stories
第11週　Unit 10: Differences
第12週　Unit 11: Difficult Decisions
第13週　Unit 12: Fate or Choice
第14週　Writing Assignment 3
第15週　Semester feedback

The schedule might change.

Paragraph Writing B

3634030300200

副　題	Grammar-based Writing							担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-108-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Writing Practice B conducted by the same instructor.

1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：豊永　彰『英文法ビフォー&アフター 普及版』南雲堂，2009年
ロバート　ヒルキ / 白野伊津男 / ポール　ワーデン / 小石裕子 / ヒロ前田『新TOEICテスト スーパー英単語―5人のエキスパートが選んだ3000語』アルク，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（1）
第3週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（2）
第4週　Unit 2: What Is Writing？　（1）
第5週　Unit 2: What Is Writing？　（2）
第6週　Unit 3: About the Paragraph　（1）
第7週　Unit 3: About the Paragraph　（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 4: Descriptive Paragraph［Describe It］（1）
第10週　Unit 4: Descriptive Paragraph［Describe It］（2）
第11週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph［Compare It］（1）
第12週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph［Compare It］（2）
第13週　Unit 6: Process Paragraph［Narrate It］（1）
第14週　Unit 6: Process Paragraph［Narrate It］（2）
第15週　総復習・まとめ

Paragraph Writing C

3634030300300

副　題	パラグラフとは何か。「真似る」から「学ぶ」へ	担　当　者	式町　眞紀子　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-109-EV

〔授業の到達目標〕

パラグラフの定義，特徴，構成について学び，基礎を固め，ルールに従ってまとまりのある英文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

学期前半（第６週）までは，パラグラフの基礎的なことをテキストで紹介されているモデルパラグラフに基づき，パッセージのAnalysis Questions　やComprehension Questionsによって確認・学習します。合わせて，トピックに関連した会話文をディクテーション形式で扱い完成させ，口語表現も学びます。学期後半（第８週以降）では，７種類のタイプのパラグラフを取り上げます。Exerciseにより，そのパラグラフを拡張したエッセイとの関係を中心に，標準的な展開を学びます。

〔教材〕

教科書：S. Kathleen and Kenji Kitao, *A Guide to Mastering Paragraphs*, 2nd Edition, 鷹書房弓プレス, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲には予め目を通し，疑問や不明な点を授業中に質問や確認できるように準備すること。特にモデルパラグラフのリーディングは予習して内容を理解しておくように。

〔成績評価の方法〕

出席時の積極的な態度（演習やディスカッションを含む）30%
学期中課題　30%
学期末課題　40%
なお，上記は，学生便覧に記載されている成績評価事項を前提とするので，各自必ず確認すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教室，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
　　The English Paragraph
第２週　The Topic Sentence
第３週　The Good Paragraph
第４週　Transitions: 1
第５週　Transitions: 2
第６週　Illustration
第７週　Midterm Review
第８週　From Paragraphs to Essays
第９週　Description
第10週　Narrative
第11週　Cause and Effect
第12週　Comparison / Contrast
第13週　Classification / Analysis
第14週　Problem / Solution
第15週　Term-end Review
基礎を固めるために，テキスト外の英文（プリント）も適宜追加します。
進捗状況によって変更することもあります。

Writing Practice A

3634030400100

副　題	Paragraph Writing									担　当　者	田島　千裕　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-110-EV

〔授業の到達目標〕

At the end of the semester, students will be able to:

-Write paragraphs with topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.

-Follow the writing process (e.g., brainstorming, mind mapping, outlining, writing and editing/revising).

-Write a timed writing paragraph.

〔授業の内容〕

In this class, students will write paragraphs assisted by a textbook. Students will engage in speed writing to improve fluency, as well as writing assignments to improve accuracy. There will be three timed writing assignments.

〔教材〕

教科書：*Writing Paragraphs*, Macmillan

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will spend time preparing and reviewing the class content, mostly writing and editing their paragraphs. The textbook related homework will also be given.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation: 20%
2. Homework: 20%
2. Writing assignment 1: 20%
3. Writing assignment 2: 20%
4. Writing assignment 3: 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods.

My email address will be distributed on the first day of class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Syllabus / Orientation / Introduction to speedwriting
第 2 週　Unit 1: Beginning to Work
第 3 週　Unit 2: Giving and Receiving Gifts
第 4 週　Unit 3: Favorite Place
第 5 週　Unit 4: An Exceptional Person / Writing assignment 1: 150 words (45 min.): Descriptive paragraph
第 6 週　Editing writing assignment 1 (by hand then by word)
Unit 5: Trends and Fads
第 7 週　Unit 6: White Lies
第 8 週　Unit 7: Explanations and Excuses
第 9 週　Writing assignment 2: 200 words (60 min.): Opinion paragraph
Unit 8: Problems and Challenges
第10週　Editing writing assignment 2 (by hand then by word)
Unit 9: Strange Stories
第11週　Unit 10: Differences
第12週　Unit 11: Difficult Decisions
第13週　Unit 12: Fate or Choice
第14週　Writing Assignment 3: 300 words (90 min.): Topic to be decided
第15週　Semester feedback

The schedule might change.

Writing Practice B

3634030400200

副　題	Grammar-based Writing									担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-111-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Paragraph Writing B conducted by the same instructor.

1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：豊永　彰『英文法ビフォー&アフター 普及版』南雲堂，2009年
ロバート　ヒルキ / 白野伊津男 / ポール　ワーデン / 小石裕子 / ヒロ前田『新TOEICテスト スーパー英単語―5人のエキスパートが選んだ3000語』アルク，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（1）
第3週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（2）
第4週　Unit 2: What Is Writing？　（1）
第5週　Unit 2: What Is Writing？　（2）
第6週　Unit 3: About the Paragraph　（1）
第7週　Unit 3: About the Paragraph　（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 4: Descriptive Paragraph［Describe It］（1）
第10週　Unit 4: Descriptive Paragraph［Describe It］（2）
第11週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph［Compare It］（1）
第12週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph［Compare It］（2）
第13週　Unit 6: Process Paragraph［Narrate It］（1）
第14週　Unit 6: Process Paragraph［Narrate It］（2）
第15週　総復習・まとめ

Writing Practice C

3634030400300

副　題	パラグラフとは何か。「真似る」から「学ぶ」へ	担　当　者	式町　眞紀子　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	ENG-112-EV

〔授業の到達目標〕
　パラグラフの定義，特徴，構成について学び，基礎を固め，ルールに従ってまとまりのある英文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
　この授業は，Paragraph Writing C　での学習を前提に，学習事項の定着を図るための応用演習，すなわち “Production” の機会とします。学期前半（第 6 週）までは，課題のトピックについて，パラグラフを書くことがメインになりますが，導入として，Q&Aスタイルによって，ふさわしい単語を選ぶことや適切なセンテンスを書くことも含まれます。書くということは，膨らませること，削ることの両輪にあって成り立つので，revising　を重視します。

〔教材〕
教科書：S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, *A Guide to Mastering Paragraphs*, 2nd Edition, 鷹書房弓プレス, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　指定された教科書の範囲には予め目を通し，疑問や不明な点を授業中に質問や確認できるように準備すること。特にモデルパラグラフのリーディングは予習して内容を理解しておくように。また，revising　での気づきを復習し，次回の作業に生かすこと。

〔成績評価の方法〕
　出席時の積極的な態度（演習やディスカッションを含む）30%
　学期中課題　30%
　学期末課題　40%
　なお，上記は，学生便覧に記載されている成績評価事項を前提とするので，各自必ず確認すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　教室，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction / Write about yourself and your family
第 2 週　Write about your hometown
第 3 週　Write about the famous person
第 4 週　Write about a story (novel, short story, mystery, etc.) that you are familiar with
第 5 週　Write about an ethnic group in Japan on the characteristics of that group
第 6 週　Write about Marriage
第 7 週　Midterm Review
第 8 週　Write about a great experience you have had
第 9 週　Write about a famous place or building in Japan
第10週　Write about a well-known story that most Japanese people know know, but which foreigners might not know
第11週　Write about two cities that you are familiar with: the similarities and differences
第12週　Write about regions that you could divide Japan into. What are their characteristics? How are they different?
第13週　Write about a problem that you have, along with at least two solutions.
第14週　Writing 1
第15週　Writing 2
基礎を固めるために，テキスト外の英文（プリント）も適宜追加します。また，E-mailや英文履歴書など，さまざまな英文の書式も適宜盛り込みます。
進捗状況によって変更することもあります。

Essay Writing A

3634030500100

副　題	Essay Writing									担　当　者	田島　千裕　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-113-EV

〔授業の到達目標〕

At the end of the semester, students will be able to:
-Write paragraphs with topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.
-Understand the roles of introduction, body and conclusion of an essay.
-Follow the writing process (e.g., brainstorming, mind mapping, outlining, writing and editing/revising).
-Write timed writing assignments.

〔授業の内容〕

In this class, students will write paragraphs and essays assisted by a textbook. Students will engage in speed writing to improve fluency, as well as writing assignments to improve accuracy. There will be three timed writing assignments.

〔教材〕

教科書：*Writing Essays*, Macmillan

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will spend time preparing and reviewing the class content, mostly writing and editing their essays. The textbook related homework will also be given.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation: 20%
2. Homework: 20%
2. Timed writing 1: 20%
3. Timed writing 2: 20%
4. Timed writing 3: 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods.
My email address will be distributed on the first day of class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Syllabus / Unit 1: Brainstorming
第 2 週　Unit 2: The Structure of a Paragraph
第 3 週　Unit 3: Development of a Paragraph
第 4 週　Unit 4: Descriptive Paragraphs
第 5 週　Timed writing 1 - 150 words (45 min.): Descriptive Paragraph
第 6 週　Editing writing 1 (by hand then by word)
　　Unit 8: Structure of an Essay
第 7 週　Unit 9: Outlining an Essay
第 8 週　Unit 10: Introductions and Conclusions
第 9 週　Time writing 2 - 200 words (60 min.):Essay Writing (Topic to be decided)
第10週　Editing writing 2 (by hand then by word)
　　Unit 5: Opinion Paragraphs (Rubric)
第11週　Unit 6: Comparison Paragraphs
第12週　Unit 7: Problem / Solution Paragraphs
第13週　Unit 12: Essays for Examinations
第14週　Timed writing 3 - 250 words (90 min.): Essay Writing (Topic to be decided)
第15週　Semester feedback
The schedule might change.

Essay Writing B

3634030500200

副　題	Grammar-based Writing								担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-114-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Writing Skills B conducted by the same instructor.

1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：豊永　彰『英文法ビフォー&アフター 普及版』南雲堂，2009年
萱　忠義 / Jason Hatchell『はじめて受けるTOEFL® テスト　パーフェクト英単語』桐原書店，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

クラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 7: Narrative Paragraph［Narrate It］（1）
第3週　Unit 7: Narrative Paragraph［Narrate It］（2）
第4週　Unit 8: Summary Paragraph［Summarize It］（1）
第5週　Unit 8: Summary Paragraph［Summarize It］（2）
第6週　Unit 9: Analysis Paragraph［Explain It］（1）
第7週　Unit 9: Analysis Paragraph［Explain It］（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph［Explain It］（1）
第10週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph［Explain It］（2）
第11週　Unit 11: Persuasive Paragraph［Argue It］（1）
第12週　Unit 11: Persuasive Paragraph［Argue It］（2）
第13週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph［Argue It］（1）
第14週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph［Argue It］（2）
第15週　総復習・まとめ

Essay Writing C

3634030500300

副　題	エッセイとは何か	担　当　者	式町　眞紀子　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-115-EV

〔授業の到達目標〕

英文の基本ルールであるパラグラフの構成と書き方を生かし,エッセイが書けるようになる。

〔授業の内容〕

パラグラフの基本ルールである構成と書き方に基づき，発展的演習の場として，さまざまなトピックに従ってエッセイを書きます。同時に，和文の論文（エッセイ）との違いを明確にするため，英語の論理展開も実際のライティングの中で学びます。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問や不明な点については授業で質問・確認できるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業時への積極的な参加（演習，ディスカッションを含む）30%
学期中課題　30%
学期末課題　40%
上記は，学生便覧記載の成績評価事項を前提に行われるので，各自必ず確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教室にて，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Review of paragraphs. The definition of an essay
第 2 週　Introductory paragraph. Thesis statement
第 3 週　Supporting paragraph(s). Concluding paragraph
第 4 週　Narrative essay 1
第 5 週　Narrative essay 2
第 6 週　Process essay 1
第 7 週　Process essay 2
第 8 週　Cause essay
第 9 週　Effect essay
第10週　Opinion essay 1
第11週　Opinion essay 2
第12週　Comparison & Contrast essay 1
第13週　Comparison & Contrast essay 2
第14週　Writing & Review 1
第15週　Writing & Review 2
進捗状況に応じて内容を変更する可能性もあります。

Writing Skills A

3634030600100

副　題	Essay Writing							担　当　者	田島　千裕　准教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-116-EV

〔授業の到達目標〕

At the end of the semester, students will be able to:
-Write paragraphs with topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.
-Understand the roles of introduction, body and conclusion of an essay.
-Follow the writing process (e.g., brainstorming, mind mapping, outlining, writing and editing/revising).
-Write a timed writing assignments.

〔授業の内容〕

In this class, students will write paragraphs and essays assisted by a textbook. Students will engage in speed writing to improve fluency, as well as writing assignments to improve accuracy. There will be three timed writing assignments.

〔教材〕

教科書：*Writing Essays*, Macmillan

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will spend time preparing and reviewing the class content, mostly writing and editing their essays. The textbook related homework will also be given.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and participation: 20%
2. Homework: 20%
2. Writing assignment 1: 20%
3. Writing assignment 2: 20%
4. Writing assignment 3: 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods.
My email address will be distributed on the first day of class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Syllabus / Unit 1: Brainstorming
第 2 週　Unit 2: The Structure of a Paragraph
第 3 週　Unit 3: Development of a Paragraph
第 4 週　Unit 4: Descriptive Paragraphs
第 5 週　Timed writing 1 - 150 words (45 min.): Descriptive Paragraph
第 6 週　Editing writing 1(by hand then by word)
　　Unit 8: Structure of an Essay
第 7 週　Unit 9: Outlining an Essay
第 8 週　Unit 10: Introductions and Conclusions
第 9 週　Time writing 2 - 200 words (60 min.): Essay Writing (Topic to be decided)
第10週　Editing writing 2(by hand then by word)
　　Unit 5: Opinion Paragraphs (Rubric)
第11週　Unit 6: Comparison Paragraphs
第12週　Unit 7: Problem / Solution Paragraphs
第13週　Unit 12: Essays for Examinations
第14週　Timed writing 3 - 250 words (90 min.): Essay Writing (Topic to be decided)
第15週　Semester feedback
The schedule might change.

Writing Skills B

3634030600200

副　題	Grammar-based Writing									担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-117-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Essay Writing B conducted by the same instructor.

1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012

参考書：豊永　彰『英文法ビフォー&アフター 普及版』南雲堂，2009年
萱　忠義 / Jason Hatchell『はじめて受けるTOEFL® テスト　パーフェクト英単語』桐原書店，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 7: Narrative Paragraph［Narrate It］（1）
第3週　Unit 7: Narrative Paragraph［Narrate It］（2）
第4週　Unit 8: Summary Paragraph［Summarize It］（1）
第5週　Unit 8: Summary Paragraph［Summarize It］（2）
第6週　Unit 9: Analysis Paragraph［Explain It］（1）
第7週　Unit 9: Analysis Paragraph［Explain It］（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph［Explain It］（1）
第10週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph［Explain It］（2）
第11週　Unit 11: Persuasive Paragraph［Argue It］（1）
第12週　Unit 11: Persuasive Paragraph［Argue It］（2）
第13週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph［Argue It］（1）
第14週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph［Argue It］（2）
第15週　総復習・まとめ

Writing Skills C

3634030600300

副　題	エッセイの書き方							担　当　者	式町　眞紀子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	ENG-118-EV

〔授業の到達目標〕

パラグラフの概念に忠実に，論のさまざまな展開の仕方をエッセイを書くことによって体得する。

〔授業の内容〕

パラグラフの基本ルールである構成と書き方に基づき，適宜Essay Writing Cでの学習事項を対応させつつ，発展的演習の機会として，さまざまなトピックについてエッセイを書きます。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問や不明な点については授業で質問・確認できるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業時への積極的な参加（演習，ディスカッションを含む）30%
学期中課題　30%
学期末課題　40%
上記は，学生便覧記載の成績評価事項を前提に行われるので，各自必ず確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教室にて，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit1: How we learn and how we work
第 3 週　Continued from week 2
第 4 週　Unit2: The African-American experience
第 5 週　Continued from week 4
第 6 週　Unit3: Live long, live well
第 7 週　Continued from week 6
第 8 週　Unit4: Our earth, our resources, our environment
第 9 週　Continued from week 8
第10週　Unit5: Different people, different ways
第11週　Continued from week 10
第12週　Unit6: The changing face of business
第13週　Continued from week 12
第14週　Writing 1
第15週　Writing 2
進捗状況に応じて内容を変更する可能性もあります。

Academic Writing A

3634030700100

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ENG-201-EV

〔授業の到達目標〕

This class will equip students with basic skills for academic writing in English. Building on the skills that they already have, there will be emphasis on building well-written paragraphs into an essay. Students will also learn correct ways of referencing when presenting sources for an essay.

〔授業の内容〕

This course looks at how to build well-written paragraphs into an academic essay. In addition to revision of, and work on, basic writing skills, there will be work on invaluable skills such as quoting, summarising and paraphrasing. Discussion will take place on the rules of academic writing and the importance of correct and accurate citation of sources. There will be work both on writing exercises in class and and for homework which students will be required to write using "Word" documents, and to submit to the instructor at times by email.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly writing exercises to be completed outside class and submitted to the instructor.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular written exercises and tests given in class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Thoughts on academic English. Essays. What are they for?
第 2 週　Coming up with ideas for an essay. Brainstorming, listing and other techniques for gathering and organising information
第 3 週　Organising an essay (from paragraph to essay)
第 4 週　Starting out. The thesis statement.
第 5 週　Organising your information. What is important? What needs to be said? What can be left out?
第 6 週　Basic structures and successful conclusions. Presenting information coherently and well.
第 7 週　Basic structures and successful conclusions. Presenting information, arguing and persuading.
第 8 週　Plagiarism. References, citations and how to write them.
第 9 週　Quotations. Using them successfully, and correctly.
第10週　Breaking down information. Summarising.
第11週　Paraphrasing. Uses and dangers. Practical techniques.
第12週　A further look at beginning well and ending well. Final thoughts.
第13週　Practice exercises. Essay one
第14週　Practice exercises. Essay two
第15週　Summary and final assessment of practice exercises

Academic Writing B

3634030700200

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ENG-202-EV

〔授業の到達目標〕

This class will equip students with basic skills for academic writing in English. Building on the skills that they already have, there will be emphasis on building well-written paragraphs into an essay. Students will also learn correct ways of referencing when presenting sources for an essay.

〔授業の内容〕

This course looks at how to build well-written paragraphs into an academic essay. In addition to revision of, and work on, basic writing skills, there will be work on invaluable skills such as quoting, summarising and paraphrasing. Discussion will take place on the rules of academic writing and the importance of correct and accurate citation of sources. There will be work both on writing exercises in class and and for homework which students will be required to write using "Word" documents, and to submit to the instructor at times by email.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly writing exercises to be completed outside class and submitted to the instructor.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular written exercises and tests given in class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Thoughts on academic English. Essays. What are they for?
第 2 週　Coming up with ideas for an essay. Brainstorming, listing and other techniques for gathering and organising information
第 3 週　Organising an essay (from paragraph to essay)
第 4 週　Starting out. The thesis statement.
第 5 週　Organising your information. What is important? What needs to be said? What can be left out?
第 6 週　Basic structures and successful conclusions. Presenting information coherently and well.
第 7 週　Basic structures and successful conclusions. Presenting information, arguing and persuading.
第 8 週　Plagiarism. References, citations and how to write them.
第 9 週　Quotations. Using them successfully, and correctly.
第10週　Breaking down information. Summarising.
第11週　Paraphrasing. Uses and dangers. Practical techniques.
第12週　A further look at beginning well and ending well. Final thoughts.
第13週　Practice exercises. Essay one
第14週　Practice exercises. Essay two
第15週　Summary and final assessment of practice exercises

Presentations A

3634030800100

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	ENG-203-EV

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 40%
Completion of homework 20%
Classroom presentations 20%
Final presentation 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staff room.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential English communication skills.
第 2 週　Presentation overview.
第 3 週　Correct posture and eye contact.
第 4 週　The use of gesture to emphasize.
第 5 週　How to use word stress.
第 6 週　Creating effective visual aids.
第 7 週　Explaining visual aids.
第 8 週　Describing trends.
第 9 週　Presentation Introduction.
第10週　Presentation main body.
第11週　Using transitions.
第12週　Presentation conclusion.
第13週　Handling questions.
第14週　Giving a full presentation.
第15週　Presentations for assessment.

Presentations B

3634030800200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	ENG-204-EV

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 40%
Completion of homework 20%
Classroom presentations 20%
Final presentation 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staff room.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential English communication skills.
第 2 週　Presentation overview.
第 3 週　Correct posture and eye contact.
第 4 週　The use of gesture to emphasize.
第 5 週　How to use word stress.
第 6 週　Creating effective visual aids.
第 7 週　Explaining visual aids.
第 8 週　Describing trends.
第 9 週　Presentation Introduction.
第10週　Presentation main body.
第11週　Using transitions.
第12週　Presentation conclusion.
第13週　Handling questions.
第14週　Giving a full presentation.
第15週　Presentations for assessment.

Listening Practice A

3634030900100

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-205-EV

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。毎時間,ニュースのReproductionを５回から６回行います。評価の重要な基準になりますので，しっかり取り組んでください。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン

「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加態度20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction（１）
第３週　〃（２）
第４週　〃（３）
第５週　〃（４）
第６週　〃（５）
第７週　〃（６）
第８週　〃（７）
第９週　〃（８）
第10週　〃（９）
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton（１）
第12週　〃（２）
第13週　〃（３）
第14週　〃（４）
第15週　〃（５）
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

Listening Practice B

3634030900200

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-206-EV

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Skills Bとのペア授業です。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に各自それぞれ5回から6回，学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表するReproductionを行います。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン
「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加態度20%，各回の語彙テスト20%　さらに授業の最後にニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction（１）
第３週　〃（２）
第４週　〃（３）
第５週　〃（４）
第６週　〃（５）
第７週　〃（６）
第８週　〃（７）
第９週　〃（８）
第10週　〃（９）
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton（１）
第12週　〃（２）
第13週　〃（３）
第14週　〃（４）
第15週　〃（５）
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

Listening Skills A

3634031000100

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-207-EV

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Practice Aとのペア授業です。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。毎時間，ニュースのReproductionを５回から６回行います。評価の重要な基準になりますので，しっかり取り組んでください。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年

「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加態度20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction（１）
第３週　〃（２）
第４週　〃（３）
第５週　〃（４）
第６週　〃（５）
第７週　〃（６）
第８週　〃（７）
第９週　〃（８）
第10週　〃（９）
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton（１）
第12週　〃（２）
第13週　〃（３）
第14週　〃（４）
第15週　〃（５）
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

Listening Skills B

3634031000200

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-208-EV

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Practice Bとのペア授業です。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に各自それぞれ5回から6回，学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表するReproductionを行います。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年
「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加態度20%，各回の語彙テスト20%　さらに授業の最後にニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction（１）
第３週　〃（２）
第４週　〃（３）
第５週　〃（４）
第６週　〃（５）
第７週　〃（６）
第８週　〃（７）
第９週　〃（８）
第10週　〃（９）
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton（１）
第12週　〃（２）
第13週　〃（３）
第14週　〃（４）
第15週　〃（５）
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

Discussing Global Issues A

3634031100100

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-209-EV

〔授業の到達目標〕

To develop reading, critical thinking, and discussion skills through research into and discussion of current events.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to critically read different types of news and opinion articles, to connect different ideas, and to support opinions using evidence. In addition to textbook readings, students are required to bring in current news articles related to the topics of the week and to incorporate them into their classroom discussions.

〔教材〕

教科書：Pete Sharma『Reading the News』Heinle Cengage，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every week, students will need to find and read articles on the topic of the unit being discussed to share with their classmates during class.

〔成績評価の方法〕

40% Preparation, including research and homework
50% Class discussion
10% Exam

Class participation is the most important part of the course. Therefore, on-time attendance and active participation in class are important.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class or By appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　News and Features
　　Readings 1 and 2
第 3 週　Readings 3 and 4
第 4 週　Opinion
　　Readings 5 and 6
第 5 週　Readings 7 and 8
第 6 週　Business
　　Readings 9 and 10
第 7 週　Readings 11 and 12
第 8 週　Lifestyle
　　Readings 13 and 14
第 9 週　Readings 15 and 16
第10週　Arts and Entertainment
　　Readings 17 and 18
第11週　Readings 19 and 20
第12週　Technology, Science, and Health
　　Readings 21 and 22
第13週　Readings 23 and 24
第14週　Review Units 1 - 12
第15週　Review Units 13-24

Discussing Global Issues B

3634031100200

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-210-EV

〔授業の到達目標〕

To develop reading, critical thinking, and discussion skills through research into and discussion of current events.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to critically read different types of news and opinion articles, to connect different ideas, and to support opinions using evidence. In addition to textbook readings, students are required to bring in current news articles related to the topics of the week and to incorporate them into their classroom discussions.

〔教材〕

教科書：Pete Sharma『Reading the News』Heinle Cengage，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every week, students will need to find and read articles on the topic of the unit being discussed to share with their classmates during class.

〔成績評価の方法〕

40% Preparation, including research and homework
50% Class discussion
10% Exam

Class participation is the most important part of the course. Therefore, on-time attendance and active participation in class are important.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class or By appointment.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　News and Features
　　Readings 1 and 2
第３週　Readings 3 and 4
第４週　Opinion
　　Readings 5 and 6
第５週　Readings 7 and 8
第６週　Business
　　Readings 9 and 10
第７週　Readings 11 and 12
第８週　Lifestyle
　　Readings 13 and 14
第９週　Readings 15 and 16
第10週　Arts and Entertainment
　　Readings 17 and 18
第11週　Readings 19 and 20
第12週　Technology, Science, and Health
　　Readings 21 and 22
第13週　Readings 23 and 24
第14週　Review Units 1 -12
第15週　Review Units 13-24

Discussing Business Issues A

3634031200100

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-211-EV

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop reading and discussion skills related to business issues.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the meaning and implications of business-related texts, including periodicals, reports, memos. In addition, students will develop discussion skills by planning and implementing projects based on knowledge gained via newspapers, magazines, and websites as well as the textbook and class discussions.

〔教材〕

教科書：Benevides & Valvona, *Widgets*, 1st Edition, Pearson Longman, 2008

In addition to the textbook, students will need to use the internet and the library to find information on current events related to business issues.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to do independent research on issues determined in class every week. This research will form the basis of class discussions.

〔成績評価の方法〕

Class attendance and participation: 40%
Weekly preparation (homework): 30%
Business plan (course project): 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or after class, or by appointment (please e-mail).
E-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Course introduction
第２週　Widgets (Unit 1)
　　Discussion 1
第３週　Widgets (Unit 1)
　　Discussion 2
第４週　Widgets (Unit 2)
　　Discussion 3
第５週　Widgets (Unit 2)
　　Discussion 4
第６週　Widgets (Unit 3)
　　Discussion 5
第７週　Widgets (Unit 3)
　　Discussion 6
第８週　Widgets (Unit 4)
　　Discussion 7
第９週　Widgets (Unit 4)
　　Discussion 8
第10週　Widgets (Unit 5)
　　Discussion 9
第11週　Widgets (Unit 6)
　　Discussion 10
第12週　Widgets (Units 6)
　　Discussion 11
　　Project introduction
第13週　Course project proposal
第14週　Course project planning
第15週　Course project presentation
　　Course wrap-up
Schedule subject to change based on the needs of the class.

Discussing Business Issues B

3634031200200

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-212-EV

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop reading and discussion skills related to business issues.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the meaning and implications of business-related texts, including periodicals, reports, memos. In addition, students will develop discussion skills by planning and implementing projects based on knowledge gained via newspapers, magazines, and websites as well as the textbook and class discussions.

〔教材〕

教科書：Benevides & Valvona, *Widgets*, 1st Edition, Pearson Longman, 2008

In addition to the textbook, students will need to use the internet and the library to find information on current events related to business issues.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to do independent research on issues determined in class every week. This research will form the basis of class discussions.

〔成績評価の方法〕

Class attendance and participation: 40%
Weekly preparation (homework): 30%
Business plan (course project): 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or after class, or by appointment (please e-mail).
E-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Course introduction
第２週　Widgets (Unit 1)
　　Discussion 1
第３週　Widgets (Unit 1)
　　Discussion 2
第４週　Widgets (Unit 2)
　　Discussion 3
第５週　Widgets (Unit 2)
　　Discussion 4
第６週　Widgets (Unit 3)
　　Discussion 5
第７週　Widgets (Unit 3)
　　Discussion 6
第８週　Widgets (Unit 4)
　　Discussion 7
第９週　Widgets (Unit 4)
　　Discussion 8
第10週　Widgets (Unit 5)
　　Discussion 9
第11週　Widgets (Unit 6)
　　Discussion 10
第12週　Widgets (Units 6)
　　Discussion 11
　　Project introduction
第13週　Course project proposal
第14週　Course project planning
第15週　Course project presentation
　　Course wrap-up
Schedule subject to change based on the needs of the class.

Debate A

3634040100100

副　題	Effective Arguments									担　当　者	C．トロイ　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-301-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007

Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation;debate performance, and attendance;participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Attendance and Debate Participation 25%, Preparation 15%, Final Exams 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

none

Please contact me through my Gakushuin email address.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.

第２週　Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectiviely. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).

第３週　Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate.

第４週　Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.

第５週　Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).

第６週　Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2

第７週　Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Unites 4-6 of the text.

第８週　Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).

第９週　Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3

第10週　Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9

第11週　Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).

第12週　Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.

第13週　Review of course materials. QUIZ 4.

第14週　Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.

第15週　Written Final Review.

Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

Debate B

3634040100200

副　題	Effective Arguments									担　当　者	C．トロイ　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-302-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007

Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation;debate performance, and attendance;participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Attendance and Debate Participation 25%, Preparation 15%, Final Exams 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

None

Please contact me through my Gakushuin email address.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.

第２週　Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectiviely. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).

第３週　Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate.

第４週　Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.

第５週　Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).

第６週　Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2

第７週　Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Unites 4-6 of the text.

第８週　Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).

第９週　Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3

第10週　Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9

第11週　Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).

第12週　Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.

第13週　Review of course materials. QUIZ 4.

第14週　Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.

第15週　Written Final Review.

Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

Business Presentations A

3634040200100

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	ECM-303-EW

〔授業の到達目標〕

プレゼンテーションは難しい…と思っていませんか？大丈夫です。
「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば，
そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした
talkative and activeクラスです。

〔授業の内容〕

プレゼンテーションに必要な要素（structure, phrases, body language, etc）を学び
＝インプット，その上で実際に実践＝アウトプットしていきます。
見て聞いて実践して，フィードバックを活かし，スキルの向上･ステップアップを図りましょう。
テーマはcasualな身の回りのことから，最終的には少々チャレンジングでformalな内容を
目指します。discussionを交え，多くを語る内容です。

〔教材〕

参考書：Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS　An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ターゲット（audience, contents, aim）に応じたプレゼンテーションに向け，
リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ，visual aidsを
準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕

Presentations, recording and worksheets (50%)
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction-Guidance
Posture
Introduction: Introduce yourself
第２週　Eye Contact
Overview: Various aspects of Toyko
第３週　Gestures
Details: Logical ideas
第４週　Enunciation
Conclusion, sign post: Expressions
第５週　First presentation
Fast food/Fast fashion without visual aids
第６週　Feedback/Discussion
Intonation, phrasing
第７週　Supporting Evidence
Facts and Opinions
第８週　Second presentation
Fast food/Fast fasion with visual aids
第９週　Feedback/Discussion
Plan and promote a tour to...
第10週　Presentation competition
第11週　Feedback/Review
Describing numbers, charts and graphs
第12週　Anticipating and understanding Questions
Informing/Describing
第13週　Checking Understanding
Explaining
第14週　Staying in Control
Persuading
第15週　Final Presentations
各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

Business Presentations B

3634040200200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	ECM-304-EW

〔授業の到達目標〕

プレゼンテーションは難しい…と思っていませんか？大丈夫です。
「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば，
そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした
talkative and activeクラスです。

〔授業の内容〕

プレゼンテーションに必要な要素（structure, phrases, body language, etc）を学び
＝インプット，その上で実際に実践＝アウトプットしていきます。
見て聞いて実践して，フィードバックを活かし，スキルの向上･ステップアップを図りましょう。
テーマはcasualな身の回りのことから，最終的には少々チャレンジングでformalな内容を
目指します。discussionを交え，多くを語る内容です。

〔教材〕

参考書：Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS　An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ターゲット（audience, contents, aim）に応じたプレゼンテーションに向け，
リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ，visual aidsを
準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕

Presentations, recording and worksheets (50%)
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction-Guidance
Posture
Introduction: Introduce yourself
第２週　Eye Contact
Overview: Various aspects of Toyko
第３週　Gestures
Details: Logical ideas
第４週　Enunciation
Conclusion, sign post: Expressions
第５週　First presentation
Fast food/Fast fashion without visual aids
第６週　Feedback/Discussion
Intonation, phrasing
第７週　Supporting Evidence
Facts and Opinions
第８週　Second presentation
Fast food/Fast fasion with visual aids
第９週　Feedback/Discussion
Plan and promote a tour to...
第10週　Presentation competition
第11週　Feedback/Review
Describing numbers, charts and graphs
第12週　Anticipating and understanding Questions
Informing/Describing
第13週　Checking Understanding
Explaining
第14週　Staying in Control
Persuading
第15週　Final Presentations
各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

Business Writing A

3634040300100

副　題								担　当　者	Ｔ．スコット　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ECM-305-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Making enquiries
第３週　Continued from week 2
第４週　Business prospects
第５週　Continued from week 4
第６週　Contacting customers
第７週　Continued from week 6
第８週　When things go wrong
第９週　Continued from week 8
第10週　Getting things done
第11週　Continued from week 10
第12週　Maintaining contact
第13週　Continued from week 12
第14週　Customer service
第15週　Continued from week 14

Business Writing B

3634040300200

副　題								担　当　者	Ｔ．スコット　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ECM-306-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Making enquiries
第３週　Continued from week 2
第４週　Business prospects
第５週　Continued from week 4
第６週　Contacting customers
第７週　Continued from week 6
第８週　When things go wrong
第９週　Continued from week 8
第10週　Getting things done
第11週　Continued from week 10
第12週　Maintaining contact
第13週　Continued from week 12
第14週　Customer service
第15週　Continued from week 14

Discussing Current Issues A

3634050100100

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-307-EW

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills and develop their critical thinking ability. They will research, analyze and discuss a variety of local, national and international current issues.

〔授業の内容〕

Students will work together to select a range of current issues to research and discuss. Through individual, pair and group work they will investigate the causes, examine the effects and reflect on future consequences. They will also work on proposing potential solutions to any problems that they identify.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 40%
Completion of homework 10%
Assignments 30%
Final test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staffroom.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential communication skills.
第 2 週　Selecting current issues.
第 3 週　Participating in a discussion.
第 4 週　Developing an argument.
第 5 週　Discussing controversial topics.
第 6 週　Clarifying and refining points.
第 7 週　Defending a point of view.
第 8 週　Discussing local issues.
第 9 週　Discussing societal issues.
第10週　Discussing political issues.
第11週　Discussing economic issues.
第12週　Discussing environmental issues.
第13週　Discussing business issues.
第14週　Discussing health issues.
第15週　Final assessments

Discussing Current Issues B

3634050100200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-308-EW

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills and develop their critical thinking ability. They will research, analyze and discuss a variety of local, national and international current issues.

〔授業の内容〕

Students will work together to select a range of current issues to research and discuss. Through individual, pair and group work they will investigate the causes, examine the effects and reflect on future consequences. They will also work on proposing potential solutions to any problems that they identify.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 40%
Completion of homework 10%
Assignments 30%
Final test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staffroom.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential communication skills.
第 2 週　Selecting current issues.
第 3 週　Participating in a discussion.
第 4 週　Developing an argument.
第 5 週　Discussing controversial topics.
第 6 週　Clarifying and refining points.
第 7 週　Defending a point of view.
第 8 週　Discussing local issues.
第 9 週　Discussing societal issues.
第10週　Discussing political issues.
第11週　Discussing economic issues.
第12週　Discussing environmental issues.
第13週　Discussing business issues.
第14週　Discussing health issues.
第15週　Final assessments

Newspaper English A

3634050200100

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ECM-309-EW

〔授業の到達目標〕

Through this course, students will become familiar with English language newspapers and the particular language that is used by them. They will gain a thorough knowledge of vocabulary and become confident in understanding a variety of articles.

〔授業の内容〕

The course gives students the ability to read and understand the news as well as talk about it. Short and longer authentic texts (some modified) will be used to look at a wide range of aspects of newspaper English. The themes covered will follow the class plan below, although this may change to give the class the flexibility to work on texts that deal with up-to-date major news stories. As well as the study of texts, important issues such as types of newspapers and types of news are also covered. There is also an emphasis on vocabulary building with weekly tests and exercises based on texts presented each week.

〔教材〕

参考書：小林　敏彦『ニュース英語パワーボキャビル3000語プラス』第4版，株式会社　語研，2011年

The above reference book is recommended as a study aid for this course, but it is not required.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly vocabulary building exercises as well as exercises in reading and preparation for class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular vocabulary tests and written exercises set during the course.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Explanation of what is expected and required. So, what do we mean by "a newspaper"?
第 2 週　Finding your way around a newspaper. What kind of articles are there and what are they for?
第 3 週　Finding your way around an article. What? Who? Where? When?
第 4 週　Finding your way around an article. What? Who? Where? How? Why?
第 5 週　An introduction to headlines. Why are they so difficult to understand? The grammar of headlines.
第 6 週　The news looking at current articles. War and conflict
第 7 週　The news looking at current articles. Human rights
第 8 週　The news looking at current articles. Politics
第 9 週　Another look at headlines. Why are they so difficult to understand? Cultural references
第10週　The news looking at current articles. Entertainment
第11週　The news looking at current articles. Show biz
第12週　The news looking at current articles. Sport
第13週　More on headlines. Why are they so difficult to understand? Humour
第14週　Accessing, researching, assessing and presenting on a newspaper article.
第15週　Accessing, researching, assessing and presenting on a newspaper article. A final summary of the course.

Newspaper English B

3634050200200

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ECM-310-EW

〔授業の到達目標〕

Through this course, students will gain a greater familiarity with English language newspapers and the particular language that is used by them. They will gain a thorough knowledge of vocabulary and become confident in understanding a variety of articles.

〔授業の内容〕

The course gives students the ability to read and understand the news as well as talk about it. Short and longer authentic texts (some modified) will be used to look at a wide range of aspects of newspaper English. The themes covered will follow the class plan below, although this may change to give the class the flexibility to work on texts that deal with up-to-date major news stories. As well as the study of texts, important issues such as types of news sources and bias in the news are also covered. There is also an emphasis on vocabulary building with weekly tests and exercises based on texts presented each week.

〔教材〕

参考書：小林　敏彦『ニュース英語パワーボキャビル3000語プラス』第4版，株式会社　語研，2011年

The above reference book is recommended as a study aid for this course, but it is not required.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly vocabulary building exercises as well as exercises in reading and preparation for class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular vocabulary tests and written exercises set during the course.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction. Explanation of what is expected and required. So, what do we mean by "news sources"?
第２週　What kind of newspapers are there? Why are there different kinds of newspapers?
第３週　Finding your way around an opinion piece
第４週　Bias. What is it? Where is it? Why is it?
第５週　Headlines. Bias in headlines
第６週　The news through current articles. Politics（１）
第７週　The news through current articles. Politics（２）
第８週　The news through current articles. Human rights
第９週　The news through current articles. Health and welfare
第10週　The news through current articles. International organisations
第11週　The news through current articles. Finance
第12週　The news through current articles. Religion
第13週　The news through current articles. Local events and customs
第14週　Accessing, researching, assessing and presenting an article
第15週　Accessing, researching, assessing and presenting an article. Summary

In-Depth News Listening A

3634050300100

副　題	ニュースとビジネス英語のリスニング	担　当　者	C．ウィン　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	ECM-311-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース，ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い，時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーション，発音練習，暗唱を行い，リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後，口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して，理解度を深めます。更に様々な熟語，ビジネス語彙や専門用語を学習し，プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔授　業　計　画〕

第１週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（１）
第２週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（２）
第３週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（３）
第４週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（４）
第５週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（５）
第６週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（６）
第７週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（７）
第８週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（８）
第９週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（９）
第10週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（10）
第11週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（11）
第12週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（12）
第13週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（13）
第14週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（14）
第15週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（15）

In-Depth News Listening B

3634050300200

副　題	ニュースとビジネス英語のリスニング							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	ECM-312-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース，ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い，時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーション，発音練習，暗唱を行い，リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後，口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して，理解度を深めます。更に様々な熟語，ビジネス語彙や専門用語を学習し，プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔授　業　計　画〕

第１週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（１）
第２週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（２）
第３週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（３）
第４週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（４）
第５週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（５）
第６週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（６）
第７週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（７）
第８週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（８）
第９週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（９）
第10週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（10）
第11週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（11）
第12週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（12）
第13週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（13）
第14週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（14）
第15週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説（15）

※英語コミュニケーション特殊演習I

3631000100100

副　題	聖書と映画							担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ECM-301-EY

〔授業の到達目標〕

聖書に関する映画の代表作を鑑賞し，その時代背景，社会の変化などを考慮しながらその意義と表現形式党を比較検討・議論する。

〔授業の内容〕

The Ten Commandments, King of Kings, The Bible, The Passion of The Christの４本の聖書映画を比較，検討し，聖書に関する基本的な知識を習得するとともに，現代における科学と聖書の問題に関しても考えてみる。

〔教材〕

プリントを使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン　30パーセント　試験　70パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

※旧科目「映像文化特殊演習Ⅰ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　The Ten Commandments 1
第２週　The Ten Commandments 2
第３週　The Ten Commandments　まとめ
第４週　King of Kings 1
第５週　King of Kings 2
第６週　King of Kings　まとめ１
第７週　The Bible 1
第８週　The Bible 2
第９週　The Bible　まとめ
第10週　The Passion of The Christ　1
第11週　The Passion of The Christ　2
第12週　The Passion of The Christ　3
第13週　The Passion of The Christ　まとめ
第14週　A Man for All seasons 1
第15週　A Man for All seasons 2

英語コミュニケーション特殊演習II

3631000200100

副　題	アカデミー賞作品とアメリカ文化							担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ECM-302-EY

〔授業の到達目標〕

アカデミー作品賞と時代的背景を理解し，映像文化の意義について考える。

〔授業の内容〕

アカデミー作品賞受賞作品を教材として，作品評，作品のテーマ，作品の普遍性等についてディスカッション形式で授業を行なう。また，アカデミー賞の選考法，問題点等についても言及する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン　30パーセント　試験　70パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

※旧科目「映像文化特殊演習Ⅱ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第1週　Chariot of Fire（1）
第2週　Chariot of Fire（2）
第3週　Braveheart（1）
第4週　Braveheart（2）
第5週　Gandhi（1）
第6週　Gandhi（2）
第7週　CRASH（1）
第8週　CRASH（2）
第9週　American Beauty（1）
第10週　American Beauty（2）
第11週　Out of Africa（1）
第12週　Out of Africa（2）
第13週　Beautiful Mind（1）
第14週　Beautiful Mind（2）
第15週　Million Dollar Baby

英語コミュニケーション特殊演習III

3631000300100

副　題	Japanese Culture as Seen by Japanese							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-303-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book of essays on various aspects of Japanese culture written by Japanese. As we read and discuss the different topics which the writers take up, it should be interesting to see what students agree or disagree with and what new insights they can get into their own culture. Each week we will read about 20 pages of the text and prepare to discuss various related topics in class. Students will be actively involved in presenting and discussing the text and topics. Students will write their thoughts and impressions about what they read in a journal each week and will also write a mid-term and a final report on a topic related to our study. Of course, the entire seminar will be taught and conducted only in English.

〔教材〕

教科書：Roger J. Davies and Osamu Ikeno, *The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture*, Tuttle Publishing, 2002

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday, 4限
See the schedule posted outside my office door for other times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier@gakushuin.ac.jp

〔備考〕

※旧科目「国際コミュニケーション特殊演習Ⅰ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Chapters 1-3
第 3 週　Chapters 4-6
第 4 週　Chapters 7-8
第 5 週　Chapters 9-10
第 6 週　Chapters 11-13
第 7 週　Chapters 14-15
第 8 週　Oral presentations of midterm reports
第 9 週　Chapters 16-17
第10週　Chapters 18-20
第11週　Chapters 21-22
第12週　Chapters 23-24
第13週　Chapters 25-26
第14週　Chapters 27-28
第15週　Oral presentations of term reports

英語コミュニケーション特殊演習Ⅳ

3631000400100

副　題	Japanese Society							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-304-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book written about Japanese society by a Japanese professor of sociology and translated into English. The book compares Japan with America, Britain, Italy, France, Germany, Sweden, and Taiwan in order to determine whether inequality really is a social problem in Japan. As we read and discuss different topics which the writer brings up, it should be interesting to see what students agree or disagree with and what new insights they can get into their own culture. Each week we will read about 20 pages of the text and prepare to discuss various related topics in class. Students will be actively involved in presenting and discussing the text and topics. Students will write their thoughts and impressions about what they read in a journal each week and will also write a mid-term and a final report on a topic related to our study. Of course, the entire seminar will be taught and conducted only in English.

〔教材〕

教科書：Sawako Shirahase, *Social Inequality in Japan*, Routledge, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday, 3限
See the schedule posted outside my office door for other times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier@gakushuin.ac.jp

〔備考〕

※旧科目「国際コミュニケーション特殊演習Ⅱ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　Course introduction
第２週　Introduction: Japan compared with other countries
第３週　Chapter 1, Japan: how much inequality?
第４週　Chapter 2, Female labor force participation and economic inequality
第５週　Chapter 3, Economic inequality among families with children
第６週　Chapter 4, Youngsters who won't leave the nest
第７週　Chapter 5, Mothers going out to work: perceptions, attitudes, and their institutional background
第８週　Chapter 6, Where do old people live? Ageing and household structure
第９週　Chapter 7, Old people living alone and those in three-generation households
第10週　Conclusion: Life course and inequality
第11週　Chapter 1, Demography as destiny: Falling birthrates and the allure of a blended society (from *Japan: The Precarious Future*)
第12週　Chapter 4, The future of gender in Japan: Work/life balance and relations between the sexes (from *Japan: The Precarious Future*)
第13週　Oral presentations of midterm papers
第14週　Oral presentations of final term papers
第15週　〃

英語コミュニケーション特殊演習V

3631000500100

副　題	Theory of Intercultural Communication	担　当　者	田島　千裕　准教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-305-EY

〔授業の到達目標〕

本科目の到達目標は、学期末に履修者が以下を身に付けていることである。1）異文化の人とコミュニケーションをする際に知っておくべき基本的コンセプトについて英語で理解している。2）異なる文化的価値を認める柔軟性を身に着け、異文化感受性を備えている。3）英文レポートの書き方を理解し、英文レポート執筆のスキルを身に付けている。4）英語口頭発表の作法を身に付けている。

〔授業の内容〕

本科目の授業は英語で行うものとする。毎回、学習するコンセプトの理解を深めるために、コミュニケーション活動、グループ活動、発表、教科書講読、リアクションペーパー記入、小テスト等を行う。学期末には、各自が選択したコンセプトに関するレポートを提出し、レポートを基に口頭発表を行う。学習を予定しているコンセプトは、授業計画を参照のこと。

〔教材〕

授業時に提示する
（参考資料『異文化コミュニケーションワークブック』三修社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：毎回実施する小テストに向けて、教科書と配布物を精読すること。
予習：次回の授業に向けて、教科書を精読しておくこと。
レポート及び口頭発表課題の準備：資料集め、資料の精読、レポート執筆、パワーポイント作成等を行うこと。

〔成績評価の方法〕

1．出席・授業参加度（授業中の発表回数を含む）２５％
2．小テスト２５％
3．レポート２５％
4．期末試験２５％

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜２時限
メールで連絡をお取りください。メールアドレスは、授業初日にお伝えします。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス／主観的文化・客観的文化
第２週　自文化中心主義
第３週　価値観
第４週　世界観
第５週　高文脈文化・低文脈文化
第６週　翻訳論
第７週　敬語と縦社会
第８週　会話展開
第９週　対人魅力
第10週　アファーマティブアクション
第11週　アニマルセラピー
第12週　レポート締切／口頭発表準備
第13週　口頭発表
第14週　〃
第15週　口頭発表／学期末振り返り
定期試験：期末試験

英語コミュニケーション特殊演習VI

3631000600100

副　題	Introduction to Comparative Cultural Studies	担　当　者	田島　千裕　准教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-306-EY

〔授業の到達目標〕

本科目の到達目標は、学期末に履修者が以下を身に付けていることである。1）北米人のコミュニケーションスタイルとそれを司る価値観を英語で理解している。2）対極する日本人のコミュニケーションスタイルと価値観についても英語で理解している。2）比較文化論の基本的コンセプトを英語で理解している。4）英文レポートの書き方を理解し、英文レポート執筆のスキルを身に付けている。5）英語での口頭発表の作法を身に付けている。

〔授業の内容〕

本科目の授業は英語で行うものとする。毎回、学習するコンセプトの理解を深めるために、コミュニケーション活動、グループ活動、発表、教科書講読、リアクションペーパー記入、小テスト等を行う。学期末には、各自が選択したコンセプトに関するレポートを提出し、レポートを基に口頭発表を行う。学習を予定しているコンセプトは、授業計画を参照のこと。

〔教材〕

教科書：*Polite Fictions in Collision: Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other*, Kinseido

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：毎回実施する小テストに向けて、教科書と配布物を精読すること。
予習：次回の授業に向けて、教科書を精読しておくこと。
レポート及び口頭発表課題の準備：資料集め、資料の精読、レポート執筆、パワーポイント作成等を行うこと。

〔成績評価の方法〕

1．出席・授業参加度（授業中の発表回数を含む）２５％
2．小テスト２５％
3．レポート２５％
4．期末試験２５％

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜２時限
メールで連絡をお取りください。メールアドレスは、授業初日にお伝えします。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス／広義の文化、狭義の文化
第２週　個人主義
第３週　集団主義
第４週　内集団
第５週　外集団
第６週　独創性と協調性
第７週　縦社会
第８週　横社会
第９週　謝罪の文化
第10週　甘えの文化
第11週　異なるコミュニケーションスタイル（会話展開）
第12週　レポート締切／口頭発表準備
第13週　口頭発表
第14週　〃
第15週　口頭発表／学期末振り返り
定期試験：期末試験

英語コミュニケーション特殊演習VII

3631000700100

副　題	世界の多様な英語							担　当　者	渡邊　知子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ECM-307-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　英語の広がりや，世界における英語使用の現状について，理解を深める。
（2）　世界の多様な英語に触れ，英語の多様性について理解を深める。

〔授業の内容〕
まずは，英語使用の現状に注目し，英語がなぜ世界中に広がったのかを考察します。次に，世界の様々な英語に触れ，異なる文化･社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し，英語の多様性について理解を深めていきます。

〔教材〕
初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
指定された文献を読み，内容に関する意見をまとめたうえで授業に出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕
授業への積極的な参加（30%）
発表（40%）
課題（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問などは授業後に受け付けます。

〔備考〕
※旧科目「World Englishes特殊演習Ⅰ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　The spread of English
第3週　‘Native speaker’ and ‘non-native speaker’
第4週　‘Standard English’ and ‘non-standard English’
第5週　Pidgin and creole languages
第6週　Global Englishes（1）
第7週　Global Englishes（2）
第8週　中間発表（1）
第9週　中間発表（2）
第10週　English as a Lingua Franca
第11週　The future of Global Englishes
第12週　課題研究話し合い
第13週　期末発表（1）
第14週　期末発表（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション特殊演習VIII

3631000800100

副　題	世界の多様な英語							担　当　者	渡邊　知子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ECM-308-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　英語の広がりや，世界における英語使用の現状について，議論を深める。
（2）　英語の多様性について，議論を深める。

〔授業の内容〕

まずは，世界における英語使用の背景と現状についての考察と議論を深めます。次に，異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割についての議論を深めます。また，多文化間での英語使用とコミュニケーションの特徴や，英語教育の今後についても議論します。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された文献を読み，内容に関する意見をまとめたうえで授業に出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（30%）
発表（40%）
課題（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。

〔備考〕

※旧科目「World Englishes特殊演習Ⅱ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Global Englishes（1）
第3週　Global Englishes（2）
第4週　English as a Lingua Franca
第5週　Intelligibility
第6週　Creativity
第7週　Communication in ELF
第8週　中間発表（1）
第9週　中間発表（2）
第10週　ELF and language education
第11週　The future of Global Englishes
第12週　課題研究話し合い
第13週　期末発表（1）
第14週　期末発表（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション特殊演習IX

3631000900100

副　題	Discussing Business Topics	担　当　者	C．ウィン　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ECM-309-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related topics. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔備考〕

※旧科目「ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅰ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　Discussions and Presentations（１）
第２週　Discussions and Presentations（２）
第３週　Discussions and Presentations（３）
第４週　Discussions and Presentations（４）
第５週　Discussions and Presentations（５）
第６週　Discussions and Presentations（６）
第７週　Discussions and Presentations（７）
第８週　Discussions and Presentations（８）
第９週　Discussions and Presentations（９）
第10週　Discussions and Presentations（10）
第11週　Discussions and Presentations（11）
第12週　Discussions and Presentations（12）
第13週　Discussions and Presentations（13）
第14週　Discussions and Presentations（14）
第15週　Discussions and Presentations（15）

英語コミュニケーション特殊演習X

3631001000100

副　題	Discussing Business Topics									担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ECM-310-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related topics. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔備考〕

※旧科目「ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅱ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　Discussions and Presentations（１）
第２週　Discussions and Presentations（２）
第３週　Discussions and Presentations（３）
第４週　Discussions and Presentations（４）
第５週　Discussions and Presentations（５）
第６週　Discussions and Presentations（６）
第７週　Discussions and Presentations（７）
第８週　Discussions and Presentations（８）
第９週　Discussions and Presentations（９）
第10週　Discussions and Presentations（10）
第11週　Discussions and Presentations（11）
第12週　Discussions and Presentations（12）
第13週　Discussions and Presentations（13）
第14週　Discussions and Presentations（14）
第15週　Discussions and Presentations（15）

英語コミュニケーション特殊演習XI

3631001100100

副　題	第二言語習得							担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECM-311-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
（2）　ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
（3）　第二言語習得関連の文献を英語で読み，専門用語を理解する。

〔授業の内容〕

前期と後期を通して，第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い，後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で，学生の発表を中心とする（必要に応じて，日本語も使用する）。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活―Language and Our Lives』三修社，2013年
教科書以外の付加教材は，こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%，発表20%，クイズ20%，課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

※旧科目「第二言語習得特殊演習Ⅰ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　The Importance of Making Mistakes（1）
第3週　The Importance of Making Mistakes（2）
第4週　Active language learning（1）
第5週　Active language learning（2）
第6週　Learning to think in English（1）
第7週　Learning to think in English（2）
第8週　Vocabulary（1）
第9週　Vocabulary（2）
第10週　The Benefits of Studying Abroad（1）
第11週　The Benefits of Studying Abroad（2）
第12週　Paralanguage（1）
第13週　Paralanguage（2）
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

英語コミュニケーション特殊演習XII

3631001200100

副　題	第二言語習得							担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECM-312-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
（2）　ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
（3）　第二言語習得関連の文献を英語で読み，専門用語を理解する。

〔授業の内容〕

前期と後期を通して，第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い，後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で，学生の発表を中心とする（必要に応じて，日本語も使用する）。

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活―Language and Our Lives』三修社，2013年
教科書以外の付加教材は，こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度20%，発表20%，クイズ20%，課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

※旧科目「第二語習得特殊演習Ⅱ」の単位修得者は，本科目を履修できません。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Listening（1）
第3週　Listening（2）
第4週　Reading（1）
第5週　Reading（2）
第6週　Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation（1）
第7週　Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation（2）
第8週　Speaking（1）
第9週　Speaking（2）
第10週　Writing（1）
第11週　Writing（2）
第12週　Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching（1）
第13週　Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching（2）
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

英語コミュニケーション演習IA・IIIA

3630050100100

副　題	卒業論文作成　I							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-313-EY ECM-425-EY

〔授業の到達目標〕

論文とレポートの違いを理解する

〔授業の内容〕

卒業論文のテーマの選び方。卒業論文作成のための基礎知識の習得（テーマの現代性と意義，資料の検索法等について）する。時事問題に関するニュースを素材として，議論するので，必ず自分の意見を主張できるよう準備すること。発言する際には論理的かつ簡潔に述べること。

〔教材〕

プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

2時間

〔成績評価の方法〕

小論　60%，発表　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

予約が必要

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

政治・経済・文化に関する国内外のトピックをテーマに小論作成のトレーニングを実施します。

〔授　業　計　画〕

第1週　卒論とは
第2週　テーマ　I
第3週　テーマ　II
第4週　テーマ　III
第5週　論文の形式　I
第6週　論文の形式　II
第7週　論文の形式　III
第8週　論文の形式　IV
第9週　小論発表　I
第10週　小論発表　II
第11週　小論発表　III
第12週　小論発表　IV
第13週　小論発表　V
第14週　小論発表　VI
第15週　小論発表　VII

英語コミュニケーション演習IB・IIIB

3630050100200

副　題	Intercultural Communication							担　当　者	G．R．ファリア　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-314-EY ECM-426-EY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

We will cover the first half of the text this semester. Each week students will form groups to present the content of the textbook to the class, and all students will also be given a handout of study guide questions on the chapter to prepare for discussion in class. Other supplementary readings will be suggested to give students a wider understanding of each topic, and topics for research papers will also be suggested. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and reports (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 4時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Why study intercultural communication?
第３週　A history of intercultural contact
第４週　The roots of intercultural communication
第５週　Key concepts in intercultural communication
第６週　Key concepts in the study of culture
第７週　Cultural differences
第８週　Communication
第９週　Intrapersonal and interpersonal communication
第10週　Verbal communication
第11週　Cultural factors in interpersonal communication
第12週　Presentation of term reports（１）
第13週　Presentation of term reports（２）
第14週　Presentation of term reports（３）
第15週　Presentation of term reports（４）

英語コミュニケーション演習IC・IIIC

3630050100300

副　題	Intercultural Communication Competence	担　当　者	田島　千裕　准教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-315-EY ECM-427-EY

〔授業の到達目標〕

This course introduces basic culture-general concepts in intercultural communication in the following 3 areas: 1) non-verbal communication, 2) language and communication, and 3) values and communication.

At the end of the semester, students are expected to: 1) be able to explain the concepts in the 3 areas, 2) be able to write a term paper and do a Power Point presentation on a concept of their choice, and 3) have awareness to understand others and engage in appropriate and effective intercultural communication.

〔授業の内容〕

In the lessons, there will be group work and discussions to support students' understanding of concepts being studied. In addition, students will read the textbook and write comments. Students are responsible for reading the textbook for homework to prepare for the quizzes. The weekly schedule below shows concepts which will be introduced in this course.

〔教材〕

教科書：*Beyond Boundaries: Insights into Culture and Communication*, Kinseido
参考書：『異文化コミュニケーション論 - グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Studying for weekly quizzes, reading the textbook and doing exercises in the textbook for homework. Term paper writing, and PPT making.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance, class participation, comment paper 25%
2. Quizzes 25%
3. Term paper 25%
4. Power Point presentation 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods
By email. My email address will be distributed on the first day of class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Self-introduction
　　Eye Contact
第 2 週　Chapter 1: Facial Expression (Non-verbal Communication)
第 3 週　Chapter 2: Gestures and Body Movement (Non-verbal Communication)
第 4 週　Chapter 3: Space and Distance (Non-verbal Communication)
第 5 週　Chapter4: Time in Communication (Non-verbal Communication)
　　introduction to term paper - topics
第 6 週　Chapter 5: Gender and Communication Style (Language and Communication)
第 7 週　Chapter 6: Culture and Communication Style (Language and Communication)
　　term paper - outline
第 8 週　Chapter 7: Self-disclosure (Language and Communication)
第 9 週　Chapter 8: Self-assertiveness (Language and Communication)
　　term paper - first draft
第10週　Chapter 10: Cultural Values (Values and Communication)
　　introduction to PPT presentation
第11週　Chapter 11: Ethnocentrism (Values and Communication)
　　practicing PPT presentation
　　term paper due
第12週　presentation skills
第13週　Power Point presentations
第14週　〃
第15週　End-of-semester feedback
This schedule is tentative.

英語コミュニケーション演習ID・IIID

3630050100400

副　題	「国際共通語」としての英語と世界の英語	担　当　者	渡邊　知子　講師

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-316-EY ECM-428-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　世界における英語使用の現状について理解を深める。
（2）　世界の多様な英語について理解を深める。
（3）「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について，考えをまとめる。
（4）　論文の書き方を学ぶ。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。世界における英語使用の現状と英語が広まった背景に注目し，異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割，国際的に通用する（しやすい）英語の特徴や，「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について議論します。

同時に，英語の文献を理解し，論理的に意見を述べる力を伸ばします。授業はディスカッションを中心に進め，エッセイとプレゼンテーションも必須です。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された文献を読み，内容に関する意見をまとめたうえで授業に出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（30%）
発表（30%）
課題（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Global Englishes（1）
第3週　Global Englishes（2）
第4週　English as a Lingua Franca（1）
第5週　English as a Lingua Franca（2）
第6週　中間発表（1）
第7週　中間発表（2）
第8週　Reading and Discussion（1）
第9週　Reading and Discussion（2）
第10週　Reading and Discussion（3）
第11週　Reading and Discussion（4）
第12週　卒業研究話し合い
第13週　期末発表（1）
第14週　期末発表（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション演習IE・IIIE

3630050100500

副　題	ビジネス英語							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-317-EY ECM-429-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ，実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語，様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ，英語の学習に加え，ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション，ビジネスミーティングのロールプレー，プレゼンテーションなどを行い，ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけではなく，ビジネス英語の文書力も習得します。電子通信の時代に欠かせないビスネスEメールライティングの形式，表現，書き方を学び，練習を行います。高度な英語力を身につけるには，努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010
John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席・参加　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す

〔授　業　計　画〕

第１週　ディスカッションやロールプレー（１）
第２週　ディスカッションやロールプレー（２）
第３週　ディスカッションやロールプレー（３）
第４週　ディスカッションやロールプレー（４）
第５週　ディスカッションやロールプレー（５）
第６週　ディスカッションやロールプレー（６）
第７週　ディスカッションやロールプレー（７）
第８週　ディスカッションやロールプレー（８）
第９週　ディスカッションやロールプレー（９）
第10週　ディスカッションやロールプレー（10）
第11週　ディスカッションやロールプレー（11）
第12週　ディスカッションやロールプレー（12）
第13週　ディスカッションやロールプレー（13）
第14週　ディスカッションやロールプレー（14）
第15週　ディスカッションやロールプレー（15）

英語コミュニケーション演習IF・IIIF

3630050100600

副　題	応用言語学：英語学習法・教授法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-318-EY ECM-430-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　応用言語学の基礎を理解する。
（2）　多様な英語教授法を概観する。
（3）　効率的・効果的な教授法を研究する。
（4）　応用言語学の知識を基礎として，自分の英語力向上に努める。
（5）　卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕
英語をマスターするには，膨大な時間と労力を必要とします。しかし，なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なの？」などの疑問を解消すべく，第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また，今までの研究結果に基づいて，効果的な言語学習方法及び教授法を考察し，自分自身の英語力向上にも努めます。
3年次より卒業論文に向けて準備をし，各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕
教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2nd Edition, Cambridge University Press, 2012
参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要します）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度30%，発表30%，試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Chapter01: Introducing second language acquisition（1）
第3週　Chapter01: Introducing second language acquisition　（2）
第4週　Chapter02: Foundations of second language acquisition　（1）
第5週　Chapter02: Foundations of second language acquisition　（2）
第6週　Chapter03: The linguistics of second language acquisition　（1）
第7週　Chapter03: The linguistics of second language acquisition　（2）
第8週　卒業論文中間発表　（1）
第9週　卒業論文中間発表　（2）
第10週　学術論文の探し方・APA論文形式について
第11週　Chapter04: The psychology of second language acquisition　（1）
第12週　Chapter04: The psychology of second language acquisition　（2）
第13週　理解度の確認
第14週　卒業論文期末発表　（1）
第15週　卒業論文期末発表　（2）
演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもあります。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

英語コミュニケーション演習ⅡA・ⅣA

3630050200100

副　題	卒業論文　Ⅰ							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-319-EY ECM-431-EY

〔授業の到達目標〕

卒業論文とはいかなるものかを理解する。

〔授業の内容〕

卒業論文作成のための基礎知識（論理的な思考と明瞭な論述の習得のための実践的トレーニング）４年生の卒論について考察し，議論する。

〔教材〕

プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間

〔成績評価の方法〕

小論　60%，発表　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

事前のアポをメールにてとること。
メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

４年生の卒論発表を中心に，批評のあり方を習得する。

〔授　業　計　画〕

第１週　卒論とは
第２週　テーマ　Ⅰ
第３週　テーマ　Ⅱ
第４週　テーマ　Ⅲ
第５週　論文の形式　Ⅰ
第６週　論文の形式　Ⅱ
第７週　論文の形式　Ⅲ
第８週　論文の形式　Ⅳ
第９週　小論発表　Ⅰ
第10週　小論発表　Ⅱ
第11週　小論発表　Ⅲ
第12週　小論発表　Ⅳ
第13週　小論発表　Ⅴ
第14週　小論発表　Ⅵ
第15週　小論発表　Ⅶ

英語コミュニケーション演習IIB・IVB

3630050200200

副　題	Intercultural Communication									担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-320-EY ECM-432-EY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

This course is a continuation of Intercultural Communication I. We will take up where we left off at the end of the first term and continue with the second half of the text. We will continue to conduct the classes in the same way as the first semester, but the content will be increasingly complex. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, term paper, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Everett M. Rogers and Thomas M. Steinfatt, *Intercultural Communication*, Waveland Press, 1999

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), reports (20%), presentations (20%), and a term paper (30%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 3時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Nonverbal communication
第３週　Types of nonverbal communication
第４週　Assimilation and acculturation
第５週　Ethnic groups in the United States
第６週　The role of the media
第７週　Culture shock
第８週　Becoming more intercultural
第９週　Toward multiculturalism
第10週　The global village
第11週　Development programs in third world countries
第12週　Presentations of term papers（１）
第13週　Presentations of term papers（２）
第14週　Presentations of term papers（３）
第15週　Presentations of term papers（４）

英語コミュニケーション演習IIC・IVC

3630050200300

副　題								担　当　者	田島　千裕　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-321-EY ECM-433-EY

〔授業の到達目標〕

In this class, you will read about some aspects of Japanese culture and communication and compare and contrast with other cultures and communication styles using a textbook called An Intercultural Exploration. You will also be introduced to some important concepts in intercultural communication.

〔授業の内容〕

In class, we will do activities such as reading, discussing, presenting and writing. Toward the end of this course, you will choose a cultural or communication-related topic, submit a written report about the topic, then do a final presentation using PPT based on your written report.

〔教材〕

教科書：*An Intercultural Exploration <外国人の捉えた日本人像>*, 成美堂

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Intensive reading, preparing for weekly quizzes, writing a term paper, and preparing for presentations.

〔成績評価の方法〕

1. Attendance and Participation 25%
2. Other Assessments 25%
3. Written Report 25 %
4. Presentation 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 2nd periods
By email. My email address will be distributed on the first day.

〔授　業　計　画〕

第１週　Syllabus
　　言語コミュニケーション（日本語自己紹介vs Self-introduction in English）
第２週　Reading 1. Japanese-style Compliment (Sample presentation)
第３週　Reading 2. Good Listener
　　言語コミュニケーション（ほめ方）
第４週　Reading 3. How to Decline an Invitation
　　言語コミュニケーション（誘い方と断り方）
第５週　Reading 4. Smiling on the Outside, Crying on the Inside
　　言語コミュニケーション（謝り方）
第６週　Reading 5. Customers are Like God
　　Written report & Final presentation - Choose a Topic
第７週　Reading 6. We Japanese (2 students)
　　Written report & Final presentation - Bring References
第８週　Reading 7. Are Japanese Just Saying That?
　　Written report & Final presentation - Make an Outline
第９週　(PC Room)
　　Written report & Final presentation - PPT tips / Formatting written report
第10週　Reading 8. "Chotto…"
　　Written report & Final presentation - First draft due
第11週　Preparing for final presentation
第12週　Final Presentations（１）
第13週　Final Presentations（２）
第14週　Final Presentations（３）
第15週　Semester feedback
This schedule is tentative.

英語コミュニケーション演習IID・IVD

3630050200400

副　題	「国際共通語」としての英語と世界の英語	担　当　者	渡邊　知子　講師

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-322-EY ECM-434-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　世界における英語使用の現状について理解を深める。
（2）　世界の多様な英語について理解を深める。
（3）「国際共通語」としての英語の今後の課題について，考えを深める。
（4）　論文の書き方を学ぶ。4年生は卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。春学期に引き続き，English as a Lingua Franca，World Englishesに関する文献を読み進めます。世界における英語使用の現状と，世界的な英語の広がりに関して議論されている事柄について理解を深め，多角的に考察します。

同時に，英語の文献を理解し，論理的に意見を述べる力を伸ばします。授業はディスカッションを中心に進め，エッセイとプレゼンテーションも必須です。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された文献を読み，内容に関する意見をまとめたうえで授業に出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加（30%）
発表（30%）
課題（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付けます。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Global Englishes（1）
第3週　Global Englishes（2）
第4週　English as a Lingua Franca（1）
第5週　English as a Lingua Franca（2）
第6週　中間発表（1）
第7週　中間発表（2）
第8週　卒業研究話し合い（1）
第9週　卒業研究話し合い（2）
第10週　Reading and Discussion（1）
第11週　Reading and Discussion（2）
第12週　Reading and Discussion（3）
第13週　期末発表　（1）
第14週　期末発表　（2）
第15週　まとめ

英語コミュニケーション演習ⅡE・ⅣE

3630050200500

副　題	ビジネス英語							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-323-EY ECM-435-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ，実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語，様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ，英語の学習に加え，ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション，ビジネスミーティングのロールプレー，プレゼンテーションなどを行い，ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけではなく，ビジネス英語の文書力も習得します。電子通信の時代に欠かせないビスネスEメールライティングの形式，表現，書き方を学び，練習を行います。高度な英語力を身につけるには，努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010
John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席・参加　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通す。

〔授　業　計　画〕

第１週　ディスカッションやロールプレー（１）
第２週　ディスカッションやロールプレー（２）
第３週　ディスカッションやロールプレー（３）
第４週　ディスカッションやロールプレー（４）
第５週　ディスカッションやロールプレー（５）
第６週　ディスカッションやロールプレー（６）
第７週　ディスカッションやロールプレー（７）
第８週　ディスカッションやロールプレー（８）
第９週　ディスカッションやロールプレー（９）
第10週　ディスカッションやロールプレー（10）
第11週　ディスカッションやロールプレー（11）
第12週　ディスカッションやロールプレー（12）
第13週　ディスカッションやロールプレー（13）
第14週　ディスカッションやロールプレー（14）
第15週　ディスカッションやロールプレー（15）

英語コミュニケーション演習ⅡF・ⅣF

3630050200600

副　題	応用言語学：英語学習法・教授法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-324-EY ECM-436-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　応用言語学の基礎を理解する。
（2）　多様な英語教授法を概観する。
（3）　効率的・効果的な教授法を研究する。
（4）　応用言語学の知識を基礎として，自分の英語力向上に努める。
（5）　卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕
英語をマスターするには，膨大な時間と労力を必要とします。しかし，なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なの？」などの疑問を解消すべく，第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また，今までの研究結果に基づいて，効果的な言語学習方法及び教授法を考察し，自分自身の英語力向上にも努めます。
3年次より卒業論文に向けて準備をし，各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕
教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2nd Edition, Cambridge University Press, 2012
参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習に2時間，復習に1時間程度を要します）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度30%，発表30%，試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Chapter05: Social contexts of second language acquisition（1）
第3週　Chapter05: Social contexts of second language acquisition（2）
第4週　Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use（1）
第5週　Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use（2）
第6週　学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方（1）
第7週　学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方（2）
第8週　卒業論文中間発表　（1）
第9週　卒業論文中間発表　（2）
第10週　卒業論文中間発表　（3）
第11週　Chapter07: L2 learning and teaching　（1）
第12週　Chapter07: L2 learning and teaching　（2）
第13週　理解度の確認
第14週　卒業論文期末発表　（1）
第15週　卒業論文期末発表　（2）
演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもあります。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

卒業研究（春）

3631091100200

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-401-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240　時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業研究（秋）

3631091100100

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-402-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240　時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（春）

3631091200200

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-403-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（秋）

3631091200100

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-404-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

共通科目（外国語科目１群・２群を除く）

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

共通科目（外国語を除く）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
特別総合科目群	特別総合科目Ⅰ（外交官）	外交・国際交流の第一線から	CAR-201-GA	2～	春		2	阿曽村智子	498
	特別総合科目Ⅱ（特派員）			1～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅲ（国際企業）	組織とキャリアの最前線	CAR-203-GA	2～	春		2	金城　亜紀	499
	特別総合科目Ⅳ（東アジア共同体論―学際的アプローチ）			1～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅴ（環境問題）	地球・自然・人と生き物たち	ENV-005-GA	1～	春		2	品川　　明	500
	特別総合科目Ⅵ（職業選択）			1～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅶ（現代時事分析１）			2～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅷ（現代時事分析２）	海外特派員経験者が現場報告	INR-208-GA	2～		秋	2	石澤　靖治	501
	特別総合科目Ⅸ（フードコンシャスネス論１）	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座	LIF-109-GA	1～	春		2	品川　　明	502
	特別総合科目Ⅹ（フードコンシャスネス論２）	フードコンシャスネスと食を自覚する授業	LIF-210-GA	2～		秋	2	品川　　明	503
	特別総合科目XI（オリンピックの探究）	オリンピック・リテラシーの成熟に向けて	SPO-011-GA	1～		秋	2	荒井　啓子	504
	特別総合科目XII（キャリアデザイン１）	学生生活のキャリアデザイン	CAR-112-GA	1～2		秋	2	西本万映子	505
	特別総合科目XIII（キャリアデザイン２）	卒業後を踏まえたキャリアデザイン	CAR-313-GA	3～	春		2	西本万映子	506
国際文化交流論科目群	国際文化交流論Ⅰ（日本の国際文化交流）	自分探しの異文化交流　―自分を知り、日本を知る―	ICR-001-GB	1～	春		2	伊部　正信	507
	国際文化交流論Ⅱ（国際開発協力）	国際開発協力の現場と異文化理解	POL-002-GB	1～	春集中		2	藤谷　浩至	508
	国際文化交流論Ⅲ（日本文化交流史）	中欧において日本文化交流を実践するために	ICR-003-GB	1～	春		2	中島　崇文	509
	国際文化交流論Ⅳ（戦争と平和）		POL-004-GB	1～	春		2	奥村　快也	510
	国際文化交流論Ⅴ（国際ビジネス）			2～	－	－	2	－	－
	国際文化交流論Ⅵ（技術交流）		ICR-006-GB	1～	春		2	伊藤由紀子	511
	国際文化交流論Ⅶ（報道と文化交流）			1～	－	－	2	－	－
	国際文化交流論Ⅷ（環境教育）	国際文化交流のための環境教育等の実践	ENV-008-GB	1～		秋	2	品川　　明	512
	国際文化交流論Ⅸ（国際機関）	ジュネーヴ市に立地する様々な国際機関	INR-009-GB	1～	春		2	中島　崇文	513
	国際文化交流論Ⅹ（日本とアジアの近現代比較経営史）	Reimaging Japan and Asia	ECO-210-GB	2～		秋	2	金城　亜紀	514
	国際文化交流論XI（環太平洋地域２）	Canada, Japan and the World	GEO-211-GB	2～		秋	2	金城　亜紀	515
共通基礎科目群	法学Ⅰ	法学入門　（導入と刑事法の基礎）	LAW-101-GC	1～	春		2	櫻井　大三	516
	法学Ⅱ	法学入門　（民事法の基礎）	LAW-102-GC	1～		秋	2	櫻井　大三	517
	日本国憲法		LAW-103-GC	1～	春		2	福井　康佐	518
	教育学		EDU-104-GC	1～	春		2	大桃　敏行	519
	哲学	哲学的に考える。	PHL-105-GC	1～		秋	2	杉山晃太郎	520
	心理学		PSY-106-GC	1～	春		2	角尾　美奈	521
	基礎政治学	グローバリゼーションと国民国家	POL-107-GC	1～		秋	2	杉原　志啓	522
	基礎経済学	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか。	ECO-108-GC	1～	春		2	宇野　公子	523
	基礎社会学	現代社会を理解するための理論と方法	SOC-109-GC	1～	春		2	時安　邦治	524
	基礎統計学	初めて学ぶ統計学	INF-110-GC	1～		秋	2	竹内　俊子	525
	日本近代史概論	近代日本における制度・政策、経済、社会	HIS-111-GC	1～		秋	2	森田　貴子	526
	西洋近代史概論	寛容と迫害のヨーロッパ史	HIS-112-GC	1～		秋	2	高津　美和	527

共通科目（外国語を除く）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
共通基礎科目群	西洋思想史概論	西洋政治思想史	PHL-113-GC	1～		秋	2	時安　邦治	528
	日本芸術論	美術をめぐる理念とその展開	ART-114-GC	1～	春		2	石田　佳也	529
	西洋芸術論	中欧文化史　チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に	ART-115-GC	1～		秋	2	遠藤　望	530
	英語学概論	英語史と言語研究の概観	ENG-116-GC	1～		秋	2	古庄　信	531
	学習院史Ⅰ		HIS-117-GC	1～	春		2	藤田　英昭	532
	学習院史Ⅱ		HIS-118-GC	1～		秋	2	近藤　祐介	533
人間・環境系科目群	人間関係論Ⅰ（家族）		SOC-001-GD	1～	春		2	石黒　史郎	534
	人間関係論Ⅱ（母体の健康と育児）		CHL-002-GD	1～	春		2	白坂　香弥	535
	人間関係論Ⅲ（幼児教育）			1～	－	－	2	－	－
	人間関係論Ⅳ（カウンセリング論）		PSY-004-GD	1～		秋	2	角尾　美奈	536
	人間関係論Ⅴ（地域社会）		SOC-005-GD	1～		秋	2	長野　慎一	537
	人間関係論Ⅵ（組織社会）		SOC-006-GD	1～	春		2	長野　慎一	538
	人間関係論Ⅶ（女性）		GEN-007-GD	1～		秋	2	中村優実子	539
	社会環境論Ⅰ（環境法）	国際環境問題解決のための法制度	LAW-008-GD	1～		秋	2	小中さつき	540
	社会環境論Ⅱ（環境経済学）	ミクロ経済学とその環境問題への応用	ECO-009-GD	1～	春		2	荘林幹太郎	541
	社会環境論Ⅲ（食糧の安全性）	食の本質と食品の安全性	LIF-010-GD	1～	春		2	品川　明	542
	社会環境論Ⅳ（エネルギーと社会問題）			1～	－	－	2	－	－
	自然環境論Ⅰ（エコロジー）	気づきから人間の責任ある行動へ 体験学習による生態学	ENV-012-GD	1～	春		2	品川　明	543
	自然環境論Ⅱ（自然環境の保全）	長崎市および上五島町の環境・風土・歴史と文化の振興	ENV-013-GD	1～	春集中		2	品川　明	544
	自然環境論Ⅲ（生物資源利用）	植物資源の利用	ENV-014-GD	1～	春		2	阿部　誠	545
	自然環境論Ⅳ（環境汚染）		ENV-015-GD	1～	春集中		2	平井・品川	546
	生活環境論Ⅰ（人間と食）	食の基礎と母乳の科学	LIF-016-GD	1～		秋	2	品川　明	547
	生活環境論Ⅱ（ウエルネス論）	身体・健康・環境～well-beingについて考える	LIF-017-GD	1～		秋	2	荒井　啓子	548
	生活環境論Ⅲ（健康と栄養）	食物と健康	LIF-018-GD	1～	春		2	阿部　誠	549
	生活環境論Ⅳ（社会福祉論）	女性と社会福祉	SOC-019-GD	1～		秋	2	田中恵美子	550
	生活環境論Ⅴ（生活者と環境）	私たちにとって有意義な生活とは何か	LIF-020-GD	1～	春		2	内田　直子	551
	地球環境論Ⅰ	地球環境問題への総合的アプローチ	ENV-021-GD	1～	春		2	荘林幹太郎	552
	地球環境論Ⅱ	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて	ENV-022-GD	1～		秋	2	荘林幹太郎	553
情報技術科目群	情報処理ⅠA（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-101-GE	1～	春		2	清水　將吾	554
	情報処理ⅠB（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-102-GE	1～	春		2	清水　將吾	555
	情報処理ⅠC（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-103-GE	1～	春		2	岩城　宏明	556
	情報処理ⅠD（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-104-GE	1～	春		2	岩城　宏明	557
	情報処理ⅠE（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-105-GE	1～	春		2	清水　將吾	558
	情報処理ⅠF（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-106-GE	1～	春		2	加園　克己	559
	情報処理ⅠG（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-107-GE	1～	春		2	岩城　宏明	560
	情報処理ⅠH（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-108-GE	1～	春		2	加園　克己	561

共通科目（外国語を除く）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
情報技術科目群	情報処理ＩＩ（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-109-GE	1～	春		2	市川　収	562
	情報処理ＩＪ（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-110-GE	1～	春		2	市川　収	563
	情報処理ⅡＡ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-111-GE	1～		秋	2	清水　將吾	564
	情報処理ⅡＢ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-112-GE	1～		秋	2	清水　將吾	565
	情報処理ⅡＣ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-113-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	566
	情報処理ⅡＤ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-114-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	567
	情報処理ⅡＥ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-115-GE	1～		秋	2	清水　將吾	568
	情報処理ⅡＦ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-116-GE	1～		秋	2	加園　克己	569
	情報処理ⅡＧ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-117-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	570
	情報処理ⅡＨ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-118-GE	1～		秋	2	加園　克己	571
	情報処理ⅡＩ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-119-GE	1～		秋	2	市川　収	572
	情報処理ⅡＪ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-120-GE	1～		秋	2	市川　収	573
	情報処理Ⅲ（コンピュータ応用）	画像処理	CAR-121-GE	1～	春		2	岩城　宏明	574
	情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）	プログラム作成	CAR-122-GE	1～		秋	2	清水　將吾	575
	文献情報		INF-123-GE	1～		秋	2	越塚・西川	576
	社会調査法		SOC-024-GE	1～		秋	2	本柳　亨	577
日本語表現法科目群	日本語表現法ＩＡ	「書きことば」による文章表現	JPL-101-GF	1～	春		2	阿部美菜子	578
	日本語表現法ＩＢ	「書きことば」による文章表現	JPL-102-GF	1～	春		2	阿部美菜子	579
	日本語表現法ＩＣ	「書きことば」による文章表現	JPL-103-GF	1～	春		2	奥泉　香	580
	日本語表現法ＩＤ	「書きことば」による文章表現	JPL-104-GF	1～	春		2	村上　佳恵	581
	日本語表現法ＩＥ	「書きことば」による文章表現	JPL-105-GF	1～	春		2	篠崎　佳子	582
	日本語表現法ＩＦ		JPL-106-GF	1～	春		2	木村　直恵	583
	日本語表現法ＩＧ	アカデミックライティング	JPL-107-GF	1～	春		2	福島　直恭	584
	日本語表現法ＩＨ	「書きことば」による文章表現	JPL-108-GF	1～		秋	2	阿部美菜子	585
	日本語表現法ＩＩ	「書きことば」による文章表現	JPL-109-GF	1～		秋	2	篠崎　佳子	586
	日本語表現法ＩＪ	「書きことば」による文章表現	JPL-110-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	587
	日本語表現法ＩＫ	「書きことば」による文章表現	JPL-111-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	588
	日本語表現法ＩＬ	「書きことば」による文章表現	JPL-112-GF	1～		秋	2	加藤　陽子	589
	日本語表現法ＩＭ		JPL-113-GF	1～		秋	2	木村　直恵	590
	日本語表現法ＩＮ	アカデミックライティング	JPL-114-GF	1～		秋	2	福島　直恭	591
	日本語表現法ⅡＡ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-115-GF	1～	春		2	阿部美菜子	592
	日本語表現法ⅡＢ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-116-GF	1～	春		2	村上　佳恵	593
	日本語表現法ⅡＣ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-117-GF	1～	春		2	村上　佳恵	594
	日本語表現法ⅡＤ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-118-GF	1～		秋	2	阿部美菜子	595
	日本語表現法ⅡＥ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-119-GF	1～		秋	2	奥泉　香	596
	日本語表現法ⅡＦ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-120-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	597

共通科目（外国語を除く）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
スポーツ・健康科学演習科目群	スポーツ・健康科学演習ⅠA	ダンスと文化(日本の踊りと世界のダンス)	SPO-001-GG	1～	春		2	荒井　啓子	598
	スポーツ・健康科学演習ⅠB	和の身体技法	SPO-002-GG	1～	春		2	森田　ゆい	599
	スポーツ・健康科学演習ⅠC	レクリエーションとニュースポーツ	SPO-003-GG	1～	春		2	針ヶ谷雅子	600
	スポーツ・健康科学演習ⅠD	武術と舞踊(インドのカラリパヤット)	SPO-004-GG	1～	春		2	高橋　京子	601
	スポーツ・健康科学演習ⅠE	スポーツ技術とゲーム(テニス)	SPO-005-GG	1～	春		2	吉成　啓子	602
	スポーツ・健康科学演習ⅡA	東洋の養生法(太極拳と呼吸法)	SPO-006-GG	1～		秋	2	荒井　啓子	603
	スポーツ・健康科学演習ⅡB	スポーツ技術とゲーム(バドミントン)	SPO-007-GG	1～		秋	2	吉成　啓子	604
	スポーツ・健康科学演習ⅡC	からだとこころをほぐすワーク	SPO-008-GG	1～		秋	2	針ヶ谷雅子	605
	スポーツ・健康科学演習ⅡD	フラダンスとハワイの身体文化	SPO-009-GG	1～		秋	2	針ヶ谷雅子	606
	スポーツ・健康科学演習ⅡE	生涯スポーツとしてのバレーボール	SPO-010-GG	1～		秋	2	吉成　啓子	607
伝統文化演習科目群	伝統文化演習ⅠA（書道）		TRD-001-GH	1～	春		2	香川　明美	608
	伝統文化演習ⅠB（書道）		TRD-002-GH	1～	春		2	齊藤　　登	609
	伝統文化演習ⅡA（書道）		TRD-003-GH	1～		秋	2	香川　明美	610
	伝統文化演習ⅡB（書道）		TRD-004-GH	1～		秋	2	齊藤　　登	611
	伝統文化演習ⅢA（華道）		TRD-005-GH	1～	春		2	池坊・山本	612
	伝統文化演習ⅢB（華道）		TRD-006-GH	1～	春		2	池坊・山本	613
	伝統文化演習ⅣA（華道）		TRD-007-GH	1～		秋	2	池坊・山本	614
	伝統文化演習ⅣB（華道）		TRD-008-GH	1～		秋	2	池坊・山本	615
	伝統文化演習ⅤA（茶道）		TRD-009-GH	1～	春		2	岩田　明子	616
	伝統文化演習ⅤB（茶道）		TRD-010-GH	1～	春		2	岩田　明子	617
	伝統文化演習ⅤC（茶道）	おもてなしの基本としての茶道	TRD-011-GH	1～	春		2	鈴木　宗華	618
	伝統文化演習ⅤD（茶道）	おもてなしの基本としての茶道	TRD-012-GH	1～	春		2	鈴木　宗華	619
	伝統文化演習ⅥA（茶道）		TRD-013-GH	1～		秋	2	岩田　明子	620
	伝統文化演習ⅥB（茶道）		TRD-014-GH	1～		秋	2	岩田　明子	621
	伝統文化演習ⅥC（茶道）	おもてなしの基本としての茶道	TRD-015-GH	1～		秋	2	鈴木　宗華	622
	伝統文化演習ⅥD（茶道）	おもてなしの基本としての茶道	TRD-016-GH	1～		秋	2	鈴木　宗華	623
	伝統文化演習ⅦA（香道）	香の伝統と文化	TRD-017-GH	1～	春		2	三條西公彦	624
	伝統文化演習ⅦB（香道）	香の伝統と文化	TRD-018-GH	1～	春		2	三條西公彦	625
	伝統文化演習ⅦC（香道）	香の伝統と文化	TRD-019-GH	1～	春		2	三條西公彦	626
	伝統文化演習ⅦD（香道）	香の伝統と文化	TRD-020-GH	1～	春		2	三條西公彦	627
	伝統文化演習ⅧA（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-021-GH	1～		秋	2	三條西公彦	628
	伝統文化演習ⅧB（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-022-GH	1～		秋	2	三條西公彦	629
	伝統文化演習ⅧC（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-023-GH	1～		秋	2	三條西公彦	630
	伝統文化演習ⅧD（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-024-GH	1～		秋	2	三條西公彦	631
	伝統文化演習ⅨA（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-025-GH	1～	春		2	永井とも子	632
	伝統文化演習ⅨB（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-026-GH	1～	春		2	永井とも子	633

共通科目（外国語を除く）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
伝統文化演習科目群	伝統文化演習ⅨＣ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-027-GH	1～	春		2	永井とも子	634
	伝統文化演習ＸＡ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-028-GH	1～		秋	2	永井とも子	635
	伝統文化演習ＸＢ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-029-GH	1～		秋	2	永井とも子	636
	伝統文化演習ＸＣ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-030-GH	1～		秋	2	永井とも子	637
国際文化交流演習科目群	国際文化交流演習Ⅰ（国際儀礼）	現代の国際儀礼（プロトコール）	ICR-001-GI	1～		秋	2	阿曽村智子	638
	国際文化交流演習ⅡＡ（演劇）		ART-002-GI	1～		秋	2	小田島則子	639
	国際文化交流演習ⅡＢ（演劇）	演劇祭運営実習	ART-003-GI	1～		秋	2	内野　儀	640
	国際文化交流演習Ⅲ（音楽）	近現代の大衆音楽	ART-004-GI	1～	春		2	杉原　志啓	641
	国際文化交流演習Ⅳ（映画）		ART-005-GI	1～		秋	2	土田　環	642
	国際文化交流演習ＶＡ（美術）	日本美術に親しむ	ART-006-GI	1～		秋	2	上野　友愛	643
	国際文化交流演習ＶＢ（美術）	美術館における国際文化交流	ART-007-GI	1～	春集中		2	丹羽　晴美	644
	国際文化交流演習Ⅵ（シンクタンク）	政策形成過程におけるシンクタンクの役割	CAR-208-GI	2～		秋	2	這禽　恵子	645
	国際文化交流演習ⅦＡ（海外語学研修）	UNBC ELS/LECTURE/INTERNSHIP	ENG-009-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	646
	国際文化交流演習ⅦＢ（海外語学研修）	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP	ENG-010-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	647
	国際文化交流演習ⅦＣ（海外語学研修）	イギリス語学研修	ENG-011-GI	1～		秋集中	2	古庄　信	648
	国際文化交流演習Ⅷ（情報メディア）	翻訳で学ぶ時事ニュース	INF-212-GI	2～		秋	2	藤原　朝子	649
	国際文化交流演習ⅨＡ（海外ボランティア）	Volunteer Activities	VOL-013-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	650
	国際文化交流演習ⅨＢ（海外ボランティア）	Volunteer Activities	VOL-014-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	651
	国際文化交流演習Ⅹ（アートマネージメント）			1～	－	－	2	－	－
	国際文化交流演習ⅩⅠ（ワシントン・セミナー１）	米国における文化政策/ 国際金融機関の組織と活動	INR-216-GI	2～		秋集中	2	櫻井・M.ウーゴ	652
	国際文化交流演習ⅩⅡ（ワシントン・セミナー２）	現地で学ぶアメリカの政治と歴史	INR-217-GI	2～		秋集中	2	畠山　圭一	653
	国際文化交流演習ⅩⅢ（開発途上国研修1）		INR-018-GI	1～		秋	2	伊藤由紀子	654
	国際文化交流演習ⅩⅣ（開発途上国研修2）		INR-019-GI	1～		秋集中	2	伊藤由紀子	655
生活文化演習科目群	生活文化演習Ⅰ（染色）		LIF-001-GJ	1～	春		2	佐久間敏子	656
	生活文化演習Ⅱ（刺繍）		LIF-002-GJ	1～		秋	2	佐久間敏子	657
	生活文化演習Ⅲ（食品製造）	食品製造	LIF-003-GJ	1～	春		2	阿部　誠	658
	生活文化演習Ⅳ（食品加工）	食品加工	LIF-004-GJ	1～		秋	2	阿部　誠	659
	生活文化演習Ⅴ（空間造形）	製図の基礎と住空間の設計	DES-005-GJ	1～	春		2	渡邊　保弘	660
	生活文化演習Ⅵ（空間造形）	空間の立体表現と住宅設計	DES-006-GJ	1～		秋	2	渡邊　保弘	661
社会演習科目群	ボランティア演習	国際協力ＮＧＯでボランティアを体験する	VOL-001-GK	1～		秋	2	野口　朝夫	662
	社会儀礼演習	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ	CAR-202-GK	2～	春		2	明石・柳田	663

特別総合科目I（外交官）

3731000100100

副　題	外交・国際交流の第一線から									担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	CAR-201-GA

〔授業の到達目標〕

（１）外交官の法律上の立場から実際の日常業務まで，具体的な事例を通じて学ぶことにより，世界や日本の平和と繁栄のために外交官が果たす役割について理解を深める。（２）将来，国際交流・国際協力の活動に携わるにあたって，現場で役に立つ基本的な知識やものの見方を身につける。（３）一市民として日本の外交政策に対して自分なりの意見を持てるようになる。

〔授業の内容〕

外交の機能は，情報収集，政策形成，交渉，広報，国際協力活動の支援，在留自国民の保護など，広範囲にわたっている。近年においては，二国間のみならず国際機関や国際会議などを通じた多国間外交の舞台も拡大している。独立行政法人や民間団体（NGO）の活動もますます重要な役割を果たすようになっている。本講義では，こうした活動に携わる広義の意味での「外交官」の諸側面を考察の対象としている。全講義中８回程度，内外の大使経験者をはじめ国際舞台の第一線で外交・国際交流および国際協力に携わる関係者をゲストに招き，体験談を通じて外交や国際関係の実態を浮き彫りにしたい。

〔教材〕

参考書：ハロルド・ニコルソン著/斎藤真＆深谷満雄訳『外交』（UP選書）東大出版会，1968年
矢田部厚彦『職業としての外交官』（文春新書）文芸春秋，2001年
大日方和雄『領事の仕事　国際人のサポーター』有信堂，2005年
緒方貞子序＆西崎真理子他著『国際協力を仕事として―開発・人道援助に飛び立つ女性たち―』第4版，彌生書房，2000年
金子将史・北野充編著『パブリック・ディプロマシー戦略』PHP研究所，2014年

上記の他にも内外の外交官の回想録等を授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に提示する指定図書にあらかじめ目をとおし，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には，講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。日頃から新聞の国際欄などを閲覧して情報収集し，講義内容と関連づけて考えられるように訓練すること。所要時間は各回につき１～2時間程度。

〔成績評価の方法〕

期末の筆記試験（50%）および学期中数回提出のリアクション・ペーパーの内容（まとめて50%）を基に総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：外交官とは？
第２週　外交に関する基礎知識（１）在外公館の役割
第３週　外交と文化：国際文化交流と日本文化の紹介
第４週　外交官の仕事：領事業務
第５週　外交官の仕事：情報の収集と分析
第６週　第３回～第５回のまとめ
第７週　外交に関する基礎知識（２）「外交官」に関する基本文献
第８週　大使の仕事：二国間関係の場合
第９週　大使夫人の仕事：接遇と文化交流
第10週　（独立行政法人）国際交流基金の仕事
第11週　国際文化協力活動に携わるNGOの活動
第12週　第７回～第10回のまとめ
第13週　外交に関する基礎知識（３）国際儀礼（プロトコール）
第14週　21世紀の日本の外交戦略
第15週　総括

講義テーマの順はゲスト・スピーカーの日程調整の都合により，上記の授業計画と多少異なる場合もある。具体的なゲスト・スピーカーの日程等については学期初めの講義で発表する。

特別総合科目III（国際企業）

3731001300100

副　題	組織とキャリアの最前線							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	CAR-203-GA

〔授業の到達目標〕

1．グローバル化する組織におけるリーダーシップのあり方を理解する。
2．21世紀におけるキャリアについて自分なりの考えを確立し，実践できるようになる。
3．ゲスト・スピーカーの先生方から今後の人生の歩み方についての示唆を得る。

〔授業の内容〕

今日，あらゆる組織はグローバル化の渦中にいます。本授業では，「国際企業」の「企業」を「組織」と読み替え，組織・人材・キャリアについて理論と実践の両面から考えます。理論と実践の架け橋として，現場感覚に富んだ第一線で活躍される方々をゲスト・スピーカーとしてお招きします。

本授業は，ディスカッションを重視し，受講生に積極的な発言を求めます。予備知識は必要ありませんが，好奇心が旺盛で，チームとしてお互いを高め合うことを重んじる方を歓迎します。

〔教材〕

参考書：Lane, H.W. and Maznevski, M.L.『International Management Behavior: Global and Sustainable Leadership』Wiley，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習として１～２時間程度，レポート（約10本）に各２時間程度を要すると思われます。

〔成績評価の方法〕

レポート：75%
Class contribution:25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日：11：00～12：00 (4222研究室)
aki.kinjo@学習院の共通メールアドレス，にご連絡ください。

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　The Global Manager
第３週　ゲスト・スピーカー特別講義
第４週　Understanding Culture
第５週　ゲスト・スピーカー特別講義
第６週　Interpersonal Skills for International Management
第７週　ゲスト・スピーカー特別講義
第８週　Managing Global Teams and Networks
第９週　ゲスト・スピーカー特別講義
第10週　Executing Global Strategy
第11週　ゲスト・スピーカー特別講義
第12週　Talent Management: Selecting and Developing Global Managers
第13週　ゲスト・スピーカー特別講義
第14週　Managing Change in Global Organizations
第15週　ゲスト・スピーカー特別講義

・ゲストスピーカーの詳細は開講時にお知らせします（先生方のご都合により変更する場合があります）。
・シラバスの記載内容は，受講生の人数や理解度に応じ，授業をより良くするために変更することがあります。

特別総合科目V（環境問題）

3731001500100

副　題	地球・自然・人と生き物たち									担　当　者	品川　明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENV-005-GA

〔授業の到達目標〕

1．各講師の授業テーマを十分に理解できるとともに自らの意見を持つこと。
2．環境に対する自らの責任を認識できる。
3．自らが環境保全のために積極的行動できること。

〔授業の内容〕

地球にはすばらしい自然があり，多様な生き物たちが一生懸命生きている。そのすばらしい生き物の世界を一線の研究者によるオムニバス方式の講義で堪能してください。昆虫からヒトの生き様に触れた時，神秘と感動の生き物の世界とヒトの責任の大きさ，そして地球の美しさ，寛容さに魅せられることでしょう！

〔教材〕

毎回プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

それぞれの授業終了後，テーマに対応した文献を調査することが望ましい。そのための時間として，３時間を要する。

〔成績評価の方法〕

1．出席状況と授業への参加姿勢，積極的発言などの授業貢献度を重視する．（40%）
2．毎回講義の内容について，気づいたこと，発見したこと，疑問に思ったこと，感想を授業中に提出する．このレポートは講義への参加状況の把握と成績評価の基礎となり，厳密に評価する。（60%）

「評価基準」授業中の受講態度を重視する。小レポートの記述内容から講義の理解度を評価し，到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa@gakushuin.ac.jpまでメールで問い合わせるか，水曜日（４限目）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

８名の講師による地球と生き物たちの共演です。地球や動物についてできるだけトピック性の高いテーマを設定するため，講義内容を変更することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　ガイアシンフォニー　第２番の上映会（佐藤初女さん）品川　明
第２週　生物の進化と絶滅　富田京一（肉食爬虫類研究所）
第３週　島嶼の生態系－西表島の両生爬虫類を中心に－　富田京一（肉食爬虫類研究所）
第４週　南極が壊れる　藤原幸一（Nature’s Planet　代表，　ネイチャーフォト・ジャーナリスト）
第５週　森が壊れている～地球温暖化による森林環境の激変　藤原幸一（Nature’s Planet　代表，　ネイチャーフォト・ジャーナリスト）
第６週　農を取り巻く環境　萩原さとみ（ファームイン・サギヤマ）
第７週　今こそ伝えたい農の力　萩原さとみ（ファームイン・サギヤマ）
第８週　糀と日本人　浅利　妙峰（糀屋本店　）
第９週　ガイアシンフォニー　第５番上映会　品川　明
第10週　分娩台よ　さようなら　大野明子（明日香医院院長）
第11週　いのちを産む　大野明子（明日香医院院長）
第12週　ガイアの知性（地球交響曲の作成秘話）　龍村　仁（映画監督）
第13週　海の生き物たち～日本の食文化を飾る魚介類　品川　明
第14週　貝から考える生き物の仕組みと人の役割　品川　明
第15週　まとめ　品川　明

特別総合科目VIII（現代時事分析２）

3731002100100

副　題	海外特派員経験者が現場報告	担　当　者	石澤　靖治　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-208-GA

〔授業の到達目標〕

ジャーナリズムと時事問題分析への理解を深めつつ，新聞の役割と国際ニュースを読み込む視点を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕

毎日新聞社で活躍する海外特派員経験者らが，日々複雑に絡み合う海外のニュースを，取材現場で得た裏話を絡めて，新聞記事や記者が撮影した写真をふんだんに使い，解説，分析する。ともすると日々の膨大なニュースに流されがちだが，ニュースの見方，視点を考えることで，ニュースの本質に迫る新聞と記者の役割を実感してもらい，各国･各地域の実情を理解しつつ，国際ニュースの価値を自ら判断する能力を養う。なお,授業中に講師から質問することもある。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日配布される新聞を授業前・授業後に熟読すること。

〔成績評価の方法〕

授業をまとめたレポート（毎回）：80%，授業中の発言・コメント：20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

人数制限：約100人（希望者が多い場合は，レポートで選考）

〔授　業　計　画〕

第１週　Orientation：授業概要の説明と新聞記者の仕事概説
第２週　米国事情１
第３週　米国事情２
第４週　欧州事情１
第５週　欧州事情２
第６週　中国事情１
第７週　中国事情２
第８週　朝鮮半島事情１
第９週　朝鮮半島事情２
第10週　中東事情１
第11週　中東事情２
第12週　アフリカ事情１
第13週　アフリカ事情２
第14週　ロシア事情１
第15週　ロシア事情２

特別総合科目IX（フードコンシャスネス論１）

3731002200100

副　題	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-109-GA

〔授業の到達目標〕

１．フードコンシャスネスの意義や理念を理解できる。
２．食と自然との繋がりを理解し，食の価値を表現することができる。
３．日本伝統文化と日本の食の繋がりを理科し，食の価値を表現することができる。
４．フードコンシャスネス教育の本質を理解し，表現することができる。

〔授業の内容〕

これまでの食に関する教育は，栄養学，衛生学，食品学，生物学，化学などの視点からのアプローチが多く，それぞれの教科においては断片的で縦断的な知識の習得に重きを置いたものと判断される。また，平成17年に制定された食育基本法も，食生活の改善，生活習慣病の予防の観点から，栄養学，食品衛生学などを背景とした議論が多く，アプローチの視点は教育現場や家庭でも従来の教育手法によるものが多い。

本授業では，食べるもの，食べること，食べかたという日常の行為をきちんと意識し，食に対する自覚的かつ積極的な姿勢を育むことを目的とする。また，食を自覚的に感じる能力や食を積極的に意識する能力を身につける必要がある。

そのために，フードコンシャスネスの意義を議論する。次に，食と自然環境の繋がり，日本文化と食との関わり，フードコンシャスネスの教育的価値などを多くの食の専門家を招き実践を通して，自覚的に理解できるように授業展開する。

〔教材〕

特に指定しない。レジュメ，ワークシート，リアクションペーパーを授業毎に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の後に振り返りを実施し，授業で見出した概念や疑問点を整理する。疑問点は文献などを活用し，自分自身の意見をまとめる必要がある。そのために，３時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．授業に対する態度　20%　４回以上の欠席，早退や遅刻も厳格に対応する。
２．発言や質問などの授業貢献度を重視する　20%
３．リアクションペーパーやアンケートの内容を重視する。30%
４．授業中の発表とそのレポートの内容や提出状況を重視する。30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，メールで連絡のうえ，金曜日５限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

外部講師は実務の都合により日程変更する可能性があります。

〔授　業　計　画〕

第１週　フードコンシャスネスの意義１～食とは
第２週　フードコンシャスネスの意義２：
　　もの・こと・かたの意味　アンケート　グループ討議と発表
第３週　フードコンシャスネスと食１：
　　食と農～自然環境と土との関わり：岸ユキ氏
第４週　フードコンシャスネスと日本文化１：
　　茶道と食～陰陽：中澤　宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第５週　フードコンシャスネスと食２：
　　食と漁業～魚食を考える：上田　勝彦（元漁師・元水産庁）
第６週　フードコンシャスネスと日本文化２：
　　糀と食：浅利　妙峰（糀屋本店）
第７週　フードコンシャスネスと食３：
　　ワインの味わい方：信國　武洋（ソムリエ）
第８週　フードコンシャスネスと日本文化３：
　　日本文化と和食：佐竹　力総（美濃吉）
第９週　フードコンシャスネスと日本文化４：
　　神事と食：鎌田　紀彦（大宮八幡宮）
第10週　フードコンシャスネスと教育１：
　　日本の食教育の現状と課題：楠野恭巳（フードコンシャスネス研究所）
第11週　フードコンシャスネスと教育２
　　自分の食べ方～食べ方でわかる感じる能力
第12週　フードコンシャスネスと教育３
　　自分の五感力～自分の能力を確認する
第13週　フードコンシャスネスと教育４
　　自分の味わい力～味を感じる理由
第14週　フードコンシャスネスの意義３～食を表現する
第15週　まとめ
　　フードコンシャスネスの理念　食と生き物と自然の繋がり

特別総合科目X（フードコンシャスネス論２）

3731002300100

副　題	フードコンシャスネスと食を自覚する授業	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-GA

〔授業の到達目標〕
１．食および食教育の本質とフードコンシャスネスの理念の理解する
２．感覚・味覚教育の現状と課題を理解する
３．自覚的に概念を形成する過程を理解する
４．正解を求めない教育のあり方を理解する。多様な考えを尊重する姿勢を理解する。

〔授業の内容〕
食を教える教育から食を意識する教育が重要であり，そのためには食を感じる教育が必要である。食を感じる教育とは，五官を使って，五感を感じるとともに心に残る感動（心感や六感）があってはじめて食を感じたことになる。感覚や味わい力向上には心に残る体験（経験）とその記憶が重要だ。食を捉えるとき，単に食材として，購入や調理の際は形や色や鮮度を意識することも大切である。しかし，これは食のごく一部の側面でしかない。また，食事の時，ただ空腹を満たすためのものであったり，テレビをみながらの通過儀礼的なものであったりもする。食事に対し，漫然と接することなく，素材や味付けなど様々な周辺情報にも関心を持ちながら食べることが重要である。食に関心を持ち，心に焼き付けながら食事をすることは素晴らしいことである。
食は本来その多くが生き物や生き物から生産されたものである。多くの生き物を頂いたとき，その生き物は多くの年月をかけ，広大な土地や海で育ち，膨大な労力の果てに食卓にあることを忘れてはいけない。そして，多くの命が我々の命として引き継がれて行く。食卓にあるとき，当たり前のこととして，漫然と食事をすること無く．この食卓に糧（いのち）があることを有り難い事実として捉え，感謝の気持ちとその生き物への想いを持って頂きたい。それらによって，食の記憶が蓄積され，経験となり，感覚，味覚，風味や食味の向上につながる。
このような観点から，食から耕す未来と文化の理念を実現するため，感覚と味覚について教育的配慮ができる学生を養成することを目的としている。この講義は，実際の食物を使用した感覚や味覚の講座以外に子ども達がどのように自覚的な気づきに達するかの指導方法や指導者としての心得などのセッションもある。

〔教材〕
特に指定しない。プリント，ワークシートとリアクションペーパーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
我が家の味のルーツや各地の雑煮について，調査し発表する。また，最終的に残したい日本の味についてレポート発表する。それらを調査し，まとめるために４時間以上の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕
１．授業への貢献度　40%　４回以上の欠席，早退や遅刻についても厳格に対応する。
２．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得られた概念を文章表現する振り返りを重視する。30%
３．企画提案および発表　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
金曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室または531教室）まで来ること。

〔備考〕
２年生以上の履修科目である。演習形式の授業を実施するため，事前に人数制限（36名）する。
フードコンシャスネス論１履修者を優先する。

〔授　業　計　画〕

第１週　フードコンシャスネスと味わい１
　　フードコンシャスネスの教育的意義：我が家の味と伝統食（雑煮）
　　リンゴの試食
第２週　フードコンシャスネスと教育１
　　フードコンシャスネスの理念と特徴
第３週　フードコンシャスネスと味わい２
　　基本味とその生理的意義
第４週　フードコンシャスネスと味わい３
　　うま味の意義と味噌汁の試食
第５週　フードコンシャスネスと食の叡智１
　　日本蕎麦と日本文化：成田　重行
第６週　フードコンシャスネスと味わい４
　　醤油の味比べ
第７週　フードコンシャスネスと味わい５
　　地域の雑煮（グループ討議と発表）
第８週　フードコンシャスネスと食の叡智２
　　茶道と和菓子：中澤　宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第９週　フードコンシャスネスと味わい６
　　だしのおいしさ
第10週　フードコンシャスネスと食の叡智３
　　糀の世界と人とのかかわり：浅利　妙峰（糀屋本店）
第11週　フードコンシャスネスと味わい７
　　味噌の味比べ
第12週　フードコンシャスネスと味わい８
　　日本の三珍
第13週　フードコンシャスネスと食の叡智４
　　米と飯～研ぎ方から炊き方まで：吉村　常弘（御飯）
第14週　フードコンシャスネスと自分
　　グループ討議と発表（残したい日本の味）リンゴの試食
第15週　まとめ（雑煮の食べ比べとフードコンシャスネスの役割）
日程や外部講師が変更する場合がある。

特別総合科目XI（オリンピックの探究）

3731002500100

副　題	オリンピック・リテラシーの成熟に向けて	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SPO-011-GA

〔授業の到達目標〕

＜各講師の講義テーマをから，以下の点を理解し深く考えるようにする。＞

・近代オリンピックの理念とともに，オリンピックの歴史的背景を理解する。
・オリンピックに向けられた現代的諸問題とともに「文化」や「社会」のありようを考える。
・「国際交流とは何か」「国際協力とは何か」「世界の中の日本文化とは何か」を考える。
・2020TOKYOに向けて，同時に2020TOKYOのその後に目を向けて（For　& Beyond2020），それぞれの課題を考える。
・スポーツ文化の表象力について考える。

〔授業の内容〕

・オリンピックに深く関わる第一線の研究者，ジャーナリスト，あるいはオリンピアン・パラリンピアンが毎回ゲストスピーカーとして講義を行い，それぞれの専門的な立場や視点から，オリンピックの諸相を掘り下げ説き起こす。
・近代オリンピックの根本精神（オリンピズム）は，「文化・教育・スポーツを一体とした生き方の創造である」とオリンピック憲章に記されている。これは，オリンピック・パラリンピック競技大会が，単なるスポーツの祭典ではなく，世界中の異なる文化の異なる環境の人々がスポーツを通じて集い，互いの文化を知り，個々の生き方を理解し尊重することを目指していると言えよう。しかし，そこには，政治･経済･人種･メディア･ジェンダー等と関わる厳しい「現実」が内在してきた。そこで，本講義では，総合芸術と称され領域を超えてあらゆる「知」が注がれてきたオリンピックの歴史を辿るとともに，その光と影を浮き彫りにしつつ，現代社会におけるオリンピックとは何か，という問題に接近する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布する資料を参考にして，近代オリンピックの各大会の特徴について理解を深め授業の予習・復習に役立てる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲（30%），理解度の確認（30%），レポート（40%）によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目
サポートセンターにて問い合わせること。

〔備考〕

履修については事前に人数調整を実施する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス＜オリンピック概観＞
第２週　オリンピック起源論
第３週　クーベルタンとオリンピック教育
第４週　日本におけるオリンピックと嘉納治五郎
第５週　オリンピックとメディア
第６週　オリンピック招致：1940年東京大会
第７週　1964東京大会と都市東京
第８週　理解度の確認
第９週　オリンピックとジェンダー
第10週　オリンピックとスポーツ倫理～ドーピングをめぐって
第11週　アジェンダ2020とオリンピックレガシー
第12週　現代社会とオリンピック休戦（Olympic truce　）
第13週　オリンピックと芸術～アート・マネジメントの視点から
第14週　異文化理解と近代オリンピックの相克
第15週　戦後70年とオリンピックと報道
進度及び各講師の都合等により，テーマや日程の変更がある。
招聘する講師の詳細については，ガイダンスにおいて紹介する。

特別総合科目XII（キャリアデザイン１）

3731000700100

副　題	学生生活のキャリアデザイン							担　当　者	西本　万映子　講師
単位	2	配当年次	1～2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	CAR-112-GA

〔授業の到達目標〕

卒業後の進路を踏まえ，なりたい自分になるために，主体的に自身のキャリアについて気づき，行動し，大学生活をデザインできる力を身につけます。

〔授業の内容〕

大学生活４年間を有意義に過ごすには，過去の自分を振り返り，現在の自己を確認し，これから先の自身のありようについてデザインする力が必要です。そのために，自己の理解とともに社会や雇用状況の理解を深め，業界や企業の理解の仕方を知り，キャリアをデザインするということを学びます。大学時代という探索の時期に，何をするべきか，何を身につけるべきかを主体的に考えられるよう，気づきを促し一歩踏み出すあと押しをしていきます。

〔教材〕

参考書:北浦正行編『改訂版実践キャリアデザイン論30講』改訂初版,生産性労働情報センター，2013年
木村進著『自分で切り開くキャリア・デザイン』第一版，中央経済社，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次週のための予復習と宿題を課します。
授業内で指示します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加態度），中間課題，期末課題で評価します。
平常点【30%】，中間課題【30%】，期末課題【40%】
５回以上の欠席，中間課題，期末課題の未提出は不合格になります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

随時メールを受け付けます。メールアドレスは授業内にお知らせします。

〔備考〕

第一回目の授業は必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　キャリアの意味と発達
第２週　社会人基礎力１
第３週　自分を知るための視点
第４週　興味・関心
第５週　特性・持ち味
第６週　こだわり・価値観
第７週　ワークキャリアの理解
第８週　職業選択の方法
第９週　労働市場と雇用形態の多様化
第10週　ワークルール
第11週　ワークキャリアとライフキャリア
第12週　ゲストのキャリア
第13週　社会人基礎力２
第14週　学生生活のキャリアプランニング
　　まとめ
第15週　自主研究

特別総合科目XIII（キャリアデザイン２）

3731000800100

副　題	卒業後を踏まえたキャリアデザイン							担　当　者	西本　万映子　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	CAR-313-GA

〔授業の到達目標〕

卒業後の進路を踏まえ，なりたい自分になるために，主体的に自身のキャリアについて整理，分析し，ワーク&ライフのキャリアをデザインする力を身につけます。

〔授業の内容〕

これまでの大学生活を振り返り，自身の興味・関心，特性・持ち味，こだわり・価値観等を通して自己分析をします。あわせて，働く社会の理解を深めるために，業界・業種，職業・職種，課業，企業の情報収集の仕方と分析方法を学びます。そして，卒業後なりたい自分になるために，ワークライフバランスを考え，歩むべき道を主体的に選択できるように，キャリアデザインのあと押しをしていきます。

〔教材〕

参考書:北浦正行編『改訂版実践キャリアデザイン論30講』改訂初版,生産性労働情報センター,2013年
木村進著『自分で切り開くキャリア・デザイン』第一版，中央経済社，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次週のための予復習と宿題を課します。
授業内で指示します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加態度），提出課題，期末課題で評価します。
平常点【20%】，提出課題【30%】，期末課題【50%】
期末課題の未提出は不合格になります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

随時メールを受け付けます。メールアドレスは授業内にお知らせします。

〔備考〕

第一回目の授業は必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　キャリアデザインを学ぶ
第２週　自己評価と自己分析のしかた
第３週　キャリアデザインに必要な力１
第４週　客観的検査と分析
第５週　キャリアデザインに必要な力２
第６週　他者評価による分析
第７週　新卒一括採用と就職活動
第８週　業界・業種，職業・職種，企業の理解１
　　情報収集と分析のしかた
第９週　業界・業種，職業・職種，企業の理解２
　　ゲストによる業界・業種の話
第10週　業界・業種，職業・職種，企業の理解３
　　ゲストによる職業・職種の話
第11週　業界・業種，職業・職種，企業の理解４
　　企業の中の課業
第12週　働き方を考える１
　　人事管理による企業理解
第13週　働き方を考える２
　　女性の働き方を考える
第14週　これからのキャリアデザイン
　　まとめ
第15週　自主研究

国際文化交流論I（日本の国際文化交流）

3732001100100

副　題	自分探しの異文化交流　―自分を知り、日本を知る―	担　当　者	伊部　正信　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ICR-001-GB

〔授業の到達目標〕
本講義は国際文化交流論の入門基礎講座として，日本人の対外意識や民族，国家意識とは何かを考え，異文化摂取の歴史を振り返り，日本の異文化交流の特質や現状を体系的に学ぶことを目標とする。

〔授業の内容〕
異文化体験は自己を相対化させ，日本文化とは何かを認識する契機になると共に，自分とは一体何なのかという個人のアイデンティティを確立させる糸口ともなる。文化交流の主役は個人である。しかし，交流を推進するのは政府や民間団体であることが多い。本講義では，政府，民間団体そして個人など，さまざまな視点から国際文化交流の役割と意義を考察する。異文化摂取が日本の社会や文化の形成に果たした歴史を振り返り，日本人の対外意識の特性を分析すると共に，日本文化，異文化間コミュニケーションなどにも言及する。また，日本の文化交流の現場や実情を知るため，各種の事例研究を行い，国際交流の現状と課題も検討する。本講義を通して，受講者は自分こそが文化交流の主体であり，媒体ともなり得ることを自覚し，国や政府主導の交流だけではなく，民間の発意による交流を活性化させてこそ，「人類の福祉と世界平和に寄与する」という文化交流の究極的な目的が達成できることを学んでほしい。さらに，文化交流は自分を知り，日本を知る，まさに自分探しの旅となること，そして，自分を変え，日本を変革する触媒ともなることを理解していただきたい。

〔教材〕
講義の進展に従い，その都度指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の講義内容は，翌週の授業の冒頭で学生にその要約を発表させるので，学生は翌週の授業日までにノートを参照しながら講義内容を再確認し，発表できるよう準備しなければならない。学生に発表させるのは，この講義を講師と学生の「交流」型授業にすると共に，学生のプレゼンテーション能力を涵養する狙いからである。

〔成績評価の方法〕
授業の出席，参画姿勢，発言などとレポート，試験で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
電子メール。メールアドレスは授業内に告知する。

〔備考〕
本講義は講師から学生への一方的な直流の講義ではなく，国際文化「交流」論であるので，学生の参画を促す講師と学生の双方向の「交流」型講義にしたい。

〔授　業　計　画〕

第１週　国際交流って何？　――自己紹介とQ＆A――
第２週　文化交流の役割と意義
第３週　日本人の対外意識――異文化接触の特質――
第４週　日本的「ウチ」，西欧的「私」
第５週　「民族意識」と「国家意識」
第６週　文化交流の歴史　Ⅰ　――中国文化から西欧文化へ――
第７週　文化交流の歴史　Ⅱ　――受信型から発信型へ――
第８週　異文化間コミュニケーション　Ⅰ
第９週　異文化間コミュニケーション　Ⅱ
第10週　最近の文化交流
第11週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅰ
第12週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅱ
第13週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅲ
第14週　総括――変革の触媒としての文化交流――
第15週　理解度の確認

国際文化交流論II（国際開発協力）

3732001200100

副　題	国際開発協力の現場と異文化理解	担　当　者	藤谷　浩至　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	POL-002-GB

〔授業の到達目標〕
１．開発途上国の抱える課題と人々の生活や社会について理解すること，２．その課題解決のための国際社会の取組である国際開発協力についての基本的な知識を習得すること，３．そうした国際開発協力活動の現実を学ぶことを通じて異文化社会との接し方について考察し，知見を得ること

〔授業の内容〕
2011年３月の東日本大震災に際して国際社会から日本に提供された支援に表れているように，国家をはじめとする様々な主体が様々に関わりあって国際社会は成り立っており，その関わりの一つの形態として国際開発協力があります。本講義では，開発途上国・地域が抱える経済・社会の現状と主な課題について取り上げ，課題ごとに紹介すると同時に，国際社会が開発途上国・地域に対して行っている様々な協力活動・援助の概要についての理解を深めます。日本による協力活動については，日本の政府開発援助（ODA）とその実施機関である国際協力機構（JICA）の事業を中心に紹介します。
また，2015年は開発協力大綱が策定され，国連においても「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されたほか，昨年は，伊勢志摩サミットや，TICAD Ⅴ（第５回アフリカ開発会議）の開催もありました。こうした最近の国際開発協力を巡る潮流についても紹介し，国際開発協力の意義と課題への認識を深め，異文化理解に役立てます。

〔教材〕
参考書：服部　正也『ルワンダ中央銀行総裁日記（増補版）』（中公新書）中央公論新社，2009年
大塚 啓二郎『なぜ貧しい国はなくならないのか』日本経済新聞出版社，2014年
教科書はありません。上記の参考文献は，昨年度，課題レポートの対象としたものです。その他の参考文献は講義の中で紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
（講義開始まで）（１）外務省HPまたはJICA HP等を通じて，自分が関心のある国（開発途上国）に対して，どのような援助・協力事業が行われているのか調べて，国際協力事業の一般的なイメージをつかんでおくこと（約10時間），（２）1992年に閣議決定された「政府開発援助(ODA)大綱」，2003年に改定された改定版「ODA大綱」，2015年に策定された「開発協力大綱」にそれぞれ目を通しておくこと（約20時間）
（講義終了後）講義で紹介した課題図書を元にレポートを作成する（約30時間）

〔成績評価の方法〕
毎回の授業後のリアクションペーパーの内容と課題レポートの内容を総合的に（50：50の割合で）評価します。原則として，授業実施回数の1/3以上の欠席については，成績評価対象外とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
携帯電話：090-7815-1963　または　電子メール　Fujiya.Koji●jica.go.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　国際開発協力の仕組み
第２週　国際開発協力の歴史（１）
第３週　国際開発協力の歴史（２）
第４週　東日本大震災と国際緊急援助
第５週　開発の主要課題について（貧困）
第６週　開発の主要課題について（農業・農村開発）
第７週　開発の主要課題について（水と衛生）
第８週　開発の主要課題について（環境）
第９週　開発の主要課題について（保健医療）
第10週　開発の主要課題について（ジェンダー配慮）
第11週　国際開発協力とボランティア事業
第12週　国際開発協力と企業・NGO連携
第13週　平和構築・復興支援
第14週　人間の安全保障と最近の潮流
第15週　まとめ
８月２日（水），３日（木），４日（金），７日（月）の４日間（最初３日間は１時限から，４日目は２時限から４時限の間）に実施予定。

国際文化交流論III（日本文化交流史）

3732001300100

副　題	中欧において日本文化交流を実践するために	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ICR-003-GB

〔授業の到達目標〕

国際交流には様々な形態があるが，中でも文化を通じて行うものは双方に自然に受け入れられることが多く，近年，その重要性は広く認識されるようになってきており，本学においても開学以来重視されているものである。日本文化に接することで，たとえ日本から地理的に遠く離れていても人々が極めて親日的になるケースは少なくないが,中欧はその典型的な例である。本授業では現地で日本文化を中心とする交流を実践する方法を考察する。

〔授業の内容〕

日本と中欧の交流の歴史を踏まえたうえで，日本文化交流の実施が可能な機関について学ぶこととする。また，日本の身近な文化（書道，華道，折紙，アニメ，歌，踊り等）をどのように発信し，現地の人々に共有してもらえるかを考える。その手段として欧州の複数の言語の基本的な表現を習得し，これらの言語で日本文化を説明できるようにする。

〔教材〕

必要に応じて適宜，プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表予定者はしっかりしたレジュメを用意するよう努力すること。復習時には履修者全員が配布されたレジュメを読み直し,関連する事項を各自でさらに調べる等して理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢（発表（約25%），議論（約25%），レポート（約50%））を総合して評価する。毎週，履修者全員が出席することを原則とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載している)。

〔備考〕

今夏の本学の中欧国際協力研修に参加する者を念頭においた授業であるので注意すること。今年度の研修（８月15日～９月２日に実施予定）については２号館の屋外の掲示板に３月下旬以降に掲示しているので確認し，できるだけ初回授業以前に早めに申し込むこと（希望者が定員を上回る場合には初回授業以前に締切ることがある)。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明，自己紹介
第２週　中欧の概要
第３週　中欧と日本との交流の歴史
第４週　中欧における日本語教育機関
第５週　中欧における日本文化に関心を持つその他の様々な機関
第６週　日本文化交流を行う手段としての中欧の諸言語の学習
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　中欧において日本文化交流を行うためのワークショップ
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際文化交流論Ⅳ（戦争と平和）

3732001400100

副　題								担　当　者	奥村　快也　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	POL-004-GB

〔授業の到達目標〕

安全保障（戦争と平和）に関する基本的な知識・教養を身につける事を主な目標とする。

〔授業の内容〕

安全保障（戦争と平和）に関する哲学・古典・歴史（日本の戦争通史，ヨーロッパの戦争通史）等を通じて，戦争の原因と結果について考える。

さらに日本の近・現代史を通じて，日本が何故，太平洋戦争でアメリカと戦うことになったかを考え，戦争は不可避だったのか否かについても検討する。

また，戦後日米関係の形成について，占領下での政策，サンフランシスコ講和条約，日米安全保障条約の成立過程を通じて理解させ，今日の日本を取り巻く安全保障環境，日本の安全保障政策，国防政策，防衛力，国際貢献及び危機管理等の現状を知り，今後の日本の安全保障について考察して貰う。

〔教材〕

教科書等は使用せず，各講義ごとにレジメを配布して講義を行う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の準備として復習に２時間程度，授業中に討議が出来るよう予習に２時間程度準備すること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験の評価に70パーセント，授業への意欲及び参加態度に30パーセントを振り分ける。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンター等を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　戦争と平和　概論
第２週　日本の歴史（古代～明治）から戦争と平和について考える
第３週　ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える。（１）
第４週　ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える。（２）
第５週　古典から戦争と平和について考える
第６週　日本の近代史から戦争と平和について考える
第７週　日米戦争への道（何故日本はアメリカと戦争したのか？）
第８週　太平洋の主要な作戦（日本は何故作戦に失敗したのか？）
第９週　日本の戦後処理と日米安全保障条約
第10週　日本を取り巻く安全保障環境
第11週　日本の安全保障政策
第12週　国際連合と日本の国際貢献
第13週　危機管理と災害派遣
第14週　まとめと解説
第15週　理解度の確認
第10週以降の講義は努めて国内外の現況に応じて，アップデートして実施する。

国際文化交流論VI（技術交流）

3732001600100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ICR-006-GB

〔授業の到達目標〕

実践的な国際協力活動の実践をする

〔授業の内容〕

９月に実施されるラオス国際協力研修への参加を前提とし，国際協力活動のありかたを考える。

経済的には世界のトップレベルに位置する国々でも，その「幸福度」指標は必ずしも経済的豊かさと比例しない。「幸福度」に焦点を当てながら，開発途上国の発展と外部者の関わりあい方について考える。

〔教材〕

授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業で指定された文献等のレポートの課題が必要です。およそ３～４時間予定してください。

〔成績評価の方法〕

発表　30%，レポート他課題　50%，授業への取り組み他　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み

メール（アドレスは授業中に告知する）

〔備考〕

本科目履修希望者は，「履修制限」がありますので，第１回目授業に必ず出席し，内容を確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ワークショップ
第３週　発表
第４週　外部講師講義
第５週　ワークショップ
第６週　発表
第７週　外部講師講義
第８週　ワークショップ
第９週　発表
第10週　外部講師講義
第11週　ワークショップ
第12週　発表
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際文化交流論VIII（環境教育）

3732001800100

副　題	国際文化交流のための環境教育等の実践	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ENV-008-GB

〔授業の到達目標〕

1．国際文化交流のため，地域（ベトナムなど）の風土，生活文化，教育を探究理解し，日本との違いを明確にする。
2．環境教育，水教育，食教育の視点から，体験学習法に基づく教育手法を十分に理解し，実践することができる。
3．環境教育，水教育，食教育の視点から，体験学習を実践するためのアクティビティを創作することができる。

〔授業の内容〕

1．ベトナムと日本の風土，生活文化，自然環境に関する講義を行う。
2．環境教育，水教育，食教育の観点から，プロジェクトワイルド，プロジェクトウエット，GEMS, MARE，フードコンシャスネスのアクティビティを習得し，実践で実施するワークショップを行う。
3．環境教育，水教育，食教育の観点から，体験教育で使用するアクティビティを創作するワークショップを行う。
4．応用として，習得したアクティビティを子ども等に向けて実践する。

〔教材〕

環境教育，水教育，食教育に関する教材を使用する。授業中に配布または指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本とベトナムについて，風土や生活文化を調べ，相違点や同意点を発表する。ベトナムに日本の文化を伝えるためのテキストを全員で作成する。そのために必要な予習復習時間は概ね毎回４時間程度である。

〔成績評価の方法〕

1．授業での積極的な発言など授業貢献度を重視する。（40%）
2．環境教育，水教育，食教育の独創的なアクティビティを作成する。（20%）
3．指導者としての実践能力を評価する。（20%）
4．最終レポートを評価する。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，メールで連絡の上，水曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

国際交流研修(ベトナム)履修者はこの授業を必ず履修すること。この授業の一部はプロジェクト・ウエットのエヂュケーター資格を獲得するための講習を兼ねる。エヂュケーター資格希望者はテキスト代として，3000円必要である。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本とベトナムの風土
第３週　日本とベトナムの文化１　食
第４週　日本とベトナムの文化２　教育
第５週　日本とベトナムの文化３　環境
第６週　プロジェクトウエットの実践（水環境教育指導者研修）
第７週　〃
第８週　〃
第９週　フードコンシャスネス教育の実践（味わい教育指導者研修）
第10週　MAREの実践（海洋教育指導者研修）
第11週　環境教育，水環境教育，フードコンシャスネス教育に関するアクティビティの作成
第12週　〃
第13週　環境教育，水環境教育，フードコンシャスネス教育に関するアクティビティの実践
第14週　〃
第15週　まとめ

国際文化交流論IX（国際機関）

3732005800100

副　題	ジュネーヴ市に立地する様々な国際機関	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	INR-009-GB

〔授業の到達目標〕

世界には多数の国際機関が設置されており，極めて重要な活動を行っているにもかかわらず，日本の一般の学生はそれらに関して必ずしも十分な知識を有するに至っていない。本授業では世界で最も多くの国際会議が開催され，数多くの国際機関が立地しているジュネーヴ市に焦点を当て，包括的に国際機関やその他の関連する重要な機関に関する知識を身に付けるものとする。

〔授業の内容〕

履修者が国際機関を一つずつ分担し，その設立の経緯，主な活動，現在に至る歴史等を調べて発表し，皆で意見を述べ合う。

〔教材〕

必要に応じて適宜，プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表予定者はしっかりしたレジュメを用意するよう努力すること。復習時には履修者全員が配布されたレジュメを読み直し，関連する事項を各自でさらに調べる等して理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢（発表（約25%），議論（約25%），レポート（約50%））を総合して評価する。毎週，履修者全員が出席することを原則とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の担当教員の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載している）。

〔備考〕

今夏の本学のジュネーヴ研修に参加する者を念頭においた授業であるので注意すること。今年度の研修（9月4～13日に実施予定）については２号館の屋外の掲示板に３月下旬以降に掲示しているので確認し，できるだけ初回授業以前に早めに申し込むこと（希望者が定員を上回る場合には初回授業以前に締切ることがある）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明，自己紹介
第２週　永世中立国スイスの歴史
第３週　国際都市ジュネーヴの概要
第４週　国際機関の分類
第５週　United Nations Office at Geneva（国連欧州本部）
第６週　UNCTAD（国連貿易開発会議）
第７週　UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）
第８週　UNICEF（国連児童基金）
第９週　ILO（国際労働機関）
第10週　IOM（国際移住機関）
第11週　WHO（世界保健機関）
第12週　WIPO（世界知的所有権機関）
第13週　The Global Fund（グローバル・ファンド）
第14週　国際赤十字・赤新月博物館
第15週　在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部

授業で取り上げる機関，また，授業で扱う順番には若干の変更が生じることもある。

国際文化交流論X（日本とアジアの近現代比較経営史）

3732002000100

副　題	Reimaging Japan and Asia							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	ECO-210-GB

〔授業の到達目標〕

1. Understand Japanese and Asian business, economy and society.
2. Acquire insight as to why countries and companies rise and fall.
3. Generate solutions to challenges that our societies face today or will face in the future.

〔授業の内容〕

Asia is one of the most dynamic and promising regions for economic growth in the 21st century. Yet it is not free from difficult challenges that may hinder her success. What can the rest of Asia (and possibly the world) learn from Japan's series of spectacular successes and failures since the Meiji restoration to today?

〔教材〕

Handouts, including reading materials and case studies will be distributed in advance.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should expect to spend 3 to 4 hours to prepare for each class. Invest additional time and effort if you are not well versed in English.

〔成績評価の方法〕

Attendance and active participation: 50%
Final exam: 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Wednesdays: 14：45 to 15：45 (Office 4222) in Tokyo.
e-mail: aki.kinjo●gakushuin.ac.jp (change●to@)

〔備考〕

A detailed description and registration requirements will announced separately.
Note: This course starts and ends early compared to the normal academic schedule of GWC.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction and kick-off: What we want to achieve and how
第 2 週　Case: Yataro Iwasaki: Founding Mitsubishi (A)(B) - the mavericks
第 3 週　Case: Honda (A)(B) - what strategy?
第 4 週　Case: The Miracle Years - too good to be true
第 5 週　Japan as Number One (Vogel) - a perfect joke
第 6 週　Implications for Asia (ex-Japan)
第 7 週　Case: Beyond the Bubble - it used to work
第 8 週　The 1940 System: Japan under the Wartime Economy (Noguchi) - some things never change
第 9 週　Demography: Shrinking Population Economics (Matsutani) - what goes up goes down
第10週　China: Building "Capitalism with Socialist Characteristics"
第11週　Haier: Taking a Chinese Company Global
第12週　State Bank of India: Transforming a State Owned Giant
第13週　Singapore's "Midlife Crisis"?
第14週　Upgrading the Economy: Industrial Policy and Taiwan's Semiconductor Industry
第15週　Samsung Electronics: Global Marketing Operations

This plan is subject to change for improvement.

国際文化交流論XI（環太平洋地域２）

3732002100100

副　題	Canada, Japan and the World							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	GEO-211-GB

〔授業の到達目標〕

1. To outline some of the main themes in Japanese politics, geography and modern history from the Meiji Restoration to the present in relation to Canada.
2. To trace the evolution of Japan's international relations in modern times with special emphasis on its interaction with the United States and Canada from both Japanese and western perspectives.
3. To contrast the international relations and nationalist sentiments of Canada and the United States with the Japanese experience.
4. To understand that Japanese and North Americans construct their histories and geographies in different ways and that a nuanced appreciation of these differences is the foundation for international cooperation and development.
5. To expose our students to Canadian and Japanese perspectives in a multidisciplinary approach that includes concepts from international relations, politics, economics, social and intellectual history, and geography.

〔授業の内容〕

Lectures cover the economic and political geography and history of Japan in comparison to Canada from the nineteenth-century to the present. Topics will include creation of the nation state & constitutional change, emigration and immigration, demographic structure and aging, wartime relations between Japan, Canada and the United States, indigeneity and assimilation, diplomatic relations, international trade, foreign investment and multinational corporations; and the national security challenges posed by maritime border disputes and environmental degradation.

〔教材〕

All reading materials are linked to the Moodle web page; any additional required reading will also be linked to Moodle.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Weekly reading and active participation in all lectures are essential to academic success in the course.

〔成績評価の方法〕

Attendance and active participation: 25%
Midterm report: 25%
Final exam: 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email:maclachlan●uleth.ca（change ● to @）

〔備考〕

本授業は，レスブリッジ大学との海外同時授業となる。授業は９月初旬から12月中旬まで開講される。履修を希望する場合は，７月３日（月）～７月28日（金）に申し込むこと。
詳細は，７号館１階教務関係掲示板を確認すること（６月中旬から掲示）。

〔授　業　計　画〕

第１週　Welcome, Introduction, Jakota Triangle & Japan's Geography
第２週　The Emergence of Two Modern Nation States: Canadian Confederation and Meiji Restoration Compared
第３週　Early Interaction between Japan and Canada: Christian Missions & Immigration
第４週　Japanese Empire, Taisho Democracy, Inazō Nitobe, Samurai Diplomat
第５週　Canada & Japan at War & the Fall of Hong Kong: *Savage Christmas*
第６週　Wartime Internment of Japanese Canadians in British Columbia & Alberta
第７週　The American Occupation of Japan: Beata Sirota, "*The Only Woman in the Room*"
第８週　Indigenous Peoples and the State: the Ainu and First Nations, Metis & Inuit
第９週　Identity, Ainu, & Appropriation of the Kimono in North America
第10週　Japan-Canada Trade Relations & Foreign Direct Investment
第11週　Canada & Japan as Pacific partners: WTO, APEC, & TPP
第12週　Environmental Problems & Policy in Japan with Canadian Perspectives
第13週　Maritime Sovereignty & Law of the Sea
第14週　Territorial Issues & Maritime Sovereignty in Canada & Japan
第15週　Conceptual Review

Please see Moodle page for sequential listing of lecture topics and links to required reading.
This plan is subject to change.（上記授業計画は変更される可能性があります。）

法学I

3735000100100

副　題	法学入門　（導入と刑事法の基礎）							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LAW-101-GC

〔授業の到達目標〕
法律学の基本的な知識を習得する。教科書が扱う設例の中から刑事法上の論点を抽出し，法的根拠（刑法や刑事訴訟法の関連条文）を踏まえたうえで，その当否についての判断が下せるようになる。

〔授業の内容〕
本講義は，法律の世界の基本的な仕組みを学習するための「法学入門」として位置づけられる。これまで法（学）ないし法律（学）に接したことのない初学者を対象に，具体例を交えた分かりやすい講義にしたい。
初学者にとって,法律（学）はとかく難解でとっつきにくいという印象が抱かれがちである。他方で，我々の日常生活は，そのほぼすべてがなんらかの形で法による規律を受けているのも事実であり，その意味では，法（律）がきわめて身近な存在でもあることも疑いを容れない。講義では，日常生活の中で法律が果たしている役割に気付いて頂きたいという思惑から，「HとJという，どこにでもいるごく普通の２人の大学生」が遭遇する自動車事故を素材として描かれた下記の教材をテキストに，法学の基礎（法学全体の導入に相当する部分）および刑事法の基礎（刑法や刑事訴訟法のさわりの部分）を概説する予定である。

〔教材〕
教科書：松井茂記[他]『はじめての法律学　HとJの物語』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2014年
『六法』が必携となる（指定『六法』については，開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習120分：（十分理解できなくても）教科書の該当箇所を熟読（再々読）することが，何よりも重要である。
復習120分：授業中に書き込んだレジュメを入念に読み返すとともに，授業で言及した法令の条文を『六法』で再確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（20％程度）
（２）学期末試験（80％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
事前に教科書を読んでこなかったり，『六法』を準備せず授業に臨むようでは，教師がどんなに分かり易い説明を試みても，受講生の理解はおぼつかない（教科書・六法とも必携！）。この意味で，受講生には十分な予習・復習が求められる。また，専門用語も使いようによっては大変便利なものであるから，「難しい」と忌避する前に是非慣れて頂きたい（習うより慣れよ！）。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　法律学習の心得
第３週　法学の基礎　（１）
第４週　法学の基礎　（２）
第５週　法学の基礎　（３）
第６週　法学の基礎　（４）
第７週　刑法の基礎　（１）
第８週　刑法の基礎　（２）
第９週　刑法の基礎　（３）
第10週　刑法の基礎　（４）
第11週　刑事訴訟法の基礎　（１）
第12週　刑事訴訟法の基礎　（２）
第13週　刑事訴訟法の基礎　（３）
第14週　刑事訴訟法の基礎　（４）
第15週　総括
いずれかの機会に，法律実務家を招聘し特別授業を実施することを予定している。

法学II

3735000200100

副　題	法学入門　（民事法の基礎）							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LAW-102-GC

〔授業の到達目標〕
法律学の基本的な知識を習得する。教科書が扱う設例の中から民事法上の論点を抽出し，法的根拠（民法等の関連条文）を踏まえたうえで，その当否についての判断が下せるようになる。

〔授業の内容〕
これまで法ないし法律（学）に接したことのない初学者を対象とした法学入門の講義を行う。
講義では，日常生活の中で法律が果たしている役割に気付いて頂きたいという思惑から，「HとJという，どこにでもいるごく普通の２人の大学生」が遭遇する自動車事故を素材として描かれた下記の教材をテキストに，民事法（民法の主要法領域すなわち不法行為法，契約法および家族法）の基礎（さわりの部分）を概説する予定である。

〔教材〕
教科書：松井茂記[他]『はじめての法律学　HとJの物語』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2014年
『六法』が必携となる（指定『六法』については，開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習120分：（十分理解できなくても）教科書の該当箇所を熟読（再々読）することが，何よりも重要である。
復習120分：授業中に書き込んだレジュメを入念に読み返すとともに，授業で言及した法令の条文を『六法』で再確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（20％程度）
（２）学期末試験（80％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の放課後，もしくは，木曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
Eメールまたは事務室へ申し出られたい（メールアドレスは事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
初回のガイダンスには必ず出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　「法学の基礎」の復習
第３週　不法行為法の基礎　（１）
第４週　不法行為法の基礎　（２）
第５週　不法行為法の基礎　（３）
第６週　不法行為法の基礎　（４）
第７週　契約法の基礎　（１）
第８週　契約法の基礎　（２）
第９週　契約法の基礎　（３）
第10週　契約法の基礎　（４）
第11週　契約法の基礎　（５）
第12週　家族法の基礎　（１）
第13週　家族法の基礎　（２）
第14週　家族法の基礎　（３）
第15週　総括
いずれかの機会に，法律実務家を招聘し，特別授業を実施することを予定している。

日本国憲法

3735000300100

副　題								担　当　者	福井　康佐　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LAW-103-GC

〔授業の到達目標〕

憲法の基礎概念を習得する，法学的思考力を養成する，マイノリティーの権利保護を意識する。

〔授業の内容〕

この授業は，日本国憲法の基本的概念を習得することを目標とします。憲法は，中学高校と学習した受講生も多いと思いますが，本来的には奥の深い学問です。日常生活の多くに，憲法の理念が関係しています。この授業では，難しい言葉よりも生きた人権の問題を，みなさんと一緒に考えて行きたいと思います。テキストは，あえて，わかりやすいものを選びましたので，まずは，憲法の世界に入門してみてください。

〔教材〕

教科書：初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣アルマ）第４補訂版，有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としてテキストを事前に読み，該当テーマの問題点を認識することを求める。復習としては，授業で説明した制度・人権の趣旨を理解し，取り上げた判例の背景等を考察することを求める。

〔成績評価の方法〕

期末試験の成績を90%，授業中に実施するリアクションペーパーの評価を10%として，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　人権の性質・人権分類
第３週　人権の享有主体～外国人の人権・マイノリティーの人権
第４週　平等権～差別はなぜ生じるか。
第５週　信教の自由
第６週　思想良心の自由
第７週　表現の自由その１～表現の自由の重要性
第８週　表現の自由その２～様々な表現の自由に対する規制
第９週　学問の自由と教科書検定
第10週　死刑制度
第11週　裁判員制度
第12週　生存権
第13週　平和主義
第14週　天皇
第15週　まとめ
私語は厳禁です。私語をする人は退場を命じます。

教育学

3735010300100

副　題										担　当　者	大桃　敏行　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	EDU-104-GC

〔授業の到達目標〕

教育の意義，教育と社会との関係，教育の内容と方法，学びを支える仕組み，生涯にわたる学習などについて基本的事項を習得し，教育という営みについての理解を深める。

〔授業の内容〕

教育は個々人の成長と発達，社会の存続と発展，文化の継承と創造などにとって重要な営みであり，それゆえにまた多くの課題がある。教育学の性格の検討から始めて，教育学の基本的事項について講義し討論を行う。また，中間レポートについて討議を行い，関心領域に関する理解を深める。

〔教材〕

教科書：勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』初版，有斐閣，２０１５年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習と復習を合わせて４時間程度。

〔成績評価の方法〕

中間レポート（40%）と最終試験（60%）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日２時限及び随時。
連絡方法は初回の授業で示す。

〔授　業　計　画〕

第１週　教育学の性格
第２週　教育の意義
第３週　教育を社会の視点から考える
第４週　子どもという存在
第５週　教え方の歴史
第６週　教育を受ける権利
第７週　学びを支える仕組み
第８週　多様なタイプの学校
第９週　中間レポートについての討議
第10週　カリキュラム改革
第11週　教師という仕事
第12週　格差・貧困問題と学びのセーフティネット
第13週　学校では終わらない学び
第14週　公教育の責任
第15週　全体のまとめ

哲学

3735020300100

副　題	哲学的に考える。	担　当　者	杉山　晃太郎　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	PHL-105-GC

〔授業の到達目標〕
この授業では，以下を到達目標とします。
- 古代以来のヨーロッパの哲学者や思想家の考え方を学び，理解する。
- そうした考え方と，現代社会で取り上げられている複雑で多様な問題とのかかわりを理解する。
- 哲学的な考え方に基づく視点から，現代の諸問題を見つめ直し，自分の考えを根拠に基づいてまとめることができるようになる。

〔授業の内容〕
私たちが「哲学」という言葉で呼んでいる学問は，今から2500年ほど前に古代ギリシアで始まり，その後ヨーロッパを中心に様々な形に変化し，またヨーロッパ以外の文明からの影響も受けつつ，人々の考え方や生き方に大きな影響を与えてきました。そして，今日，現代社会が抱えている科学技術，生命倫理，地球環境，政治経済に関連する問題を考える上でも，「哲学的に考える」ことが必要とされています。この講義では，哲学の歴史の中で取り上げられてきた様々な考え方を取り上げて，考えてみたいと思います。
具体的には，日本語の「哲学」とその原語の「フィロソフィア」という言葉の由来から始めて，古代から哲学において論じられてきた基本的な問題を取り上げます。その際，単に個々の問題を紹介するのではなく，身近な例を取り上げて，どのような状況の中からそうした問題が生じたのか，そして，それが現在の私たち自身や私たちの生活にどのようにかかわっているのか，講義していきます。

〔教材〕
参考書：ヨースタイン・ゴルデル（池田理代子訳）『ソフィーの世界 -- 哲学者からの不思議な手紙 --』NHK出版，1995年
竹内洋一郎（ほか）『身近な哲学』（図解雑学）ナツメ社，2004年
* 教科書は使用しません。授業内容，参考書等に関するプリントを毎回配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習は不要です。授業後に，以下の点を中心に，毎回の授業で配布されたプリントを復習してください。
- 特に，プリント中に「☆」印で示された問いに対して，授業内容を踏まえて自分なりの考えとその根拠をまとめて，記録しておく。
- シラバス記載の参考書，あるいは，その回のプリントに記載された参考文献に当たり，内容の理解に努める。
- 興味関心をもった回の授業（２～3回程度）のプリントに記載された参考文献を図書館等を利用して読み，理解を深める。

〔成績評価の方法〕
授業内小レポートと学期末試験を総合して評価します。
○　授業内小レポート（２回実施）(30%)
評価時のポイント
- 授業内容が正しく理解されているか。
- 根拠が適切に示されているか。

○　学期末試験（小論文形式）(70%)
評価時のポイント
- 授業内容が正しく理解されているか。
- 自分の体験が適切に記述されているか。
- 自分の考えが筋道立てて記述されているか。
- 根拠が適切に示されているか。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kotaro.sugiyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
* メール本文中に授業名とフルネームを記載すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　--　授業の進め方,「哲学」という言葉
第２週　「わたし」と「世界」のこと
第３週　科学と哲学
第４週　とらえどころのないもの
第５週　アトムの話
第６週　感覚と経験
第７週　三角形を見た人はいない！？
第８週　これはなんですか？
第９週　ものが存在するということ
第10週　今日の「わたし」は，昨日の「わたし」とは違う！？
第11週　あなたは，わたしのことを全然わかっていない！
第12週　自然と人間
第13週　どっちが得か，考えよう！
第14週　神さまは存在する！
第15週　知を愛する人

心理学

3735020400100

副　題										担　当　者	角尾　美奈　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PSY-106-GC

〔授業の到達目標〕

心理学の様々な領域における基本的知識を修得し，説明し，使用できるようになる。
日常生活での体験や身近な現象を，心理学的な枠組みからとらえることができるようになる。
自分自身・対人関係・社会生活について理解を深め，多様な視点から物事を考察できるようになる。

〔授業の内容〕

心理学はこころの働きと行動を対象とし，そこに潜む法則性を明らかにしようとする学問です。心理学を学ぶことは，人が他者との関わりの中で生きることそのものであるとも言えます。この授業では，こころの仕組みや働き，他者との関係を維持あるいは崩壊させる要因，集団状況において生じる現象などについて，概論的な知識を修得します。基本的に講義形式の授業ですが，自己理解を目的とした心理テストの実施も予定しています。

〔教材〕

教科書は指定しません。毎回の授業で資料を配布し，適宜参考文献や参考書を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業計画はいくつかのトピックから構成されていますが，それぞれの内容は関連している部分があるため，毎回の授業内容の理解には，先に学習した内容が理解され知識が定着されていることが必要となります。従って，毎回の授業の準備として，学習内容の復習を行った上で出席するようにしてください。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(80%)，授業内での課題レポート(5%)，授業内で数回実施するリアクションペーパー(15%)により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

履修希望者数が多い場合，第１週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがあります。履修を希望する場合は必ず第１週の授業に出席してください。また，授業はパワーポイントを用いて行いますが，授業内のスライドの撮影等は一切禁止とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　知覚：見え方の不思議
第３週　記憶：過去を記録するこころの働き
第４週　学習：行動はどのように形成されるのか
第５週　性格：その人らしさいろいろ
第６週　自己分析（１）：心理テストの実施
第７週　自己分析（２）：心理テストの解釈
第８週　自己分析（３）：心理テストに基づく課題レポート
第９週　対人関係（１）：対人関係に求められるもの
第10週　対人関係（２）：他者に感じる魅力
第11週　対人関係（３）：対人関係の維持と崩壊
第12週　自己と集団（１）：自己についての概念や意識
第13週　自己と集団（２）：他者からの影響
第14週　自己と集団（３）：集団の構造
第15週　授業内容のまとめと学期末試験の確認

授業計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により変更することがあります。

基礎政治学

3735021100100

副　題	グローバリゼーションと国民国家							担　当　者	杉原　志啓　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	POL-107-GC

〔授業の到達目標〕

政治と政治学の基礎理論の習得。つまり国家，権力，権威，立憲政治，民主主義，全体主義，政治体，官僚制，政党政治，圧力団体，マスコミ権力，さらに近年問題視されるテレポリティクスやポピュリズム等々の概念を学問的に習得。

〔授業の内容〕

本年度は，政治学の基礎知識を習得しつつ，ボーダレス・エコノミーやグローバリゼーションの進展のもとで変質しつつある国民国家の機能と役割を詳しく検討していく。すなわち，排他的領土支配を基礎とする国家（主権）の国境概念を破壊しようとする世界的な動向をふまえ，これからの国家というものと政治的機能の態様を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『坂本多加雄選集１・２』藤原書店，2005年

授業中政治学の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

sugi-y●mvb.biglobe.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業中の配布プリントの閲読

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　政治と政治学
第３週　政治哲学と政治思想
第４週　国家とは何か
第５週　近代国民国家の成立
第６週　日本における国民国家の成立過程（１）
第７週　日本における国民国家の成立過程（２）
第８週　日本における政教分離
第９週　立憲主義と帝国憲法
第10週　日本国憲法と象徴天皇制度
第11週　国民国家の機能と役割
第12週　グローバリゼーション/ボーダレス・エコノミーと国民国家
第13週　東アジアの国家対立
第14週　国民国家の変質
第15週　日本の戦後平和主義と政治

小テストと期末レポートは，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

基礎経済学

3735021200100

副　題	経済学や統計学を通して世界の動きをどう見るか。	担　当　者	宇野　公子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECO-108-GC

〔授業の到達目標〕

経済や統計に関する基礎的知識と考え方を習得する。

〔授業の内容〕

初学者を対象に，経済問題を考える上で基本的な分析ツールとなる経済理論に関する導入を行い，次いで経済の目標，新たな課題などを解説する。グローバル経済の下，経済活動の国際化がますます進展し，経済問題の多くは世界経済とのかかわりを無視しては考えることができない状況となってきている。基礎経済学は，こうした状況のもとで複雑化する経済の国際的相互依存関係を，経済学的に分析するものである。このため取り扱うべきテーマは貿易，金融，FDI，ODA，頭脳流出，国際経済協力の枠組み等，多岐にわたる。又，経済分析に活用される統計学と計量経済学を概説する。具体的には統計学の考え方や基本用語を説明し，それらを使った実証分析の手順について述べる。

〔教材〕

教科書：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』第2版，東洋経済，2014年
参考書：スティグリッツ・ウォルシュ『「入門経済学」』第4版，東洋経済，2012年
教材：適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習：各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト（70%）と　授業中のコメントシート（30%）で総合評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日昼休み
サポートセンター経由

〔授　業　計　画〕

第１週　経済学とはどのような学問か
第２週　ミクロ経済学：需要と供給・需要曲線と消費者行動
第３週　費用の構造と供給行動・市場取引と資源配分
第４週　独占と競争の理論・消費者の理論
第５週　マクロ経済学：経済をマクロからとらえる
第６週　有効需要と乗数メカニズム・貨幣の機能
第７週　マクロ経済政策・インフレと失業
第８週　財政政策のマクロ経済分析・経済成長と経済発展
第９週　国際経済学
第10週　計量経済学：データの収集　計量経済学の３つの要素　母集団と標本
第11週　計量経済分析の手順，データの整理
第12週　１変量の特徴・２変量の関係
第13週　母集団と標本　確率，推定・検定
第14週　回帰モデルと最小二乗法
第15週　まとめ

基礎社会学

3735021300100

副　題	現代社会を理解するための理論と方法	担　当　者	時安　邦治　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	SOC-109-GC

〔授業の到達目標〕

社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに，さまざまなデータを参照して現代社会の諸問題について理解し，エビデンスにもとづいて自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

社会学は近代社会の自己理解として成立したと言ってよい。そして，社会学は常に具体的な問題と向き合うことを通じて発展してきた。この授業では，社会学の視点から現代社会の諸側面について考えていく。同時に,社会学的に考えるために必要な理論や概念について解説する。

この授業は教室での講義のほかに，オンライン学習システムで課題に取り組むことが必要である。

〔教材〕

教科書：篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房，2016年

教科書は必ず入手すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業の前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。授業は重要ポイントの解説と学生からの質問への応答を中心とする。ほぼ毎週オンライン学習システムを通じて課題を出すので，それに取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）とオンライン課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。

kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　第１章　社会学とは何か
第３週　第３章　社会で生きる「私」
第４週　第４章　変容する家族のかたち
第５週　第５章　性の多様なあり方を考える
第６週　第６章　「現実を生きる」ための社会学――労働・産業・消費
第７週　第７章　日本で進展する環境・災害社会学
第８週　第９章　社会学は教育とどう向きあうのか
第９週　第10章　逸脱行動と社会問題
第10週　第11章　「格差」の社会学
第11週　第12章　生活空間としての地域社会
第12週　第13章　グローバル社会とエスニシティ
第13週　第14章　宗教から社会を捉える
第14週　第15章　社会のなかのメディア／メディアが動かす社会
第15週　第16章　国家と社会運動

教科書の第２章，第８章は授業では扱わないので，各自で自習すること。授業計画は変更することがある。

基礎統計学

3735021400100

副　題	初めて学ぶ統計学							担　当　者	竹内　俊子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-110-GC

〔授業の到達目標〕

分析したい事柄に適するデータを各自が集め，講義で習得した方法でEXCELを使って分析し，結論を導くことができるようになることが目標です。

〔授業の内容〕

さまざまな現象を科学的に分析するためには，適切なデータを集め，集められたデータを整理し，その意味するところを正しく理解し，そして結論を導くことが必要です。そのために統計学があります。本講義は，統計学を学んだことがない人のための統計学入門です。さらに講義にあわせてExcelによる実習を行ないます。

〔教材〕

参考書：田中勝人『統計学』第2版，新世社，2010年
森棟公夫『統計学入門』第2版，新世社，2000年
東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』初版，東京大学出版会，1991年
適宜，資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に配布した資料の内容を理解し，練習問題および課題をすべて行ない，次の授業に臨んで下さい。

〔成績評価の方法〕

授業中に行なう小テスト（30%）と課題（40%），及び最終レポート（30%）を総合して評価します。

ただし，課題または最終レポートが未提出の場合には単位を認定しません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後とメールにて受け付けます。メールアドレスについては授業中にお知らせします。

〔備考〕

講義にあわせてExcelによる実習を行ないます。そのため，Excelの基本的な操作が出来ることを前提として講義をすすめます。

また，履修希望者がパソコンの台数を超えた場合には，人数を制限することがありますので，履修希望者は必ず第１回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがあります。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義概要
　　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その１　サイズと単位
第２週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その２　構成比と特化係数
第３週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その３　指数・寄与率・標準化
第４週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その４　データの類型
第５週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その１　分布表・分布図
第６週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その２　平均・分散
第７週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その３　ローレンツ曲線・ジニ係数
第８週　統計データをどう集めたらよいだろうか　インターネットで情報収集
第９週　現象をどう分析したらよいだろうか　その１　分割表
第10週　現象をどう分析したらよいだろうか　その２　相関表・相関係数
第11週　現象をどう分析したらよいだろうか　その３　回帰分析１　回帰式の当てはめと妥当性
第12週　現象をどう分析したらよいだろうか　その４　回帰分析２　回帰モデルの作り方とその評価
第13週　現象をどう分析したらよいだろうか　その５　回帰分析３　定性的な独立変数
第14週　レポート指導
第15週　まとめ

日本近代史概論

3735022100100

副　題	近代日本における制度・政策、経済、社会	担　当　者	森田　貴子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	HIS-111-GC

〔授業の到達目標〕

本講義では，明治初年から第二次世界大戦までの日本について，法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から，日本の近代を歴史的事実に基づき把握できるようになることをめざします。

〔授業の内容〕

明治になり，日本は封建的な制度を撤廃し，近代的な制度を急激に形成しました。多様な法律・規則が制定・改廃され，多くの社会的な変動と改革がなされました。

本講義では，明治初年から第二次世界大戦までの日本について，法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から，日本の近代を歴史的事実に基づき把握することをめざします。

〔教材〕

教場で，適宜，参考文献を指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席してください。

〔成績評価の方法〕

毎回提出するミニレポート（50%）と，学期末の試験１回（持込み不可）（50%）によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　この授業について。日本近代史について。歴史学の方法について。
第２週　教育制度――小学校の設置
第３週　廃藩置県と秩禄処分――大名から華族へ
第４週　都市計画――銀座煉瓦街の建設
第５週　土地制度――地租改正の実施
第６週　司法制度――裁判所の設置
第７週　貨幣制度――貨幣の統一
第８週　金融制度――松方デフレと日本銀行の設立
第９週　条約改正――欧化政策と鹿鳴館
第10週　憲法の制定
第11週　帝国図書館の設立
第12週　三菱の創設
第13週　都市機能の拡充――上水道・電気・ガスの普及
第14週　第一次世界大戦・第二次世界大戦へ
第15週　理解度の確認
毎回の講義後，その回の授業内容について，５～６行のミニレポートを提出してもらいます。ミニレポートは，講義時間内に書きます。

西洋近代史概論

3735022200100

副　題	寛容と迫害のヨーロッパ史							担　当　者	高津　美和　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	HIS-112-GC

〔授業の到達目標〕

現代の日本を生きる私たちは，誰からも強制されることなく，自由に考え行動することができる。しかし，こうした「思想の自由」は，はじめからすべての人に与えられていたわけではない。授業を通じて,現在私たちが当たり前のものと見なしがちな「思想の自由」が,ヨーロッパでは，寛容と迫害の間を揺れ動く近代史を経てはじめて達成されたことを理解する。

〔授業の内容〕

ルネサンスの人文主義者，16世紀の宗教改革者，そして17～18世紀の啓蒙主義者たちの生涯と思想を紹介しながら,「思想の自由」獲得に向けた苦難の歴史を辿る。

〔教材〕

プリントを配布する。参考文献については，授業中に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：各回のテーマについて下調べし，リアクション・ペーパーで疑問点を質問できるように準備する。

復習：授業中に配布したプリントを見返し，紹介した参考文献に目を通す。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（40%），学期末試験（60%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ルネサンスにおける「世界と人間の発見」
第３週　人文主義者の聖書研究と教会批判
第４週　エラスムスとキリスト教人文主義
第５週　ルターの「95カ条の論題」と宗教改革の開始
第６週　カルヴァンの「神権政治」とセルヴェトゥスの処刑
第７週　宗教改革急進派と寛容主義者たち
第８週　トマス・モアとヘンリー８世
第９週　トレント公会議と対抗宗教改革
第10週　異端審問と魔女狩り
第11週　イエズス会の布教活動
第12週　モンテーニュ『エセー』における寛容思想
第13週　ヴォルテールの『寛容論』
第14週　フランス革命における自由
第15週　理解度の確認

西洋思想史概論

3735022400100

副　題	西洋政治思想史							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	PHL-113-GC

〔授業の到達目標〕

西洋政治思想史を概観し，西洋の政治思想が何を問題にしてきたか，それが現代の民主制にどのような影響を及ぼしたかを説明できるようになる。さらに，「善き政治」の構想にもとづいて，現代の政治状況について自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

古代ギリシアやローマから始めて西洋の政治思想史を概観する。個別の思想家の著作について深く立ち入り，論じることよりは，大まかな流れをつかみ，何が論じられてきたかを理解することに重点を置く。イギリスの政治哲学者D．ミラーは政治哲学を「善き統治と悪しき統治の本性，原因，結果に関する探求」と規定したが，この授業もこうした政治哲学の一環だと思ってもらいたい。

〔教材〕

教科書：山岡隆一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会，2009年
参考書：中谷猛・足立幸男編著『概説　西洋政治思想史』ミネルヴァ書房，1994年
　　宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣アルマ）有斐閣，2013年
教科書は必ず入手すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業の前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。授業は重要ポイントの解説と学生からの質問への応答を中心とする。ほぼ毎週オンライン学習システムを通じて課題を出すので，それに取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）とオンライン課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jpまでメールで。（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション／１　西洋政治理論という伝統
第２週　２　政治哲学の起源――ソクラテスの問い
第３週　３　哲学と政治――プラトンの哲人王
第４週　４　徳と政治――アリストテレスの倫理学
第５週　５　ポリスの政治――アリストテレスの政治学
第６週　６　自然法と共和主義――キケロにおける政治の理想
第７週　７　キリスト教と政治――アウグスティヌスの政治観
第８週　８　信仰と理性――トマス・アクィナスと共通善の政治
第９週　９　統治術と共和主義――マキアヴェッリと自由の政治
第10週　10　近代国家と個人の自由――ホッブズの社会契約論
第11週　11　自然法と抵抗権――ロックの社会契約論
第12週　12　自由の喪失と回復――ルソーの社会批判と社会契約論
第13週　13　自由と歴史――ヘーゲルにおける倫理の構想
第14週　14　功利主義と自由――J. S.　ミルと実践的判断力
第15週　15　政治理論の死滅と復活――ロールズの契約主義的正義論
授業計画は変更することがある。

日本芸術論

3735023100100

副　題	美術をめぐる理念とその展開							担　当　者	石田　佳也　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ART-114-GC

〔授業の到達目標〕

日本の芸術史を概観し，とくに日本美術の創作活動において重要な役割を果たした各時代の美的理念の歴史を理解する。

〔授業の内容〕

日本文化を形成する絵画・工芸や文学・芸能などの諸芸術は，時代に応じて独自の美的理念を追求してきた。この講義では，日本の芸術史における基礎事項を確認しながら，とくに特定の美術作品を選び，その制作背景や，文学や芸能との影響関係を考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回に配布したレジュメの内容を再確認する。授業中に指定した参考文献を参照し，また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（40%）と期末のレポート（60%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンス
第２週　日本芸術論の基礎事項　その歴史と展開
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　日本美術の諸様相　絵画・工芸と文学・芸能との影響関係を中心に考察する
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括
毎回，スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は，適宜変更する場合もある。

西洋芸術論

3735023200100

副　題	中欧文化史　チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に	担　当　者	遠藤　望　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ART-115-GC

〔授業の到達目標〕
かつては「東欧」と位置付けられ，いまだなじみの薄いチェコ，ポーランド，ハンガリーの中欧３国において，19世紀末から20世紀初頭の独立期に開化した独特の文化・芸術を，中世期の繁栄とその後の異民族支配，および20世紀の共産主義時代という歴史的背景をふまえて知ることにより，民族，国家にとっての文化芸術の意義を理解する。

〔授業の内容〕
近年経済成長地域としても，また新たな観光地としても注目を集める「中欧」地域。その中からチェコ，ポーランド，ハンガリーの文化・芸術をとりあげます。この３国は，1989年の劇的な革命によって，民主主義国家への復帰を達成してから，着実にユーロ諸国の一員となり私たちにその姿を見せてきました。第２次大戦以降の世界においては「東欧」と位置付けられ，ベールに包まれていたこの地域には，かつて，まさに西洋と東洋が交錯するセントラル・ヨーロッパとして独特の文化が開花していました。本講義では，この３つの国の歴史・文化をまず振り返り，加えて19世紀後半から20世紀初頭にかけて開花した独特な文化を考察します。取り上げるのは，美術，建築，ファッション，写真，音楽から人形劇，アニメなど広範囲に及ぶ予定です。また授業内容に関連する企画展等，学外の見学を1，2回課す予定です。この地域に視点を置くことによって，これまで学生が受け取ってきたであろう西ヨーロッパ中心的な世界史観の変化を期待すると同時に，民族や国家にとって文化芸術がいかなる意味をもつのかを考えます。

〔教材〕
参考書：ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』第3版，思文閣出版，2000年
薩摩秀登『チェコとスロヴァキアを知るための56章』（エリア・スタディーズ）明石書店，2003年
渡辺克義『ポーランドを知るための60章』（エリア・スタディーズ）明石書店，2001年
羽場久泥子『ハンガリーを知るための47章』（エリア・スタディーズ）明石書店，2000年
毎回プリントを配布し，教材とします。特に教科書は使用しません。その他の参考書は，授業内で指示していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：毎回配布するプリントに記載された「予習項目」（3-4項目）にしたがって，次の講義の準備を行う。２時間程度。
復習：予習項目に記入した事項を授業中にとりあげるので，各自事前に調べたことを確認し，授業後にまとめておく。参考図書によって事業内容を確認し理解を深める。２時間程度。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（１０％），見学等レポート（20％），筆記試験（70％）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールによる連絡，質問は授業後にも受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
講義形式の授業のほかに，内容の関連する展覧会見学などの課題を実施します。企画展に応じて観覧料が必要となります。見学は出席としてカウントします。

〔授　業　計　画〕

第１週　中欧，セントラル・ヨーロッパとは　講義で扱う地域と都市，時代
第２週　中欧の歴史：中世黄金期のチェコ，ポーランド，ハンガリー
第３週　中欧の歴史：神聖ローマ帝国とハプスブルク家
第４週　中欧文化史：チェコの19世紀
第５週　中欧文化史：チェコ　独立期の芸術　アール・ヌーヴォーからアール・デコへ
第６週　中欧文化史：チェコ　チェコの人形劇とアニメーション
第７週　展覧会等の見学　授業内容に関連する企画展などを指定し見学
第８週　中欧文化史：ポーランドの19世紀
第９週　中欧文化史：ポーランドのモダニズムと日本
第10週　中欧文化史：ハンガリーの19世紀　２重帝国時代のブダペシュト
第11週　中欧文化史：ハンガリー　世紀末の建築と応用美術
第12週　中欧文化史：ハンガリー　20世紀の写真家たち
第13週　展覧会等の見学　授業内容に関連する企画展などを指定し見学
第14週　中欧文化史：中欧の音楽とダンス
第15週　理解度の確認
出席を重視します。授業は，講義が中心となりますが，スライド，DVDなどを視覚的なものを多用します。
企画展など指定見学の日程の都合により，授業計画を変更することがあります。

英語学概論

3735023300100

副　題	英語史と言語研究の概観							担　当　者	古庄　信　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-116-GC

〔授業の到達目標〕

英語学という視点から英語を観察し，英語という言語の性質・特徴を語学の授業とは異なる視点から捉えることを目標とする。また英語を言語学的に研究することの意義を見出す。

〔授業の内容〕

この科目は教職課程･外国語（英語）に必要な科目のひとつとして開設されたものであるが，教職課程を履修しない学生にとっても「英語学」(English linguistics)とは何か，英語とはそもそもどのような言語であるのか，など英語という言語を歴史的，共時的に観察することで，これまでとは異なる視点から英語を学ぶという点で意義のある科目となろう。

一般的に「英語学」という学問を定義する場合，英語学の学問的出発点となった「歴史言語学」，すなわち英語という言語の由来から発達，変遷をとおして今日国際語としての地位を築くに至った過程を様々な文献等をとおして歴史的に観察する分野と,「構造言語学」「生成文法」「認知言語学」「談話分析」など理論的な立場から英語を分析する分野などに大別されよう。この時間では担当者の専門である「歴史統語論」(historical syntax)の立場から前者の部分を主として講義していくが，後者の理論的考え方についても触れ，文字通り「英語学」について広く見識を深める授業としたい。

〔教材〕

教科書：八木克正『新英語学概論』英宝社，2007年

英語史については，英語の発達についてより理解を深めるため，テキストの他に，映像資料や音声資料なども用いる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業箇所についてテキストを熟読しておくこと。また授業時に配布されるワークシートは必ず授業中に正確に記述できたか確認し，内容を十分に理解しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢，授業への参加態度(30%)，定期試験（70%）を目安に評価する。５分以上の遅刻，および授業中の私語・居眠り・スマホ使用などは全体の評価において大きな減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限

国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして事前に希望の日時を申し込むこと

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスおよび「英語学の概要」
第２週　英語の外面史（言語の系統樹における英語の位置～英語はどこから来たか）
第３週　古英語(Old English)　その１（アングロサクソン人の侵入）
第４週　古英語(Old English)　その２（デーン人侵入～ノルマン人征服）
第５週　中英語(Middle English)　その１（中英語は古英語からなぜ，どのように変化したか）
第６週　中英語(Middle English)　その２（代表作家Chaucerにみる中英語の特徴）
第７週　中英語(Middle English)　その３（The Canterbury Tales鑑賞）
第８週　初期近代英語(Early Modern English)　その１（中英語から初期近代英語への変化）
第９週　初期近代英語(Early Modern English)　その２（初期近代英語の代表Shakespeare）
第10週　初期近代英語(Early Modern English)　その３（英語学的立場からのShakespeare作品鑑賞）
第11週　初期近代英語から現代英語へ（英語圏の広がり）
第12週　統語論・意味論・形態論などの英語学各分野について
第13週　構造言語学，生成文法とは何か（ヒトはどのように言語を身につけるのか）
第14週　認知言語学，談話分析とは何か（言語は脳でどのように処理されるのか）
第15週　日本の英語教育はどこへ向かうのか，向かうべきか（最近の研究成果）・まとめ

学習院史I

3735025100100

副　題								担　当　者	藤田　英昭　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	1	コース・ナンバー	HIS-117-GC

〔授業の到達目標〕

学習院女子大学の母体となった学習院の歴史や女子教育のあゆみを学びながら，学習院女子大学がどのような歴史的背景のもとで開校・成立していったのか理解する。近現代日本において，学習院に何が求められていたのか考えていきたい。

〔授業の内容〕

華族の教育機関として開設された学習院のあゆみを，近現代日本の政治・社会・経済・文化状況などを視野に入れながらみていく。特に学習院の運営や女子教育に大きな影響を与えた谷干城や大鳥圭介・下田歌子・西村茂樹・乃木希典といった人物に焦点を当て，彼らが学習院や華族に何を求めていたのか解説していく。また，女子教育に関わった教員についても具体的に取り上げていきたい。

〔教材〕

授業中にプリントを配布し，適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の際に準備学習の指示をする。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)・レポート(70%)によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

日本近現代史の概説をある程度習得していることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに－学習院のあゆみ
第２週　京都学習院から華族学校へ
第３週　学習院の開院と歴代院長
第４週　歴代院長と学習院教育（１）－谷干城の華族教育－
第５週　歴代院長と学習院教育（２）－三浦梧楼の教育改革－
第６週　華族女学校の開校と明治女子教育（１）
第７週　華族女学校の開校と明治女子教育（２）
第８週　華族女学校の校長と教育方針（１）－西村茂樹の女子教育観－
第９週　華族女学校の校長と教育方針（２）－細川潤次郎の女子教育観－
第10週　外国人教師が見た華族女学校生徒
第11週　学習院女子教育の展開
第12週　女子学習院と乃木希典
第13週　学習院に通った徳川家の人々
第14週　戦中・戦後の女子学習院
第15週　まとめ
授業の進み具合などにより，授業計画が変更することもあり得る。

学習院史II

3735025200100

副　題								担　当　者	近藤　祐介　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	HIS-118-GC

〔授業の到達目標〕

学習院の歴史と教育の歩みを知るとともに，近代～現代までの日本の社会や教育制度について理解を深める。

学習院における女子教育と日本社会の変遷について理解する。

〔授業の内容〕

2017年に創立140周年を迎える学習院の歴史を，近代～現代に至るまでの日本の教育制度の変遷，当時の日本の社会・政治・経済・文化などの状況を踏まえながら概説する。また，学習院における近代～現代までの女子教育についても触れながら，学習院女子大学がいかなる経緯をたどって設置され現在に至ったのか，ということについても取り上げたい。

〔教材〕

参考書：『学習院大学五十年史（上・下巻）』
『学習院大学百年史』
『半世紀学習院女子短期大学史』

その他の参考文献などについては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の際に次回の準備学習の指示をする。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%），定期試験（70%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　京都学習院と学習院の創立
第３週　教育体制の整備
第４週　女子教育の始まりと華族女学校
第５週　学習院の学生たち―白樺派の活動―
第６週　大正期の学習院
第７週　戦時下の学習院
第８週　戦中・戦後の女子学習院
第９週　私立学習院の出発
第10週　新制学習院大学の開設と展開
第11週　女子短期大学の発足とその歩み
第12週　高度経済成長と大学紛争①
第13週　高度経済成長と大学紛争②
第14週　大学機能の改革と「現在」
第15週　総括

受講者の関心や授業の進展度合いに応じて授業計画に変更が生じることもあり得る。

人間関係論I（家族）

3735050100100

副　題										担　当　者	石黒　史郎　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-001-GD

〔授業の到達目標〕

現代の家族を，感情や思い込みによってではなく，思考や論理によってとらえることができる。そのための視点や材料を獲得する。

〔授業の内容〕

現代の社会において，家族は，個々の人にとって，きわめて身近なものとしてとらえられており，さまざまな場面で家族が語られるばあいにも（たとえば「家族の教育力の低下」や「家族介護の問題」のように），どうしても身近な経験をもとにして語られやすい。現代の私たちは，多くのばあい家族に囲まれた関係の中で幼少期をすごすので，じぶんたちの経験してきた家族を自然なものと感じがちである。しかし，じっさいには家族のありかたは，ここ5，60年にかぎっても大きく変化してきている。

この授業では，家族が現在のようなありかたに至ったいきさつなどをふまえながら，現在の家族をめぐるさまざまなことがらを，それらを自明視しない視点からとりあげて説明し，またそれらについて考えてもらう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指定した文献の入手，統計資料や論文の検索，およびそれらに基づいたコメントの執筆を求めることがある。

〔成績評価の方法〕

成績評価は記述式の試験85%，コメントペーパー15%による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

電子メールによる。授業中にアドレスは指示する。

〔備考〕

毎回，授業中に質問を設定し，それへの回答をコメントペーパーに記述してもらう。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（評価方法など）と主旨説明を行う。また家族について，よくある「思い込み」を紹介し，それについて考えてもらう。
第２週　「家族」と「いえ」ということばの使われかたの歴史的な変化について説明し，現代の日常生活でのそれらのことばの使いかたについて考えてもらう。
第３週　家事のやりかた家屋の変化について説明し，現代の家庭生活の特徴について考えてもらう。
第４週　産業構造の転換にともなう職住分離について説明し，その前後での生活の変化について考えてもらう。
第５週　現代社会は，公的領域と私的領域がひかくてき明瞭に分かれている社会であることを説明し，それらの領域の関係について考えてもらう。
第６週　「収入」のありかたがどのように変化しているかを説明し，現代の「収入」のありかたが，家庭生活にどのような影響を与えているかについて考えてもらう。
第７週　戦後，一部の世代に非常に一般的となった「専業主婦」について説明し，なぜ，それらが当時の女性に一般的になったのかについて考えてもらう。
第８週　こどもの育てられかた，こどもの社会の中での位置づけの変化について説明し，現代の子育ての行われかたの特徴について考えてもらう。
第９週　若者が自立するまでのサポートのされかたについて，その歴史的な変化を説明し，現代の若者に必要なサポートについて考えてもらう。
第10週　「結婚」の歴史的な変化と，現代の「結婚難」について説明し，結婚難が起きている原因について考えてもらう。
第11週　女性の労働の変化について説明し，現代社会で賃金労働と私的な生活のバランスをどのように取ればよいのか，そのための対策について，過去と比較しながら考えてもらう。
第12週　戦後急速に普及した産児調整と，その方法の変化について説明し，現在の子ども数がなにによって規定されているかについて考えてもらう。
第13週　いちどは反倫理的なものとして否定された優生思想が，現代では新しい形で問題になってきていることを説明し，その問題について考えてもらう。
第14週　現代では，高齢期にかならずしも家族とともに生活しているとはかぎらなくなっていることを説明し，高齢期の生活にいかに対処すべきかについて考えてもらう。
第15週　まとめと理解度の確認
履修者の希望しだいでは，日本人の「なまえ」について取り上げる可能性がある。

人間関係論II（母体の健康と育児）

3735051200100

副　題										担　当　者	白坂　香弥　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CHL-002-GD

〔授業の到達目標〕

胎児から始まる子どもの発達を理解し，子どもの健全な発育・成長には，親が心身ともに健康であることが重要であることを学習する。やがては，親となるか，次世代を育成する立場・子育てをする親を支援する立場になるので，自分自身のライフスタイルについて考える機会をもつ。

〔授業の内容〕

現代社会が，子育てにとってどのような特徴をもっているかを学習して，現在の育児事情について理解する。

親になるプロセスと，子どもの発達を学び，親と子のそれぞれの面から健康な親子関係築く大切さを学ぶとともに，問題が起きる場合についても知識を得て，適切な育児支援について理解を深める。

〔教材〕

教科書は指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。毎回資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に紹介した文献には目を通しておく。日ごろから，育児に関する新聞や雑誌の記事には興味・関心をもつよう期待したい。最初の授業の準備としては，子どもに関わる現代社会の特徴と，育児に関してどのようなテーマに興味があるかを考えておいていただきたい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%）授業内の小レポート（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の前後の時間を活用してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　子どもを育てる環境としての現代社会の特徴
第２週　子どもの発達　１胎児～胎生期
第３週　子どもの発達　２乳児期
第４週　子どもの発達　３幼児期
第５週　子どもの発達　４学童期以降
第６週　妊娠中の母親の健康と危機
第７週　出産時の母親の健康と危機
第８週　育児中の母親の健康と危機
第９週　親子関係の危機　１愛着障害
第10週　親子関係の危機　２虐待
第11週　親子関係の危機　３その他
第12週　女性のライフサイクルと妊娠・出産
第13週　育児支援の実際　１制度や施設
第14週　育児支援の実際　２親教育のプログラム
第15週　まとめ

人間関係論Ⅳ（カウンセリング論）

3735051400100

副　題								担　当　者	角尾　美奈　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PSY-004-GD

〔授業の到達目標〕
　様々な心理的問題について知り，それらについて心理学的な観点から意見を言えるようになる。
　カウンセリングの理論やカウンセラーとしての基本的な在り方を学び，理解する。
　自分自身についての洞察を深めると同時に，人を理解しようとする態度を養う。

〔授業の内容〕
　いくつかの心理的問題を取り上げ，それらに対する様々な心理学的アプローチを紹介することで，カウンセリングや心理療法についての概論的な知識を修得するようにします。また，カウンセラーに必要とされる基本的態度について理解できるよう解説を行います。これらは，人が，自分とは異なる存在である他者を受け入れることにつながる作業であるとも言えます。授業は基本的に講義形式ですが，自己理解を目的とした心理テストの実施も予定しています。

〔教材〕
　教科書は指定しません。毎回の授業で資料を配布し，適宜参考文献や参考書を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　授業計画はいくつかのトピックから構成されていますが，それぞれの内容は相互に関連している部分があるため，毎回の授業内容の理解には，先に学習した内容が理解され知識が定着されていることが必要となります。従って，毎回の授業の準備として，学習内容の復習を行った上で出席するようにしてください。

〔成績評価の方法〕
　学期末試験(80%)，授業内での課題レポート(5%)，授業内で数回実施するリアクションペーパー(15%)により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕
　履修希望者数が多い場合，第１週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがあります。履修を希望する場合は必ず第１週の授業に出席してください。また，授業はパワーポイントを用いて行いますが，授業内のスライドの撮影等は一切禁止とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　カウンセリングとは
第３週　児童虐待
第４週　児童虐待と心理的アプローチ
第５週　発達障害
第６週　発達障害と心理的アプローチ
第７週　摂食障害
第８週　摂食障害と心理的アプローチ
第９週　自己分析（１）：心理テストの実施と解釈
第10週　自己分析（２）：心理テストの解釈と課題レポート
第11週　カウンセリング（１）：カウンセリングの理論
第12週　カウンセリング（２）：カウンセリングの理論
第13週　カウンセリング（３）：カウンセリングの理論
第14週　カウンセリング（４）：マイクロカウンセリング
第15週　授業内容のまとめと学期末試験の確認
授業計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により変更することがあります。

人間関係論V（地域社会）

3735051500100

副　題								担　当　者	長野　慎一　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	SOC-005-GD

〔授業の到達目標〕

1.「地域」という語の多義性を，社会情勢と学問的背景を踏まえた上で，理解・表現できる
2.「地域内」,「地域間」の間に「差異」が生まれる社会的背景を理解・表現できる
3.「（諸）地域」に生きる一個の，あるいは集合的な行為者として，いかに「地域」に関わりうるのかを，現実的に，かつ，想像的に構想できる

〔授業の内容〕

地域という語で何を意味するか，あるいは何を期待するかは，この語が使用される歴史社会的脈絡によって，さらには，その語を使用する主体の位置によって，異なっている。本講義では，この差異に配慮しつつ,「地域」なるものが，具体的現象として立ち現れてくる様相を概括的に説明する。全講義に積極的に参加することで，地域社会の多様な姿を具体的にイメージし，己がそこでいかなる位置を占め，いかに振る舞いうるのかを，考える力を養える。

〔教材〕

参考書：森岡清志ほか『地域の社会学』有斐閣，２００８年
渡辺秀樹ほか『越境する家族社会学』学文社，２０１４年
齋藤純一『公共性』岩波書店，２０００年
齋藤純一『自由』岩波書店，２００５年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義の内容は，大きく次のように分類できます。1「地域」概念，2ケアと地域社会，3マイノリティと地域社会，4地域社会とガヴァナンス。これにあわせてよむべき文献を配布します。毎回の授業の前後にそれらを熟読してください。

〔成績評価の方法〕

２～３回のレポート（100%。提出は必須)。小レポなどを加点対象にすることがある（提出は任意)。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

shin77shin77●yahoo.co.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション：「地域」という概念の多義性・多重性を説明しつつ講義全体の流れを説明
第２週　「地域」を成り立たせる基本項目。１空間と時間　２制度的枠組み：公権力，市場，政治とメディア，NGO/NPO　３結合様式（１）家庭，職域，近隣，社交，（２）個人，集団，組織，制度，ネットワーク
第３週　ケアを支える場としての地域〔続く３回の講義に対する総論に当たる〕。誰もが他者によるケア（育児，介護，介助，広く身の回りの世話）を前提に己の生活や生存を確保している。本講では，特にケア・ネットワークの生成の場としての地域に焦点を当てる。
第４週　子育てを支える地域社会。「育児ネットワーク」という概念に着目し，母子密着・育児の孤立化を防ぎ，ワーク-ライフ・バランスを促すネットワークの可能性を説明。
第５週　高齢者と地域社会。介護される側と介護をする側の関係性が，国・地方自治体の政策，地元で活動する福祉事業者の質や量，家族構成や近隣関係などとの関係でいかに変容するかを説明。
第６週　障がい者と地域社会。障がい者が「自立」を求める中で，「施設」とも「家族」とも異なる領域として登場してきた「地域」について説明。
第７週　小括。福祉資源の供給様式として，自助，市場，再分配，互酬の相違を意識しつつ，ケイパビリティ（A.セン）の観点から，ケアネットワークとしての地域にどの供給様式（の組み合わせ）が相応しいかを考える（人数が少なければ討論実施)。
第８週　マイノリティによる地域再編〔続く４回の講義に対する総論に当たる〕。地域の社会統合のあり方は，「マイノリティの日常生活」が顕在化する中でいかように変化しうるかを説明。
第９週　エスニック集団の集住と地域社会（１)。永住的なエスニック集団が，受け入れ国の政策，地方自治体の政策，既存の近隣社会との関係でいかに独自の生活圏を生み出してきたかを説明。事例は在日コリアン社会。
第10週　エスニック集団の集住と地域社会（２)。定住的なエスニック集団が，受け入れ国の政策，地方自治体の政策，既存の近隣社会との関係でいかに独自の生活圏を生み出してきたか，のみならず，社会的困難にたたされうるかを説明。事例は日系ブラジル人社会。
第11週　性的少数者と脱地域化／再地域化。性的少数者の生活領域は，都市的下位文化には還元不可能な，時間的・空間的広がりを見せている。この変容を，当事者の集合意識の変容とともに，説明。
第12週　ジェンダーと時間－空間。地域がジェンダーによっていかに異なる時間と異なる空間の組み合わせとして経験されるか。その組み合わせの再編がいかに生じうるかを説明。
第13週　小括。マイノリティの経験に照らして，地域社会が主体の社会的位置ごとによっていかに異なる世界として現われうるか，さらに，その中でいかに共生というものを構想していくべきかを考える（少人数ならば討論を行う)。
第14週　地域社会とガヴァナンス（１)。地域社会の創出・再編，諸問題の解決に対して共同して責任を負う「能動的主体」としての「市民」の可能性について，説明。焦点はガバメントとガバナンスの相違。
第15週　地域社会とガヴァナンス（２)。地域社会の創出・再編，諸問題の解決に対して共同して責任を負う「能動的主体」として「市民」の可能性について，説明。焦点は公共性。

人間関係論VI（組織社会）

3735051600100

副　題									担　当　者	長野　慎一　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	SOC-006-GD

〔授業の到達目標〕

1.「組織」に関する理論モデルを理解し，批判的に活用できる
2.「組織」がマクロな社会現象といかに関係するかを具体的主題に即して理解し表現できる
3.「組織」のあり方が社会構造において占める主体の諸位置によっていかように異なって現われるかを理解し，表現できる

〔授業の内容〕

一個人の人格や活動のみではなしえないことも，複数の人が集まることでできることがある。そのような集まりの洗練された形態として「組織」はあります。本講義では，（1）組織に関する基本モデルを解説した上で，（2）これをもとに具体的社会現象を分析する仕方を示すとともに，（3）モデル自体の是非をも検討。

〔教材〕

教科書：渡辺深『組織社会学』ミネルヴァ書房，２０１０年
参考書：桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論　補訂版』有斐閣，２０１５年
伊藤陽一、浅野友彦、赤堀三郎、浜日出夫、高田義久、粟谷佳司『グローバル・コミュニケーション』ミネルヴァ書房，２０１３年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

レポートでは，組織に関わる基本概念を批判的に活用し，具体的な現象を検討できる能力を示してもらいたいと考えています。そのためにも概念を咀嚼して理解しておく必要があります。まずは，前半の７回分の講義で組織の諸モデルの理解につとめてください。そのためにも教科書をしっかりと読み込んでください（各講義の前後にあわせて２～３時間）。８回目以降の授業では具体的な現象を取り上げていきます。テーマに関連する文献は別途指示します。これらの文献を精読するとともに，その内容に対して受講者の皆様は７回までに学んだ理論を適用して考えてみる，あるいは，逆にその内容を参照しつつ既に学んだ理論を批判的に検討してみるという態度で予習・復習に取り組んでください（授業の前後あわせて２～３時間ほど）。

〔成績評価の方法〕

レポート２～３回（100%。提出は必須）　このほか加点対象になるレポートをかす場合がある（提出は任意）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

shin77shin77●yahoo.co.jp（change ● to @）

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週	イントロダクション：「組織」が存在する意義／「組織」の一般的定義。様々な集合のあり方がある中，いかに「組織」という形態が生まれるのか，「組織」という形態であるからこそなしうることとは何なのか。この点を明かしつつ，全体の講義の流れを説明する。
第２週	閉鎖システムモデルと開放システムモデル。組織内構造に焦点を当てる理論と組織と外部環境との関係性に焦点を当てる理論の一般的特徴と相違を説明。
第３週	合理的システムモデルと自然システムモデル。合理性を基盤に構成される集団として組織を描くモデルと諸個人が生存を計る，様々な利害が渦巻く場として組織を描くモデルを対比させながら説明。
第４週	非合理モデルと制度理論。組織内部の集合的な主観に焦点を当てる理論と組織外部のより大きな文化環境との兼ね合いで組織のあり方を解き明かす理論を対比させながら説明。
第５週	資源依存理論と取引コスト理論。組織はいかに己の生存に必要な資源を他の組織から調達するか，その過程ではいかなる諸関係が内部に生成されるかを説明。
第６週	組織エコロジー論。個々の組織を内包する組織群は，環境との関係でいかに発生，成長，衰退するかを説明。
第７週	小括。先立つ講義で説明した各アプローチを，組織を分析する上での包括的な視座へと総合する（人数が多くなければ討論を実施）。
第８週	ジェンダーと組織（１）。性別役割分業型社会において組織はいかに女性を周辺化しうるかを説明。事例は高度経済成長期から男女雇用機会均等法成立以前の企業の雇用政策。
第９週	ジェンダーと組織（２）。性別役割分業型社会において組織の外部へと追いやられた女性が性別分業の枠内にとどまりつつもいかに別様の組織を発達させうるかを説明。事例は1980年代以降の介護系の市民組織。
第10週	ジェンダーと組織（３）。ポスト性別役割分業型社会において組織内でいかように女性のキャリア形成がなされうるかを説明。事例は1990年代以降の職域における女性の処遇。
第11週	ジェンダーと組織（４）。ポスト性別役割分業型社会においてケアワークの社会化が女性と組織との関係にいかように関わるかを説明。事例は介護保険制度成立以降の社会状況。
第12週	小括。ジェンダーと組織を主題にいかに組織に関する諸モデルを活用しうるか，あるいは，批判しうるかを説明します（人数が多くなければ討論を行います）。
第13週	グローバル化と組織（１）。グローバル化を「地球レベルへの公共性の拡張」との側面でとらえた上で，その中で組織がいかに形成されうるか説明。この講義ではまずグローバルな公共性の広がりとは何かを考える。
第14週	グローバル化と組織（２）。グローバル化を「地球レベルへの公共性の拡張」との側面でとらえた上で，その中で組織がいかに形成されうるか説明。グローバルなネットワークに身をおきローカル，ナショナル，リージョナルに活動する市民組織を取り上げる。
第15週	小括。グローバル化を主題にいかに組織に関する諸モデルを活用しうるか，あるいは，批判しうるかを説明。（人数が多くなければ討論を実施）。

人間関係論VII（女性）

3735051700100

副　題										担　当　者	中村　優実子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	GEN-007-GD

〔授業の到達目標〕

日本近現代小説を読むことを通し，〈愛〉・〈性〉をめぐる問題について知見を広げ，自分なりの考察を行うことができるようになる。

〔授業の内容〕

男女平等化への取り組みがなされている状況下で，現代女性の生き方は多様化し，それに伴って恋愛や結婚の在り方も変容してきているように思われる。しかし，どのように形を変えようとも，女性にとって〈愛〉と〈性〉の問題が非常に重要なテーマであり続けることに変わりはないだろう。

授業では，明治から平成にわたる近現代小説を読み，恋愛と性の問題がどのように描かれてきたのかを，フェミニズムやジェンダー（歴史・社会・文化的性差）の視点によって見つめてみる。時代によって制約されてきた女性の生き方を理解し，作品を分析することを通して，私たちが知らず知らずのうちに，内面化してしまっているジェンダーを意識化してみたい。その作業を通じて，現代女性の〈愛〉と〈性〉の問題を問い直すことができればとと考えている。

〔教材〕

教科書：岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』東京堂出版，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定した教科書の章を必ず読み，自分の意見をしっかりもった上で授業にのぞむこと。

〔成績評価の方法〕

1．リアクションペーパーの内容と授業への参加態度（40%）
2．学期末レポート（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　樋口一葉の生涯と「十三夜」
第3週　樋口一葉「十三夜」を読む―離婚できない女
第4週　田村俊子「生血」を読む―処女喪失という〈事件〉
第5週　有島武郎の生涯と「或る女」
第6週　有島武郎「或る女」を読む―恋愛に賭けた女
第7週　谷崎潤一郎の生涯と「春琴抄」
第8週　谷崎潤一郎「春琴抄」を読む―偶像の女
第9週　三島由紀夫の生涯と「仮面の告白」
第10週　三島由紀夫「仮面の告白」を読む―女を〈愛せない〉男
第11週　村上春樹「ノルウェイの森」を読む―トラウマと恋愛
第12週　山田詠美「ベッドタイムアイズ」を読む―男女の転倒
第13週　江國香織「きらきらひかる」を読む―シェルターとしての結婚
第14週　金原ひとみ「蛇にピアス」を読む―〈イタミ〉を求める女
第15週　片山恭一「世界の中心で，愛をさけぶ」を読む―純愛の条件

社会環境論I（環境法）

3736001100100

副　題	国際環境問題解決のための法制度	担　当　者	小中　さつき　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	LAW-008-GD

〔授業の到達目標〕

世界でいかなる環境問題が生じているのかを知る。さらに問題解決に立ちはだかる障害を理解し，どのような解決方法が可能でありまた必要なのかについて，自分の意見を提示できるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

近年，温暖化，越境大気汚染，絶滅危惧種の増加，海面上昇，砂漠化といった言葉を日常的に見聞きする。果たしてこうした地球環境問題が実際にどのような状況にあるのか,その原因,被害の程度また予測される将来の状況について理解し，そのうえで国際社会がこれらの問題に対し，どのように対応してきたのかまた対応しようとしているのかを学ぶ。

まずは国際環境法の特徴や基本原則を理解し，その後具体的な事例を取り上げながら，個別に問題を検討していく。

講義形式の授業であるが，受講生とともに授業を作っていきたいと考えている。そのため，受講生数に応じてディスカッションや意見を発表する機会を設ける。

〔教材〕

教科書：松井芳郎『国際環境法の基本原則』初版，東信堂，２０１０年
参考書：西井正弘　臼杵知史編『テキスト国際環境法』書版，有信堂，2011年
　　地球環境法研究会『地球環境条約集』第４版，中央法規出版，2003年
　　西井正弘編『地球環境条約ー生成・展開と国内実施』初版，有斐閣，2005年

教材については最初の授業で説明を行うので，そのうえで各自準備されたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱った事例や環境問題について配布した資料を再確認し，環境破壊を引き起こす原因と結果，また法制度の内容を復習し，しっかり理解すること。

その他に，関心のある問題については自分でさらに掘り下げ，また新聞には必ず毎日目を通し，環境関連の記事をしっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末確認テスト（80%）と授業内での小テスト，レポート，発言等（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

新聞等の媒体を通して，環境に関する時事問題に関心を持つことを心掛けて欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　国際環境問題とは何か
第３週　国際法と国際環境法
第４週　国際環境法の形成と発展（１）
第５週　国際環境法の形成と発展（２）
第６週　国際環境法の定立形式
第７週　国際環境法の基本原則（１）
第８週　国際環境法の基本原則（２）
第９週　事後救済制度と事前防止制度
第10週　国際環境条約の履行確保
第11週　気候変動の防止と予防
第12週　人権と環境
第13週　武力紛争と環境
第14週　貿易と環境
第15週　確認とまとめ

できるだけ具体的な問題を通して自分の頭で考えることを重視したい。したがって，授業計画に基づき進めていく予定であるが，国際環境問題に関する国際社会や国際機構による新たな取り組みが見られた際には，多少授業内容を変更する場合もある。

社会環境論II（環境経済学）

3736001200100

副　題	ミクロ経済学とその環境問題への応用	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ECO-009-GD

〔授業の到達目標〕

余剰分析を中心としたミクロ経済学の基礎を演習問題を自ら解くことも活用して完全に理解するとともに，外部性，公共財に伴う市場の失敗概念を実際の環境問題に応用できるようになる。

〔授業の内容〕

市場は資源を効率的に配分するメカニズムとされている。一方で，市場は環境問題を引き起こすこともある。また，環境を改善するために市場的な手法が有効な場合もある。

本講義では，これらを分析するためにミクロ経済学の基礎とその環境問題への応用を学ぶ。

また，ミクロ経済学は公共政策や開発協力分野においても有力な分析ツールであることから，環境問題に関心のある学生に加えて，それらの分野に関心のある学生（公務員や海外援助機関を志望する学生）もぜひ受講して欲しい。

〔教材〕

教科書：N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』第２版，東洋経済新報社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に４時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（意欲的に授業にとりくんだか確認する：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日５時間目

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

授業内容について質問がある場合，オフィスアワー（別途設定する）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ミクロ経済学の基礎（１）：効用とその最大化
第３週　ミクロ経済学の基礎（２）：需要
第４週　ミクロ経済学の基礎（３）：供給
第５週　ミクロ経済学の基礎（４）：均衡価格の形成
第６週　ミクロ経済学の基礎（５）：市場による割り当ての効率性
第７週　ミクロ経済学による環境問題の分析（１）：外部性による市場の失敗
第８週　ミクロ経済学による環境問題の分析（２）：公共財
第９週　ミクロ経済学による環境問題の分析（３）：環境政策としての課税
第10週　ミクロ経済学による環境問題の分析（４）：規制の経済分析
第11週　ミクロ経済学による環境問題の分析（５）：排出権取引
第12週　ミクロ経済学による環境問題の分析（６）：貿易と環境
第13週　ミクロ経済学による環境問題の分析（７）：外部性の価値計測
第14週　まとめ（１）
第15週　まとめ（２）

社会環境論III（食糧の安全性）

3736001300100

副　題	食の本質と食品の安全性							担　当　者	品川　明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIF-010-GD

〔授業の到達目標〕

1．食品の安全を考える上で必要な科学的知識の習得すること
2．安全な食品を選択するために，必要な知見を自らが認識できる能力がある
3．食品による健康被害を未然に防ぐために，必要な知見を自ら認識できる能力がある

〔授業の内容〕

高齢化社会の到来とともに，生命・健康への関心が高くなっている．特に，食を通して健康を保持しようとする場合，食品の含有成分や安全性に対する知識が必要である．本授業では，食品腐敗ーその原因と防止法,食品添加物や食品に含まれる残留農薬や残留抗生物質の危険性，キノコなどの植物性自然毒，フグや貝類などの動物性自然毒および微生物の関与する毒成分について解説し，食中毒事件などの具体的な事例を紹介しながら食品の安全性についての認識を深める．

〔教材〕

参考書：『白熱教室！　食生活を考える』初版，2016年
特に指定しない．必要に応じてプリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

食の現状や問題点を自分自身の問題と捉え，今後の食品の安全性について授業前と授業後に調査する必要がある。そのために，毎回４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1．授業への参加態度（30%）
2．リアクションペーパーを重視する（30%）
3．小テストを実施する（40%）

「評価基準」小テストでは，食品の安全性に関する科学的知識の理解度を評価し，到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

毎回リアクションペーパーを提出し，それを出席にかえる．

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　生活者の意識と食品の安全性に関する世論動向
第３週　豊かさの限界　食糧自給率について
第４週　食糧ロス
第５週　微生物による食品の品質低下
第６週　微生物に起因する食品の変質防止法
第７週　食中毒１　食中毒の分類と発生状況
第８週　食中毒２　微生物性食中毒とその予防法
第９週　食中毒３　微生物性食中毒とその予防法
第10週　食中毒４　植物性と動物性食中毒
第11週　有害物質による食品汚染　農薬および有害金属等
第12週　食品添加物　農薬・食品添加物の使用目的および使用基準
第13週　食品表示について
第14週　輸入食品の安全性
第15週　まとめ
授業中に小テストを実施する。

自然環境論I（エコロジー）

3736011100100

副　題	気づきから人間の責任ある行動へ　体験学習による生態学	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	ENV-012-GD

〔授業の到達目標〕

1．エコシステム教育の視点を十分に理解し，自然の中で環境と生き物の関わりを認識できる。
2．生き物の生息環境とその形態について，その理由を理解し説明できる。
3．人と生き物の関わりを十分に理解し，人としての責任を把握することができる。

〔授業の内容〕

生物と環境との関係を主題とする。今世紀になって特に重要な課題となった自然環境や生活環境の汚染と破壊，人口と食糧の問題などを考察できるために生態学や生物学の基本を体験学習を通じて学ぶ。生物の特徴とその生態，自然環境のしくみを学び，人類が自然の一員であることを確認する。

体験学習のプログラムとしてプロジェクト・ワイルドや海のプログラムなどの体験に基づく学習法を学び，気づきから人間の責任ある行動へと導く講義を展開する。

なお，本授業以外に１泊２日の課外授業（三浦半島）を実施する予定である（費用10,000円程度）。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

アクティビティーの改善点や意義などを把握するための復習が必要である。そのために，３時間程度の学習を必要とする。

〔成績評価の方法〕

1．積極的な参加と発言など授業貢献度を重視する．（30%）
2．授業のアクティビティに関するリアクションペーパーの内容を重視する．（40%）
3．活動の参加とグループ発表（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

自然環境やエコロジーとはどのようなことかいっしょに悩んでみましょう。
教室内外でアクティビティを行うため，受講人数を制限することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　生態学の基礎と体験学習法
第３週　生物と環境
第４週　体験学習　プロジェクト・ワイルド
第５週　〃
第６週　体験学習　プロジェクト・ウェット
第７週　〃
第８週　体験学習　GEMS
第９週　〃
第10週　体験学習　MARE
第11週　〃
第12週　体験学習　味わい教育
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

自然環境論II（自然環境の保全）

3736011200100

副　題	長崎市および上五島町の環境・風土・歴史と文化の振興	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENV-013-GD

〔授業の到達目標〕

１.長崎，特に長崎市および上五島町の環境・風土・歴史を体験し，人と自然と文化の関連性に気づく。

２.上五島町の生産者との交流から，地域の産業振興について提案することができる。

３.教育機関との交流により，環境と食と人との関連について広い視野に立った見識を有する人材となる。

〔授業の内容〕

長崎，特に上五島は特徴的な環境・風土・歴史・文化があり，昔の日本と現代の日本が混在している興味深い地域です。また，豊かな海岸線が育む海のもの，昔から栽培された山のもの，素晴らしい自然や食資源には事欠きません。しかし，このような資源も豊かな自然と人々のやる気があってこそ保全され発展します。自然との調和を図りながら大地や海に汗する人々の営みの現状を把握するとともに問題点を探求し，その解決方法を提案することに研修の目的があります。この集中講義では，自然の中で滞在し，農林水産業の現場を訪ね，現場の生の声に耳を傾け，自然と地域の暮らし体験し，地域の文化や産業の振興について考えます。

〔教材〕

事前に長崎や上五島などの環境や自然，歴史，生活文化，食文化，農林水産業，隠れキリシタンなどをキーワードにした書籍や論文等を読み，レポートを提出してもらいます。なお，そのための教材は各自が検索して探します。集中講義中は講義用のプリントを配布いたします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

集中講義の前に,事前授業として春学期に環境教育講習会や食に関連する講習会を開催する。その講習会に参加すること。講習会の日程は授業登録後に連絡致します。

〔成績評価の方法〕

１.事前授業への参加と事前課題レポートの作成（40%）

２.現地での授業参加状況（30%）

３.現地でのレポート作成（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４限以降に環境教育センターに来ること。

E-mailは授業中に指示する。

〔備考〕

長崎市内および上五島町での宿泊と集中講義

定員：20名

日程：８月27日～８月30日，費用は約80,000円（交通費（羽田空港から長崎空港，長崎港から上五島町），宿泊，保険，実習経費）

〔授　業　計　画〕

第１週　事前授業：オリエンテーションと長崎について
第２週　事前授業：環境教育講習会および食に関する講習会
第３週　８月27日（日）午前　長崎市出島，長崎の文化と歴史に関する授業，
第４週　８月27日（日）午後　長崎の歴史と食文化に関する授業
　　長崎市内の歴史探求
第５週　８月28日（月）午前　上五島町へ移動，船越饂飩館にて，上五島の歴史
　　五島饂飩製造体験
第６週　８月28日（月）午後　鉄川與助と教会群の視察
第７週　８月28日（月）夕方　上五島町の環境と農業
第８週　８月28日（月）夜　振り返り授業
第９週　８月29日（火）午前　中五島高等学校との交流準備
第10週　８月29日（火）午後　中五島高等学校との交流（環境教育と味わい教育の実習）
第11週　８月29日（火）夕方　上五島の風土と食文化
第12週　８月29日（火）夜　振り返り授業
第13週　８月30日（水）午前　上五島町の環境と歴史とキリシタン文化
第14週　８月30日（水）午後　討議，集中講義のまとめ　上五島町の環境保全と地域振興
第15週　事後授業

事前授業：品川教授による環境や食に関する事前授業または事前講習，ガイダンスにて，開催に体を提示する。

長崎および上五島の研修：１日目，長崎出島の歴史と文化

２日目，上五島の環境・風土・歴史・文化の研修

３日目，上五島の教育機関との交流

４日目，上五島町の環境と歴史と食文化の研修

自然環境論III（生物資源利用）

3736011300100

副　題	植物資源の利用							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENV-014-GD

〔授業の到達目標〕
植物の特性を知り，自然環境や人間の生活などにおける重要度を理解できるようになる。

〔授業の内容〕
自然環境としての植物との調和を念頭に置きつつ,生活と直接関連する部分に重点を置いて，生物資源としての植物の利用の現状と新しい可能性について考える。まず生物資源としての植物の特性と地球環境の関連について述べた後，植物の特異性とその利用についていくつかの具体的テーマをとり上げて解説する。理解を深めるため部分的に簡単な実験を取り入れる。テーマの中からひとつを選択して，現状の調査と将来の予測をレポートしてもらう。

〔教材〕
プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
提出レポート（約90%）および授業への参加態度（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔備考〕
授業の一部で実験・実習を行う予定です。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　食糧資源としての穀物の可能性と限界
第３週　〃
第４週　食用作物の成立と改良
第５週　〃
第６週　新しい食用作物とその利用
第７週　デンプンの利用
第８週　植物の有用成分の利用に関する実験・実習
第９週　植物の有用成分の利用に関する実習
第10週　〃
第11週　セルロースの利用
第12週　植物油脂，植物タンパク質の利用
第13週　植物工場による栽培
第14週　環境問題と植物資源利用
第15週　レポート作成指導
授業計画は変更することがある。

自然環境論Ⅳ（環境汚染）

3736011400100

副　題		担　当　者	平井 和也　講師 品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENV-015-GD

〔授業の到達目標〕

１．海は，誰もが存在を知り，多くの恩恵を受けているが，理解されていないことが多い。海についての基本的理解を育むとともに，海洋環境に対して貢献できることを考える。

２．持続可能な海の利用による，東日本大震災からの地域の復興，さらには地域価値向上につなげる提案を行う。

３．提案した企画内容の実践機会を探る。

〔授業の内容〕

海洋学基礎講座として，海についての基本的理解を育み，海洋環境に貢献できることを考えるため，宮城県南三陸町志津川湾をモデルに講義や実習を行う。

まず，事前授業にて「海洋学とは」というテーマで講義を行い，なぜ海を学ぶのか動機付けをしたのち，”食”の切り口で海と人との繋がりを考えるきっかけとするため，南三陸町の水産物を教材にした味わい講義を行う。

次に，モデルとなる南三陸町および志津川湾にて講義，フィールドワーク，グループ討議，実習を織り交ぜながら，海についての理解を深め，持続可能な海の利用を食の領域で行うための企画を考え，人と海との豊かなつながりを形成する１モデルとする。

最終的に，考案した企画が実践される機会を探って，その実現に向けての準備までを行う。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じて資料を配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

集中講義の前に，事前授業を春学期に６回程度実施する。授業の目的は南三陸の水産資源を活用した味わい深い御飯の開発にある。

そのために，食調査や調理実習を実施する。実際の授業以外に調査のために必要な時間は毎回１時間程度である。また，品川教授による環境教育指導者講座および味わい教育インストラクター養成講座には積極的に参加すること。

〔成績評価の方法〕

１．事前授業への出席と課題作成（40%）

２．現地でのと授業参加状況（30%）

３．レポート作成（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Emailにて。アドレスは授業中に指示する。

〔備考〕

宮城県南三陸町での宿泊と集中講義

定員：30名

日程：９月５日～９月８日，費用は約50,000円を予定（交通費，宿泊，保険）

その他，春学期中に大学で実施される環境教育講習会や味わい教育インストラクター講習会に参加すること

〔授　業　計　画〕

第１週　事前授業：オリエンテーション・海洋学とは
第２週　事前授業：味わい講義
第３週　９月５日(火)午後：フィールドワーク1.南三陸トレイルワーク入谷編
入谷集落のロゲイニングワークをおこない，この地域の資源とは何かを感じとる。それとともに課題に対してのグループワークがどうあり，自分自身としての取り組み姿勢などについて実感する。
第４週　９月５日(火)夜：講義1.海についての基礎講座「海洋の地形・成り立ち」
MARE “りんごと海” を使って講義を進める。
第５週　９月６日(水)午前：フィールドワーク2.漁業体験
戸倉にて漁業体験と漁師さんのお話を聞く。
第６週　９月６日(水)午後：フィールドワーク3.南三陸町を概観する
卸売市場にてせりを見学d;c；袖浜d;c；震災アーカイブなど
第７週　９月６日(水)夕方：講義2.農業と漁業，水産業についてレクチャー
・農業をとりまく日本の環境の基礎知識
・水産業をとりまく日本の環境の基礎知識
第８週　９月６日(水)夜：講義3.海についての基礎講座「海流・波・潮」
MARE “海流” を使って講義を進める。
第９週　９月７日(木)午前：フィールドワーク4.reef research(磯観察)
坂本海岸で磯観察をおこない，海の生き物たちの生態を知る。
第10週　９月７日(木)午前：講義4.海についての基礎講座「生物」
MARE “魚，サカナ，さかな” を使って講義を進める。
第11週　９月７日(木)午後：グループワーク.地域資源の価値化　料理検討
次のセッションのワークショップでどういう調理をするか，得た食材を活かしてのグループ検討とレシピづくり。
第12週　９月７日(木)夕方：ワークショップ.食材を使って，地域の魅力を引き立てる
夕食時に食べるための調理をおこなう。
その過程で魚のさばき方について学ぶ。
第13週　９月８日(金)午前：討議.集中講義まとめ
持続的に人と海とが豊かに繋がるために，自分たちにできることは何かを，具体的な実践企画として考える。実践機会を探る。
第14週　事後授業
第15週　〃
○事前授業：品川教授による環境教育指導者養成講座および味わい教育インストラクター養成講習会に参加すること，ガイダンスにて，開催日程を提示する。
○南三陸町の研修
１日目：南三陸町内集落探索プログラム，海洋の地形，成り立ちについての講義
２日目：南三陸町でのフィールドワーク(産業現場の理解・地域復興現場の見学)，一次産業についての講義・海流，波，潮についての講義
３日目：南三陸町でのフィールドワーク(磯観察)，海洋資源の生物的理解
地域振興のワークショップ（環境保全，味わい教育に関するプログラム）
南三陸町の水産物を利用した地域振興プログラムを考えるワークショップ
４日目：討議：発表と意見交換

生活環境論I（人間と食）

3736021100100

副　題	食の基礎と母乳の科学							担　当　者	品川　明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-016-GD

〔授業の到達目標〕
1．食品を理解する上で必要な栄養素に関する基礎知識を認識している。
2．食生活に関するさまざまな問題を取り上げ，それらの解決方法について考え得る能力がある。
3．母乳成分の特質や母乳栄養と社会の関わりなどについて問題点を認識できる。

〔授業の内容〕
現代の食生活に関するさまざまな問題を取り上げ，食生活の現状を認識するとともにその解決方法について議論する．食物と人，食物と環境，食物の条件などについて理解を深める．さらに，具体的な食物として人間をはじめとするほ乳類が食する母乳について，母乳成分の特質を詳細に講述し，母乳栄養と社会の問題点について議論する．

〔教材〕
参考書：『白熱教室！　食生活を考える』
特に指定しない．必要に応じてプリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
食に関する基礎学習および母乳に関する事前の調査と授業後の復習が必要である。そのために，4時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕
1．積極的な参加や発言など授業貢献度を重視する．（30%）
2．リアクションペーパーを重視する（20%）
3．小テストを実施する．（25%）
「評価基準」授業中の積極的な質問や発言を評価する．小テストでは，食品の栄養素に関する基礎知識や母乳成分の特質についての理解度を評価し，到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える．
4．本試験（25%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日4限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕
数回実施されるリアクションペーパーの提出を重要視する

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　食品成分の基礎（食べるものに何が含まれているか）1
第3週　食品成分の基礎（食べることとは何を意味するのか）2
第4週　食品成分の基礎（何をどのように食べるか？）3
第5週　食生活の現状
第6週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）1
第7週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）2
第8週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）3
第9週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）4
第10週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）5
第11週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）6
第12週　母乳の非栄養学的価値1
第13週　母乳の非栄養学的価値2
第14週　母乳の非栄養学的価値3
第15週　まとめ

生活環境論II（ウエルネス論）

3736021200100

副　題	身体・健康・環境～well-beingについて考える	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-017-GD

〔授業の到達目標〕

現代社会における身体・健康・環境についての様々な話題から，個の尊重としてのwell-beingとは何かを考える。また，健康に向けたライフスタイルを自らデザインするための知識や方法を模索する。

〔授業の内容〕

ウエルネス（wellness）とは，illness　と対照的な言葉であるが，単に「病気でない」という状態を示すものではない。それは，health　のもつ意味をより幅広い視座から捉え直し，各人が現在おかれている様々な状況に応じて心地好く生活していくための方法を模索する積極的かつ総合的な健康に対する考え方とされている。著しい社会変化の中で，「余暇社会」と言われて久しく，自由裁量時間をどのように過ごしていくかということに関心が寄せられ続けている。また，科学技術の進歩に伴う便利な生活は，他方，身体を動かさない日常によって「運動不足病」（hypokinetic disease）を引き起こしている。このような状況の中で，時間や健康を自分でデザインし，身体（こころとからだ）を健やかにして快適な生活をおくることは現代社会に暮らす私たちにとって重要な課題と考えられる。

そこで，この時間では，「身体」「健康」「環境」に関するトピックを社会的・文化的視点から採り上げ，自分に合った心地好いライフスタイルの創造を志向しながら，生活文化としての健康について考えていきたい。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通して上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（50%），理解度の確認（30～40%），授業への参加意欲（20～10%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目

サポートセンターにて問い合わせること。

〔備考〕

「特別講義」を開催する場合がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ウエルネス（wellness）の考え方
第３週　健康とは何か～あなたは今健康ですか？
第４週　『体に悪いことしてますか』～健康スポーツ・ブームを考える
第５週　現代社会と運動不足病
第６週　ストレスコントロールとリラクゼーション
第７週　肥満対策とスポーツ
第８週　理解度の確認（予定）
第９週　現代のボディ・イメージと痩身神話
第10週　日本人の養生観
第11週　個の尊重としてのwell-being
第12週　たばこの歴史と文化と健康～世界の禁煙CMから
第13週　オリンピックと環境問題
第14週　余暇社会とスポーツ～人生100年時代の健康観
第15週　まとめ

生活環境論III（健康と栄養）

3736021300100

副　題	食物と健康							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-018-GD

〔授業の到達目標〕

食品成分に関する基本的知識を備える。

〔授業の内容〕

現代における生活をより豊かで健康的にするうえで食の重要性はきわめて高い。我々の食生活に関わる食品はきわめて多様であり，食品選択のためには食品成分に関する基本的知識が必要である。食品成分の栄養的価値や性質について，具体的食品や健康問題などの事例と関連づけてできるだけ具体的に解説し，正しい食品選択への方策を考えていく。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（約90%）および授業への参加態度（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来てください。

〔授　業　計　画〕

第１週　食物摂取の必要性
第２週　食物中の栄養素とその分布
第３週　食物のエネルギーと炭水化物
第４週　〃
第５週　脂質の性質と役割
第６週　〃
第７週　タンパク質の機能と栄養
第８週　〃
第９週　食生活と成人病
第10週　〃
第11週　〃
第12週　食生活とガン
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

生活環境論Ⅳ（社会福祉論）

3736021400100

副　題	女性と社会福祉							担　当　者	田中　恵美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	SOC-019-GD

〔授業の到達目標〕
1．社会福祉の意味，成り立ちについて説明できる。　2．女性のライフステージにおける特徴と社会制度の関係について論ずることができる。　3．現代日本社会における課題と女性の立場について考察することができる。

〔授業の内容〕
この講義では社会福祉の意味世界について説明し，女性の立場で社会福祉とどうかかわるのかについて考察していく。特に現代日本社会における様々な福祉問題への理解と，それらにおける女性の立ち位置について，各自が自らの意見を持ち，議論ができるようにする。
前半で社会福祉の定義，ライフサイクルと社会福祉制度の関係，社会福祉制度の成り立ち及び戦後日本の歴史について学んだあと，現代社会における社会問題と女性の関係について考察していく。
＊授業で配布する資料の予備は保管しません。必ず出席者からコピーをもらってください。
＊当日欠席により課題提出が遅れる場合は，事前に受け付けます。
＊携帯電話やパソコンの使用は禁止します。ただし事前に説明を受け，講義取得に必要と判断された場合，許可します。

〔教材〕
参考書：岩田正美『社会福祉への招待』第1版，放送大学教育振興会，2016年
その他の参考図書は必要に応じて授業中または資料で情報提供します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業は前回の授業内容の振り返りからスタートするので，復習を十分行って出席すること。また授業計画に乗せられているキーワードについて，授業中に指名されても自分なりの意見が述べられるよう，あらかじめ必要と思われるような基本的な情報（制度の内容や社会問題として認識されていること）について，新聞等最新の情報媒体から取得しておくこと。

〔成績評価の方法〕
まとめと理解度の確認　70%，コメントシート30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールでの連絡　etanaka●tokyo-kasei.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　社会福祉とは何か－定義　我々の生活世界との違い
第２週　ライフサイクルと制度－女性のライフステージ
第３週　社会福祉制度の成り立ち－イギリスを中心に
第４週　戦後日本の社会福祉制度　１－戦後初期～高度経済成長期
第５週　戦後日本の社会福祉制度　２－高度経済成長期～現代
第６週　就労－雇用格差と女性　男女雇用機会均等法
第７週　結婚・出産－ライフワークバランス　海外と日本
第８週　出生前診断－現代的課題
第９週　子どもの貧困・虐待　１　児童虐待とは何か
第10週　子どもの貧困・虐待　２　子どもの周りに怒っている課題を整理する（ワーク）
第11週　疾病と女性－難病対策法
第12週　障害者の自立生活運動と女性－障害者権利条約
第13週　老後をどう生きるのか－おひとりさまの老後　年金・所得
第14週　家族の老いを支える－「介護」の形：介護保険制度の問題
第15週　まとめと理解度の確認
授業で聞き逃したことは教員に尋ねることも大切ですが，まずは学生同士で情報を共有しあってください。授業中にグループディスカッションを行ったり，意見を求めたりすることもあります。積極的に参加してください。どんな意見でも構いません。自分の意見を述べてください。発表したり，ディスカッションしたりできない人はこの科目は履修しないように。

生活環境論V（生活者と環境）

3736021500100

副　題	私たちにとって有意義な生活とは何か	担　当　者	内田　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-020-GD

〔授業の到達目標〕

日々生活をしている人間，すなわち「生活者」の立場から，主に都市生活を中心とした現在の生活実態の問題点を見つけ出し，その解決のための効果的なあり方や改善点などの提案ができるようになる。

〔授業の内容〕

人間と環境の関係は，ヒト全体をとりまくマクロな環境から，個人をとりまくミクロな環境と，様々な視点から考えられる。本講義では，家庭生活での消費や家計を中心とした生活経済上の諸問題，福祉の発展における生活空間の利便性やその弊害，住まいや地域を取り巻く景観や人間同士が集まって醸し出す美観などの広義のランドスケープ，そして芸術文化と企業メセナや，IT社会や工業技術など，文化や情報技術に関することなどを取り上げる予定である。これらの多角的な視点から生活者と環境との関係を捉え，我々にとって有意義な生活とは何かを検討したい。

〔教材〕

教科書は使用しないが，プリント等を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業には，課題に挙げている生活環境について，現代の生活者がどのような状況にあるのか，毎日の新聞（一般紙）記事，テレビのニュース･報道番組等を準備に2時間以上活用しながら，問題意識を持って受講すること。授業後も同様に2時間以上これらの生活情報の比較・選択・活用に努めること。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート(90%)と授業への参加度(リアクションペーパー含)(10%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス　／　生活者および環境とは何か
第2週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（1）　消費者問題
第3週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（2）　契約のしくみ
第4週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（3）　生活設計
第5週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（4）　高齢期の経済生活
第6週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（1）　住生活事情
第7週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（2）　ユニバーサルデザイン
第8週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（3）　暮らしの中の安心安全
第9週　広義のランドスケープからみた生活環境（1）　街の景観
第10週　広義のランドスケープからみた生活環境（2）　広告・サイン
第11週　広義のランドスケープからみた生活環境（3）　身近な美観
第12週　文化・情報技術からみた生活環境（1）　文化・芸術と企業メセナ
第13週　文化・情報技術からみた生活環境（2）　工業技術と生活支援
第14週　文化・情報技術からみた生活環境（3）　ヒューマンインターフェース
第15週　まとめ

地球環境論I

3736040100100

副　題	地球環境問題への総合的アプローチ							担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENV-021-GD

〔授業の到達目標〕

地球の構造や物質循環等に関する科学的知識，環境と経済活動の関連を分析するための経済学的知識，国家間の利害を調整するための国際関係論などの，地球環境問題を理解するための多様な分野の基礎を把握することが可能となる。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き，海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また，国際化の進展に伴う貿易の増加は，輸入国，輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは，ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。

本講義では，このような地球規模での環境問題について，広角的な視点から，問題の所在，因果関係，問題解決のための政策手法について概観する。

〔教材〕

参考書：京都大学地球環境学研究会『地球環境学のすすめ』（京大人気講義シリーズ）丸善，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に4時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：20%），中間試験（20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日5時間目

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　いくつかの基礎的概念の整理（地球の成り立ちと地球システム）
第3週　いくつかの基礎的概念の整理（持続性と環境倫理，不確実性と予防原則，エコロジカルフットプリント等）
第4週　地球温暖化（1）：何故二酸化炭素が増加すると地球は温暖化するのか？
第5週　地球温暖化（2）：二酸化炭素の急増（地球の成り立ちと炭素の循環）
第6週　地球温暖化（3）：温暖化の影響
第7週　地球温暖化（4）：温暖化ガスを削減するための政策手法―環境税，排出権取引，研究・開発，自発的な取り組み
第8週　地球温暖化（5）：国際的な対策の枠組みー京都議定書とIPCC
第9週　生物多様性の減少（1）：何故生物多様性は重要か？
第10週　生物多様性の減少（2）：生物多様性の急激な減少
第11週　生物多様性の減少（3）：生物多様性条約
第12週　貿易と環境（1）：自由貿易は環境にプラスかマイナスか？
第13週　貿易と環境（2）：WTO農業交渉と環境―自由貿易と環境保全を両立させるための政策は可能か？
第14週　総括
第15週　〃

地球環境論II

3736040200100

副　題	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ENV-022-GD

〔授業の到達目標〕

現在の主要な地球環境問題である地球温暖化，水資源･土壌資源の劣化，生物多様性の減少，自由貿易の拡大とその環境への影響について，その科学的なメカニズムを踏まえたうえで，対応策について社会科学の手法も含めて包括的に議論する。本科目の履修を通じて，地球環境についての複雑な問題を事例とした総合的な思考力の醸成を目標とする。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き，海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また，国際化の進展に伴う貿易の増加は，輸入国，輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは，ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。「地球環境論II」では，このような地球規模での環境問題について，事例分析を通じて，その複雑性および問題の把握・解決のための総合的な視点の重要性を示す。

〔教材〕

EU, OECD，世銀等における国際的な政策議論についてのレポートを参考資料とする予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業を踏まえた宿題に 4 時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：50%），期末試験（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 5 時間目

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　地球温暖化①：温室効果ガスと温暖化のメカニズム
第 3 週　地球温暖化②：温暖化適応策の必要性と概要
第 4 週　地球温暖化③：温暖化緩和のための政策手法（排出権取引・環境税）
第 5 週　水資源・土壌資源①：コモンズとしての淡水資源の現状（水循環のマクロ概観）
第 6 週　水資源・土壌資源②：世界的規模の土壌劣化の概況
第 7 週　水資源・土壌資源③：水・土壌資源保全のための総合的な対策：コモンズの悲劇を避けるために
第 8 週　生物多様性①：生物多様性の現状と危機
第 9 週　生物多様性②：国際的な取り組み
第10週　生物多様性③：わが国の取り組み
第11週　貿易と環境①：貿易理論と環境の整合と不整合
第12週　貿易と環境②：貿易と環境の関係性を示す実例
第13週　貿易と環境③:WTOと貿易
第14週　総括：地球環境問題の総合性
第15週　総括：全体討論

情報処理IA（コンピュータ入門）

3733000100100

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	CAR-101-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．

（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．

（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス

第２週　Windowsの操作

第３週　タイピングと日本語入力

第４週　メールの使い方と利用上の注意

第５週　Webによる情報検索と利用上の注意

第６週　OPACによる蔵書検索

第７週　文書作成ソフトの利用　（1）

第８週　文書作成ソフトの利用　（2）

第９週　プレゼンテーションソフトの利用

第10週　ハードウェアの基礎

第11週　ソフトウェアの基礎

第12週　ネットワークの基礎

第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー

第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策

第15週　まとめ

情報処理IB（コンピュータ入門）

3733000100200

副　題	コンピュータ入門									担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	CAR-102-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IC（コンピュータ入門）

3733000100300

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-103-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理ID（コンピュータ入門）

3733000100400

副　題	コンピュータ入門									担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	CAR-104-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IE（コンピュータ入門）

3733000100500

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	CAR-105-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IF（コンピュータ入門）

3733000100600

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	CAR-106-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IG（コンピュータ入門）

3733000100700

副　題	コンピュータ入門									担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CAR-107-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IH（コンピュータ入門）

3733000100800

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	CAR-108-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理II（コンピュータ入門）

3733000100900

副　題	コンピュータ入門								担　当　者	市川　収　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	CAR-109-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．

（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．

（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IJ（コンピュータ入門）

3733000101000

副　題	コンピュータ入門									担　当　者	市川　収　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	CAR-110-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）　Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IIA（コンピュータ基礎）

3733000200100

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	CAR-111-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIB（コンピュータ基礎）

3733000200200

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	CAR-112-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIC（コンピュータ基礎）

3733000200300

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-113-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IID（コンピュータ基礎）

3733000200400

副　題	コンピュータ基礎									担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	CAR-114-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIE（コンピュータ基礎）

3733000200500

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	CAR-115-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIF（コンピュータ基礎）

3733000200600

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	CAR-116-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIG（コンピュータ基礎）

3733000200700

副　題	コンピュータ基礎									担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CAR-117-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜５限
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIH（コンピュータ基礎）

3733000200800

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	CAR-118-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理II I（コンピュータ基礎）

3733000200900

副　題	コンピュータ基礎									担　当　者	市川　収　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	CAR-119-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理II J（コンピュータ基礎）

3733000201000

副　題	コンピュータ基礎									担　当　者	市川　収　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	CAR-120-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Iを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理III（コンピュータ応用）

3733000300100

副　題	画像処理							担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	CAR-121-GE

〔授業の到達目標〕

画像処理に必要な技術を理解し，様々な画像処理の手法を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

パソコンでは，画像・音声・映像等のデータを簡単に取り扱うことができる。この授業では，画像処理に関する内容を中心に講義を進め，コンピュータの活用技法を身につけることを目的とする。また，同時にコンピュータのハードウェアについても理解を深める。受講の条件は，情報処理Ⅰ・Ⅱを履修したか,同レベル以上の能力があることとする。主に使用するソフトウェアは，PhotoShopとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を設ける。

〔教材〕

教科書は，最初の授業で指示する。授業中にプリント等を配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間，課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

課題として提出された作品の完成度（70%)，作品の制作過程を説明したレポート（30%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日５限

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
第２週　画像データについて１（データの種類・形式，入出力機器の取り扱い）
第３週　画像データについて２
第４週　画像データの編集１（編集ソフトPhotoShop　の利用法）
第５週　画像データの編集２（編集ソフトの利用法）
第６週　画像データの編集３（編集ソフトの利用法）
第７週　作品コンテスト準備
第８週　作品コンテスト
第９週　作品評価
第10週　動画１（アニメーションGIF等）
第11週　動画２（映像編集の概略）
第12週　プレゼンテーションソフトウェアへの応用１
第13週　プレゼンテーションソフトウェアへの応用２
第14週　まとめ
第15週　〃
ただし，理解度によって，変更する場合がある。

情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）

3733000400100

副　題	プログラム作成							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	CAR-122-GE

〔授業の到達目標〕

プログラム作成に必要な基礎知識を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

コンピュータが動作するには，ソフトウェア（プログラムやデータ）が必要である。この授業では，ソフトウェアの開発能力を養うことを目的とする。またプログラム作成に必要はハードウェア・ソフトウェアに関する事項についても学習する。使用言語はJavaScriptを予定している。受講の条件は，情報処理I･IIを履修したか，同レベル以上の能力があることとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を48名とする。

〔教材〕

最初の授業で教科書を指示する。また授業中にプリント等を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に20時間，課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

中間レポート30%・最終課題70%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
第２週　コンピュータに関する基本事項（動作の仕組みやOSについて）
第３週　プログラミング言語の解説１（for文・if文・配列）
第４週　プログラミング言語の解説２（予約オブジェクト・メソッド・プロパティ等）
第５週　プログラミング言語の解説３（文字列オブジェクト・Mathオブジェクト等）
第６週　プログラミング言語の解説４（イベント処理等）
第７週　プログラミング言語の解説５（予約オブジェクト２等）
第８週　演習問題
第９週　プログラムとアルゴリズム
第10週　プログラムの構造化・いろいろなデータ構造
第11週　データ処理とファイル管理
第12週　プログラムコンテスト課題提示と説明
第13週　プログラムコンテスト準備
第14週　プログラムコンテスト
第15週　〃
ただし，履修者の理解状況によって，変更する場合がある。

文献情報

3733001100100

副　題										担　当　者	越塚　美加　教授 西川　和　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	INF-123-GE

〔授業の到達目標〕

以下の３点を目標とする

１．大学の授業がどのようなもので,なぜ情報を自分で収集する必要があるのかを理解する。
２．指示された資料を入手することが出来るようになる。
３．必要な情報を自分で収集することが出来るようになる。

〔授業の内容〕

大学での学習では自分で情報を探さねばならず，多様な情報源を用いる必要がある。この授業では大学の授業や卒業論文の執筆の為に，なぜ情報を手にしなければならないのかを解説する。そして，紙媒体とオンラインの両方の様々な情報源から，必要な情報を探し，入手し，利用する方法を実習する。講師による解説の後，履修者自身が課題を解いていく形式をとる。課題は翌週に提出してもらい，後日解説を行う。

司書課程科目において本授業の内容をより詳しく扱うため，司書課程を履修している学生の受講は認めない。

〔教材〕

参考書：佐藤望他『アカデミック・スキルズ:大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回提示する課題は授業時間外の作業が必要な量を想定している。

〔成績評価の方法〕

平常点(30点)，授業ごとの課題(50点)，小テスト(20点)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール，及び授業前後に受け付ける。メールアドレスは初回授業時に連絡する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：大学での学習とは何か，なぜ情報を集める必要があるのか，どのような情報源があるのか
第２週　参考文献の読み方・書き方：参考文献をどう使うのか，なぜ参考文献を記述するのか
第３週　インターネット：信頼できる情報源とは　，様々な検索方法，ウェブアーカイブの利用
第４週　参考図書：百科事典をはじめとした事典類の利用
第５週　統計データ：紙媒体及び電子媒体の統計データの利用
第６週　図書１：図書館の蔵書を利用する
第７週　図書２：横断検索と海外の図書館の利用，デジタル化された図書の利用
第８週　雑誌論文１：学術雑誌とはなにか，国内の雑誌論文を入手する方法
第９週　雑誌論文２：機関レポジトリの利用と，様々なデータベースを用いて論文を探す方法
第10週　新聞記事：新聞記事データベースの利用
第11週　情報を探すプロセス：様々な手法を組み合わせた検索
第12週　レポートの書き方：レポートを書くときの注意点
第13週　プレゼンテーションの仕方：パワーポイントを用いたプレゼンテーションの注意点
第14週　テーマを決めて情報を探す：各自の興味のある情報を収集する
第15週　まとめ，理解の確認

社会調査法

3733002100100

副　題								担　当　者	本柳　亨　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SOC-024-GE

〔授業の到達目標〕

本講義の到達目標は，目にうつる身近なことから問いを立て，考え，解くための「社会学的想像力」を養うことである。

〔授業の内容〕

社会学の考察は，「理論的な思考作業」と「実証的な思考作業」の二つの思考作業を軸としている。本講義では，「実証的な思考作業」が中心となる社会調査の意義と目的，方法と手順の基礎的事項を解説する。解説の際は，恋愛，結婚，家族，SNSなど，身近な問題を題材として取り上げる。本講義では，社会調査の基礎的事項を理解してもらうことに加えて，「社会について考えること」の楽しさを体感してもらう。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

教科書は使用しない。授業中にプリントを配布し，必要に応じて参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の前後は合計60時間以上の準備学習（予習・復習）を行うこと。この授業では，参考資料として，学術書のみならず，映画や小説も紹介する。関心をもった作品に対して積極的にアプローチし，それを自分の言葉で表現し，家族や友人と対話をすること。こうした時間も「準備学習」に含まれる。

〔成績評価の方法〕

授業のリアクション・ペーパー（20%）と学期末レポート（80%）を合わせて総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内で公開するメールアドレスで学生からの連絡を受け付ける。

〔備考〕

本講義は，統計学の知識が全くなくても受講できる。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会調査の基礎
第２週　社会調査のデザイン（一）
第３週　社会調査のデザイン（二）
第４週　理論的な思考作業
第５週　先行研究の調べ方
第６週　調査対象の選出方法
第７週　質問紙調査法の種類と方法
第８週　調査票の作成
第９週　エディティングとコーディング
第10週　データの基礎的集計
第11週　データの分析（一）
第12週　データの分析（二）
第13週　社会調査の企画と設計
第14週　社会調査の今日的課題
第15週　まとめ
授業計画は予定であり，変更することがある。

日本語表現法IA

3734000100100

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	JPL-101-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（20%），授業参加度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IB

3734000100200

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	JPL-102-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），授業参加度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IC

3734000100300

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	奥泉　香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-103-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているため，話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は,大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法ＩＤ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正，補完に各週４時間程度の準備が必要である。

〔成績評価の方法〕
各回の提出物と課題毎の提出物で，総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
k87●diana.dti.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　聴覚情報を整理して書く
第２週　機器の取り扱い方を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する
第３週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－１－
第４週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－２－
第５週　不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み，その文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する
第７週　論証文を書く－１－資料から必要な部分を引用し，問いを生成する
第８週　論証文を書く－２－データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く－３－一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く－４－－文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く－５－－段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く－６－全体構造を検討して書き直す
第13週　論証文を書く－７－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　論証文を書く－８－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第15週　ピアワークによる批評と修正
書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。

日本語表現法ID

3734000100400

副　題	「書きことば」による文章表現									担　当　者	村上　佳恵　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-104-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１Ｄ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。授業へ参加態度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を知らせる。

〔備考〕

授業では，毎回，グループ・ワークを取り入れる。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ

日本語表現法IE

3734000100500

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	JPL-105-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。本授業では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
授業では，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業には，事前課題に取り組み，情報収集を十分に行った上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加度（30%），提出物（30%），課題（40%）によって，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要，「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　様々なコミュニケーションの状況に応じた文章化
第３週　問題のある文章・優れた文章の分析
第４週　学術論文・レポートの作成手順
第５週　学術論文の文体的特徴（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など）
第６週　論証文の構成，論証文の表現
第７週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第８週　論証文を書く（２）序論：背景説明と問題提起
第９週　論証文を書く（３）本論：主張と根拠
第10週　論証文を書く（４）本論：データの提示と解釈
第11週　論証文を書く（５）本論：反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）結論：まとめと今後の課題
第13週　論証文を書く（７）その他：引用文献，参考文献，注
第14週　ピアワークによる評価と修正
第15週　まとめ
上記の計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IF

3734000100600

副　題								担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	JPL-106-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し，実践することができる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

参考書：名古屋大学教育学部付属中学校・高等学校国語科『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房，2014年
橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂，2008年

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに，宿題として課された課題を仕上げること。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。授業への参加態度（20%），各回の提出物（80%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に直接，もしくはサポートセンターをつうじてアポイントメントを取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（３）―不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IG

3734000100700

副　題	アカデミックライティング							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-107-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する,特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に論理的，説明的な言語使用は技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法Ⅰ」では，特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて，的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔教材〕

特になし。授業内容に関連する参考文献は授業内で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内では課題作文が書ききれない場合があり，その場合は授業後の学習時間が必要

〔成績評価の方法〕

開講時数の２／３以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%），および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
第３週　書記言語の性格，特徴
第４週　説明的に文章を書く①
第５週　説明的に文章を書く②
第６週　学術論文を読む①
第７週　学術論文を読む②
第８週　レポートを書く技術①
第９週　レポートを書く技術②
第10週　レポートを書く技術③
第11週　データの取り扱い①
第12週　データの取り扱い②
第13週　先行研究の取り扱い
第14週　「わかりやすさ」とはどういうことか
第15週　まとめ

日本語表現法IH

3734000100800

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	JPL-108-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

授業の参加態度（20%），授業参加度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法II

3734000100900

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	JPL-109-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。本授業では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

授業では，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，事前課題に取り組み，情報収集を十分に行った上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業の参加態度（30%），提出物（30%），課題（40%）によって，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要，「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　様々なコミュニケーションの状況に応じた文章化
第３週　問題のある文章・優れた文章の分析
第４週　学術論文・レポートの作成手順
第５週　学術論文の文体的特徴（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など）
第６週　論証文の構成，論証文の表現
第７週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第８週　論証文を書く（２）序論：背景説明と問題提起
第９週　論証文を書く（３）本論：主張と根拠
第10週　論証文を書く（４）本論：データの提示と解釈
第11週　論証文を書く（５）本論：反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）結論：まとめと今後の課題
第13週　論証文を書く（７）その他：引用文献，参考文献，注
第14週　ピアワークによる評価と修正
第15週　まとめ
上記の計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法I J

3734000101000

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	村上　佳恵　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-110-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１J」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。授業への参加態度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を知らせる。

〔備考〕
授業では，毎回，グループ・ワークを取り入れる。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ

日本語表現法IK

3734000101100

副　題	「書きことば」による文章表現									担　当　者	村上　佳恵　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-111-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１K」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。授業への参加態度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を知らせる。

〔備考〕
授業では，毎回，グループ・ワークを取り入れる。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ

日本語表現法IL

3734000101200

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	加藤　陽子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-112-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文が書けるようになる

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しており，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているため，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。本授業では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指した活動をおこなう。

〔教材〕

特に定めず，授業の中で適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後に，主に復習を目的として，文章を書く課題を課す。課題のために必要な時間は毎回４時間程度。それをこなしたうえで次の授業に臨むこと。また，課題についてクラス内でおこなうフィードバックも，復習として有効に活用すること。

〔成績評価の方法〕

授業への積極性・参加態度（30%），課題（70%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス説明，ニーズ調査，「話しことば」と「書きことば」の違いとバラエティ，PCのメールの書き方
第２週　問題のあるメールの文章を分析する，課題のフィードバック
第３週　学術論文を読み発表レジュメを作成する，課題のフィードバック
第４週　学術論文・レポートの作成手順を理解する，課題のフィードバック
第５週　学術論文を読み，その具体的特徴を把握する（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など），課題のフィードバック
第６週　論証文の構成を知る，課題のフィードバック
第７週　論証文の表現を知る，課題のフィードバック
第８週　論証文を書く１―序論を書く（１）背景説明，課題のフィードバック
第９週　論証文を書く２－序論を書く（２）問題提起と観点提示，課題のフィードバック
第10週　論証文を書く３－本論を書く（１）データの提示と重要部分の言語化，課題のフィードバック
第11週　論証文を書く４－本論を書く（２）データの説明と解釈の書き分け，課題のフィードバック
第12週　論証文を書く５－本論を書く（３）結論の書き方，課題のフィードバック
第13週　論証文を書く６－結びを書く（本論の要約，評価，課題と展望），課題のフィードバック
第14週　論証文を書く７－引用文献，注，課題のフィードバック
第15週　まとめ
履修学生の状況により，授業計画を変更することがある

日本語表現法IM

3734000101300

副　題										担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	JPL-113-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し，実践することができる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

参考書：名古屋大学教育学部付属中学校・高等学校国語科『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房，2014年
橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂，2008年

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに，宿題として課された課題を仕上げること。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。授業への参加態度（20%），各回の提出物（80%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に直接，もしくはサポートセンターをつうじてアポイントメントを取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（３）―不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IN

3734000101400

副　題	アカデミックライティング	担　当　者	福島　直恭　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-114-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する,特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に論理的，説明的な言語使用は技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法Ⅰ」では，特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて，的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔教材〕

特になし。授業内容に関連する参考文献は授業内で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内では課題作文が書ききれない場合があり，その場合は，授業後の学習時間が必要

〔成績評価の方法〕

開講時数の２／３以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%），および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
第３週　書記言語の性格，特徴
第４週　説明的に文章を書く①
第５週　説明的に文章を書く②
第６週　学術論文を読む①
第７週　学術論文を読む②
第８週　レポートを書く技術①
第９週　レポートを書く技術②
第10週　レポートを書く技術③
第11週　データの取り扱い①
第12週　データの取り扱い②
第13週　先行研究の取り扱い
第14週　「わかりやすさ」とはどういうことか
第15週　まとめ

日本語表現法II A

3734000200100

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	阿部　美菜子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-115-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じ口頭表現と言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類の異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目は，よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は,これからの社会生活において重要であるにもかかわらず,多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。そこで,「日本語表現法II」では，コミュニケーション状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，準備（プレゼンテーション･ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），プレゼンテーションと授業参加度（60%），提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　コミュニケーション状況の違いについて
第２週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（１）
第３週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（２）
第４週　コミュニケーション状況における説明（１）―　ひとりの相手に対する説明
第５週　コミュニケーション状況における説明（２）―　少数の相手に対する説明
第６週　コミュニケーション状況における説明（３）―　多数の相手に対する説明
第７週　コミュニケーション状況における説明（４）―　学術的な発表（１回目）
第８週　コミュニケーション状況における説明（５）―　学術的な発表（２回目）
第９週　第４週から第８週までの比較検討とまとめ
第10週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（１）―　論の立て方
第11週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（２）―　メモをとりながらの展開
第12週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（３）―　メモを活かした反駁
第13週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（４）―　ディベートの体験１
第14週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（５）―　ディベートの体験２
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法ⅡB

3734000200200

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-116-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2B」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（30%），発表（50%），課題等提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を伝える。

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

日本語表現法ⅡC

3734000200300

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	JPL-117-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2C」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（30%），発表（50%），課題等提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を伝える。

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

日本語表現法IID

3734000200400

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	阿部　美菜子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	JPL-118-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じ口頭表現と言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類の異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目は，よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は,これからの社会生活において重要であるにもかかわらず,多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。そこで,「日本語表現法II」では，コミュニケーション状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，準備（プレゼンテーション･ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（20%），プレゼンテーションと授業参加度（60%），提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　コミュニケーション状況の違いについて
第２週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（１）
第３週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（２）
第４週　コミュニケーション状況における説明（１）―　ひとりの相手に対する説明
第５週　コミュニケーション状況における説明（２）―　少数の相手に対する説明
第６週　コミュニケーション状況における説明（３）―　多数の相手に対する説明
第７週　コミュニケーション状況における説明（４）―　学術的な発表（１回目）
第８週　コミュニケーション状況における説明（５）―　学術的な発表（２回目）
第９週　第４週から第８週までの比較検討とまとめ
第10週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（１）―　論の立て方
第11週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（２）―　メモをとりながらの展開
第12週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（３）―　メモを活かした反駁
第13週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（４）―　ディベートの体験１
第14週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（５）―　ディベートの体験２
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法ⅡＥ

3734000200500

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	奥泉　香　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	JPL-119-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。また議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では同じ口頭表現でも，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類の異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語を介した社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。したがって「日本語表現法ⅡC」では，コミュニケーション状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目指す。

〔教材〕

自作教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前準備や授業時に発表した原稿の修正に，各週４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

テーマ毎のプレゼンテーションと，小レポートで総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

k87●diana.dti.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　スピーチとマルチモダルコミュニケーション
第２週　スピーチ原稿の構成と書き方－１－
第３週　スピーチ原稿の構成と書き方－２－
第４週　コミュニケーション状況における説明－１－少数の相手に対する説明とそのポイント
第５週　コミュニケーション状況における説明－２－多数の相手に対する説明とそのポイント
第６週　コミュニケーション状況における説明－３－学術的な発表
第７週　コミュニケーション状況における説明－４－学術的な発表
第８週　リフレクションとまとめ
第９週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－１－論の立て方
第10週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－２－メモをとりながらの質問
第11週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－３－メモを活かした反駁
第12週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－４－ディベートの体験
第13週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－５－ディベートの体験
第14週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現－６－ディベートの体験
第15週　リフレクションとまとめ
身体を通した学び・気づきを促す授業デザインを目指す。

日本語表現法IIF

3734000200600

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	JPL-120-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2F」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（30%），発表（50%），課題等提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。初回授業時に連絡先を伝える。

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

スポーツ・健康科学演習IA

3737100100100

副　題	ダンスと文化(日本の踊りと世界のダンス)	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SPO-001-GG

〔授業の到達目標〕

様々な地域の様々な時代の様々なダンスの体験を通して，多様な身体の使い方や踊り方を習得しその背景にある多様な文化を学ぶ。同時に姿勢を整え，軽やかな動きを身につける。

〔授業の内容〕

Danceという言葉は，desire of lifeという意味をもっている。それは，私たちが生きていることとダンスが，深く関わっていることを示唆している。この時間では，様々な国の，様々な形態の，様々な歴史をもつダンスの体験を通して，「ダンスとはどのような文化なのか」あるいは「他の文化とどのような関係があるのだろうか」という問題を考えてほしい。パーティダンスやボールルームダンス（ソーシャルダンス）は「国際共通語」でもあり，海外における人々とのコミュニケーションの役割を果たすことができる。また，バロックダンスや諸外国及び日本の舞踊を体験することによって，各地に受け継がれてきた伝統的な生活文化や社会的背景を知ることができる。音楽に合わせて身体を動かす楽しさを体験しながら，各自が「ダンスによる比較文化論」を展開してほしい。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で，毎回の授業に出席する。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（50%），動きの発表と理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目

サポートセンターにて問い合わせる。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けるが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的とすすめ方
第２週　ダンスとコミュニケーション（現代のパーティダンス）
第３週　ダンスとコミュニケーション（アメリカン・カントリーダンス）
第４週　ボールルームダンスの系譜と技法（ラテン①）
第５週　ボールルームダンスの系譜と技法（ラテン②）
第６週　ボールルームダンスの系譜と技法（ラテン③）
第７週　動きの発表と理解度の確認
第８週　ボールルームダンスの系譜と技法（モダン①）
第９週　ボールルームダンスの系譜と技法（モダン②）
第10週　ダンスの歴史を辿る（フランス宮廷舞踊を体験する）
第11週　世界の民族舞踊
第12週　日本の民踊（各地の文化と踊り①）
第13週　日本の民踊（各地の文化と踊り②）
第14週　日本の民踊（各地の文化と踊り③）
第15週　まとめ＋動きの発表と理解度の確認

スポーツ・健康科学演習IB

3737100100200

副　題	和の身体技法							担　当　者	森田　ゆい　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	SPO-002-GG

〔授業の到達目標〕

日本の踊りをはじめとする「和の身体技法」を体験することによって，日本に特有な身体文化や身体運動文化を理解し，和服を着た場合の所作や立居振る舞いとともにその文化的背景を学びます。その過程の中で，和服（浴衣）を自分で着る技能を習得し，国際交流の場において日本舞踊を披露できる能力を培うことも目指します。

〔授業の内容〕

本授業では，主に日本舞踊と地歌舞を題材として「和の身体技法」を学びます。また日本舞踊の「踊り」と地歌舞の「舞」の違いについて理解を深めるための講義を行い，その上で，体験を通してそれぞれの「身体づかい」の違いを習得していきます。

踊る曲目は日本舞踊の「菊づくし」と地歌舞の「黒髪」です。「菊づくし」のまとめでは，数人ずつステージに上がり踊りを披露します。

本授業を通して，各自が和服を着こなし，踊ることとともに和の身のこなしを身に着けることを期待します。

〔教材〕

授業時に紹介します。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で練習できるように音楽をお渡しできます。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（50%），技能の習得・理解度の確認（25%），レポート（25%）によって総合的に評価します。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール可能　morita●musubinokai.org（change ● to @）

〔備考〕

基本的に各自で浴衣，帯，足袋，腰ひもを用意してください。（ただし足袋以外の貸し出しは可能です）

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス・授業の目的と進め方
第２週　浴衣の着方，基本的な立居振舞を通した日本の身体文化や身体運動文化の基礎的理解
第３週　日本舞踊「菊づくし」
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　「菊づくし」まとめ・理解度の確認
第８週　「日本舞踊」と「地歌舞」概論
第９週　地歌舞「黒髪」
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　「黒髪」まとめ
第15週　総括

スポーツ・健康科学演習IC

3737100100300

副　題	レクリエーションとニュースポーツ							担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	SPO-003-GG

〔授業の到達目標〕

授業で体験した活動の中から，自分の好みやライフスタイルに合ったものを見つけ，楽しさや充実感とともに運動不足を解消し，こころとからだを健康にするすぐれた余暇活動を生涯続けられる習慣を身につけます。

〔授業の内容〕

現代社会においては，余暇（レジャー）をいかに充実させるかが，生活を豊かにするための重要なポイントとなります。「レクリエーション」とは，余暇を利用して楽しみや気晴らしを目的に自発的に行われる活動のことです。この授業では，様々なレクリエーションを体験します。グループで協力しながら課題を解決するようなゲーム，伝承遊びや世界の遊び，年齢・技能・体力を問わず気軽に参加できるように開発された「ニュースポーツ」を取り入れ，屋外での活動も，季節に応じて実施します。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（50%），技能の習得・理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス「レジャー・レクリエーションとは」「ニュースポーツとは」，授業の目的と進め方
第２週　体力診断テスト・アイスブレーキング
第３週　長縄跳び（１）いろいろなバリエーションを楽しむ・仲間と一緒に跳ぶ
第４週　長縄跳び（２）ダブルダッチに挑戦する
第５週　ユニバーサル・ホッケー
第６週　ネイチャーゲーム・フィールドゲーム（屋外）
第７週　ダンスを楽しむ（１）フラダンス
第８週　ダンスを楽しむ（２）パーティーダンス・フォークダンス
第９週　KUBB（スウェーデン発祥のゲーム）
第10週　伝承遊び（ゴム段跳びなど）
第11週　ウォークラリー
第12週　ボールジャグリング（１）
第13週　ボールジャグリング（２）
第14週　その他のニュースポーツ（インディアカなど）
第15週　まとめ「現代社会とレジャー・レクリエーション」
受講者数により実習種目に変更があります。
天候などにより，スケジュールが変更になることがあります。

スポーツ・健康科学演習ID

3737100100400

副　題	武術と舞踊（インドのカラリパヤット）	担　当　者	高橋　京子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	SPO-004-GG

〔授業の到達目標〕

１．カラリパヤットにおいて健康上欠かせない柔軟性を高め，しなやかな身体をつくることができる。ただし各自が無理のない範囲内で行うことが前提であるので，各自の習熟度にあわせて行う。

２．自らの身体の声を聴きながら，武術と舞踊の要素をもったカラリパヤットを行うことができる。

３．「学習院女子大流カラリパヤット」として，音楽にあわせグループごとに楽しみながら心と体を健康にすることができる。

４．積極的に仲間と協力して，授業の成果をパフォーマンスとして発表することができる。

〔授業の内容〕

本授業ではインドの武術（マーシャルアーツ）であるカラリパヤットを中心に行う。

カラリパヤットとは，南インド・ケーララ州に伝承される武術である。カラリパヤットは戦士の身体訓練として発達したトレーニングで，一説には空手の源流ともいわれている。欧米のダンサー，俳優，格闘家の中にはこれをトレーニングの一環に取り入れる者もいる。したがって健康な身体づくりを目指す学生はもちろんのこと，舞踊やスポーツの実践者など多くの人々に適した対象である。加えてカラリパヤットは単なるトレーニングにとどまらない。インドの伝統医学や信仰などの要素も含んでいる。そのため体験を通して異文化についても学ぶことができる。カラリパヤットは以上のような要素をもちつつ，心と身体を健康にしていくエクササイズである。

なお本授業は，運動経験がなく体力に自信のない方から体力に自信のある方まで多くの方に適した内容とする。

〔教材〕

参考書：遠藤保子・細川江利子・高野牧子・打越みゆき『舞踊学の現在』文理閣，２０１１年
Phillip B. Zarrilli., *When the Body Becomes All Eyes*, Fourth Edition, Oxford University Press, ２００３

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

本授業は積み上げ式（毎週新しいことを学び積み上げていく）の実技科目である。そのため各自，前回学んだ身体技法を復習し習得したうえで，毎週の授業に出席する。

柔軟性を高めるために，各自日ごろからストレッチをおこなう。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度（50%），グループにおける貢献度･パフォーマンスの完成度（30%），レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日３時限目

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けるが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義，解説（授業の目的，進め方，服装，成績評価等），アンケート，自己紹介，体ほぐし運動
第２週　ウォームアップ，クールダウン，ストレッチ
（１）祈りの作法，休息のポーズ，基本姿勢
第３週　（２）脚のエクササイズ１
第４週　（２）脚のエクササイズ１，２
第５週　（２）脚のエクササイズ２
第６週　（２）脚のエクササイズ２，３
第７週　（２）脚のエクササイズ３
第８週　（３）基本動作プータラトラル，グループ分け
第９週　（３）基本動作プータラトラル，グループワーク
第10週　〃
第11週　〃
第12週　（４）グループワーク，部分練習
第13週　（４）グループワーク，リハーサル
第14週　授業内パフォーマンス（出席必須），ビデオ撮影
第15週　鑑賞会，レポート，アンケート

スポーツ・健康科学演習IE

3737100100500

副　題	スポーツ技術とゲーム（テニス）							担　当　者	吉成　啓子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	SPO-005-GG

〔授業の到達目標〕
テニスの実践を通して，文化としてのスポーツについての理解を深め，同時に，判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕
どのようなスポーツでもその技術を習得することが，楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，テニスの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして，ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善を目指します。また生涯スポーツの観点から体育･スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。
前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり，ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕
必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調の良い状態で参加してください。また，毎回習得した技術を復習すること

〔成績評価の方法〕
授業への参加意欲・貢献度(50%)，技能習得・理解度の確認(30%)，レポート(20%)など総合的に評価します。（上記の目安は進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕
天候によりスケジュールが変更になる可能性があります。
雨天でも体育館を使用してショートテニスなどを行いますので，必ず運動できる服装および体育館シューズを持参してください。
※スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方。グループ編成など。
第２週　体力トレーニング／ラケッティング，グラウンド・ストローク
第３週　体力トレーニング／グラウンド・ストロークの応用（トップスピン・アンダースピン），ボレー
第４週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第５週　体力トレーニング／サービスの基礎（フラットサーブ）＆サービスレシーブ／ミニゲーム
第６週　体力トレーンング／サービスの応用（スライス・スピン）＆サービスレシーブ／シングルスゲームの理解と実践
第７週　体力トレーニング／スマッシュ，ロビングの基礎
第８週　体力トレーニング／実技テスト（基礎技術）／ルールとマナーの理解
第９週　体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（雁行陣でのポジショニング）
第10週　体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（平行陣でのポジショニング）
第11週　体力トレーニング／ダブルスゲームの理解と実践
　　体力テストの結果報告と自己体力評価
第12週　体力トレーニング／タイブレイクシステムの理解と実践
第13週　体力トレーニング／班対抗戦（１）
第14週　体力トレーニング／班対抗戦（２）
第15週　体力トレーニング／班対抗戦（３）

スポーツ・健康科学演習ⅡA

3737100200100

副　題	東洋の養生法（太極拳と呼吸法）	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SPO-006-GG

〔授業の到達目標〕

東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに，主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し，現代社会における自分の健康観や身体観を再検討し，生活文化としてあるいは健康文化としてスポーツを生活の中に組み入れることができる能力を養う。

〔授業の内容〕

エアロビクスのような「数値」で自分の運動強度を推測できる運動は，いわば科学的で近代的な健康法である。これに対して，中国では，人間の身体の部分的な数値を尺度とするのではなく，長い間の「経験」に基づいて，部分と全体，心と体などを総合的に捉えて健康を考えてきた。この考え方は，一見混沌として捉えようがないように見えるが，情報化・人工化された現代社会の中で，人間を総合的かつ全体的にながめながら「自然な身体」を模索する一つの方法とも言える。

この時間では，東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに，主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し，現代社会における自分の健康観や身体観を再検討していく。太極拳はゆっくりとした動きと呼吸法が特徴的であり，しなやかな動きを身に付けることによって平衡感覚や柔軟性を培うことができる。また,呼吸法はリラクゼーションとしても有効である。身体の「自然な」動きとはどのようなものなのかということをを探りながら，緩やかな「からだほぐし」や「からだづくり」を目指す。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で，毎回の授業に出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲・貢献度（50%），動き発表と理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目

サポートセンターにて問い合わせる。

〔備考〕

特別授業を開催する場合がある。

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けるが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（授業の目的，内容，進め方等）
第２週　「東洋の養生思想」について
第３週　姿勢と呼吸法（「立身中正」，正中線，鼻息，スワイショウ等を学ぶ）
第４週　「練功十八法」と呼吸法（「武」と「舞」と「健康」）
第５週　10式太極拳と呼吸法（１）第１組（１．～３．）「含胸抜背」を学ぶ
第６週　10式太極拳と呼吸法（２）第１組～第２組（１．～６．）「沈肩垂肘」を学ぶ
第７週　10式太極拳と呼吸法（３）第１組～第３組（１．～８．）「上虚下実」を学ぶ
第８週　0式太極拳と呼吸法（４）第１組～第４組（１．～11.23.24.）
第９週　まとめ（１）:「武」と「舞」と「健康」
第10週　10式太極拳の発表と理解度の確認
第11週　簡化太極拳二十四式と呼吸法（１）第１組～第６組
第12週　簡化太極拳二十四式＋呼吸法（２）第１組～第８組
第13週　グループワーク（太極拳と音楽とリラクゼーション）
第14週　グループによる表演と理解度の確認
第15週　まとめ（２）:「健康文化としての東洋の養生論」

スポーツ・健康科学演習ⅡB

3737100200200

副　題	スポーツ技術とゲーム（バドミントン）	担　当　者	吉成　啓子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-007-GG

〔授業の到達目標〕

バドミントンの実践を通して，文化としてのスポーツを学び，同時に判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでもその技術を習得することが，楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，バドミントンの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして，ひとり一人のより一層の身体運動能力の改善を目指します。また,生涯スポーツの観点から体育･スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり，ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕

必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調の良い状態で参加してください。また，毎回習得した技術を復習すること

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度(50%)，技能習得・理解度の確認(30%)，レポート(20%)など総合的に評価します。（上記の目安は進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方，グループ編成
第２週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第３週　体力トレーニング
　　基礎技術の習得（１）:ハイクリアー,ロングハイサービス／ハーフシングルスゲーム（１）
第４週　体力トレーニング
　　基礎技術の習得（２）：ドリブンクリアー，ドライブ／ハーフシングルス（２）
第５週　体力トレーニング
　　基礎技術の習得（３）：スマッシュ＆ドロップ＆カット／ルールとマナー／シングルスゲーム（１）
第６週　体力トレーニング
　　基礎技術の習得（４）：ヘアピン／ショートサービス／シングルスゲーム（２）
第７週　体力テストの結果報告と自己体力評価
　　体力トレーニング／スキルテスト（基礎技術）
第８週　体力トレーニング
　　応用技術の習得（１）：サイド・バイサイドにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム説明
第９週　体力トレーニング
　　応用技術の習得（２）:トップ＆バックにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム（班内）
第10週　班対抗戦（１）
第11週　班対抗戦（２）
第12週　班対抗戦（３）
第13週　班対抗戦（４）
第14週　班対抗戦（５）
第15週　まとめ

授業の前半は,バドミントンに必要な体力トレーニングおよび個人･チーム技能練習。後半はゲームなどを行います。
授業計画は変更する場合があります。

スポーツ・健康科学演習IIC

3737100200300

副　題	からだとこころをほぐすワーク	担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	SPO-008-GG

〔授業の到達目標〕

現代社会では，「運動不足」や「ストレス」は深刻な問題であり，「肥満」や「姿勢の悪さ」は特に女性にとって大きな悩みのひとつになっています。この授業では，こうした問題を少しでも解消するきっかけとなるようなワークを体験し，最終的にはそれぞれのライフスタイルに合うものを生活のなかに取り入れていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

「からだ」と「こころ」は深く関係しており,「からだ」がほぐれると「こころ」も軽くなり,「こころ」がはずむと「からだ」ものびのびとします。背中を曲げてうつむいた姿勢では生き生きとした気持ちにはなりません。こうした「こころ」と「からだ」の関係を実感しながら,時には筋肉を動かし心拍数をあげて運動し,また時にはゆったりと自然のリズムに身をゆだね,「からだ」と「こころ」をほぐしていきましょう。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（50%），技能の習得・理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス・授業の目的と進め方・概論「健康とは」
第２週　＜こころ＞アイスブレーキングゲーム・コミュニケーションゲーム
第３週　＜からだ＞ストレッチと呼吸法
第４週　＜からだ＞有酸素運動「エアロビクスダンス」
第５週　＜こころ＞身近な自然を感じるアクティビティ「ネイチャーゲーム」
第６週　＜からだ＞有酸素運動「ウォーキング」
第７週　＜からだ＞いろいろな縄跳び（１）
第８週　＜からだ＞いろいろな縄跳び（２）
第９週　＜こころ＞ヨガ入門（１）
第10週　＜こころ＞ヨガ入門（２）
第11週　＜からだ＞やさしい筋力トレーニング「チューブ運動」
第12週　＜からだ＞良い姿勢とは「バレエレッスン」
第13週　＜からだ＞良い姿勢とは「社交ダンス入門」
第14週　＜こころ＞マッサージとリラクゼーリョン
第15週　まとめ 「からだとこころを解放する」
天候などにより，アクティビティが変更になることがあります

スポーツ・健康科学演習IID

3737100200400

副　題	フラダンスとハワイの身体文化	担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SPO-009-GG

〔授業の到達目標〕

「フラ」は,単なるダンスではなく,文字を持たなかったハワイの人々が,踊りによってコミュニケーションし，歴史を語り継いだ「文化」です。手の細かい動きひとつひとつがすべて意味を持っています。

また，一見優雅に見えるフラですが，全身の筋肉を使って裸足で踊るため，運動量は意外に多く，ダイエットや健康維持のために続ける愛好者も増えています。やさしいハワイの調べに合わせ，ハワイの美しい植物や楽器の柄のスカートを身につけるだけでも，ストレスから解放されるでしょう。

この授業では，ハワイの文化を身体（からだ）で味わい，筋肉を動かし，こころとからだの健康維持につなげていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

フラダンスの練習用のスカート「パウ」を着用し,「愛情」や「自然の美しさ」を歌ったフラの音楽に合わせて踊っていきます。また，資料や画像を見ながらハワイの歴史や文化を学びます。

〔教材〕

必要に応じて，授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（50%），技能の習得・理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。

（上記の目安は，進度や課題内容により，多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践の中で解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（授業の目的と進め方）概論「フラダンスとは」
第２週　アイスブレーキング　からだほぐし
第３週　フラダンス入門　実際にフラダンスを体験してみる（１）
第４週　フラダンス入門　実際にフラダンスを体験してみる（２）
第５週　ハワイの文化（１）「ハワイの歴史」
第６週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（１）
第７週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（２）
第８週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（３）
第９週　ハワイの文化（２）「ハワイの生活とフラ」
第10週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（１）
第11週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（２）
第12週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（３）
第13週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（４）
第14週　発表会　小グループで作品発表する
第15週　まとめ

上記の計画は，天候や進度に応じて変更する場合があります。

スポーツ・健康科学演習ⅡE

3737100200500

副　題	生涯スポーツとしてのバレーボール							担　当　者	吉成　啓子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	SPO-010-GG

〔授業の到達目標〕

バレーボールの実践を通して，文化としてのスポーツについての理解を深め，同時に，判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでも，その技術を修得することが楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が，生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，バレーボールの技能をその理論的背景とともに習得します。集団種目の特性である個人が集団に対してどのように働きかけるかを理解し，実践します。また生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

〔教材〕

必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調の良い状態で参加してください。また，毎回習得した技術を復習すること

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度(50%)，技能習得・理解度の確認(30%)，レポート(20%)など総合的に評価します。（上記の目安は進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方
第２週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第３週　グループ編成（１）
：基礎技術の習得（いろいろなパス練習：対人パス・円陣パスなど）／第１回リーグ戦（１）
第４週　基礎技術の習得（いろいろなパス練習:ランニングパス･３人組トス練習）／第１回リーグ戦（２）
第５週　基礎技術の習得（各種サーブ・アタック練習）／第１回リーグ戦（３）
第６週　基礎技術を使った応用練習（アタックレシーブ練習）／第２回リーグ戦（１）
第７週　基礎技術を使った応用練習（２段トス練習）／第２回リーグ戦（２）
第８週　基礎技術を使った応用練習（サービスレシーブ練習）／第２回リーグ戦（３）
第９週　グループ編成（２）
：コンビネーションプレーの習得（３人レシーブ・サービスレシーブ）／第３回リーグ戦（１）
第10週　コンビネーションプレーの習得（シートレシーブ・コンビサービスレシーブ）／第３回リーグ戦（２）
体力テストの結果報告と自己体力評価
第11週　コンビネーションプレーの習得（４vs４ミニゲーム）／第３回リーグ戦（３）
第12週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（１）
第13週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（２）
第14週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（３）
第15週　ゲームを楽しもう！（誕生日月選手権など）
授業の前半は,バレーボールに必要な体力トレーニングおよび個人･チーム技能練習。後半はゲームを行います。
授業計画は変更する場合があります。

伝統文化演習ＩＡ（書道）

3752100100100

副　題								担　当　者	香川　明美　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-001-GH

〔授業の到達目標〕

古来，文字を持たなかった日本人は，平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか，その過程を学ぶ。

実習では，仮名を基礎から学び，短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕

日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。

仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。

実習では，平仮名，変体仮名の単体，連綿を学び，短歌を書く。

〔教材〕

教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社

実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱うテキストの箇所を指示するので，次回までに目を通し，内容を把握しておくこと。

実習の課題を家でも練習し，清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

課題の提出作品の評価で60%　講義内容の筆記テストで40%

但し，出席，受講，実習態度を重視。欠席，遅刻の回数によって減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前後30分間教室でのみ受け付ける。

それ以外の時間は，サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実習を円滑に行なう為に受講者は30名とする。

実習用具は各自で用意し，第１週より持参すること。

用具は，かな用半紙，小筆，石製の硯，固形の墨（墨汁不可），下敷き，ぶんちん

２回目の受講者は，実習に関しては基礎からさらに進み，色紙，短冊等の作品を作成する。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎１
第２週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷１　実習；かなの基礎２
第３週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷２　実習；かなの基礎３
第４週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷３　実習；かなの基礎４
第５週　講義；平安期の書１　実習；変体かなの基礎１
第６週　講義；平安期の書２　実習；変体かなの基礎２
第７週　講義；平安期の書３　実習；変体かなの基礎３
第８週　講義；かな文字の興隆と発達　実習；変体かなの基礎４
第９週　講義；古筆とは　実習；連綿の学習１
第10週　講義；古筆の名品鑑賞１　実習；連綿の学習２
第11週　講義；古筆の名品鑑賞２　実習；短歌を書く１
第12週　講義；古筆の名品鑑賞３　実習；短歌を書く２
第13週　講義；古筆の名品鑑賞４　実習；短歌を書く３
第14週　講義；平安以降の書　実習；短歌を書く４
第15週　講義；理解度の確認　実習；実用書

伝統文化演習IB（書道）

3752100100200

副　題										担　当　者	齊藤　登　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-002-GH

〔授業の到達目標〕

楷書のもつ構築美を古典を通して理解してもらう。

〔授業の内容〕

大陸（中国）より渡来した文字は永い年月を履み，我大和民族の英知により定着し，音・意共に日本的に生まれ変った。春学期は，我国に影響を与えた中国＝南北朝時代，特に北魏時代の作品により，隋を経て唐代の名品に触れ，如何にして我国に入り日本的書に変貌を遂げたかを実書を通して学んでいく。

〔教材〕

教科書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』光村図書出版（株），2013年
参考書：柳碧蘇『書の古典ハンドブック』株式会社　可成屋，2004年
古来より名品と呼ばれている作品を網羅しております。従って授業では必要になります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

手仕事故，自宅での練習を心がけて欲しい。

〔成績評価の方法〕

毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

TELのみ　049-252-1714

〔備考〕

実習を円滑に行うため，受講者は50名とする。
実習用具は各自で用意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　半年の授業内容説明，用具用材の解説。
第２週　唐・九成宮醴泉銘を用いて，点・画・線の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第３週　唐･九成宮醴泉銘を用いて，構成，特に横細，縦太の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第４週　唐・孔子廟堂碑－楷書の優雅さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第５週　唐･孟法師碑－楷書の厳格さと正確さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第６週　唐・雁塔聖教序－楷書に行書の流れを加味する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第７週　唐･九成，孔子，孟法，雁塔の中より各自自由選別研究。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第８週　二回連続とする。
第９週　北魏の雄渾な書に接する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第10週　北魏の代表作の一つ高貞碑を用いて点，画を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第11週　北魏の代表作の一つ張猛龍碑を用いて，鋭い筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第12週　北魏の代表作の一つ鄭羲下碑を用いて，豊かさを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第13週　北魏の代表作の一つ龍門各種を用いて，楷書のバリエーションを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第14週　夏期休暇中の半折作品の書き方説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第15週　総括。
実技故え，出席の上作品の提出を求めます。よってそれに評価をつけます。

伝統文化演習ⅡA（書道）

3752100200100

副　題								担　当　者	香川　明美　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-003-GH

〔授業の到達目標〕

古来，文字を持たなかった日本人は，平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか，その過程を学ぶ。

実習では，仮名を基礎から学び，短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕

日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。

仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。

実習では，平仮名，変体仮名の単体，連綿を学び，短歌を書く。

〔教材〕

教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社

実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱うテキストの箇所を指示するので，次回までに目を通し，内容を把握しておくこと。

実習の課題を家でも練習し，清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

課題の提出作品の評価で60%　講義内容の筆記テストで40%

但し，出席，受講，実習態度を重視。欠席，遅刻の回数によって減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前後30分間教室でのみ受け付ける。

それ以外の時間は，サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実習を円滑に行なう為に受講者は30名とする。

実習用具は各自で用意し，第１週より持参すること。

用具は，かな用半紙，小筆，石製の硯，固形の墨（墨汁不可），下敷き，ぶんちん

２回目の受講者は，実習に関しては基礎からさらに進み，色紙，短冊等の作品を作成する。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎１
第２週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷１　実習；かなの基礎２
第３週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷２　実習；かなの基礎３
第４週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷３　実習；かなの基礎４
第５週　講義；平安期の書１　実習；変体かなの基礎１
第６週　講義；平安期の書２　実習；変体かなの基礎２
第７週　講義；平安期の書３　実習；変体かなの基礎３
第８週　講義；かな文字の興隆と発達　実習；変体かなの基礎４
第９週　講義；古筆とは　実習；連綿の学習１
第10週　講義；古筆の名品鑑賞１　実習；連綿の学習２
第11週　講義；古筆の名品鑑賞２　実習；短歌を書く１
第12週　講義；古筆の名品鑑賞３　実習；短歌を書く２
第13週　講義；古筆の名品鑑賞４　実習；短歌を書く３
第14週　講義；平安以降の書　実習；短歌を書く４
第15週　講義；理解度の確認　実習；実用書

伝統文化演習ⅡB（書道）

3752100200200

副　題										担　当　者	齊藤　登　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-004-GH

〔授業の到達目標〕

行書の流麗美を理解し，その後和様・仮名美へとの流れを学ぶ

〔授業の内容〕

大和朝廷成立以後より奈良朝を経て，平安初期にかけて多大な影響を与えた東晋・王羲之の書，日本の漢字黄金期の代表的作品を中心に学ぶ。更には平安中期以後の我国独特の文化が熟成され，豪華絢爛たる「仮名美」を生むに至ったこれら文化の歴史を追い乍ら，実書をもって修得していきたい。

〔教材〕

教科書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』光村図書出版（株），2013年
参考書：柳碧蘇『書の古典ハンドブック』株式会社　可成屋，2004年
古来より名品と謳われている作品を網羅しております。従って授業では必要となります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

手仕事故，自宅での練習を心がけること。

〔成績評価の方法〕

毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

TELのみ　049-252-1714

〔備考〕

実習を円滑に行うため，受講者は50名とする。
実習用具は各自で用意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　行書の成立，繁栄，名品（和・漢）の説明。
第２週　東晋・王羲之作，蘭亭叙を用いて行書の入門とする。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第３週　東晋･王羲之作，集字聖教序を用いて行書の展開を図る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第４週　東晋・王羲之作，蘭亭叙，集字聖教序の自由研究。各自選ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第５週　東晋・王羲之作，喪乱帖を用いて，行書より草書にかけての筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第６週　難度故之２週間同じことを行う。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第７週　平安期･空海書の風信帖を学び乍ら，中国との違いを探る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第８週　平安期・嵯峨天皇書と伝えられる李嶠詩を用いて鋭い筆使いを学ぶ。（（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第９週　唐太宗，温泉銘を用い大胆な筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第10週　同上。
第11週　顔真卿の書風を学ぶ。空海との関連を説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第12週　同上。
第13週　平安初期，三筆の違い，共通点を各自学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第14週　伝・藤原行成筆，白楽天詩巻を用い和様体を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第15週　総括。
実技故え出席の上作品提出を求めます。よってそれにて評価をつけます。

伝統文化演習ⅢA（華道）

3752100300100

副　題								担　当　者	池坊　専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-005-GH

〔授業の到達目標〕
花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕
華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕
教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度・及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　28年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第３週　講義　間合いの美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第４週　講義　贈る花　実技
第５週　講義　華道史　和の美意識
第６週　講義　草木の生成　実技＜生花＞
第７週　花展見学
第８週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第９週　講義　華道の根本理念
第10週　講義　花と季　実技＜自由花＞
第11週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第12週　講義　行事といけばな　七夕　実技＜自由花＞
第13週　講義　日々花としつらい　実技＜自由花＞
第14週　実技　試作（春学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技

伝統文化演習ⅢB（華道）

3752100300200

副　題		担　当　者	池坊　専好　客員教授 山本　珠江　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-006-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　28年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第３週　講義　間合いの美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第４週　講義　贈る花　実技
第５週　講義　華道史　和の美意識
第６週　講義　草木の生成　実技＜生花＞
第７週　花展見学
第８週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第９週　講義　華道の根本理念
第10週　講義　花と季　実技＜自由花＞
第11週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第12週　講義　行事といけばな　七夕　実技＜自由花＞
第13週　講義　日々花としつらい　実技＜自由花＞
第14週　実技　試作（春学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技

伝統文化演習IVA（華道）

3752100400100

副　題								担　当　者	池坊　専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-007-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

授業の内容

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』

授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　28年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　講義　日本風土と華道　実技＜自由花＞
第３週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第４週　講義　四季と花　実技＜自由花＞
第５週　講義　華道史　和の美意識
第６週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第７週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第８週　講義　技と匠　実技＜生花＞
第９週　講義　華道の根本理念
第10週　講義　余白の美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第11週　講義　祭事と花　Xmas carol　実技＜自由花＞
第12週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技
第13週　講義　行事と花　お正月のしつらい　実技
第14週　実技　試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　生活文化と華道

伝統文化演習ⅣB（華道）

3752100400200

副　題										担　当　者	池坊　専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-008-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

授業の内容

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　28年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　講義　日本風土と華道　実技＜自由花＞
第３週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第４週　講義　四季と花　実技＜自由花＞
第５週　講義　華道史　和の美意識
第６週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第７週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第８週　講義　技と匠　実技＜生花＞
第９週　講義　華道の根本理念
第10週　講義　余白の美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第11週　講義　祭事と花　Xmas carol　実技＜自由花＞
第12週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技
第13週　講義　行事と花　お正月のしつらい　実技
第14週　実技　試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　生活文化と華道

伝統文化演習ＶＡ（茶道）

3752100500100

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-009-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らをふりかえり，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心,季節の変化を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ，レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学び，レポートにまとめる。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・％)　リアクションペーパー(30点・％)　授業態度・意欲(20点・％)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4000円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，髪の長い方はゴムでまとめて下さい。時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞「茶の湯　茶事編」
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史　茶の伝来と発展，世界の茶
第８週　【講義】道具，銘，茶花について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，茶人の逸話
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VB（茶道）

3752100500200

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	TRD-010-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らをふりかえり，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心,季節の変化を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ，レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学び，レポートにまとめる。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4000円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，髪の長い方はゴムでまとめて下さい。時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞「茶の湯　茶事編」
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史　茶の伝来と発展，世界の茶
第８週　【講義】道具，銘，茶花について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，茶人の逸話
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VC（茶道）

3752100500300

副　題	おもてなしの基本としての茶道							担　当　者	鈴木　宗華　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-011-GH

〔授業の到達目標〕

日本の伝統文化の茶道の所作・型の基本を体験し，その意味を考える事を目的とします。客としての心くばり，亭主としてのもてなす心を立場を変えて理解し，日常生活に発展，応用していける事を目指します。

〔授業の内容〕

抹茶と和菓子の頂き方，和室での所作，基本的な茶道の点前等を中心に，季節のしつらえ，和食（懐石）の心得，歴史等も含めての授業になります。実技中心ですが，講義も交えて進めます。

〔教材〕

参考書：岡倉天心『茶の本』岩波文庫
而妙斉家元『「表千家茶の湯入門」上・下』主婦の友社
『茶の湯全書「表千家」－茶事と点前－』小学館

授業では使用しませんが，予習・復習の参考として下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習はありませんが，日常生活に取り入れられる事は，ぜひ実施して下さい。

〔成績評価の方法〕

出席状況・態度（60%），レポート（30%），その他（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後，昼休みに受け付ける。
それ以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技中心の為，受講者25名以下とします。
受講者は白靴下着用，アクセサリーは身につけない様。
茶道未経験者は，帛紗・懐紙・扇子の購入をお願いします。（5,500円程）

〔授　業　計　画〕

第１週　ようこそ茶道へ　抹茶・菓子の頂き方
第２週　床の間　和室での所作
第３週　歴史のこと　いろいろな和菓子
第４週　初風炉　薄茶の割稽古①
第５週　夏のしつらえ　薄茶の割稽古②
第６週　着物のこと　薄茶の割稽古③
第７週　茶会と茶事　水屋の準備
第８週　懐石料理－和食の話し－　薄茶の点前①
第９週　茶道具のこと　拝見
第10週　十職とは？　薄茶の点前②
第11週　献茶　薄茶の点前③
第12週　もてなすとは？
第13週　濃茶　濃茶の頂き方①
第14週　茶室と畳　濃茶の頂き方②
第15週　国際化の中での茶道を考える。（ディスカッション）
授業計画は，あくまで予定であり，実技の進み方により変更する場合があります。
春学期は風炉のお点前となります。

伝統文化演習VD（茶道）

3752100500400

副　題	おもてなしの基本としての茶道							担　当　者	鈴木　宗華　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	TRD-012-GH

〔授業の到達目標〕

日本の伝統文化の茶道の所作・型の基本を体験し，その意味を考える事を目的とします。客としての心くばり，亭主としてのもてなす心を立場を変えて理解し，日常生活に発展，応用していける事を目指します。

〔授業の内容〕

抹茶と和菓子の頂き方，和室での所作，基本的な茶道の点前等を中心に，季節のしつらえ，和食（懐石）の心得，歴史等も含めての授業になります。実技中心ですが，講義も交えて進めます。

〔教材〕

参考書：岡倉天心『茶の本』岩波文庫
而妙斉家元『「表千家茶の湯入門」上・下』主婦の友社
『茶の湯全書「表千家」－茶事と点前－』小学館
授業では使用しませんが，予習・復習の参考として下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習はありませんが，日常生活に取り入れられる事は，ぜひ実施して下さい。

〔成績評価の方法〕

出席状況・態度（60%），レポート（30%），その他（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後，昼休みに受け付ける。
それ以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技中心の為，受講者25名以下とします。
受講者は白靴下着用，アクセサリーは身につけない様。
茶道未経験者は，帛紗・懐紙・扇子の購入をお願いします。（5,500円程）

〔授　業　計　画〕

第１週　ようこそ茶道へ　抹茶・菓子の頂き方
第２週　床の間　和室での所作
第３週　歴史のこと　いろいろな和菓子
第４週　初風炉　薄茶の割稽古①
第５週　夏のしつらえ　薄茶の割稽古②
第６週　着物のこと　薄茶の割稽古③
第７週　茶会と茶事　水屋の準備
第８週　懐石料理－和食の話し－　薄茶の点前①
第９週　茶道具のこと　拝見
第10週　十職とは？　薄茶の点前②
第11週　献茶　薄茶の点前③
第12週　もてなすとは？
第13週　濃茶　濃茶の頂き方①
第14週　茶室と畳　濃茶の頂き方②
第15週　国際化の中での茶道を考える。（ディスカッション）
授業計画は，あくまで予定であり，実技の進み方により変更する場合があります。
春学期は風炉のお点前となります。

伝統文化演習VIA（茶道）

3752100600100

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-013-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心，季節の変化を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ，レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学びレポートにまとめる。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4000円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，髪の長い方はゴムでまとめて下さい。時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史
第８週　【講義】茶室，露地について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，利休百首
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VIB（茶道）

3752100600200

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	TRD-014-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心，季節の変化を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ，レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学びレポートにまとめる。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・％)　リアクションペーパー(30点・％)　授業態度・意欲(20点・％)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4000円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，髪の長い方はゴムでまとめて下さい。時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史
第８週　【講義】茶室，露地について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，利休百首
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VIC（茶道）

3752100600300

副　題	おもてなしの基本としての茶道							担　当　者	鈴木　宗華　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-015-GH

〔授業の到達目標〕

日本の伝統文化の茶道の所作・型の基本を体験し，その意味を考える事を目的とします。客としての心くばり，亭主としてのもてなす心を立場を変えて理解し，日常生活に発展，応用していける事を目指します。

〔授業の内容〕

抹茶と和菓子の頂き方，和室での所作，基本的な茶道の点前等を中心に，季節のしつらえ，和食（懐石）の心得，歴史等も含めての授業になります。実技中心ですが，講義も交えて進めます。

〔教材〕

参考書：岡倉天心『茶の本』岩波文庫
而妙斉家元『「表千家茶の湯入門」上・下』主婦の友社
『茶の湯全書「表千家」－茶事と点前－』小学館

授業では使用しませんが，予習・復習の参考として下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習はありませんが，日常生活に取り入れられる事は，ぜひ実施して下さい。

〔成績評価の方法〕

出席状況・態度（60%），レポート（30%），その他（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後，昼休みに受け付ける。
それ以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技中心の為，受講者25名以下とします。
受講者は白靴下着用，アクセサリーは身につけない様。
茶道未経験者は，帛紗・懐紙・扇子の購入をお願いします。（5,500円程）

〔授　業　計　画〕

第１週　ようこそ茶道へ　抹茶・菓子の頂き方
第２週　床の間　和室での所作
第３週　歴史のこと　いろいろな和菓子
第４週　着物のこと　薄茶の割稽古①
第５週　冬に向けて　薄茶の割稽古②
第６週　炉開き　薄茶の割稽古③
第７週　茶会と茶事　水屋の準備
第８週　懐石料理－和食の話し－　薄茶の点前①
第９週　茶道具のこと　拝見
第10週　十職とは？　薄茶の点前②
第11週　献茶　薄茶の点前③
第12週　もてなすとは？
第13週　濃茶　濃茶の頂き方①
第14週　茶室と畳　濃茶の頂き方②
第15週　国際化の中での茶道を考える。（ディスカッション）

授業計画は，あくまで予定であり，実技の進み方により変更する場合があります。
秋学期は炉のお点前となります。

伝統文化演習VID（茶道）

3752100600400

副　題	おもてなしの基本としての茶道	担　当　者	鈴木　宗華　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	TRD-016-GH

〔授業の到達目標〕

日本の伝統文化の茶道の所作・型の基本を体験し，その意味を考える事を目的とします。客としての心くばり，亭主としてのもてなす心を立場を変えて理解し，日常生活に発展，応用していける事を目指します。

〔授業の内容〕

抹茶と和菓子の頂き方，和室での所作，基本的な茶道の点前等を中心に，季節のしつらえ，和食（懐石）の心得，歴史等も含めての授業になります。実技中心ですが，講義も交えて進めます。

〔教材〕

参考書：岡倉天心『茶の本』岩波文庫
而妙斉家元『「表千家茶の湯入門」上・下』主婦の友社
『茶の湯全書「表千家」－茶事と点前－』小学館

授業では使用しませんが，予習・復習の参考として下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習はありませんが，日常生活に取り入れられる事は，ぜひ実施して下さい。

〔成績評価の方法〕

出席状況・態度（60%），レポート（30%），その他（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後，昼休みに受け付ける。
それ以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技中心の為，受講者25名以下とします。
受講者は白靴下着用，アクセサリーは身につけない様。
茶道未経験者は，帛紗・懐紙・扇子の購入をお願いします。（5,500円程）

〔授　業　計　画〕

第１週　ようこそ茶道へ　抹茶・菓子の頂き方
第２週　床の間　和室での所作
第３週　歴史のこと　いろいろな和菓子
第４週　着物のこと　薄茶の割稽古①
第５週　冬に向けて　薄茶の割稽古②
第６週　炉開き　薄茶の割稽古③
第７週　茶会と茶事　水屋の準備
第８週　懐石料理－和食の話し－　薄茶の点前①
第９週　茶道具のこと　拝見
第10週　十職とは？　薄茶の点前②
第11週　献茶　薄茶の点前③
第12週　もてなすとは？
第13週　濃茶　濃茶の頂き方①
第14週　茶室と畳　濃茶の頂き方②
第15週　国際化の中での茶道を考える。（ディスカッション）

授業計画は，あくまで予定であり，実技の進み方により変更する場合があります。
秋学期は炉のお点前となります。

伝統文化演習VII A（香道）

3752100700100

副　題	香の伝統と文化							担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-017-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，及び日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香木の香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIB（香道）

3752100700200

副　題	香の伝統と文化							担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-018-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，及び日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香木の香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。

更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VII C（香道）

3752100700300

副　題	香の伝統と文化									担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-019-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，及び日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香木の香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIID（香道）

3752100700400

副　題	香の伝統と文化							担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	TRD-020-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，及び日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香木の香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。

六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。

講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。

更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIII A（香道）

3752100800100

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-021-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。

さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年

授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIIB（香道）

3752100800200

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-022-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。

さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年

授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIIC（香道）

3752100800300

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-023-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。
六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。
さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。
実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIID（香道）

3752100800400

副　題	香の伝統と文化を学ぶ							担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	TRD-024-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。

さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年

授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。(20時間)

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。(40時間)

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度・授業態度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi●vt.catv.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習IXA（有職故実）

3752100900100

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	TRD-025-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

伝統文化演習IXB（有職故実）

3752100900200

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	TRD-026-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

伝統文化演習IXC（有職故実）

3752100900300

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	TRD-027-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

伝統文化演習XA（有職故実）

3752101000100

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	TRD-028-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

伝統文化演習XB（有職故実）

3752101000200

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	TRD-029-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

伝統文化演習XC（有職故実）

3752101000300

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	永井　とも子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	TRD-030-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の実習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を少人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記〔備考〕欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班5名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小掛装束・直衣装束など各種宮廷装束の総括

国際文化交流演習I（国際儀礼）

3738100100100

副　題	現代の国際儀礼（プロトコール）	担　当　者	阿曽村　智子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ICR-001-GI

〔授業の到達目標〕

（１）国際儀礼の成り立ちについて史的考察を行い，その本来の意義を理解する。（２）外交関係において今日でも重要な位置を占める公式儀礼の次第について基本的な知識を身に付ける。（３）国際交流・国際協力やグローバルなビジネス活動においてすぐに役立つ知識を身につけ，適切に実践できるようになる。

〔授業の内容〕

国際儀礼の歴史とその展開，基本原則，外交・国際交流およびビジネスでの実際について，なるべく具体的な例（内外の失敗談を含めて）を取り上げつつ，現代プロトコールを論じる。学期中３回程度，ゲスト講師を招いて現代の国際儀礼や接遇について現場のお話を伺う予定である。ゲストの都合によっては，シラバスにある講義内容の順が一部変更になることもある。

〔教材〕

教科書：阿曽村智子『国際交流のための現代プロトコール』東信堂，2017年
参考書：外務省儀典官室『国際儀礼に関する12章』財団法人世界の動き社，2000年
友田二郎『国際儀礼とエチケット』新装普及版，学生社，2004年
Jean Serres, *Practical Handbook of Protocol(Edition in English)*, Editions de la Bievre, 2010
Pauline Innis, Mary Jane McCaffree & Richard M.Sand, Esquire, *Protocol- The Complete Handbook of Diplomatic, Official and Social Usage*, Durban House Publishing, 1997
個別テーマの文献については講義中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に提示する指定図書にあらかじめ目をとおし，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には，講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。授業中に質問ができるように各回のテーマに関する予備知識を持つよう準備をしてくること。関連図書の読書と併せてわせて各回予・復習に２時間程度。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（50%）および日頃の主体的な出席態度（数回提出のリアクション・ペーパーの内容，全部で50%）を総合して評価を行う。積極的な参加の指標として，リアクションペーパーでは質問の頻度と内容も重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：プロトコールの考え方
第２週　プロトコールの歴史と原則
第３週　プロトコールの基本（１）名称，呼称および敬称
第４週　プロトコールの基本（２）序列と席次　その１：国旗の扱い
第５週　プロトコールの基本（３）序列と席次　その２：席割り
第６週　国公賓の接遇と公式行事
第７週　設宴（食事会，パーティ等）の企画と実際
第８週　外交と食事：献立とテーブルマナー
第９週　公式行事と服装，ドレスコード
第10週　外交の英語と公式文書の形式
第11週　贈り物と社交の手紙
第12週　国際ビジネスとプロトコール
第13週　文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール（１）
第14週　文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール（２）
第15週　総括

国際文化交流演習ⅡA（演劇）

3738100200100

副　題								担　当　者	小田島　則子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ART-002-GI

〔授業の到達目標〕

イギリスの現代劇を日本語に置き換えていく過程で，イギリスの文化的・社会的背景を含めた作者の意図を理解していきます。また，英語と日本語双方の言葉の働きの面白さに触れ，自身の言語能力の向上に繋げていくとともに，洋の東西を問わない社会問題や人間性も追究していきます。

〔授業の内容〕

イギリスの劇作家マイク・バートレットの作品『Love Love Love』（2010年初演，2012年ロンドンのロイヤルコートで上演）を扱います。。テキストを正確に読み解いて上演にふさわしい日本語台本を作ることを最終目的としますが，それには以下の項目に重点を置いて授業を進めたいと思います。

1．英文の意味を読み取り作者の意図を理解する。
2．文化的背景や社会的背景を読み取る。
3．キャラクターを設定する。
4．設定したキャラクターに合う言葉遣いを模索する。
5．朗読劇の形式で発表しながら,耳で聞いて伝わる日本語になっているかどうか検討する。

なお，授業は受講者の人数によってはグループでの発表形式で行います。

〔教材〕

教科書：Mike Bartlett『Love Love Love』revised版，Methuen Drama，２０１２年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回次の授業で扱う箇所を下読みをして（１時間程度），授業で読んだ箇所を復習して（１時間程度）理解を深めて授業に臨むこと。また，翻訳やレポートの課題には，必要な参考資料に当たってこれを作成すること（２時間程度）。以上の授業準備と課題に毎週４時間程度の学習をしてもらいたい。

〔成績評価の方法〕

全授業の2/3以上出席した学生を成績評価の対象とします。成績は授業での発表と参加の姿勢（20%），レポート（20%），試験（40%）により評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

携帯メールアドレス：norikoo-12.27●ezweb.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　準備学習：これまで見たことのある英米の舞台，または読んだことのある英米の戯曲を振り返っておくこと。
授業内容：ガイダンス。近年日本で上演された海外戯曲の原作を用いて，戯曲を読む練習をする。
第２週　作者マイク･バートレットの説明と,『Love Love Love』の作品の背景となる時代の解説，及び，一幕の解説。
第３週　二幕の出だしを読み，ト書きとセリフから状況を掴む。二幕の四分の一程度を読み，内容を把握する。
第４週　第３週で読んだ箇所を日本語のセリフに置き換えて，発表する。
第５週　二幕の二分の一程度まで読み，内容を把握する。
第６週　第５週で読んだ箇所を日本語のセリフに置き換えて発表し，全員でセリフとして成立しているかどうかを検討する。
第７週　二幕の最後まで読み，内容を把握する。
第８週　二幕の最後の三ページ程度をセリフに置き換えて発表し，全員で検討する。さらに，登場人物のキャラクターについて考え，セリフの言い回しが適当であるかを検討する。
第９週　三幕の出だしを読み，ト書きとセリフから状況を掴む。三幕の四分の一程度を読み，内容を把握する。
第10週　第９週で読んだ箇所を日本語のセリフに置き換えて発表する。
第11週　三幕の半分程度まで読み，内容を把握する。
第12週　第11週で読んだ箇所を日本語のセリフに置き換えて発表する。
第13週　三幕を最後まで読み，内容を把握する。
第14週　三幕で重要だと思われる箇所をそれぞれ日本語のセリフに置き換えて発表し，そこから何が読み取れるか，また，言い回しを変えて翻訳した場合，キャラクターがどう変わるかを検討する。
第15週　授業のまとめ。同作者による別の作品にも触れながら，作品への理解を深める。

国際文化交流演習ⅡB（演劇）

3738100200200

副　題	演劇祭運営実習							担　当　者	内野　儀　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ART-003-GI

〔授業の到達目標〕

舞台芸術におけるアートマネジメントがいかなるものであるかを現場体験によって知る。

〔授業の内容〕

11月に本学で行われる演劇祭（http://pafe-gwc.org/）にインターンとして参加し，実際に演劇祭の制作・運営を手伝い，現場でのさまざまな作業や問題解決の方法を実習する。実習生に責任ある仕事はまかされないので，末端の仕事を手伝うことになるが，それでも芸術に人生を預けた人々との出会い，全員で何かをやり遂げたという達成感など，アートマネジメントという仕事の多様な側面を体験することができる。参加劇団の公演は全て無料で見ることができる。

授業時間は一応火曜５限に設定されているが，授業の性格上これにとらわれることなく，必要に応じてスタッフワークをしてもらうことになる。なお演劇祭は今のところ11月の土曜日曜に予定されている。受講者はこれに参加してもらい，それを授業と振り替える。一回の実習の拘束時間は長い。従って11月の週末に所用の多い人には薦められない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(アートマネジメント，及び演劇祭に関する書籍および映像資料学習)は通算40時間程度。復習(実習経験を踏まえたオペレーションの反省，および提案事項を考える)は通算20時間程度。

〔成績評価の方法〕

活動への参加（出席）の程度（80%）とレポート（20%）による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合，簡単なことはメールでlg3t-ucn●asahi-net.or.jp change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う予定。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　アートマネジメントと演劇祭運営
第３週　劇場機構とその操作（招聘講師）
第４週　カンパニー（劇団）マネジメントのノウハウ（招聘講師）
第５週　演劇祭「Pafe.GWC (Performing Arts Festival.GWC)」制作実習（以下10週分の実習を演劇祭期間中に行う）
第６週　「Pafe」制作実習
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　「Pafe」事後評価

演劇祭の実習で経験できるのはスタッフワークのごく一部であり，全体像を知るためには授業外での学習が重要になる。また前提として演劇や舞踊の知識がある程度必要となる。pafeの公演はなるべく全て観られるようにするが，他にも自分でさまざまな演劇や舞踊公演を見ることが望ましい。

国際文化交流演習III（音楽）

3738100300100

副　題	近現代の大衆音楽							担　当　者	杉原　志啓　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ART-004-GI

〔授業の到達目標〕

日本における近現代の大衆音楽とその文化の特質を学ぶ。また，20世紀において日本の音楽文化のみならず，世界の大衆音楽形式に絶大な影響を与えてきたアメリカの音楽ジャンルの学術的な定義と特質を習得。

〔授業の内容〕

20世紀後半から重要な国際的文化実践のひとつとなっているポピュラー音楽は，近年アカデミックな領域でも研究が盛んである。本講義では，そうした最新研究を織り込みながら，近現代における大衆音楽の流れをカルチュラル・スタディーズの１テーマとして検討していく。本年度のテーマは，Jポップに象徴されるデジタル時代の日本の大衆音楽の現状と歴史的特質とをクロニクルにたどっていく予定である。なお，例年どおり毎回講義内容にかかわる日本および英米の貴重な音源や映像を多数駆使していく。

〔教材〕

参考書：西村幸裕・杉原志啓『イチローと村上春樹は、いつビートルズを聴いたのか』ＰＨＰ研究所，2009年

授業中大衆音楽全般の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

sugi-y●mvb.biglobe.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ソフト・パワーとは何か
第３週　大衆音楽の現状－デジタル化とマルチメディア化
第４週　音楽全体のノンパッケージ化（配信）
第５週　大衆音楽における自己表現の大衆化現象
第６週　20世紀前半の米大衆音楽（１）ハード編　アナログ・レコード，ラジオ，テレビ，MTV等
第７週　20世紀前半の米大衆音楽（２）ソフト編　ブルース，ジャズ，カントリー等
第８週　20世紀後半の米大衆音楽（１）ハード編　CD，iPod，iTunes等
第９週　20世紀後半の米大衆音楽（２）ソフト編　モダン･ジャズ，R&B，ロック，ヒップ･ホップ等
第10週　日本の大衆音楽（１）西洋音楽の導入の歴史
第11週　日本の大衆音楽（２）歌謡曲の誕生とレコード産業
第12週　大衆音楽の変容（１）歌謡曲のアメリカ化
第13週　大衆音楽の変容（２）デジタル時代の音楽著作権
第14週　レコード文化とJポップの衰退
第15週　大衆音楽にみる日本文化の伝統と今後の展望

小テストと期末レポートは，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席のこと。

国際文化交流演習Ⅳ（映画）

3738100400100

副　題								担　当　者	土田　環　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ART-005-GI

〔授業の到達目標〕

日本およびヨーロッパを中心に，映画祭や映像を主とする文化企画を事例としてとりあげ，映画の持つ文化的・社会的な役割を学ぶ。映画というジャンルにとどまらず，個人や社会の記憶の在り方，アート・マネジメントの実践，国際文化交流の現在などについて，受講者が各自の関心と重ね合わせながら考える機会になるようにしていきたい。

〔授業の内容〕

【講義】

映画作品について，歴史的・社会的・美学的な視点から検討する。ただし，映画史をあまねく学ぶのではなく，私たちの生きる社会のなかで，映画ないしは映像がどのような位置を占めるのか，テーマごとに考えていきたい。また，映画産業のなかで働く女性を５名程度お招きしてお話をうかがう予定。

【実習】（＊備考欄も参照のこと）

本年は，二年に一度の山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催される。1989年に山形市の市制100周年事業として故・小川紳介監督を中心に創設された山形国際ドキュメンタリー映画祭は，行政，映画関係者，市民が一体となって隔年開催され，世界百数十の国や地域から応募作品を集める，上映作品の質･量ともにアジア最大のドキュメンタリー映画祭へと成長してきた。

本講義を受講する学生のうち，希望者は，2017年10月５日～12日に開催される映画祭にボランティアとして参加する（全日程のなかの３泊程度。具体的な仕事の内容としては，会場，デイリー・ニュース編集，海外ゲストアテンドなどを予定している）。文化事業に携わるだけでなく，映画関係者，全国から参加する他大学の学生らと交流する貴重な機会でもある。学生の積極的な参加を期待する。

〔教材〕

参考書：山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局＝編『ドキュメンタリー映画は語る──作家インタヴューの軌跡』未来社，2007年
キム・ドンホ『世界のレッドカーペット』ヨシモトブックス，2011年

他の参考文献は必要に応じコピーして配布する。参考書を必ず購入する必要はないが，映画作品や書籍を通じて，あらかじめ映像に対する関心を持って各自実習に参加してほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介される映画をなるべく多く観ること。

〔成績評価の方法〕

授業・実習への参加度，試験／レポートにより評価する。山形国際ドキュメンタリー映画祭への合宿参加者に関しては，評価時に加点する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

開講時に連絡用のメールアドレスを指示する。

〔備考〕

実習参加者のうち，山形国際ドキュメンタリー映画祭会期中の合宿形式によるボランティア参加を希望するものは，交通費・宿泊費の計３万５千円～４万円程度が自己負担となるので，その旨を事前に了承の上，参加のこと（映画祭のパス，昼食券は支給される）。一昨年度は，10数名が参加し，同じ宿泊施設を使用した。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション－映画と向き合うために
第２週　実習：山形国際ドキュメンタリー映画祭
第３週　文化事業としての映画祭（１）総論および海外の映画祭
第４週　文化事業としての映画祭（２）日本の映画祭　＊ゲスト
第５週　日本製映画のつくり方（１）「日本映画」という幻影
第６週　日本製映画のつくり方（２）製作委員会方式とは何か
第７週　日本製映画のつくり方（３）制作現場で求めらていることは何か　＊ゲスト
第８週　日本製映画のつくり方（４）日本映画の映し出す「地方」と映画館
第９週　映画と国際競争力（１）「架け橋」となるために必要なことは何か　＊ゲスト
第10週　映画と国際競争力（２）日本映画の国際展開とセールス・エージェントの役割
第11週　映画と国際競争力（３）フォーマット・セールスの現状と課題
第12週　映画と国際競争力（４）「模倣」と「盗作」とのはざまに──インターテクスチュアリティとは何か
第13週　映画と社会（１）映画とこども──通過儀礼とは何か
第14週　映画と社会（２）映画と法－著作権をどのようにとらえるべきか　＊ゲスト
第15週　映画と社会（３）映画は「文化財」なのか「商品」なのか──モノづくりからの思考　＊ゲスト

春学期のあいだに参加者に対する説明会（２回）を行うので，掲示および共通科目サポートセンターからの連絡に注意すること（なお，本年の合宿期間は，大学の和祭の実施日と重なる可能性がある）。また，単位や授業と関係なく映画祭へのボランティア登録を希望する学生の参加も受け付けるが，必ず説明会に参加すること。

国際文化交流演習ＶＡ（美術）

3738100500100

副　題	日本美術に親しむ							担　当　者	上野　友愛　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-006-GI

〔授業の到達目標〕
日本美術に親しみ，その個性と魅力を自ら考え，発信する力を育成します。

〔授業の内容〕
国際的に関心の高い日本文化から，この授業では美術分野に特化して講義します。
日本美術の歴史は，洗練された大陸の美術を学ぶことに始まりますが，平安時代には早くも日本人の美意識が認められ，独自の成長を遂げました。この授業では，日本中世絵画史の基礎事項を確認しながら，知られざる日本美術の個性と魅力，そして日本人の想像力の豊かさについて多角的に学びます。

〔教材〕
参考書：佐野みどり・並木誠士『中世日本の物語と絵画』放送大学教育振興会，2004年
日高薫『日本美術のことば案内』小学館，2003年
上野友愛・岡本麻美『かわいい絵巻』東京美術，2015年
教科書は特に指定しません。
その他の参考文献は，授業時に適宜紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業の予習・復習として，宿題を課します（４時間程度要する）。
期日までに自ら調べてまとめ，提出すること。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への意欲，授業態度，コメントペーパー，宿題提出，見学会参加）50%，期末のレポート50%の割合で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付けます。
それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
１．実習を行うため，履修希望者数によっては人数制限を設けます。
２．初回授業には必ず出席すること。
３．授業の最後に，毎回コメントペーパーを書いてもらいます。
４．学外の美術館見学を２回行う予定です。土曜もしくは日曜日に実施します。見学は，展覧会の開催状況によって，授業計画の順番とは異なる時期に行う場合があります（詳細は授業内でお知らせします）。見学に関わる費用は自費とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　絵巻の魅力（１）：絵巻とは？
第３週　絵巻の魅力（２）：絵巻の取り扱い実習
第４週　絵巻の魅力（３）：鳥獣人物戯画
第５週　絵巻の魅力（４）：鎌倉時代の絵巻
第６週　お伽草子絵（１）：お伽草子と下剋上
第７週　お伽草子絵（２）：お伽草子と場
第８週　お伽草子絵（３）：見えない世界を描く
第９週　見学授業（土日いずれかに実施）
第10週　日本絵画の景観表象（１）：山水屏風
第11週　日本絵画の景観表象（２）：屏風の仕組みを知る
第12週　日本絵画の景観表象（３）：古地図・垂迹曼荼羅・掛幅社寺縁起絵
第13週　日本絵画の景観表象（４）：参詣曼荼羅
第14週　日本絵画の景観表象（５）：洛中洛外図
第15週　見学授業（土日いずれかに実施）
授業計画は，進捗に合わせて内容を一部変更したり，順序を変更する場合があります。

国際文化交流演習VB（美術）

3738100500200

副　題	美術館における国際文化交流							担　当　者	丹羽　晴美　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ART-007-GI

〔授業の到達目標〕

美術表現を用いた国際交流事業において，具体的なアプローチを展覧会，広報，教育普及事業などの視点から考察することを目標とする。

〔授業の内容〕

この授業では現代美術，写真・映像というメディアによる文化交流がどのように行われてきたのかを，展覧会，作品表現を通して考察します。また進行中もしくは過去の展覧会企画の分析や，これからの国際文化交流プログラムの展望，公的資金を運用する責務などについて，グループディスカッションを通して探ります。

〔教材〕

授業中に指示。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

集中講義中の２日間（最終日を除く），予習（翌日の準備･登録人数，進行状況によって可変）が必要。

〔成績評価の方法〕

受講態度（ディスカッション時等），発表内容

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通じて連絡。

〔備考〕

夏期集中講座（８月上旬～９月初旬３日間程度予定）

〔授　業　計　画〕

第１週　国際文化交流／公的資金運用の実例
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　公立美術館における国際文化交流について（東京都写真美術館の実例など）
　　ディスカッションプログラム
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　国際文化交流の責務と可能性
　　ディスカッションプログラム
第12週　〃
第13週　〃
第14週　多様な国際文化交流のあり方について
第15週　〃
夏期集中講座
（登録人数・進行状況によって，内容に変更あり）
実施計画）
１日目：国際文化交流／公的資金運用の実例
ディスカッションプログラム
２日目：公立美術館における国際文化交流について（東京都写真美術館の実例など）
ディスカッションプログラム
３日目：国際文化交流の責務と可能性
ディスカッションプログラム
多様な国際文化交流のあり方について

国際文化交流演習VI（シンクタンク）

3738100600100

副　題	政策形成過程におけるシンクタンクの役割	担　当　者	這禽　恵子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	CAR-208-GI

〔授業の到達目標〕

シンクタンクの概要や政策形成過程に果たす役割を理解するとともに，日本が抱えている様々な現状や課題を理解する。

〔授業の内容〕

新しい知的な産業分野であり，政策形成過程に重要な役割を果たすことが期待されるシンクタンクの概要を分り易く解説する。政策形成過程の特徴や課題を概観するとともに，事例研究によりシンクタンクの調査研究分野や手法などを解説する。また，日本の代表的なシンクタンクを訪問し見学する。

〔教材〕

授業ごとにレジュメを配布。参考書・文献は随時紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事例研究ではテーマによって事前学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

授業への態度・レポート及びシンクタンク見学参加

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

携帯電話（080-1266-8002）及びパソコンメール（hatok●xj8.so-net.ne.jp）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　シンクタンクとは何か
第２週　政策課題と日本の政策形成過程の特徴
第３週　シンクタンクの活動分野，研究活動と専門性
第４週　シンクタンクの現状
第５週　日本のシンクタンクの歴史
第６週　シンクタンクの実務（事例研究）
第７週　地方のシンクタンク
第８週　シンクタンクの実務（事例研究）
第９週　シンクタンクにおける情報化
第10週　シンクタンクの実務（事例研究）
第11週　〃
第12週　〃
第13週　世界のシンクタンク
第14週　政策形成過程におけるシンクタンクの役割
第15週　日本のシンクタンクの将来像
シンクタンクの実務では具体的な研究事例や研究課題を取り上げ，研究方法や研究内容等を解説する。

国際文化交流演習VII A（海外語学研修）

3738100700100

副　題	UNBC ELS/LECTURE/INTERNSHIP							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-009-GI

〔授業の到達目標〕

4週間のホームステー生活を中心に，コミュニケーション力とカナダ文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

8月初旬よりカナダのレスブリッジ大学における海外語学研修。授業内容は中・上級の日常英会話の習得とカナダ文化への理解を深めるための講義が中心となる。習得した英語を実践する場として，ホームステー先の家族，通学路のモール等で積極的に活用し，英語力のスキルアップと自信を養っていただきたい。

〔教材〕

UNBC指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習各2時間

〔成績評価の方法〕

UNBCのELS担当教員の評価　50%，出席　20%，帰国後のレポート　30%等を総合的に再評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔授　業　計　画〕

第1週　1ガイダンス　以降2回のガイダンス・指導を行います。日程については初回の時に提示します。
第2週　レスブリッジ大学の授業内容・ホームステーでの生活について
第3週　カナダ英語の特色ついて
第4週　カナダの教育制度について
第5週　カナダの文化について
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　レスブリッジ大学における授業
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

8月の研修出発前に，3回の面談，ガイダンス，指導等を行ないますので，必ず出席すること。
UNBCスタッフによる語学力チック面談を後日案内します。これも必ず受けて下さい。
連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

国際文化交流演習VII B（海外語学研修）

3738100700200

副　題	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP	担　当　者	岩﨑　光洋　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-010-GI

〔授業の到達目標〕

4週間のホームステー生活を中心に，コミュニケーション力とオーストラリア文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

2月中旬よりメルボルンのDEAKIN Universityの語学センターで中・上級会話，TOEICの授業を45時間受講する。授業内では他の国からきている多く留学生とのコミュニケーション練習等も含まれている。積極的な自己アピールとコミュニケーション・スキルの実践の場として活用に努めて欲しい。

〔教材〕

DEAKIN University指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習各2時間

〔成績評価の方法〕

Deakin Uniの授業担当者による評価50%，出席率　20%　帰国後のレポート30%等を総合的に再評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔授　業　計　画〕

第1週　1ガイダンス　以降2回のガイダンス・指導を行います。日程については初回の時に提示します。
第2週　オーストラリアの歴史
第3週　オーストラリアの文化
第4週　オーストラリアの教育制度
第5週　オーストラリア英語の特色
第6週　ホームステーでの生活について
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　ディーキン大学語学センターでの授業
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

2月の研修出発前に，3回の面談，ガイダンス，指導等を行ないますので，必ず出席すること。
ディーキン大学スタッフによるガイダンスも予定されているのでこれも必ず受けて下さい。
連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

国際文化交流演習VIIC（海外語学研修）

3738100700300

副　題	イギリス語学研修							担　当　者	古庄　信　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-011-GI

〔授業の到達目標〕

イギリス 3 週間の語学研修およびホームステイによって英語運用能力を高める

〔授業の内容〕

イギリス・レディング大学語学センターISLIのプログラムに従って 3 週間の英語研修を受講する。また滞在中，英国人家庭でのホームステイやLondon, Oxford他英国各地への小旅行を体験することでイギリス及び英語英国文化に親しむ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加希望者は参加（受講）決定後，出発までにホームステイや日常生活で困らない程度の英語力（自己紹介～日本文化紹介などを含む）を身に着けておくことが望ましい。

〔成績評価の方法〕

レディング大学語学センターでの授業出席状況及び授業評価，帰国後のレポート等により評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

現地での携帯電話及びメール（出発時に連絡）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　レディング大学語学センターISLI英語研修プログラム
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　研修期間 3 週間のため以下，記名なし
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
現地での研修成果（現地での語学研修の参加状況，特に最終日のプレゼンテーション，及び帰国後のレポート）によって評価する。

国際文化交流演習VIII（情報メディア）

3738100800100

副　題	翻訳で学ぶ時事ニュース							担　当　者	藤原　朝子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-212-GI

〔授業の到達目標〕

（1）　ニュース翻訳の基本的ルールの習得
（2）　情報メディアを使ったファクトチェック等の基本的手法の習得
（3）　新聞やSNSなど各種メディアの性質に合った翻訳のつくりかた

〔授業の内容〕

本講義では，英文ニュースの翻訳を通じて，情報メディアの使い方を学びます。

翻訳の作成にあたっては，英文を単純に日本語に置き換えるのではなく，日本の新聞や雑誌に掲載されたとき，読者がきちんとニュース内容とストーリー性を把握できる翻訳にすることを目指します。本講義では，そのための基本的なルールを学ぶとともに，各種情報メディアを使って事実関係をチェックする方法を学びます。

受講者には一定の英語力と日本語の表現力が必要とされますが，それ以上に事実関係を確認する根気と好奇心，そして締め切りを守る責任感も重要になります。

〔教材〕

時事ニュースやプレスリリース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

隔週で翻訳課題（A4サイズ１枚）を出しますので，翌週の授業の前日正午までに提出すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験は行いません。隔週の課題提出（60%），授業における課題評価（40%）。

課題の評価は，英文の読解よりも，授業で述べた翻訳の基本ルールが守られているかを重視します。

翻訳ソフトから丸写しした翻訳は，提出とみなしません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間の質問および課題提出はメールで受け付けます。メールアドレスは授業中にお知らせします。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　アメリカの政治スキャンダル（１）
第３週　アメリカの政治スキャンダル（２）
第４週　スナップチャットとインスタグラム（１）
第５週　スナップチャットとインスタグラム（２）
第６週　ノーベル賞（１）
第７週　ノーベル賞（２）
第８週　日本のアイドルとナチス（１）
第９週　日本のアイドルとナチス（２）
第10週　東京都知事の構想（１）
第11週　東京都知事の構想（２）
第12週　シリア内戦とツイッター（１）
第13週　シリア内戦とツイッター（２）
第14週　ハイテク化するおもちゃ（１）
第15週　ハイテク化するおもちゃ（２）

＊上記の内容は2016年度のもの。実際に取り上げるニュースは，直前に決まります。

国際文化交流演習IX A（海外ボランティア）

3738100900100

副　題	Volunteer Activities							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	VOL-013-GI

〔授業の到達目標〕

教室を離れ，ボランティアの現場での英語を理解し，積極的に指示に従い行動する力を養う

〔授業の内容〕

カナダ語学研修と同時に，現地大学スタッフ等の協力の下，環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で，様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前に綿密な指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に，新たな視点，考え，認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校・養護老人ホーム，植林，清掃等，海外でのボランティア活動を通じて，ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については，現地にて事前のレクチャーが有るので，その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習各２時間

〔成績評価の方法〕

レポート

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

語学研修２単位，海外ボランティア２単位，計４単位が修得可能です。

〔授　業　計　画〕

第１週　１ボランティアの内容等についてはガイダンスにて説明します。
第２週　実習内容①
第３週　実習内容②
第４週　実習内容③
第５週　実習内容④
第６週　「ドリーム・キャッチー」について
第７週　カナダの小等教育制度について①
第８週　カナダの小等教育制度について②
第９週　カナダの小等教育制度について③
第10週　カナダの小等教育制度について④
第11週　レスブリッジ大学での実習・研修
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
事前のガイダンス指導に必ず出席の事。ガイダンス実施日程は後日発表する。

国際文化交流演習IXB（海外ボランティア）

3738100900200

副　題	Volunteer Activities							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	VOL-014-GI

〔授業の到達目標〕

3週間オーストラリアのメルボルンで3回から4回のボランティア活動を実施します。教室を離れ，ボランティアの現場でその意味とその指示を正確に理解し，正確なコミュニケーションを図るのが目的となります。

〔授業の内容〕

オーストリア語学研修と同時に，現地大学スタッフ等の協力の下，環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で，様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に，新たな視点，考え，認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校，植林，海岸清掃等，海外でのボランティア活動を通じて，ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については，現地にて事前のレクチャーが有るので，その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習各2時間

〔成績評価の方法〕

レポート

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

語学研修2単位，海外ボランティア2単位，計4単位が修得可能です。

〔授　業　計　画〕

第1週　1ボランティア等の内容についてはガイダンスの折に説明します。
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　オーストラリアの小等教育について
第6週　〃
第7週　〃
第8週　オーストラリアの環境教育について
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　デーキン大学・語学センター指導による実習・研修
第14週　〃
第15週　〃
事前のガイダンス指導が重要となります。必ず出席する事。ガイダンス日程については，後日発表する。

国際文化交流演習XI（ワシントン・セミナー１）

3738101100100

副　題	米国における文化政策/ 国際金融機関の組織と活動	担　当　者	櫻井　大三　教授 M．ウーゴ　准教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-216-GI

〔授業の到達目標〕
米国における文化政策を理解すること。（ウーゴ）
国際金融機関の組織と活動を理解すること。（櫻井）

〔授業の内容〕
米国での研修準備として米国における文化政策，文化財保護の仕組みや関連機関の活動について学び，学生によるグループ発表や意見交換を行う。米国の歴史や社会と照らし合わせ，ワシントンDCの都市計画や歴史的建造物，史跡，国立公園の保護と整備について理解を深める。（ウーゴ）
世界銀行および国際通貨基金（IMF）の歴史，組織構造および活動について，各班ごとに個別テーマを分担し，グループ報告および討論を行う。この作業を通じて，現代の国際経済・金融・開発の諸分野において，米国が果たしてきた役割と意義について考察する。（櫻井）

〔教材〕
教科書：井出穣治、児玉千代子『IMFと世界銀行の最前線 ―日本人職員がみた国際金融と開発援助の現場』日本評論社，2014年
参考書：Moeller, Gerard Martin, *AIA Guide to the Architecture of Washington, D.C.*, 5th Edition, The Johns Hopkins University Press, 20１２

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業期間が始まる前に参考書を読み，授業中に質問や討論ができるように準備すること。（ウーゴ）
各班ごとに分担テーマについての調査・検討を行い，報告原稿を取りまとめ，プレゼンテーションの準備をすること。（櫻井）

〔成績評価の方法〕
授業参加の積極性（10%），レポートや発表（90%）を総合的に評価する。（ウーゴ・櫻井）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金曜日　３限（ウーゴ・櫻井）
共通科目サポートセンターの副手に申し出ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　５月午後１
第３週　〃
第４週　６月午後１
第５週　〃
第６週　６月午後２
第７週　〃
第８週　６月午後３
第９週　〃
第10週　７月午後１
第11週　〃
第12週　７月午後２
第13週　〃
第14週　７月午後３
第15週　〃
５～７月にかけて，火曜日の18時より報告会を開催する予定です。（ウーゴ）
７月～８月にかけての土曜日の午後の時間帯を利用し，報告会を開催する。（櫻井）

国際文化交流演習XII（ワシントン・セミナー２）

3738101200100

副　題	現地で学ぶアメリカの政治と歴史	担　当　者	畠山 圭一　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-217-GI

〔授業の到達目標〕
国際協力，国際文化交流の活動内容，アメリカの政治・文化の実態について基礎知識の獲得し，理解を深める。

〔授業の内容〕
米国の首都，ワシントンDCは，世界の政治的中心であるとともに，多くの国際機関や国際文化機関が点在する国際協力，国際文化交流の一大拠点である。本演習のXIおよびXIIは，米国の政治・経済・文化等に興味・関心を抱く学生や，将来，国際協力や国際文化交流事業にかかわりたいと考えている学生のために，各種の歴史施設・文化施設・行政機関・国際機関・文化交流団体等を訪問し，あるいは各種施設機関で活躍する幹部職員と接し，アメリカの政治・経済・社会・文化の実態や，国際協力や文化交流の活動内容にじかに触れることを目的としている。
本演習は，国際機関研修・文化交流研修・アメリカ文化研修の３部で構成され，XIIではアメリカ文化研修（XIでは国際機関研修・文化交流研修）を行う。
アメリカ文化研修では，アメリカ政治およびアメリカ史に関する集中講義が行われるほか，アメリカの政治・文化・歴史にじかに触れることを目的に，連邦議会および議員事務所，州政府庁舎，行政機関，報道機関，シンクタンクなどを訪問し，議員や幹部職員等と懇談するほか，史跡（初期のイギリス入植地，植民地時代の歴史保存地域，建国初期の歴代大統領邸宅，南北戦争の激戦地等々）を探訪する。

〔教材〕
追って，指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前研修中はもちろんのこと，研修中は事前に資料を読み，自らの課題を用意して臨むこと。また，講師はすべて実務者であり，講義内容も実践的であるから，事後の内容整理と思索が極めて重要な意味を持つ。研修期間中は宿舎にての予習，復習に十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが求められる。

〔成績評価の方法〕
課題レポート等（４割）と参加状況（６割）によって総合的に判断する。60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日　４限
木曜日　３限
メール・アドレス　keiichi.hatakeyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）
研究室直通電話　03-3203-7436

〔備考〕
２年生以上を対象とする。なお，希望者多数の場合，人数制限を行うことがある。
また，国際文化交流演習XI・国際文化交流演習XIIの両方を同時に履修することを原則とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　事前指導
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
前期に５～６回程度，事前研修を実施する。内容，期日については後ほど掲示する。

国際文化交流演習XIII（開発途上国研修1）

3738101300100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-018-GI

〔授業の到達目標〕
開発途上国の教育，国際協力活動の現場を知る・理解する

〔授業の内容〕
国際文化交流実習XIIIは，国際文化交流実習XIV（2017年２月上旬に実施されるフィリピンまたは別の国での10日間程度の研修）を履修・参加する学生を対象にした授業です。フィリピン，または別の国における国際協力の現状とその課題を学びます。研修実施国を訪問する前の学習により得たその国のイメージと，現地での実体験を比較しながら，開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察することを目指します。
平成28年度は，「開発途上国の教育」および「国際協力活動」に焦点を当てて，講義（NGO，ジェトロ等）と演習を織り交ぜながら，授業を進めてゆきます。詳細は，夏休み前後に開催される国際文化交流実習XIIIおよびXIVのためのガイダンスで確認してください。

〔教材〕
60 Million Girls (Save the Children)をはじめとしたものは，授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業内で指定される文献等に関わるレポート，受講した授業の感想等の予習・復習が必要です。およそ４時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕
発表　30%，レポート他課題　50%，授業への取り組み他　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール。アドレスは授業中に指示する

〔備考〕
本科目は，国際文化交流実習XIVを履修し，フィリピン（または別の国で行われる）国際協力研修に参加する学生を対象としています（国際協力研修については国際文化交流実習XIVを参照してください）ので，履修にあたっては注意してください（＝国際協力研修に参加する学生のみ履修が認められ，単位が取得できます）。
ガイダンスを実施しますので履修希望者は必ず出席し，履修を決めてください。
ガイダンスに参加した方のみ履修が認められます。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ワークショップ
第３週　60 Million Girls　（１）
第４週　60 Million Girls　（２）
第５週　「教育」に関わる発表　（１）
第６週　教育についての講義・ワークショップ
第７週　国際協力機構（JICA）講義
第８週　「教育」に関わる発表　（２）
第９週　NGOに関わる講義（１）
第10週　NGOについての発表
第11週　NGOに関わる講義（２）
第12週　NGOについての発表
第13週　研修実施国に関わる講義
第14週　リスク管理
第15週　まとめ

国際文化交流演習XIV（開発途上国研修2）

3738101400100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-019-GI

〔授業の到達目標〕
開発途上国を訪問し，国際協力の現場を知る

〔授業の内容〕
グローバリゼーション，NGO，ボランティア，国際援助・協力・交流という言葉は，その実体よりもイメージだけが先行していることが多い。つまり，多くの人は，テレビ・新聞などのマスメディアを通して，こうした国際化の時流や現象，国際協力の組織や活動に関する漠然としたイメージと興味は持つ。しかしながら，その明確な意義，成果，そして自分との関連付け（参加）について考える際に，それを判断すべき，主体的かつ有効な術を有していないということが多い。

こうした問題の解決の１つとして，講義による机上の学習と，自らの主体的な実体験をあわせたもの（＝より自分の身近な事象，活動として位置づける）が，本実習である。本実習に参加することにより，より鮮明な問題認識とその問題解決法を模索することへと繋がるはずである。

本実習では，開発途上国を訪問し，人々と交流しながら，政府・NGO等の援助事業の実態に触れる機会を提供する。研修実施国への渡航前の事前学習として，当該国に関する知識（歴史・政治・社会等，言語，国際援助，NGO等）を学ぶ。事前学習による当該国のイメージと，現地での実体験を比較しながら，実習参加者一人一人に，開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察・体験してもらうことが，本実習の最大の目的である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
国際文化交流演習XIII（開発途上国研修１）と並行して，現地での活動のための準備が必要になります。

〔成績評価の方法〕
研修実施国への渡航前・現地・渡航後でのそれぞれの活動・課題への取り組みを総合的に評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
本科目は，国際文化交流実習XIIIを履修する学生を対象としていますので，履修にあたっては注意してください（＝国際文化交流実習XIIIを履修する学生のみ履修が認められ，単位が取得できます）。ガイダンスを実施しますので，必ず参加して下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　訪問国で実施
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
２月上旬に１週間程度実施

生活文化演習I（染色）

3753100100100

副　題								担　当　者	佐久間　敏子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-001-GJ

〔授業の到達目標〕

日本の伝統工芸として現代に継承されている染色について，その歴史や技法を知り，作品制作することでより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

染色の基礎的知識についての講義。より理解を深めるため沖縄の伝統工芸「紅型」によるテーブルセンターの制作を指導する。

〔教材〕

適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通しておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50%）理解度の確認（40%）作品鑑賞レポート（10%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　染色についての歴史・種類
第２週　紅型についての歴史・種類
第３週　紅型の用具・用布について
第４週　紅型の型紙について（型置）
第５週　豆汁・染液について（地入れ）
第６週　色差しの方法について（色差し）
第７週　〃
第８週　くまどりについて（色差し）
第９週　〃
第10週　仕上げの方法について（色差し）
第11週　仕上げの方法について（水元）
第12週　現代の染色について（水元）
第13週　現代の染色について（仕上げ）
第14週　作品の講評
第15週　まとめと解説

生活文化演習II（刺繍）

3753100200100

副　題										担　当　者	佐久間　敏子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-002-GJ

〔授業の到達目標〕

仏教伝来と共に伝えられたという日本刺繍について，その歴史や技法を知り，実技を通してより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

日本刺繍の基礎的知識についての講義。絹布・絹糸を使い，伝統模様の梅や桜の花の刺繍方法を指導する。

〔教材〕

適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通しておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50%）理解度の確認（40%）作品鑑賞レポート（10%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　刺繍についての歴史・種類
第２週　用具について（台張りの準備）
第３週　台張りについて（台張りをする）
第４週　針の種類・扱い方（木綿糸での練習）
第５週　糸の種類・扱い方（糸縒りの練習）
第６週　面の表現について（梅の花びらの縒り糸の繍切り）
第７週　〃
第８週　厚みの表現について（梅の花びらの肉入れ）
第９週　平糸の扱い方について（梅の花びらの平糸の繍切り）
第10週　〃
第11週　平糸の扱い方について（桜の花びらの平糸の繍切り）
第12週　線の表現について（唐草のまつい繍）
第13週　点の表現について（花びらの中央に相良繍）
第14週　仕上げについて
第15週　まとめと解説

生活文化演習III（食品製造）

3753100300100

副　題	食品製造							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-003-GJ

〔授業の到達目標〕

食品の製造の実際と原理を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

生活文化の中核を構成する食文化への理解を深めるために，どのようにして製造されるのかを中心に食品について学ぶ。食品の製造法やその原理について講義するとともに，食品製造の体験や製造原理に関わる実験・実習を行って理解を深める。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業での疑問点を調査し不明な個所について質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

レポートの評価（約50%）と授業への参加態度の評価（約50%）を合わせて成績評価する。ただし，授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワー（月曜日　13：00～15：00，火曜日　10：30～12：00）に研究室まで来てください。

〔備考〕

履修人数に制限があります。共通科目の事前調整を受けて下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに（授業の進め方）
第２週　小麦の特性と利用
第３週　小麦種子と小麦粉の性質１
第４週　小麦種子と小麦粉の性質２
第５週　小麦粉の吸水とドウの形成１
第６週　小麦粉の吸水とドウの形成２
第７週　グルテンの性質１
第８週　グルテンの性質２
第９週　パン製造１
第10週　パン製造２
第11週　大豆の特性と利用１
第12週　大豆の特性と利用２
第13週　豆乳の調製と凝固
第14週　豆腐の製造
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

生活文化演習Ⅳ（食品加工）

3753100400100

副　題	食品加工							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-004-GJ

〔授業の到達目標〕
　食品加工の原理と実際を理解できるようになる。

〔授業の内容〕
　食品の保存性を高め，消化性，栄養的価値を向上させ，嗜好性を付与するなど，我々の食生活を豊かにしてきた加工技術と加工食品について，原理と実際を理解し食文化的な意義を考えていく。発酵食品を中心に食品加工について講義し，食品加工の実際を体験すると共に関連した実験・実習を行って理解を深める。

〔教材〕
　プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　毎回の授業には，前回の授業での疑問点を調査し不明な個所を質問できるようにして臨むこと。

〔成績評価の方法〕
　レポートの評価（約50%）と授業への参加状況の評価（約50%）を合わせて成績評価する。ただし，授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　オフィスアワー（月曜日　13：00～15：00，火曜日　10：30～12：00）に研究室まで来てください。

〔備考〕
　履修人数に制限があります。共通科目の事前調整を受けて下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに（授業の進め方）
第２週　食品加工と微生物１
第３週　食品加工と微生物２
第４週　食品加工と微生物３
第５週　アルコール発酵の条件
第６週　アルコール発酵と酒
第７週　麹の利用１
第８週　麹の利用２
第９週　麹の利用３
第10週　発酵食品１
第11週　発酵食品２
第12週　乳の性質と加工１
第13週　乳の性質と加工２
第14週　乳の性質と加工３
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

生活文化演習V（空間造形）

3753100500100

副　題	製図の基礎と住空間の設計							担　当　者	渡邊　保弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	DES-005-GJ

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は，自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには，住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は建築図面の基本的な表現技術を体得し，個々の住まいのあるべき形（家庭に於ける社会性を含む）を考え，その形を図面化する事を目標とする。

〔授業の内容〕

本演習では，その目標に対し下記の課題を行ない，その他建築および建築家を調べレポートを提出する。

１．製図について：製図道具の扱い方，線の引き方の基本から始め，基本となる住宅設計図面（平面図，立面図，断面図，配置図，詳細図）の読み取り方と描き方，プレゼンテーションの技術を図面のトレースを通して学び，住宅の空間構成を理解する。

２．設計１：メゾネット形式住宅のインテリアを独自に立案する（平面計画）。

３．設計２：ル・コルビジェの代表作の一つとして名高い集合住宅ユニテ・ダビタシオン（マルセイユ）を学び，その二層になった空間が使用出来るメゾネット形式住宅の改装計画を立案する（平面計画）。

〔教材〕

基本的な講義および演習資料を実習中に配布し，補完的なものについてはその都度指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読，デザイン実習や改装計画作成実習の試作検討等が授業外の予習・復習として求められる。それぞれ週２～４時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された設計課題およびレポートの評価，設計プロセス（いかに試行錯誤したか，デザインポリシーが明確かを演習時に個々のエスキース，スケッチより確認する），出席を含めた総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mailによる。授業中に指示する。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居についても学習したい。

〔授　業　計　画〕

第１週　建築，建築家，基本的設計技術／講義
第２週　基本図のトレースで学ぶ住宅設計／実技
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　メゾネット形式集合住宅のデザイン／講義，実技
第７週　メゾネット形式集合住宅のデザイン／実技
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　ユニテ・ダビタシオンと改装計画／講義，実技
第12週　ユニテ・ダビタシオンと改装計画／実技
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

生活文化演習VI（空間造形）

3753100600100

副　題	空間の立体表現と住宅設計							担　当　者	渡邊　保弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	DES-006-GJ

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は，自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには，住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は生活文化実習V（空間造形）で習得した諸事項を基礎として，住空間についての理解を深めるとともに，現代の都市および郊外に於ける住まいの差を考察しながら，個々が思考する住居空間の実作をめざす。

〔授業の内容〕

秋学期を通じて一戸建ての住宅の設計（主に平面計画）を行ないながら，空間表現に不可欠な立体表現の方法（透視図法・パース）や色彩計画（カラーコーディネイト）の基礎を学び，最終的にはそれらの表現を取り入れた住宅設計を課題として提出する。

〔教材〕

実習中に配布あるいは指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読，設計演習の試作検討が授業外の予習・復習として求められる。それぞれ週２～４時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された課題およびレポートの評価，設計プロセス（いかに試行錯誤したか，デザインポリシーが明確か），出席を含めた総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mailによる。授業中に指示する。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居について,その歴史的変遷や伝統的な設計システムについての講義を行う。生活文化実習V(空間造形)に続けて履修することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　住宅設計（秋学期を通じて徐々に考えていく）／講義
第２週　〃／実技
第３週　〃
第４週　〃／実技，　併せて色彩設計（カラーコーディネイト）／講義
第５週　〃／実技，　〃／実技
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃／実技，　併せて透視図法（パース）／講義
第13週　〃／実技，　〃／実技
第14週　〃
第15週　〃
多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

ボランティア演習

3754100100100

副　題	国際協力ＮＧＯでボランティアを体験する	担　当　者	野口　朝夫　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	VOL-001-GK

〔授業の到達目標〕

2011年の東日本大震災に際しては，政府，自治体などの公的組織以外にもNPO・NGOなどの市民セクターが現地で様々な活動を展開しました。このような災害，戦争などの緊急支援活動などを通じ，さらに近年の環境問題などで話題になるNGOですが，日本では社会のセクターとして認知されてまだ日が浅く，その幅広い活動や考え方は充分には知られていません。そこで，長くラオスで読書推進活動の分野での協力支援を続けている「特定非営利活動法人ラオスのこども」の活動を，実際にボランティアとして体験することで，NGOとは何か，どのような活動をしているのか，何を目的としているのかなどを学びます。

〔授業の内容〕

NGOの活動分野やさまざまな考えなどを講義で学んだ上で，「ラオスのこども」東京事務所などでの業務補助，イベント参加などを体験し，さらに自らがボランティアとして担う学内でのイベントプログラムを企画立案し実施します。

この授業は，教室での講義と学外での活動により構成され，学外での授業は，一回に約２コマ分の時間をかけるものとなります。詳細なスケジュールは第１回の授業時に説明をおこないますので，履修を希望している学生は必ず出席してください。欠席の場合は履修できません。

〔教材〕

教材は用いません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ボランティアの活動を毎回記録し，活動の意味を考察することが必要とされます。

学内イベントでは，担当に応じ，授業時間外に各自積極的に準備を担う必要があります。

〔成績評価の方法〕

授業への参加姿勢　80%　学期末レポート　20%　の割合で評価をおこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は演習時に受け付ける他，授業選択者には講師連絡先を伝えます。

〔備考〕

受講者は，授業への積極的参加が求められます。そのため，ボランティア活動に関心が深いことを前提とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　ボランティアって何か　ボランティアの意味を考える　講義
第２週　さまざまなNGO活動を知る　講義
第３週　学外でのボランティア体験と学内イベントの企画および準備
　　以降，毎週定期的に実習をおこなうとは限らない
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　学内イベントを企画し，実施する
第15週　活動をふり返る　講義

学内での講義以外は，大田区西馬込にある特定非営利活動法人ラオスのこども事務所やイベント会場などで演習をおこないます。この演習は定められた授業日だけでなく，日曜日など曜日と時間，場所を変えておこなわれることがあります。スケジュールは，第１回の授業時に説明します。交通費などの経費は自己負担となります。

また，春学期の「ボランティア論１」とともに，本授業を選択することが望まれます。授業計画は，変更になることがあります。

社会儀礼演習

3754100200100

副　題	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ	担　当　者	明石　伸子　講師 柳田　圭恵子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-202-GK

〔授業の到達目標〕

この授業は，マナーの基礎知識を総合的に学習することで，日本人として社会人として自信がもてるようになることを目標としています。また，実習を通じて美しい所作ができるようにするとともに，好感度を高めてより美しく輝く女性を育てます。

〔授業の内容〕

礼儀や作法を身につけることは社会人として必要なだけでなく，より魅力的な女性になるために大切な要素です。さらに国際化に伴い，外国人と接する機会も増える今後，「プロトコール(外交儀礼）の基本」についてもぜひ知っておいて欲しいものです。具体的には社会人として大切なビジネスマナー，食事のいただき方，人つき合いに不可欠な冠婚葬祭のしきたり，日本人として知っておいて欲しい年中行事などをトータルで学習します。また，相手を大切にする心を上手に伝えるための所作や立ち居振る舞いのポイントについても確認します。

マナーは一見堅苦しいもののように思われるかもしれませんが,むしろ知っていると便利で,自分自身をより美しく輝かせてくれるものです。また，よりよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションスキルの要素もあります。社会に出る前に，トータルなマナーの知識を確認するのがこの授業の内容です。

〔教材〕

教科書：特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会『改訂版「さすが！」といわせる大人のマナー講座』第1版第19刷版，株式会社ＰＨＰ研究所，2015年

第１回目より指定のテキストで学習します。「改訂版」の最新版を購入して受講してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業範囲の内容について，事前にテキストを確認してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（50%），２回の小テスト（20%），期末テスト（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで連絡。アドレスは授業の初回にお知らせします。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション　～マナー＆プロトコールとは何か，マナーの成り立ち，お辞儀の練習～
第２週　自己の印象を高める　～第一印象の重要性，自己紹介，姿勢，表情，歩き方，座り方など～
第３週　言葉遣いと話し方　～正しい敬語や丁寧な話し方～
第４週　社交に必要なマナー　～パーティの種類，服装とドレスコード，贈答～
第５週　外国の習慣を知る　～プロトコールの原則，席次，国旗，異文化を知る～
第６週　ビジネスマナー　～社会人意識，名刺交換，電話応対，来客応対など～
第７週　手紙の書き方とビジネス文書　～形式の確認，正式な手紙を書いてみる～
第８週　和食の作法　～DVD視聴後知識の確認，箸使い，忌み箸などの確認～
第９週　洋食のテーブルマナー　～DVD視聴後カトラリーの使い方などの確認～
第10週　通過儀礼とは何か　～帯祝いから長寿の祝いまでの知識の確認～
第11週　結婚のしきたり　～知識の確認，祝儀袋とふくさの使い方～
第12週　葬儀のしきたり　～知識の確認，不祝儀袋～
第13週　日本の年中行事　～四季折々の日本に伝わる祭礼の種類，神社の参拝の仕方など～
第14週　授業のまとめ　～知識の復習と確認～
第15週　授業の総括　～理解度の確認とまとめ～

共通科目（外国語）

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

共通科目（外国語）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	BASIC LISTENING A		ENG-101-GL	−	−	1	春		2	岩﨑　光洋	672
	BASIC LISTENING B		ENG-102-GL	−	−	1	春		2	伊藤　直美	673
	BASIC LISTENING C		ENG-103-GL	−	−	1	春		2	C．ウィン	674
	BASIC LISTENING D		ENG-104-GL	−	1	−	春		2	伊藤　直美	675
	BASIC LISTENING E		ENG-105-GL	−	1	−	春		2	伊藤由紀子	676
	BASIC LISTENING F		ENG-106-GL	−	1	−	春		2	伊藤由紀子	677
	BASIC LISTENING G		ENG-107-GL	−	1	−	春		2	坂本　裕子	678
	BASIC LISTENING H	英語リスニング力の強化	ENG-108-GL	−	1	−	春		2	式町眞紀子	679
	BASIC LISTENING I		ENG-109-GL	−	1	−	春		2	藤後　仁美	680
	BASIC LISTENING J	英語リスニング力の向上	ENG-110-GL	−	1	−	春		2	成田　奈央	681
	BASIC LISTENING K	TOEIC listening 部門強化	ENG-111-GL	−	1	−	春		2	古庄　　信	682
	BASIC LISTENING L		ENG-112-GL	1	−	−	春		2	水谷　利美	683
	BASIC LISTENING M		ENG-113-GL	1	−	−	春		2	横江百合子	684
	BASIC LISTENING N		ENG-114-GL	1	−	−	春		2	渡辺　幸俊	685
	BASIC LISTENING O		ENG-115-GL	1	−	−	春		2	渡辺　幸俊	686
	BASIC LISTENING P		ENG-116-GL	1	−	−	春		2	大石美恵子	687
	BASIC LISTENING Q	Know about the world, go around the world	ENG-117-GL	1	−	−	春		2	石渡　忠大	688
	NEWS LISTENING A		ENG-118-GL	−	−	1		秋	2	岩﨑　光洋	689
	NEWS LISTENING B		ENG-119-GL	−	−	1		秋	2	伊藤　直美	690
	NEWS LISTENING C		ENG-120-GL	−	−	1		秋	2	C．ウィン	691
	NEWS LISTENING D		ENG-121-GL	−	1	−		秋	2	伊藤　直美	692
	NEWS LISTENING E	英語リスニング能力の向上	ENG-122-GL	−	1	−		秋	2	伊藤由紀子	693
	NEWS LISTENING F	英語リスニング能力の向上	ENG-123-GL	−	1	−		秋	2	伊藤由紀子	694
	NEWS LISTENING G		ENG-124-GL	−	1	−		秋	2	坂本　裕子	695
	NEWS LISTENING H	英語のさまざま	ENG-125-GL	−	1	−		秋	2	式町眞紀子	696
	NEWS LISTENING I		ENG-126-GL	−	1	−		秋	2	藤後　仁美	697
	NEWS LISTENING J	英語リスニング力の向上	ENG-127-GL	−	1	−		秋	2	成田　奈央	698
	NEWS LISTENING K	Listening practice with BBC news	ENG-128-GL	−	1	−		秋	2	古庄　　信	699
	NEWS LISTENING L		ENG-129-GL	1	−	−		秋	2	水谷　利美	700
	NEWS LISTENING M		ENG-130-GL	1	−	−		秋	2	横江百合子	701
	NEWS LISTENING N		ENG-131-GL	1	−	−		秋	2	渡辺　幸俊	702
	NEWS LISTENING O		ENG-132-GL	1	−	−		秋	2	渡辺　幸俊	703
	NEWS LISTENING P		ENG-133-GL	1	−	−		秋	2	大石美恵子	704
	NEWS LISTENING Q	BBCニュースを通しての世界理解	ENG-134-GL	1	−	−		秋	2	石渡　忠大	705
	BASIC READING A		ENG-135-GL	−	−	1	春		2	R．S．ジョーンズ	706
	BASIC READING B		ENG-136-GL	−	−	1	春		2	K．フォード	707

共 通 科 目 （ 外 国 語 ） 平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	BASIC READING C		ENG-137-GL	−	−	1	春		2	伊藤　直美	708
	BASIC READING D		ENG-138-GL	−	1	−	春		2	A．ピアソン	709
	BASIC READING E		ENG-139-GL	−	1	−	春		2	水谷　利美	710
	BASIC READING F		ENG-140-GL	−	1	−	春		2	G．ディオリオ	711
	BASIC READING G		ENG-141-GL	−	1	−	春		2	白川　幸子	712
	BASIC READING H		ENG-142-GL	−	1	−	春		2	谷口めぐみ	713
	BASIC READING I		ENG-143-GL	−	1	−	春		2	大石美恵子	714
	BASIC READING J		ENG-144-GL	1	−	−	春		2	坂本　裕子	715
	BASIC READING K		ENG-145-GL	1	−	−	春		2	W．トング	716
	BASIC READING L	英語リーディング力の向上	ENG-146-GL	1	−	−	春		2	成田　奈央	717
	BASIC READING M		ENG-147-GL	1	−	−	春		2	藤後　仁美	718
	BASIC READING N		ENG-148-GL	1	−	−	春		2	山科美智子	719
	READING & WRITING A		ENG-149-GL	−	−	1		秋	2	R．S．ジョーンズ	720
	READING & WRITING B		ENG-150-GL	−	−	1		秋	2	K．フォード	721
	READING & WRITING C		ENG-151-GL	−	−	1		秋	2	伊藤　直美	722
	READING & WRITING D		ENG-152-GL	−	1	−		秋	2	A．ピアソン	723
	READING & WRITING E		ENG-153-GL	−	1	−		秋	2	水谷　利美	724
	READING & WRITING F		ENG-154-GL	−	1	−		秋	2	G．ディオリオ	725
	READING & WRITING G		ENG-155-GL	−	1	−		秋	2	白川　幸子	726
	READING & WRITING H		ENG-156-GL	−	1	−		秋	2	谷口めぐみ	727
	READING & WRITING I		ENG-157-GL	−	1	−		秋	2	大石美恵子	728
	READING & WRITING J		ENG-158-GL	1	−	−		秋	2	坂本　裕子	729
	READING & WRITING K		ENG-159-GL	1	−	−		秋	2	W．トング	730
	READING & WRITING L	英語リーディング力とライティング力の向上	ENG-160-GL	1	−	−		秋	2	成田　奈央	731
	READING & WRITING M		ENG-161-GL	1	−	−		秋	2	藤後　仁美	732
	READING & WRITING N		ENG-162-GL	1	−	−		秋	2	山科美智子	733
	SPEAKING PRACTICE A		ENG-163-GL	−	−	1	春		2	W．トング	734
	SPEAKING PRACTICE B		ENG-164-GL	−	−	1	春		2	J．テスター	735
	SPEAKING PRACTICE C		ENG-165-GL	−	−	1	春		2	白川　幸子	736
	SPEAKING PRACTICE D		ENG-201-GL	−	2	−	春		2	K．フォード	737
	SPEAKING PRACTICE E		ENG-202-GL	−	2	−	春		2	横江百合子	738
	SPEAKING PRACTICE F	Let's Have Fun Speaking English Together!	ENG-203-GL	−	2	−	春		2	R．ジョーンズ	739
	SPEAKING PRACTICE G		ENG-204-GL	−	2	−	春		2	橋本ナターシャ	740
	SPEAKING PRACTICE H		ENG-205-GL	−	2	−	春		2	山科美智子	741
	SPEAKING PRACTICE I		ENG-206-GL	−	2	−	春		2	石渡　忠大	742
	SPEAKING PRACTICE J		ENG-207-GL	−	2	−	春		2	T．スコット	743

共通科目（外国語）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	SPEAKING PRACTICE K		ENG-208-GL	−	2	−	春		2	鈴木　美穂	744
	SPEAKING PRACTICE L		ENG-209-GL	−	2	−	春		2	P．アプス	745
	SPEAKING PRACTICE M		ENG-210-GL	2	−	−	春		2	A．パラスキ	746
	SPEAKING PRACTICE N	Building Confidence in Speaking English	ENG-211-GL	2	−	−	春		2	森　葉子	747
	SPEAKING PRACTICE O		ENG-212-GL	2	−	−	春		2	S．クレイ	748
	SPEAKING PRACTICE P		ENG-213-GL	2	−	−	春		2	鈴木　美穂	749
	SPEAKING PRACTICE Q		ENG-214-GL	2	−	−	春		2	A．ピアソン	750
	SPEAKING PRACTICE R		ENG-215-GL	2	−	−	春		2	式町眞紀子	751
	SPEAKING PRACTICE S		ENG-216-GL	2	−	−	春		2	吉富　昇	752
	SPEAKING SKILLS A		ENG-166-GL	−	−	1		秋	2	W．トング	753
	SPEAKING SKILLS B		ENG-167-GL	−	−	1		秋	2	J．テスター	754
	SPEAKING SKILLS C		ENG-168-GL	−	−	1		秋	2	白川　幸子	755
	SPEAKING SKILLS D		ENG-217-GL	−	2	−		秋	2	K．フォード	756
	SPEAKING SKILLS E		ENG-218-GL	−	2	−		秋	2	横江百合子	757
	SPEAKING SKILLS F	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!	ENG-219-GL	−	2	−		秋	2	R．ジョーンズ	758
	SPEAKING SKILLS G		ENG-220-GL	−	2	−		秋	2	橋本ナターシャ	759
	SPEAKING SKILLS H		ENG-221-GL	−	2	−		秋	2	山科美智子	760
	SPEAKING SKILLS I		ENG-222-GL	−	2	−		秋	2	石渡　忠大	761
	SPEAKING SKILLS J		ENG-223-GL	−	2	−		秋	2	T．スコット	762
	SPEAKING SKILLS K		ENG-224-GL	−	2	−		秋	2	鈴木　美穂	763
	SPEAKING SKILLS L		ENG-225-GL	−	2	−		秋	2	P．アプス	764
	SPEAKING SKILLS M		ENG-226-GL	2	−	−		秋	2	A．パラスキ	765
	SPEAKING SKILLS N	Getting ready for negotiations in English	ENG-227-GL	2	−	−		秋	2	森　葉子	766
	SPEAKING SKILLS O		ENG-228-GL	2	−	−		秋	2	S．クレイ	767
	SPEAKING SKILLS P		ENG-229-GL	2	−	−		秋	2	鈴木　美穂	768
	SPEAKING SKILLS Q		ENG-230-GL	2	−	−		秋	2	A．ピアソン	769
	SPEAKING SKILLS R		ENG-231-GL	2	−	−		秋	2	式町眞紀子	770
	SPEAKING SKILLS S		ENG-232-GL	2	−	−		秋	2	吉富　昇	771
	INTENSIVE READING & WRITING A		ENG-233-GL	−	−	2	春		2	G．R．ファリア	772
	INTENSIVE READING & WRITING B		ENG-234-GL	−	−	2		秋	2	G．R．ファリア	773
	INTENSIVE READING & WRITING C		ENG-235-GL	−	2	−	春		2	R．S．ジョーンズ	774
	INTENSIVE READING & WRITING D		ENG-236-GL	−	2	−		秋	2	R．S．ジョーンズ	775
	INTENSIVE READING & WRITING E		ENG-237-GL	−	2	−	春		2	A．パラスキ	776
	INTENSIVE READING & WRITING F		ENG-238-GL	−	2	−		秋	2	A．パラスキ	777
	INTENSIVE READING & WRITING G		ENG-239-GL	−	2	−	春		2	橋本ナターシャ	778
	INTENSIVE READING & WRITING H		ENG-240-GL	−	2	−		秋	2	橋本ナターシャ	779

共通科目（外国語）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	INTENSIVE READING & WRITING I	Expanding knowledge in reading and writing in English	ENG-241-GL	−	2	−	春		2	森　葉子	780
	INTENSIVE READING & WRITING J	Expanding knowledge in reading and writing	ENG-242-GL	−	2	−		秋	2	森　葉子	781
	INTENSIVE READING & WRITING K		ENG-243-GL	2	−	−	春		2	P．アプス	782
	INTENSIVE READING & WRITING L		ENG-244-GL	2	−	−		秋	2	P．アプス	783
	INTENSIVE READING & WRITING M	Reading and Improving your Vocabulary	ENG-245-GL	2	−	−	春		2	R．ジョーンズ	784
	INTENSIVE READING & WRITING N	Reading and Improving your Vocabulary	ENG-246-GL	2	−	−		秋	2	R．ジョーンズ	785
	INTENSIVE READING & WRITING O		ENG-247-GL	2	−	−	春		2	吉富　昇	786
	INTENSIVE READING & WRITING P		ENG-248-GL	2	−	−		秋	2	吉富　昇	787
	INTENSIVE READING & WRITING Q		ENG-249-GL	2	−	−	春		2	矢田　陽子	788
	INTENSIVE READING & WRITING R		ENG-250-GL	2	−	−		秋	2	矢田　陽子	789
外国語科目2群	フランス語　基礎ⅠA		FRN-101-GM	1～			春		2	井上　美穂	790
	フランス語　基礎ⅠB		FRN-102-GM	1～			春		2	井上　美穂	791
	フランス語　基礎ⅡA		FRN-103-GM	1～				秋	2	井上　美穂	792
	フランス語　基礎ⅡB		FRN-104-GM	1～				秋	2	井上　美穂	793
	フランス語　応用Ⅰ		FRN-205-GM	2～			春		2	泉　・　井上	794
	フランス語　応用Ⅱ		FRN-206-GM	2～				秋	2	泉　・　井上	795
	ドイツ語　基礎ⅠA		GER-107-GM	1～			春		2	柿沼・小出	796
	ドイツ語　基礎ⅠB		GER-108-GM	1～			春		2	平井・小出	797
	ドイツ語　基礎ⅡA		GER-109-GM	1～				秋	2	柿沼・小出	798
	ドイツ語　基礎ⅡB		GER-110-GM	1～				秋	2	平井・小出	799
	ドイツ語　応用Ⅰ		GER-211-GM	2～			春		2	柿沼・平井	800
	ドイツ語　応用Ⅱ		GER-212-GM	2～				秋	2	柿沼・平井	801
	イタリア語　基礎ⅠA	覚えた表現を使ってみよう	ITA-113-GM	1～			春		2	岡田・カルーディス	802
	イタリア語　基礎ⅠB		ITA-114-GM	1～			春		2	菅野・カルーディス	803
	イタリア語　基礎ⅡA	積極的にイタリア語で表現してみよう	ITA-115-GM	1～				秋	2	岡田・カルーディス	804
	イタリア語　基礎ⅡB		ITA-116-GM	1～				秋	2	菅野・カルーディス	805
	イタリア語　応用Ⅰ	イタリア語基礎学力の向上	ITA-217-GM	2～			春		2	菅野・岡田	806
	イタリア語　応用Ⅱ	イタリア語基礎学力の向上	ITA-218-GM	2～				秋	2	菅野・岡田	807
	スペイン語　基礎Ⅰ	さあ，スペイン語を始めよう！	SPN-119-GM	1～			春		2	木下　雅夫	808
	スペイン語　基礎Ⅱ	スペイン語を続けよう！	SPN-120-GM	1～				秋	2	木下　雅夫	809
	スペイン語　応用Ⅰ	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	SPN-221-GM	2～			春		2	木下　雅夫	810
	スペイン語　応用Ⅱ	スペイン語のレベルアップをしよう！	SPN-222-GM	2～				秋	2	木下　雅夫	811
	中国語　基礎ⅠA		CHN-123-GM	1～			春		2	松本　秀士	812
	中国語　基礎ⅠB		CHN-124-GM	1～			春		2	金野　純	813
	中国語　基礎ⅠC		CHN-125-GM	1～			春		2	松本　秀士	814
	中国語　基礎ⅡA		CHN-126-GM	1～				秋	2	松本　秀士	815

共通科目（外国語）　平成 29 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目、ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目2群	中国語　基礎ⅡB		CHN-127-GM	1～				秋	2	金野　純	816
	中国語　基礎ⅡC		CHN-128-GM	1～				秋	2	松本　秀士	817
	中国語　応用Ⅰ	基礎中国語からさらなる一歩	CHN-229-GM	2～			春		2	斉　霞	818
	中国語　応用Ⅱ	リスニング中国語	CHN-230-GM	2～				秋	2	斉　霞	819
	韓国語　基礎ⅠA	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-131-GM	1～			春		2	羅・申	820
	韓国語　基礎ⅠB	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-132-GM	1～			春		2	羅・申	821
	韓国語　基礎ⅡA	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-133-GM	1～				秋	2	羅・申	822
	韓国語　基礎ⅡB	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-134-GM	1～				秋	2	羅・申	823
	韓国語　応用Ⅰ	実践的な韓国語学習	KOR-235-GM	2～			春		2	羅・李	824
	韓国語　応用Ⅱ	実践的な韓国語学習	KOR-236-GM	2～				秋	2	羅・李	825
	日本語ⅠA	聴解力と会話力を高める	JPL-137-GM	1～			春		2	篠﨑　佳子	826
	日本語ⅠB	漢字・聴解	JPL-138-GM	1～			春		2	滝本いずみ	827
	日本語ⅠC	漢字・聴解	JPL-139-GM	1～			春		2	滝本いずみ	828
	日本語ⅡA	聴解力と会話力を高める	JPL-140-GM	1～				秋	2	篠﨑　佳子	829
	日本語ⅡB	漢字・聴解	JPL-141-GM	1～				秋	2	滝本いずみ	830
	日本語ⅡC	漢字・聴解	JPL-142-GM	1～				秋	2	滝本いずみ	831
	日本語ⅢA	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する	JPL-143-GM	1～			春		2	野口　直子	832
	日本語ⅢB	文法・読解	JPL-144-GM	1～			春		2	新井惠美子	833
	日本語ⅢC	文法・読解	JPL-145-GM	1～			春		2	及川千代香	834
	日本語ⅣA	日本語を通して日本を深く理解する	JPL-146-GM	1～				秋	2	野口　直子	835
	日本語ⅣB	文法・読解	JPL-147-GM	1～				秋	2	新井惠美子	836
	日本語ⅣC	文法・読解	JPL-148-GM	1～				秋	2	及川千代香	837
	日本語ⅤA	大学で学ぶために必要な日本語1	JPL-149-GM	1～			春		2	松本　祥子	838
	日本語ⅤB	発信するための日本語へ	JPL-150-GM	1～			春		2	野口　直子	839
	日本語ⅤC	書く力・話す力を高める	JPL-151-GM	1～			春		2	加藤　陽子	840
	日本語ⅥA	大学で学ぶために必要な日本語 2	JPL-152-GM	1～				秋	2	松本　祥子	841
	日本語ⅥB	発信するための日本語へ	JPL-153-GM	1～				秋	2	野口　直子	842
	日本語ⅥC	書く力・話す力を高める	JPL-154-GM	1～				秋	2	加藤　陽子	843

BASIC LISTENING A

3715030100100

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-101-GL

〔授業の到達目標〕

ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕

時事英語，アメリカの映画・テレビ等の作品から，様々なスチュエーションのもとで話される会話の英語を聞き取り，よりナチュラルなスピードとリズムで「話す」ことができるよう，トレーニングします。毎回小テストと，スピーキングの試験を随時実施します。

〔教材〕

教科書：渡辺・岩崎『CBS News Flash On DVD』第5版，成美堂，2008年
渡辺・岩崎『Roman Holiday』第1版，南雲堂，2009年
プリント

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間

〔成績評価の方法〕

小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕

録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Weather Report/ In Her Shoes
第２週　World News 1 / The War of trhe Roses
第３週　World News 2 / 27 Dresses
第４週　World News 3 / Las Vegas
第５週　World News 4 / Miion Dollar Arm
第６週　World News 5 / Maid of Honor
第７週　World News 6 / When Harry Met Sally
第８週　World News 7 / Love Actually
第９週　World News 8 / The Notebook
第10週　World News 9 / Negotiator
第11週　World News 10 / You've Got Mail
第12週　World News 11 / The Descendants
第13週　World News 12 / The Joy Luck Club
第14週　World News 13 / Elizabethtown
第15週　World News 14 / Paper Chase

BASIC LISTENING B

3715030100200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-102-GL

〔授業の到達目標〕

聞き取れれば言える。「今の分かった！」から始まるリスニングと
コミュニケーション力の向上を目指します。
一字一句を聞きとる作業よりも内容把握，また相手がいる場合には会話がつながるよう
リズム感のある英語を大切にする授業です。

〔授業の内容〕

interactive（対話）またnon-interactive（映画・ニュース）な題材をもとに
毎回warm up-listening and dictation-check-other activitiesを行う
アクティビティーを取り入れた，参加型クラスです。
また，トピックに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage 4*, CENGAGE Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
”What do you think?”意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
第２週　Unit01: Learning a language (In order to)
　　Unit01: Learning a language (I think)
第３週　Unit02: Education for life (I guess)
　　Unit02: Education for life (What do you mean?)
第４週　Unit03: Attitudes toward work (I just want to)
　　Unit03: Attitudes toward work (It sounds like)
第５週　Unit04: Hobbies (I’d love to)
　　Weird food
第６週　Review and check
　　Unit05: Reading (Please be sure to)
第７週　Unit06: Consumerism (Sorry to interrupt)
　　Unit06: Consumerism (It’s difficult to)
第８週　Plan a trip to...
　　Current news
第９週　Unit07: Ideal partner (Hopefully)
　　Unit07: Ideal partner (So you mean)
第10週　Unit08: Co-workers (There’s no need to)
　　Unit08: Co-workers (Definitely)
第11週　Unit09: Historic figures (I was wondering if)
　　Unit09: Historic figures (--or something)
第12週　Unit10: Globalization (on the other hand)
　　Unit10: Globalization (let me finish)
第13週　Unit11: Earth’s resources (one of my concern is)
　　Unit12: Discovery (Changing the word)
第14週　Presentation
第15週　Review and check
各週のunitは授業の進度，時のニュースにより変動することがあります。

BASIC LISTENING C

3715030100300

副　題								担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/水	時限	4/4	コース・ナンバー	ENG-103-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage*, (ISBN: 978-1424002443) Heinle Cengage, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Test 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50

学科事務室を通して連絡を取ること

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Language Learning
第 3 週　Education
第 4 週　Work Attitudes
第 5 週　Hobbies
第 6 週　Reading
第 7 週　Consumerism
第 8 週　Comprehension Exercises
第 9 週　Life Partner
第10週　Co-workers
第11週　Historic Figures
第12週　Globalization
第13週　Earth Resources
第14週　Discovery
第15週　Comprehension Exercises

BASIC LISTENING D

3715030100400

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	3/3	コース・ナンバー	ENG-104-GL

〔授業の到達目標〕

聞き取れれば言える。「今の分かった！」から始まるリスニングと
コミュニケーション力の向上を目指します。
一字一句を聞きとる作業よりも内容把握，また相手がいる場合には会話がつながるよう
リズム感のある英語を大切にする授業です。

〔授業の内容〕

interactive（対話）またnon-interactive（映画・ニュース）な題材をもとに
毎回warm up-listening and dictation-check-other activitiesを行う
アクティビティーを取り入れた，参加型クラスです。
また，トピックに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage 4*, CENGAGE Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
”What do you think?”意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を取ること

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
第２週　Unit01: Learning a language (In order to)
　　Unit01: Learning a language (I think)
第３週　Unit02: Education for life (I guess)
　　Unit02: Education for life (What do you mean?)
第４週　Unit03: Attitudes toward work (I just want to)
　　Unit03: Attitudes toward work (It sounds like)
第５週　Unit04: Hobbies (I’d love to)
　　Weird food
第６週　Review and check
　　Unit05: Reading (Please be sure to)
第７週　Unit06: Consumerism (Sorry to interrupt)
　　Unit06: Consumerism (It’s difficult to)
第８週　Plan a trip to...
　　Current news
第９週　Unit07: Ideal partner (Hopefully)
　　Unit07: Ideal partner (So you mean)
第10週　Unit08: Co-workers (There’s no need to)
　　Unit08: Co-workers (Definitely)
第11週　Unit09: Historic figures (I was wondering if)
　　Unit09: Historic figures (--or something)
第12週　Unit10: Globalization (on the other hand)
　　Unit10: Globalization (let me finish)
第13週　Unit11: Earth’s resources (one of my concern is)
　　Unit12: Discovery (Changing the word)
第14週　Presentation
第15週　Review and check
各週のunitは授業の進度，時のニュースにより変動することがあります。

BASIC LISTENING E

3715030100500

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-105-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子　村尾純子他『Insights 2017』金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。１～２時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
　　Traveling with Your Dog
第２週　Please Take Just a Nibble
第３週　Let's Go to the Museum
第４週　A Fork in the Road
第５週　Products by Women for Women
第６週　Japan's Tokusatsu Hero Gone Global
第７週　Go for the Gold with New Wheelchairs!
第８週　Manzai for Education
第９週　Your Car Might Be Hacked
第10週　How Much Is This Autograph?
第11週　Math Drills for Cambodian Pupils
第12週　Flying Causes Problems
第13週　A Romantic Bridge between…
第14週　Microbes Decide Your Health
第15週　"Light" for a Buddhist Temple

BASIC LISTENING F

3715030100600

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-106-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子　村尾純子他『Insights 2017』金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。１～２時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
　　Traveling with Your Dog
第２週　Please Take Just a Nibble
第３週　Let's Go to the Museum
第４週　A Fork in the Road
第５週　Products by Women for Women
第６週　Japan's Tokusatsu Hero Gone Global
第７週　Go for the Gold with New Wheelchairs!
第８週　Manzai for Education
第９週　Your Car Might Be Hacked
第10週　How Much Is This Autograph?
第11週　Math Drills for Cambodian Pupils
第12週　Flying Causes Problems
第13週　A Romantic Bridge between…
第14週　Microbes Decide Your Health
第15週　"Light" for a Buddhist Temple

BASIC LISTENING G

3715030100700

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-107-GL

〔授業の到達目標〕

日常会話から必要な情報を聞き出し，短い会話ができるように目指します。

〔授業の内容〕

リスニング能力を養成するため，短い会話文からまとまった英文を聞き取ります。音声から情報を聞き取り，内容を把握し，発声練習を行います。毎回，口頭練習を行った後，発表をしてもらいます。

〔教材〕

教科書：Tammy LeRoi　&　Bruce Rogers, *Listening Power 3*, Pearson Longman

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として単語調べを行い，全体に目を通す。
復習では必ず聞き直し，口頭発表するために暗唱できるよう練習してください。

〔成績評価の方法〕

小テスト・試験・発表・出席状況を基に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・木曜日の午前中（授業時間外）講師控室におりますので，サポートセンターを通じてコンタクトを取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Review 1
第 9 週　Unit 7
第10週　Unit 8
第11週　Unit 9
第12週　Unit 10
第13週　Unit 11
第14週　Unit 12
第15週　Review 2

BASIC LISTENING H

3715030100800

副　題	英語リスニング力の強化							担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-108-GL

〔授業の到達目標〕

さまざまなトピックや場面における会話やナレーションを聞き，「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指します。

〔授業の内容〕

“Daily life”, “Places and things”, “People I know”, “Hopes and dreams” と４つのジャンルに関連したユニットに基づき，リスニングエクササイズをベースとしながら語彙や文法事項で補い，既習内容についてディクテーションも行って理解の定着を図ります。また，学生にはなかなか馴染みが薄い，しかしTOEICでは頻出の，ビジネス系の教材も使って応用の機会も持ちます。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, Tamami Wada, *Listening Advantage 3*, Cengage Lerning, 2009

上記テキスト以外に，学生には疎遠なビジネス系のボキャブラリー増強を含むリスニング教材を適宜追加します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

限られた授業時間を有効に活用するため，テキストで示されている “Warm-up” および “Before you listen”は予習して授業に臨むのが当然です。復習としては “Self-study” を中心に，各ユニットで学習した際間違った問題や，明確に判断できなかったことが無くなるように練習を積み重ねること。予習・復習とも授業時間数に相当する時間を充てること。英語に触れる機会にリスニング力は比例するので，映画やテレビなどを積極的に活用すること。

〔成績評価の方法〕

出席（授業時の演習，発表を含む）40%，試験および小テスト40%，課題20%

なお，リスニングという科目の特殊性を鑑み，遅刻には厳密に対処します。また，成績評価は学生便覧に記載されている事項に従うので，各自で確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教室において，またはサポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Orientation / Unit1: Using Computers
第２週　Unit2: Study after school
第３週　Unit3: Part-time jobs
第４週　Business & Economy 1 (Supplementary Material)
第５週　Unit4: Parties
第６週　Unit5: Movies
第７週　Unit6: Hanging out
第８週　Business & Economy 2 (Supplementary Material)
第９週　Unit7: Cyber friends
第10週　Unit8: Boyfriends and girlfriends
第11週　Unit9: Celebrities
第12週　Business & Economy 3 (Supplementary Material)
第13週　Unit10: Health and body
第14週　Unit11: News
第15週　Unit12: Travel / Term-end review

BASIC LISTENING Ⅰ

3715030100900

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-109-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, Tamami Wada, *Listening Advantage, Student Book 3*, Cengage Learning, 2009

Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for activities in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation (including homework) 50%, quizzes and tests 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.

Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1: Using Computers
第 3 週　Unit 2: Study After School
第 4 週　Unit 3: Part-time Jobs
第 5 週　Unit 4: Parties
第 6 週　Unit 5: Movies
第 7 週　Unit 6: Hanging Out
第 8 週　Review 1
第 9 週　Unit 7: Cyber Friends
第10週　Unit 8: Boyfriends and Girlfriends
第11週　Unit 9: Celebrities
第12週　Unit 10: Health and Body
第13週　Unit 11: News
第14週　Unit 12: Travel
第15週　Review 2

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

BASIC LISTENING J

3715030101000

副　題	英語リスニング力の向上									担　当　者	成田　奈央　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	3/3	コース・ナンバー	ENG-110-GL

〔授業の到達目標〕
語彙や表現を増やし，様々な場面・状況で話される英語を理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
この授業では，リスニング力を身に付けることを主眼に学んでいきます。そのために，多くの会話やトークを聞き，ディクテーション（書き取り）も行います。日常生活にまつわる，興味深いトピックに関し，実際の会話にすぐ活かせる英語表現が紹介されている教材を用いながら，ナチュラルスピードで話される英語に慣れていきましょう。TOEICのリスニング問題も，毎回ミニテスト形式で取り入れていきます。
また，リスニング力だけでなく，スピーキング力の向上にも取り組みます。教材をお手本に，同じ発音，リズム，スピードで話すことが出来る様，練習を重ねていきます。そしてその中で会話表現の習得を目指します。

〔教材〕
教科書：Jack C. Richards with Grant Trew, *Tactics for Listening Developing*, 3rd Edition, Oxford, 2010
Takayuki Ishii, Osamu Yamaguchi, Masahiko Iwata, Ayami Murakami, Joe Ciunci, *Listening Explorer for the TOEIC Test*, Seibido, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（15%），課題（15%），テスト（40%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
パソコンを使っての授業となります。大学から教えられたログイン用のパスワードを忘れずにお持ち下さい。また，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 The Weekend
　　Unit 2 City Transportation
第２週　Unit 3 Neighbors
　　Unit 4 Celebrations
第３週　Unit 5 Restaurants
　　Unit 6 Gifts
第４週　Unit 7 Air Travel
　　Unit 8 Mishaps
第５週　Review (Units 1-8)
第６週　Unit 9 Jobs
　　Unit 10 Keeping Fit
第７週　Unit 11 Invitations
　　Unit 12 Campus Life
第８週　Unit 13 Hobbies and Pastimes
　　Unit 14 Shopping Problems
第９週　Unit 15 Hotel Services
　　Unit 16 Movies
第10週　Review (Units 9-16)
第11週　Unit 17 Fears
　　Unit 18 Phone Messages
第12週　Unit 19 Touring a City
　　Unit 20 Airports
第13週　Unit 21 Hotels
　　Unit 22 Traffic
第14週　Unit 23 Roommates
　　Unit 24 Travel
第15週　Review (Units 17-24)

BASIC LISTENING K

3715030101100

副　題	TOEIC listening 部門強化							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-111-GL

〔授業の到達目標〕

毎回の授業におけるリスニング練習をとおして，履修者全員がTOEICにおけるスコア・アップを目指す。またTOEIC用テキストをとおして英語圏の文化を理解する。

〔授業の内容〕

テキストや副教材をとおして，「英語を聴く」ための基礎～応用練習を行う。Listening skill（聴く力）をアップするためには，ただ「聴く」だけでは不十分である。「聞こえたとおりに」すぐ復唱する(shadowing)練習と「聞こえてもスペルが頭に浮かばない単語」の数を極力減らしていく練習，さらに「聞こえない音を文法的に補う練習(grammar listening)をバランスよく行うことでリスニング力を向上していく。

〔教材〕

教科書：Kayoko Shiomi & Tony Cripps, *Tune up for for the TOEIC TEST*, 成美堂, 2009

テキストはTOEICのリスニング４部門(Part 1～Part 4)における強化を図るよう編纂されている。また受講生が単なるTOEIC練習で終わることなく，日常生活から文化，環境，社会問題と幅広い分野でのトピックが題材として取り入れられている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で使用する該当ページの予習・復習を必ず実行すること。予習・復習には各１時間半以上を取ること。

〔成績評価の方法〕

主として毎回の授業終了時に提出してもらうワークシートの成績で評価する(50%)が，課題のノート提出(30%)や授業参加度等(20%)も評価の対象とする。また学期中にTOEICを受験し，相当のスコアを獲得したものにはさらにボーナス点を加算する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限

国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして，希望の日時を連絡すること。

〔備考〕

テキストは第２回の授業までに必ず購入しておくこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスとTOEIC模試による実力把握
第２週　Unit 1
第３週　Unit 2
第４週　Unit 3
第５週　Unit 4
第６週　Unit 5
第７週　Unit 6
第８週　Unit 7
第９週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Unit 14

1週２回の授業のうち１回目はテキストに沿ったTOEIC本番と同じ試験形式で，２回目は問題文のディクテーションを行うことで，問題文に使用される英語に慣れる訓練を行う。

BASIC LISTENING L

3715030101200

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-112-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening skills they need for real understanding and communication, given a combination of listening practice and strategy instruction. Students will also practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, Tamami Wada, *Listening Advantage 4*, 1st Edition, Cengage Learning, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

As for class preparation, students are required to do the tasks ('Warm-up' and 'Before You Listen' sections in the textbook) and look up unfamiliar words in the text. As for reviewing, they will need to do the Self-Study units and read the scripts given by the instructor to check if everything is clear. They will also need to review what they learned in class by listening to the materials recorded in class. More emphasis should be given to reviewing than to preparation.

〔成績評価の方法〕

Class participation--30%
Tests--50%
Assignments --20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Learning a Language
第 3 週　Unit 2 Education for Life
第 4 週　Unit 3 Attitudes Toward Work
第 5 週　Unit 4 Hobbies
第 6 週　Unit 5 Reading
第 7 週　Unit 6 Consumerism
第 8 週　Practice Test 1 /Comprehension Exercises
第 9 週　Unit 7 Ideal Partner
第10週　Unit 8 Co-workers
第11週　Unit 9 Historic Figures
第12週　Unit 10 Globalization
第13週　Unit 11 Earth's Resources
第14週　Unit 12 Discovery
第15週　Practice Test 2 / Comprehension Exercises

The above schedule will be adjusted as necessary.

BASIC LISTENING M

3715030101300

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-113-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：*Q: Skills for Success - Listening and Speaking 2*, 2nd Edition, Oxford, 2015

Additional materials will be distributed in class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

30 min.

〔成績評価の方法〕

Midterm examination (30%), Term-end examination (30%), Assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact the lecturer via email.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Additional materials
第 7 週　〃
第 8 週　Review & Midterm exam
第 9 週　Unit 5
第10週　Unit 6
第11週　Unit 7
第12週　Unit 8
第13週　Additional materials
第14週　〃
第15週　Review & Term-end exam

BASIC LISTENING N

3715030101400

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	4/2	コース・ナンバー	ENG-114-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように５回～６回発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年
「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は出席　20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　FNN　&　NHK　天気予報
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

BASIC LISTENING O

3715030101500

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/1	コース・ナンバー	ENG-115-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように５回から６回の発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年
「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は出席　20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　FNN　&　NHK　天気予報
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

BASIC LISTENING P

3715030101600

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-116-GL

〔授業の到達目標〕

様々なシチュエーションの英語を聞くことによってリスニングの基礎を身につけます。

〔授業の内容〕

テキストを用いたリスニングの基礎学習の他に，生の英語ニュースを毎回聞いてディクテーションしていきます。

〔教材〕

教科書：『Tactics for Listening Developing』3rd版，OXFORD，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，出席30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

miekochibi0310●docomo.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Units 1,2 & News
第３週　Units 3,4 & News
第４週　Units 5,6 & News
第５週　Units 7,8 & News
第６週　Units 9,10 & News
第７週　Unit 11,12 & News
第８週　前半の理解度の確認　& News
第９週　Units 13,14 & News
第10週　Units 15,16 & News
第11週　Units 17,18 & News
第12週　Units 19,20 & News
第13週　Units 21,22 & News
第14週　Units 23,24 & News
第15週　まとめと解説及び理解度の確認

BASIC LISTENING Q

3715030101700

副　題	Know about the world, go around the world	担　当　者	石渡　忠大　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-117-GL

〔授業の到達目標〕

1）基礎的英語会話文の内容理解，2）基礎的英語会話文にて使用される語彙の習得，3）基礎的英語会話文を使っての会話練習，4）パッセージリスニング対処法習得，5）パッセージリスニングに含まれる語彙の習得，および6）世界文化への興味醸造

〔授業の内容〕

世界各国への疑似旅行体験を通した文化の学習への理解を通して，主題に対する興味を醸造し，その興味に基づいて，基礎的な会話文リスニングおよびパッセージ文理解への技術を身につける。使用する文化側面材料は，世界各国の生活で日常的に話題にされる材料。単なるリスニング能力の向上のみならず，「耳からの世界文化知識」として利用できるものである。

〔教材〕

教科書：Carmella Lieske, *Globe Trotters*, センゲージ ラーニング株式会社, 2010, 2011

第3週を超えて教科書を入手しない場合，3週連続で教科書を持ってくることを忘れた学生は欠席扱いとする。毎週，関連動画を利用し，リスニング応用力を身につける。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週行う章の語彙学習と，パッセージ文復習（授業における毎週の理解度確認のため）。

〔成績評価の方法〕

出席5分の4以上，中間テストおよび期末テスト成績6割以上を満たす者を単位取得者とする。課題提出，パッセージ文小テスト，語彙テスト結果も付加的に考慮。出席5分の4以上を満たした学生のみ，期末試験を受ける資格を有する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール：hiroicci●gmx.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　オリエンテーション
第2週　Spain
第3週　China
第4週　Peru
第5週　New York City
第6週　Antarctica
第7週　India
第8週　理解度の確認
第9週　New Zealand
第10週　Africa
第11週　Cambodia
第12週　Egypt
第13週　Italy
第14週　Mars
第15週　理解度の確認

毎週の授業内容や構成は，状況によって変わる可能性があります。

NEWS LISTENING A

3715030200100

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-118-GL

〔授業の到達目標〕
ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕
ニュース英語，アメリカの新旧の映画作品を教材にし，ヒアリング力の養成を目的にします。授業では毎回小テストを行う。学生諸君は，復習に十二分に時間をかけ，録音した音声と同じ音，同じスピード，同じリズムで話すことができるまで，徹底的に練習すること。その練習の成果をチェックするため，随時スピーキング･テストを行う。映画の英語はナチュラルで，我々日本人がもっとも不得意な感情豊かな音声表現・表情・身振り手振りなどを習得するのに大変役に立つはずです。映像を参考に，生き生きとした英語をしっかり自分のものにするように心掛け，努力してください。

〔教材〕
教科書：渡辺・岩﨑『CBS News Flash On DVD』第５版，成美堂，2008年
渡辺・岩﨑『Roman Holiday』（ローマの休日）第１版，南雲堂，2009年
教科書は自宅学習用の課題として，定期的に提出，チェックを行います　授業ではプリントを使用します

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
２時間

〔成績評価の方法〕
小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス等は初回の授業で提示します。

〔備考〕
遅刻は録音の都合上，授業の運営の大きな妨げとなるので厳禁とします

〔授　業　計　画〕

第１週　World News 15 / Two Weeks Notice
第２週　World News 16 / The American President
第３週　World News 17 / THE WEST WING
第４週　World News 18 / Boston Legal No. 8 Live Big
第５週　World News 19 / The Devil Wears Prada
第６週　World News 20 / Lion For Rambs
第７週　World News 21 / Queen
第８週　World News 22 / Far From Heaven
第９週　World News 23 / Wall Street - Money Never Sleeps
第10週　World News 24 / The Bucket List
第11週　World News 25 / Major Crimes
第12週　World News 26 / Charlie Wilson’s War
第13週　World News 27 / Class Action
第14週　World News 28 / Anger Management
第15週　World News 29 / One True Thing

NEWS LISTENING B

3715030200200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-119-GL

〔授業の到達目標〕

「世界を知る」テキストで世界をめぐりながら，聞く話す＝春学期の「分かった！」から
秋学期は「ちゃんと通じた！」へとステップアップさせると共に，
時のnews，時の人のspeechで
リスニング力・コミュニケーション力のさらなる向上を目指します。

〔授業の内容〕

各国の紹介を観ながらテキストのdialogueをしっかり聞き取る一方，
時のニュースにも注目していきます。
warm-up--listening and dictation--check & other activitiesを続け
弱点は強化し，自分の得意な面はさらに伸びるよう，聞いて「理解する」を繰り返します。
また意見交換を行う，春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど，
グループワークも増えていきます。

〔教材〕

教科書：CENGAGE Learning, *GLOBE TROTTERS*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
”What do you think?”意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
　　Unit01: Spain-At the airport
第２週　Current News
　　Unit02: China-From the airport
第３週　TED
第４週　Unit03: Peru-At the hotel
　　Report
第５週　Unit05: New York-Getting directions
　　Current News
第６週　Unit07: India-Shopping
　　Current News
第７週　Malala Yousafzai
　　Interview - Monster (character)
第８週　Unit08: New Zealand-One day excursions
　　Review and Check
第９週　Unit09: Africa-running into problems
　　Nelson Mandela
第10週　Unit10: Cambodia-Bargaining
　　Report
第11週　Solve Mystery!
第12週　Unit11: Egypt-Home visit
　　Unit12: Italy-At a restaurant
第13週　Presentation
第14週　Unit13: Mars-Saying good-bye
　　Current news
第15週　Review and Check
各内容・unitは授業の進度，時のニュースにより変わることがあります。

NEWS LISTENING C

3715030200300

副　題								担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/水	時限	4/4	コース・ナンバー	ENG-120-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Akira Morita『BBC World Profile on DVD』（ISBN: 978-4523177401）Nanundo, 2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance 20%, Participation 10%, Homework 40%, Tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：20-12：50
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Laughter
第２週　Hats
第３週　Sphinx’s Nose
第４週　Terracotta Warriors
第５週　Silver and Platinum
第６週　Athens
第７週　Skydiving
第８週　Comprehension Exercises
第９週　Food and Society
第10週　Shinjuku Station
第11週　Bali’s Temples
第12週　Car Recycling
第13週　Hi-Tech Farming
第14週　Honolulu
第15週　Comprehension Exercises

NEWS LISTENING D

3715030200400

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	3/3	コース・ナンバー	ENG-121-GL

〔授業の到達目標〕

「世界を知る」テキストで世界をめぐりながら，聞く話す＝春学期の「分かった！」から
秋学期は「ちゃんと通じた！」へとステップアップさせると共に，
時のnews，時の人のspeechで
リスニング力・コミュニケーション力のさらなる向上を目指します。

〔授業の内容〕

各国の紹介を観ながらテキストのdialogueをしっかり聞き取る一方，
時のニュースにも注目していきます。
warm-up--listening and dictation--check & other activitiesを続け
弱点は強化し，自分の得意な面はさらに伸びるよう，聞いて「理解する」を繰り返します。
また意見交換を行う，春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど，
グループワークも増えていきます。

〔教材〕

教科書：CENGAGE Learning, *GLOBE TROTTERS*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
”What do you think?”意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
　　Unit01: Spain-At the airport
第２週　Current News
　　Unit02: China-From the airport
第３週　TED
第４週　Unit03: Peru-At the hotel
　　Report
第５週　Unit05: New York-Getting directions
　　Current News
第６週　Unit07: India-Shopping
　　Current News
第７週　Malala Yousafzai
　　Interview - Monster (character)
第８週　Unit08: New Zealand-One day excursions
　　Review and Check
第９週　Unit09: Africa-running into problems
　　Nelson Mandela
第10週　Unit10: Cambodia-Bargaining
　　Report
第11週　Solve Mystery!
第12週　Unit11: Egypt-Home visit
　　Unit12: Italy-At a restaurant
第13週　Presentation
第14週　Unit13: Mars-Saying good-bye
　　Current news
第15週　Review and Check
各内容・unitは授業の進度，時のニュースにより変わることがあります。

NEWS LISTENING E

3715030200500

副　題	英語リスニング能力の向上	担　当　者	伊藤　由紀子　教授

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-122-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：山根繁　Kathleen Yamane『ABC World News 19』初版，金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
Treasury Secretary Announces Historic Changes for $20 Bill
第2週　Daylight Saving Time
第3週　Cuba's Gold Rush
第4週　Made in America: Super Bowl 50
第5週　Firestorm: New CDC Recommendations for Women and Alcohol Provoke Controversy
第6週　Deadly Tornado Outbreak
第7週　Zika Emergency: Community Backlash to Zika-Fighting Plan
第8週　Yelp! Reviewer Beware
第9週　Bridge Dangers: 1-in-10 in Need of Repair
第10週　Sky High Bills: Medevac Trips
第11週　Big Change: SeaWorld to End Killer Whale Shows
第12週　Airline Warning: Lithium Batteries Pose Explosion Risk
第13週　Major Abortion Case: First in Years at Highest Court
第14週　On Alert: Faith and Fear
第15週　Breaking Point: Heroin in America

NEWS LISTENING F

3715030200600

副　題	英語リスニング能力の向上							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-123-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：山根繁　Kathleen Yamane『ABC World News 19』初版，金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み

メール

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
Treasury Secretary Announces Historic Changes for $20 Bill
第2週　Daylight Saving Time
第3週　Cuba's Gold Rush
第4週　Made in America: Super Bowl 50
第5週　Firestorm: New CDC Recommendations for Women and Alcohol Provoke Controversy
第6週　Deadly Tornado Outbreak
第7週　Zika Emergency: Community Backlash to Zika-Fighting Plan
第8週　Yelp! Reviewer Beware
第9週　Bridge Dangers: 1-in-10 in Need of Repair
第10週　Sky High Bills: Medevac Trips
第11週　Big Change: SeaWorld to End Killer Whale Shows
第12週　Airline Warning: Lithium Batteries Pose Explosion Risk
第13週　Major Abortion Case: First in Years at Highest Court
第14週　On Alert: Faith and Fear
第15週　Breaking Point: Heroin in America

NEWS LISTENING G

3715030200700

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-124-GL

〔授業の到達目標〕

内容を理解するためのキーワードを聞き出し，まとまった英文を発表できるよう目指します。

〔授業の内容〕

Basic Listeningで養ったリスニング・ディクテーションの能力を更に向上させるため，CBSニュースを聞きながら練習を行います。毎回，授業で発話練習を行った後，口頭発表をしてもらいます。

〔教材〕

教科書：熊井　信弘　　Stephen Timson, *CBS NewsBreak 3*, 成美堂, 2017

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は単語調べと内容読解を確実に行います。

復習はニュースの聞き直しと，口頭発表のために暗唱できるよう練習します。

〔成績評価の方法〕

学期末テスト・小テスト・口頭発表を基準にし，授業時の意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・木曜日の午前中（授業時間外）講師控室におりますので，サポートセンターを通じてコンタクトを取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Unit 7
第 9 週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Review

NEWS LISTENING H

3715030200800

副　題	英語のさまざま								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-125-GL

〔授業の到達目標〕

リスニングを通して，他の英語の運用能力であるリーディング，ライティング，スピーキングをバランスよく伸ばす。

〔授業の内容〕

BBC(the British Broadcasting Corporation)作成のドキュメンタリーを素材としたDVDを視聴し，“Science and Technology”, “Society and Sports”, “World Interests” の三つのジャンルに分類される各ユニットの，（1）トピックに関する掘り起こし，（2）Video clipsの内容理解，（3）サマリーの作成，（4）文法事項の確認と理解を核に進めます。リスニング科目を標榜していますが，リーディング，ライティング，スピーキングを相互に取り混ぜて実際の運用力につなげます。また，イギリス英語とアメリカ英語の両建てになっている本テキストの特徴を生かし，地域性によって異なるアクセントにも慣れる機会を増やします。必要に応じて，アジア圏の英語，オーストラリアの英語などの音源資料も追加します。

〔教材〕

教科書：Cuong Huynh, Tadayoshi Kaya, Reiko Takahasi, *BBC World Profile on DVD*, Nan’un-Do, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各ユニット共通の予習として，Vocabulary Matching/ Drag-and Dropを済ませて授業に臨むこと。ユニット全体には事前に目を通し，不明な単語は調べておくこと。曖昧なまま授業に参加したことが明らかな場合は，場合によっては出席点から控除します。復習としては，授業で間違えた問題や明確に聞き取れなかったセンテンスや表現のやり直しと，文法事項を見直すこと。分かったつもりは厳禁です。予習・復習は，それぞれ授業時間数に相当するものとします。また，内容理解を深め，知識を増やすために，新聞やネットの記事も読むこと。

〔成績評価の方法〕

出席（授業時の演習，発表を含む）40%，試験および小テスト40%，課題20%

なお，リスニングという科目の特殊性を鑑み，遅刻には厳密に対処します。また，成績評価は学生便覧に記載されている事項に従うので，各自で確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教室にて，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Orientation
　　Unit1: Laughter
第 2 週　Unit2: Hats
第 3 週　Unit3: Sphinx’s Nose
第 4 週　Unit4: Terracotta Warriors
第 5 週　Unit5: Silver and Platinum
第 6 週　Unit6: Athens
第 7 週　Unit7: Skydiving
第 8 週　Unit8: Food and Society
第 9 週　Unit9: Shinjuku Station
第10週　Unit10: Bali’s Temple
第11週　Unit11: Car Recycling
第12週　Unit12: Hi-Tech Farming
第13週　Unit13: Honolulu
第14週　Unit14: Life on Volcanoes
第15週　Review

進捗状況によって変更，また応用演習用の資料を追加することもあります。

NEWS LISTENING I

3715030200900

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-126-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Carmella Lieske, *Globe Trotters-Practice English with Video*, Cengage Learning, 2013

Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for activities in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation (including homework) 50%, quizzes and tests 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1: Spain
第 2 週　Unit 2: China
第 3 週　Unit 3: Peru
第 4 週　Unit 4: Tokyo
第 5 週　Unit 5: New York City
第 6 週　Unit 6: Antarctica
第 7 週　Review 1
第 8 週　Unit 7: India
第 9 週　Unit 8: New Zealand
第10週　Unit 9: Africa
第11週　Unit 10: Cambodia
第12週　Unit 11: Egypt
第13週　Unit 12: Italy
第14週　Unit 13: Mars
第15週　Review 2

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

NEWS LISTENING J

3715030201000

副　題	英語リスニング力の向上									担　当　者	成田　奈央　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	3/3	コース・ナンバー	ENG-127-GL

〔授業の到達目標〕
語彙を増やし，ニュースを理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
アメリカABC放送のニュース番組”World News Tonight”で伝えられた実際のニュースを教材とします。ニュースは，政治や社会から，身近で取り組みやすいジャンルのものまで含みます。アメリカのニュースを中心に世界のニュースを聞き，春学期のBasic Listeningで身に付けた，リスニング力の更なる向上を図ります。アンカーパーソンやリポーターの話すスピードに徐々に慣れ，また，ニュース番組の構成やニュース用語も理解していきます。
TOEICのリスニング問題に関しても，春学期よりも難易度の高いものを，本テスト形式で取り入れ，実践的に，スコアアップを目指します。
また，春学期に引き続き，スピーキング力をより一層高めていくことにも重点を置きたいと考えています。

〔教材〕
教科書：Shigeru Yamane, Kathleen Yamane『ABC World News 19』Kineseido，2017年
プリント（TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。各ユニットのWarm-up Exercises AとBは，予め解いてきて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（10%），課題（15%），テスト（45%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室，または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
授業では，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 Treasury Secretary Announces Historic Changes for $20 Bill
第２週　Unit 2 Daylight Saving Time
第３週　Unit 3 Cuba’s Gold Rush
第４週　Unit 4 Made in America: Super Bowl 50
第５週　Unit 5 Firestorm: New CDC Recommendations for Women and Alcohol Provoke Controversy
第６週　Unit 6 Deadly Tornado Outbreak
第７週　Unit 7 Zika Emergency: Community Backlash to Zika-Fighting Plan
第８週　Unit 8 Yelp! Reviewer Beware
第９週　Unit 9 Bridge Dangers: 1-in-10 in Need of Repair
第10週　Unit 10 Sky High Bills: Medevac Trips
第11週　Unit 11 Big Change: SeaWorld to End Killer Whale Shows
第12週　Unit 12 Airline Warning: Lithium Batteries Pose Explosion Risk
第13週　Unit 13 Major Abortion Case: First in Years at Highest Court
第14週　Unit 14 On Alert: Faith and Fear
第15週　Unit 15 Breaking Point: Heroin in America

NEWS LISTENING K

3715030201100

副　題	Listening practice with BBC news								担　当　者	古庄　信　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-128-GL

〔授業の到達目標〕

ニュース英語の教材を用いて，様々な社会問題の内容をより正確に聞き取ることが出来るよう目指す。またニュース英語をとおして世界の様々な状況を把握する。

〔授業の内容〕

BBCのニュース番組を用いて世界の情勢や様々な出来事を「英語で理解する」ことができるよう訓練する。

〔教材〕

教科書：Sakae Onoda, Lucy Cooker, *BBC Understanding the News in English 10*, First Edition, 金星堂, 2013

BBCニュース番組をとおしてイギリス国内外の出来事を英語で観察し，理解し，様々な国際問題をどのように考えるべきかをわかりやすく編纂した教材。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習には十分な時間を取ること。特に復習では１回目に聞き取れなかった単語をvocabulary noteに入れて何度も練習すること。

〔成績評価の方法〕

毎回行うディクテーションの出来(70%)，語彙力アップのためのVocabulary Note作成(20%)，出席状況・授業態度(10%)により総合的評価を行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～4時限

国際コミュニケーション学科事務室窓口をとおして事前に希望の日時を申し込むこと

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 & Review
第２週　Unit 2 & Review
第３週　Unit 3 & Review
第４週　Unit 4 & Review
第５週　Unit 5 & Review
第６週　Unit 6 & Review
第７週　Unit 7 & Review
第８週　Unit 8 & Review
第９週　Unit 9 & Review
第10週　Unit 10 & Review
第11週　Unit 11 & Review
第12週　Unit 12 & Review
第13週　Unit 13 & Review
第14週　Unit 14 & Review
第15週　Unit 15 & Review

週２回の授業のうち，１回目はテキストに沿った聞き取り，２回目は聞き取りの幅を広げたレビュー（復習）という反復の形で進めていく。

NEWS LISTENING L

3715030201200

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-129-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents dealt in "CBS Evening News" and "CBS This Morning." Activities such as dictations, shadowings, written summaries, and dialogue practices will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated in the course. Students will be given word quizzes every two units.

〔教材〕

教科書：熊井信弘，Stephen Timson, *CBS News Break 3*, First Edition, 成美堂, 2017

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to do the designated task before class and to practice 'Quick Response' and 'Sight Translation' after every lesson.

〔成績評価の方法〕

Class participation--30%
Exams--50%
Word Quizzes--20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Lifestyle/ Education
第 3 週　Unit 2 Environment
第 4 週　Unit 3 Health
第 5 週　Unit 4 Social Activities
第 6 週　Unit 5 Lifestyle/Health
第 7 週　Unit 6 Media/Entertainment
第 8 週　Comprehension Exercises
第 9 週　Unit 7 Health
第10週　Unit 8 Social Media/ Job Search
第11週　Unit 9 Health/Work Environment
第12週　Unit 10 Food/Trend
第13週　Unit 11 Gender/Lifestyle
第14週　Unit 12 Social Activism/Community
第15週　Comprehension Exercises

The above schedule is for the contents of the textbook, in addition to which supplementary audio-visual materials will be used accordingly.

NEWS LISTENING M

3715030201300

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-130-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：R. K. Moller, *World in Focus*, Engage, 2013

Additional materials will be distributed in class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

30 min.

〔成績評価の方法〕

Midterm examination (30%), Term-end examination (30%), Assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact the lecturer via email.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1
第 2 週　Unit 2
第 3 週　Unit 3
第 4 週　Unit 4
第 5 週　Unit 5
第 6 週　Unit 6
第 7 週　Unit 7
第 8 週　Unit 8 & Midterm exam
第 9 週　Unit 9
第10週　Unit 10
第11週　Unit 11
第12週　Unit 12
第13週　Unit 13
第14週　Unit 14
第15週　Unit 15 & Term-end exam

NEWS LISTENING N

3715030201400

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	4/2	コース・ナンバー	ENG-131-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。また授業の最後には，学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表するReproductionを５回から６回していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年
「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は出席20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

NEWS LISTENING O

3715030201500

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/1	コース・ナンバー	ENG-132-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の最後に学習したニュースを暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように５回から６回の発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2017』株式会社ニュートン，2017年
「グローバルニュース・ロイター2017」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は出席　20%，各回の語彙テスト20%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表60%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング＋Reproduction
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。

NEWS LISTENING P

3715030201600

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-133-GL

〔授業の到達目標〕

春学期で培ったリスニング力を基に，更なるリスニング力アップを目指します。

〔授業の内容〕

授業は，様々な国の映像を英語で紹介しているテキストGlobe Trotters　を中心に進めていきます。さらに春学期同様，英語ニュースのディクテーションも続けます。

〔教材〕

教科書：『Globe Trotters』1st版，Cengage，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，出席30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

miekochibi0310●docomo.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Unit 1 & News
第３週　Unit 2 & News
第４週　Unit 3 & News
第５週　Unit 4 & News
第６週　Unit 5 & News
第７週　Unit 6 & News
第８週　Unit 7 & News
第９週　Unit 8 & News
第10週　Unit 9 & News
第11週　Unit 10 & News
第12週　Unit 11 & News
第13週　Unit 12 & News
第14週　Unit 13 & News
第15週　授業のまとめ及び理解度の確認

NEWS LISTENING Q

3715030201700

副　題	BBCニュースを通しての世界理解							担　当　者	石渡　忠大　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-134-GL

〔授業の到達目標〕

1)英語会話理解，２）英文ニュースパッセージ理解技術習得，３）会話及びニュースで取り扱われた語彙の習得，４）ニュースリスニングを通しての現代社会理解，５）Unitで取り扱われた内容に関する質問（英語）

〔授業の内容〕

BBC（英国放送協会）による，良質な英語でのニュース理解を通し，現代社会の現状と問題に関する語彙およびリスニング技術を習得。そのニュース内容に基づき，単なるリスニング授業ではなく，映像とリスニングを通しての知識獲得を目標とする。

〔教材〕

教科書：森田 彰 (著), 萱 忠義 (著), 佐藤 明彦, 原田 慎一, 高橋 礼子, Cuong Huynh『BBCやさしい英語と映像で学ぶ総合英語―BBC World Profile on DVD』初版，南雲堂，2014年

授業開始３週目を越えて教科書を購入しない生徒，３週連続で教科書を授業に持ってこない学生は，欠席扱いとする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週取り扱われる語彙の学習と文章の理解。これに基づき，毎週理解度の確認を行う。

〔成績評価の方法〕

出席５分の４以上，中間・期末期に理解度確認で６割以上の点取得（出席５分の４を満たした学生のみ期末テストを受ける資格を有する）を満たす学生が単位取得。課題提出あり。毎週の語彙テスト結果は付加的に考慮する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール：hiroicci●gmx.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　Laughter
第３週　Hats
第４週　Sphinx’s Nose
第５週　Terracotta Warriors
第６週　Silver and Platinum
第７週　Athens
第８週　Skydiving
第９週　理解度の確認
第10週　Food and Society
第11週　Bali’s Temples
第12週　Hi-Tech Farming
第13週　Honolulu
第14週　Life on Volcanoes
第15週　理解度の確認
授業内容と構成は，場合によって変更されることがあります。

BASIC READING A

3714030100100

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-135-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Scott Miles, *Essential Reading 3*, 2nd Edition, MacMillan, 2017

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, review and summaries of articles. Looking up unfamiliar words, and keeping vocabulary notebooks up to date. Preparing presentations. Planning. writing and editing essays.

〔成績評価の方法〕

Participation 25%, Writing assignments 20%, Reading review quizzes 25%, Class presentations 20%, Vocabulary notebooks 10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction: Students will get to know each other, be introduced to the textbook and the course requirements.

第２週　Personality: Read and analyse "Is it in your blood?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第３週　Personality: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations.

第４週　Punishment: Read and analyse "An Unpunished Crime" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss their own experiences.
A regular speed-reading component will be introduced from this week.

第５週　Punishment: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第６週　Extensive Reading: Read and analyse "Simply read" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第７週　Extensive Reading: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations. Vocabulary notebooks will be checked, and used to prepare for a review quiz.

第８週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

第９週　Money: Read and analyse "The good life?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第10週　Money: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第11週　Love: Read and analyse "The six styles of love" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第12週　Love: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations.

第13週　The Internet: Read and analyse "Is netspeak harming the English language?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第14週　The Internet: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第15週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

BASIC READING B

3714030100200

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-136-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Updated Edition, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, or preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（30%), presentations（20%), homework preparation （20%), journal writing（10%), book reports（10%), and tests（10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to the course and reading strategies; Homwework: readings on classroom culture and communication
第２週　Cause and Effect 3: Unit 1, Lessons 1 and 2; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第３週　Cause and Effect 3: Unit 1, Lesson 3 and Review; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第４週　Cause and Effect 3: Unit 2, Lessons 1 and 2； Homework textbook reading and vocabulary exercises
第５週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report; Homework: internet readings, discussion preparation, and reading of graded reader book
第６週　Cause and Effect 3: Unit 2, Lesson 3 and Review; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第７週　Cause and Effect 3: Unit 3, Lessons 1 and 2; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第８週　Poster Presentations and Cause and Effect 3: Unit 3, Lesson 3 and Review; Homework: textbook reading and vocabulary exercises and presentation practice
第９週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report; Homework: internet readings, discussion preparation, reading of graded reader book
第10週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lesson 1; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第11週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lesson 2 ； Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第12週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lesson 3 and Review; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第13週　Social Issues Readings; Homework: internet readings and discussion preparation
第14週　Graded Reader Book Report and News Article Report presentations; Homwework: reading of graded reader book and presentation practice
第15週　Final Review and any make-up or missed oral reports and presentations

BASIC READING C

3714030100300

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-137-GL

〔授業の到達目標〕
取り上げた題材のひたすら文面・文字を追う…のではなく
全体の流れまた中核をつかみ，感想・意見を述べることができるよう
reading fluencyとreading skillsの向上を目指します。

〔授業の内容〕
身近な題材や皆が一度は聞いたことのある物語から最近のニューストピックスまで
様々な内容を「読み」，時には「見て」いきます。毎回
warm-up--reading--check--discussion & other activitiesを行う
アクティブクラスです。また，テーマに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕
教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, 2nd Edition, Macmillan, 2017
教科書　Essential Reading 1は１年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
”What do you think?”　毎回トピックに応じた意見が求められます。
自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。
また，疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
Unit01: A Japanese student in Chicago
第２週　Studying abroad-1
Unit01: A computer programmer in Tokyo
第３週　Studying abroad-2
Unit02: Shanghai is sinking
第４週　Current News
Unit02: Life in big cities
第５週　Big City vs. Small Town
Discussion
第６週　Unit03: Three unusual hotels
Holiday brochure
第７週　Unit03: The best hotel
Plan a trip to ...
第８週　Current news
Review -- Check
第９週　Unit04: Fright night!
Related topic
第10週　Unit05: We just can’t stop
Shopahaolic
第11週　Unit05: Online gaming
Current news
第12週　Unit06: Shopping from the comfort of your own home
Night Markets
第13週　Presentation
第14週　Unit06: Related article
Current news
第15週　Summary -- Check
各週取り上げるunit・内容は授業の進度，時のニュースなどにより変わることがあります。

BASIC READING D

3714030100400

副　題								担　当　者	A．ピアソン　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-138-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to develop and assess students' reading and vocabulary skills in English.

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary - in contexts provided in the textbook, in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will do this through oral summaries, class discussions and presentations as well as in short written assignments. By providing and requiring usage of vocabulary in context, a course aim is for students to acquire a native sense of usage.

〔教材〕

教科書：*Inside Reading 3*, (Bruce Rubin) 2nd Edition, Oxford University Press, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the textbook before class and look up required vocabulary. Review the material covered in class and prepare for assignments and presentations.

〔成績評価の方法〕

Participation 20%, Assignments and Presentations 30%, Quizzes and Test 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact me through the Support Center.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Unit 1 - From Market to Mall (Previewing and Predicting).
第 2 週　Unit 1.
第 3 週　Unit 2 - Megacities (Identifying Main Ideas vs. Supporting Details).
第 4 週　Unit 2.
第 5 週　Review. Quiz on Units 1 and 2.
第 6 週　Unit 3 - In the Public Eye (Skimming and Making Predictions).
第 7 週　Unit 3.
第 8 週　Unit 4 - Staying Alive (Interpreting Charts, Graphs and Tables).
第 9 週　Unit 4.
第10週　Unit 5 - Bodies in Motion (Summarizing a Text Using Nontext Elements).
第11週　Unit 5.
第12週　Review. Quiz on Units 3, 4 and 5.
第13週　Presentations.
第14週　〃
第15週　Review.

The schedule is intended as a basic outline. Changes may be made as deemed necessary.

BASIC READING E

3714030100500

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-139-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will be exposed to different genres of text and learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities. Students will engage in various kinds of activities which develop not just reading but also listening, speaking, writing, vocabulary and grammar skills. Critical thinking skills will be built through engaging questions for speaking and discussion.

〔教材〕

教科書：Chris Gough/Jackie McAvoy/Scott Miles, *Essential Reading Second edition Level 2*, Second Edition, Macmillan, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must complete homework assignments and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

Tests/quizzes 50%
Class participation 30%
Homework 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Chapter 1 CULTURE SHOCK Cultural differences
第 2 週　Chapter 1 Doing things differently
第 3 週　Chapter 2 COFFEE Coffee: what's in a cup?
第 4 週　Chapter 2 The fair cost of a cup of coffee
第 5 週　Reviews Unit 1 and 2
第 6 週　Chapter 3 TODAY'S TECHNOLOGY Profcasts
第 7 週　Chapter 3 CD vs vinyl
第 8 週　Chapter 4 URBAN LIFE Worlds apart
第 9 週　Chapter 4 Living in the city
第10週　Reviews Unit 3 and 4
第11週　Chapter 5 THE BODY BEAUTIFUL Under the knife
第12週　Chapter 5 Beautiful people have better lives
第13週　Chapter 6 THE PIRACY BUSINESS Big labels small prices
第14週　Chapter 6 Copycats
第15週　Reviews Unit 5 and 6
The above schedule will be adjusted as necessary.

BASIC READING F

3714030100600

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-140-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Craven, *Reading Keys 2*, 1st Edition, Macmillan, 2009
X-Reading.com 1-year subscription, (ISBN 978-486539-0704) X-Reading.com, 2017

X-Reading.com is a website that allows students to read a large number of graded readers on their smartphones, tablets, or computers. Students will need to buy a card (ISBN: 978-486539-0704), which will allow them to use the site for one year. This subscription can be used all year.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to use X-Reading a little bit every day (about 15-20 minutes) and study vocabulary every week in addition to other reading and writing for class. The reading homework will be determined each week based on the progress of the class.

〔成績評価の方法〕

Extensive Reading (X-Reading): 30%
Class attendance and participation: 25%
3 tests on class readings (15% each): 45%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or after class, or by appointment (please e-mail).
E-mail: gsdeorio@gmail.com

〔備考〕

Students will need to bring their textbooks, handouts from previous classes, looseleaf paper, and a dictionary to every class.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course introduction
　　Overview of extensive reading/Introduction to X-Reading
第 2 週　Reading Keys 2 (Unit 1)
　　Class Reading Book 1
第 3 週　〃
第 4 週　Reading Keys 2 (Unit 2)
　　Class Reading Book 1
第 5 週　〃
第 6 週　Reading Keys 2 (Unit 3)
　　Class Reading Book 1 Review & Test
第 7 週　Reading Keys 2 (Unit 3)
　　Class Reading Book 2
第 8 週　Reading Keys 2 (Unit 4)
　　Class Reading Book 2
第 9 週　〃
第10週　Reading Keys 2 (Unit 5)
　　Class Reading Book 2
第11週　Reading Keys 2 (Unit 5)
　　Class Reading Book 2 Review & Test
第12週　Reading Keys 2 (Unit 6)
　　Class Reading Book 3
第13週　〃
第14週　Reading Keys 2 (Unit 7)
　　Class Reading Book 3
第15週　Reading Keys 2 (Unit 7)
　　Class Reading Book 3 Review & Test

The schedule is subject to change based on the needs of the class.

BASIC READING G

3714030100700

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-141-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension through building vocabulary, understanding of text organization and extracting relevant information.

〔授業の内容〕

Students will learn how to discern the main and supporting ideas of reading materials. Students are exptected to build vocabulary through reading a variety of reading materials from the course textbook, newspapers, journals and other media introduced in class. Students will learn to understand English text organization in English to improve reading comprehension.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, Jackie McAvoy, Scott Miles, *Essential Reading 2*, 2nd Edition, Macmillan, 2017

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, reviewing lessons and students need to complete all homework assignments.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 60%
Final Exam 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Culture Shock: Cultural differences
第 3 週　Culture Shock: Doing things differently
第 4 週　Culture Shock: Extra reading
第 5 週　Coffee: Coffee-what's in a cup?
第 6 週　Coffee: The fiar cost of a cup of coffee
第 7 週　Today's Technology: Profcasts
第 8 週　Today's Technology: CD vs vinyl
第 9 週　Today's Technology: Extra reading
第10週　Urban Life: Worlds apart
第11週　Urban Life: Living in the city
第12週　The body Beautiful: Under the knife
第13週　The body Beautiful: Beautiful people have better lives
第14週　The Piracy Business: Big labesl small prices
第15週　The Piracy Business: Copycats
Extra materials will be provided during the course

BASIC READING H

3714030100800

副　題								担　当　者	谷口　めぐみ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-142-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals. and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, et als., *Thoughts and Notions 2*, Cengage Learning, 2014

Students will use the same textbook throughout the academic year. Additional handouts will be prepared by the lecturer if necessary. Students are required to bring their dictionary (paper-based/ electronic) to class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly preparing for ”Reading” in class. Students are recommended to work on ”Warm-Up” and ”Vocabulary” before attending class.

Class review is mainly reviewing reading materials taught in class. Students will be assigned ”Homework” at the end of each class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation (including class attendance) 30%, homework preparation 15%, presentations 25%, reading review quizzes 20%, vocabulary notebooks 10%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

単語学習ノートの作成が必要となります。初回講義時に詳しい説明をいたします。

〔授　業　計　画〕

第１週　Orientation
　　Unit 1
第２週　Unit 1
第３週　Unit 1
　　Unit 2
第４週　Unit 2
第５週　Unit 2
　　Review
第６週　Further Studies(Project)
第７週　Presentation
　　Unit 3
第８週　Unit 3
第９週　Unit 4
第10週　Unit 4
　　Review
第11週　Further Studies(Project)
第12週　Presentation
　　Unit 5
第13週　Unit 5
第14週　Practical Reading
第15週　〃

Course schedule is due to change according to the level and speed of the actual class members.

BASIC READING Ⅰ

3714030100900

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-143-GL

〔授業の到達目標〕

様々な興味深い内容の英文を多く読むことによって，リーディング能力の向上と文法力・語彙力アップを目指します。

〔授業の内容〕

授業はテキスト中心に進めます。各UnitのLesson 1・2・ 3 それぞれのReading 英文を読み終わった後，内容把握・文法・語彙などのエクササイズを行います。また，各Unit 終了後に単語の小テストを行います。

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert & Jessica Beck『Facts & Figures 1, Updated Edition』new版，Heinle，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，提出物＆小テスト30%，平常点30%の総合点で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

miekochibi0310●docomo.ne.jp（change ● to @）

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス　&　Unit 1: Lesson 1
第 2 週　Unit 1: Lesson 2 & 3
第 3 週　Unit 2: Lesson 1 & 2
第 4 週　Unit 2: Lesson 3 & Review
第 5 週　Unit 3: Lesson 1 & 2
第 6 週　Unit 3: Lesson 3 & Review
第 7 週　Unit 4: Lesson 1 & 2
第 8 週　Unit 4: Lesson 3 & Review
第 9 週　Unit 5: Lesson 1 & 2
第10週　Unit 5: Lesson 3 & Review
第11週　Unit 6: Lesson 1 & 2
第12週　Unit 6: Lesson 3 & Review
第13週　Unit 7: Lesson 1 & 2 & 3
第14週　Unit 8: Lesson 1 & 2 & 3
第15週　まとめと解説及び理解度の確認

BASIC READING J

3714030101000

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-144-GL

〔授業の到達目標〕

基本的な英文法を確認しながら，まとまった英文を読解できるよう目指します。

〔授業の内容〕

様々なトピックの英文を読みながら，英文読解を効率的に行う手順や方法を身につけるための練習を行います。

各ユニット毎にライティングの練習もします。

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, Second Edition, Macmillan Education, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては単語調べと内容読解。

復習として内容を確認した後，各ユニット毎に出される英作文を提出します。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストと課題提出を基準にし，出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・木曜日　午前中（授業時間外）講師控室におりますので，サポートセンターを通じてコンタクトを取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Review 1
第 9 週　Unit 7
第10週　Unit 8
第11週　Unit 9
第12週　Unit 10
第13週　Unit 11
第14週　Unit 12
第15週　Review 2

BASIC READING K

3714030101100

副　題								担　当　者	W．トング　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-145-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selectins through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Jessica Beck, *Facts & Figures 1*, Cengage Learning, 2014

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes, to review, reinforce, and extend on the content of each class session.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please come to the Professors' Lounge (2 号館 1 階講師控室) if you have any inquiries.

〔備考〕

In addition to the textbook, short articles will be assigned. We will also study historical speeches and interviews. Writing assignments will focus on content as well as mechanics (grammar, syntax, vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Facts & Figures 1, supplementary materials
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Our schedule is flexible and will almost certainly be modified to fit the needs and interests of our class.

BASIC READING L

3714030101200

副　題	英語リーディング力の向上							担　当　者	成田　奈央　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-146-GL

〔授業の到達目標〕
語彙を増やし，文章構造の理解を深めながら，リーディング力を高めること。

〔授業の内容〕
メインとなるリーディングを正確に読む練習を積み重ね，リーディング力を身に付けていくことを目指します。各レッスン毎にリーディングスキルを学んだり，メインリーディングに関わるところから，語彙を増やしていくことや文法の確認も行います。
また，テキストだけでなく，TOEICのリーディングの問題にも取り組みたいと考えています。

〔教材〕
教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, Eric Hawkins, Harry Haynes, Jessica Beck, and Stefan Kostarelis, *Reading and Vocabulary Development 1 Facts and Figures*, Heinle, 2014
プリント（TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストのReading SkillやMain Textを読み，分からない英単語があれば，それらの意味を調べておいて下さい。また，ComprehensionやVocabulary，Grammarの問題も全て解いた上で，授業に臨んで下さい。
復習では，予習の段階で間違ってしまった問題の確認と，課題（リーディング・ライティング・文法などの課題）に取り組んで下さい。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），課題（35%），テスト（35%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢と課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 The Animal Kingdom
第２週　Unit 1 The Animal Kingdom
　　Unit 2 Human Behavior
第３週　Unit 2 Human Behavior
第４週　テキストの内容に関連した，またはテキストの内容を補う教材
第５週　Unit 3 Agricultural History
第６週　Unit 3 Agricultural History
　　Unit 4 The Sound of Music
第７週　Unit 4 The Sound of Music
第８週　テキストの内容に関連した，またはテキストの内容を補う教材
第９週　Unit 5 Work
第10週　Unit 5 Work
　　Unit 6 Leisure Activities
第11週　Unit 6 Leisure Activities
第12週　テキストの内容に関連した，またはテキストの内容を補う教材
第13週　Unit 7 Native Cultures
第14週　Unit 7 Native Cultures
　　Unit 8 Incredible Journeys
第15週　Unit 8 Incredible Journeys

BASIC READING M

3714030101300

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-147-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, Erick Hawkins, Jessica Beck, *New Reading and Vocabulary Development 1: Facts and Figures*, Cengage Learning, 2014

Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to study vocabulary, read the texts and do homework as preparations for class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation (including homework) 50%, quizzes and tests 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction, Unit 1: The Animal Kingdom (Lesson 1)
第 2 週　Unit 1 (Lessons 2 and 3)
第 3 週　Unit 2: Human Behavior (Lessons 1 and 2)
第 4 週　Unit 2 (Lesson 3), Unit 1 and Unit 2 Review
第 5 週　Unit 3: Agricultural History (Lessons 1 and 2)
第 6 週　Unit 3 (Lesson 3) and Unit 4: The Sound of Music (Lesson 1)
第 7 週　Unit 4 (Lessons 2 and 3), Unit 3 and Unit 4 Review
第 8 週　Unit 5: Work (Lessons 1 and 2)
第 9 週　Unit 5 (Lesson 3) and Unit 6: Leisure Activities (Lesson 1)
第10週　Unit 6 (Lessons 2 and 3)
第11週　Unit 5 and Unit 6 Review
第12週　Unit 7: Native Cultures (Lessons 1 and 2)
第13週　Unit 7 (Lesson 3) and Unit 8: Incredible Journeys (Lesson 1)
第14週　Unit 8 (Lessons 2 and 3)
第15週　Unit 7 and Unit 8 Review

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

BASIC READING N

3714030101400

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-148-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Miles Craven『Reading Keys』new版，Macmillan，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class around 4 hours.

〔成績評価の方法〕

Participation in class activities 10%, Assignment 30%, Presentation 30%, Examination 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外で質問や相談がある場合は，サポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　Theme1 Sports: Unit1The beautiful game
第２週　Theme1 Sports: Unit2 Sports for everyone
第３週　Theme1 Sports: Understanding the main idea
第４週　Theme2 People at work: Unit3 Work around the world
第５週　Theme2 People at work: Unit4 Unusual occupations
第６週　Theme2 People at work: Identifying reference words
第７週　Theme3 Crime and Punishment: Unit5 Life on death row
第８週　Theme3 Crime and Punishment: Unit6 Crazy criminals
第９週　Theme3 Crime and Punishment: Collocations
第10週　Theme4 Growing up: Unit7 Childhood memories
第11週　Theme4 Growing up: Unit8 Growing up in another culture
第12週　Theme4 Growing up: Skimming
第13週　Presentation
第14週　〃
第15週　Review

The schedule might be changed to take into consideration students'understanding and interests.

READING & WRITING A

3714030200100

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-149-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Scott Miles, *Essential Reading 3*, 2nd Edition, MacMillan, 2017

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, review and summaries of articles. Looking up unfamiliar words, and keeping vocabulary notebooks up to date. Preparing presentations. Planning. writing and editing essays.

〔成績評価の方法〕

Participation 25%, Writing assignments 20%, Reading review quizzes 25%, Class presentations 20%, Vocabulary notebooks 10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Review week: Students will review the contents of the first half of the course and set objectives for the new semester.

第２週　Language: Read and analyse RUMR_L00006]Is younger always better?RUMR_L00006] before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第３週　Language: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations.

第４週　Populations in Peril: Read and analyse "Population crisis" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第５週　Populations in Peril: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第６週　Sports: Read and analyse "The greatest show on earth" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第７週　Sports: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations. Vocabulary notebooks will be checked, and used to prepare for a review quiz.

第８週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

第９週　West Meets East: Read and analyse "It's all about Glocal!" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第10週　West Meets East: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第11週　Media: Read and analyse "Consumer beware: advertising techniques" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第12週　Media: Review the article, memorise key expressions, and prepare a short "Life Skills" presentation before class. During the lesson, students will give presentations.

第13週　Success: Read and analyse "For an effective interview" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions, note new vocabulary and discuss the subject.

第14週　Success: Answer Grammar and Skills questions before class. During the lesson, students will compare answers, and prepare a short essay.

第15週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

READING & WRITING B

3714030200200

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-150-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, written work, or preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（30%), presentations（10%), homework preparation （20%), journal writing and written work（20%), book reports（10%), and tests（10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to the course] Examples of readings and summary writing
第２週　Cause and Effect 3: Unit 5, Lessons 1 and 2] Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第３週　Cause and Effect 3: Unit 5, Lesson 3 and Review; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第４週　Cause and Effect 3: Unit 6, Lessons 1 and 2; Summary writing; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第５週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report; Homework: internet readings, discussion preparation, and reading of graded reader book
第６週　Handout Presentations of Social Issue Reading Research
第７週　Cause and Effect 3: Unit 6, Lesson 3 and Review; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第８週　Cause and Effect 3: Unit 7, Lessons 1 and 2; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第９週　Social Issues Readings; Homework: internet readings, discussion preparation
第10週　Graded Reader Written Book Report and Oral Report; Homework: Reading of graded reader book
第11週　Cause and Effect 3: Unit 7, Lesson 3 and Review; Summary writing; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第12週　Social Issues Readings; Homework: internet readings, discussion preparation
第13週　News Article Reports; Homework: written response to classmates' News Reports; Cause and Effect 3: Unit 8, Lessons 1 and 2
第14週　Graded Reader Written Book Report and Oral Report; Homework: reading of graded reader book; Cause and Effect 3: Unit 8, Lesson 3 and Review
第15週　News Article Reports and Final Review; Homework: written response to classmates' News Reports

READING & WRITING C

3714030200300

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-151-GL

〔授業の到達目標〕

春学期に続きreading fluencyとreading skillsの向上と
感想・意見を述べるにとどまらず，内容をまとめる・意見を書くなどを
目指します。

〔授業の内容〕

春学期と同じテキストを使いながら，
warm-up--reading--check--discussion & other activitiesを続け
様々な題材を読むと同時に意見交換・書くという作業が増えていきます。
また，ひとつの物語をクラス全体でretellする，謎解きに挑戦，
春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど，グループワークも多く行います。

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, 2nd Edition, Macmillan, 2017
教科書　Essential Reading 1　は１年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

“What do you think?”　毎回トピックに応じた意見が求められます。
自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。
また，疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
　　Unit07: Speed dating
第２週　Runaway Bride
　　Unit07: The day after the fire
第３週　Retell the story
第４週　Unit08: London’s China Town
　　China Town - Moon Festival
第５週　Cooking
　　Unit09: Face transplants
第６週　Technology
　　Unit09: South Korean beauties
第７週　World Beauty
　　McDonald’s House
第８週　Current news
　　Summary -- Check
第９週　Unit10: Asian Soccer Players
　　Adapt to new culture
第10週　Solve the Mystery!
第11週　Unit11: The pop star who doesn’t exist
　　Unit11: Pop stars overnight
第12週　Unit12: No more junk food
　　School lunch
第13週　Presentation
第14週　Unit12: Westerners turn to a Japanese diet
　　Current news
第15週　Summary -- Check
各週取り上げるunit・内容は授業の進度，時のニュースなどにより変わることがあります。

READING & WRITING D

3714030200400

副　題								担　当　者	A．ピアソン　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-152-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to continue developing students' reading and vocabulary skills in English, and to enhance their ability to express their ideas and opinions in writing.

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary - in contexts provided in the textbook, in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will do this through oral summaries and class discussions as well as in written assignments. By providing and requiring usage of vocabulary in context, a course aim is for students to acquire a native sense of usage.

〔教材〕

教科書：*Inside Reading 3*, (Bruce Rubin) 2nd Edition, Oxford University Press, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the textbook before class and look up required vocabulary. Review the material covered in class and prepare for assignments.

〔成績評価の方法〕

Participation 20%, Assignments 30%, Quizzes and Test 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact me through the Support Center.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Unit 6 - The Physics of Fun (Making Inferences).
第 2 週　Unit 6.
第 3 週　Unit 7 - Mind Wide Open (Annotating and Highlighting a Text).
第 4 週　Unit 7.
第 5 週　Review. Quiz on Units 6 and 7.
第 6 週　Major Writing Assignment #1.
第 7 週　Unit 8 - Child Prodigies (Recognizing Comparison and Contrast).
第 8 週　Unit 8.
第 9 週　Unit 9 - The Competitive Instinct (Understanding Time Signals).
第10週　Unit 9.
第11週　Unit 10 - Getting There (Identifying and Understanding Metaphors).
第12週　Unit 10.
第13週　Review. Quiz on Units 8, 9 and 10.
第14週　Major Writing Assignment #2.
第15週　Review.

The schedule is intended as a basic outline. Changes may be made as deemed necessary.

READING & WRITING E

3714030200500

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-153-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Chris Gough/Jackie McAvoy/Scott Miles, *Essential Reading Second Edition Level 2*, Second Edition, Macmillan, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read the assigned text and do the writing assignments.

〔成績評価の方法〕

Class participation 30%
Tests 40%
Writing assignments 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Chapter 7 ACCESSORIES OF LIFE Doing without
第 2 週　Chapter 7 First generation gadgets
第 3 週　Chapter 8 FASHION Fusion? Confusion!
第 4 週　Chapter 8 Splitting hairs
第 5 週　Reviews Unit 7 and 8
第 6 週　Chapter 9 SOCIAL NETWORKING Social networking
第 7 週　Chapter 9 Vlogging: a new career?
第 8 週　Chapter 10 SKINCARE Marked for life
第 9 週　Chapter 10 Are you metrosexual?
第10週　Reviews Unit 9 and 10
第11週　Chapter 11 SPORTS:PAST AND PRESENT Goal!!!
第12週　Chapter 11 Have a go!
第13週　Chapter 12 FROM COVER TO COVER WhatRUMR_L00007]s that you're reading?
第14週　Chapter 12 A sudden death
第15週　Reviews Unit 11 and 12
The above schedule will be adjusted as necessary.

READING & WRITING F

3714030200600

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-154-GL

〔授業の到達目標〕
To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕
教科書：『Reading Keys 2』1st版，Macmillan，2年
X-Reading.com 1-year subscription, (ISBN 978-486539-0704) X-Reading.com, 2017
X-Reading.com is a website that allows students to read a large number of graded readers on their smartphones, tablets, or computers. Students will need to buy a card (ISBN: 978-486539-0704), which will allow them to use the site for one year. This subscription can be used all year.
Students who purchased an X-Reading subscription and Reading Keys 2 in the Spring do NOT need any new textbooks.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Students will need to use X-Reading a little bit every day (about 15-20 minutes) and study vocabulary every week in addition to other reading and writing for class. The reading homework will be determined each week based on the progress of the class.

〔成績評価の方法〕
Extensive Reading (X-Reading): 25%
Preparation and participation: 20%
3 Tests on class readings (10% each): 30%
Reaction Paper: 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Before or after class, or by appointment (please e-mail).
E-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕
Students will need to bring their textbooks, handouts from previous classes, looseleaf paper, and a dictionary to every class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction
Review of Extensive Reading, Summer Reading report
第 2 週　Reading Keys 2 (Unit 8)
Class Reading Book 4, Introduction to essay writing
第 3 週　Reading Keys 2 (Unit 8)
Class Reading Book 4, Writing paragraphs
第 4 週　Reading Keys 2 (Unit 9)
Class Reading Book 4, Writing paragraphs
第 5 週　Reading Keys 2 (Unit 9)
Class Reading Book 4, Outlining
第 6 週　Reading Keys 2 (Unit 10)
Class Reading Book 4 Review & Test, Outlining
第 7 週　Reading Keys 2 (Unit 10)
Class Reading Book 5, Thesis statements
第 8 週　Reading Keys 2 (Unit 11)
Class Reading Book 5, Introductions
第 9 週　Reading Keys 2 (Unit 11)
Class Reading Book 5, Organizing body paragraphs
第10週　Reading Keys 2 (Unit 12)
Class Reading Book 5 Review & Test, Organizing body paragraphs
第11週　Reading Keys 2 (Unit 12)
Class Reading Book 6, Organizing body paragraphs
第12週　Reading Keys 2 (Unit 13)
Class Reading Book 6, Conclusions
第13週　Reading Keys 2 (Unit 13)
Class Reading Book 6, First drafts
第14週　Reading Keys 2 (Unit 14)
Class Reading Book 6 Review & Test, Editing
第15週　Reading Review
Course Wrap-up
The schedule is subject to change based on the needs of the class.

READING & WRITING G

3714030200700

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-155-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension through building vocabulary, discerning the main and supporting ideas of reading materials and.

〔授業の内容〕

Students will learn skills to discern the main and supporting ideas of a variety of reading materials through classromm activities. Students are expected to oral participation in class as well. Reading materials include the course textbook, newspapers, magazines, journals and other media. Academic writing will be encouraged throughout the course.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, Jackie McAvoy, Scott Miles, *Essential Reading 2*, 2nd Edition, Macmillan, 2017

Additional materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, looking up unfamiliar words and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 60%

Final Exam 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Accessories of Life: Doing without
第 2 週　Accessories of Life: First generation gadgets
第 3 週　Accessories of LIfe: Extra reading
第 4 週　Fashion: Fusion? Confusion!
第 5 週　Fashion: Splitting hairs
第 6 週　Fashion: Extra reading
第 7 週　Social Networking: Social networking
第 8 週　Social Networking: Vlogging - a new career?
第 9 週　Social Networking: Extra reading
第10週　Skincare: Marked for life
第11週　〃
第12週　Sports: Past and Present: Goal！！！
第13週　Sports: Past and present: Have a go!
第14週　From Cover to Cover: WhatRUMR_L00007]s that your're reading?
第15週　From Cover to Cover: A sudden death

Extra materials will be provided during the course

READING & WRITING H

3714030200800

副　題								担　当　者	谷口　めぐみ　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-156-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, et als., *Thoughts and Notions 2*, Cengage Learning, 2014
Yoshinori Tomoshige, *English Composition Based on the Comparison Between English and Japanese*, Nan'un-Do, 2017

Please bring your dictionary (paper-based/electronic) to class.All students are required to purchase the Nan'un-do textbook. Students starting from Fall term should also purchase "Thoughts and Notions 2".

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly pre-reading required texts (looking up words you are not familiar with and up-dating your "vocabulary notebook") and preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation (including attendance) 30%, homework preparation and "vocabulary notebooks" 15%, written work and in-class presentation 40%, reading review quizzes 15%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること

〔備考〕

Students starting from Fall term will be given individual instructions from the lecturer on the usage of "vocabulary notebooks".

〔授　業　計　画〕

第１週　(Orientation) Unit 6
第２週　Unit 6
第３週　Review
　　Writing Practice
第４週　Writing Practice
第５週　Unit 7
第６週　〃
第７週　Review
　　Writing Practice
第８週　Writing Practice
第９週　Unit 8
第10週　〃
第11週　Review
　　Writing Practice
第12週　Writing Practice
第13週　Further Studies -Expressing your thoughts/views
第14週　Writing Practice
第15週　〃

Class schedule is due to change according to the actual speed and level of participating students.

READING & WRITING Ⅰ

3714030200900

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-157-GL

〔授業の到達目標〕

春学期で培ったリーディング力・文法力・語彙力を基に，リーディング及びライティング能力の向上を目指します。

〔授業の内容〕

授業はテキスト中心に行います。メインのReading　に入る前に，各Unitで扱われているテーマについての様々な情報とリーディング・スキルを学習し，Reading　読後は，内容把握・質疑応答・文法・などのエクササイズを行います。さらに，Unitのテーマについての自分の意見を英文で書く練習をします。

〔教材〕

教科書：Miles Craven『Reading Keys 1』MACMILLAN，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，提出物＆小テスト30%，平常点30%の総合点で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

miekochibi0310●docomo.ne.jp（change ● to @）

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　& Unit 1
第２週　Unit 2
第３週　Unit 3
第４週　Unit 4
第５週　Unit 5
第６週　Unit 6
第７週　Unit 7
第８週　Unit 8
第９週　Unit 9
第10週　Unit 10
第11週　Unit 11
第12週　Unit 12
第13週　Unit 13
第14週　Unit 14 & 15
第15週　まとめと解説及び理解度の確認

READING & WRITING J

3714030201000

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-158-GL

〔授業の到達目標〕

春学期に学んだ事を基盤にして，更に深く長文を読解できるよう目指します。

〔授業の内容〕

様々なトピックの英文を読みながら，英文読解を効率的に行う手順や方法を身につけるための練習を行います。月に一回単語帳・リーディングレポートを提出してもらいます。

〔教材〕

教科書：Jackie McAvoy, *Essential Reading 2*, Second Edition, Macmillan Education, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては，単語調べ・内容読解を30分程，復習は内容の見直しを30分程行います。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストと課題提出を基準にし，出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・木曜日の午前中（授業時間外）講師控室にいますので，サポートセンターを通じてコンタクトを取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Review 1
第 9 週　Unit 7
第10週　Unit 8
第11週　Unit 9
第12週　Unit 10
第13週　Unit 11
第14週　Unit 12
第15週　Review 2

READING & WRITING K

3714030201100

副　題								担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-159-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and to develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Jessica Beck『Thoughts and Notions 2』Cengage Learning，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes, to review, reinforce, and extend on the content of each class session.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Testssol]quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please come to the Professors' Lounge (2 号館 1 階講師控室) if you have any inquiries.

〔備考〕

In addition to textbooks, short articles will be assigned. We will also study historical speeches and interviews. Writing assignments will focus on content as well as mechanics (grammar, syntax, vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Thoughts and Notions 2, supplementary materials
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Our schedule is flexible and will almost certainly be modified to fit the needs and interests of our class.

READING & WRITING L

3714030201200

副　題	英語リーディング力とライティング力の向上	担　当　者	成田　奈央　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-160-GL

〔授業の到達目標〕

リーディング力の更なる向上と，自分の考え・意見を英語で表現するライティング力を高めること。

〔授業の内容〕

春学期のBasic Readingを基盤に，更なるリーディング力とライティング力を身に付けることを目指します。Basic Readingに比べ，ライティングにも力を入れていきます。授業でライティングスキルを学び，課題において，スキルを実際に活かしながらエッセーを書いていきます。エッセーを数多く書いていく中で，ライティング力の向上を図ります。エッセーに対しては，一人一人に丁寧な指導を致します。

引き続き，TOEICのリーディングの問題も取り入れていきます。

〔教材〕

Basic Readingから引き続いての授業となるため，テキストはレベルや進捗状況を見ながら決めたい，と考えています。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習では，テキストのReading SkillとMain Textを読み，分からない英単語があれば，それらの意味を調べておいて下さい。また，Comprehension，Vocabulary，Grammarの問題も全て解いた上で，授業に臨んで下さい。

復習では，予習の段階で間違ってしまった問題の確認と，授業で学んだことをしっかり活かす様努めながら，課題のエッセーに取り組んで下さい。

〔成績評価の方法〕

授業態度（30%），課題（35%），テスト（35%）により総合的に評価します。

日頃の努力（授業に取り組む姿勢，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　テキストを決定した後，お知らせ致します。
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

READING & WRITING M

3714030201300

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-161-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, Harry Haynes, Jessica Beck, *New Reading and Vocabulary Development 2: Thoughts and Notions*, Cengage Learning, 2014

Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to study vocabulary, read the texts and do homework as preparations for class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation (including homework) 50%, quizzes and tests 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.

Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction, Unit 1: Inventions and Inventors (Lesson 1)
第 2 週　Unit 1 (Lessons 2 and 3)
第 3 週　Unit 2: Sports (Lessons 1 and 2)
第 4 週　Unit 2 (Lesson 3), Unit 1 and Unit 2 Review
第 5 週　Unit 3: Food (Lessons 1 and 2)
第 6 週　Unit 3 (Lesson 3) and Unit 4: Mysteries (Lesson 1)
第 7 週　Unit 4 (Lessons 2 and 3), Unit 3 and Unit 4 Review
第 8 週　Unit 5: Money (Lessons 1 and 2)
第 9 週　Unit 5 (Lesson 3) and Unit 6: Business (Lesson 1)
第10週　Unit 6 (Lessons 2 and 3)
第11週　Unit 5 and Unit 6 Review
第12週　Unit 7: People (Lessons 1 and 2)
第13週　Unit 7 (Lesson 3) and Unit 8: Out and About (Lesson 1)
第14週　Unit 8 (Lessons 2 and 3)
第15週　Unit 7 and Unit 8 Review

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

READING & WRITING N

3714030201400

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-162-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Miles Craven『Reading Keys』new版，Macmillan，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class around 4 hours.

〔成績評価の方法〕

Participations in class activities 10%, Assignment 30%, Presentation 30%, Exam 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外で質問や相談がある場合は，サポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Theme5 Success, fame, and money: Unit9 The secret of success
第 2 週　Theme5 Success, fame, and money: Unit10 Is money the answer?
第 3 週　Theme5 Success, fame, and money: Antonyms
第 4 週　Theme6 Going places: Unit11 The car is king
第 5 週　Theme6 Going places: Unit12 Incredible journeys
第 6 週　Theme6 Going places: Separating fact and opinion
第 7 週　Theme7 Culture connections: Unit13 We do things differently
第 8 週　Theme7 Culture connections: Unit14 The language puzzle
第 9 週　Theme7 Culture connections: Scanning
第10週　Theme8 The way we live: Unit15 No place like home
第11週　Theme8 The way we live: Unit16 Fighting the future
第12週　Theme8 The way we live: Identifying reference words
第13週　Presentation
第14週　〃
第15週　Reviews

The schedule might be changed to take into consideration students' understanding and interests.

SPEAKING PRACTICE A

3717030100100

副　題								担　当　者	W．トング　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-163-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve on their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Kathryn Harper, *Communication Strategies 4*, Cengage Learning, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes, to review, reinforce, and extend on the content of each class session.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please come to the Professors'Lounge (2号館1階講師控室) if you have any inquiries.

〔備考〕

In addition to the textbook, we will study through articles, dialogues, and other media. Individual and group presentations will also be part of our curriculum, as well as discussion and debate.

〔授　業　計　画〕

第1週　Communication Stratagies 4, other activities based on supplementary material
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Our schedule is flexible and will almost certainly be modified to fit the needs and interests of our class.

SPEAKING PRACTICE B

3717030100200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-164-GL

〔授業の到達目標〕

This course will improve practical English communication skills.

〔授業の内容〕

Students build confidence to handle a variety of situations in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and discussion.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, 2nd Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
Participation 30%
Vocabulary project 10%
Completion of Homework 20%
Quizzes and tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staff room.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introducing yourself. Conversation skills.
第 2 週　Compensation strategies. Asking for clarification.
第 3 週　Vocabulary learning strategies.
第 4 週　Discussing routines.
第 5 週　Discussing hobbies and pastimes.
第 6 週　Asking for and giving opinions.
第 7 週　Agreeing and disagreeing.
第 8 週　Giving advice.
第 9 週　Making and responding to suggestions.
第10週　Participating in discussions.
第11週　Active listening and showing interest.
第12週　Discussing current topics.
第13週　Reporting on the past.
第14週　Talking about experiences.
第15週　Review

SPEAKING PRACTICE C

3717030100300

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-165-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build confidence and fluency in English conversation.

〔授業の内容〕

Students will learn how to handle a variety of situations in English and express their thoughts in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and group work.

〔教材〕

教科書：David Paul, Tracy Davis, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Additional materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Revision of contents of each class. Preparation to participate in conversations.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 50%
Presentations 30%
Oral Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Topic: Friends
第 3 週　〃
第 4 週　Topic: Free Time
第 5 週　〃
第 6 週　Topic: The Past
第 7 週　〃
第 8 週　Topic: Family
第 9 週　〃
第10週　Topic: Work
第11週　〃
第12週　Topic: City Life
第13週　〃
第14週　Topic: Beliefs
第15週　〃
This syllabus is subject to some change.

SPEAKING PRACTICE D

3717030100400

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-201-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Ascher, A. , Saslow, J.『Summit 1』Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve studying necessary grammar and vocabulary, and preparing to take part in conversations, discussions and speeches.

〔成績評価の方法〕

Students are graded on class participation（60%), presentations（20%), homework preparation (10%）　and speaking tests（10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductions Conversation Topic, and Summit 1 Unit 1; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第２週　Family Conversation Topic, and Summit 1 Unit 1; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第３週　School Experiences Conversation Topic, and Summit 1 Unit 2; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第４週　Healthy Living and Lifestyle Conversation Topic, and Summit 1 Unit 2; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第５週　Hobbies and Entertainment Conversation Topic, and and Summit 1 Unit 3; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第６週　Me, My Life Poster Presentations
第７週　Summit 1 Unit 3; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第８週　Fluency Topics, and and Summit 1 Unit 4; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第９週　Best and Worst Travel Experiences Conversation Topic, and Summit 1 Unit 4; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第10週　Examples of News Report assignment; Practice Mind-Mapping skills for giving oral report; Preparation: readings of example internet news articles
第11週　〃
第12週　Summit 1 Unit 5; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals
第13週　〃
第14週　News Report presentations and discussions using Mind-Maps; Preparation: Preparing to discuss classmates' news topics
第15週　Fluency Topics, Speaking Test, Review and Course Evaluation

SPEAKING PRACTICE E

3717030100500

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-202-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversational skills.

〔教材〕

教科書：J. Saslow, A. Ascher, *SUMMIT 1*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2012

Additional materials will be distributed in class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

30 min.

〔成績評価の方法〕

Midterm examination (30%), Term-end examination (30%), Assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact the lecturer via email.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1
第 3 週　cont'd
第 4 週　Unit 2
第 5 週　cont'd
第 6 週　Unit 3
第 7 週　cont'd
第 8 週　Review & Midterm examination
第 9 週　Unit 4
第10週　cont'd
第11週　Unit 5
第12週　cont'd
第13週　Pairwork demonstration
第14週　cont'd
第15週　Review & Term-end examination

SPEAKING PRACTICE F

3717030100600

副　題	Let's Have Fun Speaking English Together!	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-203-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations. To allow the students many opportunities to speak English in class. This is a fun and exiting class and if the students study hard, they will gradually improve their English speaking skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussion, where possible and appropriate, will be incorporated to allow the students to improve their general conversational skills. This is a fun an dynamic English conversation class is for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class, handouts will be used and students will talk mostly in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember; practice makes perfect! . There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 2』（Joan Saslow and Allan Ascher）3rd版，Person Longman，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all the lessons and to make sure they have completed all homework assignments. If a student misses a class they must find out what they missed.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

zerosumgame●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons and do all the homework. If you do your best, you can get a good final grade for this class. It is up to you. You will need to bring the textbook to all the lessons.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第 2 週　Student introduction activities. Getting reacquainted with someone. Conversational models and speaking practice.
第 3 週　Greeting a visitor to your country. Conversation practice and vocabulary building. Idioms and other expressions. Discussion of gestures and customs. Model conversation study, practice and extensions.
第 4 週　Conversations about movies and entertainment. Vocabulary building and idiom work. Functional English practice; Apologizing for being late. Discussing preferences for movie genres, and making recommendations. Group work on debating the effects violence has on viewers of the mass media.
第 5 週　Functional English related to staying in hotels. Checking into a hotel. Leaving and taking a message, and requesting housekeeping services.
第 6 週　Conversation practice related to cars and driving. Describing a car accident. Reporting a problem with a car. Renting a car. Discussion revolving around good and bad driving techniques.
第 7 週　Conversation and discussion theme based around Personal Care and Appearance. Functional English revolves around shopping in a store and requesting information.
第 8 週　The conversation themes revolve around healthy eating. Model conversation dialog work, vocabulary building and discussions.
第 9 週　Discussion and conversations around personality. Getting to know someone's likes and dislikes. How to cheer someone up! Discussion and conversations around birth order.
第10週　Functional English revolving around discussion of the arts. Making recommendations for a good museum. Talking about and describing objects.
第11週　Talking about artistic talents. Vocabulary building and model dialog practice.
第12週　Discussion and conversations about favourite artists. More idiom practice, model dialog building and vocabulary work.
第13週　Conversation themes based around computers and the modern age. Troubleshooting problems with technology. Making recommendations when buying computers and other technological things in a store.
第14週　Discussion and conversation practice based around ethics and values. Making ethical choices. Returning someone else's property and expressing personal values.
第15週　Summation of the course of study and final evaluations.

SPEAKING PRACTICE G

3717030100700

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-204-GL

〔授業の到達目標〕
To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕
教科書：*Impact Issues 3*, Pearson Longman
Kehe, D. and Kehe P.D., *Discussion Strategies*, 2nd Edition, Pro Lingua Associates, 2012
"Discussion Strategies" (2012, Second Edition) by Kehe, D. and Kehe P.D. will be used through the spring and fall semesters （通年用) weekly, in addition to the main textbook ("Impact Issues 3").

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
In this class, students will be required to actively participate in conversation and discussions in pairs and small groups. Preparation at home will take about an hour or more, for each class. Preparation includes the following: preparing questions to ask your classmates, preparing your answers to instructor-prepared discussion questions, pre-learning and reviewing vocabulary necessary for in-class activities (e.g., filling out lesson worksheets) and quizzes, and preparing and practicing role-plays/simulations/speeches to present in class.

〔成績評価の方法〕
Role-plays and speeches, and in-class activities: 60%
Quizzes and homework: 40%
Detailed checklists/rubrics that describe the grading will be distributed in class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Contact by email: englishteachertky●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕
Depending on how much time will be needed to work on each unit, some units from the textbook might be skipped (as more time will have to be devoted to the other units).

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Orientation, getting to know each other
Unit 1 - Looks (cosmetic surgery)
第 2 週　Units 2 & 3 - Friends or more? / Environment issues
第 3 週　Role play (speech) 1
第 4 週　Units 4 & 5 - Rules / Plagiarism
第 5 週　Units 6 & 7 - Housework / Childbirth
第 6 週　Role play (speech) 2
第 7 週　Units 8 & 9 - Earning money / Body art
第 8 週　Units 10 & 11 - Adult children / Boss-employee relationships
第 9 週　Role play (speech) 3
第10週　Units 12 & 13 - Culture shock / Career choices
第11週　Units 14 & 15 - Racism, immigration / High tech gadgets
第12週　Role play (speech) 4
第13週　Units 16 & 17 - Women's roles-expectations / Compromising
第14週　Units 18 & 19 - Wars / Unrequited love
第15週　Role play (speech) 5

SPEAKING PRACTICE H

3717030100800

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-205-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve practical English conversation skills in a variety of situations. After taking this course, you will be able to express your ideas and discuss some topics with your classmates. You can also obtain presentation skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher『Top Notch 2』Third版，Pearson Education，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class around 4h.

〔成績評価の方法〕

Participation in class activities 20% Assignment 30%, Presentation 30%, Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外で質問や相談がある場合は，サポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit1 Getting Acquainted: Greet a visitor to your country
第 2 週　Unit1 Getting Acquainted: Discuss gestures and customs
第 3 週　Unit2 Going to the Movies: Discuss preferences for movie genres
第 4 週　Unit2 Movies and Entertainment: Describe and recommend movies
第 5 週　Unit3 Staying in Hotels: Leave and take a message
第 6 週　Unit3 Staying in Hotels: Request housekeeping services
第 7 週　Unit4 Cars and Driving: Discuss a car accident
第 8 週　Unit4 Cars and Driving: Discuss good and bad driving
第 9 週　Unit5 Personal Care and Appearance: Make an appointment at a salon or spa
第10週　Unit5 Personal Care and Appearance: Define the meaning of beauty
第11週　Presentation Strategies/Pronunciation exercises
第12週　Presentation
第13週　〃
第14週　Grammar/Connecting ideas
第15週　Comprehensive Review

The schedule might be changed to take into consideration students' understanding and interests.

SPEAKING PRACTICE Ⅰ

3717030100900

副　題								担　当　者	石渡　忠大　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-206-GL

〔授業の到達目標〕

1）与えられた題目に関して，明確かつ論理的に口頭で述べる技術を身に着ける，2）スピーキングで応用できる語彙や表現の習得，3）日常会話における典型的なトピック例を知る

〔授業の内容〕

日常的に使用される会話トピックに慣れ親しみ，これらのトピックにおける質問に答えるだけではなく，そのトピックの傾向に沿って，学生たち自らがトピックを探し出し，質問する能力を養う。その過程で，語彙や表現方法を学び，意見提示のための具体的材料にしていく。サンプルアンサー分析を通し，何が論理的で，何が明確な答えなのかを学習する。同時に実用的文法学習を行い，スピーキング実践に活かす。

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher, *Top Notch 1 Student Book with MyEnglishLab (3rd Edition)*, 3rd Edition, Pearson Education ESL, 2015

授業開始 3 週を越えて教科書を購入しない学生，3 週連続で教科書を忘れた学生は欠席扱いとされる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前週使用のトピックの復習（授業内で小テストされる）

〔成績評価の方法〕

授業出席 5 分の 4 以上，中間期と期末に理解度の確認を行う（授業出席 5 分の 4 を満たした学生のみ受ける資格がある）で 6 割以上の成績取得。課題提出あり。付属的に小テストの結果も考慮する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール：hiroicci●gmx.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　オリエンテーション
第 2 週　Getting Acquainted
第 3 週　Going Out
第 4 週　The Extended Family
第 5 週　Food and Restaurants
第 6 週　Technology and You
第 7 週　Staying in Shape
第 8 週　Review
第 9 週　理解度の確認
第10週　On Vacation
第11週　Shopping for Clothes
第12週　Taking Transportation
第13週　Spending Money
第14週　Review
第15週　理解度の確認

挙げられているトピックは授業における分析トピックであり，これらのトピック以外のトピックが授業において使用されるものとする。

SPEAKING PRACTICE J

3717030101000

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	5/2	コース・ナンバー	ENG-207-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a vareity of conversation skills in a variety of situations. Students will practice skills such as initiating and building coversations. Students will have many opportunities to improve their general English skills.

〔教材〕

教科書：『Communication Strategies 1』（David Paul）Cengage，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every day homework will be assigned, therefore coming to class prepared to participate in the class discussion is very important. During class students will speak on the unit of the week as well as other topics that may come up.

〔成績評価の方法〕

30% Homework
10% Tests
60% Class Participation

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class or by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Friends
第 3 週　Free Time
第 4 週　The Past
第 5 週　The Family
第 6 週　Work
第 7 週　City Life
第 8 週　Beliefs
第 9 週　The Future
第10週　Transportation
第11週　Vices
第12週　Marriage
第13週　Animals
第14週　Computers
第15週　Review

SPEAKING PRACTICE K

3717030101100

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-208-GL

〔授業の到達目標〕

実践的な英語コミュケーション・スキルを，演習を通して身につけることを目指します。

〔授業の内容〕

この授業ではディスカッションやプレゼンテーションを行い，英語でのコミュニケーションに必要なスキルを高めていきます。Unitごとのテーマに合わせて，語彙や文法についても学びます。スピーキングのクラスですので，積極的に英語で発話することが何よりも重要になります。

〔教材〕

教科書：*Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学習予定のUnitには事前に目を通し，単語を調べるなど予習をしてくること。授業内で指定する課題はすべて提出すること。

〔成績評価の方法〕

試験（50%），授業への参加度（30%），小テストその他課題（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔備考〕

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1
第 2 週　Extra materials, discussion
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Extra materials, discussion
第 5 週　Unit 3
第 6 週　Extra materials, discussion
第 7 週　Presentation I
第 8 週　Unit 4
第 9 週　Extra materials, discussion
第10週　Unit 5
第11週　Extra materials, discussion
第12週　Unit 6
第13週　Extra materials, discussion
第14週　Unit 7
第15週　Presentation II

SPEAKING PRACTICE L

3717030101200

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-209-GL

〔授業の到達目標〕

There are three goals for the students. The first is students will learn how to hold a discussion. The students will learn basic presentation skills. finally the students will learn to speak in real life situations.

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie as well as participating poster presentation. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka『『Impact Issues 3』（Impact Issues）New版,』（Pearson Longman，2009年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class.

〔成績評価の方法〕

1) 30% Participation and effort
2) 20% Homework
3) 30% presentations
4) 20% interview

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

There are no office hours.
In the first class the teacher will give the students an email to contact him.

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction In this class there will be an explanation of the grading system, the outline of the course and the rules of the classroom.
第２週　Impact Issues Unit One - Cosmetic Surgery Discussion Skills - How to form a group - What is important? Homework - prepare group presentations on how you would improve yourself
第３週　Impact Issues - Cosmetic Surgery Group Presentations on how you will improve yourself Skills - presentation voice levels
第４週　Impact Issues - unit 2 - friends and lovers Skills - discussion - The members of a group - choosing the leader, the scribe, and the reporte Homework- prepare a small presentation on your best friend
第５週　Impact Issues - unit 2 - friends and lovers Presentation - best friends Skills presentation - gestures
第６週　Impact Issues - unit 3 - I don’t care Presentation home work - Disagreement with a family member Discussion skills - describing the topic
第７週　Impact Issues - unit 3 - I don’t care Presentation - disagreement with a family member Presentation skill - posture
第８週　Impact Issues - unit 4 - Rules, Rules, Rules Discussion Skills - feedback Homework - How I have changed
第９週　Impact Issues - unit 5 - Plagiarism Discussion Skills - Disagreement in a group Presentation - What is success
第10週　Class Presentation - What is success Presentation skills - First Impressions
第11週　The Issue Impact Issues - unit 12 - No Place Like home Discussion Skills - Summarizing and presenting the topic Homework - Interview International students and find out about their experiences in Japan.
第12週　Impact Issues - unit 12 - No Place Like home Students report their findings about foreign students. Students prepare a presentation on their Foreign interview findings.
第13週　The students Present their interview findings as a PowerPoint presentation
第14週　Test - Group discxussion
第15週　Review of the semester course.

SPEAKING PRACTICE M

3717030101300

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-210-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build fluency and expand the ability to converse in English.

〔授業の内容〕

Rather than focus on the grammar or specific vocabulary, this course revolves around the practice and understanding of different interpersonal skills involved in conversation.

〔教材〕

教科書：*Conversation Strategies*, (Pro LinguaAssociates) second Edition, 2012

We will use smartphones for recrdings of speaking activities.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to study vocabulary and practice language patterns for presentation outside of class time. The amount of time spent outside class should be expected to equal or exceed the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance(20%), class participation(20%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email at andypalaski●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Rejoinders and follow-ups
第 2 週　Confirmations and Clarifications.
第 3 週　Keeping or Killing a Conversation.
第 4 週　Requests and Responses.
第 5 週　Soliciting Details.
第 6 週　Comparisons.
第 7 週　Distinguishing Nuance and Finding the Right Word.
第 8 週　Starting and Stopping a Conversation.
第 9 週　Beginning and Ending a Phone Call; Phone Conversations.
第10週　Expressing Opinions.
第11週　Discussion Connectors.
第12週　Summarizing.
第13週　Conducting a Formal Meeting.
第14週　Review.
第15週　Evaluation presentation.

SPEAKING PRACTICE N

3717030101400

副　題	Building Confidence in Speaking English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-211-GL

〔授業の到達目標〕
To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕
教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage Learning, 2008
Supplementary handouts, such as newspaper articles, will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm-up, every Friday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕
Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕
Please bring the following to every class:
1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2. A notebook (for lectures & discussions)
3. A file (to put all the handouts in)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation-Textbook Introduction
　　Theme 1: Attitudes
第 2 週　Theme 2: Money
第 3 週　Theme 3: Health
第 4 週　Theme 4: Education
第 5 週　Theme 5: Crime
第 6 週　Theme 6: The Environment
第 7 週　Theme 7: Aliens
第 8 週　Theme 8: History
第 9 週　Theme 9: Women in Society
第10週　Theme 10: The Developing World
第11週　Theme 11: Violence
第12週　Theme 12: Politics
第13週　Theme 13: Economics
第14週　Theme 14: Happiness
第15週　Theme 15: Globalization
Presentation preparations begin in Week 3. Preparation time will be incorporated to each class.

SPEAKING PRACTICE O

3717030101500

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-212-GL

〔授業の到達目標〕

To practise and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practise skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, *Impact Issues 2*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly exercises to be completed outside class and submitted to the instructor outside or inside class hours.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular class and homework exercises and tests given in class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductions - getting to know each other. What makes people interesting? Presentation practice talking about yourself and other people.
第２週　Where do you live? Talking about the city and its problems. How to get to where you live. Practice explaining in English.
第３週　Is English necessary? Talking about English and why we should, or shouldn't, study it. Debating about being international.
第４週　Spending money and making plans for the future - talking about education. Practice talking about opinions and presenting views on family values and family problems.
第５週　Forever single. Talking about marriage. What about the future? Married or single? Practice interviewing in English.
第６週　Friends. Practice talking about friends and about values. Your own friends - practice introducing someone in an informal and interesting way.
第７週　Food. Talking about food and being a vegetarian. Practice presenting likes and dislikes.
第８週　Bullying. Practice talking about the problems of bullying and emotions. Asking for and giving advice.
第９週　Problems of old age. Talking about what people should do to care for the elderly. Practice telling a story
第10週　Is education important? Talking about the value of education. Why go to university? Practice talking about priorities
第11週　An international relationship. Talking about relationships and changes. The future of your relationship. Talking about options. What would you do and what wouldn't you do?
第12週　Too little too late. Talking about the environment. What I'm going to do about the environment. Talking about your decisions.
第13週　Ben and Mike - are they gay? Talking about truth and rumours. Discussing what you think is right and wrong
第14週　Government control Talking about private life. Practice presenting a persuasive argument
第15週　Living together. Talking about relationships and marriage. Moving in with my boyfriend. Practice discussing and coming to a decision

SPEAKING PRACTICE P

3717030101600

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-213-GL

〔授業の到達目標〕

実践的な英語コミュケーション・スキルを身につけることを目指します。

〔授業の内容〕

この授業ではディスカッションやプレゼンテーションを行い，英語でのコミュニケーションに必要なスキルを高めていきます。Unitごとのテーマに合わせて語彙や文法についても学びます。スピーキングのクラスですので,積極的に英語で発話することが何よりも重要になります。

〔教材〕

教科書：*Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学習予定のUnitには事前に目を通し，単語を調べるなど予習をしてくること。授業内で指定する課題はすべて提出すること。

〔成績評価の方法〕

試験（50%），授業への参加度（30%），小テストその他課題（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔備考〕

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1
第 2 週　Extra materials, discussion
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Extra materials, discussion
第 5 週　Unit 3
第 6 週　Extra materials, discussion
第 7 週　Presentation I
第 8 週　Unit 4
第 9 週　Extra materials, discussion
第10週　Unit 5
第11週　Extra materials, discussion
第12週　Unit 6
第13週　Extra materials, discussion
第14週　Unit 7
第15週　Presentation II

SPEAKING PRACTICE Q

3717030101700

副　題								担　当　者	A．ピアソン　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-214-GL

〔授業の到達目標〕

This course aims to develop students' ability to use spoken English in interacting on a range of topics and to increase their confidence communicating in English in pairs and groups and when presenting.

〔授業の内容〕

The emphasis of this course will be on developing speaking and discussion skills through various topics. Students will be able to use a greater range of vocabulary and expressions and become more confident in their speaking. The course will involve activities focused on discussion of students' opinions, exchange of information and presentations.

〔教材〕

教科書：*TOP NOTCH 1*, (Joan Saslow, Allen Ascher) 3rd Edition, Pearson Longman, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the textbook before class and make lists of required vocabulary. Record yourself speaking and use this to practice pronouncing difficult words and phrases. Review the material covered in class and prepare for presentations.

〔成績評価の方法〕

Proactive participation 20%, Presentations 20%, Quizzes and Test 60%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact me through the Support Center.

〔備考〕

Students are expected to use English as much as possible in class. Most of the activities will be done in pairs and groups.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction. Unit 1 - Getting Acquainted.
第 2 週　Unit 2 - Going Out.
第 3 週　Unit 3 - The Extended Family.
第 4 週　Unit 4 - Food and Restaurants.
第 5 週　Unit 5 - Technology and You.
第 6 週　Review. Quiz on Units 1 - 5.
第 7 週　Unit 6 - Staying in Shape.
第 8 週　Unit 7 - On Vacation.
第 9 週　Unit 8 - Shopping For Clothes.
第10週　Unit 9 - Taking Transportation.
第11週　Unit 10 - Spending Money.
第12週　Review. Quiz on Units 6 - 10.
第13週　How to do presentations.
第14週　Presentations.
第15週　Review.

The schedule is intended as a basic outline. Changes may be made as deemed necessary.

SPEAKING PRACTICE R

3717030101800

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-215-GL

〔授業の到達目標〕
To improve and developing students' communicational abilities

〔授業の内容〕
This course will focus on developing "oral" and "aural" communication. However, attention will be given to reading and writing as well. Listening, speaking, reading and writing will be combined throughout the course. In addition to these four basic skills, the course will address the needs of students by dealing with the norms of grammar and punctuation in order to apply them when students write speech scripts.
Remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕
教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
参考書：*Longman Dictionary of Contemporary English*
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary
Colledge level English-Japanese dictionaries

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
You will be expected to:-prepare appropriately and complete homework tasks for the next class.
-review class content and take notes to further your understanding.
-research and prepare for presentation projects.
These activites should be arranged for 4 hours in total for each unit.

〔成績評価の方法〕
attendance with class participation 50%, exams 30% and homework 20%
なお，上記は学生便覧記載の成績評価事項を前提に行われるので，各自必ず確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
At classroom or at the support center

〔備考〕
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。
また，板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction and orientation.
Unit1 "Friends" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第２週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第３週　Unit 2 "Free Time" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第４週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第５週　Unit 3 "The Past" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第６週　Communication exercise and act out:utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第７週　Unit 4 "The Family" utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第８週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies for writing opinions
第９週　Unit 5 "Work" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第10週　Communication exercise and act oututilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第11週　Unit 6 "City Life" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第12週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第13週　Unit 7 "Beliefs"Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第14週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第15週　Review
To make the classes more effectively and practically, we will be jumping and refferring to differrent pages of the textbook, without following them sequentially one after another.

SPEAKING PRACTICE S

3717030101900

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-216-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, CENGAGE, 2008
N. S. Yoshitomi『It’s Handy! - A Book of Phrases』南雲堂，2015年
Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 120 minutes, Making Dialogues: 60 minutes. Class Review: 60 minutes

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%, Class Participation 25%, Oral Assessments 25%, Exams 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

The students will receive the teacher's email address in the first class.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction
Icebreaking, Small Talk
It's Handy! Phrases 1-6
第 2 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 1, Friends - Part 1
It's Handy! Phrases 7-12
第 3 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 1, Friends - Part 2
It's Handy! Phrases 13-18
第 4 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 2, Free Time - Part 1
It's Handy! Phrases 19-25
第 5 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 2, Free Time - Part 2
It's Handy! Phrases 26 - 31
第 6 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 3, The Past - Part 1
It's Handy! Phrases 32 - 37
第 7 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 3, The Past - Part 2
It's Handy! Phrases 38 - 43
第 8 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 4, The Family - Part 1
It's Handy! Phrases 44 - 49
第 9 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 4, The Family - Part 2
It's Handy! Phrases 50 - 55
第10週　Small Talk
Communication Strategies Unit 5, Work - Part 1
It's Handy! Phrases 56 - 61
第11週　Small Talk
Communication Strategies Unit 5, Work - Part 2
It's Handy! Phrases 62 - 67
第12週　Small Talk
Communication Strategies Unit 6, City Life - Part 1
It's Handy! Phrases 68 - 70
第13週　Small Talk
Communication Strategies Unit 6, City Life - Part 2
第14週　Review
第15週　Exam Coverage

SPEAKING SKILLS A

3717030200100

副　題								担　当　者	W．トング　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-166-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Kathryn Harper『Communication Strategies 4』Cengage Learning，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes, to review, reinforce, and extend on the content of each class session.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please come to the Professors'Lounge (2号館1階講師控室) if you have any inquiries.

〔備考〕

In addition to the textbook, we will study through articles, dialogues, and other media. Individual and group presentations will also be part of our curriculum, as well as discussion and debate.

〔授　業　計　画〕

第1週　Communication Strategies 4, other activities based on supplementary materials
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Our schedule is flexible and will almost certainly be modified to fit the needs and interests of our class.

SPEAKING SKILLS B

3717030200200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-167-GL

〔授業の到達目標〕

This course continues to build on and improve the skills developed in Speaking Practice B.

〔授業の内容〕

The overall aim is to help students communicate actively in English. They will learn practical communication skills to interact on a wide variety of topics through vocabulary building and fluency in English.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, 2nd Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance 10%
Participation 30%
Vocabulary project 10%
Completion of homework 20%
Quizzes and tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please leave a message in the staff room.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Discussing future plans.
第 2 週　Using numbers.
第 3 週　Discussing trends.
第 4 週　Stating preferences.
第 5 週　Making comparisons.
第 6 週　Using conditionals to describe future possibility.
第 7 週　Discussing work and jobs.
第 8 週　Discussing money.
第 9 週　Discussing family issues.
第10週　Discussing Japanese culture.
第11週　Discussing travel experiences.
第12週　Talking about environmental issues.
第13週　Talking about relationships.
第14週　Talking about health issues.
第15週　Review

SPEAKING SKILLS C

3717030200300

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-168-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build confidence and fluency in English conversation.

〔授業の内容〕

Students will learn how to handle a variety of situations in English and express their thoughts in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and group work.

〔教材〕

教科書：David Paul, Tracy Davis, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Revision of contents of each class. Preparation to participate in conversations.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 50%
Presentations 30%
Oral Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Topic: The Future
第 2 週　〃
第 3 週　Topic: Transportation
第 4 週　Topic: Transportaion
第 5 週　Topic: Vices
第 6 週　〃
第 7 週　Topic: Marriage
第 8 週　〃
第 9 週　Topic: Animals
第10週　Topic: Aminals
第11週　Topic: Computers
第12週　〃
第13週　Topic: The Generation Gap
第14週　〃
第15週　Topic: Travel
This syllabus is subject to some change

SPEAKING SKILLS D

3717030200400

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-217-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Ascher, A., Saslow, J.『Summit 1』Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve preparing to take part in conversations, discussions and speeches by studying necessary language and vocabulary.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on class particpation（60%), presentations（20%), homework preparation（10%）and speaking tests（10%）.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to Social Issues Project, and Summit 1 Unit 6; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第２週　Discussing Various Example Social Issues, and Summit 1 Unit 6; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第３週　Discussing Various Example Social Issues, and Summit 1 Unit 7; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第４週　Choosing a Social Issue topic for research and presentation, and Summit 1 Unit 7; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第５週　Class Survey of Social Issues, and Summit 1 Unit 8; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第６週　Collation of Class Survey, and Summit 1 Unit 8; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第７週　Sharing Research of Social Issues, and Summit 1 Unit 9; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第８週　Preparation of Handout and Notecards, and Summit 1 Unit 9; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第９週　Practice Speech with Handout, and Summit 1 Unit 10; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第10週　Social Issue Handout Presentations
第11週　〃
第12週　Example of Internet Reading Report and Discussion Assignment, and Summit 1 Unit 10; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第13週　Internet Reading Report; Discussion Assignments
第14週　〃
第15週　Fluency Topics, Review and Course Evaluation

SPEAKING SKILLS E

3717030200500

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-218-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of subjects.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：J. Saslow and A. Ascher, *SUMMIT 1*, 2nd Edition, Pearson Longman, 2012

Additional materials will be distributed in class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

30 min.

〔成績評価の方法〕

Midterm examination (30%), Term-end examination (30%), Assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact the lecturer via email.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 6
第 3 週　cont'd
第 4 週　Unit 7
第 5 週　cont'd
第 6 週　Unit 8
第 7 週　cont'd
第 8 週　Review & Midterm examination
第 9 週　Unit 9
第10週　cont'd
第11週　Unit 10
第12週　cont'd
第13週　Pairwork demonstration
第14週　cont'd
第15週　Review & Term-end examination

SPEAKING SKILLS F

3717030200600

副　題	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-219-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics. The main goal of this class is to give the students the maximum time to practice speaking English. The theme of the class is English for travelling, living or studying in an English speaking country. The class will help diligent students build their vocabulary and particularly their command over idioms.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions in English. This is a fun and dynamic English conversation class is for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class the students will talk mostly do activities in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember; practice makes perfect! There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 2』（Joan Saslow and Allan Ascher）3rd版，Pearson Longman，2015年

The textbook will be used in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to bring the textbook to all lessons. Be sure to do all the homework. If absent, check what you missed from the classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons on time. If you do your best in the lessons you should get a good grade, if you work hard,

you'll definitely get the best grade. It's up to you! If you miss a class find out what you missed. If your friend misses a class, help them to find out what they need to do for the next lesson. The best policy is to come to all the lessons.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Welcome back to the course of studies. Explanation of the grading system and course expectations. Conversations based around the student's summer break experiences.
第 2 週　Conversation strategies around making small talk. Describing a busy schedule and developing cultural awareness.
第 3 週　Discussion and debates around health issues. How to call in sick and making medical or dental appointments.
第 4 週　More conversation built around health issues. How to talk about medical treatments and medications.
第 5 週　Conversation strategies based on getting things done. Getting someone to do something. Requesting express services and evaluating the quality of a service.
第 6 週　Functional English based around making recommendations. Recommending a book. Offering to lend items and describing your reading habits.
第 7 週　More model dialog study and discussing the quality of reading material.
第 8 週　Conversation themes revolve around natural disasters. Conveying a message and reporting news. Describing natural disasters and preparing for emergencies.
第 9 週　Conversations and discussions about life plans. Explaining a change to life and work plans.
第10週　Discussing skills, abilities and qualifications. Vocabulary and idiom building.
第11週　Conversation theme revolves around holidays and traditions. Wishing someone a good holiday. Asking about local customs and exchanging information about holidays. Explaining and comparing wedding traditions.
第12週　Communication goals build around the discussion themes of inventions and discoveries. Describing technology. Functional English concerning taking responsibility for mistakes.
第13週　Conversation practice concerned with describing inventions and how they solve problems, and the impact of inventions and discoveries.
第14週　Communication goal to discuss and debate controversial issues. How to bring up a controversial subject. Discussing difficult issues politely. Understanding some main global issues and the pros and cons of solutions.
第15週　Final summarisations of the course of study and preparation for final evaluations.

Good luck with your studies. Come to all the lessons and try your best. I want you to be happy in the classes, challenge and learn many new things. Please come to all the lessons. If you miss a class, find out what you missed. If your friend misses a class, help them find out what they missed.

SPEAKING SKILLS G

3717030200700

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-220-GL

〔授業の到達目標〕
To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕
教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage, 2010
Kehe, D. and Kehe P.D., *Discussion Strategies*, 2nd Edition, Pro Lingua Associates, 2012
"Discussion Strategies" (2012, Second Edition) by Kehe, D. and Kehe P.D. will be used through the spring and fall semesters （通年用) weekly, in addition to the main textbook ("Communication Strategies 2" by David Paul).

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
In this class, students will actively participate in conversation and discussions in pairs and small groups. Preparation at home will take about an hour or more, for each class. Preparation includes the following: preparing questions (for surveys or discussions) to ask your classmates, preparing your answers to instructor-prepared discussion questions, pre-learning and reviewing vocabulary necessary for in-class activities (e.g., filling out lesson worksheets), reviewing the material for in-class quizzes, and preparing (doing online searches or searching for information in the library) and practicing role-plays/simulations/speeches to present in class. In the fall semester, some of your speaking assignments might involve interviewing or surveying people outside of your class.

〔成績評価の方法〕
Role-plays/speeches and in-class activities: 60%
Quizzes and homework: 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Email: englishteachertky●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Attitudes (marrying other nationals)
第 2 週　Money (and greed)
第 3 週　Health (free health care)
第 4 週　Education
第 5 週　Crime (death penalty)
第 6 週　The environment
第 7 週　Aliens (intelligent life on other planets)
第 8 週　History
第 9 週　Women in society (equality of opportunity)
第10週　The developing world (free trade)
第11週　Violence
第12週　Politics (extremism)
第13週　Economics (taxes)
第14週　Happiness
第15週　Globalization

Depending on the pace, parts of some of the units in the textbook will be skipped.

SPEAKING SKILLS H

3717030200800

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-221-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics. After taking this course, you will be able to discuss various topics in a group and present your experiences and ideas more fluently.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher『Top Notch 2』Third版，Pearson education，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 3 to 4h.

〔成績評価の方法〕

Participation in class activities 20%, Assignment 30%, Presentation 30%, Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時間以外で質問や相談がある場合はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit6 Eating Well: Talk about food passions
第２週　Unit6 Eating Well: Discuss lifestyle changes
第３週　Unit7 About Personality: Get to know a new friend
第４週　Unit7 About Personality: Discuss personality and its origin
第５週　Unit8 The Arts: Recommend a museum
第６週　Unit8 The Arts: Talk about artistic talent
第７週　Unit9 Living in Cyberspace: Troubleshoot a problem
第８週　Unit9 Living with Computers: Describe how you use the Internet
第９週　Unit10 Ethics and Values: Discuss ethical choices
第10週　Unit10 Ethics and Values: Express personal values
第11週　Presentation Strategies/Pronunciation practice
第12週　Presentation
第13週　〃
第14週　Grammar/Connecting ideas
第15週　Comprehensive Review

The schedule might be changed to take into consideration students' comprehension and interests.

SPEAKING SKILLS Ⅰ

3717030200900

副　題								担　当　者	石渡　忠大　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-222-GL

〔授業の到達目標〕

1）各トピックで使用される構文理解，2）意見構成能力獲得，3）日常的トピックに対しての理解，4）様々な文化への理解

〔授業の内容〕

世界中で日常的に起こる事件やイベント，文化的側面を学び，理解を深めつつ，各トピックに関しての意見を構成する能力，そしてそこで使用される構文を使用し，他の同様なトピックへの口頭における対応力を身に着ける。

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka, *Impact Issues (2nd Edition)*, Second Edition, Pearson Longman, 2012

授業開始3週を越えて教科書を購入しない学生，3週連続で教科書を忘れた学生は欠席扱いとされる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前週の学習内容を復習。その理解に基づき，毎週理解度の確認を行う。

〔成績評価の方法〕

出席5分の4必須。中間期と期末に理解度確認を行う。（出席5分の4を満たした学生のみ期末の理解度の確認に臨む資格がある）。課題提出あり。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール：hiroicci●gmx.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　オリエンテーション
第2週　FIRST IMPRESSIONS
第3週　TRAFFIC JAM
第4週　WHO NEEDS THE LOCAL LANGUAGE?
第5週　GETTING AHEAD
第6週　FOREVER SINGLE
第7週　WHAT ARE FRIENDS FOR?
第8週　理解度の確認
第9週　WHAT'S FOR DINNER?
第10週　CYBER BULLYING
第11週　TAKING CARE OF FATHER
第12週　WHY GO TO SCHOOL?
第13週　INTERNATIONAL RELATIONSHIPS
第14週　TOO LITTLE, TOO LATE
第15週　理解度の確認

挙げられているトピックは授業における分析トピックであり，これらのトピック以外のトピックが授業において使用されるものとする。

SPEAKING SKILLS J

3717030201000

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	5/2	コース・ナンバー	ENG-223-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practicalEnglish conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a vareity of conversation skills in a variety of situations. Students will practice skills such as initiating and building coversations. Students will have many opportunities to improve their general English skills.

〔教材〕

教科書：『Communication Strategies 2』（David Paul）Cengage，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every day homework will be assigned, therefore coming to class prepared to participate in the class discussion is very important. During class students will speak on the unit of the week as well as other topics that may come up.

〔成績評価の方法〕

30% Homework
10% Tests
60% Class Participation

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Before or After class or by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Animals
第 3 週　Money
第 4 週　Health
第 5 週　Education
第 6 週　Crime
第 7 週　The Environment
第 8 週　Aliens
第 9 週　History
第10週　Women in Society
第11週　The Developing World
第12週　Violence
第13週　Politics
第14週　Economics
第15週　Review

SPEAKING SKILLS K

3717030201100

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-224-GL

〔授業の到達目標〕

ディスカッションやプレゼンテーションを通して，前期の授業で身につけた英語コミュニケーション・スキルをさらに高めることを目指します。

〔授業の内容〕

Speaking Practiceの授業で学習した事項を軸にディスカッションやプレゼンテーションを行い，実践的な英語コミュニケーション・スキルを磨きます。テキストの内容ごとに語彙や文法を学習し，リスニングの演習も行います。スピーキングのクラスですので，積極的に英語で発話することが何よりも重要になります。

〔教材〕

教科書：*Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学習予定のUnitには事前に目を通し，単語を調べるなど予習をしてくること。授業内で指定する課題はすべて提出すること。

〔成績評価の方法〕

試験（50%），授業への参加度（30%），小テストその他課題（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔備考〕

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 8
第 2 週　Extra materials, discussion
第 3 週　Unit 9
第 4 週　Extra materials, discussion
第 5 週　Unit 10
第 6 週　Extra materials, discussion
第 7 週　Presentation I
第 8 週　Unit 11
第 9 週　Extra materials, discussion
第10週　Unit 12
第11週　Extra materials, discussion
第12週　Unit 13
第13週　Extra materials, discussion
第14週　Unit 14
第15週　Presentation II

SPEAKING SKILLS L

3717030201200

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-225-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this subject is to get the students to speak!

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie project as well as participating in a foreigner interview project. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka『『Impact Issues 3』（Impact Issues）New』（Pearson Longman，2009年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class. the students also in this semester will have to prepare to interview foreign students on the campus.

〔成績評価の方法〕

40% - There will be an interview test at the end of each term
20% - Class participation will be evaluated.
20% - Evaluation of the video project.
20% - Tests for each chapter studied

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I am a part time teacher so my office hours are ten minutes before class.
At the beginning of the semester we will create a class line account

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授　業　計　画〕

第１週　review of first semester
第２週　Impact Issues Unit 6 - House work Video Project Tokyo History project. In this project the students will make five minute presentations on a place in Tokyo.
第３週　Impact Issues Unit 6 - Housework continue Tokyo History Project - The students put forward idea where they will make a movie.
第４週　Impact Issues - The Unborn Child History Project - Revision of non verbal message in a presentation.
第５週　Impact Issues The Unborn Child The Unborn Child - Presentation - How many children do I want Tokyo History Project - editing of the project
第６週　Final Editing of the history Project. In the class students will check their final project
第７週　Viewing of the history project.
第８週　This section of the course the students will be begin to look what jobs they would like to do in the future. The students will do a self analysis of their character and beging to search for the jobs they want to do in the future. They will look at their motivations and skills and decide what job they want to do.
第９週　In these classes the students will present posters of a job they would like to do in the future. The students will have to answer these questions in their presentation.
第10週　In these classes we will be be watching the movie ”the Pursuit of Happyness” The movie is broken down to four parts and student will have to prepare questions to to discuss.
第11週　In this part of the course we are going to teach students about interviews and the importance of first impressions.
第12週　The students will learn about the different types of questions they might be asked in an interview. For example Traditional questions, behavioral questions, crazy questions etc
第13週　Continuation of questions and preparation for final test
第14週　The final test in this part of the course will that one student will ask three students questions for 7 minutes. The interview will be video taped and students will have to give themselves a score and justify that score.
第15週　Review of the semester work
The schedule can change depending on the number of students in the class.

SPEAKING SKILLS M

3717030201300

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-226-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to focus conversation skills in to a more sophisticated and informed use in discussions.

〔授業の内容〕

In the first semester, basic communication skills are practiced and enhanced. In the second semester, these skills are focused in discussions, which means the conscious focus on one topic at a time.

〔教材〕

教科書：*Discussion Strategies*, (Pro LinguaAssociates) 2nd Edition, 2011

We will use smartphones to record discussion activities

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spent an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance(20%), class participation(20%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations (20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email at andypalaski●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Rejoinder and follow-ups
第 2 週　Comprehension Checks and Clarifications.
第 3 週　Answering with Details.
第 4 週　Discussion Presentation 1.
第 5 週　Paragraph Clarifications.
第 6 週　Interrupting Someone and Words That Describe.
第 7 週　Reported Speech.
第 8 週　Volunteering an Answer.
第 9 週　Discussion Presentation 2.
第10週　Clarifying by Summarizing.
第11週　Telling Other People's Opinions and Experiences.
第12週　Helping the Leader Explain.
第13週　Discussion Presentation 3.
第14週　Final Group Discussion Project Preparation.
第15週　Final Group Discussion Project Presentation.

SPEAKING SKILLS N

3717030201400

副　題	Getting ready for negotiations in English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-227-GL

〔授業の到達目標〕
To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕
教科書：Joan Saslow and Allen Ascher, *TOP NOTCH 2*, 3rd Edition, Pearson Longman, 2015
Supplementary handouts, such as newspaper articles, will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm up, every Friday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕
Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕
Please bring the following to every class:
1. A dictionary (either a hard copy or electric)
2. A notebook (for lectures & discussions)
3. A file (to put all the handouts in)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation-Textbook Introduction
　　Unit 1
第 2 週　Unit 2
第 3 週　Unit 3
第 4 週　Unit 4
第 5 週　Unit 5
第 6 週　Presentation practice
第 7 週　〃
第 8 週　Unit 6
第 9 週　Unit 7
第10週　Unit 8
第11週　Unit 9
第12週　Presentation
第13週　〃
第14週　Unit 10
第15週　Review
Presentation preparations begin in Week 3. Preparation time will be incorporated to each class.

SPEAKING SKILLS O

3717030201500

副　題								担　当　者	S．クレイ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-228-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to spend at least four hours per week preparing for, and reviewing, this class. Further instruction will be given on the details of this each time, but students can expect weekly exercises to be completed outside class and submitted to the instructor outside or inside class hours.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on students' performance in class, on regular class and homework exercises and tests given in class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to answer questions before and after class and students will receive my email address for questions and submission of homework when classes have begun.

〔授　業　計　画〕

第１週　Friends. What kind of people do you like? Developing a conversation and expressing agreement and disagreement. Relationships that are good and bad. Talking about other people.
第２週　Free time. How do you spend your free time? Giving a personal opinion in formal and informal settings.
第３週　The past. Story telling. Telling someone about a past event or happening. Meeting someone after a long time.
第４週　The family. Talking about personal problems. Acknowledging different opinions and politely disagreeing.
第５週　Work. Talking about work. Reporting on life changes. A job interview, talking about yourself, your strengths and weaknesses.
第６週　City Life. Complaining about a situation. Apologising and giving reasons.
第７週　Beliefs. Talking about beliefs, giving personal information. Convincing others of something.
第８週　The future. Talking about the future. Talking about cause and effect. Negotiating with someone about a future situation.
第９週　Transportation. Strongly disagreeing with someone. Giving excuses.
第10週　Vices. Expressing doubt and confusion. Giving advice.
第11週　Marriage. Talking about impressions, guesses and ideas about the unknown. Talking about desires "What would you like to do if you could…"
第12週　Animals. Conceding an argument. Asking for information before making a decision.
第13週　Computers. Giving opinions and impressions about a future situation. Selling an item or idea and giving advice.
第14週　The generation gap. Asking someone what they will do in a future situation. Comparing the past with the present.
第15週　Travel. Talking about plans, desires and possible barriers. Giving a tour.

SPEAKING SKILLS P

3717030201600

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-229-GL

〔授業の到達目標〕

ディスカッションやプレゼンテーションを通して，前期の授業で身につけた英語コミュニケーション・スキルをさらに高めることを目指します。

〔授業の内容〕

Speaking Practiceの授業で学習した事項を軸にディスカッションやプレゼンテーションを行い，実践的な英語コミュニケーション・スキルを磨きます。テキストの内容ごとに語彙や文法を学習し，リスニングの演習も行います。スピーキングのクラスですので，積極的に英語で発話することが何よりも重要になります。

〔教材〕

教科書：*Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学習予定のUnitには事前に目を通し，単語を調べるなど予習をしてくること。授業内で指定する課題はすべて提出すること。

〔成績評価の方法〕

試験（50%），授業への参加度（30%），小テストその他課題（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔備考〕

辞書（電子辞書可）を必ず持参すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 8
第 2 週　Extra materials, discussion
第 3 週　Unit 9
第 4 週　Extra materials, discussion
第 5 週　Unit 10
第 6 週　Extra materials, discussion
第 7 週　Presentation I
第 8 週　Unit 11
第 9 週　Extra materials, discussion
第10週　Unit 12
第11週　Extra materials, discussion
第12週　Unit 13
第13週　Extra materials, discussion
第14週　Unit 14
第15週　Presentation II

SPEAKING SKILLS Q

3717030201700

副　題								担　当　者	A．ピアソン　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-230-GL

〔授業の到達目標〕

This course aims to build on and improve the skills developed in Speaking Practice Q in interacting on a range of topics, in presenting to a group, and in expanding on simple answers to provide more information about your opinions and ideas.

〔授業の内容〕

Students will study and become more confident in using further vocabulary and expressions. The course will involve activities focused on discussion of students' opinions, exchange of information and multiple presentations. A focus area will be on how well students can expand on simple answers to give more information and communicate better.

〔教材〕

教科書：Michael Rost, *Impact Issues 2*, (Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka) 2nd Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the textbook before class and make lists of required vocabulary. Record yourself speaking and use this to practice pronouncing difficult words and phrases. Review the material covered in class and prepare for presentations. Consider how to make answers more informative.

〔成績評価の方法〕

Proactive participation 20%, Presentations 20%, Quizzes and Test 60%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Please contact me through the Support Center.

〔備考〕

Students are expected to use English as much as possible in class. Most of the activities will be done in pairs and groups. Students will be asked to do short presentations in most weeks, as well as a longer presentation near the end of term.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction. Unit 1 - First Impressions. How should people act when meeting others for the first time?
第２週　Unit 3 - Who Needs the Local Language? Attitudes towards working, living and traveling abroad.
第３週　Unit 4 - Getting Ahead. How should children be raised and educated?
第４週　Unit 5 - Forever Single. Unit 6 - What Are Friends For?
第５週　Unit 7 - What's For Dinner? Unit 9 - Taking Care of Father.
第６週　Review. Quiz on Units 1, 3, 4, 5, 6, 7, 9.
第７週　Unit 10 - Why Go To School? Opinions about going to university.
第８週　Unit 13 - Ben and Mike. Discussing rumor and prejudice. Unit 14 - Government Control. How much power should a government have?
第９週　Unit 15 - Living Together. Attitudes towards living together and marriage.
第10週　Unit 17 - Who Will Help Them? Discussing refugee crises. Unit 18 - Finding the Right One. Different kinds of loving partnership.
第11週　Unit 20 - A Mother's Story. Attitudes toward the death penalty.
第12週　Review. Quiz on Units 10, 13, 14, 15, 17, 18, 20.
第13週　Presentations.
第14週　〃
第15週　Review.

The schedule is intended as a basic outline. Different units may be covered at different times depending on how fast others are completed. Other changes may be made as deemed necessary.

SPEAKING SKILLS R

3717030201800

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-231-GL

〔授業の到達目標〕
To improve further students' communicational abilities

〔授業の内容〕
This course will follow on from the first, Speaking Practice K; this means that we will focus on the same skills covered and obtained. There will, however, be some more new skills covered in this semester to improve students' communicational abilities with a clear purpose consistently and realistically. In addition to four basic skills, the course will address the needs of students by dealing with the norms of grammar and punctuation in order to apply them when students write presentation materials.
Remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕
教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
参考書：*Longman Dictionary of Contemporary English*
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary
Colledge level English-Japanese dictionaries

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
You will be expected to:-prepare appropriately and complete homework tasks for the next class.
-review class content and take notes to further your understanding.
-research and prepare for presentation projects.
These activites should be arranged for 4 hours in total for each unit.

〔成績評価の方法〕
attendance with class participation 50%, exams 30% and homework 20%
なお，上記は学生便覧の成績評価に関する記載事項が前提になるので，必ず各自で確認しておくこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
教室にて，もしくはサポートセンターを通して手配のこと。

〔備考〕
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。
板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction and orientation,
Unit9 "Transportation" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第 2 週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第 3 週　Unit 10 "Vices" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第 4 週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第 5 週　Unit 11 "Marriage" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第 6 週　Communication exercise and act out:utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第 7 週　Unit 12 "Animals" utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第 8 週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies for writing opinions
第 9 週　Unit 13 "Computers" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第10週　Communication exercise and act oututilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第11週　Unit 14 "The Generation Gap" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第12週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第13週　Unit 15 "Travel" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第14週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第15週　Review
To make the classes more effectively and practically, we will be jumping and refferring to differrent pages of the textbook, without following them sequentially one after another.

SPEAKING SKILLS S

3717030201900

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-232-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, CENGAGE, 2008
N. S. Yoshitomi『It’s Handy! - A Book of Phrases』南雲堂，2015年
Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 120 minutes, Making Dialogues: 60 minutes. Class Review: 60 minutes

〔成績評価の方法〕

Attendance 25%, Class Participation 25%, Oral Assessments 25%, Exams 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

The students will receive the teacher's email address in the first class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction, Small Talk
Communication Strategies Unit 7, Beliefs
It's Handy! Phrases 71-76
第 2 週　Communication Strategies Unit 8, The Future
It's Handy! Phrases 77 - 82
第 3 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 9, Transportation
It's Handy! Phrases 83 - 88
第 4 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 10, Vices
It's Handy! Phrases 89 - 94
第 5 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 11, Marriage
It's Handy! Phrases 95 - 100
第 6 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 12, Animals
Phrases 101- 106
第 7 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 13, Computers
Phrases 107- 112
第 8 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 14, The Generation Gap
Phrases 103- 118
第 9 週　Small Talk
Communication Strategies Unit 15, Travel
Phrases 119- 124
第10週　Small Talk
Giving Directions
Phrases 125 - 131
第11週　Small Talk
Interviewing
Phrases 132- 137
第12週　Small Talk
Project 1
第13週　Small Talk
Project 2
第14週　Project 3
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING A

3713030100100

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/3	コース・ナンバー	ENG-233-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔教材〕

English newspaper or magazine or from the Internet

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Monday 4時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Presentations and discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

INTENSIVE READING & WRITING B

3713030100200

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/3	コース・ナンバー	ENG-234-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔教材〕

English newspaper or magazine or from the Internet

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 3時限
See the schedule posted outside my office door for additional times by appointment.
You can contact me by email at: glenn.farrier●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Presentations and discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

INTENSIVE READING & WRITING C

3713030100300

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-235-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills using practical materials from texts, books, newspapers, media sources etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Daise / Norloff『Q: Skills for Success - Reading and Writing 4』2nd版，Oxford，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Reading ahead, answering comprehension, and essay questions.

〔成績評価の方法〕

Participation 25%
Homework 25%
Essays 25%
Vocabulary Quizzes 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

rsjones73●gmail.com（change ● to @）

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Sociology: Before class students should complete all of Unit 1 activities (Pages 2-30). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn dictionary skills.
第 2 週　Sociology: Students should review their work before class. In class, students will learn how to organize and develop an essay, practice using restrictive relative clauses, and begin writing a three-paragraph analysis essay.
第 3 週　Consumer Behaviour: Before class students should finish their analysis essays, and complete all of Unit two activities (Pages 32 - 61). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第 4 週　Consumer Behaviour: Students should review their work before class. In class, students will practice using definite and indefinite articles, and begin writing a descriptive essay.
第 5 週　Developmental Psychology: Before class students should finish their descriptive essays, and complete all of Unit three activities (Pages 62 - 91). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第 6 週　Developmental Psychology: Students should review their work before class. In class, students will learn how to vary sentence patterns, practice using past perfect and past continuous, and begin writing a narrative essay.
第 7 週　Anthropology: Before class students should finish their narrative essays, and complete all of Unit four activities (Pages 92 - 121). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第 8 週　Anthropology: Students should review their work before class. In class, students will practice using subordinators and transitions, and begin writing a compare and contrast essay.
第 9 週　Nutritional Science: Before class students should finish their compare and contrast essays, and complete all of Unit five activities (Pages 122 - 151). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第10週　Nutritional Science: Students should review their work before class. In class, students will practice using passive voice, and begin writing a cause and effect essay.
第11週　Education: Before class students should finish their cause and effect essays, and complete all of Unit six activities (Pages 152 - 181). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第12週　Education: Students should review their work before class. In class, students will practice using reported speech, and begin writing a summary.
第13週　Psychology: Before class students should finish their opinion essays, and complete all of Unit eight activities (Pages 210 - 237). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第14週　Psychology: Students should review their work before class. In class, students will practice using adverb clauses of concession, and begin writing a persuasive essay.
第15週　Review: Before class students should finish their persuasive essays, and prepare for an end of semester vocabulary quiz.

INTENSIVE READING & WRITING D

3713030100400

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-236-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills using practical materials from texts, books, newspapers, media sources etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Daise / Norloff『Q: Skills for Success - Reading and Writing 4』2nd版，Oxford，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Reading ahead, answering comprehension, and essay questions.

〔成績評価の方法〕

Participation 25%
Homework 25%
Essays 25%
Vocabulary Quizzes 25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Sociology: Before class students should complete all of Unit 1 activities (Pages 2-30). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn dictionary skills.
第２週　Sociology: Students should review their work before class. In class, students will learn how to organize and develop an essay, practice using restrictive relative clauses, and begin writing a three-paragraph analysis essay.
第３週　Consumer Behaviour: Before class students should finish their analysis essays, and complete all of Unit two activities (Pages 32 - 61). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第４週　Consumer Behaviour: Students should review their work before class. In class, students will practice using definite and indefinite articles, and begin writing a descriptive essay.
第５週　Developmental Psychology: Before class students should finish their descriptive essays, and complete all of Unit three activities (Pages 62 - 91). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第６週　Developmental Psychology: Students should review their work before class. In class, students will learn how to vary sentence patterns, practice using past perfect and past continuous, and begin writing a narrative essay.
第７週　Anthropology: Before class students should finish their narrative essays, and complete all of Unit four activities (Pages 92 - 121). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第８週　Anthropology: Students should review their work before class. In class, students will practice using subordinators and transitions, and begin writing a compare and contrast essay.
第９週　Nutritional Science: Before class students should finish their compare and contrast essays, and complete all of Unit five activities (Pages 122 - 151). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第10週　Nutritional Science: Students should review their work before class. In class, students will practice using passive voice, and begin writing a cause and effect essay.
第11週　Education: Before class students should finish their cause and effect essays, and complete all of Unit six activities (Pages 152 - 181). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第12週　Education: Students should review their work before class. In class, students will practice using reported speech, and begin writing a summary.
第13週　Psychology: Before class students should finish their opinion essays, and complete all of Unit eight activities (Pages 210 - 237). In class students will discuss the unit video, two readings on the topic, and learn vocabulary skills.
第14週　Psychology: Students should review their work before class. In class, students will practice using adverb clauses of concession, and begin writing a persuasive essay.
第15週　Review: Before class students should finish their persuasive essays, and prepare for an end of semester vocabulary quiz.

INTENSIVE READING & WRITING E

3713030100500

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-237-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and writing skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書：『Select Readings Pre-Intermediate』（Oxford）2nd版，2011年

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should bring a notebook and a dictionary.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance(20%), reading assignments(20%), writing assignments(20%), class participation(20%) and tests(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email at andypalaski●gmail.com（change ● to @）

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 2 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 3 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 4 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 5 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 6 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 7 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 8 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 9 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第10週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第11週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第12週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第13週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第14週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING F

3713030100600

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-238-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and writing skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書：『Select Readings Pre-Intermediate』（Oxford）2nd版，2011年

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should bring a notebook and a dictionary.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance(20%), reading assignments(20%), writing assignments(20%), class participation(20%) and tests(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email at andypalaski●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 2 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 3 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 4 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 5 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 6 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 7 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 8 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 9 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第10週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第11週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第12週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第13週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第14週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING G

3713030100700

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-239-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension, skills, using practical reading materials from textbooks, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Gramer & Ward, *Q: Skills for Success Reading and Writing 3*, Oxford University Press, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared--to learn the new vocabulary before each class, to complete homework assignments, to review and comment on (e.g., prepare follow-up questions) their classmates' written work, and to rewrite their own assignments. In addition, on occasion, students will need additional time for searching for additional material online or in the library, in order to complete their written assignments and to prepare for the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Quizzes and in-class activities - 70%
Writing assignments - 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email: englishteachertky●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Orientation, evaluation of reading skills;
Introduction to reading skills (e.g., skimming, scanning)
Introduction to academic writing - basics
第 2 週　Sociology - how to make a good first impression - reading, discussion
第 3 週　Sociology - how to make a good first impression
Writing a "how to" paragraph
第 4 週　Nutritional Science - reading, discussion
第 5 週　Nutritional Science
Writing a descriptive paragraph
第 6 週　IT - reading, discussion
第 7 週　IT - Writing a summary and a personal response paragraph
第 8 週　Marketing - reading, discussion
第 9 週　Marketing - writing an opinion essay
第10週　Psychology - reading, discussion
第11週　Psychology - writing a narrative essay
第12週　Philosophy - reading, discussion
第13週　Philosophy - writing an analysis essay with reasons and examples
第14週　Economics - reading, discussion
第15週　Behavioral Studies - reading, discussion

INTENSIVE READING & WRITING H

3713030100800

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-240-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension, skills, using practical reading materials from textbooks, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Gramer & Ward, *Q: Skills for Success Reading and Writing 3*, Oxford University Press, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared--to learn the new vocabulary before each class, to complete homework assignments, to review and comment on (e.g., prepare follow-up questions) their classmates' written work, and to rewrite their own assignments. In addition, on occasion, students will need additional time for searching for additional material online or in the library, in order to complete their written assignments and to prepare for the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Quizzes and in-class activities - 70%
Writing assignments - 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email: englishteachertky●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Orientation, evaluation of reading skills;
Introduction to reading skills (e.g., skimming, scanning)
Introduction to academic writing - basics
第 2 週　Sociology - how to make a good first impression - reading, discussion
第 3 週　Sociology - how to make a good first impression
Writing a "how to" paragraph
第 4 週　Nutritional Science - reading, discussion
第 5 週　Nutritional Science
Writing a descriptive paragraph
第 6 週　IT - reading, discussion
第 7 週　IT - Writing a summary and a personal response paragraph
第 8 週　Marketing - reading, discussion
第 9 週　Marketing - writing an opinion essay
第10週　Psychology - reading, discussion
第11週　Psychology - writing a narrative essay
第12週　Philosophy - reading, discussion
第13週　Philosophy - writing an analysis essay with reasons and examples
第14週　Economics - reading, discussion
第15週　Behavioral Studies - reading, discussion

INTENSIVE READING & WRITING I

3713030100900

副　題	Expanding knowledge in reading and writing in English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-241-GL

〔授業の到達目標〕
To further strengthen reading fluency and writing skills in English

〔授業の内容〕
Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕
教科書：John Beaumont & A. Judith Yancey, *NORTH STAR 1 Reading and Writing*, 3rd Edition, Pearson Longman, 2015
Supplementary handouts, such as newspaper articles, will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm-up, every Friday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕
Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕
Please bring the following to every class:
1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2. A notebook (for lectures & discussions)
3. A file (to put all the handouts in)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation-Textbook Introduction
第 2 週　Friendship
第 3 週　Art
第 4 週　Special Possesions
第 5 週　Business
第 6 週　Presentation Practice
第 7 週　〃
第 8 週　Phobias
第 9 週　Adventure
第10週　Presentation
第11週　〃
第12週　〃
第13週　Family
第14週　Sports
第15週　Review

Presentation preparations begin in Week 3. Presentation time will be incorporated to each class.

INTENSIVE READING & WRITING J

3713030101000

副　題	Expanding knowledge in reading and writing in English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-242-GL

〔授業の到達目標〕
To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕
Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕
教科書：Frances Boyd & Carol Numrich, *NORTH STAR 2 Reading and Writing*, 4th Edition, Pearson Longman, 2015
Supplementary handouts, such as newspaper articles, will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm-up, every Friday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕
Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕
Please bring the following to every class:1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2.A notebook (for lectures & discussions)
3. A file (to put all the handouts in)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation-Textbook Introduction
第 2 週　Unit 1: Work
第 3 週　Unit 2: Student Life
第 4 週　Unit 3: Money
第 5 週　Unit 4: Etiquette
第 6 週　Presentation Practice
第 7 週　〃
第 8 週　Unit 5: Food
第 9 週　Unit 6: Heroes
第10週　Presentation
第11週　〃
第12週　〃
第13週　Unit 7: Health
第14週　Unit 8: Endangered Cultures
第15週　Review

Presentation preparations will start in Week 3. Preparation time will be incorporated in each class.

INTENSIVE READING & WRITING K

3713030101100

副　題								担　当　者	P. アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-243-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of the course is help the students develop better reading skills.

〔授業の内容〕

The course is divided into two sections, an intensive and extensive reading program. In the intensive section of the course we will study the skills and approaches that help a reader understand a text. Secondly the students will be expected to read extensively. To achieve this aim the students will read and write book reports on the graded readers supplied in the class and in the library.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential reading- book two*, (Macmillan Press)

Students will be expected to have a dictionary in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 600 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria:

1) Book reports and reading progress (Minimum of 600 pages)（40%）
2) Vocabulary Book (20%)
3) Class tests - Every chapter will have a　(20%)
4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom.（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Unfortunately I do not have office hours for the students

Students can contact me by email which I will give in the class on the first day.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to reading, the course and what is expected throughout the semester. In this class there will be an explanation of the grades, what the students will do during the semester.

第 2 週　Introduction to reading, explanation of intensive and extensive reading.

第 3 週　Intensive Reading, Essential Reading chapter One - Culture Shock -Cultural differences, Skill - Reading for detail, Extensive Reading, How to select a story/book? Students will decide what types of stories, they like.

第 4 週　Intensive Reading, Essential Reading Chapter One - Culture Shock - Doing things differently, Skill - Identifying facts & opinions, Extensive Reading

第 5 週　Intensive Reading, Essential Reading Test - Chapter one, Extensive Reading, Students will select the first book and their level will be evaluated.

第 6 週　Intensive Reading, Essential Reading - Chapter Two - Chewing for a better grade, Reading Skills - Activating a Topic, Extensive Reading - In this class the students will review the books they have started to read. Students will be given book reports and they will taught how to write, the reports.

第 7 週　Intensive Reading - Chapter two - A sticky problem, Skill- Identifying facts & opinions, Discussion on chewing gum, Extensive Reading - Evaluation of first book reports. Introduction of vocabulary books - the students will be taught about the value of, increasing their vocabulary. The aspects of the vocabulary books that will be taught will be, Each new vocabulary word will have to have a sentence that the students will make themselves, Each word will have collocations and the students must research how the word is used. To remember the, will draw a picture. The students will write the English meaning in their own words. Finally the students will have to research synonyms and antonyms of the word.

第 8 週　Intensive Reading - Chapter Two - Reading test, Extensive Reading, Check book reports and vocabulary books

第 9 週　Intensive Reading, Intensive Reading, Essential Reading Chapter Three - Profcasts, Skill -Understanding references, Essential Reading - Chapter Three - Profcasts, Skill - Activating Vocabulary, Extensive Reading, Checking book reports and vocabulary books

第10週　Intensive Reading, Essential Reading Chapter Three -CD vs Vinyl, Skill - Reading for detail, Extensive Reading, Check reading reports

第11週　Intensive Reading, Essential Reading Chapter Test Three, Extensive Reading, Evaluate how many pages the students have read and how many vocabulary words they memorized.

第12週　Intensive Reading, Essential Reading Chapter Four - Urban life

第13週　Essential Reading Chapter Four - Living in the city, Skill - Vocabulary in context

第14週　Intensive Reading, Essential Reading Chapter Test four, The students will have an oral vocabulary test of the words they have, studied during the semester.

第15週　Checking the number book report pages read. Review of the semester's study.

Will follow the chapters of the book.

Every week there will be speed reading and reading skill exercises.

INTENSIVE READING & WRITING L

3713030101200

副　題								担　当　者	P. アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-244-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of the course is help the students develop better reading skills. In this semester. The students will improve their writing skills by improving their book reports and the students will their writing and finally the students will improve their speed and comprehension for tests like TOIEC, TOEFL and IELTS

〔授業の内容〕

The course is divided into two sections, an intensive and extensive reading program. In the intensive section of the course we will study the skills and approaches that help a reader understand a text. Secondly the students will be expected to read extensively. To achieve this aim the students will read and write book reports on the graded readers supplied in the class and in the library.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential reading- book two*, (Macmillan Press)

Students will be expected to have a dictionary in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 800 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria:

1) Book reports and reading progress (Minimum of 800 pages)（40%）
2) Vocabulary Book (150 words) (20%)
3) Class tests - Every chapter will have a　（20%）
4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom.（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Unfortunately I do not have office hours for the students

Students can contact me by email which I will give in the class on the first day.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to reading, the course and what is expected throughout the semester. In this class there will be an explanation of the grades, what the students will do during the semester. An explanation of the three main goals of the class

第 2 週　Intensive Reading, Essential Reading Test - Chapter Five - The body beautiful - Under the knife, Extensive Reading, Book reports, Vocabulary work, Breaking words into stems, prefixes and suffixes, Begin Speed reading, Why is speed reading important

第 3 週　Intensive Reading, Essential Reading Test - Chapter Five - The body beautiful -Beautiful people have beautiful lives, Skill - Reading for detail, Extensive Reading, Begin checking book reports, Vocabulary building, Common prefixes

第 4 週　Intensive Reading, Extensive Reading, Book reports, Vocabulary work, Prefixes and how they work

第 5 週　Intensive Reading, Reading Test five, Essential Reading Chapter Six - The piracy business - Copycats, Skill - Predicting and scanning -continued, Extensive Reading, Book reports, Vocabulary - Suffixes and how they work, Speed Reading, Short timed readings, Vocabulary - Suffixes

第 6 週　Intensive Reading, Essential Reading chapter six- Culture Shock, -Cultural differences, Reading Skills - skimming and Scanning, Extensive Reading -, Checking book reports, Vocabulary work, Suffixes continued, Speed Reading, Short speed readings possibly five, Teach that if you do TOIEC or other tests

第 7 週　Intensive Reading, Reading Test Six, Chapter seven, - Accessories of life - Doing without, Skill- Skimming and Scanning, Extensive Reading -, Checking book reports, Vocabulary work, Stems and roots of common English words, Speed Reading, Teach Scanning in test environment, Timed speed reading

第 8 週　Intensive Reading - , Essential Reading Chapter Eight - Fashion Fusion? Confusion! Skill - Reading for detail, Extensive Reading, Check book reports, begin to check vocabulary books, Vocabulary, Tests for prefixes, suffixes and stems, Speed reading, Test preparation - students have their own timer, eraser, B pencils and sharpener

第 9 週　Intensive Reading - Essential Reading Chapter Eight - Splitting hairs, Extensive Reading, Checking book reports and vocabulary books, Speed reading, Longer speed readings . Students use their timers and pencils

第10週　Intensive reading, Chapter eight test, Analysis of TOIEC test and practice test

第11週　TOIEC test practice

第12週　Prepare for a oral vocabulary test of the words they have studied during the semester.

第13週　Oral vocabulary test of the words they have, studied during the semester.

第14週　Checking the number book report pages read.

第15週　Review of the semester's study.

Will follow the chapters of the book.

Every week there will be speed reading and reading skill exercises.

INTENSIVE READING & WRITING M

3713030101300

副　題	Reading and Improving your Vocabulary	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-245-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation. The goal of this subject is for the students to improve their vocabulary by reading a variety of things. In addition, students will have the opportunity to speak about things they have read. This is a fun and dynamic class and if the students study hard, they will learn many things and improve their English ability.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through class activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, where appropriate and possible, practical reading materials from sources such as newspapers, journals, and other media may be incorporated into the course The main purpose of this course is to help the students find enjoyment in reading English, and to increase vocabulary levels. Students will read short paragraphs and longer stories. In addition, before and after most readings, there will be lots of chances to speak English. Students should also be prepared to do quite a bit of reading at home.

〔教材〕

教科書：Lynn, *Q: Skills for Success Reading and Writing Book 1*, (ISBN 978-0-19-481838-4) 2nd Edition, Oxford University Press, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all lessons. They need to be sure to complete all homework assignments and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Writing assignments = 100 x 20% = 20 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

By e-mail.

〔備考〕

Come to all the lessons on time. Class start on time! Remember to do all the homework. If you are absent check with a friend what you missed. If your friend misses a class, tell them what they missed.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第 2 週　Business. What is a good job. Reading and writing practice.
第 3 週　The world of work. Reading exercises.
第 4 週　Building vocabulary skills and writing skills
第 5 週　Global studies; Why do people immigrate to other countries.
第 6 週　Immigrant stories and discussing a video on an immigrant gives to his community.
第 7 週　Why is a vacation important. Reading. Discussions. Reading strategies.
第 8 週　Managing life and work. Reading and studying about issues with overworking and life balance
第 9 週　Physiology; What makes us laugh. Identifying topic sentences. Reading about the psychology of laughter.
第10週　Reading about sport. Discussions in depth. Writing practice and identifying supporting sentences.
第11週　Ethics reading - is it OK to lie. Discussion about morals in society. Vocabulary building and grammar exercises. Writing practice and understanding concluding sentences.
第12週　Reading about Lying on job interviews. Vocabulary building and discussion exercises.
第13週　Behavioural science; How are children and adults different. Writing skills - planning your writing. Vocabulary building and discussion exercises.
第14週　Psychology: what are you afraid of. Reading and vocabulary building. Writing skills - contrasting ideas.
第15週　Summary of the course. Overview of the studies undertaken in the first semester and final evaluations.

The course will follow the content of the textbook from week to week. Let's have fun reading together. Remember: the more effort you put into something, the more you can get out of it! Come to all the lessons and be on time!

INTENSIVE READING & WRITING N

3713030101400

副　題	Reading and Improving your Vocabulary	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-246-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation. The goal of this subject is for the students to improve their vocabulary by reading a variety of things. In addition, students will have the opportunity to speak about things they have read. This is a fun and dynamic class and if the students study hard, they will learn many things and improve their English ability.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through class activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, where appropriate and possible, practical reading materials from sources such as newspapers, journals, and other media may be incorporated into the course The main purpose of this course is to help the students find enjoyment in reading English, and to increase vocabulary levels. Students will read short paragraphs and longer stories. In addition, before and after most readings, there will be lots of chances to speak English. Students should also be prepared to do quite a bit of reading at home.

〔教材〕

教科書：Lynn, *Q: Skills for Success Reading and Writing Book 1*, (ISBN 978-0-19-481838-4) 2nd Edition, Oxford University Press, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all lessons. They need to be sure to complete all homework assignments and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Writing assignments = 100 x 20% = 20 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

By e-mail.

〔備考〕

Come to all the lessons on time. Class start on time! Remember to do all the homework. If you are absent check with a friend what you missed. If your friend misses a class, tell them what they missed.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第 2 週　Business. What is a good job. Reading and writing practice.
第 3 週　The world of work. Reading exercises.
第 4 週　Building vocabulary skills and writing skills
第 5 週　Global studies; Why do people immigrate to other countries.
第 6 週　Immigrant stories and discussing a video on an immigrant gives to his community.
第 7 週　Why is a vacation important. Reading. Discussions. Reading strategies.
第 8 週　Managing life and work. Reading and studying about issues with overworking and life balance
第 9 週　Physiology; What makes us laugh. Identifying topic sentences. Reading about the psychology of laughter.
第10週　Reading about sport. Discussions in depth. Writing practice and identifying supporting sentences.
第11週　Ethics reading - is it OK to lie. Discussion about morals in society. Vocabulary building and grammar exercises. Writing practice and understanding concluding sentences.
第12週　Reading about Lying on job interviews. Vocabulary building and discussion exercises.
第13週　Behavioural science; How are children and adults different. Writing skills - planning your writing. Vocabulary building and discussion exercises.
第14週　Psychology: what are you afraid of. Reading and vocabulary building. Writing skills - contrasting ideas.
第15週　Summary of the course. Overview of the studies undertaken in the first semester and final evaluations.

The course will follow the content of the textbook from week to week. Let's have fun reading together. Remember: the more effort you put into something, the more you can get out of it! Come to all the lessons and be on time!

INTENSIVE READING & WRITING O

3713030101500

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-247-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q: Skills for Success 2 Reading and Writing*, Oxford University Press, 2015

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance(25%), Homework Assignments(25%), Class Participation(25%) and Exams (25%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

The students will receive the teacher's email address in the first class.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction, Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 1 for Homework Assignment
第 2 週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 2 for Homework Assignment
第 3 週　Quick Write
Textbook Unit 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 3 for Homework Assignment
第 4 週　Quick Write
Textbook Unit 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 4 for Homework Assignment
第 5 週　Quick Write
Textbook Unit 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 5 for Homework Assignment
第 6 週　Quick Write
Textbook Unit 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 6 for Homework Assignment
第 7 週　Quick Write
Textbook Unit 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 7 for Homework Assignment
第 8 週　Quick Write
Textbook Unit 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 8 for Homework Assignment
第 9 週　Quick Write
Textbook Unit 9 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 9 for Homework Assignment
第10週　Quick Write
Textbook Unit 10 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 10 for Homework Assignment
第11週　Quick Write
Reading Material 1
Writing Project 1a
第12週　Quick Write
Reading Material 2
Writing Project 1b
第13週　Quick Write
Reading Material 3
Writing Project 1c
第14週　Quick Write
Reading Material 4
Writing Project 1d
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING P

3713030101600

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-248-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q: Skills for Success 2 Reading and Writing*, Oxford University Press, 2015

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance(25%), Homework Assignments(25%), Class Participation(25%) and Exams (25%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

The students will receive the teacher's email address in the first class.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction, Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 1 for Homework Assignment
第 2 週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 2 for Homework Assignment
第 3 週　Quick Write
Textbook Unit 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 3 for Homework Assignment
第 4 週　Quick Write
Textbook Unit 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 4 for Homework Assignment
第 5 週　Quick Write
Textbook Unit 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 5 for Homework Assignment
第 6 週　Quick Write
Textbook Unit 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 6 for Homework Assignment
第 7 週　Quick Write
Textbook Unit 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 7 for Homework Assignment
第 8 週　Quick Write
Textbook Unit 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 8 for Homework Assignment
第 9 週　Quick Write
Textbook Unit 9 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 9 for Homework Assignment
第10週　Quick Write
Textbook Unit 10 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 10 for Homework Assignment
第11週　Quick Write
Reading Material 1
Writing Project 1a
第12週　Quick Write
Reading Material 2
Writing Project 1b
第13週　Quick Write
Reading Material 3
Writing Project 1c
第14週　Quick Write
Reading Material 4
Writing Project 1d
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING Q

3713030101700

副　題								担　当　者	矢田　陽子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-249-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に養った英語を基礎に，リーディング力，ライティング力を向上させてTOEICの点数向上をも目指す。

〔授業の内容〕

テキストを中心に，ニュース媒体なども利用しながら様々な英語の文章に慣れながら，正確に文章内容を把握・理解していく訓練をしていく。ただ日本語に訳す授業ではなく，「この文章は何を言いたいのか？主要メッセージは何なのか」を常に考えながら，日本語・英語の両方でサマリー（要約）を書けるようにし，自己の意見をどのように英語で表現できるのかまでを目標としていく。

〔教材〕

教科書：『North Star Reading and Writing 1』3rd版，Peason Longman，2015年

John Beaumont, A Judith Yancey, North Star Reading and Writing 1, Peason Longman, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に必ず予習をし，語彙，文法チェックを行うこと。ライティングは授業中に課題として出し，要提出。

〔成績評価の方法〕

平常点（中間テスト（TOEIC対策），授業態度，出席率）50%，期末試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業後（水曜２限，土曜２限）に対応

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction Unit 1
第２週　Unit 1
第３週　Unit 2
第４週　Uni2
第５週　Unit3
第６週　Unit 4
第７週　〃
第８週　理解度の確認（あくまでも予定）変動有り
第９週　Unit 5
第10週　〃
第11週　Unit6
第12週　〃
第13週　Unit 7
第14週　〃
第15週　理解度の確認

INTENSIVE READING & WRITING R

3713030101800

副　題								担　当　者	矢田　陽子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-250-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に養った英語を基礎に，リーディング力，ライティング力を向上させてTOEICの点数向上をも目指す。

〔授業の内容〕

テキストを中心に，ニュース媒体なども利用しながら様々な英語の文章に慣れながら，正確に文章内容を把握・理解していく訓練をしていく。ただ日本語に訳す授業ではなく，「この文章は何を言いたいのか？主要メッセージは何なのか」を常に考えながら，日本語・英語の両方でサマリー（要約）を書けるようにし，自己の意見をどのように英語で表現できるのかまでを目標としていく。

〔教材〕

教科書：『North Star Reading and Writing 1』3rd版，Peason Longman，2015年

John Beaumont, A Judith Yancey, North Star Reading and Writing 1, Peason Longman, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に必ず予習をし，語彙，文法チェックを行うこと。ライティングは授業中に課題として出し，要提出。

〔成績評価の方法〕

平常点（中間テスト（TOEIC対策），授業態度，出席率）50%，期末試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業後（水曜２限，土曜２限）に対応

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction Unit 1
第２週　Unit 1
第３週　Unit 2
第４週　Uni2
第５週　Unit3
第６週　Unit 4
第７週　〃
第８週　理解度の確認（あくまでも予定）変動有り
第９週　Unit 5
第10週　〃
第11週　Unit6
第12週　〃
第13週　Unit 7
第14週　〃
第15週　理解度の確認

フランス語　基礎IA

3721011100100

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	1/1	コース・ナンバー	FRN-101-GM

〔授業の到達目標〕

自己紹介や物を簡単に描写するなどの基本的なことを，フランス語で言えるようになることを目指します。さらに，フランス語圏でおきている出来事を知ることも，授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で，フランスのニュースを動画で見ます。それに教員が解説を加え，フランス語圏に関する学習を行います。次に，ネット上の初級フランス語教材を使って，会話の練習を行います。隣同士でペアを組み，絵を見ながらフランス語で２人で会話練習を行います。

〔教材〕

教材は，大学のサーバーに載っているので，購入の必要はありません。教材は，次のアドレスで見ることができます。

http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/clique/top.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが，それだけでは時間が足りません。授業後も，何回も同じ会話を繰り返して，暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は，単位は取得できません。75%の出席率がある方が,学期に２回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって，成績の評価を決定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレスを授業時に知らせます。

〔授　業　計　画〕

第１週　アルファベ・アクセント記号など
第２週　名詞の性・定冠詞
第３週　不定冠詞・部分冠詞
第４週　動詞être・数１～10
第５週　tu/vousの違い・-er動詞
第６週　動詞aller・aの縮約
第７週　否定文・動詞avoir
第８週　親族を表す語彙・否定のde
第９週　名詞の複数形・形容詞の一致
第10週　形容詞の位置・男性第二形を持つ形容詞
第11週　女性名詞の作り方・所有形容詞
第12週　近接未来・近接過去
第13週　-ir動詞・指示形容詞
第14週　直接目的補語を表す人称代名詞・質問の作り方
第15週　deと定冠詞の縮約・非人称のil

フランス語　基礎IB

3721011100200

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	FRN-102-GM

〔授業の到達目標〕

自己紹介や物を簡単に描写するなどの基本的なことを，フランス語で言えるようになることを目指します。さらに，フランス語圏でおきている出来事を知ることも，授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で，フランスのニュースを動画で見ます。それに教員が解説を加え，フランス語圏に関する学習を行います。次に，初級フランス語の教科書を使って，会話の練習を行います。隣同士でペアを組み，絵を見ながらフランス語で２人で会話練習を行います。

〔教材〕

教科書：井上美穂　北村亜矢子『絵を見て話そうフランス語』白水社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが，それだけでは時間が足りません。授業後も，何回も同じ会話を繰り返して，暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75％の出席率を守って下さい。75％未満の出席率の方は，単位は取得できません。75％の出席率がある方が,学期に２回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって，成績の評価を決定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレスを授業時に知らせます。

〔授　業　計　画〕

第１週　カフェで注文する・名詞の性
第２週　数詞０～10・主語代名詞
第３週　tu/vousの違い・-er動詞
第４週　不定冠詞・洋服の買い物
第５週　否定形・名詞の複数形
第６週　定冠詞・好き嫌いを言う
第７週　形容詞の一致・動詞avoir
第８週　否定のde・所有についてたずねる
第９週　動詞être・容姿を描写する
第10週　数詞11～69・所有形容詞
第11週　国籍を言う・数詞70～99
第12週　形容詞の位置・形容詞男性第２形
第13週　物を描写する・質問の作り方
第14週　部分冠詞・食べ物や飲み物をすすめる
第15週　序数詞・縮約

フランス語　基礎ⅡA

3721011200100

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	1/1	コース・ナンバー	FRN-103-GM

〔授業の到達目標〕

春学期よりは多少高度な内容を，フランス語で言えるようになることを目指します。さらに，フランス語圏でおきている出来事を知ることも，授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で，フランスのニュースを動画で見ます。それに教員が解説を加え，フランス語圏に関する学習を行います。次に，web教材を使って，会話の練習を行います。隣同士でペアを組み，絵を見ながらフランス語で２人で会話練習を行います。

〔教材〕

教材は，大学のサーバーに載っているので，購入の必要はありません。教材は，次のアドレスで見ることができます。

http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/clique/top.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが，それだけでは時間が足りません。授業後も，何回も同じ会話を繰り返して，暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75%の出席率を守って下さい。75%未満の出席率の方は，単位は取得できません。75%の出席率がある方が，学期に２回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって，成績の評価を決定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時にメールアドレスを知らせます。

〔授　業　計　画〕

第１週　人称代名詞の強勢形・疑問詞leuqel
第２週　形容詞と副詞の比較級・bonとbienの比較級
第３週　形容詞と副詞の最上級・bonとbienの最上級
第４週　数11～69・中性代名詞 y
第５週　中性代名詞en・中性代名詞le
第６週　代名動詞・主語on
第７週　oui/non/siの違い・数70～100
第８週　命令法・序数詞
第９週　avoirを使う複合過去・êtreを使う複合過去
第10週　半過去・半過去と複合過去の使い分け
第11週　感嘆文・受動態
第12週　数100～1000・関係代名詞qui/que
第13週　関係代名詞dont/où・条件法（もし…）
第14週　条件法（語気の緩和）・人称代名詞間接目的補語
第15週　接続法・未来形

フランス語　基礎ⅡB

3721011200200

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	FRN-104-GM

〔授業の到達目標〕

春学期よりも多少高度な内容をフランス語で言えるようになることを目指します。さらに，フランス語圏でおきている出来事を知ることも，授業の目標に含まれます。

〔授業の内容〕

授業冒頭で，フランスのニュースを動画で見ます。それに教員が解説を加え，フランス語圏に関する学習を行います。次に，教科書を使って，会話の練習を行います。隣同士でペアを組み，絵を見ながらフランス語で２人で会話練習を行います。

〔教材〕

教科書：井上美穂　北村亜矢子『絵を見て話そうフランス語』白水社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。履修者のみなさんに行っていただきたいのは復習です。授業中も隣同士で同じ会話を繰り返しますが，それだけでは時間が足りません。授業後も，何回も同じ会話を繰り返して，暗記の状態になるまで学習してください。

〔成績評価の方法〕

必ず75％の出席率を守って下さい。75％未満の出席率の方は，単位は取得できません。75％の出席率がある方が,学期に２回行われるテストを受験できます。そのテストの点数によって，成績の評価を決定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時にメールアドレスを知らせます。

〔授　業　計　画〕

第１週　位置を示す・主語on
第２週　時刻を言う・予定を言う
第３週　命令法・指示形容詞
第４週　指示を出す・近接未来
第５週　強勢形・旅行の手配
第６週　アルファベ・代名動詞
第７週　身支度・非人称のil
第８週　天候の表現
第９週　必要なことを言う（１）・形容詞の比較級
第10週　最上級・必要なことを言う（２）
第11週　複合過去（１）・観光旅行について語る
第12週　複合過去（２）・過去の行動を語る
第13週　半過去・複合過去との組み合わせ
第14週　過去の行動と状態を語る・中性代名詞en
第15週　人称代名詞間接目的補語・物をわたす

フランス語　応用I

3721021100100

副　題								担　当　者	泉　美知子　講師 井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火/水	時限	2/2	コース・ナンバー	FRN-205-GM

〔授業の到達目標〕
泉の授業では書き言葉を中心に学習し，「フランス語で書かれた簡単な文章の意味がわかるようになる」「フランス語のしくみを理解し，短い文が書けるようになる」という到達目標を掲げます。井上の授業では話し言葉を中心に学習し，「ゆっくりと話されたフランス語が理解できる」「初歩的な内容をフランス語で言えるようになる」ことを目標とします。

〔授業の内容〕
基本的に，泉が「読む・書く」技能，井上が「聞く・話す」技能を担当します。泉の授業では，文法事項を確認しながら，フランス語の文章に慣れることを目指します。検定試験を視野に入れた練習問題に取り組みます。また語学学習のモチベーションを高めるために，フランスの文化（美術，建築，街並み，マンガ，音楽，映画）について映像を使って説明します。井上の授業では，まず文法項目を短時間で解説した後，ききとり問題を行い，同じ文法事項を用いた会話を隣同士でペアになって練習します。フランスのニュース紹介も，基礎に引き続き行います。

〔教材〕
教科書：『アミカルマン・ビス――フランス語・フランス文化への誘い』（澤田直ほか）駿河台出版社，2011年
泉の授業で使う教材は，『アミカルマン・ビス――フランス語・フランス文化への誘い』（澤田直ほか著，駿河台出版社，2011年）です。
井上の授業では，大学のサーバーに載せてあるweb教材を使います。この教材は次のアドレスからいつでも見ることができます。http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/clique/top.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
泉の授業に予習の必要はありませんが，復習は重要です。学期中に数回小テストを行い，復習の確認をします。井上の授業でも予習の必要はありません。同じく復習が重要です。

〔成績評価の方法〕
２人の教員で50点ずつの評価を出し合い，合計して最終の評価とします。
泉：授業への参加態度と小テスト（40%），学期末試験（60%）
井上：隣同士で行う会話練習が重要ですので，75%以上の出席率が必要です。その出席率を評価の80%とし，残りの20%を小テストに当てます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問などは授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　簡単な挨拶と復習
第２週　冠詞と名詞／挨拶（パン屋で）
第３週　主語と動詞／挨拶（通りで）
第４週　形容詞／自己紹介１
第５週　疑問文と否定文／自己紹介２
第６週　規則動詞（１）／住所を言う
第７週　規則動詞（２）／値段を言う
第８週　近い未来，近い過去／場所を言う
第９週　命令法／時間を言う
第10週　人称代名詞／意見を言う１
第11週　比較級，最上級／意見を言う２
第12週　代名動詞／勧誘する
第13週　可能・要求・義務の表現／質問する
第14週　フランス語の歌，映画鑑賞
第15週　確認のテストとまとめ
上記の第１回～第15回までの授業計画は，泉が担当する授業のものです。井上の授業では，「過去のでき事を述べる」「感嘆文」「受動態を使う」などの練習を行います。

フランス語　応用II

3721021200100

副　題										担　当　者	泉　美知子　講師 井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火/水	時限	2/2	コース・ナンバー	FRN-206-GM

〔授業の到達目標〕
泉の授業では書き言葉を中心に学習し，「フランス語で書かれた平易な物語が読めるようになる」「辞書の使い方に慣れる」という到達目標を掲げます。井上の授業では話し言葉を中心に学習し，「ゆっくりと話された長めのフランス語が理解できる」「多少複雑な内容をフランス語で言えるようになる」ことを目標とします。

〔授業の内容〕
基本的に，泉が「読む・書く」技能，井上が「聞く・話す」技能を担当します。泉の授業では，フランス語で書かれた童話を読みながら，読解力を高めます。簡単な『リサとガスパール』から始め，『ペロー童話』（眠れる森の美女，赤ずきん）へと，みなさんの理解力をみながら難易度を上げていきます。井上の授業では，まず文法項目を短時間で解説した後，ききとり問題を行い，同じ文法事項を用いた会話を隣同士でペアになって練習します。フランスのニュース紹介も，基礎に引き続き行います。

〔教材〕
泉の授業で使う教材は，授業のなかで随時配布します。前期の教科書も持ってきてください。井上の授業で使う教材は，大学のサーバーに載せてあるweb教材「クリック・ル・フランセ」です。この教材は次のアドレスからいつでも見ることができます。http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19952079/clique/top.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
泉の授業に関しては，配布されたテキストのなかで分からない単語の意味を仏和辞典調べておくことが必要です。井上の授業では予習の必要はありませんが，web教材はいつでもアクセスできますので，毎週必ず復習を行って下さい。

〔成績評価の方法〕
２人の教員で50点ずつの評価を出し合い，合計して最終の評価とします。
泉：授業への参加態度（50%），学期末試験（50%）
井上：隣同士で行う会話練習が重要ですので，75%以上の出席率が必要です。その出席率を評価の80%とし，残りの20%を小テストに当てます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問などは授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　関係代名詞quiを使ってフランス各地の特徴を説明する
第２週　関係代名詞queを使ってフランス各地の特徴を説明する
第３週　関係代名詞dontを使って世界のフランス語圏の特徴を説明する
第４週　関係代名詞ou？を使って世界のフランス語圏の特徴を説明する
第５週　条件法と直説法の違いを学習する
第６週　条件法を使って「もし～ならば，～なのに」という内容を表現する
第７週　直説法を条件法に変えて語気を緩和する
第８週　条件法を使って語気を緩和した表現で忠告する
第９週　人称代名詞間接目的補語３人称を使って昔話を語る
第10週　人称代名詞間接目的補語１・２人称を使って昔話の台詞を完成させる
第11週　接続法を使って必要なことを伝える
第12週　接続法を使って必要なことを相談する
第13週　単純未来形２人称を使って相手の未来を想像する
第14週　単純未来形１人称を使って自分の将来を語る
第15週　ジェロンディフを使って健康に関するアドバイスを出す
１回～第15回までの授業計画は，井上が担当する授業のものです。

ドイツ語　基礎IA

3722011100100

副　題								担　当　者	柿沼　義孝　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	GER-107-GM

〔授業の到達目標〕
　ドイツ語技能検定試験（独検）５級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
　ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人が話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国，ロマンティック街道，ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ，ワイン，そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって，買い物やレストランでの注文の仕方など，簡単な日常会話を勉強しながら，ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。
　ドイツ語未履修者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，初歩の会話を学びます。
　柿沼の授業では，ミュンヒェンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて，あいさつ・自己紹介から始め，スーパーでの買い物，天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて，日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で小出の授業では作文練習を中心に，基本表現や文法の習得を目指します。

〔教材〕
教科書：池内　宣夫『発信するドイツ語』三修社
　　Schritte International 1, Hueber
柿沼使用教科書：Schritte International 1
小出使用教科書：「発信するドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　前回の授業で扱った内容をよく復習して，次の授業で使えるように表現方法や仕掛けをしっかり身に付けること。

〔成績評価の方法〕
　学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　質問等は授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　つづりと発音の関係
第２週　〃
第３週　動詞の現在人称変化
第４週　〃
第５週　名詞の性・格と冠詞の変化
第６週　〃
第７週　不規則動詞と名詞の複数形
第８週　〃
第９週　人称代名詞
第10週　〃
第11週　所有冠詞・否定冠詞・指示冠詞
第12週　〃
第13週　前置詞
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　基礎IB

3722011100200

副　題										担　当　者	平井　敏雄　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-108-GM

〔授業の到達目標〕
　ドイツ語技能検定試験（独検）５級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
　大学を卒業する人にとって２つ以上の外国語を学ぶことは，世界の常識です。２つめの外国語としてドイツ語にチャレンジしてください。ドイツ語未履修者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，初歩の会話を学びます。小出の授業では，作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し，平井の授業では，日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して，語彙・発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕
教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い（新訂版）』初版，郁文堂，2013年
　　佐藤修子他『スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：「ドイツ語表現への誘い」（新訂版）
平井使用教科書：「スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し，わからない単語は辞書で確認し，練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕
　学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　質問等は授業前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　つづりと発音
第２週　〃
第３週　動詞の現在人称変化
第４週　〃
第５週　不規則動詞
第６週　〃
第７週　名詞の性・名詞の格
第８週　〃
第９週　前置詞
第10週　〃
第11週　話法の助動詞
第12週　〃
第13週　分離動詞
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　基礎IIA

3722011200100

副　題								担　当　者	柿沼　義孝　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	GER-109-GM

〔授業の到達目標〕
　ドイツ語技能検定試験（独検）４級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
　ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人が話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国，ロマンティック街道，ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ，ワイン，そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって，買い物やレストランでの注文の仕方など，簡単な日常会話を勉強しながら，ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。
　ドイツ語基礎IAを修得した者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IAで使用したテキストの続きを学び，応用への橋渡しとします。
　柿沼の授業では，引き続き，ミュンヒェンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて，スーパーでの買い物，天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて，日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で，小出の授業では，引き続き作文練習を中心に様々な表現や基本文法の一層の確実な把握を目指します。

〔教材〕
教科書：池内　宣夫『発信するドイツ語』三修社
　　Schritte International 1, Hueber
柿沼使用教科書：Schritte International 1
小出使用教科書：「発信するドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　前回の授業の復習をしっかり行って，次回の授業のために表現方法や仕掛けを身に付けておくこと。

〔成績評価の方法〕
　学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　質問等は授業の前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期の復習１
第２週　春学期の復習２
第３週　分離動詞と非分離動詞
第４週　再帰代名詞と再帰動詞
第５週　形容詞の格変化と比較変化
第６週　話法の助動詞と未来の助動詞
第７週　副文と命令形
第８週　過去形
第９週　現在完了形
第10週　zu　不定詞
第11週　受動文
第12週　関係代名詞
第13週　接続法
第14週　まとめと復習・解説
第15週　まとめと今後の展望

ドイツ語　基礎ⅡB

3722011200200

副　題										担　当　者	平井　敏雄　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-110-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）４級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎Iを修得した者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IBで使用したテキストの続きを学び，中級への橋渡しとします。小出の授業では，作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し，平井の授業では，日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して，語彙･発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕

教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い　（新訂版）』初版，郁文堂，2013年
　　佐藤修子他『スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：「ドイツ語表現への誘い」（新訂版）
平井使用教科書：「スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語」

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し，わからない単語は辞書で確認し，練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期の復習
第２週　〃
第３週　過去形・完了形
第４週　〃
第５週　再帰表現・受動態
第６週　〃
第７週　形容詞の格変化
第８週　〃
第９週　関係代名詞
第10週　〃
第11週　接続法
第12週　〃
第13週　〃
第14週　接続法
第15週　〃

ドイツ語　応用I

3722021100100

副　題								担　当　者	柿沼　義孝　講師 平井　敏雄　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月/火	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-211-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）３級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎を履修した人を対象として，文を読み，書き，聞き，話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。柿沼の授業では，インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して，現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか，若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ，グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では，基礎に引き続いて文法事項の学習をしながら，ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および，独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕

教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』朝日出版社

（１）柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）

（２）平井使用テキスト：清野智昭他「ドイツ語の時間　読解編」（朝日出版社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ，次回の授業で扱うテキスト部分を読み，練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　基礎の復習
第２週　〃
第３週　講読・練習
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　応用II

3722021200100

副　題								担　当　者	柿沼　義孝　講師 平井　敏雄　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月/火	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-212-GM

〔授業の到達目標〕
　ドイツ語技能検定試験（独検）３級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
　ドイツ語応用Iと基本的には同じですが，内容的には少し高度なものを扱います。ドイツについてのアクチュアルな情報について紹介する点も同じです。柿沼の授業では，ドイツ語基礎を履修した人を対象として，文を読み，書き，聞き，話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して，現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか，若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ，グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では，応用Iに引き続き文法事項の学習をしながら，ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および，独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕
教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』朝日出版社
（１）柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）
（２）平井使用テキスト：清野智昭他「ドイツ語の時間　読解編」（朝日出版社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　あらかじめ，次回の授業で扱うテキスト部分を読み，練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕
　授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　質問等は授業前後に受け付けます。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　応用Iの復習
第２週　〃
第３週　講読・練習
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

イタリア語　基礎IA

3723011100100

副　題	覚えた表現を使ってみよう	担　当　者	岡田　由美子　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木/金	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-113-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します。イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。発音の仕方に始まり，旅行などですぐ使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペアおよびグループワーク，スキット作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。イタリア語での映画を見たり，イタリア語の歌を聞いたりもします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

カルーディス担当の会話の教材は，毎回プリントを配布します。辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。

『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和･和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習を中心に各自行ってください。特に発音は，復習しながら発音することでどんどん上達いたします。イタリア人になれるくらいに，付属のCDを何回も聞いて発音しましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は，各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し，通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して，成績とします。カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教師からの連絡事項はホームページを通じて，学生からの連絡はサポートセンターを通して行います

〔備考〕

理解度の確認は，授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。

岡田の授業で学期末に，授業と並行してイタリア語の映画を１本観ます。授業で習った会話をみつけましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　1. Pronti...? Via！　アルファベット・名詞
第２週　1. Pronti...? Via！　形容詞・冠詞
第３週　1. Pronti...? Via！　主語人称代名詞・動詞
第４週　理解度の確認１　；　2. Piacere! essere
第５週　2. Piacere！　essere･再帰動詞chiamarsi
第６週　2. Piacere！　再帰動詞chiamarsi
第７週　理解度の確認２　；　3. La famiglia　avere･所有形容詞
第８週　3. La famiglia　数詞１～30
第９週　3. La famiglia　前置詞と定冠詞の結合
第10週　3. La famiglia　まとめ
第11週　理解度の確認３　；　4. La posta　不規則動詞uscire
第12週　4. La posta　不規則動詞　andareとvenire
第13週　4. La posta　不規則動詞　まとめ
第14週　4. La posta　指示代名詞・指示形容詞
第15週　理解度の確認４　；　まとめ

『Ho capito！』の文法に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，必ず毎回教科書を２冊用意してきましょう。

イタリア語　基礎IB

3723011100200

副　題								担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 C．カルーディス　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/5	コース・ナンバー	ITA-114-GM

〔授業の到達目標〕
　実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します　。
　イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的な気持ちで授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕
　日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象としています。アルファベットの発音から旅行などですぐに使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペア・グループワーク，スッキト作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。授業中映画を見たり，音楽を聴いたりします。

〔教材〕
教科書：菅野ヴェロニカ, *Ho Capito オカピト！*, 2 nd Edition, 白水社，２０１５
参考書：Yumiko Okada, *Facciamo esercizi!*, 白水社
　カルーディス担当の会話の教材は毎回プリントを配布します。
　辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。
『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和･和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　予習としては，教科書の２ページぐらいの語彙を前もって調べておきます。クラスで習った分を復習しましょう。
　週１時間ていどがちょうどいいです。

〔成績評価の方法〕
　１～６課ごとで習った表現その他の小テストや確認と出席，宿題，授業での積極的な参加及び活動を評価します。期末試験はありません。
　カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　サポートセンターを通してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業紹介，さまざまな挨拶，イタリア及び簡単なイタリア語の言葉の紹介。
第２週　第１課. Pronti...? Via！アルファベット・名詞・形容詞・冠詞
第３週　第１課. Piacere！　主語人称代名詞・動詞
第４週　第１課の小テスト　第２課. Piacere！　自己紹介（名前，出身を言う）
第５週　第２課. Piacere！　自己紹介（名前，出身，仕事を言う）
　　再帰動詞chiamarsi
第６週　第２課. Piacere！の小テスト　第３課. La famiglia所有形容詞
第７週　第３課. La famiglia所有形容詞　前置詞と定冠詞の結合　Avere動詞
第８週　イタリアの映画を見ます。
第９週　第４課. La Posta　方向説明　不規則動詞uscire,andare, venire
第10週　第４課. La posta　指示代名詞，指示形容詞
第11週　第４課.　の小テスト
　　第５課. Al telefono　日常を述べる　質問の仕方。交通機関
第12週　第５課. Al telefono　時間　月と季節の名前
第13週　第５課. Al telefono　の小テスト
　　第６課.Permesso?
　　許可を得る。「できる」動詞
第14週　第６課.Permesso?
　　丁寧な断り方。形容詞。６課の練習問題と答え合わせ。
第15週　イタリアの映画を見ます。
映画やイタリアの世界遺産の映像をたくさん見ます。

イタリア語　基礎ⅡA

3723011200100

副　題	積極的にイタリア語で表現してみよう	担　当　者	岡田　由美子　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木/金	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-115-GM

〔授業の到達目標〕

基礎Iで習得した能力をアップしながら，日常的なことについてのコミュニケーションをとることを目指す。

〔授業の内容〕

基礎Iをさらに発展させた形で会話と文法を学んでいきます。昨年度の基礎Iで単位を取得した学生も履修可能です。会話はカルーディスが担当します。文法は岡田が担当します。秋学期終了後には，ぜひイタリア語検定５級もしくは４級にチャレンジしてみましょう。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

カルーディス担当の会話は，毎回プリントを配布します。辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『プログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様に，復習を中心に，発音をしながら根気よくフレーズを覚えましょう。覚えれば覚えるほど，ふとした日本語がイタリア語になって浮かんできますよ。頑張りましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は，各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し，通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して，成績とします。カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教師からの連絡事項はホームページを通じて，学生からの連絡はサポートセンターを通して行います

〔備考〕

理解度の確認は，授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。

岡田の授業で学期末に，授業と並行してイタリア語の映画を観ます。習った会話をどれだけ探せるかチャレンジしましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　5. Al telefono　疑問詞
第２週　5. Al telefono　不規則動詞stare
第３週　5. Al telefono　時間・月の言い方
第４週　理解度の確認１　；　6. Permesso？　不規則動詞sapere
第５週　6. Permesso？　不規則動詞potere
第６週　6. Permesso？　不規則動詞volere
第７週　6. Permesso？　不規則動詞dovere，まとめ
第８週　理解度の確認２　；　7. Non mi sento bene　再帰動詞
第９週　7. Non mi sento bene　直接・間接目的語代名詞
第10週　7. Non mi sento bene　曜日の言い方
第11週　7. Non mi sento bene　まとめ
第12週　理解度の確認３　；　8. Mi piace uscire　不規則動詞piacere
第13週　8. Mi piace uscire　目的語代名詞の複合形
第14週　8. Mi piace uscire　まとめ
第15週　理解度の確認４

『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，必ず毎回教科書を２冊用意しましょう。

イタリア語　基礎ⅡB

3723011200200

副　題								担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 C．カルーディス　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/5	コース・ナンバー	ITA-116-GM

〔授業の到達目標〕
　実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します　。
　イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的な気持ちで授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕
　日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象としています。アルファベットの発音から旅行などですぐに使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペア・グループワーク，スッキト作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。授業中映画を見たり，音楽を聴いたりします。

〔教材〕
教科書：菅野ヴェロニカ, *Ho Capito オカピト！*, 2 nd Edition, 白水社, ２０１５
参考書：Yumiko Okada『Facciamo esercizi!』白水社
　カルーディス担当の会話の教材は毎回プリントを配布します。
　辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。
　『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社,『ポケットプログレッシブ伊和･和伊辞典』小学館,『伊和中辞典』小学館。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　予習としては，教科書の２ページぐらいの語彙を前もって調べておきます。クラスで習った分を復習しましょう。
　週１時間ていどがちょうどいいです。

〔成績評価の方法〕
　１～２課ごとで習った表現その他の小テストや確認と出席，宿題，授業での積極的な参加及び活動を評価します。期末試験はありません。
　カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　サポートセンターを通してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業紹介，第５課までの復習
第２週　第６課までの復習
第３週　第７課　Non mi sento bene　お医者さんで。
　　直接・間接目的語代名詞，曜日
第４週　第７課　Non mi sento bene
　　再帰動詞・直接・間接目的語代名詞
第５週　第７課　Settima Unita’の小テスト
　　第８課　Mi piace uscire　好みを述べる
　　piacere･ interessare動詞。
第６週　第８課　Mi piace uscire
　　piacere･ interessare動詞。
　　直接目的語代名詞・目的語代名詞福合形。
第７週　第８課　Mi piace uscireの小テスト　第９課　Ho conosciuto Veronica　近過去・過去分詞。
第８週　映画を見る。
第９週　第９課　Ho conosciuto Veronica
　　近過去・部分冠詞。第10課　Mi e’ piaciuto subito　過去形　不規則な過去分詞
第10週　第９課　Ho conosciuto Veronica　の小テスト
　　第10課　Mi e’ piaciuto subito
　　過去形　不規則な過去分詞，関係代名詞
第11週　第10課の小テスト
　　第11課　Il lavoro　未来系
第12週　第１２課　Al grande magazzino　買い物へ　条件法
第13週　第11課と第１２課　の小テスト
　　第１３課　Lo sport　半過去，非人称の分
第14週　第１３課　Lo sport　半過去，非人称の分
　　練習問題と答え合わせ
第15週　映画を見る。
映画やイタリアの世界遺産の映像をたくさん見ます。

イタリア語　応用I

3723021100100

副　題	イタリア語基礎学力の向上	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 岡田　由美子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火/木	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-217-GM

〔授業の到達目標〕

基礎で養った会話の力を，聞き取りに力を入れることで，磨きましょう。そして，イタリアと日本の文化の違いを考えることで，イタリアとイタリア人の明るい生き方について学びましょう。イタリア語検定４級のレベルが目標です。

〔授業の内容〕

岡田の授業では『Ho capito！』と『Facciamo esercizi！』を使います。初級で習った文法をさらに発展させ，会話に欠かせない聞き取りの力を向上させましょう。目標はイタリア語検定４級です。

菅野の授業では配布プリントを使用します。慣用句などを使い，文化について考えたり話し合ったりします。会話に使えるフレーズをたくさん身につけたいと思います。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は，毎回プリントを配布します。

辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はもちろんですが，やはり応用でも復習には力を入れましょう。学んだ慣用句をしっかりと身に付けると，イタリア人もびっくりするはずです。

〔成績評価の方法〕

岡田・菅野の授業とも，各課ごとの理解度の確認，課題提出，授業中の積極的な参加姿勢，で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教師からの連絡事項はホームページを通じて，学生からの連絡はサポートセンターを通して行います

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。文化の違いや習った会話を，映画を通して感じてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　岡田：基礎イタリア語の総復習
　　菅野：授業説明
第２週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：イタリアの歌を訳しましょう。
第３週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：訳について考えます。
第４週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第５週　岡田：理解度の確認１　Lezione 10 Miè piaciuto subito.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第６週　岡田：Lezione 10 Miè piaciuto subito.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第７週　岡田：Lezione 10 Miè piaciuto subito.　まとめ
　　菅野：日本語の色々な言い回し
第８週　岡田：理解度の確認２　Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：映画を見ます
第９週　岡田：Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：文化と礼儀
第10週　岡田：Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：イタリア人が触れたがらない話題と文化の違い
第11週　岡田：理解度の確認３　Lezione 12 Al grande magazzino.
　　菅野：文化による人との距離
第12週　岡田：Lezione 12 Al grande magazzino.
　　菅野：文化と人生観
第13週　〃
第14週　岡田：Lezione 12 Al grande magazzino.　まとめ
　　菅野：まとめ
第15週　岡田：理解度の確認４
　　菅野：映画を見ます。

岡田の授業では,『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきます。必ず毎回教科書を２冊用意しましょう。
授業には予習はもちろんですが，特に復習に力を入れて学習しましょう。
菅野の授業では，その時のニュースを取り上げることもありますので，計画が変わることがあります。

イタリア語　応用II

3723021200100

副　題	イタリア語基礎学力の向上	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 岡田　由美子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火/木	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-218-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常のコミュニケーションをとることを目指します。春学期で習った表現力をさらに伸ばしましょう。秋学期終了後にはぜひイタリア語検定の４級を，もしくは３級にチャレンジするのもいいかもしれません。

イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話ができるようになりたい学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術を通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。

岡田の授業では『Ho capito！』と『Facciamo esercizi！』を使用し，基礎イタリア語で習った文法をさらに発展させ，会話に必要な聞き取る力も養っていきます。

菅野の授業では，ペアもしくはグループワーク，スキット作りなど，楽しみながら参加して練習をしましょう。また，どちらのクラスもイタリア語での映画を見たり，イタリア語の歌を聞いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は毎回用意いたします。

辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様，予習も必要ですが，復習に力を入れましょう。習った慣用句や表現をしっかりと覚えて，聞いた日本語が自然にイタリア語になって口から出るくらい，覚えてしまいましょう。

〔成績評価の方法〕

理解度の確認，授業への参加姿勢，出席で総合評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

教師からの連絡事項はホームページを通じて，学生からの連絡はサポートセンターを通して行います

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。イタリアの魅力をますます感じましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　岡田：春学期の総復習，夏休みの出来事
　　菅野：授業の説明と学生からの希望
第２週　岡田：Lezione 13 Lo sport.
　　菅野：いろいろな表現
第３週　〃
第４週　〃
第５週　岡田：Lezione 13 Lo sport.　まとめ
　　菅野：いろいろな表現
第６週　岡田：理解度の確認１　Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：いろいろな表現
第７週　岡田：Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：映画を見ます。
第８週　岡田：lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：メールの書き方
第９週　岡田：Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：イタリアの慣用句
第10週　岡田：理解度の確認２　Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：イタリアの慣用句
第11週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：イタリアの慣用句
第12週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：上下関係と男女の役割
第13週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：グリーティングカード，お礼の手紙，感謝の手紙
第14週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：まとめ
第15週　岡田：理解度の確認３　総まとめ
　　菅野：映画を見ます。

岡田の授業は目標としてイタリア語検定４級を目指しています。
『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，教科書を毎回必ず２冊用意しましょう。
菅野の授業はより具体的なイタリア語を使う場面での実践を目指しています。積極的に参加しましょう。

スペイン語　基礎I

3723051100100

副　題	さあ，スペイン語を始めよう！							担　当　者	木下　雅夫　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	SPN-119-GM

〔授業の到達目標〕
春学期は，直説法現在形の基本的用法を習得しよう。

〔授業の内容〕
スペイン語は世界の４億人が使う言葉です。この授業では，教科書を用いて，スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。この教科書は，一般向けの書籍で，スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に，文法説明と聴解を含む演習問題とで構成されています。受講者の皆さんは予め教科書で予習をして授業に臨みます。授業では，演習プリントを配布し，スペイン語基礎への理解を深めていきます。また，スペイン語の表現を通じて，スペイン語圏の文化・社会への理解も深めていきましょう。反転授業的なスタイルを目指したいので，予習を前提に授業に参加して下さい。また，スペイン語の習得には動詞の意味と活用を覚えること不可欠ですのです。語学習得の早さには個人差がありますが，こつこつ続けることが大事です。少しだけやって諦めてしまうのではなく，秋学期も続けて学ぶつもりで選択して下さい。

〔教材〕
教科書：阿由葉恵利子，阿波弓夫他『ミ　カミーノ』初版，同学社，2017年
参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年
寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』初版，三省堂，2010年
<辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は，携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富なことが特長で，日本語訳・西語訳の両方に使えて便利です。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが，白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：プリントを配布します。教科書の各単元の文法説明を読み，プリントを完成させて提出してください。（１時間）
復習：各単元毎に小テストを行います。教科書の内容を十分に理解し，基本単語・例文などを憶えてください。（１時間）

〔成績評価の方法〕
小テスト・期末テストおよび平常点(課題提出など）を総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
出講日の授業時間前後は２号館講師控室に居ます。急いで連絡を取りたい場合にはサポートセンターを通して連絡して貰ってください。

〔備考〕
しっかり声を出して読もう！

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　アルファベット，音と綴りの約束，アクセント。
第２週　名詞の性と数。
第３週　定冠詞，不定冠詞。
第４週　主格人称代名詞，動詞ser。
第５週　形容詞と形容詞の性数一致。
第６週　動詞estar, serとestarの使い分け。hay, hayとestar。
第７週　hay, hayとestar。所有形容詞前置形。
第８週　直説法現在規則活用動詞。
第９週　直接目的語と間接目的語。
第10週　直説法現在不規則活用動詞-1，不定詞表現。
第11週　直説法現在不規則活用動詞-2，動詞saberとconocer。
第12週　時刻と天気の表現。
第13週　直説法現在不規則活用動詞-3。
第14週　間接目的格・直接目的格人称代名詞。
第15週　理解度の確認
授業計画は，受講者の習熟状況に応じて変更します。

スペイン語　基礎II

3723051200100

副　題	スペイン語を続けよう！							担　当　者	木下　雅夫　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	SPN-120-GM

〔授業の到達目標〕
秋学期は，目的格人称代名詞，再帰動詞，過去形の基本的用法を習得しよう。

〔授業の内容〕
スペイン語は世界の４億人が使う言葉です。この授業では，教科書を用いて，スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。この教科書は，一般向けの書籍で，スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に，文法説明と聴解を含む演習問題とで構成されています。受講者の皆さんは予め教科書で予習をして授業に臨みます。授業では，演習プリントを配布し，スペイン語基礎への理解を深めていきます。また，スペイン語の表現を通じて，スペイン語圏の文化・社会への理解も深めていきましょう。反転授業的なスタイルを目指したいので，予習を前提に授業に参加して下さい。また，スペイン語の習得には動詞の意味と活用を覚えること不可欠ですのです。語学習得の早さには個人差がありますが，こつこつ続けることが大事です。ここまで学んだのです，スペイン語を必ずものにしましょう。

〔教材〕
教科書：阿由葉恵利子，阿波弓夫他『ミ　カミーノ』初版，同学社，2017年
参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年
寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』初版，三省堂，2010年
<辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は，携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富なことが特長で，日本語訳・西語訳の両方に使えて便利です。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが,白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：プリントを配布します。教科書の各単元の文法説明を読み，プリントを完成させて提出してください。（１時間）
復習：各単元毎に小テストを行います。教科書の内容を十分に理解し，基本単語・例文などを憶えてください。（１時間）

〔成績評価の方法〕
小テスト・期末テストおよび平常点(課題提出など）を総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
出講日の授業時間前後は２号館講師控室に居ます。急いで連絡を取りたい場合にはサポートセンターを通して連絡して貰ってください。

〔備考〕
しっかり声を出して読もう！

〔授　業　計　画〕

第１週　前置詞格人称代名詞，gustar動詞。
第２週　gustar型の動詞。
第３週　再帰動詞。
第４週　不定語・否定語。
第５週　過去分詞，現在完了形。
第６週　点過去規則活用動詞。
第７週　点過去不規則動詞
第８週　時の経過を表す表現。
第９週　受身文。
第10週　線過去。
第11週　点過去と線過去の使い分け。
第12週　未来形。
第13週　接続法現在。
第14週　命令形
第15週　理解度の確認
授業計画は，受講者の習熟状況に応じて変更します。

スペイン語　応用I

3723061100100

副　題	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	担　当　者	木下　雅夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	SPN-221-GM

〔授業の到達目標〕

春学期の目標は，基礎で学んだ文法を生かして，会話，作文などの表現力を磨くことです。

〔授業の内容〕

春学期の授業は，基礎１・２で習得したスペイン語を基礎として，スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばして行きます。基礎クラスの終了から１年以上空いた人でも安心して参加できます。演習教材『アンバル―スペイン語講座』を用いて，単語力と表現力の習得を図ります。またスペイン語検定やDELE(スペイン政府公認の検定試験)の問題などにもチャレンジしていきます。

〔教材〕

教科書：モヤノ＝ロペス，高松他『アンバル―スペイン語講座』第2版，弘学社，2010年

スペイン語辞書が必要であるので，必ず持参すること。

教科書『アンバル―スペイン語講座』は，初級の内容を復習しながら，スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『アンバル』で用いられるスペイン語表現の文法は，基礎クラスで理解しているものとして授業を進めます。各単元の文法内容に疑問があれば，別添「学生ノート」で予習をしてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は，単元毎の確認テスト，課題の消化，授業参加の積極性で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業日は授業前後に２号館講師控室にいます。急ぎの連絡の時にはサポートセンターの方に連絡をお願いしてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介と相手の属性を訪ねる表現演習
第２週　自分の家族を紹介する表現演習
第３週　人の特徴を描写する表現演習
第４週　人の状態を訪ね，自分の状態を描写する表現演習-1
第５週　人の状態を訪ね，自分の状態を描写する表現演習-2
第６週　時間に関する表現演習
第７週　日時に関する表現演習
第８週　所在に関する表現演習-1
第９週　所在に関する表現演習-2
第10週　大学生活に関する表現演習
第11週　余暇活動に関する表現演習
第12週　休暇に関する表現演習
第13週　今やっていることに関する表現演習-1
第14週　今やっていることに関する表現演習-2
第15週　理解度の確認

受講者には，DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

スペイン語　応用II

3723061200100

副　題	スペイン語のレベルアップをしよう！							担　当　者	木下　雅夫　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	SPN-222-GM

〔授業の到達目標〕

秋学期の目標は，春学期に続いて基礎の学習内容をもとに，スペイン語コミュニケーション力を向上させるとともに，西検やDELE(スペイン政府公認の検定試験)の取得が可能なスペイン語力を身につけることです。

〔授業の内容〕

秋学期の授業は，応用１に続いて，教科書『アンバル―スペイン語講座』を用いて，スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばす演習を行います。応用１の終了から１年以上空いた人でも安心して参加できます。また，実用スペイン語検定やDELE(スペイン政府公認の検定試験)問題，スペイン語圏の民話などを用いて演習を行います。積極的に資格をとりましょう！

〔教材〕

教科書：モヤノ＝ロペス，高松他『アンバル―スペイン語講座』第2版，弘学社，2010年

スペイン語辞書が必要であるので，必ず持参すること。

教科書『アンバル―スペイン語講座』は，初級の内容を復習しながら，スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『アンバル』で用いられる表現の文法事項は理解しているものとして授業を進めます。各単元の表現で用いられる文法に疑問点について，付属の「学生ノート」を用いて予習してください。

〔成績評価の方法〕

期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は，単元毎の確認テスト，課題の消化，授業参加の積極性で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業日には授業前後には２号館講師控室に居ます。急ぎの時にはサポートセンターの方に連絡をとってもらってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　意志，これからやろうとすることを述べる表現演習
第２週　天候に関する表現演習
第３週　希望を述べる表現演習
第４週　許可に関する表現演習
第５週　交通手段に関する表現演習
第６週　生活習慣に関する表現演習
第７週　自分の嗜好に関する表現演習
第８週　痛みに関する表現演習
第９週　完了した動作に関する表現演習
第10週　経験の有無に関する表現演習
第11週　完了が意識される過去に関する表現演習-1
第12週　完了が意識される過去に関する表現演習-2
第13週　不完了が意識される過去に関する表現演習
第14週　未来の事柄に関する表現演習
第15週　理解度の確認

受講者には，DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

中国語　基礎ⅠA

3724011100100

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	4/4	コース・ナンバー	CHN-123-GM

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識を習得する。最終的に中国語検定３級から４級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語を覚える。CDを聴きながら音読練習をする。
［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

授業の参加度（発言等。３分の１以上の欠席は不可。）10%と，平常点（小テスト）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡のこと。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　総括

中国語　基礎IB

3724011100200

副　題								担　当　者	金野　純　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/水	時限	2/3	コース・ナンバー	CHN-124-GM

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識を習得する。最終的に中国語検定３級から４級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを事前に読み，新出単語を暗記しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業の参加状況（発言等，なお３分の１以上の欠席は不可）10%と，平常点（単語の小テストや復習テスト）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡するか，メール（jun6116●gmail.com)（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　まとめ

中国語　基礎IC

3724011100300

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/5	コース・ナンバー	CHN-125-GM

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識を習得する。最終的に中国語検定３級から４級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。また，中国語検定等の資格試験受験のための練習も交える。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語を覚える。CDを聴きながら音読練習をする。
［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

授業の参加度（発言等。３分の１以上の欠席は不可。）10%と，平常点（小テスト等）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡のこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　総括

中国語　基礎ⅡA

3724011200100

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	4/4	コース・ナンバー	CHN-126-GM

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で３級から４級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で，春学期に学んだ内容を応用できるように練習し，簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語を覚える。CDを聴いて音読練習をする。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

授業の参加度（発言等。３分の１以上の欠席は不可。）10%と，平常点（小テスト等）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡のこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　“要”，“来”，“一点er”，お金の単位
第13週　復習
第14週　総合練習
第15週　総括

中国語　基礎ⅡB

3724011200200

副　題								担　当　者	金野　純　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/水	時限	2/3	コース・ナンバー	CHN-127-GM

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で３級から４級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で，春学期に学んだ内容を応用できるように練習し，簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストを読み，新出単語を記憶しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加（発言等，なお３分の１以上の欠席は不可となる）10%と，平常点（単語の小テストや復習テスト）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡もしくはメール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　レストランにて（“一点er”，お金の単位）
第13週　復習
第14週　まとめ
第15週　映画鑑賞と概略的な内容理解の練習

中国語　基礎ⅡC

3724011200300

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/5	コース・ナンバー	CHN-128-GM

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で３級から４級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で，春学期に学んだ内容を応用できるように練習し，簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また，中国語検定等の資格試験受験のための練習も交える。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語を覚える。CDを聴いて音読練習をする。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

授業の参加度（発言等。３分の１以上の欠席は不可。）10％と，平常点（小テスト等）20％，期末試験の成績70％を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡のこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　“要”，“来”，“一点er”，お金の単位
第13週　復習
第14週　総合練習
第15週　総括

中国語　応用I

3724021100100

副　題	基礎中国語からさらなる一歩	担　当　者	斉　霞　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	CHN-229-GM

〔授業の到達目標〕

続けて発音の向上をはかります。基本的な文法事項を更に習熟し，簡単な日常会話ができ，ある程度聞き取れ，中級への橋渡しになること。

〔授業の内容〕

中国語基礎で中国語の発音と基本的な文法を習得した学生を対象とする授業です。発音を重視しますので，音読練習をたくさん行う予定です。さらに一年に習った内容を踏まえて，主に基礎文型の中の「各種の補語」「把構文」「複文」部分を習得できるよう重点的に勉強します。使用教科書は『実用中国語十課２』です。

〔教材〕

教科書：劉愛莉等『実用中国語十課2』白帝社，2008年

辞書が必須なので各自ご用意ください

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎日三十分添付CDで聞いたり，単語を暗唱したり，声を出して読む練習をしたりしてください。そのうち中国語のリズム感がつかめるようになります。

〔成績評価の方法〕

単語テストを含めた小テストや授業中の発表および期末試験を総合して評価する。出席必須，遅刻三回で欠席一回，欠席回数に応じて最終評価が減点される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　第一課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第２週　第二課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第３週　第三課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第４週　復習テスト
第５週　第四課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第６週　第五課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第７週　復習テスト　文章読解
第８週　第六課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第９週　第七課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第10週　復習テスト
第11週　第八課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第12週　第九課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第13週　第十課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第14週　復習テスト　文章読解
第15週　インタネットで中国語利用の案内　授業理解度の確認
平常点として各課の単語テストと会話の暗唱を課すので，事前に予習が必要です。

中国語　応用II

3724021200100

副　題	リスニング中国語							担　当　者	斉　霞　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	CHN-230-GM

〔授業の到達目標〕

聞く，話す力をさらに伸ばし，中検三級レベルを目指します

〔授業の内容〕

この授業は中国語の発音と基礎文法を習得し，さらに聞く力を高めようとする学生を対象とする。

使用する教科書は会話やリスニングや文法に重点を置きながら総合的な語学力を高めるとともに，中国の文化や社会についての理解を深めることを目指すもので，中検三級までに相当するレベルのものでもある。

進め方としては毎回授業の前に学生は各自にまえもって音源を活用して予習し，授業では読み，和訳，聴き取りなどの練習を行う。そして取り上げた話題について質問をし，応用会話をする。こういった練習を通じて確実に話す力と聞く力を高めることを目指す。辞書を必ず用意してください。

〔教材〕

教科書：黄漢青・杉野元子『大学生のための現代中国12話④』白帝社，2015年

中日辞典が必須。電子辞書にはほとんど小学館の中日辞典を搭載しているので，一番のオススメです。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

一日三十分程度予習をしてください。単語の暗唱をしたり，本文を朗読してください。熟読しておけば，先生の質問を聞いてわかるようになります。

〔成績評価の方法〕

小テストと期末試験の結果にもとづき総合的に評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　基礎の復習
第２週　第一課　西洋の祝日
第３週　第二課　率直な中国人
第４週　第三課　大学生の軍事訓練
第５週　第四課　レストランにて
第６週　第五課　母親と息子
第７週　第六課　病院での付き添い
第８週　第七課　ビザ
第９週　第八課　待遇
第10週　第九課　北京の空
第11週　第十課　彼氏
第12週　第十一課　意外なこと
第13週　第十二課　ベートーベンと中国の伝統戯曲
第14週　中国語検定とHSKへのチャレンジ
第15週　総まとめ

各課の単語の小テストを行います。本文内容のごくの書き取り練習を取り入れることもあります。学期の中間もしくはおわりに中国語検定四級と三級の過去問を一回ずつやって，説明をします。中国語検定やHSKにも挑戦してみてください。

韓国語　基礎ⅠA

3725051100100

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	3/3	コース・ナンバー	KOR-131-GM

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し，正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において，次の２点を具体的な授業内容としたい。週の二回の授業は別々の内容を行う。１日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで,ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず,積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。２日目は，韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では,PCを使用してフレーズの学習や文字入力の練習も行う。なお,各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため，是非覚えてもらいたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として,予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）発音としくみ,（２）ハングルの歴史的背景　※（１）は１日目,（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文字の構成（母音・子音）
第３週　（１）程度の表現，（２）末音・連音現象
第４週　（１）状態の表現，（２）子音同化・濃音化現象
第５週　（１）目的の表現，（２）末音と子音の同化
第６週　（１）言い回しの表現，（２）復習（文字と発音）
第７週　韓国の文化（１）
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）平叙文と尊敬表現
第９週　（１）数字に関わる表現，（２）疑問形・否定文
第10週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）用言の一般形と末音変則形
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）用言の冠形詞形
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）用言の時制と母音調和
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）用言の禁止表現と勧誘形
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）
第15週　韓国の文化（２）

韓国語　基礎IB

3725051100200

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	4/4	コース・ナンバー	KOR-132-GM

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し，正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において，次の２点を具体的な授業内容としたい。週の二回の授業は別々の内容を行う。１日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで,ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず,積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。２日目は，韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では,PCを使用してフレーズの学習や文字入力の練習も行う。なお,各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため，是非覚えてもらいたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で,毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）発音としくみ,（２）ハングルの歴史的背景　※（１）は１日目,（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文字の構成（母音・子音）
第３週　（１）程度の表現，（２）末音・連音現象
第４週　（１）状態の表現，（２）子音同化・濃音化現象
第５週　（１）目的の表現，（２）末音と子音の同化
第６週　（１）言い回しの表現，（２）復習（文字と発音）
第７週　韓国の文化（１）
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）平叙文と尊敬表現
第９週　（１）数字に関わる表現，（２）疑問形・否定文
第10週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）用言の一般形と末音変則形
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）用言の冠形詞形
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）用言の時制と母音調和
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）用言の禁止表現と勧誘形
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）
第15週　韓国の文化（２）

韓国語　基礎ⅡA

3725051200100

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	3/3	コース・ナンバー	KOR-133-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎Ⅰを終了した者を対象とし，韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが，両者が融合される内容を目指す。第１日目に，簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など，文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお，前期と同様にPCの入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数字に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）接続語尾
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）接続語尾
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）一般慣用表現
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）一般慣用表現
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）まとめ
第15週　韓国の文化（５）

韓国語　基礎ⅡB

3725051200200

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-134-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎Ⅰを終了した者を対象とし，韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが，両者が融合される内容を目指す。第１日目に，簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など，文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお，前期と同様にPCの入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として,予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数字に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）接続語尾
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）接続語尾
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）一般慣用表現
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）一般慣用表現
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）まとめ
第15週　韓国の文化（５）

韓国語　応用I

3725061100100

副　題	実践的な韓国語学習							担　当　者	羅　京洙　准教授 李　ソラ　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水/木	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-235-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎を終了した者を対象に，更に一層の韓国語能力の向上や実践的な会話力の習得を目標とする。

〔授業の内容〕

将来的な能力向上を念頭において，週の二日を次の２点に分け，具体的な授業内容としたい。第１日目には，耳で聞くという学習方法を取り入れ，実際に行われている会話をフレーズ的に理解する学習を行う。具体的には，映画やドラマ，ナレーションなどで実際に使われているフレーズ，K-POPで使用されているフレーズをどうやって聞き取るか，どのように活用するかを検証し，実際に使えるようになる学習を行う。第２日目には，基礎に引き続き，基本的な文章構造を中心に学習する。なお，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

韓国語能力を向上させるためには，あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために，毎回の授業の準備として，テキストの予習・復習（合わせて４時間以上）をきちんと行い，積極的に教員に質問を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）基礎復習，（２）文章構成　※（１）は１日目，（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文章構成
第３週　（１）程度の表現，（２）文章構成
第４週　（１）状態の表現，（２）文章構成
第５週　韓国の文化（１）
第６週　（１）目的の表現，（２）基本文型
第７週　（１）言い回しの表現，（２）基本文型
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）基本文型
第９週　韓国の文化（２）
第10週　（１）数字に関わる表現，（２）基本文型
第11週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）基本文型
第12週　（１）交通・地理の表現，（２）基本文型
第13週　（１）天候・自然の表現，（２）基本文型
第14週　（１）学問・思考の表現，（２）基本文型
第15週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）

韓国語　応用II

3725061200100

副　題	実践的な韓国語学習	担　当　者	羅　京洙　准教授 李　ソラ　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水/木	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-236-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語応用Ｉを終了した者を対象とし，更に一層の韓国語能力の向上を目標とする。慣用的表現を習得し，実際の言語活動に活かせるようにする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開する。第１日目に，日常会話をスムーズに行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など文法上の問題を中心に学習する。また，前期に引き続き，映画やドラマ，ナレーションなどで実際に使われているフレーズをどうやって聞き取るか，どのように活用するかを検証し，実際に使えるようになる学習を行う。さらに，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

韓国語能力を向上させるためには，あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために，毎回の授業の準備として，テキストの予習・復習（合わせて４時間以上）をきちんと行い，積極的に教員に質問を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。教員との連絡方法については初回の授業時に案内する。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数字に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）まとめ（基本文型）
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）文章構成
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）文章構成
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）文章構成
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）文章構成
第15週　韓国の文化（５）

日本語IA

3726050100100

副　題	聴解力と会話力を高める									担　当　者	篠﨑　佳子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-137-GM

〔授業の到達目標〕

この授業は，聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では，テレビのニュースや情報番組，ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて，いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら，聞き取り練習をおこなう。また，希望があれば，日本語能力試験のための聴解練習やビジネス日本語の聴解練習も取り入れる。

「会話」では，いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら，口頭練習をおこなう。また，さまざまな日本事情を話題として取り上げ，スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして，日本人学生にも授業に参加してもらい，日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

授業では，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度（40%），提出物（30%），試験（30%）によって，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明とオリエンテーション
第２週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第３週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション１
第４週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第５週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ１
第６週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第７週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション２
第８週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第９週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ２
第10週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第11週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション３
第12週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第13週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ３
第14週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション４
第15週　まとめ（理解度の確認）
上記の計画は，授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語IB

3726050100200

副　題	漢字・聴解									担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-138-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：毎週，各自のレベルに合ったテストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える。
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる。
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%），学期末テスト（40%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワー：月曜日火曜日の14：00～14：30，18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，漢字プレイスメントテスト
第２週　漢字１　各自のレベルに応じた学習とテスト
　　現代文化１　ファッション
第３週　漢字２
　　現代文化２　日本の若者
第４週　漢字３
　　異文化コミュニケーション１　日本と自国の共通点
第５週　漢字４
　　異文化コミュニケーション２　日本と自国の相違点
第６週　漢字５
　　異文化コミュニケーション３　意見を聞く
第７週　漢字６
　　教育１　教育，習い事，教育制度
第８週　漢字７
　　教育２　教育についての意見を聞く
第９週　漢字８
　　社会１　日本の地理
第10週　漢字９
　　社会２　生教材
第11週　漢字10
　　伝統文化１　日本の伝統文化
第12週　漢字11
　　伝統文化２　日本の伝統行事
第13週　漢字12
　　生活・ライフスタイル１　結婚，結婚制度
第14週　漢字13
　　生活・ライフスタイル２　結婚，国際結婚についての意見を聞く
第15週　まとめ
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人サポーターに来ていただき，日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語IC

3726050100300

副　題	漢字・聴解							担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-139-GM

〔授業の到達目標〕

漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕

漢字：毎週，各自のレベルに合ったテストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人サポーターに伝える
＊日本人サポーターの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕

教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級７００』国書刊行会，2008年
佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書初級300』国書刊行会，2009年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕

毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワー：月曜日火曜日14：00～14：30，18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　漢字１　各自のレベルに合わせた学習とテスト
オリエンテーション
第２週　漢字２
現代文化１　ファッション
第３週　漢字３
現代文化２　日本の若者
第４週　漢字４
異文化コミュニケーション１　日本と自国の共通点
第５週　漢字５
異文化コミュニケーション２　日本と自国の相違点
第６週　漢字６
異文化コミュニケーション３　意見を聞く
第７週　漢字７
教育１　習い事
第８週　漢字８
教育２　教育についての意見を聞く
第９週　漢字９
伝統文化１　伝統文化
第10週　漢字10
伝統文化２　伝統行事
第11週　漢字11
生活・ライフスタイル１　結婚式
第12週　漢字12
生活・ライフスタイル２　国際結婚について
第13週　漢字13
生活・ライフスタイル　日本での生活
第14週　漢字14
日本の文化について
第15週　まとめ及び解説
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人サポーターに来ていただき，日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語ⅡA

3726050200100

副　題	聴解力と会話力を高める									担　当　者	篠﨑　佳子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-140-GM

〔授業の到達目標〕

この授業は，聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では，テレビのニュースや情報番組，ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて，いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら，聞き取り練習をおこなう。また，希望があれば，日本語能力試験のための聴解練習やビジネス日本語の聴解練習も取り入れる。

「会話」では，いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら，口頭練習をおこなう。また，さまざまな日本事情を話題として取り上げ，スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして，日本人学生にも授業に参加してもらい，日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

授業では，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度（40%），提出物（30%），試験（30%）によって，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明とオリエンテーション
第２週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第３週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション１
第４週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第５週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ１
第６週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第７週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション２
第８週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第９週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ２
第10週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第11週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション３
第12週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第13週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ３
第14週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション４
第15週　まとめ（理解度の確認）
上記の計画は，授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語IIB

3726050200200

副　題	漢字・聴解									担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-141-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：毎週，各自のレベルに合ったテストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワー：月曜日と火曜日の14：00～14：30，18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　漢字１　各自のレベルに合わせた学習，テスト
　　数字，　自己１　自己紹介
第２週　漢字２
　　助数詞，　自己２　趣味について
第３週　漢字３
　　時刻・日付，自己３　好きな食べ物
第４週　漢字４
　　拗音・促音・撥音，旅行１　おすすめの観光地
第５週　漢字５
　　清音・濁音，　旅行２　経験を聞く―楽しかった旅行について―
第６週　漢字６
　　電話―実際に電話をする―
第７週　漢字７
　　食１　日本の食文化１
第８週　漢字８
　　食２　日本の食文化２
第９週　まとめ１
第10週　漢字９
　　留学生の国の印象，国民性，文化などについて
第11週　漢字10
　　日本の迷信
第12週　漢字11
　　日本の季節の行事
第13週　漢字12
　　意見を聞く１　身近な問題について
第14週　漢字13
　　意見を聞く２　社会問題について
第15週　まとめ２
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人サポーターに来ていただき，日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語IIC

3726050200300

副　題	漢字・聴解									担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-142-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：毎週，各自のレベルに合ったテストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワー：月曜日と火曜日14：00～14：30，18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，漢字のプレイスメントテスト，指示のことば
第２週　漢字１　各自のレベルに合った学習とテスト
　　数字１，　自己について１　自己紹介
第３週　漢字２
　　数字２　自己について２　趣味など
第４週　漢字３
　　日付　自己について３　好きな食べ物
第５週　漢字４
　　拗音・促音・撥音，時刻　旅行１
第６週　漢字５
　　清音・濁音，助数詞，　旅行２
第７週　漢字６
　　清音・濁音，日本の食文化１
第８週　漢字７
　　拗音，撥音，日本の食文化２
第９週　漢字８
　　日本の今１　ポップカルチャー
第10週　漢字９
　　日本の今２　社会問題
第11週　漢字10
　　日本の伝統文化１　行事など
第12週　漢字11
　　日本の伝統文化２　考え方
第13週　漢字12
　　ニュースに慣れる１
第14週　漢字13
　　ニュースに慣れる２
第15週　まとめ及び解説
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人サポーターに来ていただき，日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語III A

3726050300100

副　題	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-143-GM

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して，日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し，高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では，いろいろなスタイルやトピックの文章を読み，日本人の考え方，文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに，伝統的な文化の記事から，文化だけでなく，日本人の考え方，生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

特に教科書は指定せず，随時プリント，新聞記事を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト　30%，宿題・提出物　20%，試験　50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　自己紹介
第２週　説明文を読む１
　　文法　１　受身の文
第３週　説明文を読む２
　　文法　２　受身と授受表現
第４週　小説を読む１
　　文法　３　配慮表現
第５週　小説を読む２
　　文法　４　使役文
第６週　エッセーを読む１
　　文法　５　使役文と使役受身の表現
第７週　エッセーを読む２
　　文法　テンスとアスペクト１
第８週　意見文を読む１
　　文法　テンスとアスペクト２
第９週　意見文を読む２
　　文法　自動詞・他動詞
第10週　情報を読み取る１
　　文法　モダリティ　１
第11週　読解のストラテジー１　トップダウンの読み方
　　文法　モダリティ　２
第12週　読解のストラテジー２　ボトムアップの読み方
　　文法　モダリティ　３
第13週　読解のストラテジー３　予測をする
　　文法　条件文
第14週　読解のストラテジー４　文章を整理して理解する
　　文法　助詞について
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本語IIIB

3726050300200

副　題	文法・読解							担　当　者	新井　恵美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-144-GM

〔授業の到達目標〕

正確に理解，運用できる語彙，表現を増やしながら，日本語の文章を読むスキルを習得し，情報やメッセージを的確に読み解くことがきるようになる。また，いろいろなタイプ，トピックのテキストの読解を通して，日本人の考え方や行動を考察し，日本文化，日本社会に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

基本文法の復習をしながら，中上級の機能表現の理解と運用力を高めるために例文の読みや作成をする。語彙，表現の意味，各文の意味，文章の展開へと理解を広げながら，情報，書き手のメッセージを正しく解釈する。また，各トピックについて自分の意見を述べたり，説明を加えたりする。各種新聞，雑誌，ウェブサイト，文学作品などから，お知らせ，広告，ニュース，説明文，エッセイ，意見文，論説文，会話文，小説，詩など，いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜，文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，文法説明・例文，読解テキストにはあらかじめ目を通し，辞書を使って語彙を調べ，内容を自分なりに解釈し，設問がある場合は答えを書き留め，疑問点は質問できるようにしておく。復習として，すべてのテキストを読み直し，意見や感想を書くなど発展的な課題に取り組む。また毎回行う小テストの準備をする。

〔成績評価の方法〕

出席･授業参加度(30%)，宿題･提出物(10%)，小テスト(10%)，期末試験(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

この内容は，２・３限通しの授業で実施する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，文法１（初級文法復習１）
　　読解１（速読のためのスキャニング練習）
第２週　文法２（初級文法復習２）
　　読解２（速読のためのスキミング練習）
第３週　文法３（文の構造）
　　読解３（お知らせ文・通知文・広告）
第４週　文法４（文章の展開）
　　読解４（統計・解説文）
第５週　文法５（機能表現１）
　　読解５（ニュース記事）
第６週　文法６（機能表現２）
　　読解６（マニュアル・説明文）
第７週　文法７（機能表現３）
　　読解７（エッセイ）
第８週　文法８（機能表現４）
　　読解８（エッセイ）
第９週　文法９（機能表現５）
　　読解９（詩）
第10週　文法10（機能表現６）
　　読解10（童話）
第11週　文法11（機能表現７）
　　読解11（論説文）
第12週　文法12（機能表現８）
　　読解12（映画シナリオ）
第13週　文法13（機能表現９）
　　読解13（小説）
第14週　文法14（機能表現10）
　　読解14（小説）
第15週　理解度の確認
授業計画は，学生の学習履歴，達成度，関心に合わせて変更することがある。

日本語IIIC

3726050300300

副　題	文法・読解							担　当　者	及川　千代香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-145-GM

〔授業の到達目標〕

中級の文法・表現，語彙を学習し，運用できるようになる。また，まとまりのある日本語の文章が正しく理解できるようになる。さらに，日本人の考え方や日本文化についても理解を深める。

〔授業の内容〕

既習文法の復習をしながら，新たな文型･表現を学び，例文作成練習で定着をはかる。また，読むスキルを身につけるための読解トレーニングを行い，さまざまなトピックの読みものを読む。まとまりごとに語彙テスト，文法テストを実施し，理解度を確認する。

〔教材〕

教科書は初回の授業時に指定する。
適宜，文法練習プリントおよび読み教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に語彙の意味調べは必須で，授業後には復習を目的とした宿題を課す。長い読みものが宿題の場合は，意味を辞書で調べ，内容を理解し，質問に答えること。また，まとまりごとの語彙テスト，文法テストのために準備をすること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加度　30%，宿題・提出物　10%，復習テスト　20%，期末試験　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，自己紹介，復習１
第２週　復習２
第３週　文法１＆読解１
第４週　文法２＆読解２
第５週　文法３＆読解３
第６週　文法４＆読解４
第７週　文法５＆読解５
第８週　文法６＆読解６
第９週　文法７＆読解７
第10週　文法８＆読解８
第11週　文法９＆読解９
第12週　文法10＆読解10
第13週　文法11＆読解11
第14週　文法12＆読解12
第15週　まとめ
状況により授業計画を変更することがある。

日本語IVA

3726050400100

副　題	日本語を通して日本を深く理解する	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-146-GM

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して，日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し，高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では，いろいろなスタイルやトピックの文章を読み，日本人の考え方，文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに，伝統的な文化の記事から，文化だけでなく，日本人の考え方，生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト　30%，宿題・提出物　20%，試験　50%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　自己紹介
第２週　読解：異文化コミュニケーションについて１
　　文法：慣用句　と　副詞　１
第３週　読解：異文化コミュニケーションについて２
　　文法：慣用句　と　副詞　２
第４週　発表
第５週　読解：若者について１
　　文法：慣用句　と　副詞　３
第６週　読解：若者について２
　　文法：慣用句　と　副詞　４
第７週　読解：女性の生き方１
　　文法：オノマトペ　１
第８週　読解：女性の生き方２
　　文法：オノマトペ　２
第９週　読解：伝記
　　文法：オノマトペ　３
第10週　発表
第11週　読解：日本社会　ー信頼社会と安心社会ー
　　文法：接続詞
第12週　読解：日本社会　ー仕事ー
　　文法：接続詞
第13週　読解：豊かさとは何か１
　　文法：敬語
第14週　読解：豊かさとは何か２
　　文法：敬語
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本語IVB

3726050400200

副　題	文法・読解								担　当　者	新井　恵美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-147-GM

〔授業の到達目標〕

正確に理解，運用できる語彙，表現を増やしながら，日本語の文章を読むスキルを習得し，情報やメッセージを的確に読み解くことがきるようになる。また，いろいろなタイプ，トピックのテキストの読解を通して，日本人の考え方や行動を考察し，日本文化，日本社会に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

基本文法の復習をしながら，中上級の機能表現の理解と運用力を高めるために例文の読みや作成をする。語彙，表現の意味，各文の意味，文章の展開へと理解を広げながら，情報，書き手のメッセージを正しく解釈する。また，各トピックについて自分の意見を述べたり，説明を加えたりする。各種新聞，雑誌，ウェブサイト，文学作品などから，お知らせ，広告，ニュース，説明文，エッセイ，意見文，論説文，会話文，小説，詩など，いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜，文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，文法説明・例文，読解テキストにはあらかじめ目を通し，辞書を使って語彙を調べ，内容を自分なりに解釈し，設問がある場合は答えを書き留め，疑問点は質問できるようにしておく。復習として，すべてのテキストを読み直し，意見や感想を書くなど発展的な課題に取り組む。また毎回行う小テストの準備をする。

〔成績評価の方法〕

出席･授業参加度(30%)，宿題･提出物(10%)，小テスト(10%)，期末試験(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

この内容は，２・３限通しの授業で実施する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，文法１（初級文法復習１）
　　読解１（速読のためのスキャニング練習）
第２週　文法２（初級文法復習２）
　　読解２（速読のためのスキミング練習）
第３週　文法３（文の構造）
　　読解３（お知らせ文・通知文・広告）
第４週　文法４（文章の展開）
　　読解４（統計・解説文）
第５週　文法５（機能表現１）
　　読解５（ニュース記事）
第６週　文法６（機能表現２）
　　読解６（マニュアル・説明文）
第７週　文法７（機能表現３）
　　読解７（エッセイ）
第８週　文法８（機能表現４）
　　読解８（エッセイ）
第９週　文法９（機能表現５）
　　読解９（詩）
第10週　文法10（機能表現６）
　　読解10（童話）
第11週　文法11（機能表現７）
　　読解11（論説文）
第12週　文法12（機能表現８）
　　読解12（映画シナリオ）
第13週　文法13（機能表現９）
　　読解13（小説）
第14週　文法14（機能表現10）
　　読解14（小説）
第15週　理解度の確認
授業計画は，学生の学習履歴，達成度，関心に合わせて変更することがある。

日本語IVC

3726050400300

副　題	文法・読解							担　当　者	及川　千代香　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-148-GM

〔授業の到達目標〕

中級の文法・表現，語彙を学習し，運用できるようになる。また，まとまりのある日本語の文章が正しく理解できるようになる。さらに，日本人の考え方や日本文化についても理解を深める。

〔授業の内容〕

既習文法の復習をしながら，新たな文型・表現を学び,例文作成練習で定着をはかる。また，読むスキルを身につけるための読解トレーニングを行い，日本人の生活や日本文化に関する読みものにもチャレンジする。まとまりごとに語彙テスト，文法テストを実施し，理解度を確認する。

〔教材〕

教科書は初回の授業時に指定する。
適宜，文法練習プリントおよび読み教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に語彙の意味調べは必須で，授業後には復習を目的とした宿題を課す。長い読みものが宿題の場合は，辞書で調べ，内容を理解し，質問に答えること。
また，まとまりごとの語彙テスト，文法テストのために準備をすること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加度　30%，宿題・提出物　10%，復習テスト　20%，期末試験　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡をすること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，自己紹介，復習１
第２週　復習２
第３週　文法１＆読解１
第４週　文法２＆読解２
第５週　文法３＆読解３
第６週　文法４＆読解４
第７週　文法５＆読解５
第８週　文法６＆読解６
第９週　文法７＆読解７
第10週　文法８＆読解８
第11週　文法９＆読解９
第12週　文法10＆読解10
第13週　文法11＆読解11
第14週　文法12＆読解12
第15週　まとめ
状況により授業計画は変更することがある。

日本語VA

3726050500100

副　題	大学で学ぶために必要な日本語1							担　当　者	松本　祥子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1/2	コース・ナンバー	JPL-149-GM

〔授業の到達目標〕

４年間を通して日本の大学で学ぶためには，日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん，読解力，聴解力，書く力，話す力，発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：N1レベルの構文を理解するだけでなく，これを適切に使いこなせるように練習する。
語彙：文法・表記等で適切な文を書けるよう練習する。
聴解：内容を正確に把握できるよう練習する。
作文：読み取ったことをまとめたり意見文を作成したりする。レポート執筆のための基礎を学ぶ。
話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回，必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（60%）及び平常授業における提出物・確認テスト（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に知らせるメールアドレスに連絡すること。

〔備考〕

クラスのメンバーにより，授業内容が変更されることがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介・導入
第２週　語彙の意味・用法１
第３週　読解と作文練習１
第４週　語彙の意味・用法２
第５週　読解と作文練習２
第６週　語彙の意味・用法３
第７週　聴解と作文練習
第８週　レポートの書き方１
第９週　N1の表現文型を使いこなす１
第10週　レポートの書き方２
第11週　N1の表現文型を使いこなす２
第12週　敬語を使いこなす１
第13週　N1の表現文型を使いこなす３
第14週　敬語を使いこなす２
第15週　まとめ・確認

日本語VB

3726050500200

副　題	発信するための日本語へ							担　当　者	野口　直子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-150-GM

〔授業の到達目標〕

作文，会話を通して，発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして，自分の身近なできごとのみならず，日本および自国の社会，文化についての洞察を深められるような素材を新聞，インターネットなどからとりあげる。それらの情報を基に，説明する。意見を述べるなどの技術，能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け，日本の社会，文化について生の情報を得たり，ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので，学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加20%，宿題・提出30%，クラス内でのテスト50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　ニーズ調査，レディネス調査
第２週　作文の技術（１）自己紹介の文章の書き方
　　自己紹介をする
第３週　作文の技術（２）説明文
　　友だちについて
第４週　作文の技術（３）説明文
　　私の国について
第５週　作文の技術（４）説明文
　　私の国の有名人
第６週　作文の技術（５）感想文
　　私の好きな小説／映画／劇
第７週　作文の技術（６）感想文
　　私の好きな場所／国
第８週　作文の技術（７）感想文
　　趣味について・料理について
第９週　作文の技術（８）メールの書き方
　　依頼する
第10週　作文の技術（９）メールの書き方
　　お知らせをする
第11週　作文の技術（10）意見文
　　異文化について
第12週　作文の技術（11）意見文
　　教育について
第13週　作文の技術（12）意見文
　　伝統文化について
第14週　作文の技術（13）意見文
　　現代社会について
第15週　まとめ
日本人学生にボランティアとして会話の相手に入ってもらう授業を実施予定。
授業計画は変更することがある。

日本語VC

3726050500300

副　題	書く力・話す力を高める	担　当　者	加藤　陽子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-151-GM

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題について，まとまった文章を書き，発表できるようになる。また，それらの話題について，質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について，小スピーチの原稿を書き，発表する。さらに，発表内容について，質疑応答の練習をおこなう。また，自然な発音，アクセントの練習や，色々な場面での会話練習やインタビュー，ディスカションをおこなう。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前の授業内容の復習となる課題をおこなった上で出席すること。また，日常生活の中で見つけた言葉をリストにまとめて，使える言葉を増やすこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度(30%)，課題（30%），試験と発表（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業についての説明とオリエンテーション，作文（表記のしかた，自己紹介文），自己紹介練習
第２週　作文（１），メールを書く，会話
第３週　作文（１），メールを書く，発音・アクセント練習，会話
第４週　作文（１），発音・アクセント練習，スピーチ，スピーチの内容について会話
第５週　作文（２），発音・アクセント練習，会話
第６週　作文（２），発音・アクセント練習，会話，インタビュー
第７週　作文（２），発音・アクセント練習，スピーチ，スピーチの内容について会話
第８週　作文（３），発音・アクセント練習，会話
第９週　作文（３），発音・アクセント練習，会話，インタビュー
第10週　作文（３），機能別会話，スピーチ，スピーチの内容について会話
第11週　作文（４），機能別会話，ディスカッション
第12週　作文（４），機能別会話，インタビュー，ディスカッション
第13週　作文（４），機能別会話，ディスカッション
第14週　感謝の手紙の書き方，スピーチ，スピーチの内容について会話
第15週　まとめと解説
学生の状況によって，授業計画を一部変更することがある。

日本語VI A

3726050600100

副　題	大学で学ぶために必要な日本語２							担　当　者	松本　祥子　講師		
単位	２	配当年次	１～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1/2	コース・ナンバー	JPL-152-GM

〔授業の到達目標〕

４年間を通して日本の大学で学ぶためには，日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん，読解力，聴解力，書く力，話す力，発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：N1レベルの構文を理解するだけでなく，これを適切に使いこなせるように練習する。
語彙：文法・表記等で適切な文を書けるよう練習する。
聴解：内容を正確に把握できるよう練習する。
作文：読み取ったことをまとめたり意見文を作成したりする。レポート執筆のための基礎を学ぶ。
話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回，必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（60%）及び平常授業における提出物・確認テスト（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に伝えるメールアドレスにメールすること。

〔備考〕

クラスのメンバーにより，授業内容が変更されることがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介・導入
第２週　語彙の意味・用法１
第３週　読解と作文練習１
第４週　語彙の意味・用法２
第５週　読解と作文練習２
第６週　語彙の意味・用法３
第７週　聴解と作文練習
第８週　レポートの書き方１
第９週　N1の表現文型を使いこなす１
第10週　レポートの書き方２
第11週　N1の表現文型を使いこなす２
第12週　敬語を使いこなす１
第13週　N1の表現文型を使いこなす３
第14週　敬語を使いこなす２
第15週　まとめ・確認

日本語VIB

3726050600200

副　題	発信するための日本語へ									担　当　者	野口　直子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-153-GM

〔授業の到達目標〕

作文，会話を通して，発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして，自分の身近なできごとのみならず，日本および自国の社会，文化についての洞察を深められるような素材を新聞，インターネットなどからとりあげる。その情報を基に，説明や，意見を述べる技術，能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け，日本の社会，文化について生の情報を得たり，ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので，学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席・授業への参加20%，宿題・提出30%，クラス内でのテスト50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　ニーズ調査，レディネス調査
第２週　小論文の書き方（１）原稿用紙の使い方
　　会話：旅行について１
第３週　小論文の書き方（２）表記のしかた
　　会話：旅行について２
第４週　小論文の書き方（３）文体について
　　ディスカッション：旅行について
第５週　小論文の書き方（４）話し言葉から書き言葉へ
　　会話：食について
第６週　小論文の書き方（５）正しい構造の文１
　　会話：健康について
第７週　小論文の書き方（６）正しい構造の文２
　　ディスカッション：食と健康について
第８週　小論文の書き方（７）文のつながり
　　会話：日本の社会について１
第９週　小論文の書き方（８）小論文に使われる表現
　　会話：日本の社会について２
第10週　小論文の書き方（９）段落
　　ディスカッション：日本の社会について
第11週　小論文の書き方（10）小論文のはじめとおわり
　　ディスカッション：自国の文化と日本の文化
第12週　メールの書き方
　　ディスカッション：現代文化と伝統文化
第13週　敬語を使用した文章
　　依頼の場面での会話
第14週　敬語を使用した文章
　　許可を求める場面の会話
第15週　まとめ
日本人学生にボランティアとして入ってもらい会話，ディスカッションを実施予定。
授業計画は変更することがある。

日本語VIC

3726050600300

副　題	書く力・話す力を高める	担　当　者	加藤　陽子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-154-GM

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題，また，専門分野の一般的な話題について，まとまった文章を書き，発表できるようになる。また，それらの話題について，質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について，また，専門分野の一般的な話題について，小スピーチの原稿を書き，発表する。また発表内容について，質疑応答とインタビューの練習をおこなう。加えて，会話の技術を向上させるさまざまな練習をする。さらに，表現する力をつけるために，語彙力を高める。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

文章を書く課題や表現を口頭で練習する課題に取り組み，授業の復習をしたうえで次の授業に臨むこと。また，語彙力を高めるために，日常生活の中で見つけた語彙をまとめてリストにし，覚えて使うようにすること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度(30%)，課題（30%），試験と発表（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業についての説明とオリエンテーション，作文（表記のしかた），メールの書き方
第２週　作文（自己紹介文），会話技術（発音，アクセント，イントネーション），機能別会話
第３週　作文（国の紹介），会話技術（発音，アクセント，イントネーション），機能別会話
第４週　作文（日本社会について１），会話
第５週　〃
第６週　作文（日本社会について１），会話，スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第７週　作文（日本社会について２），会話技術（質問），インタビュー
第８週　〃
第９週　作文（日本社会について２），会話技術（質問），スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第10週　作文（専門について１），会話技術（あいづち，フィラー），インタビュー
第11週　〃
第12週　作文（専門について１），スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第13週　作文（意見），ディスカッション
第14週　〃
第15週　まとめ
学生の状況によって，授業計画を一部変更することがある。

司書課程

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

平成 24 年度以降入学者用

司 書 課 程　平成 29 年度授業科目および担当者

ローマ数字は科目名、アルファベットはクラス名を指す

相当する省令科目	単位	科目群	本学開講科目	コース・ナンバー	単位	履修年次	履修単位	学期		担当者	頁
生涯学習概論	2	司書課程必修科目群	生涯学習概論	INF-181-LA	2	第2セメスター～	13科目 26単位	春		塚原　正彦	848
図書館概論	2		図書館概論	INF-182-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	849
図書館制度・経営論	2		図書館制度・経営論	INF-283-LA	2	第2セメスター～			秋	戸田あきら	850
図書館情報技術論	2		図書館情報技術論A	INF-284-LA	2	第4セメスター～		春		江藤　正己	851
			図書館情報技術論B	INF-285-LA					秋	江藤　正己	852
図書館サービス概論	2		図書館サービス概論	INF-186-LA	2	第2セメスター～			秋	越塚　美加	853
情報サービス論	2		情報サービス論	INF-187-LA	2	第2セメスター～		春		江藤　正己	854
児童サービス論	2		児童サービス論A	INF-288-LA	2	第2セメスター～		春		汐﨑　順子	855
			児童サービス論B	INF-289-LA					秋	汐﨑　順子	856
情報サービス演習	2		情報検索演習A	INF-390-LA	2	第4セメスター～		春		江藤　正己	857
			情報検索演習B	INF-391-LA					秋	江藤　正己	858
			レファレンスサービス演習A	INF-292-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	859
			レファレンスサービス演習B	INF-293-LA					秋	越塚　美加	860
図書館情報資源概論	2		図書館情報資源概論	INF-194-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	861
情報資源組織論	2		情報資源組織論	INF-195-LA	2	第2セメスター～			秋	蟹瀬　智弘	862
情報資源組織演習	2		情報資源組織演習Ⅰ	INF-296-LA	2	第3セメスター～			秋	蟹瀬　智弘	863
			情報資源組織演習Ⅱ	INF-297-LA	2	第3セメスター～		春		木村麻衣子	864
図書館基礎特論	1	司書課程選択必修科目群	図書館基礎特論	INF-381-LB	2	第5セメスター～	2科目 4単位以上		秋	江藤　正己	865
図書・図書館史	1		図書・図書館史	INF-182-LB	2	第2セメスター～			秋	白戸満喜子	866
図書館サービス特論	1		図書館サービス特論	INF-383-LB	2	第5セメスター～		春		越塚　美加	867
計 15 科目 30 単位以上（本学の科目）											

省令科目とは図書館法施行規則で規定された科目のことを指す。本学の選択必修科目群では省令上 1 単位が配当されている科目を 1 科目 2 単位として開講しているが、省令上、 2 科目以上を修得する必要があるため本学開講科目 2 科目 4 単位以上を選択必修としている。

生涯学習概論

3801000100100

副　題	楽習社会の未来デザイン							担　当　者	塚原　正彦　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INF-181-LA

〔授業の到達目標〕
文明のまなざしからいま私たちの社会で起きている学びの革命を検証し，生涯学習をデザインし，マネジメントすることができる想像力と創造力を持ち，専門能力を使いこなすことができる資質とは何かを明らかにする。身近な地域や生活にまなざしをあて，物語ミュージアムを創造する演習を組み入れながら，未来の学芸員，司書そして楽習デザイナーに求められる生活，文化資源の発見の方法，学びのコンテンツをデザインをするためのスキルの習得を目指す。

〔授業の内容〕
情報文明が進展し，新しい富の未来が到来し，生涯学習社会は新たな段階に突入しつつある。イギリスをはじめ先進各国では，文化施設やライブラリーが，狭義の保存，管理，研究施設から人々の学びをテーマにした楽習創造センターにうまれ変わり，地域の持つ文化遺伝子を活用したまなびのプログラムやそれを未来に継承するための人づくりが実践されはじめた。そのような動きは，企業活動，生活文化，そして遊びにまで波及している。
図書館，公民館，ミュージアム，青少年教育施設などの最先端の取り組みに加え，学ぶ人が主役となり，思いついたアイデアを次々に結びつけ，物語をつくり知を創造するコンテンツ産業，ツーリズム，幸福産業なども視野にいれ，生涯学習社会の可能性と私たち一人ひとりの生きるチカラとは何かについて考える。

〔教材〕
教科書：塚原正彦　柳　鍾珌『世界の図書館　夢を育む知のミュージアム』一般社団法人日本地域資源研究所，2016年
参考書：塚原正彦『みんなのミュージアム』日本地域社会研究所，2016年
塚原正彦『ふるさと遺産』日本地域社会研究所，2006年
教科書としては，著者が編著した「みんなのミュージアム」（日本地域資源研究所）と「世界の図書館　夢を育む知のミュージアム」を活用する。活用の方法については，授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
楽習施設の見学などの演習で授業をすするめるため，施設調査や地域資源調査の発注課題に取り組むことになる。（合計30時間）

〔成績評価の方法〕
400字の「未来デザインシート」（20%），みんなのミュージアムの施設調査（50%），みんなのミュージアムのワークシート（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールでやりとりする。g-museum●jcontents.info（change ● to @）

〔備考〕
・みんなのミュージアムの施設調査を実施し，楽習デザインを評価薄するレポートを作成する。
・「みんなのミュージアム」「世界の図書館」を読むワークシートを完成する課題をだす。

〔授　業　計　画〕

第１週　生涯学習の理念と国づくりと地域（楽習都市の未来デザイン）
第２週　歴史に学ぶ本とコレクションのチカラ（学術都市アレキサンドリアとミュージアムとライブラリーの誕生）
第３週　生涯学習が地域を変え，未来をつくる（暮らしをデザインする文化起業家）
第４週　まなびと交流が創造する未来産業（W.ディズニーの挑戦と楽習社会）
第５週　生活に組み込まれた学びとデザイン（玩具からみた家庭のチカラ）
第６週　人に優しいヒューマンライブラリー（冠岳区の図書館革命に学ぶ）
第７週　デジタルコミュニケーションが学びを変える（世界一大きな本とふるさとミュージアム）
第８週　楽習デザインの事例研究：ふるさとの本をつくるプロジェクト（ブータン王国の世界一大きな本）
第９週　楽習デザインの事例研究:ふるさとの記憶を記録する（デジタルアーカイブの取り組み）
第10週　楽習デザインの事例研究：ミュージアム国富論とイギリスの知の産業革命
第11週　楽習デザインの事例研究：私設公民館の学習デザイン（愛媛県伊予市双海町の学びのデザイン）
第12週　地域資源の発見と活用の基本スキルを習得する（歩く，見る，聞く）
第13週　現地実習：地域資源調査と地域資源の物語化の実践してみる
第14週　地域社会のための学びのライブラリーをデザインする
第15週　楽習社会の未来デザインを共有し評価する

未来デザイン研究と自然に美をみいだし，ひろい心を持ち，ありのままに生きている名も知れぬ人々がうみだしている人間味あふれる物語を相互作用させながら,筆者が開発したミュージアム・メソッド（事例研究→フィールド調査→プレゼンテーション創作→展示→相互評価）を活用して，授業をすすめる。受講者には，一人ひとりの身近な生活にまなざしを向け，未来への宝物を収集し，自分の目で見て，考え，思いを世界に発信する演習に参加する。

図書館概論

3801001100100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	INF-182-LA

〔授業の到達目標〕

図書館の基本的な機能を理解する。また，館種ごとの違いについて認識しながら，図書館員の役割について理解する。

〔授業の内容〕

図書館の基本的な機能や社会での位置づけおよび市民生活で果たすべき役割について，法的な基盤やこれまでに策定されてきた各種政策，答申，報告書の内容と深く結び付いていることを踏まえ，理解することを目的とする。

上述の狙いに基づいて，図書館の歴史や現状を，館種別に検討すると同時に，図書館職員の役割や資格に対する考え方，設置母体との関係，さまざまな図書館の利用者の特徴，類縁機関やそのほかの機関との関わりについて取り上げる。

〔教材〕

参考書：高山正也、岸田和明編『図書館概論』（現代図書館情報学シリーズ1）樹村房，2011年
日本図書館協会『図書館年鑑2016』2016年版，日本図書館協会，2016年

授業は配布資料を中心に進めるので，欠席した翌週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し，必要に応じて受領しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時にできるだけ具体的な事例を示すので,復習のために文献リスト中の文献を読んだり,ウェブページを確認することが求められる。

〔成績評価の方法〕

平常点４割，期末試験６割

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日４限，５限
サポートセンターを通じて，あるいは電子メール

〔授　業　計　画〕

第１週　日本の図書館の現状と動向：統計資料をもとに
第２週　日本の図書館の現状と動向：政策との関わり
第３週　日本の図書館の現状と動向：図書館活動の事例
第４週　図書館の構成要素と機能
第５週　図書館の自由に関する現状と課題
第６週　各種公共図書館宣言に見られる公共図書館像
第７週　図書館の歴史
第８週　公共図書館の成立と展開１
第９週　公共図書館の成立と展開２
第10週　館種別図書館の特徴と利用者１
第11週　館種別図書館の特徴と利用者２
第12週　図書館員の役割と資格
第13週　図書館と連携・協力を進める諸機関
第14週　図書館の課題と展望１
第15週　図書館の課題と展望２

図書館制度・経営論

3801001200100

副　題								担　当　者	戸田　あきら　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	INF-283-LA

〔授業の到達目標〕

1．図書館が，どのような枠組み（環境，制約）の中で活動しているか理解する。

2．図書館事業の進め方，目標のたて方及び目標を達成するための計画づくりの一般的方法を理解する。

3．図書館評価の考え方と基礎的な方法を理解し習得する。

〔授業の内容〕

図書館に関する法律，関連する領域の法律，図書館政策について解説するとともに，図書館経営の考え方，職員や施設等の経営資源，サービス計画，予算の確保，統計と評価，管理形態等について解説する。

〔教材〕

参考書：糸賀稚児, 薬袋秀樹『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ２）初版，樹村房，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習　次回の授業内容に挙げられた事項に関し参考書又は類似の資料で関連項目に目を通しておく　0.5時間

事後学習　授業の内容について振り返りノートの整理等をしておく　0.5時間

レポート　７時間

小テスト（２回）の準備　各４時間

〔成績評価の方法〕

ア，授業期間中に２回（予定）小テストを行う。(30%)

イ，レポートを課す（課題及び提出期限は授業中に伝える。）(50%)

アとイの評価及び授業への積極性（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールによる。メールアドレスは初回授業で伝える。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション（この授業の目的，司書課程中の位置づけ，主な内容など）
第２週　制度とは
　　図書館を規定する法律（１）教育基本法，社会教育法，地方自治法
第３週　図書館を規定する法律（２）図書館法（沿革，第１条から第４条）
第４週　図書館を規定する法律（３）図書館法（第５条から）
第５週　図書館業務に関連する法（著作権法，個人情報保護法）
　　地方自治体における法令（条例，規則）
第６週　公共図書館以外の図書館を規定する法律（国会図書館法，学校図書館法，大学設置基準）
第７週　図書館政策（政策とは，国・行政・民間の政策）
第８週　図書館を支える仕組み（日本図書館協会，図書館の組織，ネットワークなど）
　　理解度の確認
第９週　経営とは（効果，効率の最大化）
第10週　図書館財政と予算
第11週　図書館職員（職員制度，職員の資質向上のための仕組み）
第12週　経営形態（直営，委託，指定管理者）
第13週　サービス計画（計画の内容，立案の手法・方法，実行管理）
第14週　統計と評価
第15週　図書館の危機管理（リスクマネジメント）
　　理解度の確認

図書館情報技術論Ａ

3801001500100

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-284-LA

〔授業の到達目標〕

社会における情報技術の役割や位置づけを知る
コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を修得する
検索システムの仕組みを理解し，その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
図書館業務に関する情報技術を類別し，それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕

第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。
まず，身のまわりにどのような情報システムが存在するか，現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことからはじめる。その後，「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など，多くの人が日常的におこなう行動の裏側で，どのような情報技術や仕組が働いているのかを説明する。特に，核となる箇所については，PCを用いた演習の形式をとる。その他，図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕

参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社，2011年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)，演習課題(40%)，レポート(20%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術と社会
第２週　コンピュータとネットワークの基礎
第３週　コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ
第４週　ホームページによる情報の発信（１）
第５週　ホームページによる情報の発信（２）
第６週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術
第７週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（１）
第８週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（２）
第９週　最新の情報技術と図書館
第10週　検索システムを支える基礎的な技術
第11週　検索システム（データベース・検索エンジン）の仕組み
第12週　検索システムのランキングの理論
第13週　検索システムのランキングの実際（１）
第14週　検索システムのランキングの実際（２）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館情報技術論Ｂ

3801001500200

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	INF-285-LA

〔授業の到達目標〕
社会における情報技術の役割や位置づけを知る
コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を修得する
検索システムの仕組みを理解し，その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
図書館業務に関する情報技術を類別し，それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕
第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。
まず，身のまわりにどのような情報システムが存在するか，現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことからはじめる。その後，「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など，多くの人が日常的におこなう行動の裏側で，どのような情報技術や仕組が働いているのかを説明する。特に，核となる箇所については，PCを用いた演習の形式をとる。その他，図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕
参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社，2011年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，演習課題(40%)，レポート(20%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術と社会
第２週　コンピュータとネットワークの基礎
第３週　コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ
第４週　ホームページによる情報の発信（１）
第５週　ホームページによる情報の発信（２）
第６週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術
第７週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（１）
第８週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（２）
第９週　最新の情報技術と図書館
第10週　検索システムを支える基礎的な技術
第11週　検索システム（データベース・検索エンジン）の仕組み
第12週　検索システムのランキングの理論
第13週　検索システムのランキングの実際（１）
第14週　検索システムのランキングの実際（２）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館サービス概論

3801001400100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INF-186-LA

〔授業の到達目標〕
図書館で提供する基本的なサービスについて理解し，コミュニティの中の図書館の役割について明確な考えを持つ。

〔授業の内容〕
図書館は，その館種によってサービス対象やサービス内容，扱う資料の種類が大きく異なっている。この授業では，公立図書館におけるサービスを中心にその基本構成及び最新の状況について議論する。公立図書館に限らず，図書館界は社会状況を反映して大きく変動している時期にあたっており，この授業を受講した後も自ら知識を最新のものに保つ必要がある。
利用者によりよいサービスを提供するために，資料を，収集，組織化，保存，管理し，利用者の要求にできる限りこたえようとする点は館種を問わず共通しており，この「サービスの精神」は，図書館員の資質として重要なものの一つである。
本科目では，図書館サービスの意義と利用者に対する多様なサービスについて理解を深め，基本的な知識を習得することを目的とする。また，館種による利用者像，近年見られるさまざまな分野に焦点を当てた新しい情報提供サービス，国際的にも注目されている著作権問題，図書館間ネットワークの動向や新しいサービスを展開していく上で不可欠な他機関との協力の可能性について議論する。

〔教材〕
参考書：宮部頼子編『図書館サービス概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2012年
日本図書館協会『図書館年鑑(購入不要)』最新版，日本図書館協会
本講義では，基本的に教科書に基づいて進めていく。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時間内に示すさまざまな図書館サービスについて，文献を読んだり，ウェブページを確認したり，また実際に図書館訪問をすることによって確認することによって復習することを求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（４割）（授業中に数回ビデオを見てそれに関する考察等のレポートを求める）及び期末レポート（６割）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4, 5限
サポートセンターを通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した場合は次週までに必ず配布資料の有無をサポートセンターで確認し，必要に応じて資料を受け取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館でサービスを提供するということ
第２週　図書館法といわゆる「望ましい基準」
第３週　利用者のためのサービス：さまざまな館種と利用者
第４週　テクニカルサービスとパブリックサービス
第５週　貸出サービスの現在
第６週　情報提供サービス
第７週　図書館の文化活動，図書館の広報
第８週　利用者別に見たサービスの種類と留意点：障害者サービスと高齢者サービス
第９週　利用者別に見たサービスの種類と留意点：児童サービスと多文化サービス
第10週　国内外の図書館間ネットワーク
第11週　課題解決型サービス１
第12週　課題解決型サービス２
第13週　著作権法と図書館サービス１
第14週　著作権法と図書館サービス２
第15週　現代の図書館と図書館員

情報サービス論

3801001600100

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	INF-187-LA

〔授業の到達目標〕

図書館における情報サービスの意義と種類について理解する
レファレンスサービスや情報検索サービスの基礎的事項を修得する
インターネット普及後の新たな利用者支援の枠組みを考察できるようになる
どのような情報源が存在するのか説明できるようになる

〔授業の内容〕

「レファレンスサービス演習」や「情報検索演習」の科目に対する導入的意味を持たせながら，図書館の情報サービスについて，講義を主体に進めていく。まず，多くの履修者にとって最も身近であろう発信型情報サービスからはじめる。次に，インターネット普及後の新たな図書館の利用者支援の形を説明する。その後，情報サービスの中心的な役割であるレファレンスサービスや情報検索サービスをとりあげ，最後に各種の情報源について解説する。

〔教材〕

教科書：田村俊作『情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：井上真琴『図書館に訊け!』（ちくま新書）筑摩書房，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に教科書を読んでおくこと。
授業でとりあげた図書館の情報サービスについて，実際にみてみること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(リアクションペーパー等を含む)(30%)，複数回のレポート(30%)，期末試験(40%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

司書課程

〔授　業　計　画〕

第１週　社会の情報化と図書館サービス
第２週　発信型情報サービス
第３週　社会における検索の位置づけ
第４週　新しい技術を使ったサービス
第５週　資料の電子化に応じたサービス
第６週　情報リテラシー教育
第７週　個別支援型サービス
第８週　レファレンスサービスの発展と情報サービスへの展開
第９週　レファレンス質問
第10週　レファレンス事例の活用
第11週　情報探索・利用環境の整備
第12週　情報サービスの管理と運営
第13週　電子的な情報源の実際
第14週　情報サービスの情報源
第15週　まとめ

児童サービス論Ａ

3801002000100

副　題								担　当　者	汐﨑　順子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INF-288-LA

〔授業の到達目標〕

子どもを対象とする公立図書館の児童サービスについて具体的，実践的に学び，その意義と役割を理解し，児童図書館員として必要な知識および技術を身につけることを目指します。具体的な到達目標は，1)児童に提供する資料に関する実質的な理解を得る。2)児童と本を結びつける方法と技術を習得する。3)現在の児童：青少年の読書環境の動き，社会における公立図書館の児童サービスの位置づけと役割・関連諸施設との連携・協力のあり方などを総合的・多角的に理解する。の３点です

〔授業の内容〕

子どもに各種資料と情報を提供する最も基本的な機関である公立図書館の児童サービスについて考えていきます。

講義では，まず「子ども時代の読書の意義と重要性，公立図書館の児童サービスの意義，目的について述べ，公立図書館における児童サービスの役割，位置づけを理解できるようにします。その上で，児童サービスの基本である「子どもを知り・本（資料）を知り，子どもと本をよりよく結びつける」ために必要な知識および技術，すなわち各発達段階において手渡すべき資料，提供すべきサービスについて具体的に論じます。併せて近年の子どもの読書環境の状況を概観し，今後の児童サービスの在り方について展望します。

講義と並行して，受講生全員が絵本の読み聞かせ，ブックトーク等を行う演習の時間も設定し，子どもに本を手渡す実践的な力を習得することも目指します。

〔教材〕

教科書：松岡享子『子どもと本』（岩波新書）初版，岩波書店，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業に次回授業のための予習課題と，授業の内容を確認する復習課題を示します。それぞれに２時間以上をかけて毎回取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

レポート：40%：レポートは授業時に指示する形で必ず提出すること（２回を予定）。

演習課題40%：絵本の読み聞かせ，ブックトークなどの実践（必ず参加すること）。

授業への貢献度，参加態度：20%：ディスカッションへの参加，授業への意見や感想の提出。

なお，レポート未提出者，演習不参加者，授業実施回数の３分の１以上欠席した者は成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問など授業後に受け付けるほか，メールでも対応します（メールアドレスは初回授業時に提示します）。

〔備考〕

初回授業時に第１回レポートについての説明を行い，絵本の読み聞かせの順番を決めます。

履修予定者は必ず出席してください（出席できない場合は必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，児童サービスの意義と目的
第２週　子どもと読書，各発達段階と読書能力・読書興味
第３週　児童サービスの歴史・児童図書館員の専門性（演習：読み聞かせ１）
第４週　児童室の環境整備・企画と運営・広報活動など（演習：読み聞かせ２）
第５週　児童サービスの実際１：カウンターワーク，フロアワーク，レファレンスサービスなど（演習：読み聞かせ３）
第６週　児童サービスの実際２：読み聞かせ，ストーリーテリング，ブックトークなど（演習：読み聞かせ４）
第７週　児童サービスの実際３：科学遊び，アニマシオン，手遊び，わらべ唄など（演習：読み聞かせ５）
第８週　児童資料の種類と特性（演習：読み聞かせ６）
第９週　児童資料の実際１：絵本（演習：読み聞かせ７）
第10週　児童資料の実際２：幼年文学，児童文学，ヤング・アダルト文学など（演習：読み聞かせ８）
第11週　児童資料の実際３：伝承文学（神話，伝説，昔話），わらべ唄，詩など（演習：読み聞かせ９）
第12週　児童資料の実際４：ノンフィクション，図書以外の資料など（演習：読み聞かせ10）
第13週　ブックトークの実践（レポートに基づく発表）
第14週　児童サービスの広がり，子どもを対象とする読書環境の整備，児童サービスと著作権
第15週　まとめ，児童サービスの課題と展望

児童サービス論B

3801002000200

副　題								担　当　者	汐﨑　順子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	INF-289-LA

〔授業の到達目標〕

子どもを対象とする公立図書館の児童サービスについて具体的，実践的に学び，その意義と役割を理解し，児童図書館員として必要な知識および技術を身につけることを目指します。具体的な到達目標は，1)児童に提供する資料に関する実質的な理解を得る。2)児童と本を結びつける方法と技術を習得する。3)現在の児童：青少年の読書環境の動き，社会における公立図書館の児童サービスの位置づけと役割・関連諸施設との連携・協力のあり方などを総合的・多角的に理解する。の３点です

〔授業の内容〕

子どもに各種資料と情報を提供する最も基本的な機関である公立図書館の児童サービスについて考えていきます。

講義では，まず「子ども時代の読書の意義と重要性，公立図書館の児童サービスの意義，目的について述べ，公立図書館における児童サービスの役割，位置づけを理解できるようにします。その上で，児童サービスの基本である「子どもを知り・本（資料）を知り，子どもと本をよりよく結びつける」ために必要な知識および技術，すなわち各発達段階において手渡すべき資料，提供すべきサービスについて具体的に論じます。併せて近年の子どもの読書環境の状況を概観し，今後の児童サービスの在り方について展望します。

講義と並行して，受講生全員が絵本の読み聞かせ，ブックトーク等を行う演習の時間も設定し，子どもに本を手渡す実践的な力を習得することも目指します。

〔教材〕

教科書：松岡享子『子どもと本』（岩波新書）初版，岩波書店，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業に次回授業のための予習課題と，授業の内容を確認する復習課題を示します。それぞれに２時間以上をかけて毎回取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

レポ―ト：40%：レポートは授業時に指示する形で必ず提出すること（２回を予定）。

演習課題40%：絵本の読み聞かせ，ブックトークなどの実践（必ず参加すること）。

授業への貢献度，参加態度：20%：ディスカッションへの参加，授業への意見や感想の提出。

なお，レポート未提出者，演習不参加者，授業実施回数の３分の１以上欠席した者は成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問など授業後に受け付けるほか，メールでも対応します（メールアドレスは初回授業時に提示します）。

〔備考〕

初回授業時に第１回レポートについての説明を行い，絵本の読み聞かせの順番を決めます。

履修予定者は必ず出席してください（出席できない場合は必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，児童サービスの意義と目的
第２週　子どもと読書，各発達段階と読書能力・読書興味
第３週　児童サービスの歴史・児童図書館員の専門性（演習：読み聞かせ１）
第４週　児童室の環境整備・企画と運営・広報活動など（演習：読み聞かせ２）
第５週　児童サービスの実際１：カウンターワーク，フロアワーク，レファレンスサービスなど（演習：読み聞かせ３）
第６週　児童サービスの実際２：読み聞かせ，ストーリーテリング，ブックトークなど（演習：読み聞かせ４）
第７週　児童サービスの実際３：科学遊び，アニマシオン，手遊び，わらべ唄など（演習：読み聞かせ５）
第８週　児童資料の種類と特性（演習：読み聞かせ６）
第９週　児童資料の実際１：絵本（演習：読み聞かせ７）
第10週　児童資料の実際２：幼年文学，児童文学，ヤング・アダルト文学など（演習：読み聞かせ８）
第11週　児童資料の実際３：伝承文学（神話，伝説，昔話），わらべ唄，詩など（演習：読み聞かせ９）
第12週　児童資料の実際４：ノンフィクション，図書以外の資料など（演習：読み聞かせ10）
第13週　ブックトークの実践（レポートに基づく発表）
第14週　児童サービスの広がり，子どもを対象とする読書環境の整備，児童サービスと著作権
第15週　まとめ，児童サービスの課題と展望

情報検索演習 A

3801006100100

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	INF-390-LA

〔授業の到達目標〕

演習課題を数多く解くことにより，情報検索に関する実践的な能力を修得する
個別システムの操作方法を習熟する
今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕

第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は，第２学年第２学期以降)。

まず，身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後，情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら，図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方等をみていく。

各授業は，基本的に，前半がシステムの概要や検索技術の説明，後半が検索課題を用いた演習となる。なお，授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕

参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。

連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと)。

小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報検索の基礎
第２週　サーチエンジン
第３週　大学図書館のOPAC
第４週　NDL-OPAC
第５週　件名を使った検索
第６週　検索サービスの評価
第７週　雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
第８週　シソーラスを使った検索
第９週　書誌ユーティリティー
第10週　一般雑誌記事・新聞記事
第11週　各種情報源の特徴と選択方法
第12週　検索技術の最新動向
第13週　その他の検索
第14週　パスファインダー
第15週　理解度の確認，まとめ

情報検索演習B

3801006100200

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-391-LA

〔授業の到達目標〕

演習課題を数多く解くことにより，情報検索に関する実践的な能力を修得する
個別システムの操作方法を習熟する
今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕

第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする(科目等履修生は，第２学年第２学期以降)。

まず，身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後，情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら，図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方等をみていく。

各授業は，基本的に，前半がシステムの概要や検索技術の説明，後半が検索課題を用いた演習となる。なお，授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕

参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。

連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと)。

小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報検索の基礎
第２週　サーチエンジン
第３週　大学図書館のOPAC
第４週　NDL-OPAC
第５週　件名を使った検索
第６週　検索サービスの評価
第７週　雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
第８週　シソーラスを使った検索
第９週　書誌ユーティリティー
第10週　一般雑誌記事・新聞記事
第11週　各種情報源の特徴と選択方法
第12週　検索技術の最新動向
第13週　その他の検索
第14週　パスファインダー
第15週　理解度の確認，まとめ

レファレンスサービス演習Ａ

3801001700100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INF-292-LA

〔授業の到達目標〕
基本的なレファレンスツールについて理解し，具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕
＊「レファレンスサービス演習B」と同じ内容
最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し，情報サービスに用いる資料の多様性が増す中，各資料の特性を踏まえ，課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後，テーマ別にどのような資料を使い，調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて，課された課題に対する正答やその他，利用可能な情報源についての知識だけではなく，利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕
教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；　石黒祐子『レファレンスブックス：　選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年
教科書に基づいて授業を行うので，必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に説明した分野について，課題を授業時間外に行い，それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが，自分が割り当てられた課題以外については，きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕
課題（８回　56点），試験（44点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4,5限
サポートセンターを通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り，期日通り課題を提出すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報サービスとは
第２週　レファレンス情報資源の種類
第３週　レファレンスコレクションの構築
第４週　レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性
第５週　書誌事項に関する決まり，実際の読み方，書き方
第６週　図書の探し方
第７週　雑誌に関する情報源
第８週　新聞に関する情報源
第９週　百科事典，言葉の情報源
第10週　人物・団体に関する情報源
第11週　地名に関する情報源
第12週　歴史・日時に関する情報源
第13週　図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌
第14週　統計の情報源および白書
第15週　まとめ

レファレンスサービス演習B

3801001700200

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	INF-293-LA

〔授業の到達目標〕
基本的なレファレンスツールについて理解し，具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕
＊「レファレンスサービス演習A」と同じ内容
最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し，情報サービスに用いる資料の多様性が増す中，各資料の特性を踏まえ，課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後，テーマ別にどのような資料を使い，調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて，課された課題に対する正答やその他，利用可能な情報源についての知識だけではなく，利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕
教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；　石黒祐子『レファレンスブックス：　選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年
教科書に基づいて授業を行うので，必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に説明した分野について，課題を授業時間外に行い，それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが，自分が割り当てられた課題以外については，きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕
課題（８回　56点），試験（44点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4,5限
サポートセンターを通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り，期日通り課題を提出すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報サービスとは
第２週　レファレンス情報資源の種類
第３週　レファレンスコレクションの構築
第４週　レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性
第５週　書誌事項に関する決まり，実際の読み方，書き方
第６週　図書の探し方
第７週　雑誌に関する情報源
第８週　新聞に関する情報源
第９週　百科事典，言葉の情報源
第10週　人物・団体に関する情報源
第11週　地名に関する情報源
第12週　歴史・日時に関する情報源
第13週　図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌
第14週　統計の情報源および白書
第15週　まとめ

図書館情報資源概論

3801001300100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	INF-194-LA

〔授業の到達目標〕
　図書館で扱う情報資源の多様性や個々の特徴，それらを図書館でどのように収集・提供するかについて理解する。

〔授業の内容〕
　図書館では，さまざまな形態の資料を図書館資料として扱っており，近年，その多様化はますます進んでいる。特に，電子メディア及びネットワークは図書館資料の枠組みを大きく変えることになった。これは，資料の多様性の問題だけではなく，図書館員の知識や技能の範囲の拡大，経済性，法的な枠組みの変化といった問題と密接に結びついている。
　本科目では，図書館で扱われる多様なメディアの特性を，それらの出版・流通経路，図書館における蔵書構築及び評価方法，媒体の劣化や経済性を視野に入れた保存法等について広く理解することを目的とする。また，それらのメディアを扱うための図書館員の技能についても考えていく。

〔教材〕
参考書：平野英俊ほか『図書館情報資源概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2012年
　教科書は特に用いないが，授業の大筋は参考書としてあげた文献に基づくので，予習や復習に役立ててほしい。授業中にプリントを配布する他，参考書を適宜挙げていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　利用したことがないメディアについて，あるいはそれらの利用法について授業中に言及することが多いので，授業時間外に実際に確認して復習し，それらの特徴の習得に努めること。

〔成績評価の方法〕
　平常点（３割）（授業中にビデオを見た場合にレポートを求めたり，あるトピックについての意見を授業時間内にレポートとして求めたりする）及び期末レポート（７割）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　水曜4, 5限
　サポートセンターを通じて，あるいは，電子メール

〔備考〕
　欠席した場合は，次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認して受け取っておくこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館資料の多様性
第２週　図書館資料の出版と流通
第３週　図書館における知的自由
第４週　図書資料
第５週　図書資料２
第６週　逐次刊行物１
第７週　逐次刊行物２
第８週　電子媒体資料１
第９週　電子媒体資料２
第10週　行政資料と郷土資料
第11週　障害者のための図書館資料と再生装置
第12週　メディアの劣化と保存（マイクロ資料・光媒体）
第13週　コレクション構築の仕組みと手法
第14週　コレクションの評価
第15週　図書館資料をめぐる社会的な動き

情報資源組織論

3801002200100

副　題								担　当　者	蟹瀬　智弘　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	INF-195-LA

〔授業の到達目標〕

情報資源組織の概要を理解し，目録・分類・件名の必要性と意義を理解する。
情報資源組織技術の新たな動向を理解する。
目録規則が改訂されている背景とその内容を理解し，今後の情報資源組織のあり方について理解する。

〔授業の内容〕

目録・分類・件名などの情報資源組織技術の講義を通じて，情報資源を活用する方法を考えていく。

〔教材〕

教科書：田窪直規編著『情報資源組織論』（現代図書館情報学シリーズ9）改訂版，樹村房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の各回に対応する教科書の箇所を読んで理解しておくこと。
予習に際して生じた疑問は授業中にも受け付ける。

〔成績評価の方法〕

リアクション・ペーパー（30%）
小テスト２回（70%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールによる。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報資源組織の概要（教科書の章（以下同じ）：１章）
第２週　情報資源と目録規則（２章　1.-5.）
第３週　日本目録規則の歴史（２章　6.）
第４週　日本目録規則の特徴（２章　7.）
第５週　新しい目録法（２章　8.）
第６週　OPAC（３章　1.）
第７週　MARC，書誌ユーティリティー（３章　2.）
第８週　メタデータ（３章　3.-5.）
第９週　目録規則まとめ
第10週　主題組織法（４章）
第11週　分類法（５章　1.-4.）
第12週　日本十進分類法（５章　5.-8.）
第13週　語による主題組織法（６章）
第14週　書誌コントロール（７章）
第15週　主題組織法と全体のまとめ

情報資源組織演習I

3801002300100

副　題								担　当　者	蟹瀬　智弘　講師
単位	2	配当年次	第3セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INF-296-LA

〔授業の到達目標〕

日本目録規則による図書その他資料の整理技術を修得し，書誌データを作成できるようになる。

NACSIS-CATにおける目録技術を修得し，書誌データを作成できるようになる。

新しい目録規則であるRDAの考えを理解する。

〔授業の内容〕

書誌データ作成の演習を行うことにより，情報資源組織について実践的な知識と技術を修得する。

図書館員としてのみならず，一般の社会人としても情報資源を活用できる人材となることを目指す。

〔教材〕

教科書：小西和信ほか編『情報資源組織演習』（現代図書館情報学シリーズ10）改訂版，樹村房，2017年

参考書：日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987年改訂3版，日本図書館協会，2006年

毎回授業前に，参考書『日本目録規則1987年版改訂３版』をサポートセンターで借りて，教科書に対応する箇所を読んでおくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の各回に対応する教科書の箇所を読んで理解しておくこと。

第３回から第14回については，事前に「国立国会図書館サーチ」（http://iss.ndl.go.jp/），「CiniiBooks」（http://ci.nii.ac.jp/books/），「学習院女子大学図書館GLIM/OPAC」でそれぞれ10件程度の資料を検索して，表示されるデータと教科書の記述とを比較・検討しておくこと。

〔成績評価の方法〕

演習の記録（70%）

小テスト（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールによる。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報資源組織の概要（教科書の章（以下同じ）：１章）

第２週　目録法（２章　1.-3.）

第３週　タイトルと責任表示の記録（２章　4.（１））

第４週　版と出版事項の記録（２章　4.（２）-（４））

第５週　形態，シリーズの記録（２章　4.（５）-（６））

第６週　注記の記録（２章　4.（７））

第７週　書誌階層構造（４章）

第８週　継続資料の目録（３章　1.）

第９週　録音資料の目録（３章　2.（１））

第10週　映像資料の目録（３章　2.（２））

第11週　その他の資料の目録（３章　2.（３）-（６））

第12週　洋資料の目録（なし）

第13週　書誌ユーティリティーにおける目録（和図書）（５章）

第14週　書誌ユーティリティーにおける目録（洋図書，雑誌，その他）（なし）

第15週　目録演習まとめ

情報資源組織演習II

3801002400100

副　題								担　当　者	木村　麻衣子　講師
単位	2	配当年次	第3セメスター～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	INF-297-LA

〔授業の到達目標〕

「情報資源組織論」で学んだ主題分析に基づく情報資源組織化の理論と技術への理解を深める。分類法や索引法について，演習を通して深く学び，情報資源組織業務の実践的な能力を身につける。最新の日本十進分類法新訂10版および基本件名標目表の使い方を学び，適切な分類・件名が付与できるようになる。

〔授業の内容〕

主題目録法（分類法と索引法）による情報資源の組織化を演習形式で扱う。まず，図書等の紙媒体資料に対して件名と分類を付与する演習をそれぞれ行う。件名付与の演習では基本件名標目表を，分類付与の演習では日本十進分類法新訂10版を用いる。その後，分類記号を使って請求記号を付与する方法についても学び，一つの資料に対して分類・件名・請求記号を付与する総合的な情報資源組織化の演習を行う。

〔教材〕

参考書：和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII）日本図書館協会，2014年

教科書は指定しない。適宜プリントを配布するので，授業を休んだ場合は，次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し，必要に応じて受け取ること。

日本十進分類法と基本件名標目表はサポートセンターにて貸与する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1. 図書館のOPACを検索した際には，分類記号と件名標目の表示を確認する。
2. 日常的に，自分が手にする本は一言で表すとどのような内容かを考え，主題分析の練習をする。
3. 日本十進分類法や基本件名標目表をサポートセンターで借りた際には，授業開始前にざっと眺めておく。

〔成績評価の方法〕

授業への貢献度および授業内課題の達成度（50%），小テスト２回（50%）による。

ただし，原則として，欠席回数が５回以上となった場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは初回授業で知らせる。

〔備考〕

グループ分けをして演習を行うことがあるので，やむをえない事情（電車の遅延など）がある場合を除き遅刻は認めない。

〔授　業　計　画〕

第１週　主題目録法とは
第２週　基本件名標目表の構造と概要（１）
第３週　基本件名標目表の構造と概要（２）
第４週　基本件名標目表を用いた件名作業の演習（１）
第５週　基本件名標目表を用いた件名作業の演習（２）
第６週　日本十進分類法の概要（１）
第７週　日本十進分類法の概要（２）
第８週　日本十進分類法を用いた分類の演習（１）
第９週　日本十進分類法を用いた分類の演習（２）
第10週　日本十進分類法を用いた分類の演習（３）
第11週　請求記号の付与
第12週　総合演習（１）
第13週　総合演習（２）
第14週　総合演習（３）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館基礎特論

3802010200100

副　題								担　当　者	江藤　正己　准教授
単位	2	配当年次	第5セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	INF-381-LB

〔授業の到達目標〕
「図書館情報技術論」の科目で学んだ図書館に関わる情報技術の理解をさらに深める
Webやデータベースに関する技術を組み合わせた情報発信ができる
今後の高度な情報化社会における図書館や図書館員の位置づけを予測できる

〔授業の内容〕
第５セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第３学年第１学期以降）。
Webやデータベースを中心とした情報技術について，PCを用いた演習の形式でおこなう授業である。主としてWeb上で配布・公開されている素材（テンプレートやプログラム・ソフトウェア，API等）を用いて，図書館ホームページやそのコンテンツ（新着雑誌記事速報など動的に変化するものも含む）の構築をおこなう。国立国会図書館が運営するデータベース等の図書館関連のAPIだけでなく，Twitterなど一般的な情報システムが提供しているAPIも扱い，広い観点から図書館に関わる情報技術を解説する。

〔教材〕
参考書：牧野雄二，川嶋斉『新着雑誌記事速報から始めてみよう: RSS･APIを活用した図書館サービス』（JLA図書館実践シリーズ）日本図書館協会，2012年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアについて復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，演習課題(50%)，レポート(20%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
プログラミングに関する知識は不要であるが「図書館情報技術論」の科目内容を理解している（≒単位を前学期までに修得済みである）ことを前提に授業を展開する。
履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術を活用した図書館サービス
第２週　Web技術に関する基礎事項の確認（１）
第３週　Web技術に関する基礎事項の確認（２）
第４週　マッシュアップ技術を用いた情報システム
第５週　特定トピックナビゲーションシステムの作成（１）
第６週　特定トピックナビゲーションシステムの作成（２）
第７週　新着雑誌記事速報の作成（１）
第８週　新着雑誌記事速報の作成（２）
第９週　オープンデータと図書館
第10週　レファレンス協同データベースAPIの活用（１）
第11週　レファレンス協同データベースAPIの活用（２）
第12週　Twitter APIの活用（１）
第13週　Twitter APIの活用（２）
第14週　今後の高度な情報社会における図書館や図書館員の位置づけ
第15週　まとめ

図書・図書館史

3802010400100

副　題	書物と図書館の成り立ち							担　当　者	白戸　満喜子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	INF-182-LB

〔授業の到達目標〕

漢籍(中国の古書)･和古書・洋古書に関する基礎用語を理解し，古書と図書館に関する知識を習得することが到達目標であり,同時に司書という職につくために必要な教養と判断力を身につけてもらいたい。

〔授業の内容〕

図書館において保存・公開される書物と図書館という施設に関して，中国・日本・西洋のそれぞれにおいてどのような歴史をたどったかについて講義する。特に日本の書物の成り立ちについては形態・生産・流通・制度に関する歴史的発展を概説し，和古書の取り扱い方と修復についても講義する。

〔教材〕

教科書：櫛笥節男『書庫渉猟』おうふう
参考書：廣庭基介　長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社
藤井隆『日本古典書誌学総説』和泉書院
陳国慶『漢籍版本入門』研文出版
折田洋晴『インキュナブラの世界』日本図書館協会
高野彰『洋書の話』丸善
ジョン・カーター『西洋書誌学入門』国書出版社
モーリーン・サワ『本と図書館の歴史』西村書店

教科書『書庫渉猟』は授業時に随時参考とする（図書館に所蔵）。
授業で扱う和古書･漢籍に関する書誌学用語については『日本古典籍書誌学辞典』(岩波書店)を参考にするとよい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ日本史･世界史の基礎知識を確認しておくこと。(参考:『歴史手帳』吉川弘文館)
復習は各内容に合わせて教科書もしくは該当する内容の参考書を一読すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%　学年末試験80%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンター（情報科目・司書課程）を通じて連絡可能。

〔授　業　計　画〕

第１週　書誌学とは何か
第２週　漢籍と目録学
第３週　中国の図書館史
第４週　和古書の装訂
第５週　和古書の書型
第６週　版本の部分名称
第７週　洋古書の構成と部分名称
第８週　洋古書の書型と東洋の本との異同
第９週　紙以前の書写材料と製紙技術
第10週　印刷技術の伝播
第11週　活版印刷の登場と書物の大量生産
第12週　西洋の図書館史
第13週　日本の印刷・出版史
第14週　日本の図書館史
第15週　古書の取り扱い方と保存・修復
授業計画は内容の進行順であり，実施週とは必ずしも一致しない。

図書館サービス特論

3802010300100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第5セメスター～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	INF-383-LB

〔授業の到達目標〕

図書館を利用者が自分で自由に使えるようにするために図書館側が考慮すべき大きな要素としての最近の図書館利用者に対する理解を深める。また，自学自習による長期滞在型の利用が増加してきたことに伴い，図書館の物理的な構造や探索を助けるための各種ツールが必要なことを理解し，図書館利用上の快適さを実現するために配慮するべき点は利用者がおかれたさまざまな状況に応じて多様であることを理解する。

〔授業の内容〕

図書館の長時間滞在者が増加する傾向が各地で報告されているが，現在の公共図書館利用者の特性について文献に報告された内容をもとに議論する。また，読書を促進するうえでも，利用者自身が生涯学習の一部として調査研究を行う場合であっても，図書館の快適さは重要な要素となる。この中には，全体的な雰囲気，閲覧室や書架等の利用スペースの配置や雰囲気，照明，家具の色や形状，配置，音（騒音等），サイン計画等も含まれるが，利用者だけでなく，そこで働く人々にとっての快適さも重要となる。図書館の中にはさまざまな機能を持つ部屋や利用者の身体的条件が多様であることからも，多くの視点が必要となる。現在までの図書館建築に関する議論を踏まえ，具体的な図書館において，特にサイン計画の適切さに関連する調査を授業時間外に行い，その結果を元にグループごとに図書館の快適さについての分析及び考察を行う。この検討を通じて，図書館員としての仕事に必要不可欠なグループワークのごく初歩的な進め方も併せて習得する。

〔教材〕

教科書は特に指定せず，雑誌論文を中心に検討を加える。取り上げる文献は授業時にコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

グループワークについては，授業時間外での単独調査をもとにして進める。結果の分析時間等，グループでの準備学習が必要とされるので，十分時間をかけて行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（出席３割，グループ討議への貢献等３割，合計６割），期末レポート（４割）による。いずれが欠けても合格に達したとみなさないので，注意すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日4,5限
サポートセンターを通じて，あるいは，電子メールにて

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館利用者の特性とそれに応じた図書館の快適さを模索する必要性
第２週　図書館利用者とは
第３週　近年の日本の公共図書館における利用者層の変化１
第４週　近年の日本の公共図書館における利用者層の変化２
第５週　エンベッディッド・ライブラリアンの議論に見られる利用者の変化
第６週　図書館の立地と利用者
第７週　図書館の快適さとは
第８週　浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討１
第９週　浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討２
第10週　調査結果について，グループでの検討
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　調査結果の発表及び議論
第15週　まとめ

グループワークのための調査は授業時間外に行う必要があり，また後半はグループワークが中心になるので，積極的な貢献を求める。

学芸員課程

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

平成 24 年度以降入学者用

学 芸 員 課 程　平成 29 年度授業科目および担当者

ローマ数字までが科目名、アルファベットはクラス名を指す

博物館法施行規則による科目	科目群	本学の対応授業科目	コース・ナンバー	単位	履修年次	履修単位	学期		担当者	頁
博物館概論	学芸員課程必修科目	博物館概論	MSE-181-CA	2	1	10科目19単位	春集中		清水　敏男	872
博物館展示論		博物館展示論	MSE-182-CA	2	1			秋集中	窪田　研二	873
博物館経営論		博物館経営論	MSE-283-CA	2	2～3		春		田中　裕二	874
博物館資料論		博物館資料論	MSE-284-CA	2	2～3		春		水本　和美	875
博物館教育論		博物館教育論	MSE-285-CA	2	2～3		春集中		黒沢　伸	876
博物館資料保存論		博物館資料保存論	MSE-286-CA	2	2～4			秋	大川　美香	877
博物館情報・メディア論		博物館情報・メディア論	MSE-287-CA	2	2～4			秋	安田　篤生	878
生涯学習概論		生涯学習概論	INF-181-LA	2	2～4		春		塚原　正彦	848
博物館実習		博物館実習ⅠA	MSE-488-CA	1	4		春集中		清水　敏男	879
		博物館実習ⅠB	MSE-489-CA	1	4		春集中		小勝　禮子	880
		博物館実習ⅡA	MSE-490-CA	2	4			秋集中	清水　敏男	881
		博物館実習ⅡB	MSE-491-CA	2	4			秋集中	小勝　禮子	882

博物館概論

3810011100100

副　題	博物館学の基礎							担　当　者	清水　敏男　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-181-CA

〔授業の到達目標〕
博物館に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕
「授業のねらい」博物館概論ではまず博物館とは何かを理念，成立史の基本から学び，博物館の存在意義を理解する。さらに，我が国のみならず諸外国における法令，制度，組織を学び，実務を実行するうえでの基礎的知識を身につける。また学芸員について，理念，職責，実務について理論的かつ具体的に学び,専門職員としての知識を体得し自覚をもつことを目的とする。
「科目概要」西欧における博物館の歴史を説くことで博物館の概念成立の事情ならびに理念を学び，ついで日本における成立の歴史を学ぶことで理念，成立の経緯を学ぶ。我が国の博物館法ならびに関連法令，諸外国の法令を学び，定義，種類，分類，制度，組織，博物館に関わる組織等について理解する。学芸員ならびに博物館の諸職員の業務について定義から現実の業務にいたるまでその基礎的知識を身につける

〔教材〕
教科書：清水敏男『THE MIRROR』東京書籍，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書を熟読すること。博物館，展覧会の調査を行いレポートをまとめること。

〔成績評価の方法〕
出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），期末レポート（2000字）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時半から１時，２時半から３時
メール　shimizutsao●me.com（change ● to @）

〔備考〕
学芸員課程正規履修者となるためには，本授業ならびに「博物館展示論」の単位を履修１年目に修得しなくてはならない。

〔授　業　計　画〕

第１週　西欧における博物館の歴史と理念1(中世末からルネッサンス，絶対王制)
第２週　西欧における博物館の歴史と理念2(啓蒙主義，近代)
第３週　日本の博物館の歴史と理念１（幕末から明治）
第４週　日本の博物館の歴史と理念２（大正から昭和，平成）
第５週　博物館法を読む１（博物館の目的，社会教育法等関連法令，博物館の定義）
第６週　博物館法を読む２（博物館の定義と事業：収集，保管，利用，教育等）
第７週　博物館法を読む３（学芸員の定義，制度，職務，学芸員以外のスタッフ）
第８週　博物館法を読む４（国立博物館，公立美術館と関連法令）
第９週　博物館法を読む５（私立博物館と民法等関連法令，NPO法人）
第10週　博物館法を読む６（登録博物館，相当施設，類似施設）
第11週　博物館の収支・税金，マネジメント，知的所有権管理，契約
第12週　展示，広報，出版，教育普及事業
第13週　企画展覧会の製作の実際（企画から実施まで）
第14週　我が国ならびに諸外国の博物館の現状
第15週　まとめ（博物館学史，学芸員の責務，国際組織と国際協力）

博物館展示論

3810011200100

副　題								担　当　者	窪田　研二　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-182-CA

〔授業の到達目標〕

展覧会が作られる流れや仕組みを学び，その中における展示の役割や重要性を認識する。

〔授業の内容〕

博物館展示の意義，博物館展示の実際および展示の解説活動を10回～12回の講義によって解説し，展覧会を企画する際に作成する展示企画を演習としておこない，最後の授業において各自が発表をおこなう。

〔教材〕

教科書：木下史青『博物館へ行こう』岩波ジュニア新書，2007年

現在東京国立博物館のデザイン室長である著者が博物館における展示デザインについての仕事内容や，世界の博物館を例に挙げながら，展覧会が出来ていく過程を紹介している。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表準備のための調査等に必要な時間：６時間程度

〔成績評価の方法〕

出席率および発表内容を重視。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールにて

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　展示論概説
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　グループワーク
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　発表
第15週　〃

展示論概説：コミュニケーションとしての展示，調査研究の成果の提示，展示と展示論の歴史，展示の政治性と社会性，展示の諸形態，展示の製作（企画，デザイン），展示の製作（技術，施行等），関係者との協力（他館，所蔵者，専門業者等），展示の評価と改善・更新，解説文・解説パネル，人による解説，機器による解説，展示解説書（展示図録，パンフレット等），展示計画の作成（前半），展示計画の作成（後半）

前半は博物館・美術館における展示の歴史および諸形態を学び，展示におけるさまざまな役割や留意点を学習する。

後半はグループワークを実施し，展覧会の企画から展示企画の立案までをおこない，最終発表会を授業内でおこなう。

博物館経営論

3810011400100

副　題										担　当　者	田中　裕二　講師
単位	2	配当年次	2〜3	開講期間	春学期	曜日	土	時限	1	コース・ナンバー	MSE-283-CA

〔授業の到達目標〕

指定管理者制度の導入や公益法人改革など行政改革の過程で，公立博物館を取り巻く環境は大きく変わった。潤沢な補助金に支えられていた時代から，自主的・自律的な経営判断が求められる時代となった。そこで，経営的視点からみた博物館の組織や機能を学び，学芸員として幅広い視野で博物館の運営に携わることができる実践力を養う。

〔授業の内容〕

講義担当者が勤務する公立博物館の事例を中心に，日本の博物館を取り巻く社会的環境の変化，特に指定管理者制度下の博物館が抱える諸課題を検証する。人材，組織，予算や事業内容など，現場の実務に対応した内容で講義を進める。講義形式を基本とするが，出来る限り出席者が意見を述べる機会を設け，活発な議論の場としたい。また，講義の進捗状況や履修生の人数などを考慮した上で，博物館のバックヤードや施設見学を組み込む予定。

〔教材〕

参考書については適宜授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業開始前までに興味のある博物館・美術館を数館ピックアップし，その運営主体や設立目的等を調べ，常設展または特別展を見学しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席点（20%），発言（20%），課題に基づくレポートの提出（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

yuji.tanaka1868●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　公立博物館を取り巻く環境１：なぜミュージアム・マネージメントが必要とされているのか
第２週　公立博物館を取り巻く環境２：指定管理者制度の導入と課題
第３週　博物館の使命，事業計画の策定と評価
第４週　博物館の人材，組織，予算
第５週　博物館の施設，設備，危機管理
第６週　博物館経営の手法：広報，マーケティング，利用者調査
第７週　博物館における連携１：他館，大学，行政，他機関との連携
第８週　博物館における連携２：地域社会との連携や活性化，ボランティアや支援組織
第９週　ミュージアムショップとレストランの管理運営
第10週　展覧会マネジメント１：展覧会の仕組み
第11週　展覧会マネジメント２：展覧会マネジメント
第12週　ファンドレイジング１：外部資金の導入
第13週　海外の博物館経営：イギリスとアメリカの博物館事例紹介
第14週　トップマネジメント：館長の役割
第15週　博物館経営の展望と課題：授業の総括

博物館資料論

3810011000100

副　題								担　当　者	水本　和美　講師
単位	2	配当年次	2〜3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	MSE-284-CA

〔授業の到達目標〕
博物館資料の収集，整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し，また博物館の調査研究活動について理解することを通じて，博物館資料に関する基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕
学芸員が博物館資料に関して行う資料の収集，保管，整理，活用（展示）に際して必要となる知識やその活動実践について，講義形式で学ぶことを目的とする。
各項目について具体的な事例をあげて理解を深める。また，２回程度見学授業を行う予定であり，これに伴いシラバスの順序や内容については変更の可能性もある。
○博物館における調査研究活動
調査研究活動の意義と内容（博物館資料に関する研究，資料保存に関する研究，博物館に関する研究等）
○博物館資料の概念（資料の意義，資料の種類，資料化の過程）
○博物館資料の収集・整理・活用
・収集理念と方法
（情報の記録，収集の倫理・法規，受け手続き・登録等）
・資料の分類・整理（目録作成を含む）
・資料公開の理念と方法（アクセス権，特別利用を含む）

〔教材〕
教材は特に指定せず，講義で書籍や博物館・展示などを適宜紹介するため，これらについて積極的にアクセスしてもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
例えば，同じく考古資料といっても地域による資料の違いや，常設展と企画展などの展示目的による違い，などその実態は多様である。講義はこれらを象徴的に切り取るものであるので，日頃からできる限り博物館やその展示に足を運んでおいてほしい。見学の際は，大学生としての来館者である自己の視点も忘れず，その上で学芸員としての視点から見る努力をすることで資料に関する主体と客体の双方の視点を体験できる。なお，自身の学問的な専門分野を持つ学生については，各人の学問分野の資料を博物館としてどう活かすことができるか，という観点から専門学習にも力をいれて欲しい。授業時に意見を求めることもあるため，積極的な授業参加を期待する。

〔成績評価の方法〕
平常点（出席，カードへの意見の記入など），見学レポート，期末レポートの３つによる総合的評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室（またはサポートセンター）を通じて連絡すること。

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス「博物館と博物館資料」博物館資料とは何か？
第２週　「博物館資料と価値」ものさしはお金だけでなく…
第３週　「博物館における考古資料」発掘された資料が博物館資料になるまで
第４週　「博物館における歴史資料」絢爛豪華な大名道具も，身近な生活道具も等しく歴史を紡いだ。
第５週　「地域博物館の実際と民俗資料」民俗学と民俗資料，地域博物館（見学授業）
第６週　「美術館と美術工芸品」
第７週　「博物館資料の収集とコレクター」
第８週　「一次資料と二次資料」実物とレプリカ，レプリカと贋物はどう違う？
第９週　「博物館活動と資料」ハンズオンにできる？できない？
第10週　「博物館資料の製作」
第11週　「博物館資料の修復と保存科学」
第12週　「自然・理工系博物館，動物園・植物園・水族館」
第13週　「文学館と記念館」
　　「大学博物館と企業博物館」
第14週　「写真資料と映像資料の活用（調査と展示）」
第15週　「博物館資料と展示施設・設備」（見学授業）＊上野エリアを予定

博物館教育論

3810011500100

副　題	広がる博物館活動とその可能性について考える	担　当　者	黒沢　伸　講師

単位	2	配当年次	2〜3	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-285-CA

〔授業の到達目標〕

博物館における教育活動の歴史や変遷について知り，これらを俯瞰的にとらえる中で，博物館教育の目的や意義，基盤となる理論，通底する理念を理解する。

博物館における多様な教育活動の展開について知り，学校教育との違いなど，その特性や手法を理解した上で，新たな活動の可能性について考察できるようにする。

個々の学生の体験にもとづいて，それぞれの興味を具体的なプログラムとして展開する上で必要となる「課題を発見・整理する力」，「実践のための有効な手法をイメージする力」を習得する。

活動の実践に必要となるプレゼンテーション，コミュニケーションのメソッドについて課題・演習を通じて学び，そのスキルを高める。

〔授業の内容〕

近年，博物館相当施設における教育活動は，現場の創意工夫により多様性に富むものになってきた。こうした状況を社会的・歴史的背景をふまえつつ俯瞰し，具体的かつ様々な実践を知ることで，博物館の現在を把握，未来を展望する。

こうした概論的知見を講義の中で整理しつつ，課題演習を通して，各論として新しい教育プログラムの企画作成を試みる。それぞれのプログラムの持つ目的や対象，方法の最適化について考え，チーム毎に具体的なプログラム・活動内容をプレゼンテーションの形式で発表する。

学生相互のフィードバックをとおして，批評的な視座の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：小笠原喜康、並木美砂子、矢島國雄『博物館教育論　新しい博物館教育を描きだす』初版，株式会社　ぎょうせい，2012年

教科書以外の参考文献は授業中に紹介，配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・　教科書は受講前にひととおり目をとおしておくこと。

・授業初日までに，任意の博物館・美術館等（１カ所で良い）に実際に出向いて具体的な教育プログラム（※）を視察，または参加し，その報告（レポート，画像を含めてA4用紙１〜2枚にレイアウト，書式自由）を作成しておくこと。そのプログラムの対象者（参加者），趣旨，内容，具体的な方法などに留意し，優れた面，改善点など各自の評価も含めてレポートすること。レポートは初日に発表してもらいます。

（※：いわゆるワークショップや講演会など，主催者が「教育プログラム」と位置づけていなくても，例えば美術館での展示方法について，など，各自がその内容に教育的配慮があると判断したものであれば，分野や実際の内容は何でも良い。）

・演習課題として，「自分が人に伝えたい（見せたい）もの（こと・人など）」に関する発表を行うので，事前に内容をイメージしておくこと。

〔成績評価の方法〕

事前課題のレポート（10%），授業への参加態度（30%），授業で行う２つの演習課題（10%＋30%）及びそのプレゼンテーション（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail:kurosawashin●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

授業実施日は９月11（月），12（火），13（水）を予定。

コンピューターを使ったプレゼンテーションを行なうので，パワーポイント等，基本的なソフトウェアの利用は必須。

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　○ガイダンス：博物館教育論とは
　　★『市民教育の場としての博物館』
第２週　○博物館の利用と学び
　　・レポート発表とワークショップ
　　・博物館の利用実態と利用者の博物館体験
第３週　・博物館における学びの特性
　　★『博物館教育の基礎理論』
第４週　○博物館教育の実際-1
　　・博物館教育活動の手法（館内，館外）
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-1
　　プログラムの作成のためのガイダンス
第５週　a.実践「伝える！」演習
　　b.教育プログラムの企画：テーマ，目的，ターゲット設定
第６週　○博物館教育の実際-2
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-2
　　a.実践「伝える！」演習の発表と講評
第７週　○博物館教育の意義と理念
　　★博物館教育の歴史と変遷
　　★『日本の博物館教育史』
第８週　・コミュニケーションとしての博物館教育
　　（博物館教育の双方向性，博物館諸機能の教育的意義）
第９週　○　博物館教育の実際-3
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-3
第10週　b.教育プログラムの企画：詳細案作成
第11週　○博物館教育の実際-4
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-4
第12週　b.教育プログラムの企画-プレゼンテーション作成
第13週　○博物館教育の実際-5
　　・事例検証：博物館と学校教育
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-5
　　b.教育プログラムの企画：発表と講評
第14週　○総括とまとめ
　　・　第４世代の博物館についての考察
　　（生涯学習，人材養成，地域と博物館，博物館リテラシー）
　　★『ジュニア学芸員を育てる』／★『これからの博物館』
第15週　・博物館教育の方針と評価
　　・学びの意義，博物館の存在意義

★　印は教科書を使用して行うので，授業初日までに関連項を熟読，予習しておくこと。

博物館資料保存論

3810011300100

副　題										担　当　者	大川　美香　講師
単位	2	配当年次	2〜4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	MSE-286-CA

〔授業の到達目標〕

美術館・博物館における最適な資料保存・展示・収蔵のための知識を習得することを通じて，資料の状態把握・修復から資料周辺の環境や資料の活用に至るまでの基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

美術館・博物館における保存に関する具体的な取り組みや美術品を中心とする資料の調査・修復の実施例により，科学的な視点で博物館における資料保存に必要な知識を学ぶ機会を提供する。

〔教材〕

参考書：石崎武志『博物館資料保存論』第2版，講談社，2013年

教科書は使用せず，毎回プリントを配布する。参考文献についてもプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考書又は初回に配布する参考文献リストからそれぞれの回に関連する文献を選び，読んでおくこと。それぞれ１時間程度以上が望ましい。

〔成績評価の方法〕

学期末に提出する１回のレポート(50%)および出席状況(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は，授業終了後またはメール（artconslab●pop02.odn.ne.jp（change ● to @）)まで。

〔授　業　計　画〕

第１週　博物館における資料保存（ガイダンス）
第２週　資料の構造
第３週　資料の状態
第４週　資料の科学的調査の方法
第５週　資料の科学的調査の事例
第６週　資料の調査（実習）
第７週　資料の修復１
第８週　資料の修復２
第９週　資料の保存と環境
第10週　資料の生物被害とIPM
第11週　資料の保存対策
第12週　資料と災害
第13週　資料の取り扱いと輸送・梱包
第14週　資料の取り扱い（実習）
第15週　博物館の取り組み事例とこれから（資料活用等）
授業計画は変更することがある。

博物館情報・メディア論

3810011600100

副　題								担　当　者	安田　篤生　講師		
単位	2	配当年次	2〜4	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	MSE-287-CA

〔授業の到達目標〕

博物館における情報の意義とその活用方法及び情報発信の課題等について理解し，博物館活動における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

メディアはわれわれの日常生活の隅々にまで浸透し，デジタル情報に依存したライフスタイルが出来上がっている。今日の博物館活動においても，収集・展示・教育普及・調査研究などあらゆる面においてメディアの理解と活用・応用が求められ，そうしたメディアによる情報の管理・発信が必要になっている。主だったメディアの歴史と基本知識を振り返りつつ，メディアの時代における博物館活動を考えていきたい。

〔教材〕

教科書は使用しないが，参考文献は授業中に必要に応じて紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ノートは授業中にとるだけではなく読み返すことで，さらに必要があれば自分で調べて補完することで内容が自分のものになります。また，当然ながら，学芸員課程のほかの科目とつながっている科目なので，自分の中でそれらをリンクさせて，課程全体の内容を身につけるようにしてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験ならびに出席状況により評価する。期末試験は自筆ノートの持込可。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室に問い合わせること

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに－メディアとは
第２週　博物館・情報・メディア
第３週　メディアと人間―歴史の中から（１）
第４週　メディアと人間―歴史の中から（２）
第５週　メディアと人間―歴史の中から（３）
第６週　メディアと人間―歴史の中から（４）
第７週　メディアと人間―歴史の中から（５）
第８週　メディアと人間―歴史の中から（６）
第９週　デジタル時代の博物館活動（１）
第10週　デジタル時代の博物館活動（２）
第11週　デジタル時代の博物館活動（３）
第12週　デジタル時代の博物館活動（４）
第13週　デジタル時代の博物館活動（５）
第14週　デジタル時代の博物館活動（６）
第15週　まとめ－メディアとしての博物館

前半は，博物館活動に縁の深いメディアの歴史（具体的には写真・映画・印刷など）を概観しながら「メディアと人間」の基本的な問題を考える。後半は,デジタル時代における博物館活動（すなわち展示・収集保存・教育普及・調査研究）の現状と課題を，学芸員の現場の視点から考察する。

博物館実習ⅠA

3810021100100

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ							担　当　者	清水　敏男　教授
単位	1	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-488-CA

〔授業の到達目標〕

学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔教材〕

教科書：清水敏男『THE MIRROR』東京書籍，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初回授業までに博物館美術館を最低１館を訪れ，美術館博物館の歴史，経営体制，運営などを調査しレポート（各館1000字）をまとめること。初回授業で提出する。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

教科書を読みレポート（1000字）を初回授業に提出する。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本）実習は出席しない意味がない。欠席の場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時はから１時，午後２時半から３時

初回授業で指示する

〔備考〕

春学期集中講義として実施する。実施時期は初回授業で告知する。

学内実習を30時間以上実施する。

取得単位は１単位である。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業計画コメントを参照のこと
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
第１回学内実習博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）
第２回学内実習博物館見学実習（歴史系博物館）
第３回学内実習博物館見学実習（芸術系博物館）
第４回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第５回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第６回学内実習展覧会企画（作品調査・研究，作品調書の取り方，温湿度計等機材の扱い方）
第７回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第８回学内実習展覧会企画（展示計画，導線計画，展示キャプション等計画・作成）
第９回学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習：額装，軸層，箱等）
第10回学内実習展覧会企画（教育普及事業計画）

博物館実習IB

3810021100200

副　題								担　当　者	小勝　禮子　講師
単位	1	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-489-CA

〔授業の到達目標〕
学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し，体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕
「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで，職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。
「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では歴史系，芸術系，自然科学系などさまざまな博物館を見学し，多様な博物館活動の実際を理解する。学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その過程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
美術館・博物館を調査し，レポートをまとめること。
アート・プロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕
出席日数，博物館調査レポート，授業毎の課題レポート
実習は出席しないと意味がない。欠席の場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
春学期集中講義として実施する。主に土曜日午後に実施する。初回授業までに告知する。
学内実習を30時間以上実施する。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授　業　計　画〕

第１回　博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）３時間
第２回　学内実習見学実習（美術館見学）３時間
第３回　学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案，展示計画）３時間
第４回　学内実習見学実習（博物館見学）３時間
第５回　学内実習展覧会企画（作品調査，作品調書の取り方等）３時間
第６回　学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習）３時間
第７回　学内実習展覧会企画（ワークショップ，事前調査，事後の総括）６時間
第８回　学内実習展覧会企画（アーティスト・トーク，事前調査，事後の総括）６時間
第１回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回　館園実習（館園のシラバスに準拠）

博物館実習ⅡA

3810021200100

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ	担　当　者	清水　敏男　教授

単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-490-CA

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初回授業までに博物館美術館を最低１館訪れ，歴史，経営，運営等について調査しレポート（1000字）をまとめること。初回授業で提出。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），学外の館園実習の評価
出席しない場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，午後２時半から３時
初回授業で指示する

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。実施時期については初回授業で告知する。
学内実習は合計30時間以上を予定。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　授業計画コメントを参照のこと
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
第１回学内実習展覧会企画（第１回学内展示会企画作業）
第２回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
第３回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第４回学内実習展覧会企画（展示作業）
第５回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第６回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第７回学内実習展覧会企画（第２回学内展示会企画作業）
第８回学内実習展覧会企画(作品収集，作品調書，展示準備）
第９回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第10回学内実習展覧会企画（展示作業）
第11回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第12回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第13回学内実習，館園実習に関する総括
第１回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回館園実習（館園のシラバスに準拠）

博物館実習IIB

3810021200200

副　題								担　当　者	小勝　禮子　講師
単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-491-CA

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで，実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで，職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その過程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては，現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

美術館・博物館を調査し，レポートをまとめること。
アート・プロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート，学外の館園実習の評価
実習は出席しないと意味がない。欠席の場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。主に土曜日午後に実施する。初回授業までに告知する。
学内実習は合計30時間以上を予定。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授　業　計　画〕

第１回　学内実習展覧会企画（学内展覧会企画作業）３時間
第２回　学内実習見学実習（作品収集，作品調書，展示準備）３時間
第３回　学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）３時間
第４回　学内実習見学実習（展示作業）３時間
第５回　学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）３時間
第６回　学内実習展覧会企画（展示撤収）３時間
第７回　学内実習展覧会企画（ワークショップ，事前調査，事後の総括）６時間
第８回　学内実習展覧会企画（アーティスト・トーク，事前調査，事後の総括）６時間
第１回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回　館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回　館園実習（館園のシラバスに準拠）

日本語教員養成講座

平成 29 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

日本語教員養成講座　平成 29 年度授業科目および担当者

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本語教員養成講座専門科目	応用日本語学Ⅰ	現代日本語学の基礎と応用 1	JPL-181-NA	1～	春		2	佐藤　琢三	886
	応用日本語学Ⅱ	現代日本語学の基礎と応用 2	JPL-182-NA	1～		秋	2	佐藤　琢三	887
	日本語教授法Ⅰ	外国人に日本語を教えるために	JPL-283-NA	2～	春		2	野口　直子	888
	日本語教授法Ⅱ	外国人に日本語を教えるために	JPL-284-NA	2～		秋	2	野口　直子	889
日本語教員養成講座科目	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	JPL-105-JA	1～	春		2	福島　直恭	46
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	JPL-106-JA	1～		秋	2	福島　直恭	47
	言語学Ⅰ	言語における文法の構造	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　琢三	236
	言語学Ⅱ	言語における音声と意味	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　琢三	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246

応用日本語学I

3820001000100

副　題	現代日本語学の基礎と応用１	担　当　者	佐藤 琢三　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	JPL-181-NA

〔授業の到達目標〕

非日本語母語話者を対象とした日本語教育の観点から，現代日本語文法の基礎概念を理解させ，非母語話者の視点から日本語をとらえるとそれがどのような見え方をするかについて考える。

〔授業の内容〕

外国人に日本語を教授するために，われわれが日本語について学ばなければいけないことは非常に多い。そもそも，日本人が日本語を見るときの視点と，外国人が日本語を見るときの視点はどう異なるのだろうか。また，外国人が日本語を使用できるようになるために必要な言語分析の観点とはどのようなものなのか。このような視点から現代日本語の諸相を概説する。音声・音韻，文字・表記，語彙・意味，文法，文章・談話，社会言語学，対照言語学などの諸側面にふれるが，特に体系立った学習が必要と思われるのは，音声・音韻と文法である。この授業では文法論に関する話題が大きな比重を占めることになるだろう。

〔教材〕

教科書：荻野綱男『現代日本語学入門』明治書院，2007年

教科書は必ず購入すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが,復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

試験による。授業で学んだことの90%以上を習得していなければ，決して単位を与えることはできない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

emailによる

takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

・この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

・言語学を未履修の者は，これと同時に履修するようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　日本語学習者の発想と応用日本語学
第３週　現代日本語の基礎と応用１（活用）
第４週　現代日本語の基礎と応用２（活用）
第５週　現代日本語の基礎と応用３（品詞）
第６週　現代日本語の基礎と応用４（品詞）
第７週　現代日本語の基礎と応用５（文の構造）
第８週　まとめ・確認
第９週　現代日本語の基礎と応用６（文の構造）
第10週　現代日本語の基礎と応用７（複文）
第11週　現代日本語の基礎と応用８（自動詞・他動詞）
第12週　現代日本語の基礎と応用９（ヴォイスと格）
第13週　現代日本語の基礎と応用10（ヴォイスと格）
第14週　現代日本語の基礎と応用11（授与動詞）
第15週　まとめ・確認

応用日本語学II

3820002000100

副　題	現代日本語学の基礎と応用２							担　当　者	佐藤 琢三　教授
単位	２	配当年次	１～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	１	コース・ナンバー	JPL-182-NA

〔授業の到達目標〕

非日本語母語話者を対象とした日本語教育の観点から，現代日本語文法の基礎概念を理解させ，非母語話者の視点から日本語をとらえるとそれがどのような見え方をするかについて考える。

〔授業の内容〕

春学期の応用日本語学Ｉにおける現代日本語の文構造の知識を前提として，各文法カテゴリーを概観し，文を超えたレベルの文法現象，他言語との関係などについても概説する。また，日本語教育能力試験の問題を紹介し，これの演習も行う。

〔教材〕

教科書：荻野綱男『現代日本語学入門』明治書院，2007年

教科書は必ず購入しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２時間程度。配布プリントに基づいて講義するので予習はできないが，復習を徹底すること。

〔成績評価の方法〕

試験による。授業で学んだことの90%以上を習得していなければ，決して単位を与えることはできない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

emailによる

takuzo.sato●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

・この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

・応用日本語学Ｉで学んだ事項を前提として講義する。応用日本語学Ｉの単位を修得していない者は，今年度の履修を控えることが望ましい。

・言語学を未履修の者は，これと同時に履修するようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　テンス・アスペクト１
第３週　テンス・アスペクト２
第４週　格とヴォイス１
第５週　格とヴォイス２
第６週　ムードとモダリティ
第７週　文章・談話
第８週　まとめ・確認
第９週　英語・中国語・韓国語との対照
第10週　言語の本質論と言語理論
第11週　類義関係の語彙・文法
第12週　総合問題演習１
第13週　総合問題演習２
第14週　総合問題演習３
第15週　まとめ・確認

日本語教授法I

3820011000100

副　題	外国人に日本語を教えるために	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-283-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い，日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識，価値観，考え方などを学ぶ。この学期は総論として，自己の言語について，自分の持つ学習観，教授観についての気づきを促す。また異文化コミュニケーションを学ぶことによって，文化の違う人に日本語を教えることの難しさ，方法について学ぶ。「日本語を教える」ことが具体的にどういうことかを考えることにより，自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

教科書は使用せず，プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は，あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は，配布された教材をよく読んで，その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%，授業への参加度30%，試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔備考〕

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　日本語を教えるとは
第２週　自己の日本語（１）教師の資質　言語観
第３週　自己の日本語（２）学習観と教育観
第４週　コミュニケーション論
　　コミュニケーションとは何か
第５週　異文化コミュニケーション（１）
第６週　異文化コミュニケーション（２）
第７週　日本語の基礎
　　音声と表記
第８週　日本語教育と国語教育
　　日本語教授法の歴史と理論（１）
第９週　日本語教授法の歴史と理論（２）
第10週　日本語の初級・中級・上級とは
第11週　日本語教授法（１）名詞・形容詞文
第12週　日本語教授法（２）名詞・形容詞文
第13週　日本語教授法（２）動詞文（１）
第14週　日本語教授法（３）動詞文（２）
第15週　まとめ

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

日本語教授法II

3820012000100

副　題	外国人に日本語を教えるために							担　当　者	野口　直子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-284-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い，日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識，価値観，考え方などを学ぶ。この学期は各論として，日本語をどのように教えるか，具体的に考えていく。日本語の間違いを指摘することはできるが，なぜ間違いかを説明することは，ふだん無意識に使っている言語だけに難しい。外国人の目をもって日本語を見ることにより，「説明できる日本語」となる。日本語の意味の違い，使われる場面の違い，話し手の心情を表す日本語の微妙なニュアンスなどを身近な例をとりながら，学んでいく。当たり前に使っている日本語を見直していくことで自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は，あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は，配布された教材をよく読んで，その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%，授業への参加度30%，期末試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで行う

〔備考〕

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本語教授法（４）可能形
第２週　日本語教授法（５）受身形
第３週　日本語教授法（６）使役形・使役受身形
第４週　日本語教授法（７）自動詞・他動詞
第５週　日本語享受法（８）条件
第６週　日本語教授法（９）テンス・アスペクト
第７週　日本語教授法（10）授受表現
第８週　中間試験
第９週　日本語教授法（11）待遇表現
第10週　日本語教授法（12）敬語
第11週　読むことを教える１
第12週　読むことを教える２
第13週　読むことを教える３
第14週　読むことを教える４
第15週　まとめ

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。